

西濃地域における地質と環境放射線の関連性評価

(動力炉・核燃料開発事業団契約業務報告書)

1 9 9 6 年 1 月

株式会社 ペスコ

複製又はこの資料の入手については、下記にお問い合わせ下さい。

〒 509-51 岐阜県土岐市泉町定林寺字園戸959-31

動力炉・核燃料開発事業団

東濃地科学センター 技術開発課

Inquiries about copyright and reproduction should be addressed to :
Geotechnics Development Section, Tono Geoscience Center, Power Reactor and
Nuclear Fuel Development Corporation, 959-31 Sonodo, Jorinji, Izumi-machi,
Toki-shi, Gifu-ken 509-51, Japan

動力炉・核燃料開発事業団 (Power Reactor and Nuclear Fuel Development
Corporation) 1996

公開資料

PNC TJ7409 96-001

1996年1月

西濃地域における地質と環境放射線の関連性評価

久田 司*

花田 克己*

要 旨

国の環境放射能安全研究年次計画（平成3年度～平成7年度）において挙げられている「地質と環境放射線の関連性に関する研究」に資するため、動燃が過去に国内ウラン探鉱の一環として実施した車載型放射線測定器（カーボン）のデータを活用し、地質と環境放射線の関連性を評価するための検討に着手した。本年度は膨大な資料のうち、主に中・古生層の砂岩、粘板岩、チャート、石灰岩、玄武岩溶岩及び火山砕屑岩が広く分布する岐阜県西濃地域（岐阜県揖斐郡、本巣郡、不破郡、におよぶ地域）についてカーボン測定データ及び関連地質資料をもとに検討・評価を実施した。

その結果、本地域の中・古生層においては、構造单元から区分されるユニット（累層に相当）による放射線量値の差は無いが、岩質、岩相の違いにより明瞭な差があることが判明した。即ち、粘板岩、砂岩は総じて高い値を示すが、チャート、石灰岩、玄武岩類（緑色岩）は低い値を示すことが明らかとなった。また、花崗岩類については、地域あるいは岩体が異なる場合は異なる値を示すことがあることも明らかとなった。

本報告書は、株式会社ペスコが動力炉・核燃料開発事業団との契約により実施した調査結果である。

契約番号：07C0884

事業団担当部課室：東濃地科学センター 技術開発課

*：(株)ペスコ地科学事業部

目 次

I	はじめに	P. 1
II	評価作業概要	P. 2
	1. 作業手順	P. 2
	2. 動燃の提供資料	P. 3
III	西濃地域の地質と環境放射線の 関連性評価	P. 4
	1. 地質概要	P. 4
	2. ルート別の地質と放射線量値	P. 7
	1) 地質・放射線量記載	P. 7
	2) カーボン・チャート	P. 49
	3. 地質と環境放射線の関連性の検討・評価	P. 203
IV	おわりに	P. 209
	参考文献	P. 210
	写真集 (露頭写真)	
	別添資料	

I. はじめに

原子力の平和利用に係わる研究開発を進めるに当っては広く国民の理解を得る必要がある。特に放射能、放射線について正しく理解してもらうことが肝要である。近年、一般大衆の間で放射能、放射線の危険性が過度に強調されているきらいがある。放射線についての正しい理解を得る上で、また原子力施設に起因する放射線影響を評価する上で自然放射線（バックグラウンド）の分布や特性についての知見、データの収集及び線量評価が重要である。

本業務は自然放射線の地域的な変動要因の主要な一つである地質に着目し、それとの関連性を調査することを目的としている。具体的には動燃が過去の国内ウラン探鉱の際、その有力な一手段として実施したカーボンのデータを活用する方法である。今回、動燃が保管、所有している膨大なデータのうち、西濃北部地区に関するデータ（延長測線 336km）を吸収線量率へ換算した後、一昨年度（平成 5 年度）に作成した『西濃南部におけるカーボン測定データの吸収線量率換算』データ（「国内カーボンデータに基づく地質と環境放射線の関連性評価」（PNC TJ7409 94-001））と合わせて、西濃地域全域における地質との関連性について検討、評価を行ったものである。

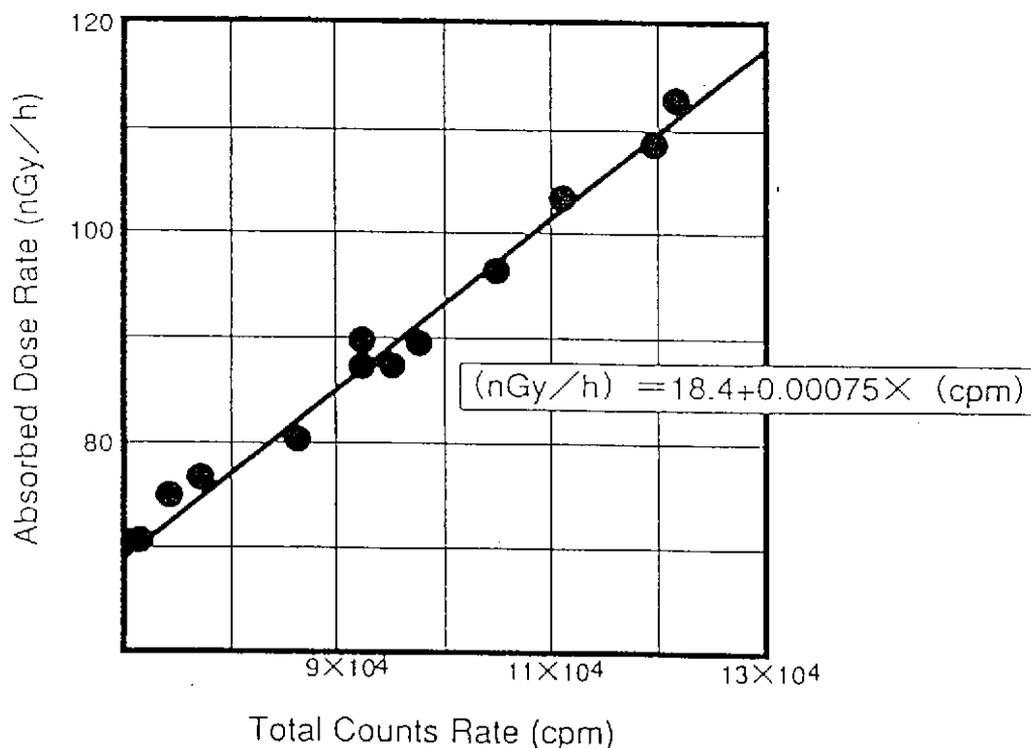
II. 評価作業概要

1. 作業手順

動燃は国の環境放射能安全研究年次計画（平成3～7年）に挙げられている「地質と環境放射線の関連性に関する研究」の一環として財団法人原子力安全技術センターに委託研究し、平成2年9月に「地質・環境放射線調査委員会」を発足させ、平成2年度～平成4年度の3年間にわたり調査・研究を進めて来た。

この研究の成果の一つとして、動燃が過去に実施した国内ウラン探鉱の一方法として実施したカーボン調査データ（計数率表示，cpm）を有効活用すべく，cpm表示データを国民線量評価に有効な吸収線量率単位（nGy/h）に換算するための換算式の検討が上げられる。これは過去のカーボンにより放射能ピークを確認したルートについてその後も状況変化のないピーク箇所を吸収線量率表示のカーボン測定器により再測定を行い、実験的に両者の相関関係を検討したもので，cpm表示値を吸収線量率（nGy/h）表示へ換算する換算式を下記のように決定した。

$$\text{換算式} \quad (\text{nGy/h}) = 18.4 + 0.00075 \times (\text{cpm})$$



Correlation between total counts rate data of earlier carbone system and absorbed dose rate of new carbone system

図 1

今回、一昨年度、昨年度と同様、この換算式を用い、西濃北部地区について以下の作業を行った。

1) カーボン測定データの線量率換算の実施

過去のカーボン測定データ（旧チャート、cpm単位表示）をもとに国民線量評価に必要な吸収線量率単位(nGy/h)換算を行い、新チャートを作成した。

2) ルート別地質と測定値の対比及び評価

1)の新チャートの放射線量値（吸収線量率）と過去のカーボンのルートマップ及び旧チャートに記載されているルート沿いの地質情報と本地域に関連する既刊行の地質図、地質文献・資料等を使用して対象地域全体の地質状況を把握するとともに、ルート別地質解析及び地質と環境放射線との関連性の検討を行った。地質図は数種の地質図を検討した結果に基づき、主に地質調査所発行（平成4年3月27日発行）の1/20万地質図『岐阜』の記載に従った。

3) 環境放射線量率図（新カーボン・ルートマップ）の作成

全西濃地域 対象面積 1,000km² , 延べ測定距離 633km
ルートNo.1～ルートNo.117

4) 地質と放射線量値との関連性の検討・評価

上記1)～3)及び一昨年度（平成5年度）に既に同様に作業を実施した西濃南部地区のデータを基に、全西濃地域について環境放射線量強度と地質との関連性について対比検討・評価を行った。

2. 動燃の提供資料

上記評価作業の実施にあたり動燃より下記の資料提供を受けた。

① 西濃地区カーボン・ルートマップ（1/5万）

（飛驒古川地区（揖斐郡、本巣郡他））

② ①に対応するカーボン測定データ（測定チャート：cpm表示）

Ⅲ. 西濃地域の地質と環境放射線の関連性評価

1. 地質概要

本地域は1/5万図幅の『冠山』, 『横山』, 『長浜』, 『能郷白山』, 『谷汲』, 『大垣』の6図幅にわたる岐阜県西部～岐阜-滋賀県境, および岐阜-福井県境に亘る地域である。

本地域の地質は6図幅にわたり広範囲に分布する美濃帯の中・古生界と, これを貫いて『横山』図幅～『長浜』図幅にわたり直径約14kmの円形の岩体をなして分布する白亜紀中期-後期の貝月山花崗岩, 『能郷白山』図幅の南東部に分布する白亜紀中期-後期の高賀花崗岩, 川浦谷花崗岩, 奥美濃酸性岩類(流紋岩・デイサイト及び同溶結凝灰岩, 火砕岩類)及び『能郷白山』図幅と『冠山』図幅の境界部に分布する前-中期中新世の能郷白山花崗閃緑岩と糸生層(安山岩溶岩及び火砕岩)からなる。ここでは動燃によるカーボン調査(昭和56年9月21日～10月20日実施の「飛驒古川地区本巣郡他カーボン成果図 — 放射能強度色別ルート図及び露頭図 — 」及びチャート)の全ルート沿いを主として検討の対象とした。

美濃帯の中・古生界は本調査地域を含め飛驒外縁帯の南側に, 岐阜県北東部, 中央部, 愛知-岐阜県境, 岐阜県南部(東濃地区), 岐阜県西部～岐阜-滋賀県境(舟伏山地域, 根尾地域, 伊吹山地域), 岐阜-三重県境及び福井県中央部にわたる岐阜県を中心とする広範囲にわたり分布している。これらは1960年代までは秩父古生層と呼ばれていたが, 1970年代のコノドント, 放散虫化石の研究にはじまり, 1980年代の放散虫化石の研究の飛躍的発展により美濃帯全域にジュラ～白亜紀最前期の放散虫の化石を含む地層が分布することが確実となった。

以下, 地質調査所発行の1/20万地質図『岐阜』図幅の「付記」に記載されている美濃帯に関する部分を大部分引用する。

最近では美濃帯の地層群はチャート, 石灰岩, 緑色岩類などの海洋性の堆積物と火山物質や砂岩・泥岩等の陸源碎屑物が大陸縁辺部で構造運動によって再堆積や破断, 変形を受け, 混合して堆積したコンプレックスで, 『海溝付近における海洋プレートの沈み込みによって形成された付加体』とみなされている。『構成岩石が形成された時代は石炭紀前期から白亜紀最前期に及ぶが, 陸源碎屑岩の年代と変形様式から推定される付加作用の時期はジュラ紀前期から白亜紀初頭である。(Wakita, 1988).』

『美濃帯の中・古生界の岩石の混在形態は大きく二つのタイプに分けられる。一つは、下位から玄武岩、チャート、珪質泥岩、砂岩・泥岩と重なった地層のうち全部もしくはその一部が堆積面にほぼ平行な衝上断層によって繰り返すタイプ、もう一つは、玄武岩、石灰岩、チャート、珪質泥岩、砂岩等が様々な形の礫や岩塊として泥岩の基質中に含まれるタイプで、メランジ（メランジユ）と呼ばれている。後者に含まれる岩塊のうち、地質図上で描き表すことが出来ない小さい礫や岩塊は泥岩の基質とともに泥質混在岩とし描かれている。』

『美濃帯中・古生界の地質を理解するためには、もともとの地層や岩石を単位として扱うのではなく、破断・混合・変形のタイプや形成時期、構成要素の種類などいくつかの構造単元を識別する必要がある。』『本図幅では、美濃帯全体をコンプレックスと呼び、累層に相当するより小さなまとまりをユニットとした。ユニットの区分は、おもにWakita(1988)に従ったが、研究不十分でユニットの所属を個々に決定できない地域があるので、那比・上麻生・金山の三つのユニットと舟伏山・坂本峠の二つのユニットをそれぞれ同一記号で示した。また新たに久瀬ユニットを設けた。久瀬ユニットは、舟伏山ユニットと類似しているが、舟伏山ユニットが玄武岩の岩塊に富み、砂岩岩塊が少なく、基質として破断・変形の強い優黒色泥岩が多いのに対して、久瀬ユニットは、玄武岩の岩塊が少なく砂岩の岩塊に富み、基質は変形の弱い暗灰色－黒色泥岩が主体である。』

次項の「ルート別の地質と放射線量値」の地質記載は、上記の地質調査所発行の地質図『岐阜』図幅に基づいて行った。

表 1 西濃地域 地質区分表 (概要)
(調査対象地域)

前-中期中新世 能郷白山花崗閃緑岩及び相当岩類：花崗閃緑岩及び閃緑岩(Gn)
↓ 糸生層最下部：陸上-水底安山岩溶岩及び火砕岩(Ia)

↑ 白 亜 紀 中 葉 ↓
奥酸美性濃岩類
高賀花崗岩及び川浦谷花崗岩(Gk)
岩脈及び岩株：閃緑斑岩、花崗閃緑斑岩及びトータル岩(Dp)
ステージⅣ：流紋岩-流紋デイサイト溶結凝灰岩(一部非溶結)(O₄)
ステージⅢ：流紋岩溶岩・同火砕岩及び安山岩-デイサイト溶岩・同火砕岩など(O₃)
ステージⅡ：流紋岩凝灰岩(一部溶結)(O₂)
ステージⅠ：流紋岩-デイサイト火砕岩及び流紋岩溶岩・凝灰質砂岩(O₁)
足羽層群及び相当層：砂岩、礫岩、珪長質凝灰岩及び凝灰質泥岩(As)
貝月山花崗岩：黒雲母花崗岩及び白雲母花崗岩(Gka)

↑ (付中加生作用白の亜時紀美期 | 白亜紀古初生帯頭代後期 ↓ ジュラ紀前期)

那比・上麻生・金山ユニット：
泥質混在岩(Nm), 主として砂岩, 珪質泥岩及びチャートの岩塊を含む
砂岩(Ns)
砂岩優勢な砂岩泥岩互層(Na)
泥岩優勢な砂岩泥岩互層及び破断した砂岩泥岩層(Nh)
珪質泥岩(Ni)
チャート(Nc)
石灰岩(Nl)
玄武岩溶岩及び火山碎屑岩(Nb)

左門岳ユニット：
礫岩及び砂岩(Scg)
砂岩(Ss)
砂岩優勢な砂岩泥岩互層(Sa)
泥岩優勢な砂岩泥岩互層及び破断した砂岩泥岩層(Sh)
珪質泥岩(Si)
チャート(Sc)

久瀬ユニット：
泥質混在岩(Zm), 主として砂岩及びチャートの岩塊を含む
珪質泥岩(Zi)
チャート(Zc)
石灰岩(Zl)
玄武岩溶岩及び火山碎屑岩(Zb)

舟伏山及び坂本峠ユニット：
泥質混在岩(Fm), 玄武岩及び石灰岩, チャート, 砂岩の岩塊を含む
砂岩(Fs)
砂岩優勢な砂岩泥岩互層(Fa)
チャート(Fc)
石灰岩(Fl)
玄武岩溶岩及び火山碎屑岩(Fb)

2. ルート別の地質と放射線量値

1) 地質・放射線量記載

岐阜県本巣郡、揖斐郡に跨がり、西縁は滋賀県との県境、北縁は福井県との県境に達する地域で大部分は美濃帯の中・古生界が分布する。また、北方の揖斐郡根尾村～藤橋村～福井県大野市にかけて前～中期中新世貫入の能郷白山花崗閃緑岩が分布する。

(1) No. 1 (1/5万『能郷白山』図幅南西部)

根尾村能郷～黒津に至る根尾川本流に沿うルート。(本巣郡根尾村地内)

ルート起点より終点まで那比・上麻生・金山ユニットの泥質混在岩(Nm)を主体にチャート(Nc)のレンズ状挟みを伴う地層の分布域で粘板岩の露頭が断続する。

放射線量値は43～70nGy/hである。チャート(Nc)と見られる部分は45～50nGy/hを示す。

(2) No. 2 (1/5万『能郷白山』図幅西部)

No. 1に続き、根尾西谷川沿い根尾村大河原を通過するルート。(国道 157号線)

ルート起点より3.6km 付近まで那比・上麻生・金山ユニットの泥質混在岩(Nm)に属すると見られる粘板岩の露頭が断続する。3.6～4.8km 間は舟伏山及び坂本峠ユニットのチャート(Fc)、玄武岩溶岩及び火山砕屑岩(Fb)の分布地域と見られるが、露頭は確認されていない。4.8～6.5km 間は舟伏山及び坂本峠ユニットのチャート(Fc)の分布域に所々にチャートの露頭が点在する。6.5km 付近に断層が推定されており、これより左門岳ユニットのチャート(Sc)、砂岩(Ss)の露頭が反復断続する。

放射線量値は、ルート起点より3.6km の泥質混在岩(Nm)分布域は40～70nGy/hで、その範囲でかなり変化する。3.6km～終点間の(Fb)、(Fc)、(Sc)、(Ss)分布域では一部分(5.9～6.0km)で60nGy/hに達する高めの値を示すが、全般的には40～50nGy/hの範囲で比較的安定した値を示す。

(3) No. 3 (1/5万『能郷白山』図幅北西部)

No. 2の終点を起点とし温見峠を終点とするルート。根尾村地内(国道 157号線)

本ルートは美濃市より能郷白山にかけて北西～南東方向にのびる断層沿いのルートで、ルート起点～2.9km 間は左門岳ユニットのチャート(Sc)、砂岩(Ss)の分布域で、1.6km 付近まではチャートの露頭が断続するが、後半は一部分で砂岩、粘板岩が露出する。

2.9～7.6km (終点) 付近までは能郷白山花崗閃緑岩(Gn) 分布域で花崗閃緑岩の

露頭が断続する。

放射線量値は起点よりチャート露頭が比較的多い(Sc)分布域では40～50nGy/hの比較的安定した値を示す。1.0～4.8km間は(Ss)砂岩及び花崗閃緑岩とも50nGy/hを中心に40～60nGy/hの範囲の値を示す。4.8～7.6km(終点)間は地調1/20万地質図より能郷白山花崗閃緑岩分布域とされているが、露頭がなく、40～50nGy/hの範囲の安定した値を示す。

(4) No. 4 (1/5万『能郷白山』図幅北西部～『冠山』図幅北東端部)

No. 3の終点温見峠を起点とし、温見川沿いに下り、最初の集落までのルート。
(福井県大野市地内、国道157号線)。

起点より5.2kmあたりまでは能郷白山花崗閃緑岩(Gn)分布域で、0.6～2.7km付近までは花崗閃緑岩の露頭が連続する。5.2～6.4km(終点)間は舟伏山及び坂本峠ユニットの砂岩(Fs)の分布域となっているが、露頭は確認されていない。

放射線量値は起点より花崗閃緑岩の露頭が断続する2.8km付近までは42～58nGy/hの値を示すのに対し、2.8km付近より6.4km付近(終点)まではこれよりやや低めの40～50nGy/hの極めて安定した値を示す。

(5) No. 5 (1/5万『能郷白山』図幅南西部)

No. 4の終点を起点として温見川沿いに更に下り、途中より熊河(クマノコ)川沿いに上るルート。(福井県大野市地内)。

起点～終点(約7km)まで舟伏山及び坂本峠ユニットに属する泥質混在岩(Fm)、砂岩(Fs)が交互に分布する。

放射線量値は40～68nGy/hの範囲に収まり、あまり大きな変化はない。5km付近より終点までが50～68nGy/hの範囲で、前半よりやや高めの値を示す。

(6) No. 6 (1/5万『能郷白山』図幅南西部)

根尾村能郷より能郷谷を逆上るルート。

那比・上麻生・金山ユニットに属する泥質混在岩(Nm)を主体とし、終点付近で花崗岩質岩脈を挟む。「根尾谷断層」沿いのルート。起点～2km間は一部粘板岩の露頭以外は沖積層が分布している。

放射線量値は35～68nGy/hの範囲で変動する。7.6～9.0km(終点)間はこれより前半に較べやや低い34～50nGy/hの範囲の値を示す。花崗岩質岩脈の認められる範囲もこの低い値の範囲で特段のピークは形成していない。

(7) No. 7 (1 / 5万『能郷白山』図幅中央部)

根尾村黒津より須合を経て根尾川本流を逆上り、途中より南東方向の支流に入り、越波（オッパ）集落を経て折越峠に至る高屋山を取り囲むルート。

起点～3.8km間は那比・上麻生・金山ユニットに属する泥質混在岩(Nm)の分布域で、砂岩、粘板岩、砂岩粘板岩互層露頭が断続する。3.8kmで衝上断層により舟伏山及び坂本峠ユニットに属するチャート(Fc)、玄武岩溶岩及び火山砕屑岩(Fb)（緑色岩）の分布域が9.2kmまで広がり、チャート、粘板岩の露頭が断続する。4.0～5.2km間はチャートを主とし粘板岩を従とする露頭がかなり頻繁に断続的に露出する。9.2～11.4km（終点）間は左門岳ユニットに属する砂岩(Ss)の分布域であるが、粘板岩露頭が主で、一部でチャートの露頭が認められると報告されている。微細粒砂岩の可能性が考えられる。

放射線量値は起点～3.8km間の泥質混在岩(Nm)の分布域では45～70nGy/hの範囲で変化に富んだグラフを示す。このうち、粘板岩の露頭は55～70nGy/hの比較的高めの値を示す。3.8～5.2km間の(Fc)、(Fb)分布域はチャートを主とし、粘板岩を従とする露頭が比較的良好に現れる。この範囲では35～45nGy/hの中に50～55nGy/hのピークが鋭くあらわれるグラフを示す。5.2～9.2km間では粘板岩の露頭で60nGy/h前後のピークを示す他は40～50nGy/hの範囲で小刻みな安定したグラフを示す。9.2～11.4km（終点）間の砂岩(Ss)の分布域では半分以上の範囲で60nGy/hを越す値を示す。

(8) No. 8 (1 / 5万『能郷白山』図幅中央北半部)

No. 7ルートの途中、越波の手前約数百米より北東方向に河内谷を逆上るルート。

起点より300m迄は舟伏山及び坂本峠ユニットに属するチャート(Fc)分布域、これより1.4km間は左門岳ユニットのチャート(Sc)の分布域であるが、砂岩・粘板岩互層露頭が確認されている。1.4～11km（終点）間は左門岳ユニットの砂岩(Ss)の分布域である。露頭としては粘板岩のみが断続的に現れると報告されているが、微細粒な珪質砂岩の可能性が予想される。

放射線量値は、(Fc)分布域である起点～300m、(Sc)分布域である300m～1.4km間は45～56nGy/hの小刻みな比較的安定したグラフを示す。(Ss)分布域の1.4～11km（終点）まではほぼ60～80nGy/hの範囲で、粘板岩（泥質砂岩？）の露出している個所で70～80nGy/hの不規則なピークを描いている。

(9) No.9 (1/5万『能郷白山』図幅中央北半部)

No.8 ルートの起点より約2km 地点から真北にのびる短いルート.

起点より約500m迄は地質図によれば左門岳ユニットのチャート(Sc)の分布域であり、500m地点より約3.6km の終点までは左門岳ユニットの砂岩(Ss)の分布域である。主として粘板岩露頭が断続する。

放射線量値は起点より約1km まではほぼ40~55nGy/h の値を示し、1~3.6km (終点)間は60±~80nGy/h の値を示し、粘板岩露出部分では70~80nGy/h のピークを形成する。1km 近辺での放射線量値の明瞭な変化はこの地点付近が(Sc)分布域と(Ss)分布域の境界である可能性が大きい。

(10) No.10 (1/5万『谷汲』図幅中央北端部)

No.6 ルートの起点と同一地点、根尾川左岸を根尾村能郷を起点とし、根尾川沿いに根尾村長島まで下る短いルート.

那比・上麻生・金山ユニットに属する泥質混在岩(Nm)の分布域で、根尾谷断層を斜断する。4.5~6km 間に粘板岩の露頭がある。

放射線量値は大部分は40~50nGy/h を示すが、粘板岩露頭付近では50~62nGy/h を示す。

(11) No.11 (1/5万『谷汲』図幅中央北半部)

No.10の終点を起点とし、更に根尾川左岸沿いに根尾村門脇を通過し、根尾村神所まで下り、橋を渡って根尾川右岸を逆上り、根尾村大井を通過し、門脇対岸より再び門脇に至るルート.

起点より6.2km までは殆どが沖積層分布域であるが、一部(Nm)に属すると推測されるチャートや砂岩の露頭が認められる。6.2~8.6km (終点)間は那比・上麻生・金山ユニットに属する泥質混在岩(Nm)の分布域である。

放射線量値は起点より終点までほぼ40~62nGy/h の比較的变化の少ないグラフを示す。一部6.5~6.8km 間は35nGy/h 前後の低い値を示す個所が認められる。

(12) No.12 (1/5万『谷汲』図幅中央西半部)

No.11ルートの途中、根尾川右岸で根尾村大井の南、約500mの大井谷沿いの短いルート.

那比・上麻生・金山ユニットに属する泥質混在岩(Nm)の分布域である。チャート・粘板岩互層が分布する。

放射線量値は一般的には50～55nGy/hを示すが、粘板岩露頭では65nGy/hのピークを示す。

(13) No.13 (1/5万『谷汲』図幅中央西半部)

ルートNo.11の終点近い根尾村大井の橋より根尾川右岸を逆上り、根尾村長嶺の対岸より橋を渡って長嶺に至るルート。

那比・上麻生・金山ユニットに属する泥質混在岩(Nm)の分布域で、粘板岩、チャート・粘板岩互層が露出している。

放射線量値は40～60nGy/h 範囲の値を示す。粘板岩露出部分でピークを形成している。

(14) No.14 (1/5万『谷汲』図幅中央北半部)

根尾川中流部の根尾村平野より根尾川の左岸沿いに逆上り、ルートNo.11の中間点である根尾村神所に至るルート。

起点より3.8km までは那比・上麻生・金山ユニットに属する泥質混在岩(Nm)の分布域で、所々にチャートの露頭を認める。3.8～6.7km 間は沖積層が分布するが、基盤は那比・上麻生・金山ユニットに属する泥質混在岩(Nm)が分布すると推定される。また、根尾谷断層がルートに近接して平行に延びており、5.55km付近で断層を斜断していると推測される。

放射線量値は起点～終点間は泥質混在岩(Nm)分布域、沖積層分布域の差がなく、全体として40～64nGy/h の値を示す。

(15) No.15 (1/5万『谷汲』図幅西半部～『能郷白山』図幅南西端部)

根尾村長嶺の対岸から北西方向に馬坂トンネルを越え、揖斐郡藤橋村地内に入り、これより北北東へのび、能郷白山へ向かう「白谷」を逆上るルート。

起点より凡そ2.5km までは、那比・上麻生・金山ユニットに属する泥質混在岩(Nm)分布域で、粘板岩露頭が断続的に反復露出する。2.5～約4.1km 間は同じユニットに属するチャート(Nc)分布域でチャートが断続的に反復露出する。4.1 kmで断層で境され、4.1～19.3km間は舟伏山及び坂本峠ユニットの玄武岩溶岩及び火山碎屑岩(Fb)分布域と同ユニットの泥質混在岩(Fm)分布域が1～2 km間隔で反復している。(Fb)分布域の露頭は緑色岩を主とし、一部でチャートや粘板岩の露頭を伴う。(Fm)分布域では粘板岩を主とする部分もあるが、粘板岩、緑色岩、チャートが入り交じり露出し、(Fm)分布域、(Fb)分布域が明瞭に区分不可能な場合がある。14.1km

～15.5km間は緑色岩露頭のみが断続する。19.3～21.1km（終点）間は花崗閃緑岩～閃緑岩露頭が断続する。これは能郷白山花崗閃緑岩(Gn)に相当する。

放射線量値は起点～2.5km間の那比・上麻生・金山ユニットの泥質混在岩(Nm)分布域及び4.8～6.4km間の舟伏山及び坂本峠ユニットの泥質混在岩(Fm)分布域は40～63nGy/hの値を示し、波形も殆ど類似の形を示す。2.5～約4.1km間の那比・上麻生・金山ユニットのチャート(Nc)分布域、6.4～8.6km間の舟伏山及び坂本峠ユニットの(Fb)分布域、10.8～11.7km間の(Fb)分布域等玄武岩溶岩及び火山碎屑岩分布域は共に30～40nGy/hの低い値を示し、波形も比較的变化のない小刻みな波形を示す場合が多い。また、地質図上では(Fm)分布域とされている範囲でも石灰岩の挟みの露頭(18.2～18.6km)は30nGy/h前後の低い値を示す。能郷白山花崗閃緑岩(Gn)は50～60nGy/hと粘板岩より低く、花崗岩類としてはかなり低めの値を示すことが注目される。

(16) No.16 (1/5万『能郷白山』図幅南西端部～『冠山』図幅南東端部)

ルートNo.15の途中で「白谷」に入る地点（揖斐郡藤橋村地内）を起点として約500mほど南に「白谷」を下り、揖斐川本流に合流後本流に沿って北西方向へ逆上り、揖斐川支流の「西谷」の分岐点を終点とするルート。

起点より終点まで舟伏山及び坂本峠ユニットの玄武岩溶岩および火山碎屑岩(Fb)の分布域で、主として緑色岩の露頭が断続する。

放射線量値は0.5km前後と1.5～1.8km間で50～60nGy/hのピークを示す以外は35～45nGy/hの範囲で変化の少ない小刻みな波形を示す。

(17) No.17 (1/5万『能郷白山』図幅南西端部～『冠山』図幅南東端部)

ルートNo.16の終点を起点とし、揖斐川支流の西谷を藤橋村門入集落の先まで逆上り、この地点より北に延びる枝谷、「入谷」を逆上るルート。（全コース藤橋村地内）。

起点～2.1km間は舟伏山及び坂本峠ユニットの玄武岩溶岩及び火山碎屑岩(Fb)分布域で露頭は緑色岩が主であるが、粘板岩の露頭を挟む場合もある。2.1～3.4km間は同ユニットの泥質混在岩(Fm)分布域で、粘板岩露頭が断続する。3.4～5.9km間は再び(Fb)分布域であるが、粘板岩露頭の方が緑色岩露頭より多い。5.9～8.3km間は再び泥質混在岩(Fm)分布域で、粘板岩露頭が断続する。8.3km付近に断層が推定され、8.3～18.4km間は左門岳ユニットの砂岩(Ss)、珪質泥岩(Si)の両分布域が

凡そ1～2km間隔で反復しており、粘板岩、砂岩の露頭が断続する。9～10km間は(Ss)、(Si)の分布域であるが、露頭観察では粘板岩露頭が断続すると報告されているが、この一部は微細粒砂岩の可能性が考えられる。放射線量値は地質図及び露頭記載から判断すると(Fm)は55～80nGy/hの範囲でかなり変動した値を示す。粘板岩の露頭の有無、緑色岩の挟みの有無等に起因すると判断される。(Fb)は40～50nGy/hの範囲の安定した低めの値を示す。(Ss)～(Si)は48～80nGy/hの範囲でかなり変動した値を示す。これは粘板岩の挟み部分で高めのピークを示すことによると判断される。

(18) No.18 (1/5万『冠山』図幅南東部)

ルートNo.17の起点より約500mの地点、揖斐郡藤橋村本郷集落の北端を起点とし、揖斐川本流沿いに北西方向に逆上り、「釈迦嶺」の東方の「冠山峠」に至る道路の分岐点までのルート。(揖斐郡藤橋村旧徳山村地内)。

起点～1.2km間は舟伏山及び坂本峠ユニットの玄武岩溶岩及び火山碎屑岩(Fb)分布域で、緑色岩の露頭が断続する。1.2km地点に断層があり、これより4.1kmまでは左門岳ユニットの砂岩(Ss)分布域で露頭は少なく、2.1～2.6km間にチャート、チャート・粘板岩互層の露頭が記載されている。4.1～5.4km間は舟伏山及び坂本峠ユニットの泥質混在岩(Fm)分布域で、粘板岩の露頭が点在する。5.4～12.4km間は左門岳ユニットの砂岩(Ss)分布域で、砂岩の露頭が断続する。12.4～13.5km間と同ユニットの珪質泥岩(Si)分布域で粘板岩を挟む個所がある。13.5～14.2km(終点)間は地質図上は(Ss)分布域と記載されているが、露頭は確認していない。

放射線量値は起点～1.2km間の(Fb)分布域では35～50nGy/hの値を示し、小刻みな波形を示す。1.2～4.1km間及び5.4～12.4km間の(Ss)分布域では35～65nGy/hの範囲でかなり変動する。8.7km前後の砂岩露頭部では80nGy/hのピークを認める。一般に砂岩(Ss)露頭部が60nGy/hを越す高目の値を示す。12.4～13.5km間の珪質泥岩分布域には砂岩の連続露頭があり、60～70nGy/hの値を示す。

(19) No.19 (1/5万『冠山』図幅中央部)

ルートNo.18の終点を起点として北方へ福井県との県境、「檜尾峠」の東南東1.5km地点を終点とするルート。(揖斐郡藤橋村の旧徳山村地内)。

起点～3.3km間は左門岳ユニットに属する砂岩(Ss)分布域で、起点よりおよそ1.3kmまで砂岩露頭が連続する。3.3～3.7km間と同ユニットに属するチャート

(Sc)の露頭と推測される露頭を認める。 3.7～5.6km(終点)間は再び左門岳ユニットの砂岩(Ss)分布域で、一部でチャート、粘板岩を挟む以外は砂岩露頭が連続する。

放射線量値は、砂岩(Ss)分布域では48～78nGy/h の値を示すが、連続露頭ではほぼ60nGy/h 以上の値を示し、この範囲内で変動している。この変化が砂岩内の岩相変化によるものか露出状態の差(例えば表土の被覆状態等)によるものか明らかではない。チャート(Sc)分布域では35～45nGy/h の低い値を示す。また、砂岩(Ss)分布域のチャートの挟み部分はいずれも低い下向きのピークを形成する。

(20) Na.20 (1/5万『冠山』図幅中央部)

ルートNa.19の起点と同一地点を起点とし、しばらく揖斐川本流の上流を逆上った後、北方へ小谷を上るルート。(揖斐郡藤橋村旧徳山村地内)。

起点から3.9km(終点)まで左門岳ユニットに属する砂岩(Ss)分布域で、ほとんど砂岩露頭が断続するが、3.5km～終点間はチャートが露出する。

放射線量値は砂岩(Ss)分布域では起点～1.0km 間は50～65nGy/h の値を示す。この範囲は露頭が少ない。1.0～3.5km 間は55～78nGy/h の範囲で変動する値を示す。3.5～終点間のチャート分布域(Sc?)は40～60nGy/h の値を示すが、60nGy/h のピークを示す個所は別種の岩石を挟む可能性がある。

(21) Na.21 (1/5万『冠山』図幅中央部)

ルートNa.20が途中で枝谷へ曲がる地点を起点とし、揖斐川上流を約1.0km 逆上り、これより北方へ枝谷をのぼる短いルート。(揖斐郡藤橋村旧徳山村地内)。

起点から1.5km まで左門岳ユニットに属する砂岩(Ss)分布域で、砂岩露頭が断続する。1.5km～終点間はチャートの露頭が断続する。ルートNa.20と類似した地質を示す。

放射線量値は砂岩(Ss)分布域では55～80nGy/h 範囲で変動する値を示す。チャート分布域は45nGy/h の下向きのピークを示す。

(22) Na.22 (1/5万『冠山』図幅中央部)

ルートNa.21が途中で小谷へ曲がる地点を起点とし、揖斐川上流沿いに徐々に中腹をまいて岐阜・福井県境の「高倉峠」に達するルート。(揖斐郡藤橋村旧徳山村地内)。

起点～5.4km 間は左門岳ユニットに属する砂岩(Ss)分布域で、砂岩露頭が断続する。5.4～5.6km 同ユニットのチャート(Sc)が露出し、5.6～6.9km (終点)間

は再び砂岩(Ss)分布域となり、砂岩露頭が認められる。

放射線量値は(Ss)分布域では55～78nGy/h の範囲で変動する。変動は露頭の有無、露頭の規模、岩相変化によると推測されるが、個々の波形と露頭の対応は露頭記載の精度が低く、不可能である。チャート(Sc)は45～55nGy/h 前後の値を示す。

(23) Na23 (1 / 5万『冠山』図幅中央部)

ルートNa22の終点、「高倉峠」を起点とし、福井県南条郡今庄町芋ヶ平を終点とするルート。

起点～9.1km 間は左門岳ユニットに属する砂岩(Ss)、チャート(Sc)、泥岩優勢な砂岩泥岩互層(Sh)、砂岩優勢な砂岩泥岩互層(Sa)が反復分布する。砂岩(Ss)、砂岩泥岩互層(Sh)分布域では砂岩、チャート、粘板岩の露頭が断続、反復する。9.1～10.3km (終点) 間は舟伏山・坂本峠ユニットの泥質混在岩(Fm)分布域であるが、一部でチャートの露頭が認められる。

放射線量値は、左門岳ユニットでは、砂岩(Ss)は50～67nGy/h、チャート(Sc)は40～57nGy/h 前後、泥岩優勢な砂岩泥岩互層(Sh)は60～80nGy/h、砂岩優勢な砂岩泥岩互層(Sa)は50～80nGy/h の範囲で変動する。変動は露頭の有無、露頭の規模、岩相変化によると推測される。舟伏山・坂本峠ユニットの泥質混在岩(Fm)分布域は45～60nGy/h の値を示す。

(24) Na24 (1 / 5万『冠山』図幅中央部)

ルートNa22の中間点より分岐する70m の極めて短いルート。「釈迦嶺」の北西1.3 km。(揖斐郡藤橋村旧徳山村地内)。

左門岳ユニットに属する砂岩(Ss)分布域。

放射線量値は55～60nGy/h の値を示す。

(25) Na25 (1 / 5万『冠山』図幅南東部)

ルートNa18の中程、旧徳山村塚集落跡より直距離2.0km 弱の地点を起点として東北東の枝谷、「ヒン谷」沿いのルート。(揖斐郡藤橋村旧徳山村地内)。

起点～終点間はすべて左門岳ユニットに属する砂岩(Ss)分布域で、砂岩露頭が断続する。

放射線量値は50～78nGy/h の範囲で変動する。変動は露頭の有無、露頭の規模、岩相変化によると推測される。

(26) No.26 (1/5万『冠山』図幅南東部)

ルートNo.18の中程, 旧徳山村櫛原(ハゼハラ)より北方へのびる「扇谷」を上るルート。(揖斐郡藤橋村旧徳山村地内).

起点~5.3km間は左門岳ユニットに属する砂岩(Ss)分布域で, 砂岩露頭が断続する。5.3~6.7km間は同ユニットの砂岩優勢な砂岩・泥岩互層(Sa)分布域で砂岩露頭が認められている。6.7~7.7km間は舟伏山・坂本峠ユニットの泥質混在岩(Fm)分布域で, 砂岩, チャートの露頭が認められる。7.7~8.3km間は1/20万地質図では同ユニットの(Fb)分布域となっているが, カーボンでは露頭を確認していない。8.3~9.0km(終点)間は同ユニットの砂岩(Fs)分布域である。

放射線量値は砂岩(Ss)分布域では52~76nGy/hの範囲で変動する。露頭部分で高めで, 露頭のない個所で低めの値を示す。(Sa)分布域では45~65nGy/hの範囲で比較的安定した小刻みな波形を示す。(Fm)分布域では砂岩の露頭が主で, 一部チャートの露頭を伴う。(Fb)分布域と推測される範囲は主要部分は40~50nGy/hの値を示す。(Fs)分布域は55~74nGy/hの範囲で変動した値を示す。

(27) No.27 (1/5万『冠山』図幅南東部)

旧徳山村櫛原集落近辺の極短いルート。

起点より終点まで左門岳ユニットに属する砂岩(Ss)分布域で, 一部で砂岩露頭が認められている。

放射線量値は, 48~70nGy/hの範囲で変動する値を示すが, 砂岩露頭部分では65~70nGy/hの不規則なピーク?を示す。

(28) No.28 (1/5万『冠山』図幅南東部)

ルートNo.18の中程, 旧徳山村山手集落の上手, 約1.0km地点より北東へのびる「磯谷」沿いの極めて短いルート。(揖斐郡藤橋村旧徳山村地内).

ほぼ全体が左門岳ユニットに属する砂岩(Ss)分布域であるが, 終点は舟伏山・坂本峠ユニットの泥質混在岩(Fm)との境界部付近である。

放射線量値は, 泥質砂岩の露頭部分で50nGy/hのピークをなすが, その他では30~40nGy/h前後の値を示す。

(29) No.29 (1/5万『冠山』図幅南東部)

ルートNo.18の途中で, 旧徳山村山手集落を起点とし, 揖斐川本流の右岸道路を逆上り, 枝谷の「鬼生谷」を上るルート。(揖斐郡藤橋村旧徳山村地内).

起点～3.0km 間は左門岳ユニットの砂岩(Ss)分布域であるが、途中チャート(Sc)と推定されるチャート露頭を挟む。3.0～4.0km 間はチャート(Sc)と同ユニットの珪質泥岩(Si)が反復分布する。4.0～8.3km(終点)間は再び砂岩(Ss)分布域で、砂岩露頭が断続する。

放射線量値は起点～3.0km 間の砂岩(Ss)分布域は50～60nGy/h の値を示す。3.0～4.0km 間のチャート(Sc)は40～46nGy/h の極めて安定した低い値を示す。1.7～4.7km 間の砂岩(Ss)、珪質泥岩(Si)は50～80nGy/h の範囲でかなり変動する波形を示す。4.7～7.3km 間の砂岩(Ss)は60～72nGy/h の範囲の比較的安定した値を示す。7.3～8.3km (終点)間の砂岩(Ss)は60～78nGy/h のやや高目の値を示す。ただし、7.4～7.7km 間は露頭がなく、50nGy/hの下向きの複雑なピークを示す。理由は不明であるが、チャートの挟みの可能性がある。

(30) No.30 (1 / 5万『冠山』図幅南東部)

ルートNo.29の途中、右岸の小谷を下り、ルートNo.29に達する極めて短いルート。
(揖斐郡藤橋村旧徳山村地内)。

全コースが左門岳ユニットに属する砂岩(Ss)分布域で、砂岩露頭が断続する。
放射線量値は58～72nGy/h の範囲で小刻みな波形を示し、安定した値を示す。

(31) No.31 (1 / 5万『冠山』図幅南東部)

ルートNo.18の起点より約500m揖斐川沿いに逆上った地点より北東方向にのびる枝谷を上る極めて短いルート。 (揖斐郡藤橋村旧徳山村地内)。

ルート全体が舟伏山・坂本峠ユニットの玄武岩溶岩及び火山碎屑岩(Fb)分布域。
放射線量値は35～39nGy/h の安定した低い値を示す。

(32) No.32 (1 / 5万『能郷白山』図幅南西端部)

ルートNo.16の起点に近い橋より白谷の右岸を途中まで逆上るルート。
(No.15は白谷の左岸を逆上るルート。) (揖斐郡藤橋村旧徳山村地内)。

起点～0.6km 間は舟伏山・坂本峠ユニットの玄武岩溶岩及び火山碎屑岩(Fb)分布域で、緑色岩の露頭が点在する。0.6～1.4km 間は同ユニットの泥質混在岩(Fm)の分布域で、粘板岩の露頭が認められる。1.4～3.5km 間は再び(Fb)分布域で、露頭はないが、対岸は緑色岩露頭が連続する。(No.15参照)。

放射線量値はコース全体を通じを通じ36～46nGy/h の範囲で安定した小刻みな波形を示す。

(33) No.33 (1/5万『能郷白山』図幅南西部～『谷汲』図幅北西部)

ルートNo.15の途中で、上記両図幅の境界付近より北方へのびる小谷沿いの極めて短いルート。

起点～0.4km間は那比・上麻生・金山ユニットに属するチャート(Nc)分布域で、チャートの露頭が断続する。0.4～0.9km間は同ユニットの泥質混在岩(Nm)分布域で、粘板岩露頭を認める。(本巢郡根尾村地内)。

放射線量値は起点～0.4km間のチャート分布域が40～53nGy/hの範囲の値を示すのに対し、0.4～0.9km間の泥質混在岩分布域は60～73nGy/hの範囲の値を示し、明瞭に区別される。

(34) No.34 (1/5万『能郷白山』図幅南西部)

ルートNo.15の途中で、ルートNo.33の起点の先、約300mの地点より別の北方へ延びる小谷を北～北西方へ逆上る短いルート。(本巢郡根尾村地内)。

ルート全体が那比・上麻生・金山ユニットに属する泥質混在岩(Nm)、チャート(Nc)分布域で、この両岩種が反復露出する。

放射線量値は粘板岩露頭では45～64nGy/hの範囲の値を示すのに対し、チャート露頭では38～50nGy/hの範囲の値を示し、明瞭に区別される。ルートNo.33のコースと同様に岩種による差異が認められるが、絶対値に差が認められる。これは測定車と露頭との距離の差による可能性が大きいと推測する。

(35) No.35 (1/5万『冠山』図幅南東端部～『能郷白山』図幅南西端部～『谷汲』図幅北西端部)

揖斐郡藤橋村旧徳山村地内、揖斐川本流沿いの本郷集落手前より右岸沿いに下り、『谷汲』図幅北西端部で揖斐川が南東方向から南西方向へ流れを大きく変える地点より直距離750m程逆上った地点を終点とするルート。

コース全体が舟伏山・坂本峠ユニットに属する泥質混在岩(Pm)、緑色岩(Fb)、チャート(Fc)が反復露出すると解釈される。(地調の1/20万地質図によれば、主に(Fb)、一部(Fc)が分布するとされているが、カーボンの個々の露頭記載を観ると所々に粘板岩、チャート露頭が確認されており、粘板岩露頭が確認されているところは高い放射線量値を示すことが判明している。露頭が確認されていない個所でも高い放射線量値を示す場合があるが、他のルートの放射線量値と岩種との関連傾向を参考にすると、この部分も粘板岩分布域と推測される。)

放射線量値は粘板岩露頭部で55～66nGy/h の範囲の値を示す。チャート分布域では36～44nGy/h の値を示す。緑色岩分布域は全般に32～44nGy/h の値を示す。

(36) No.36 (1/5万『谷汲』図幅北西端部～『横山』図幅北東部東端)

ルートNo.35の終点を起点とし、揖斐川右岸沿いに揖斐郡藤橋村鶴見の南西の新川尻橋の右岸端を終点とするルート。

起点より終点までルート全体は舟伏山・坂本峠ユニットに属する諸岩層が反復分布する。即ち、起点～1.2km 間は玄武岩溶岩及び火山砕屑岩(Fb)分布域で、緑色岩、粘板岩の露頭が点在する。1.2～4.4km 間は泥質混在岩(Fm)分布域で、粘板岩露頭が断続するが、一部で(Fb)とみられる緑色岩の露頭を挟む。4.4～8.0km 間は1/20万地質図によれば(Fb)分布域と(Fm)分布域が反復分布するとされており、露頭及び放射線量値の変化はこれを裏付けていると判断される。8～10km間は(Fm)分布域とされているが、粘板岩露頭以外にもチャートの規模の大きい露頭があり、この部分は(Fc)分布域の夾みと判断される。10～11.4km間は(Fb)分布域で、緑色岩の露頭の他、一部で粘板岩の露頭が認められる。11.4～11.8km間も1/20万地質図では(Fb)分布域とされているが、チャートが全体に露出する。

放射線量値は緑色岩露頭部では37～50nGy/h の範囲の値を示す。粘板岩分布域では50～69nGy/h の範囲の値を示すが、露頭部は56～69nGy/h の範囲の値を示す。チャート分布域は46～59nGy/h の範囲の値を示す。11.4～11.8km間のチャート露頭は52～59nGy/h の値を示し、これまでのチャートの一般的な値に比べ高めの値を示す。これはチャートの岩質の差異によるものと推測される。

(37) No.37 (1/5万『横山』図幅東部～『谷汲』図幅南西端部)

揖斐郡藤橋村鶴見と東横山の中間に位置する揖斐川に懸かる新川尻橋の右岸端を起点とし、同橋を渡りこれより揖斐川の左岸沿いに東横山～檜原～東津汲～乙原に至るルート。(揖斐郡藤橋村地内～揖斐郡久瀬村地内)。

起点～300m間は舟伏山・坂本峠ユニットに属する泥質混在岩(Fm)で粘板岩露頭が認められている。300m～2.0km 間は同ユニットに属する玄武岩溶岩および火山砕屑岩(Fb)分布域であるが、カーボン調査ではチャート、粘板岩の露頭は認めているが、緑色岩の露頭は報告されていない。2.0～2.3km 間は再び同ユニットの泥質混在岩(Fm)に属する粘板岩が露出する。2.3km に衝上断層が推定され、これより一部で沖積層に被覆されているが、終点まで久瀬ユニットに属する諸岩層が分布する。

即ち、2.3～11.2km間は泥質混在岩(Zm)の分布域で、粘板岩露頭が断続する。一部でチャートを挟む。11.2～12.3km間は沖積層に被覆されるが、1/20万地質図によれば、一部で玄武岩溶岩(Fb)を僅かに挟むとされている。12.3～14km間は石灰岩(Zl)分布域であるが、放射線量値のピークは(Zm)が混在していると推測される。14～15.3km間は、1/20万地質図では泥質混在岩(Zm)分布域とされているが、一部で石灰岩を挟むことが確認されている。15.3～16.3km間は石灰岩分布域である。16.3～17km(終点)間は泥質混在岩(Zm)の分布域である。このように、2.3～17km(終点)間は久瀬ユニットの泥質混在岩(Zm)と石灰岩(Zl)が交互に分布するが、両者は漸移関係でそれぞれ互いの岩石を挟んでいる。

放射線量値は、舟伏山及び坂本峠ユニットの泥質混在岩(Fm)分布域では、50～62 nGy/h の範囲の値を示し、露出状況によりピークを形成している。また、久瀬ユニットの泥質混在岩(Zm)分布域では42～66nGy/h の範囲で変動した波形を示し、粘板岩露頭部分でピークを形成している。トンネル中では78nGy/h のピークを形成している。石灰岩(Zl)分布域、および泥質混在岩(Zm)中の石灰岩の挟みの露頭部分では33nGy/h の下向きのピークを形成している。

(38) Na38 (1/5万『谷汲』図幅南西部～『大垣』図幅北半部)

ルートNa37の終点を起点として揖斐川町井口まで揖斐川左岸沿いに下り、これより揖斐川町市街地を通過して揖斐郡大野町黒野、根尾川に懸かる藪川橋までのルート。(揖斐郡久瀬村地内～揖斐郡揖斐川町地内～揖斐郡大野町地内)。

起点～3.1km間は久瀬ユニットの泥質混在岩(Zm)分布域とされているが露頭はない。3.1～8.9km間は沖積層分布域(水田地帯)である。8.9～9.5km間はチャート(Nc)分布域で、チャートの露頭が認められる。9.5～15.3km(終点)までは沖積層分布域(水田地帯)となっているが、9.5～11.3km間ではルートの左手が砂岩(Ns)分布域となっている。カーボンでは露頭は確認されていない。

放射線量値は起点～3.1km間の久瀬ユニットの泥質混在岩(Zm)分布域では70nGy/h前後の値を示すトンネル部分以外は41～59nGy/hの範囲で変動するが、露頭がなく変動の理由は不明である。沖積層分布域では42～58nGy/hの範囲の値を示すが、全般に比較的安定した値を示す。

(39) No.39 (1/5万『冠山』図幅中央部南端～『横山』図幅中央部北端)

揖斐郡藤橋村旧徳山村門入(カドニュー)を起点とし、これより南南西に延びる「黒谷」の右岸を逆上るルート。

起点～0.5km間は左門岳ユニットに属する砂岩(Ss)の分布域である。0.5～0.9km間は舟伏山及び坂本峠ユニットに属する泥質混在岩(Fm)の分布域で、粘板岩、チャートの露頭が断続する。0.9～2.4km間は同ユニットに属する玄武岩溶岩及び火山碎屑岩(Fb)と泥質混在岩(Fm)が、断層沿いに入り組んで分布する。2.4～4.3km

(終点)間は同ユニットの玄武岩溶岩及び火山碎屑岩(Fb)の分布域で、粘板岩、緑色岩の露頭が点在する。

放射線量値は、砂岩(Ss)分布域では54～70nGy/hの範囲の値を示す。泥質混在岩(Fm)分布域の粘板岩露出部分では、70～82nGy/hの範囲の値を示す。0.9～2.4km間の(Fb)と(Fm)が入り組んで分布する個所では粘板岩露頭では60～66nGy/hの値を示すのに対し、緑色岩露出部では38～42nGy/hの値を示し、両者の岩種の違いが明瞭に区別される。2.4～4.3km(終点)間は粘板岩の薄層を挟み、ピークをなす個所を除き、32～41nGy/hの安定した値を示す。

(40) No.40 (1/5万『冠山』図幅中央部南端)

揖斐郡藤橋村旧徳山村門入(カドニュー)の西方、約400mの揖斐川支流、「西谷」の分岐点を起点とし、西北西にのびる支流沿いのルート。

ルート全体が左門岳ユニットに属する砂岩(Ss)、(Si)の分布域で、起点～3.1km間は砂岩(Ss)分布域で、砂岩、粘板岩、珪質粘板岩の露頭が断続する。3.1～5.0km間は砂岩露頭が連続する。5.0～5.7km間は珪質泥岩(Si)分布域とされているが、粘板岩露頭が断続する。5.7～7.5km(終点)間は砂岩(Ss)の分布域で砂岩露頭が断続する。

放射線量値は、砂岩(Ss)分布域では55～82nGy/hの範囲で変動した値を示す。

5.0～5.7km間の珪質泥岩(Si)分布域の粘板岩は80～90nGy/hの範囲の値を示す。

(41) No.41 (1/5万『冠山』図幅中央部南端～『横山』図幅中央部北端)

揖斐郡藤橋村旧徳山村門入(カドニュー)を起点とし、これより南東に延びる極めて短いルート。

ルート全体が左門岳ユニットに属する砂岩(Ss)で、砂岩露頭が認められる。

放射線量値は52～64nGy/hの範囲で変動した値を示す。

(42) No.42 (1 / 5万『冠山』図幅中央部南端)

ルートNo.42の途中、揖斐郡藤橋村旧徳山村門入の手前、直距離1.5kmの地点を起点とし、北側の小尾根をジグザグに上る短いルート。

ルート全体が左門岳ユニットに属する砂岩(Ss)で、極少ない砂岩露頭が認められる。

放射線量値は47~75nGy/hの範囲で変動した値を示す。砂岩露頭部では73~75nGy/hのピークを形成する。

(43) No.43 (1 / 5万『冠山』図幅中央部南東端)

ルートNo.35の途中、能郷白山より南下する「白谷」が揖斐川本流へ合流する地点より本流沿いに約300m逆上った地点を起点とし、これより南南西に小谷を逆上る極めて短いルート。(揖斐郡藤橋村地内)。

舟伏山及び坂本峠ユニットに属する玄武岩溶岩及び火山碎屑岩(Fb)分布域となっているが、ルートの終端部には泥質混在岩(Fm)が分布すると推測される。

放射線量値は粘板岩露頭では67~78nGy/hの値を示し、その他は42~52nGy/hの値を示す。

(44) No.44 (1 / 5万『冠山』図幅中央部南東端)

ルートNo.35の途中、揖斐川本流へ能郷白山より南下する白谷が合流する地点より南へ直距離約500m右岸を下った地点を起点とし、これより小谷を南西方向に逆上る極めて短いルート。

舟伏山及び坂本峠ユニットに属する泥質混在岩(Fm)分布域で、粘板岩が一部で露出する。

放射線量値は64~76nGy/hの範囲の値を示す。

(45) No.45 (1 / 5万『谷汲』図幅西北端部~『横山』図幅東端中央部)

ルートNo.36の途中、揖斐郡藤橋村鶴見の北東、直距離で1.2kmの地点(揖斐川右岸)より北西方向にのびる「原谷」を逆上るルート。

ルート全体が舟伏山及び坂本峠ユニットに属する泥質混在岩(Fm)の分布域で、粘板岩を主とする露頭が断続する。一部で珪質砂岩、珪質粘板岩、緑色岩が露出する。2.7~4.2km間は粘板岩露頭が連続する。

放射線量値は50~100 nGy/hの範囲の値を示す。粘板岩露頭部で高めのピークを形成する。100 nGy/hを示す個所は珪質粘板岩露頭部にあたる。

(46) No.46 (1/5万『谷汲』図幅西北端部～『横山』図幅東端中央部)

揖斐川右岸沿いのルートNo.36の途中、揖斐郡藤橋村鶴見の南西、直距離で約1.7km地点を起点として「親谷」を逆上るルート。

ルート全体にわたり舟伏山及び坂本峠ユニットに属する泥質混在岩(Fm)分布域、玄武岩溶岩及び火山砕屑岩(Fb)分布域が交互に反復している。起点～1.9km間は(Fm)分布域で、露出状況が良好で粘板岩露頭が断続的に或いは連続的に認められる。

1.9～2.0km間は(Fb)分布域の存在が推測される。2.0～2.2km間は泥質混在岩分布域で、粘板岩が露出する。2.2～2.4km間は(Fb)と推測される緑色岩が露出する。

2.4～5.4km間は泥質混在岩(Fm)分布域で、主として粘板岩露頭が断続する。一部に砂岩、緑色岩を挟む。5.4～6.2km(終点)間は地質図から(Fb)分布域と推測されるが、終点近くには粘板岩の露頭が認められる。

放射線量値は、(Fm)分布域の粘板岩露頭部では一般に74～96nGy/hの範囲の値を示すが、1.0～1.9km間の粘板岩露頭は高い値を示し、最高126nGy/hを示す。変化の激しい波形を示すが、これは露頭の断続状態を示すか、緑色岩の挟みが存在するかのいずれかと推測される。緑色岩露頭部は40～56nGy/hの低い値を示し、粘板岩分布域と明瞭に区別される。5.4～6.0km間は露頭はないが52～70nGy/hの範囲の値を示し、この範囲の前後と放射線量値に明瞭な差が認められる。このことから、この範囲は(Fb)分布域と推測される。

(47) No.47 (1/5万『横山』図幅北東部)

ルートNo.36の終点を起点とし、揖斐川右岸沿いに下り、さらに揖斐川支流の坂内川を逆上り、揖斐郡坂内村坂本を終点とするルート。(揖斐郡藤橋村地内～揖斐郡坂内村地内)。

1/20万地質図ではルートの殆どが舟伏山及び坂本峠ユニットに属する玄武岩溶岩及び火山砕屑岩(Fb)分布域とされているが、粘板岩露頭と緑色岩露頭が交互に断続している。このことは放射線量値の変化にかなり明瞭に現れている。なお、起点～0.1km間はチャート(Fc)露頭が認められる。

放射線量値は起点～0.1km間のチャート(Fc)露頭で50～58nGy/hの範囲の値を示す(チャートとしてはやや高めの値である。粘板岩質部分を取り込んでいる可能性がある)。粘板岩露頭は46～67nGy/hの範囲の値を示す。緑色岩露頭は35～46nGy/hの範囲の値を示す。露頭部のこのような傾向から露頭のない個所で観られる放射線

量値の差から岩層の違いを推測することが可能と判断される。（例えば 2.5～4.6km（終点）間で放射線量値が50nGy/h 以上の値を示す範囲は粘板岩分布域と推測される。）

(48) No.48（1／5万『横山』図幅東部～『谷汲』図幅西部）

ルートNo.47の終点の僅か手前（約200m）を起点とし、これより橋を渡り坂内川の右岸を下って揖斐川本流に出、さらに右岸を下り、久瀬村西津汲より橋を渡って揖斐川左岸の久瀬村東津汲までのルート。（揖斐郡坂内村地内～揖斐郡藤橋村地内～揖斐郡久瀬村地内）。

起点～4.5km 間は舟伏山及び坂本峠ユニットに属する玄武岩溶岩及び火山砕屑岩(Fb)分布域であるが、カーボン露頭図では1.1km 前後に緑色岩露頭の記載がある他は露頭記載がない。しかし、放射線量値から判断して(Fb)分布域であると判断される。4.5km 付近に衝上断層があり、これより13.9km（終点）までは久瀬ユニットの泥質混在岩(Zm)分布域となっているが、露頭は一部チャートを認める他は全て粘板岩で、これらの露頭が点在する。なお、11.5～12.6km間および13.2～13.9km間は1／5万地形図より沖積層被覆域と判断した。

放射線量値は起点～4.5km 間の(Fb)分布域では45～60nGy/h の範囲の値を示す。（例外的に3ヵ所のトンネル部分では最高70nGy/h の値を示す。）比較的变化が少なく、低い値の波形を示す。久瀬ユニットの泥質混在岩(Zm)分布域では45～84nGy/h の範囲の値を示すが、露頭部では60～84nGy/h の範囲の値を示す。ところにより明瞭なピークを示し、比較的变化の大きい波形を示す。露頭の認められない部分のうち 6.0～7.1km 間、 7.7～9.4km 間、及び沖積層が被覆している11.5～12.6km間、13.2～13.9km間は40～55nGy/h 前後の低い値を示しており、一部はチャート(Zc)や緑色岩(Zb)など放射線量値の低い岩層が分布している可能性があると推測される。

(49) No.49（1／5万『横山』図幅北東部で『谷汲』図幅との境界寄り）

揖斐郡藤橋村鶴見と東横山の間位置する揖斐川に懸かる「新川尻橋」の左岸を起点としてこれより左岸沿いに揖斐川を逆上り、枝谷の「矢中谷」を上るルート。（揖斐郡藤橋村地内）。

ルート全体が舟伏山及び坂本峠ユニットに属する泥質混在岩(Fm)分布域であり、起点～1.9km 間では粘板岩露頭を主とし、一部に緑色岩(Fb)、チャート(Fc)の露頭が認められる。1.9～4.1k（終点）間は粘板岩の連続露頭である

放射線量値は粘板岩露出部で70～90nGy/h の範囲の値を示すのに対し、緑色岩露頭は50nGy/h 前後の低い下向きのピークを形成する。チャート露頭は60～70nGy/h の値を示す。

(50) No.50 (1 / 5万『横山』図幅東部～『谷汲』図幅西部)

ルートNo.49の途中の「矢中谷」分岐点を起点とし、揖斐川本流を逆上り、藤橋村東杉原を通過して揖斐川左岸より分岐する小谷「深谷」を上るルート。(揖斐郡藤橋村地内)

ルート全体が舟伏山及び坂本峠ユニットに属する泥質混在岩(Fm)分布域と玄武岩溶岩及び火山砕屑岩(Fb)分布域が反復する。起点～0.5km 間は(Fm)分布域で、0.5～0.9km 間は緑色岩(Fb)分布域、0.9～3.4km 間は泥質混在岩(Fm)分布域、3.4～3.8km 間は玄武岩溶岩(Fb)分布域、3.8～4.8km 間は泥質混在岩(Fm)分布域、4.8～7.1km 間は玄武岩溶岩及び火山砕屑岩(Fb)分布域(1/20万地質図では(Fm)分布域となっているが、放射線量値は(Fb)分布域と同レベルで、(Fm)分布域とは考えられない。)、7.1～11.1km間は泥質混在岩(Fm)分布域、11.1～12.7km(終点)間は(Fb)分布域である。泥質混在岩(Fm)分布域は比較的に露出状況が良好で、粘板岩露頭が断続する。玄武岩溶岩及び火山砕屑岩(Fb)分布域は概して岩石の露出状況が悪く僅かに緑色岩の露頭が点在する。しかし、11.1～12.7km(終点)間の(Fb)分布域は緑色岩露頭が連続する。

放射線量値は、泥質混在岩(Fm)分布域で58～90nGy/h の範囲の値を示し、変化の激しい波形を形成する。緑色岩(Fb)分布域では37～70nGy/h の範囲の値を示すが、11.1～12.7km(終点)間の連続部分では35～48nGy/h の範囲で変化の少ない安定した波形を示す。

(51) No.51 (1 / 5万『谷汲』図幅北西端部)

揖斐川左岸の小谷「深谷」の分岐点を起点とし、揖斐川本流左岸を北方へ逆上る500m余りの短いルート。(揖斐郡藤橋村地内)

起点～0.2km 間は舟伏山及び坂本峠ユニットに属する泥質混在岩(Fm)分布域、0.2～1.0km(終点)間は玄武岩溶岩及び火山砕屑岩(Fb)分布域で、それぞれ粘板岩、緑色岩の露頭が認められる。

放射線量値は、(Fm)分布域では57～72nGy/h の範囲の値を示す。(Fb)分布域では39～50nGy/h の範囲の値を示すが、一部で60nGy/h のピークを示す個所がある。こ

れは粘板岩の挟みによると推測される。

(52) No52 (1 / 5万『横山』図幅中央部)

揖斐郡坂内村坂本の手前，ルートNo.48の起点の対岸を起点として揖斐川の支流，「坂内川」を逆上り，同村広瀬を通過し，直距離約1.5kmの地点を終点とするルート。 (揖斐郡坂内村地内)。

起点付近に舟伏山及び坂本峠ユニットの(Fb)が分布するとされているが，これより先はすべて久瀬ユニットに属する泥質混在岩(Zm)分布域とされている。全般に露頭が少なく，僅かに4～5km間に粘板岩の露頭が3個所の露頭が認められている。

放射線量値は起点付近の(Fb)分布域で55nGy/h 前後の値を示す。泥質混在岩(Zm)分布域では50～77nGy/h の範囲の値を示す。1.9～3.9km 間は集落，水田に相当する部分である。

(53) No53 (1 / 5万『谷汲』図幅南西部西縁)

揖斐郡久瀬村西津汲を起点として揖斐川本流の右岸を下り，久瀬村外津汲を終点とするルート。 (揖斐郡久瀬村地内)

ルート全体が久瀬ユニットに属する諸岩層の分布域にあたる。起点～0.8km 間は泥質混在岩(Zm)分布域で，粘板岩露頭が認められる。0.8～1.7km 間は石灰岩(ZI)分布域で石灰岩の露頭が認められる。1.7～3.5km (終点)間は1/20万地質図では珪質泥岩(ZI)分布域とされているが，放射線量値より(Zm)分布域と推測される。石灰岩，粘板岩の露頭が認められる。

放射線量値は起点～3.0km 間では38～60nGy/h の範囲で変動する値を示しているが，3.0～3.5km (終点)間は粘板岩露頭部で70～89nGy/h の範囲の値を示す。

(54) No54 (1 / 5万『谷汲』図幅南西部西縁)

揖斐川右岸，揖斐郡久瀬村三倉北端の橋の袂から右岸沿いに逆上り，外津汲の手前に至るルート。

ルート全体が久瀬ユニットの泥質混在岩(Zm)分布域で，粘板岩の露頭が点在する。放射線量値は54～83nGy/h の範囲の値を示す。粘板岩露頭部で最高83nGy/h のピークを示す。

(55) No.55 (1/5万『谷汲』図幅西部)

ルートNo.48の終点を起点とし、揖斐川支流の小津川を逆上るルート。

(揖斐郡久瀬村地内)

起点～3.7km間は久瀬ユニットの泥質混在岩(Zm)分布域で、粘板岩露頭が点在する。0.7～1.0km間に緑色岩を挟む。3.7kmで衝上断層により舟伏山及び坂本峠ユニットの諸岩層が10.2km(終点)まで分布する。主として粘板岩露頭が、ところにより緑色岩、チャートの露頭が断続あるいは点在する。(1/20万地質図によればルートの途中、0.7～1.1km間に分布する緑色岩、チャートを舟伏山及び坂本峠ユニットの(Fb)、(Fc)の小岩体として記載しているが、周辺の地質状況から、これらは久瀬ユニットの(Zb)、(Zc)と解釈するのが妥当と判断されるので、地質図の記載は記号記載の誤りと見做し、取り扱うこととする。)

放射線量値は、久瀬ユニットの泥質混在岩(Zm)分布域で58～100nGy/hの範囲の値を示す。最高値を示す個所は1.2～1.6km間の粘板岩の連続露頭(途中に緑色岩を挟む)である。緑色岩は55～62nGy/hの値を示す。舟伏山及び坂本峠ユニットの泥質混在岩(Fm)分布域は50～90nGy/hの範囲の値を示す。粘板岩の露頭の断続、緑色岩、チャートの挟みにより放射線量値は大きく変化し、振れの大きな波形を示す。

(56) No.56 (1/5万『谷汲』図幅西部)

ルートNo.55の終点付近から西方への小谷沿いの極めて短いルート。

(揖斐郡久瀬村地内)

舟伏山及び坂本峠ユニットの泥質混在岩(Fm)分布域で、粘板岩露頭が断続する。放射線量値は62～80nGy/hの範囲の値を示す。

(57) No.57 (1/5万『谷汲』図幅西部)

ルートNo.55の途中より小津川の西山際沿いに分岐する極めて短いルート。

(揖斐郡久瀬村地内)

舟伏山及び坂本峠ユニットの玄武岩溶岩及び火山碎屑岩(Fb)分布域で、露頭は確認されていない。

放射線量値は48～70nGy/hの範囲の値を示す。

(58) No.58 (1/5万『谷波』図幅西部)

ルートNo.55の途中、揖斐郡久瀬村小津集落の上手で小津川の枝谷「杉谷」を上る短いルート、(揖斐郡久瀬村地内)

舟伏山及び坂本峠ユニットの泥質混在岩(Fm)分布域で、粘板岩露頭を認める。
放射線量値は58~80nGy/h の範囲の値を示す。露頭個所で80nGy/h を示す。

(59) No.59 (1/5万『谷波』図幅西部)

ルートNo.55の途中、揖斐郡久瀬村小津集落中央より東方へのびる、小津川の枝谷「月尾谷」を逆上るルート。(揖斐郡久瀬村地内)

舟伏山及び坂本峠ユニットの泥質混在岩(Fm)分布域で、粘板岩露頭を認める。
1/20万地質図では 1.7~2.0km 間に(Fb)が分布するとされているが、露頭未確認である。

放射線量値は43~74nGy/h の範囲の値を示す。粘板岩露頭で74nGy/h のピークを示す。このことから、未確認ではあるが、その他のピークも粘板岩露頭部と推測される(1か所は石垣に起因するピーク)。

(60) No.60 (1/5万『谷波』図幅西端部)

揖斐郡久瀬村小津、下辻沢沿いルート。

ルート起点より 750~800m地点までは舟伏山・坂本峠ユニットの泥質混在岩(Fm)分布域で、800mより終点までは久瀬ユニットの泥質混在岩(Zm)分布域で粘板岩露頭が断続する。(Fm)分布域と(Zm)分布域は衝上断層で接していると考えられている。

放射線量値は、(Fm)分布域では60~80nGy/h で60~70nGy/h をベースに3ヶ所ほどで75~80nGy/h 前後のピークを示すのに対し(Zm)分布域は大部分が70~90nGy/h 前後の値を示し、両者の間に放射線量値の相違が認められる。

(61) No.61

揖斐川沿いの久瀬村乙原から北原北方に伸びる谷の詰まりまでのルート。

ルート起点より 2 km地点までは粘板岩露頭が断続し、久瀬ユニットの泥質混在岩(Zm)分布域とされている。2~2.6km 前後間は地質図に従えば那比・上麻生・金山ユニットの砂岩(Ns)及びチャート(Nc)の分布域とされている。2.6~6 km間はチャートの露頭が断続し久瀬ユニットのチャート(Zc)分布域にあたる。6km~終点間は粘板岩露頭が断続し、久瀬ユニットの泥質混在岩(Zm)分布域に相当する。

放射線量値は(Zm)、(Ns)分布域は60~90nGy/h 間で激しく変化するのに対し、

(Zc), (Nc)のチャート分布域は55~65nGy/h で比較的安定した低日の値を示す。
(Zm)域と(Ns)域の間には放射線量値に差は認められず、岩相上も(Ns)分布域に粘板岩露頭もあり、記載上に明瞭な差異は認められない。地質区分について再検討の必要があると思われる。

(62) Na 6 2

ルートNa.6 1と同じ谷沿いで上神原の上流部で谷の対岸の小ルート。

露頭は認められず、対岸の露頭(ルートNa.6 1)から地質は久瀬ユニットの泥質混在岩(Zm)分布域と推測される。

放射線量値は56~66nGy/h で、全体的には60nGy/h 前後であり大きな変化は認められない。対岸に較べ低い値を示す。

(63) Na 6 3

ルートNa.6 1と同じ川沿いで対岸の上神原沿いの小ルート。

露頭はなく、対岸(ルートNa.6 1)より久瀬ユニットのチャート(Zc)分布域と推測される。放射線量値は60nGy/h 前後で極めて安定した値を示す。

(64) Na 6 4

ルートNa.6 1の神原の対岸を通り南方へ枝谷の有島を經由して峠を越えて上南方姥坂~揖斐川町栄町に至るルート。

起点より 1km間はチャート、粘板岩の露頭が認められ、久瀬ユニットのチャート(Zc)、泥質混在岩(Zm)分布域にあたる。1~1.9km 間は谷間の田圃を横切る。1.9~5.5km 間は粘板岩、チャートの露頭が点在する。那比・上麻生・金山ユニットの砂岩・泥岩互層(Nh)、砂岩(Ns)、チャート(Nc)の分布域である。5.5~9.2 km間は粘板岩、チャートの露頭が断続する久瀬ユニットの泥質混在岩(Zm)(又一部(Zc))の分布域である。9.2km から終点までは濃尾平野の周縁部に当たる沖積層分布域である。

放射線量値は起点から約 1kmまでの(Zm)、(Zc)分布域は(Zm)域が55~70nGy/h , (Zc)域がおおよそ 50 nGy/h を示すのに対し、5.5~9.5km にわたる(Zm)分布域では 5.5~7.7km 間は60~90nGy/h を示し、7.7~9.2km 間は60nGy/h の低い、安定した値を示す。1.9(±)~2.4km 間の那比・上麻生・金山ユニットの泥岩優勢の砂岩泥岩互層(Nh)は、60~75nGy/h(±) の値を示し、粘板岩の部分は75nGy/h のピークを示している。2.4~4.5km 間の砂岩(Ns)分布域は55~62nGy/h の値を示す。

4.5 ～5.5km 間は粘板岩・チャートの互層で、50～70nGy/h の範囲で変化の多いグラフを示す。沖積層分布域は50～55nGy/h の値を示す。

(65) No. 6 5

1 / 5 万『谷波』図幅の西端中央部の久瀬村西津波西方の揖斐川沿いから 1 / 5 万『横山』図幅に入り、支流の日坂川からさらに分かれる三田倉谷を逆上るルート。
ルート起点より3km までは粘板岩を主とし、チャートを伴う露頭が断続する。久瀬ユニットの泥質混在岩(Zm)の分布域である。3 kmから終点までは(Zm)を貫く貝月山花崗岩(Gka) の分布域である。

放射線量値は起点より 3kmの(Zm)分布域のうち始めの 100～600mのチャート分布域は50～60nGy/h の低い値を示すが 0.6～3.0km 間は54～83nGy/h で振れの大きな値を示す。花崗岩分布域では60～80nGy/h と振れの大きな値を示す。

(66) No. 6 6

ルートNo. 6 5の途中より日坂川沿いに逆上り、日坂上村対岸の前谷を逆上るルート。
ルート起点より約 3.5kmまでは粘板岩の露頭が断続、 3.5～6 km間は露頭がなく、6 kmより終点までは花崗岩露頭が断続する。ルート起点より続く久瀬ユニットの泥質混在岩(Zm)の分布域と花崗岩分布域の境界の位置は明瞭ではないが、地質図等より 6 kmが境界と推測される。

(Zm)域の放射線量値は、最低50nGy/h(-)、最高80nGy/h(-)であるが、大部分は60 nGy/h 以上である。露頭がほとんど認められない 3.4～5.9km 間では大部分が50～60nGy/h である。貝月山花崗岩(Gka) は露頭部では70～82nGy/h で、露頭の認められないところでは60～67nGy/h の範囲の値を示す。

(67) No. 6 7

ルートNo. 6 6が南折する点を起点とし、これより数百米ほど日坂川を逆上り久瀬村日坂上村より北西へ瀬戸谷を逆上る短いルート。

上村までは沖積層被覆部（花崗岩分布域）で、瀬戸谷沿いはほぼ全面が花崗岩露頭（貝月山花崗岩(Gka)）である。

放射線量はルート起点より600mまでの沖積層被覆部分では53～68nGy/h , 全般的には60nGy/h の値を示す。花崗岩分布域は64～90nGy/h で、全般的には80nGy/h 前後の値を示す。

(68) No. 6 8

ルートNo. 6 7が途中瀬戸谷へ曲折する点（久瀬村日坂上村）を起点とし、これより日坂川沿いに800mほど逆上り、その対岸に渡り逆に日坂川沿いに下り、ルートNo. 6 6に合一するまでのルート。

放射線量値はルート前半の日坂川を逆上る部分では途中花崗岩の露頭が点在する影響で60～78nGy/h の範囲で振れの大きな値を示す。コース全体が貝月山花崗岩（Gka）分布域である。

(69) No. 6 9

ルートNo. 6 8が日坂川を対岸に渡り、下り始める地点を起点としてこれより真南にのびる和佐谷を逆上る花崗岩露頭の多い短ルート。

コース全体が貝月山花崗岩（Gka）分布域である。

放射線量値はルート始めの非露出部では 60nGy/h前後を示すが花崗岩露頭が断続する部分では62～84nGy/h の範囲の値を示し、露頭の断続にあわせて大きな振れを示す。露頭部分は60nGy/h 前後の値を示す。

(70) No. 7 0 （1/5万『横山』図幅の右半南部）

揖斐川の支流、日坂川の上流でルートNo. 6 8が日坂川の左岸側から右岸側に渡る左岸地点を起点とし、日坂峠南方の新道で南北の尾根を跨ぎ、揖斐川の支流の坂内川のさらにその支流、白川の上流の品又谷を下り、白川の分岐点（揖斐郡坂内村諸家（もろか）から新穂谷沿いに上り、新穂峠に達するルート。

ルート全コースは貝月山花崗岩（Gka）分布域で、花崗岩露頭が断続する。日坂峠付近及び新穂谷上流部～新穂峠付近はほぼ全面花崗岩が露出する。

放射線量値は55～88nGy/h で露頭部分の大半は64～80nGy/h を示す。非露出部はおおよそ55～62nGy/h の範囲におさまる。

(71) No. 7 1

ルートNo. 7 0の途中、坂内村諸家（もろか）より白川を下り、殿又谷の分岐点の約500m下流より白川の左岸に渡り、逆に逆上って殿又谷沿いに上るルート。

ルート起点より花崗岩露頭が点在乃至断続するが、殿又谷の途中、約5.6km 付近より終点まで花崗岩露頭がほぼ連続する。ルート全コースが貝月山花崗岩（Gka）分布域内に位置する。

放射線量値は58～86nGy/h の範囲で変動している。花崗岩露頭部ではおおよそ75

～80nGy/h の範囲の値を示す。

(72) No. 7 2

ルートNo. 7 1が白川右岸より左岸に渡る右岸地点を起点として白川沿いに下り、坂内川に合流するまでのルート。

ルート起点より約 1.8kmまでは花崗岩露頭が点在する。貝月山花崗岩(Gka)分布域である。これより終点までは露頭がほとんどないが地質図より久瀬ユニットの泥質混在岩(Zm)分布域と推測される。

放射線量値は花崗岩露出部分又は山寄りのコース部分では66～76nGy/h，谷の中央部の田圃の中を通る部分では60～64nGy/h の範囲の値を示す。(Zm)分布域ではおよそ54～68nGy/h の範囲の値を示す。

(73) No. 7 3

揖斐川沿いの揖斐郡久瀬村三倉（1/5万『谷汲』図幅南西隅）を起点として揖斐川を右岸沿いに下り、揖斐川町室～川原を經由して黒田で揖斐川支流の粕川を渡った地点を終点とするコース。

ルート起点より3.2km 付近までは粘板岩露頭（一部チャート露頭）が断続する。久瀬ユニットの泥質混在岩(Zm)分布域である。3.2km 付近より終点までは沖積層分布域で濃尾平野の北西縁にあたる。

放射線量値は起点より 2.8kmまでは凡そ50～70nGy/h の範囲で、60nGy/h を中心に変動した値を示す。通常粘板岩露頭部分は高い値を示すがチャート部分は低目の値を示す。沖積層分布域は一般に60nGy/h 前後で安定した値を示す。人家付近では石垣等により大きな振れを示すところがある。

(74) No. 7 4

不破郡関が原町緑ヶ丘から伊吹山ドライブウェイ終点までのルート。

ルート起点より約2.6km までは砂岩露頭が認められるが露頭は少ない。那比・上麻生・金山ユニットの砂岩(Ns)分布域である。2.6～12km間は主として粘板岩、砂岩で、一部チャートの露頭が断続する。那比・上麻生・金山ユニットの砂岩泥岩互層(Nh)分布域である。12kmより終点までは石灰岩、チャートの露頭が断続する。一部で緑色岩（玄武岩類）の小露頭を挟む。舟伏山・坂本峠ユニットの石灰岩(F1)を主とし、一部チャート(Fc)又は玄武岩及び同砕屑岩(Fb)の分布域にあたる。

放射線量値は起点より12kmまでの那比・上麻生・金山ユニットの(Ns)、(Nh)分布

域では粘板岩、チャート、砂岩粘板岩互層等の露頭が断続する部分で52～76nGy/hの範囲でかなり変動する。一般に粘板岩露頭の部分では72～76nGy/hの範囲の値を示すのに対し、チャートの露頭部分では51～52nGy/hの値を示す。12km～終点間の舟伏山・坂本峠ユニット分布域では大部分は40～50nGy/hで変化の少ない安定した値を示す。これは岩石が石灰岩、チャート、緑色岩であるためと判断される。

(75) Na 7 5

不破郡関が原町大高（おだか）（1 / 5万『長浜』図幅）を起点として北上するルートで、岩手峠付近（起点より約8km地点）を經由して粕川の支流の長谷川を下り、押又谷の分岐点（揖斐郡春日村初若）までのルート。

ルート起点より約6.6km付近までは砂岩を主とする露頭が断続する。起点より約9.5kmまでは露頭及び地質図から那比・上麻生・金山ユニットの砂岩(Ns)分布域と判断される。9.5km～終点間は粘板岩、砂岩の露頭が頻繁に断続する。那比・上麻生・金山ユニットの砂岩泥岩互層(Nh)分布域である。放射線量値は(Ns)域の砂岩露頭の断続する起点より9.5km付近までは50～80nGy/hで、大部分は55～70nGy/hの値を示すが、場所により60nGy/h前後を境に区分される変化を示している。(Nh)分布域の9.5km付近～終点間は42～89nGy/hの範囲でかなり変動する。このうち砂岩、粘板岩、砂岩粘板岩互層の露頭部分では75～89nGy/hのピークを形作っている。

9.6～10km間は最低42nGy/hの低い値を示す。露頭はないがチャートが分布している可能性がある。

(76) Na 7 6

ルートNa 7 5の終点を起点として長谷川沿いに下り、粕川に合流、粕川沿いに東方へ下り、春日村の香六～高橋西～下ヶ流（しもがれ）～六合～滝～揖斐川町市場～黒田（ルートNa 7 3終点近傍、一部ルートNa 7 3と重複）に至るルート。

ルート起点より9km付近までは主に粘板岩露頭が断続、一部でチャート、珪質岩の露頭を認める。地質図によれば、那比・上麻生・金山ユニットの泥岩優勢の砂岩泥岩互層(Nh)分布域とされているが、露頭岩相からは泥質混在岩(Nm)に近いとも見られる。9～13.4km間は粘板岩露頭が点在するが、地質図によれば9～10.3km間は那比・上麻生・金山ユニットの砂岩(Ns)分布域、10.3～13.4km間は同ユニットの砂岩優勢の砂岩泥岩互層(Na)分布域とされているが、露頭岩相からは起点～13.4km間全体を(Nh)と扱ってもよいほど粘板岩主体の岩相である。13.4km～終点間は濃尾平

野北縁にあたる沖積層分布域である。

放射線量値は起点～4 km間はほぼ60～80nGy/h の範囲で変動する。粘板岩露頭部分は72～80nGy/h の値のピークを形作っている。4～13.4km付近の間では、60nGy/h を中心に42～88nGy/h の範囲で大きく振れている。やはりピークをなす60～88nGy/h の範囲の高い値を示す部分は粘板岩露頭部分に当たる。谷間を形作る部分は露頭がない部分である。13.4km～終点間の沖積層分布域は50～60nGy/hの範囲で小刻みの比較的安定した値を示す。

(77) No. 7 7

揖斐郡坂内村広瀬西方約3.5km の坂内川沿いの地点を起点とし、これより坂内川を逆上り、坂内村川上で分岐する八草川沿いに八草峠までのルート。

ルート起点より1.6km までは粘板岩露頭が点在、久瀬ユニットの泥質混在岩(Zm)分布域にあたる。1.6～9.9km 間は舟伏山・坂本峠ユニット分布域にあたるが、このうち3.6～4.7km 付近の間は川幅がやや広く、沖積層が分布する。4.7km付近～9.9km 間は粘板岩が主でチャート、粘板岩砂岩互層の露頭を挟む。泥質混在岩(Fm)分布域である。地質図によれば、1.6～2.1km は断層により舟伏山・坂本峠ユニットのチャート(Fc)が分布するとされている。又3.6～4.7km 間の沖積層分布域には貝月山花崗岩(Gka)が小規模に露出するとされている。9.9～10.8km間は道路が葛折れとなり、そこでは(Fm)が(Zm)に衝上断層で接していることになっており、このため(Zm)、(Fm)が反復分布するとされている。10.8km～終点間は粘板岩、チャート、緑色岩露頭が点在しており、久瀬ユニットの泥質混在岩(Zm)分布域と判断される。

放射線量値は、起点より1.6kmまでの(Zm)域では、60nGy/h を中心に50～68nGy/h の範囲で小刻みに変化する。1.6～2.5km 間は55～65nGy/h を示す。2.5～3.6 km 間は65nGy/h より42nGy/h 前後へと徐々に低い値を示している。3.6～4.6km 間の沖積層分布範囲は40～50nGy/h の低い値を示す。4.6km 付近～終点間は52～82nGy/h の範囲で大きく振れた変化を示している。(Fm)域と(Zm)域で大きな差異は認められない。同じ(Fm)域の中で4.6km 付近～6.8km 付近の間でピークが80nGy/h 前後の高目の値を示すことが注目される。むしろユニットが違っても粘板岩とチャートの放射能値に明瞭な差異が共通して認められる。

(78) No. 7 8

ルートNo. 7 7の終点の八草峠を起点として尾根沿いに登るルートで、金糞岳より西方～西南方へ延びる尾根との合流点より約700m手前を終点とするルート。

(岐阜…滋賀県境ルート)

粘板岩、チャート、緑色岩の露頭(粘板岩露頭が主)が断続する。ルート全体が久瀬ユニットの泥質混在岩(玄武岩及び石灰岩、チャート、砂岩の岩塊を含む(Zm))の分布域に属する。

放射線量値は起点～1.4km間で45～75nGy/hの範囲で変動する。粘板岩露頭部分は60nGy/h以上の値を示すのに対し、チャート、緑色岩の露頭部分は60nGy/h以下の値で下向きのピークをなしている。1.4～3.3km間では全体に低目で小刻みな変動を示す。3.3km～終点間では、粘板岩露頭がかなり連続した分布箇所ので60～82nGy/hの範囲で変動の大きな値を示す。

(79) No. 7 9

ルートNo. 7 7の途中で道路が大きく北西の枝谷に沿って迂回する地点を起点とし、この枝谷を逆上るルート。

ルート起点より粘板岩の露頭が断続するが、約1.5km～終点間は粘板岩、緑色岩、チャートの露頭が断続する。ルート全体は舟伏山・坂本峠ユニットの泥質混在岩(玄武岩及び石灰岩、チャート、砂岩の岩塊を含む)(Fm)の分布域内に位置する。

放射線量値は40～74nGy/hの範囲でかなり変動する。緑色岩、チャートの露出部では、40nGy/h台の低い値を示すのに対し、粘板岩露頭が連続する部分では、ほぼ60～70nGy/hの値を示す。

(80) No. 8 0

揖斐郡坂内村大草履で坂内川より南方へ分岐する浅又川入口を起点として浅又川を逆上り、坂内村広瀬浅又を通過して鳥越峠手前約900mで右折、反転して金糞岳中腹沿いに約1.8～2kmほど延びるルート。

ルート起点より約1km地点までは粘板岩露頭が認められるが、1kmから先は鳥越峠手前までは花崗岩露頭が断続する。この先は露頭はあまり認められない。起点～1km間は舟伏山・坂本峠ユニットの泥質混在岩(Fm)分布域にあたる。1km地点より先は終点まで貝月山花崗岩(Gka)分布域にあると判断される。

放射線量値は起点～1km間では60～80nGy/hの範囲の値を示す。粘板岩の連続露

頭部分では80nGy/h と高い値を示す。花崗岩の露頭部分は73～82nGy/h の範囲の値を示し、非露出部は52～62nGy/h の範囲の値を示す。

(81) No. 8 1

揖斐川支流の坂内川沿いの坂内村川上を起点とし坂内川を更に逆上り、最上流部で池ノ又谷を上るルート。

起点～ 3.2km間は粘板岩露頭が断続する。舟伏山・坂本峠ユニットの泥質混在岩(Fm)分布域にあたる。3.2～4.6km間は緑色岩露頭が認められ、舟伏山・坂本峠ユニットの玄武岩及び火山碎屑岩(Fb)と見られる。4.6～12.3km間は主に砂岩露頭が断続する。一部でチャートの露頭が認められる。この範囲は左門岳ユニットの砂岩(Ss)分布域である。12.3kmから終点までは粘板岩、砂岩の露頭が断続し、左門岳ユニットの珪質泥岩(Si)分布域に相当すると判断される。

放射線量値は起点～3.2km間の(Fm)分布域では54～75nGy/hの範囲で変動するが、粘板岩露頭部分は概ね70nGy/h前後の値を示す。3.2～4.6km間の(Fb)分布域では38～55nGy/hの範囲の低い値を示す。4.6km～終点間は左門岳ユニットの(Ss)及び(Si)分布域では48～87nGy/hの範囲の値を示すが、大部分は60nGy/h以上の値を示す。特に6.7km地点より先ではチャート露頭を除くと大半は65～80nGy/hの範囲の値を示す。砂岩露頭の大部分は75～85nGy/hの範囲の値を示す。

(82) No. 8 2

ルートNo. 8 1の最上流部で分岐する大樽尾谷に沿って逆上るルート。

砂岩露頭が数多く断続して現れる。終点近くの約200mにわたる粘板岩露頭部分以外は大部分左門岳ユニットの砂岩(Ss)分布域に属するが、終点近傍の粘板岩露頭部分は珪質泥岩(Si)分布域に当たると推測される。

放射線量値は全般を通じ64～87nGy/h前後の値を示す。露頭部分では75nGy/h以上の値を示す。

(83) No. 8 3 (1/5万『横山』図幅北端中央部)

ルートNo. 8 1の起点より約4.5km地点でコースが大きく南西方向に折れ曲がる地点(坂内村地内坂内川椀戸谷)を起点とし椀戸谷を逆上るルート。

砂岩露頭が点在する。左門岳ユニットの砂岩(Ss)分布域である。終点手前約400m地点からチャート、砂岩の露頭が反復する。(Si)分布域とされるが(Sc)分布域に属する可能性がある。

放射線量値は起点より約100m地点で48nGy/h の下向きピークが認められる。露頭ははっきりしないが地質図によればこの近傍に舟伏山・坂本峠ユニットの玄武岩溶岩及び火山砕屑岩(Fb)域と左門岳ユニットの砂岩(Ss)域間の断層の位置にあたる。この後2.6km までは60nGy/h 以上の値を示すが100 ~800m間は 60 ~80nGy/h の範囲の値を示す。800m~2.2km 間は60~77nGy/h で小刻み振れを示しながらゆったりした波長の変化を示している。2.2km ~終点間では砂岩露頭部分で80nGy/h の値を示すのに対しチャート露頭部分では大きく変化して50nGy/h の低い値を示す。

(84) No. 8 4

ルートNo. 8 1の起点の対岸を起点とし北方へ川上浅又川に沿って逆上る道路の途中までのルート

起点より2km 付近までは粘板岩（一部チャート）の露頭が断続する。舟伏山・坂本峠ユニットの泥質混在岩(Fm)分布域にあたる。2km より先は砂岩粘板岩互層、チャート粘板岩互層露頭が断続する。舟伏山・坂本峠ユニットの玄武岩溶岩及び火山砕屑岩(Fb)分布域に属すると見られる。(Fm)域と(Fb)域の境界は断層と推定されている。

(Fm)分布域では52~78nGy/h の範囲の放射線量値を示す。粘板岩露頭部分では65~78nGy/h の範囲の値を示すが、チャート露頭部分は40nGy/h の値を示す。(Fm)分布域の後半は露頭が少なくこれに対応して50~60nGy/h の範囲の値を示す。(Fb)分布域では緑色岩露頭部分が40nGy/h の明らかに低い値を示すが、粘板岩砂岩互層部分は72~75nGy/h 程度の値を、終点までの粘板岩チャート互層部分では32~42nGy/h の範囲の値を示す。チャート部分が低い値を示すと推測される。

(85) No. 8 5

ルートNo. 8 4の途中より枝分かれした小ルート。

緑色岩が露出している。舟伏山・坂本峠ユニットの玄武岩溶岩及び火山砕屑岩(Fb)分布域である。緑色岩露出部分は34~40nGy/h の範囲の放射線量値を示す。

(86) No. 8 6

ルートNo. 8 4の途中でルートNo. 8 5の起点より800m~700m下流を起点とし、東側へ延びる谷沿いのルート。

起点より300m前後までは粘板岩露頭を認めるが、300m~終点間は緑色岩露頭を主として、一部珪質粘板岩露頭を挟む。起点~300m間は舟伏山・坂本峠ユニットの泥

質混在岩(Fm)分布域にあたり、300m～終点間は舟伏山・坂本峠ユニットの玄武岩溶岩及び火山砕屑岩(Fb)分布域である。

放射線量値は(Fm)分布域では40～60nGy/h の範囲の値を示すのに対し(Fb)分布域の緑色岩部分は28～34nGy/h の範囲の低い値を示すが、途中の珪質砂岩露出部分では43～58nGy/h のピークを示す。

(87) Na 8 7 (1 / 5万『横山』図幅の中央部)

ルートNa 7 7の起点より約1.3km 地点(八草川沿い)を起点として北西方向の枝谷を逆上る短いルート。

粘板岩露頭が断続する。舟伏山・坂本峠ユニットの泥質混在岩(Fm)分布域である。放射線量値はほぼ60～80nGy/h の範囲の値を示す。

(88) Na 8 8 (1 / 5万横山図幅の中央部)

ルートNa 8 0(浅又川沿いのルート)の途中、広瀬浅又を起点として南東方向へ延びる枝谷を逆上り、途中より右側へ尾根中腹を巻く短いルート。

花崗岩露頭が断続する。地質図によれば貝月山花崗岩体(Gka)の西縁を南北方向に切る断層の近傍を通るルートでコース全体が貝月山花崗岩(Gka)分布域内である。

放射線量値は露頭部分で70～88nGy/h の範囲の値を示す。非露出部では60～68 nGy/h の範囲の値を示す。

(89) Na 8 9

ルートNa 8 8のルート途中より分かれるきわめて短いルート。

ルートの後半に花崗岩が露出する。Na 8 8と同じ貝月山花崗岩(Gka)分布域である。放射線量は60～80nGy/h の範囲の値を示す。

(90) Na 9 0

坂内川の途中、揖斐郡坂内村広瀬より支流の大谷川を北方へ逆上るルート。

ルート起点～1km 間は田圃中のコースである。1～1.9km 間は粘板岩露頭が断続する。久瀬ユニットの泥質混在岩(Zm)分布域である。1.9～4.4km 間は砂岩、粘板岩、緑色岩、チャート等の露頭が断続する。舟伏山・坂本峠ユニットの泥質混在岩(Fm)、玄武岩溶岩及び火山砕屑岩(Fb)、チャート(Fc)の分布域である。地質図によれば1.9km付近で舟伏山・坂本峠ユニットが久瀬ユニットと衝上断層で接するとされている。4.4km～終点間は粘板岩(主)、砂岩の露頭が断続する。再び久瀬ユニットの泥質混在岩(Zm)分布域となる。

久瀬ユニットの(Zm)分布域(1～1.9km, 4.4km～終点)の放射線量値は60nGy/hを中心に50～77nGy/hの範囲で変動した値を示す。舟伏山・坂本峠ユニットの(Fm)分布域の砂岩、粘板岩(1.9～3.4km)は55～57nGy/hをベースとして60～72nGy/hの範囲のピークを伴う。全般的にやや低目の値を示す。3.3～3.7km, 3.8～4.2kmの粘板岩の連続露頭は68～73nGy/h前後の台地状の高い値を示す。緑色岩(Fb)露頭部分は40～46nGy/hの範囲の低い値を示す。

(91) No.9 1 (1/5万『谷汲』図幅の南西隅)

揖斐川沿いの揖斐郡揖斐川町鎌曾より若宮へ入る北東側へ開けた谷の短いルート。
田圃が多く、露頭が少ない。砂岩、粘板岩の露頭が点在する。久瀬ユニットの泥質混在岩(Zm)分布域である。

放射線量値は、全般的に52～60nGy/hの範囲の値を示すが、粘板岩の露頭部分では70nGy/h前後の値を示す。

(92) No.9 2 (1/5万『谷汲』図幅の南西隅)

ルートNo.9 1の途中を起点とし揖斐川町奥平を経由して鎌曾に至るルート。

粘板岩露頭が断続する。久瀬ユニットの泥質混在岩(Zm)分布域である。

放射線量値は粘板岩露頭部分で70～80nGy/hの範囲の値のピークを示すが、その他は50～60nGy/hの範囲の低い値を示す。

(93) No.9 3

揖斐川支流の粕川沿いのルートNo.7 6の途中、揖斐郡春日村高橋西より北方へ延びる高橋谷川を逆上るルート。

コース全体にわたり主に粘板岩露頭(一部砂岩露頭)が断続する。大部分は那比・上麻生・金山ユニットの泥岩優勢の砂岩泥岩互層及び破断した砂岩泥岩層(Nh)分布域である。地質図によれば5.1km付近に衝上断層があり、これより先は久瀬ユニットの泥質混在岩(Zm)分布域となっているが、露頭及び放射能値には明瞭な差異は認められない。

起点～1.5km間は粘板岩露頭で88nGy/hの放射線量ピークを認めるが、それ以外は50～80nGy/hの範囲の値を示す。1.5km～終点間は大抵は65～78nGy/hの範囲におさまるが、一部粘板岩露頭部分では86～88nGy/hの範囲の値のピークを示す。

(94) No. 9 4 (1 / 5万『長浜』図幅北東隅)

ルートNo. 9 3の途中(起点よりおおよそ3.7 ~ 3.8kmの地点)より南西方向へ中腹を巻いて鎗ヶ先へ向かうルート。

途中、粘板岩砂岩互層露頭が広がる。ルート全体が那比・上麻生・金山ユニットの砂岩泥岩互層(Nh)分布域である。

1.2 ~ 1.9km 間の粘板岩露出部分では62~86nGy/h の範囲の値を示すが、その他大部分はおおよそ50~65nGy/h の範囲の値を示す。起点より150 ~ 200mにわたり50 nGy/h 前後の値の下向きのピーク?を示す部分はチャートと推定される。

(95) No. 9 5

ルートNo. 9 3の途中(起点より2.8 ~ 3.0km付近)を起点として中腹の集落、春日村上ヶ流を経由して檜に至るルート。

ルート起点より 1.8kmまでは粘板岩露頭(一部砂岩粘板岩互層)が断続する。那比・上麻生・金山ユニットの砂岩泥岩互層(Nh)分布域である。放射線量値は50~88 nGy/h の範囲で振れの大きなグラフを示す。

1.8 ~ 4.4km 間は粘板岩、粘板岩砂岩互層の露頭が点在するが露頭は少ない。那比・上麻生・金山ユニットの砂岩(Ns)分布域に属する。1.8 ~ 2.9km 間で放射線量値は42~60nGy/h の範囲で小刻みな振れを示しながらゆるやかに変化し、特徴的なカーブを示す。上ヶ流周辺では露頭は認められない。2.9 ~ 4.4km 間は55~75nGy/h の範囲の値を示し、変化は大きくなっている。

4.4km ~ 終点間は粘板岩露頭が断続する。那比・上麻生・金山ユニットの泥岩優勢の砂岩泥岩互層(Nh)分布域である。放射線量値は64~78nGy/h と2.9 ~ 4.4 km間に較べやや高い値を示す。

(96) No. 9 6

粕川沿いの春日村高橋西の対岸の野原谷(東海道自然歩道)を南方へ約200m入った地点、ルートNo. 9 7の終点より野原谷を逆上る短いルート。

粘板岩露頭が断続する。那比・上麻生・金山ユニットの砂岩(Ns)分布域に属する。放射線量値は64~88nGy/h の範囲の値を示す。粘板岩の連続露頭では 88 nGy/h 前後の高目の値を示す。

(97) No. 9 7

ルートNo. 9 6の下流部で野原谷の入口より約200mの極めて短いルート。

那比・上麻生・金山ユニットの砂岩泥岩互層(Nh)分布域であるが途中でチャート(Nc)域を挟む模様である。

放射線量値は粘板岩露頭部分と見られる箇所では80nGy/hのピークを示すが、チャート部分(推定)では50nGy/hを示す。

(98) No. 9 8

粕川の支流長谷川の分岐点，春日村川合を起点として北西方へさらに粕川を逆上り，寺本～種本～市瀬を經由して表川沿いに日坂越方面へ逆上るルート。

ルート起点より500mまでは那比・上麻生・金山ユニットの砂岩泥岩互層(Nh)分布域である。放射線量値は44～61nGy/hの範囲の値を示す。

0.5～1.2km間はチャート，石灰岩，砂岩の露頭が断続する。舟伏山・坂本峠ユニットの(Fc)，(Fs)，(F1)の分布域である。放射線量値は43～56nGy/hの範囲の値を示す。

1.2～1.4km間は貝月山花崗岩と舟伏山・坂本峠ユニットの接触部と見られる。

1.4km～終点間は花崗岩露頭が断続する。貝月山花崗岩(Gka)分布域である。

1.2～1.8km間では放射線量値は60～78nGy/hのなだらかな山型をなす。1.8km～終点間は60nGy/hを中心に48～69nGy/hの範囲で変動する値を示す。露頭部分，非露頭部分，露頭からの距離等による変動と判断される。露頭部分では65～70nGy/hの範囲の値を示す。

(99) No. 9 9

ルートNo. 9 8の途中，おおよそ6.8km地点より東側の谷を登る極めて短いルート。

ルートNo. 9 8の終点付近と同じくすべて貝月山花崗岩(Gka)分布域である。

(100) No. 1 0 0

ルートNo. 9 8の途中，春日村市瀬を起点として安土～寺本～中郷を經由して東谷を途中まで上るルート。

花崗岩露頭が断続する。ルート全コースが貝月山花崗岩(Gka)分布域にある。

放射線量値は54～89nGy/hの範囲で露頭状況による変動した値を示す。

(101) No. 1 0 1

ルートNo. 1 0 0 の途中，春口村千疋の手前の道路分岐点を西谷に沿って逆上る
ルート

ルートNo. 1 0 0 と同じく花崗岩が断続しルート全コースが貝月山花崗岩(Gka) 分布域にある。

放射線量値は54～86nGy/h の範囲で露頭状況により変動する。

(102) No. 1 0 2

ルートNo. 1 0 0 の途中，ルートNo. 1 0 1 の分岐点手前約100m地点を起点とし尾西
谷を逆上り，国見峠（岐阜－滋賀県境）までのルート。

花崗岩露頭が断続する。ルート全コースが貝月山花崗岩(Gka) 分布域にある。

放射線量値は52～84nGy/h の範囲の値を示す。露頭状況によりこの範囲で変動した値を示す。

(103) No. 1 0 3

ルートNo. 7 5 の途中，揖斐郡春日村古屋より西方の笹又の手前までのルート。

粘板岩，砂岩，砂岩粘板岩互層（一部チャートを含む）の露頭が断続する。那比・上麻生・金山ユニットの砂岩泥岩互層(Nh)分布域である。

放射線量値は54～87nGy/h の範囲の値を示す。チャート露頭は50nGy/h の低い下向きのピークを示す。粘板岩露頭は78～87nGy/h の範囲の値を示す。砂岩部分は70～80nGy/h の範囲の値を示す。

(104) No. 1 0 4

ルートNo. 7 5 の終点，ルートNo. 7 6 の起点（揖斐郡春日村初若の南）を起点として押又谷沿いに東方へ延びるルート。

起点～2.1km 間は粘板岩，チャートの露頭が断続する。特に起点～700m間は砂岩，粘板岩，チャートが互層をなす。那比・上麻生・金山ユニットの砂岩泥岩互層(Nh) 分布域である。2.1～3.3km 間は砂岩露頭が断続しており，那比・上麻生・金山ユニットの砂岩(Ns)の分布域である。

那比・上麻生・金山ユニット分布域の放射線量値は50～90nGy/h の範囲の値を示す。チャート部分が一番低く(50～65nGy/h)，次いで砂岩(60～75nGy/h)で，粘板岩が最も高い値(85～90nGy/h)を示す。

3.3km に衝上断層が通り(Ns)域と(Zm)が接している。3.3km 終点間は砂岩，粘板

岩、チャートの露頭が断続する。久瀬ユニットの泥質混在岩(Zm)分布域にあたる。放射線量値は粘板岩露頭部分が80～90nGy/h の範囲の値を示し、チャート露頭部分で48～50nGy/h の範囲の値を示す。その他砂岩部分はおおよそ60～75nGy/h の範囲の値を示す。

(105) No.1 0 5

ルートNo.1 0 4の終点のおよそ200～400m手前を起点とする。(ルートNo.1 0 8の起点と同じ起点)。これより北東方向の小沢に沿って上り、北方に小尾根を横切った地点までのルート。

砂岩、粘板岩、チャートの互層が断続する。ルート全コースが久瀬ユニットの泥質混在岩(Zm)分布域である。

放射線量値のパターンが1.2kmを境に差異が認められる。起点より1.2kmまではチャート露頭部分(50nGy/h)を除き65～80nGy/h の範囲で小刻みに変化し、平均して70nGy/h の値を示す。1.2km～終点間は65～80nGy/h の範囲で大きく変化する。チャート部分が50～56nGy/h の範囲の値を示し、粘板岩部分が65～72nGy/h の範囲の値のピークを形作っていると判断される。

(106) No.1 0 6

ルートNo.9 8の途中(約700～800m)の道路の分岐点を起点として春日村中山を経由するルート。

起点より2.5km間は砂岩、チャート、粘板岩露頭が断続する。那比・上麻生・金山ユニットの泥質混在岩(Nm)分布域に属すると判断するが、衝上断層近傍のため地質は複雑となっている。放射線量値は50～82nGy/h の範囲の値を示す。最も値の低い部分はチャート部分である。

2.5～4.0km間は石灰岩、砂岩の露頭が断続する。舟伏山・坂本峠ユニット分布域である。2.5～2.9km間は石灰岩(F1)分布域にあたる。この部分では放射線量値は40～57nGy/h の範囲の値を示す。2.9～4km間は泥質混在岩(Fm)分布域であり、54～75nGy/h の範囲の値を示す。

4.0km～終点間は粘板岩、砂岩の露頭が断続する。那比・上麻生・金山ユニットの砂岩泥岩互層(Nh)分布域である。大部分は60～80nGy/h の範囲の値を示す。特に粘板岩露頭部分は75～80nGy/h の範囲の高目の値を示す。

(107) No. 1 0 7

ルートNo. 1 0 6の途中、春日村中山手前で分岐する極めて短いルート。

起点より1km間は那比・上麻生・金山ユニットの砂岩泥岩互層(Nh)分布域で、この先は衝上断層で舟伏山・坂本峠ユニットの石灰岩(F1)が分布する。

放射線量値は(Nh)分布域では40～57nGy/h、(F1)分布域では40nGy/hの値を示す。

(108) No. 1 0 8 (1/5万『長浜』図幅東端部の中ほど、春日村々内)

ルートNo. 1 0 4の終点の300～400m手前より分岐し、北方への谷を上る短いルート

粘板岩、チャート、砂岩粘板岩互層の露頭が断続する。久瀬ユニットの泥質混在岩(Zm)分布域である。

放射線量値は46～77nGy/hの範囲で岩相により大きく変動する。チャートの放射線量値は46～50nGy/hの範囲の低い値を示す。

(109) No. 1 0 9 (1/5万『長浜』図幅東端部の中ほど)

ルートNo. 1 0 5の終点を起点として尾根沿いに標高810.0mの三角点を經由し、これより左折して西方に延びる尾根沿いに進むルート(春日村々内)。

起点～1km間は粘板岩、チャートの露頭が点在し、久瀬ユニットの泥質混在岩(Zm)分布域である。1～2.8km間は尾根沿いで殆ど露頭ないが一部に砂岩露頭を認める。この部分は那比・上麻生・金山ユニットの砂岩(Ns)分布域に相当する。2.8kmから終点までのうち3.7～4.2km間は露頭なく、地質図より判断して同ユニットの砂岩(Ns)分布域である可能性であるが、残りはいずれも同ユニットのチャート(Nc)分布域と判断される。

放射線量値は起点～1km間では粘板岩露頭で一部64nGy/hに達する部分もあるが、大半は60nGy/h以下で平均40～54nGy/h程度である。チャート部分では42nGy/hと下向きのピークを示す。1～2.8km間は60nGy/hを中心として50～70nGy/hの範囲で変動している。2.8km～終点間のうちチャート部分は40～42nGy/hを中心に36～50nGy/hの範囲の低い値を示す。

(110) No. 1 1 0

ルートNo. 1 0 9の標高810.0mの三角点を起点として北方へ尾根伝いに延びるルート

起点～2.8km間は砂岩(一部チャート)の露頭が点在する。那比・上麻生・金山ユニットの砂岩(Ns)分布域にあたと判断される。2.8～3.2km間はチャート(Nc)の分布域である。ここでルートが一旦切れて北東方向へ枝分かれした尾根沿いの

ルートとなる。この部分は砂岩(Ns)分布域である。

放射線量値は50nGy/h を境として50～79nGy/h 間で変動する部分と40～50nGy/h の部分に分けられる。前者のピークは砂岩露頭部分にあたり、後者はチャート分布域にあたるとみられる。

(111) No.1 1 1

ルートNo.1 0 5の終点手前300m付近を起点として東～東南東方向へ延びる極めて短いルート。(揖斐郡春日村～不破郡垂井町境)。

粘板岩、砂岩粘板岩互層の露頭が断続する。久瀬ユニットの泥質混在岩(Zm)分布域である。

放射線量値は50～65nGy/h の範囲で変動している。

(112) No.1 1 2 (1/5万『大垣』図幅～『谷汲』図幅)

揖斐郡揖斐川町下新町を起点として小野坂トンネルを通り、揖斐郡谷汲村西村～深根～肥田～末福(すえさき)～下名礼～新田(これより西折)～岩坂を經由して木曾屋に至るルート。

起点～1.2km 間は揖斐川本流へ向かった沖積平野の縁辺部、1.2km あたりから小野坂トンネルまでは砂岩露頭が認められる。小野坂トンネル～新田(6.3km)間は道路東側に田圃が続く。4.1～4.3km 間は粘板岩露頭が断続し、6.2km 付近にチャート露頭を認める。地質図から判断して1.2～2.7km 間には久瀬ユニットの泥質混在岩(Zm)分布域と判断される。2.7km から衝上断層関係で那比・上麻生・金山ユニットの砂岩(Ns)又は砂岩泥岩互層(Nh)分布域に入る。10.7kmから断層により久瀬ユニットの泥質混在岩(Zm)に属するチャート、粘板岩が分布する。岩坂付近(11.2km)は主にチャート露頭が断続する。那比・上麻生・金山ユニット分布域と判断される。12km付近より谷沿いに畑、田圃が広がる沖積層が分布する。

このルートではルートに近接した露頭が少なく、放射線量値は殆ど60nGy/h 以下で40～50nGy/h の範囲の値が多い。粘板岩、砂岩の露頭部分で60～76nGy/h の範囲のピークを示すところがある。粘板岩露頭でも露頭の規模が小さい場合はピークをなすが放射線量値は60nGy/h 以下である。

(113) No. 1 1 3

ルートNo. 1 1 2の途中、谷汲村新田を起点として管瀬川沿いへ、これより根尾川沿いに右岸を北上、谷汲村岐礼～高科～本巣郡根尾村宇津志～高尾～江浪～水鳥の先の端までのルート。

ルート全コースは那比・上麻生・金山ユニットの各地層の分布域である。起点～河原屋敷まではルート沿いに露頭は認められないが地質図より砂岩泥岩互層(Nh)分布域と推測される。この先、ルートが北折する3～3.1km間にはチャートが露出する。これは(Nc)分布域と判断される。3.1～6.3km間はチャートの小露頭及び砂岩、粘板岩が分布する。これは(Ns)分布域と推測される。9km～終点間はチャート、粘板岩の露頭が断続するが(Nm)分布域を主に、一部(Nc)分布域と判断される。

放射線量値はチャート部分で45～50nGy/h、粘板岩、珪質泥岩の露頭部分では75nGy/hの値を示す。16.5km付近の根尾断層を横切る辺りでは泥質混在岩(Nm)分布域で絶対的には高くないが、67nGy/hの明らかなピークを示す。

(114) No. 1 1 4

ルートNo. 1 1 3の途中、終点より約1.3～1.4km手前、根尾村江浪の先より西方へ小鳥谷を逆上るルート。

起点～2.8km間は粘板岩露頭(一部チャートを含む。)が頻繁に断続する。那比・上麻生・金山ユニットの泥質混在岩(Nm)の分布域である。2.8km前後の衝上断層により、2.8km～終点間はチャート、粘板岩、石灰岩が断続する舟伏山・坂本峠ユニットの泥質混在岩(Fm)、チャート(Fc)、石灰岩(F1)の分布域が広がっている。

放射線量値は、起点～2.8km間の(Fm)分布域では粘板岩部分で62～89nGy/hの範囲の値のピークを形作っている。チャート部分では50～55nGy/hの範囲の値を示す。2.8km～終点間の(Fm)、(Fc)、(F1)分布域では粘板岩は56～75nGy/hの範囲のピークを形成している。チャートは36～38nGy/hの範囲の値を示し、石灰岩は45～52nGy/hの範囲の値を示す。那比・上麻生・金山ユニットの(Nm)、(Nc)に較べ舟伏山・坂本峠ユニットの(Fm)、(Fc)はそれぞれやや低い値を示す。

(115) No. 1 1 5

ルートNo. 1 1 4の途中の谷の分岐点を起点として西北西方向へ延びる谷沿いのルート

ルート全コースが舟伏山・坂本峠ユニットに属する粘板岩(泥質混在岩(Fm))、

緑色岩(玄武岩及び火山砕屑岩(Fb))，チャート(Fc)が分布する。

放射線量値は粘板岩露頭が60～75nGy/h，チャートが42～46nGy/h，緑色岩が35～41nGy/hの範囲の値を示す。

(116) No.116

ルートNo.114の途中，根尾村高尾の南より西方へ延びる高尾谷沿いに逆上り，標高931.8mの三角点に至るルート。

起点～3.1km間は粘板岩，チャートの露頭が点在する那比・上麻生・金山ユニットの泥質混在岩(Nm)の分布域である。3.1km付近を通る衝上断層により3.1km～終点まで舟伏山・坂本峠ユニットの泥質混在岩(Fm)，チャート(Fc)，玄武岩類(Fb)に属する粘板岩，チャート，緑色岩，砂岩粘板岩互層等の露頭が断続する。

放射線量値は起点～3.1km間の那比・上麻生・金山ユニット分布域ではチャートが45～47nGy/hの範囲の値を示し，粘板岩は53～64nGy/hの範囲のピークを形作っている。3.1km～終点間の舟伏山・坂本峠ユニットの分布域では，粘板岩が60～80nGy/h，チャートが37～40nGy/h，緑色岩が36～40nGy/hの範囲の値をそれぞれ示す。

(117) No.117

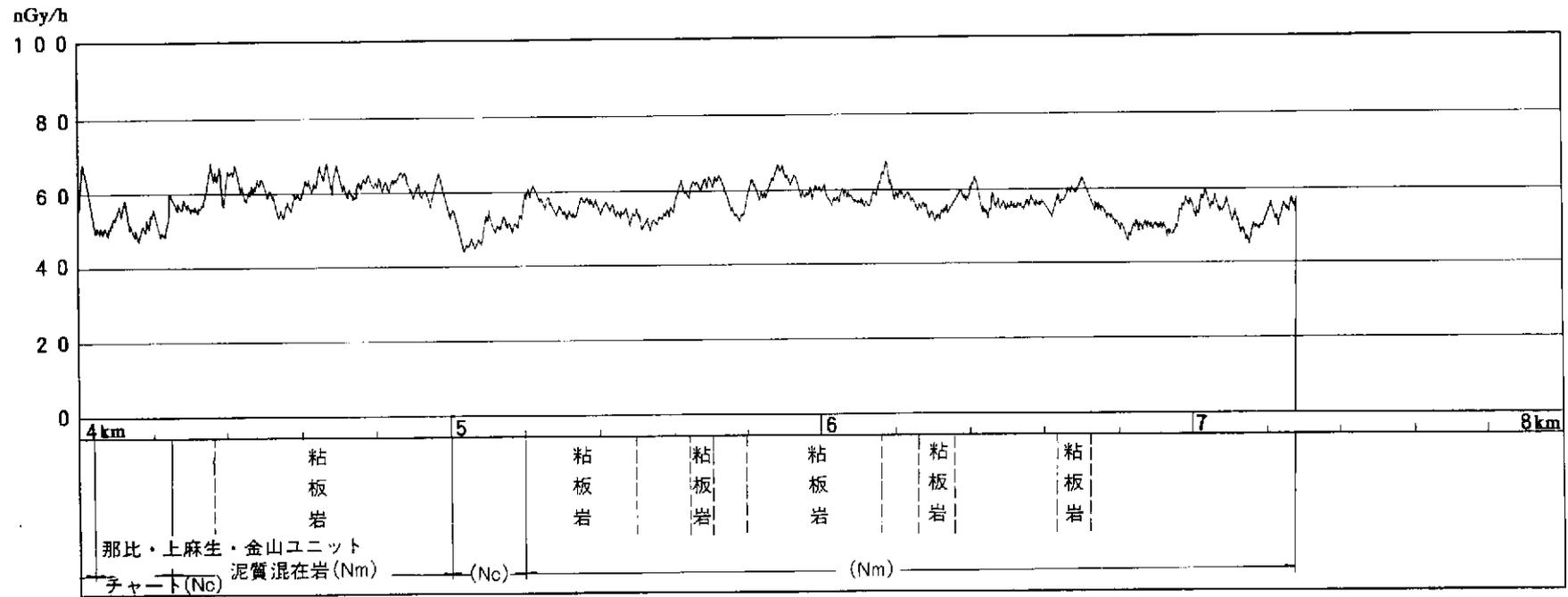
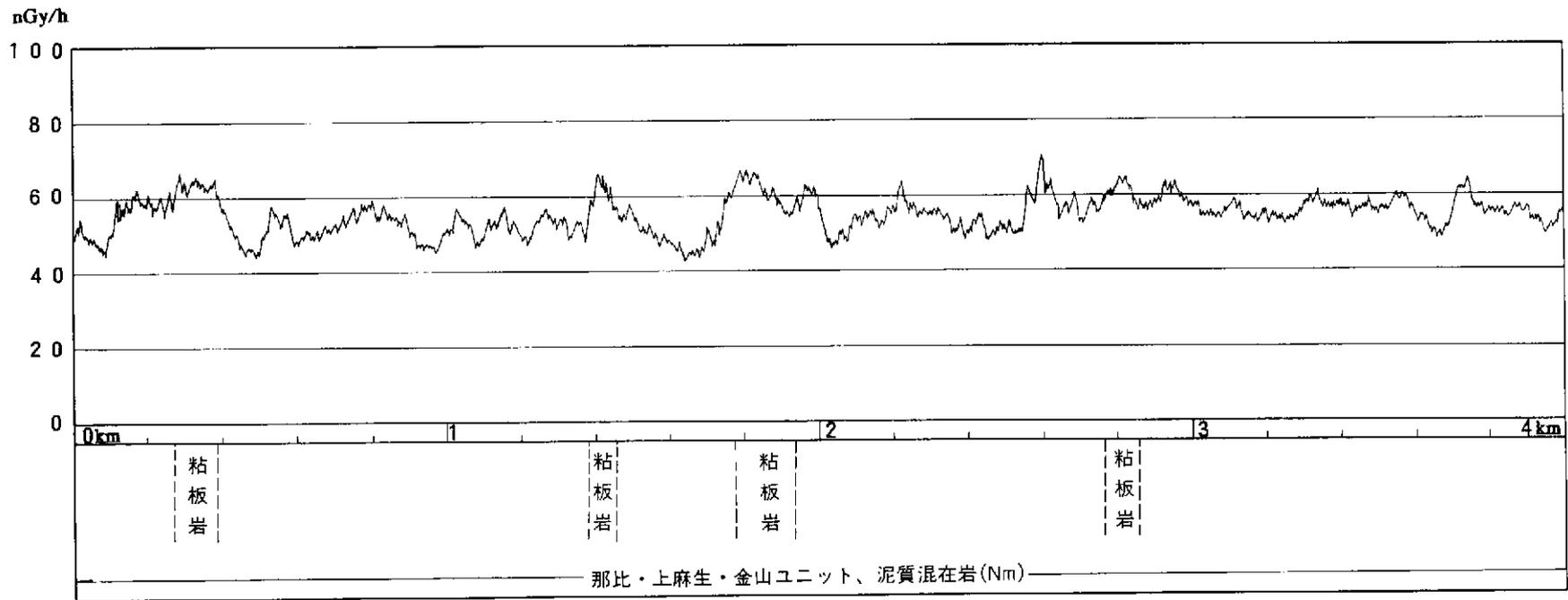
ルートNo.116の途中，おおよそ5.5～5.8kmあたりより分岐して谷汲村～根尾村境沿いの極めて短いルート。

舟伏山・坂本峠ユニットの，質混在岩(Fm)，チャート(Fc)分布域である。

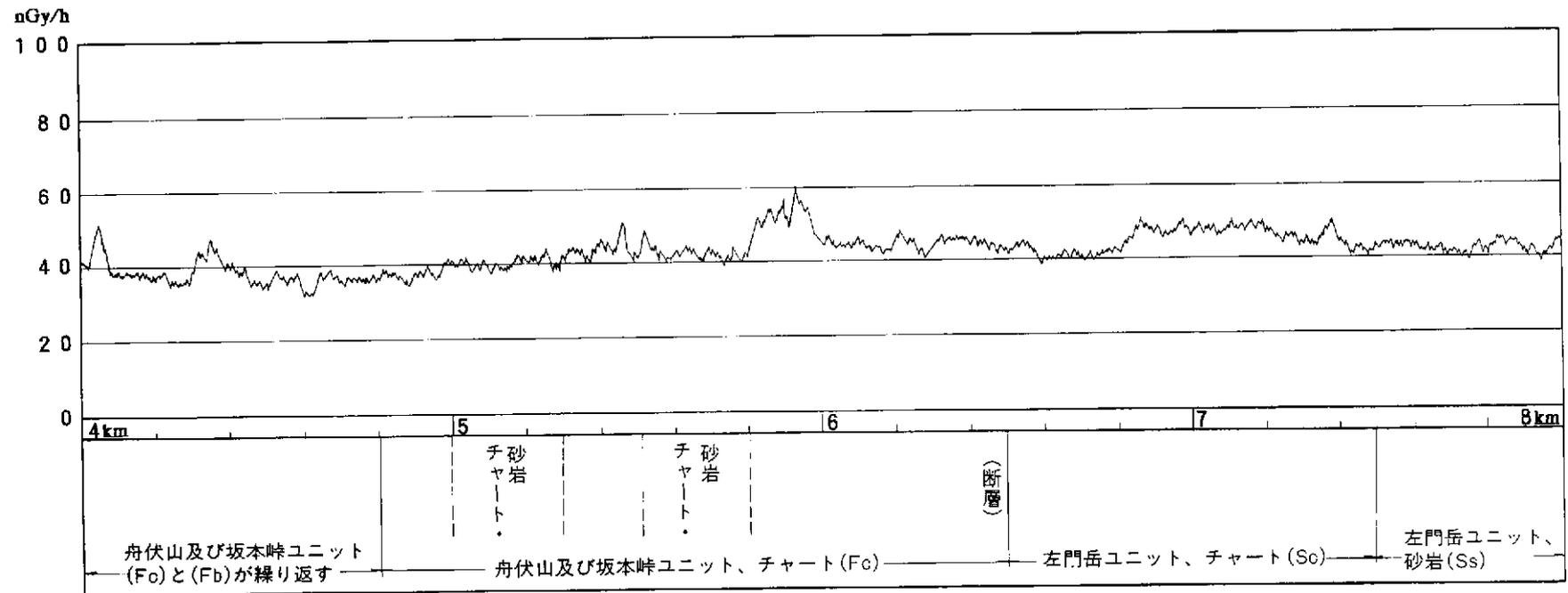
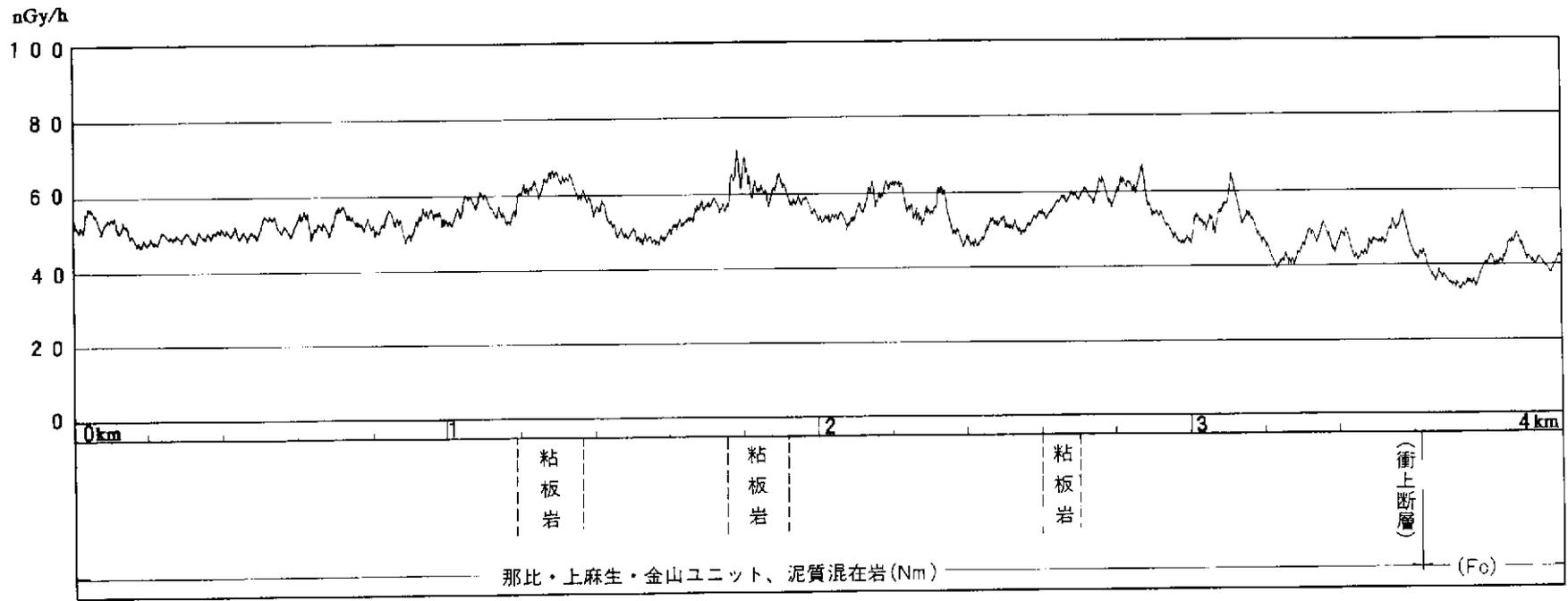
放射線量値の傾向はルートNo.116と同様である。

2) カーボン・チャート
(西濃地域)

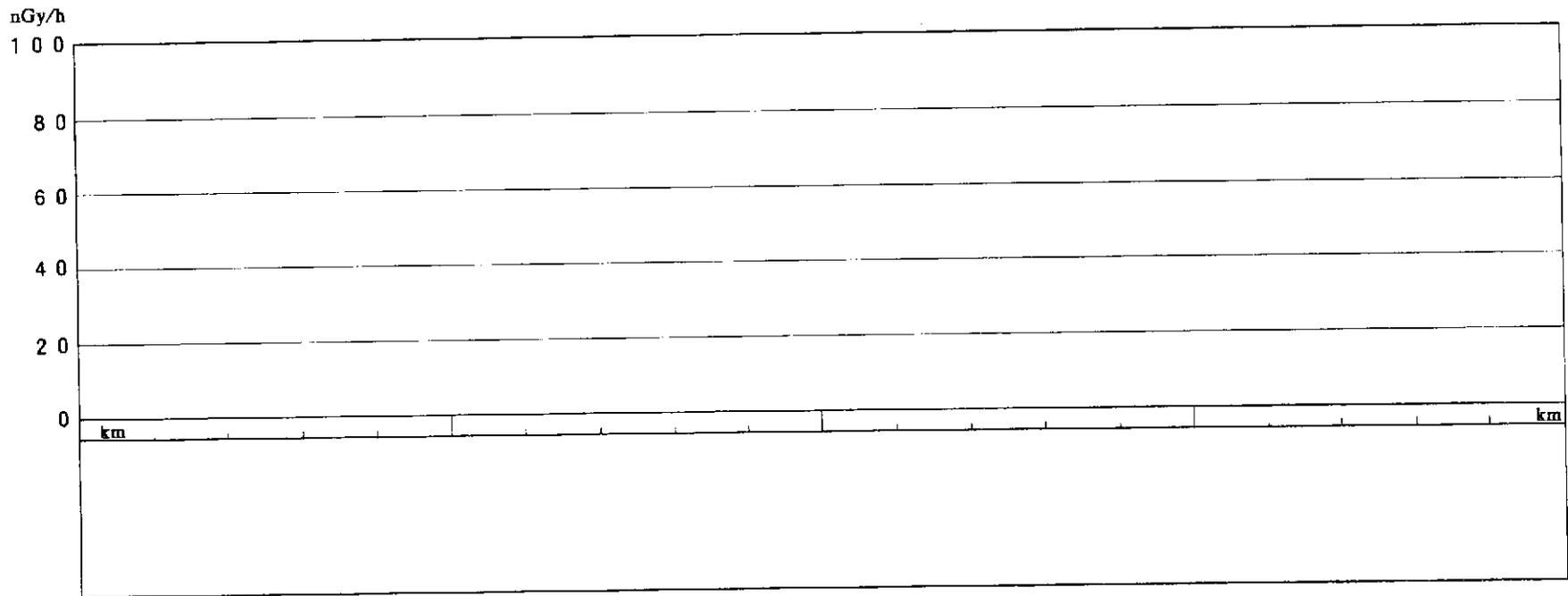
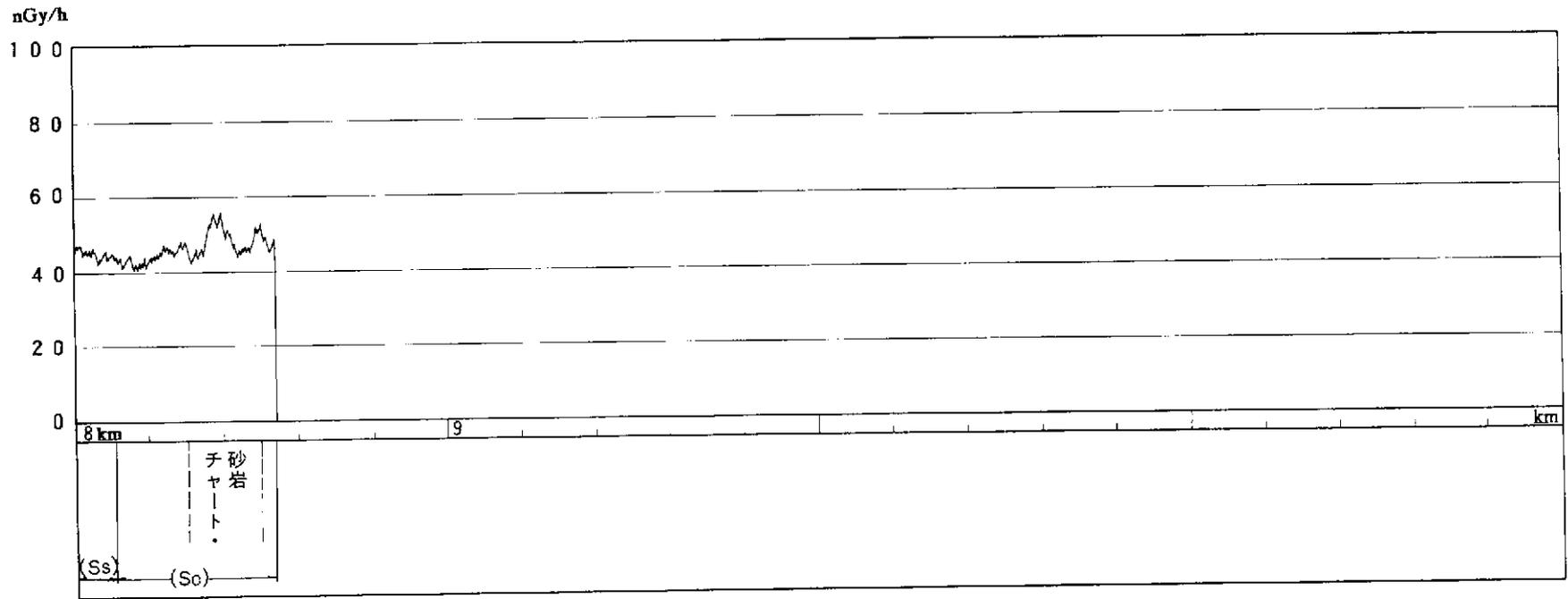
(No. 1 ~ No. 117)



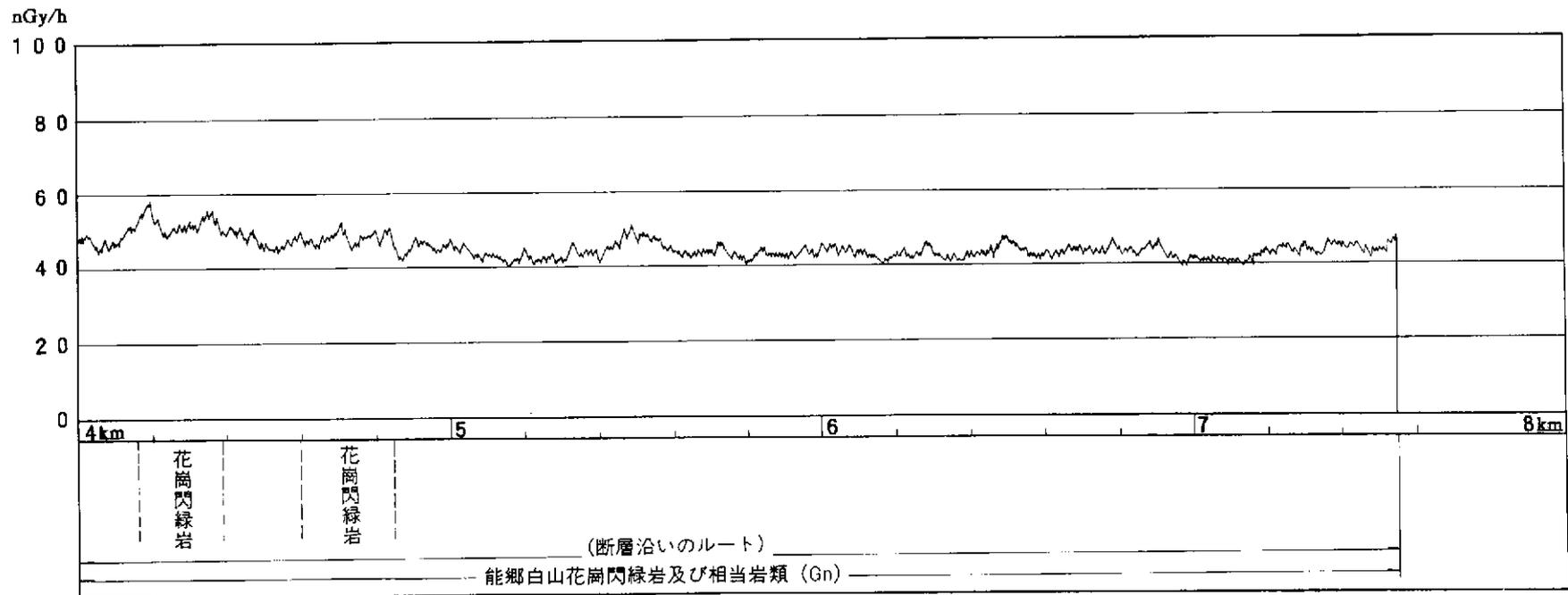
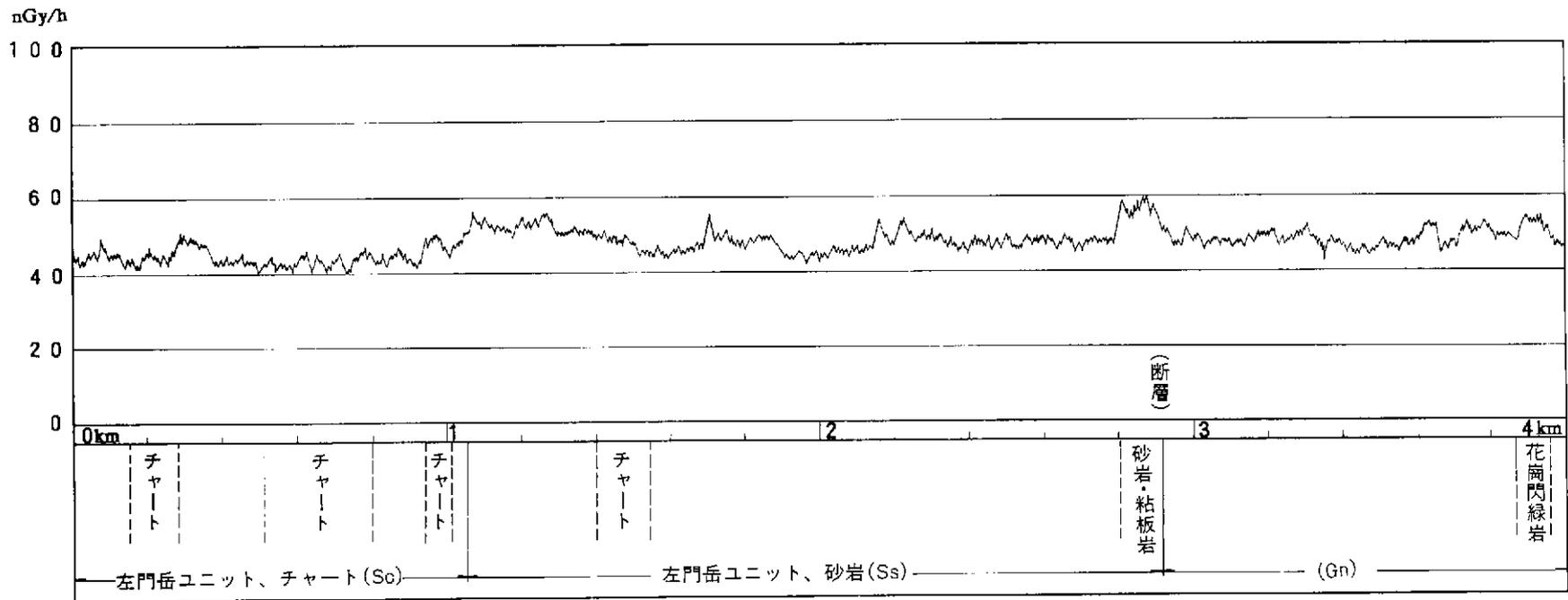
ルート No. 1



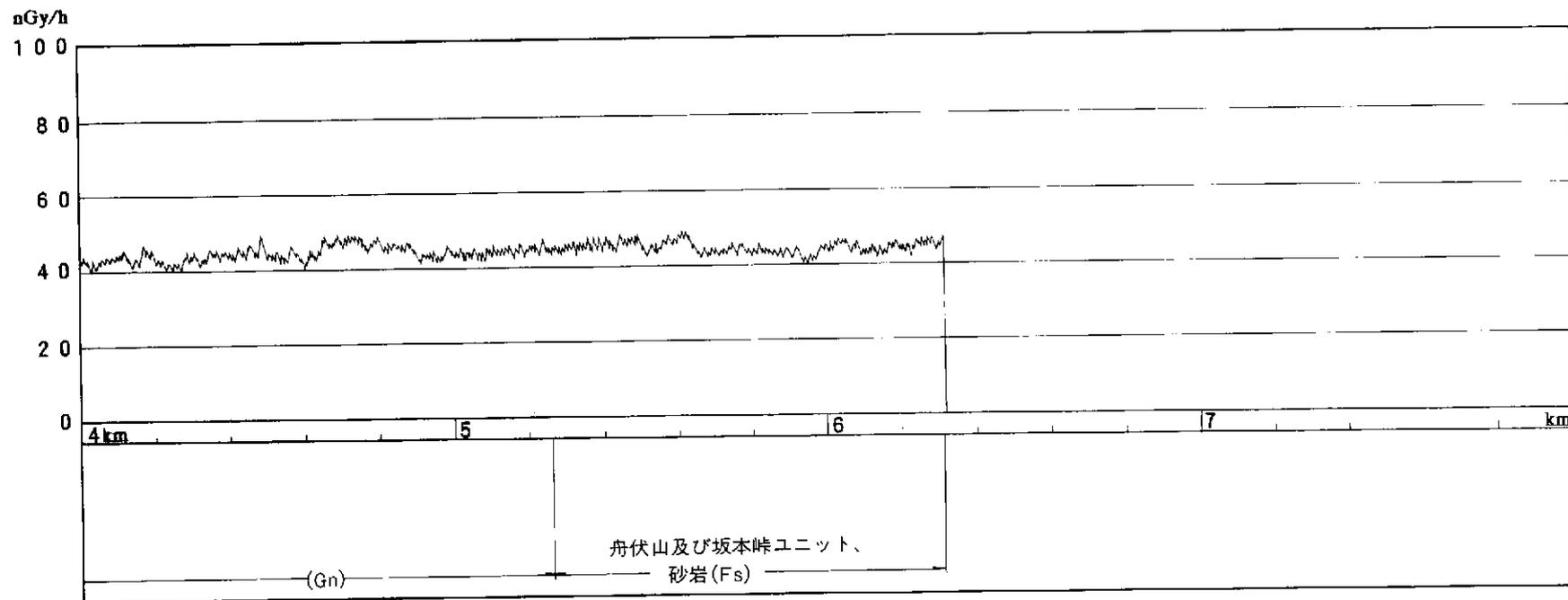
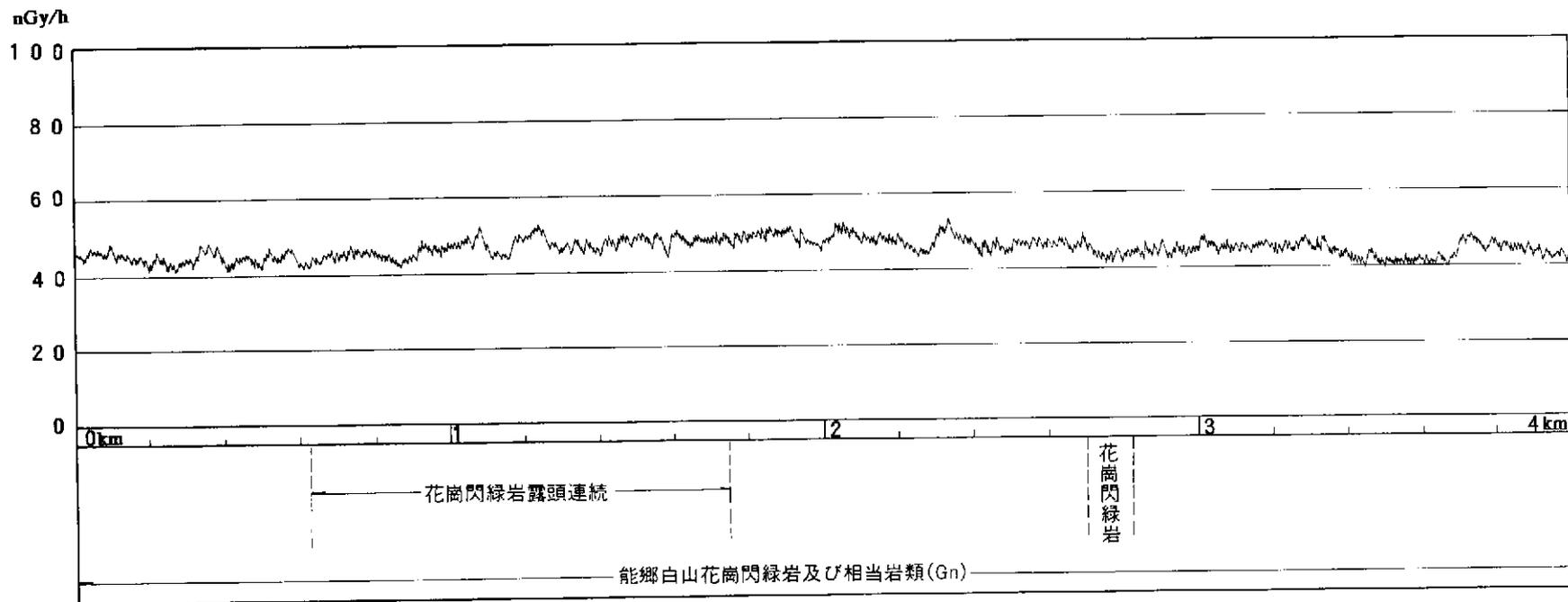
ルートNo.2 (その1)



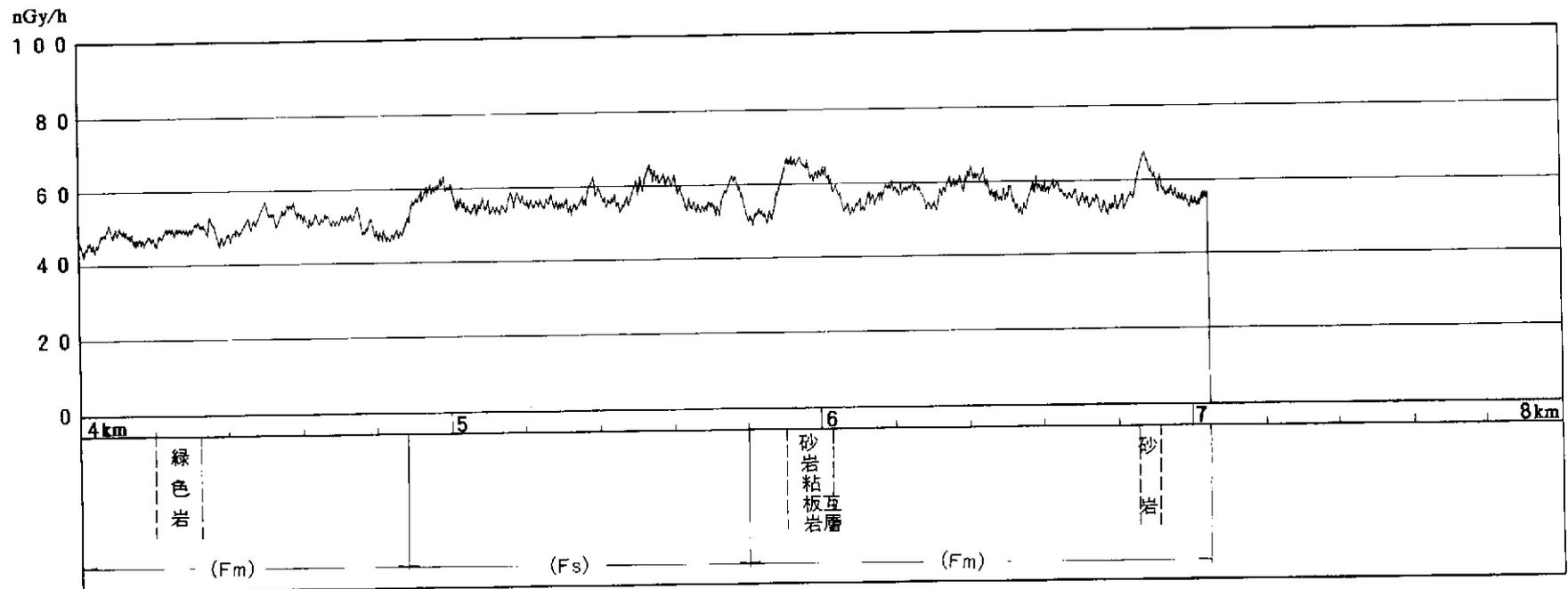
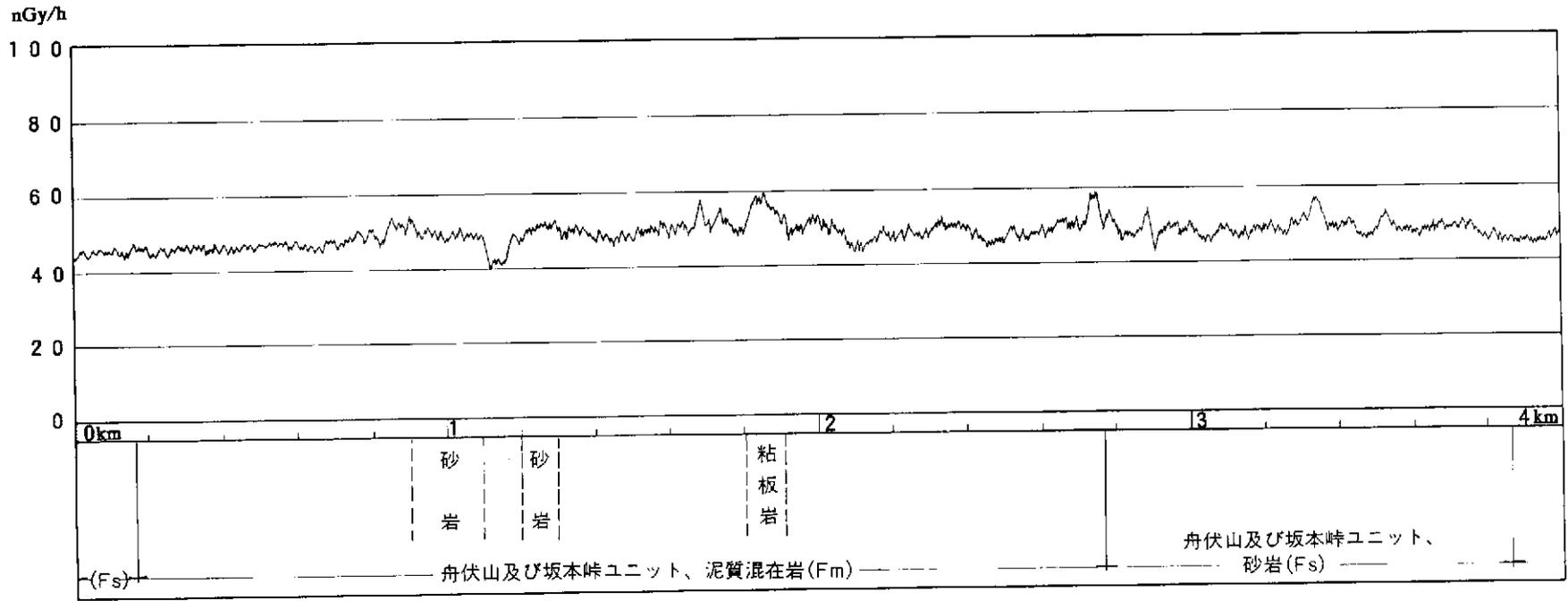
ルートNo.2 (その2)



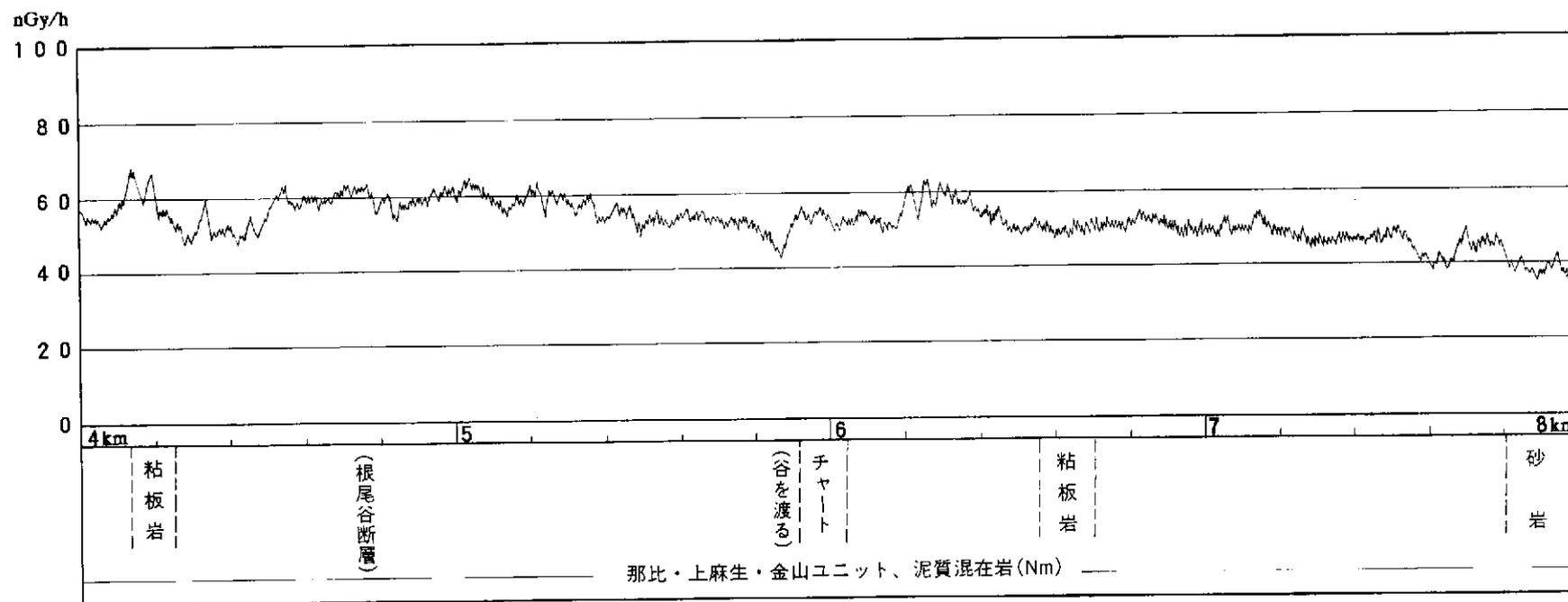
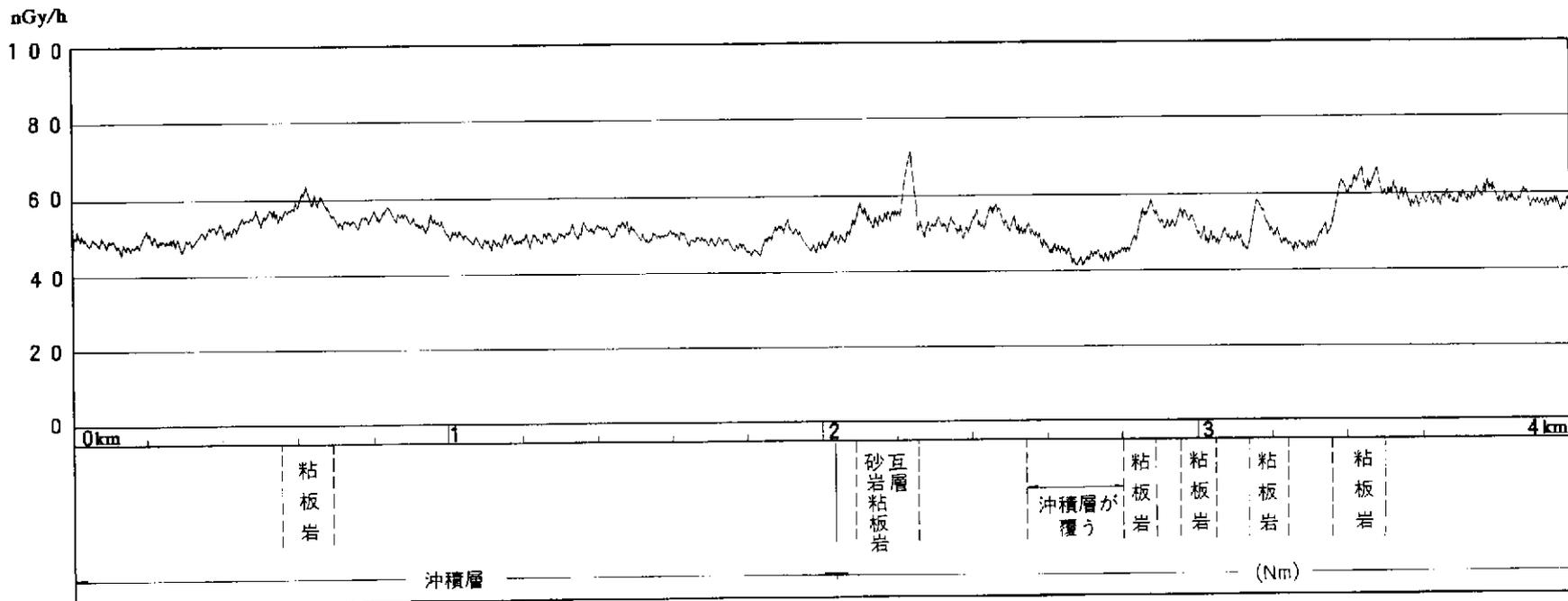
ルート No. 3



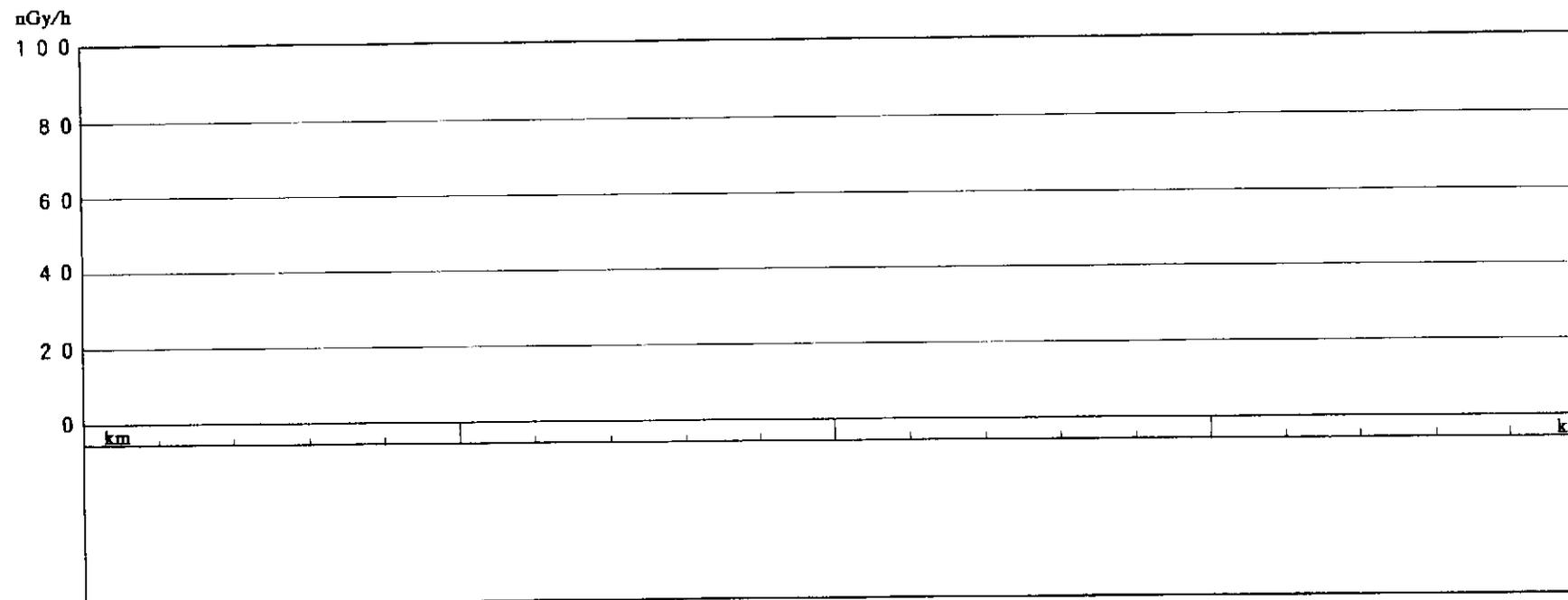
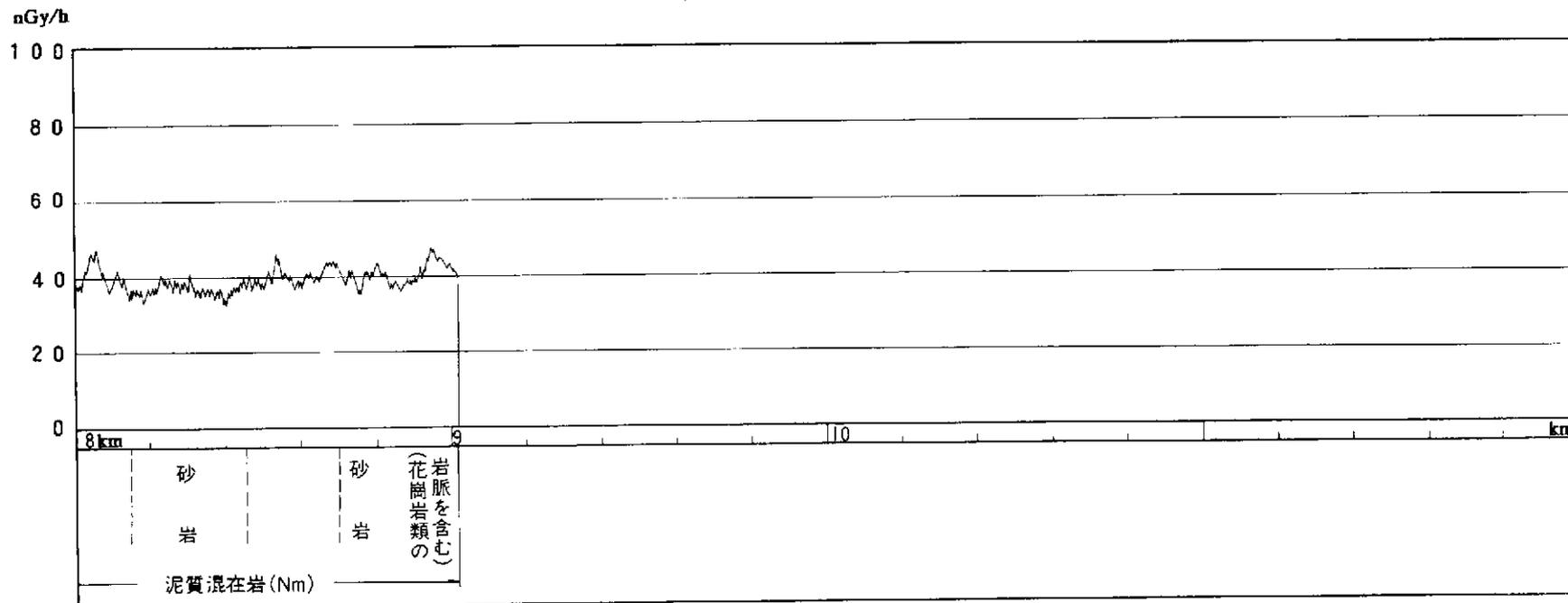
ルートNo.4



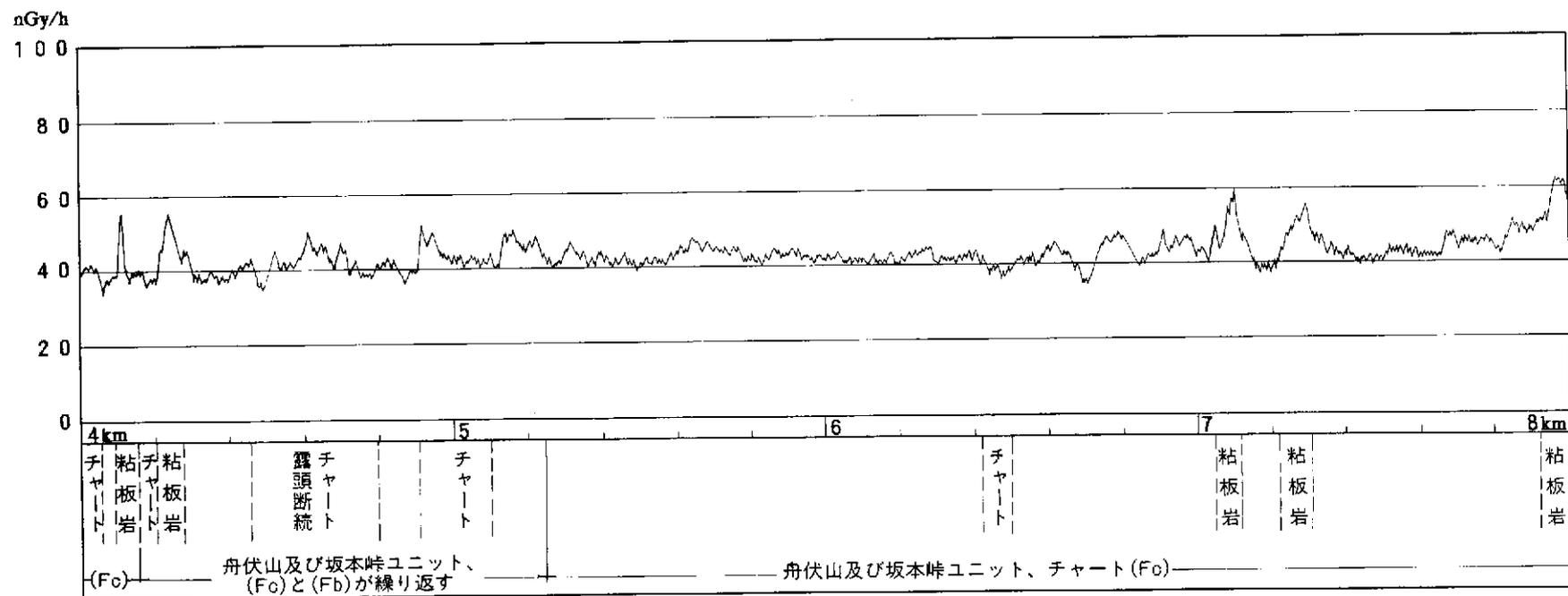
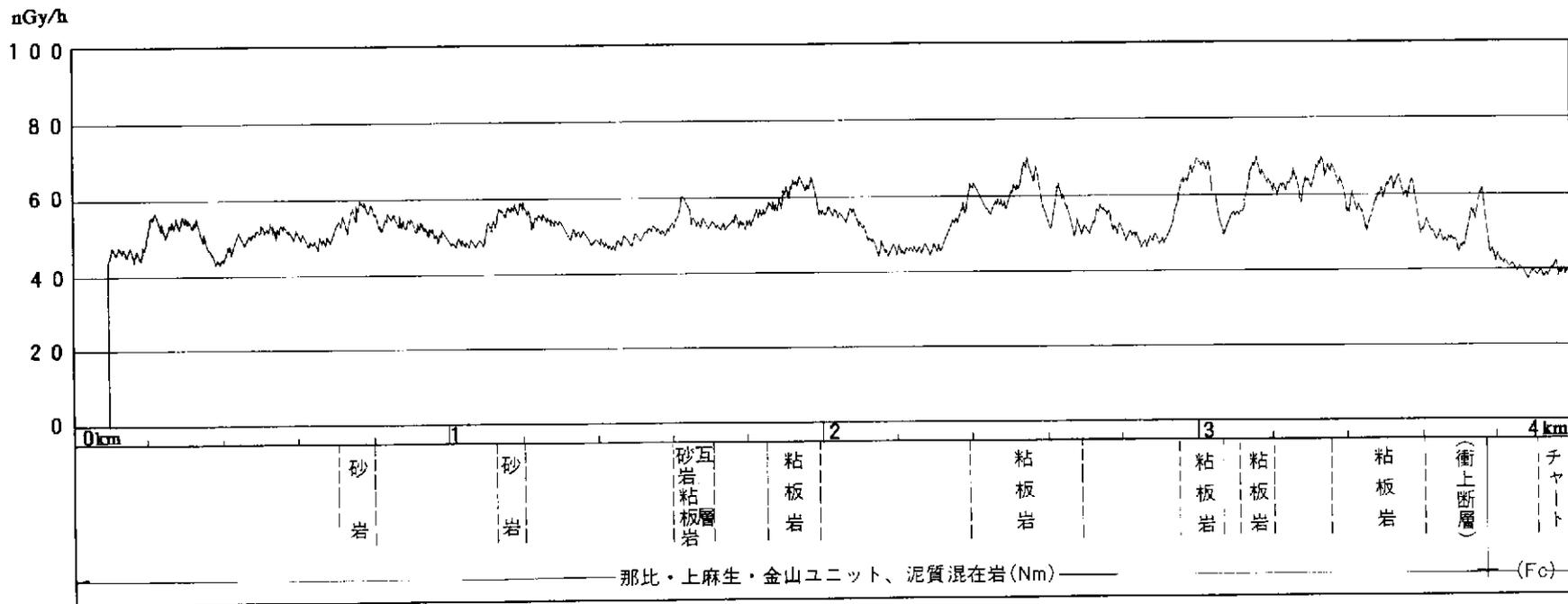
ルート No. 5



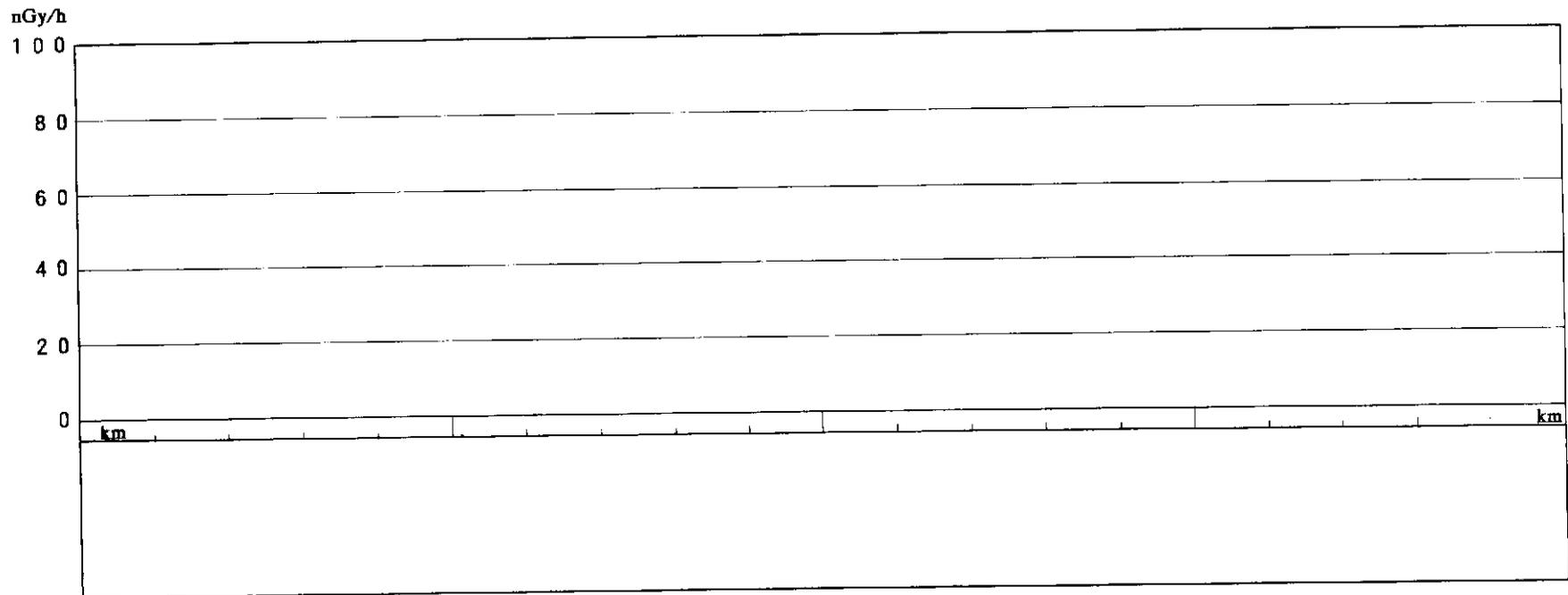
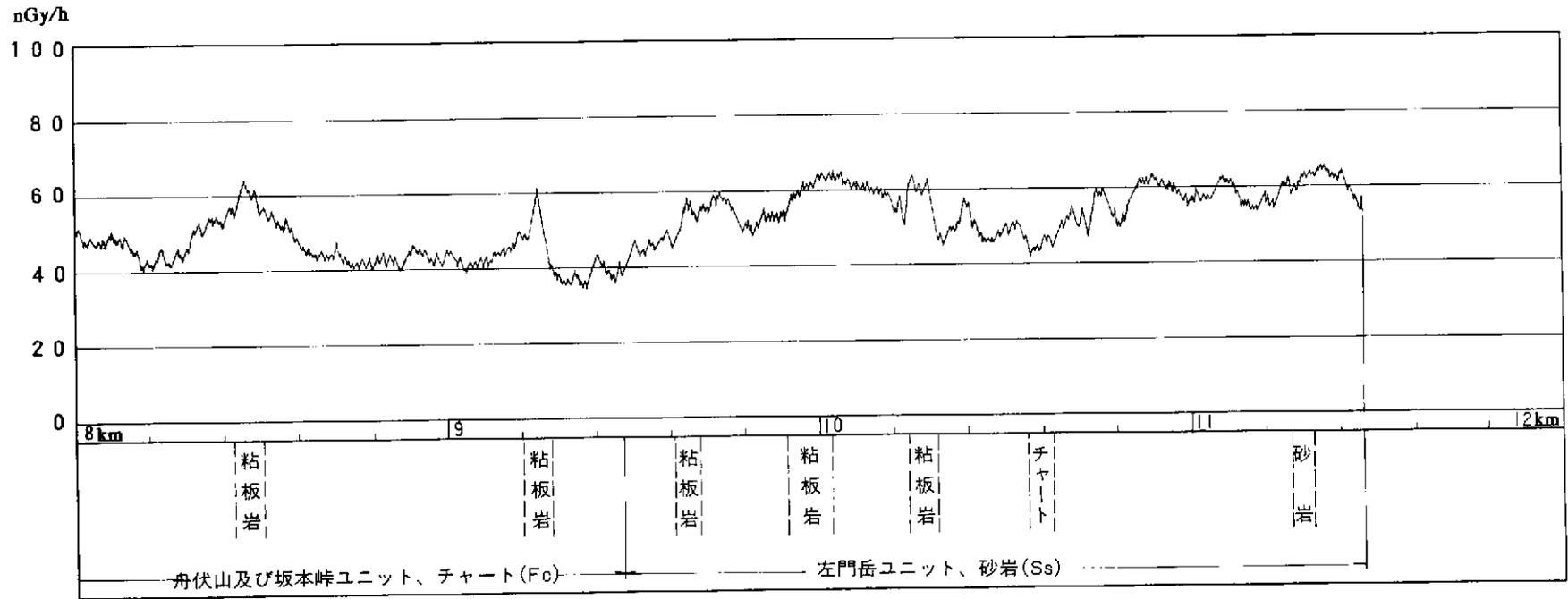
ルートNo.6 (その1)



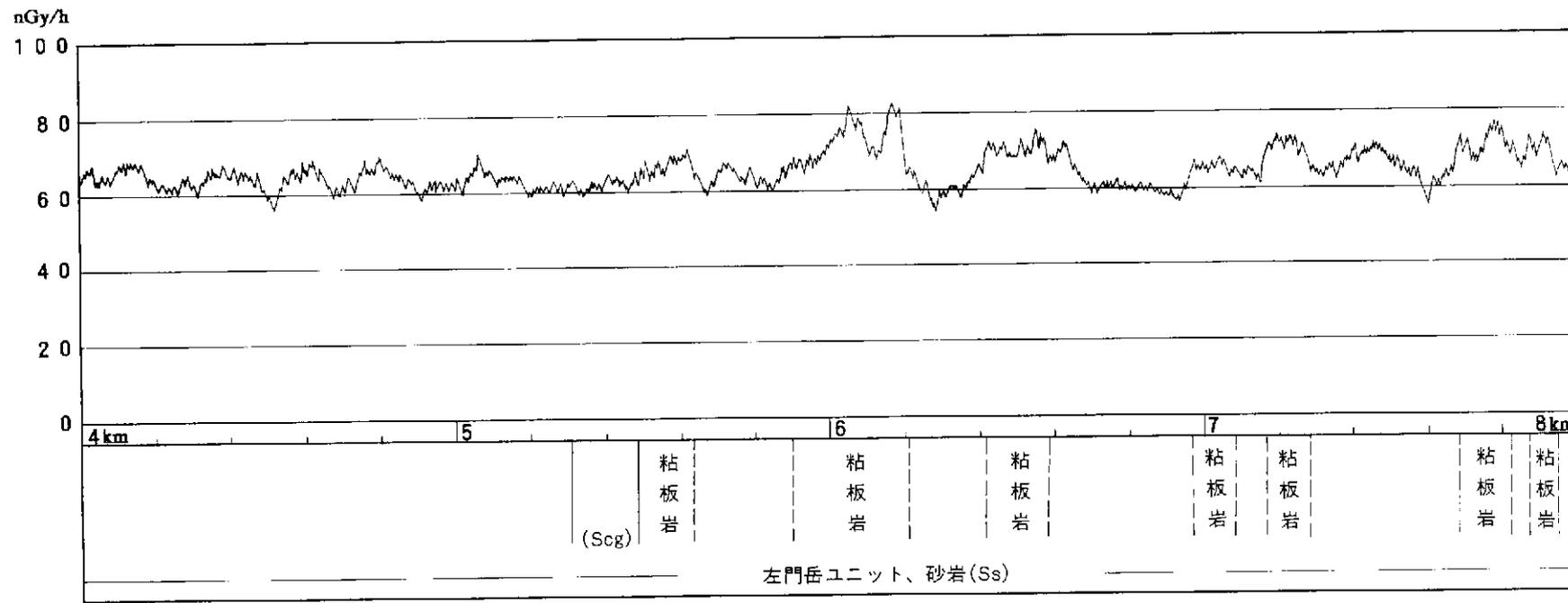
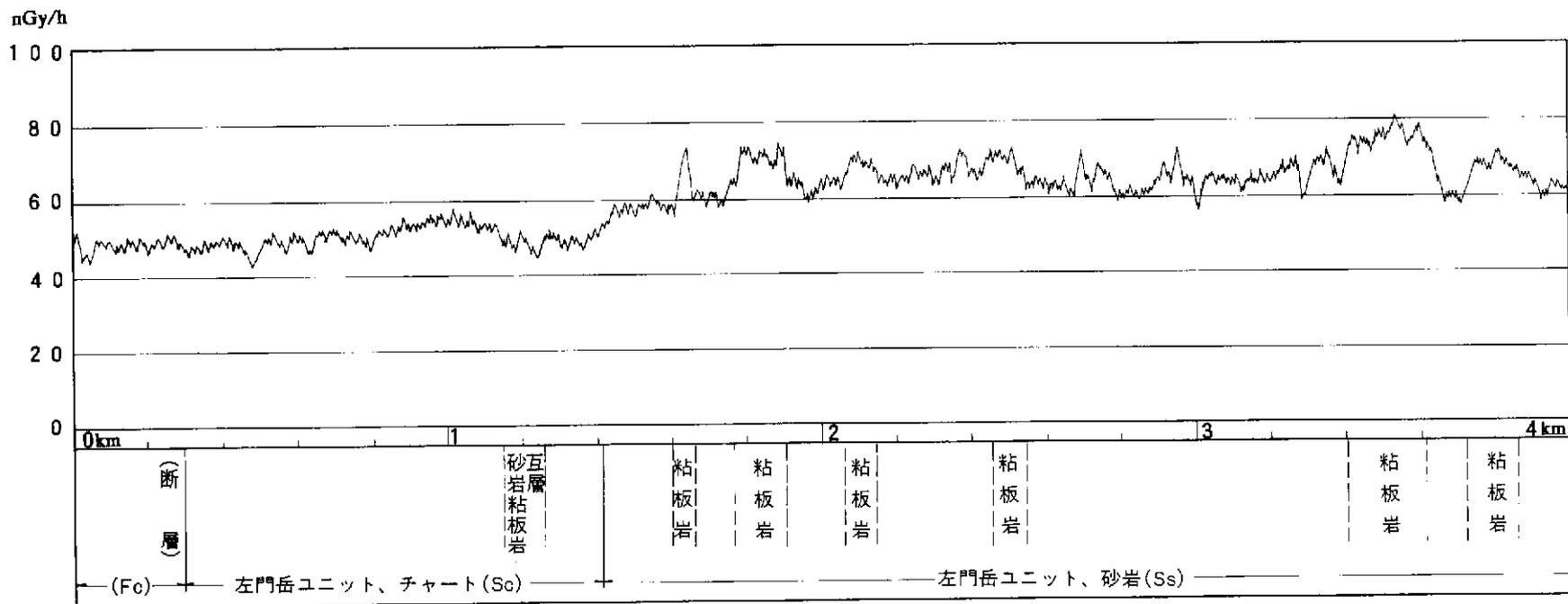
ルート No. 6 (その2)



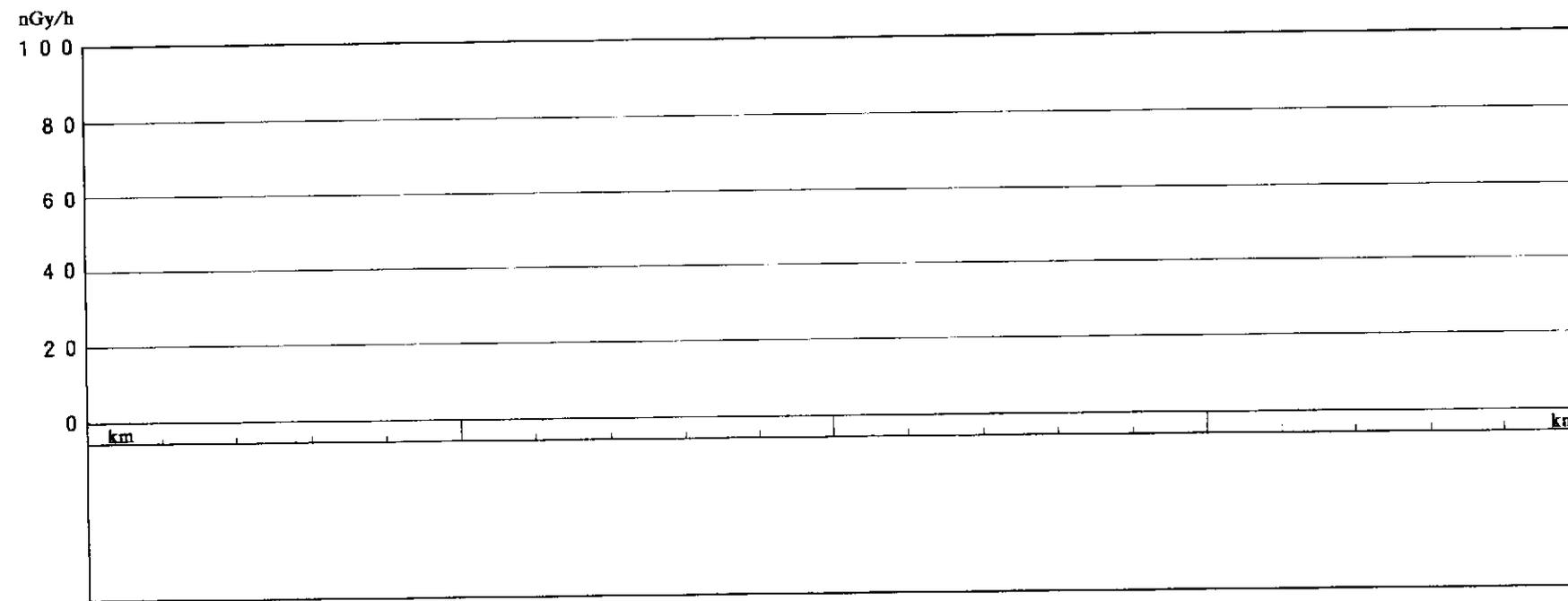
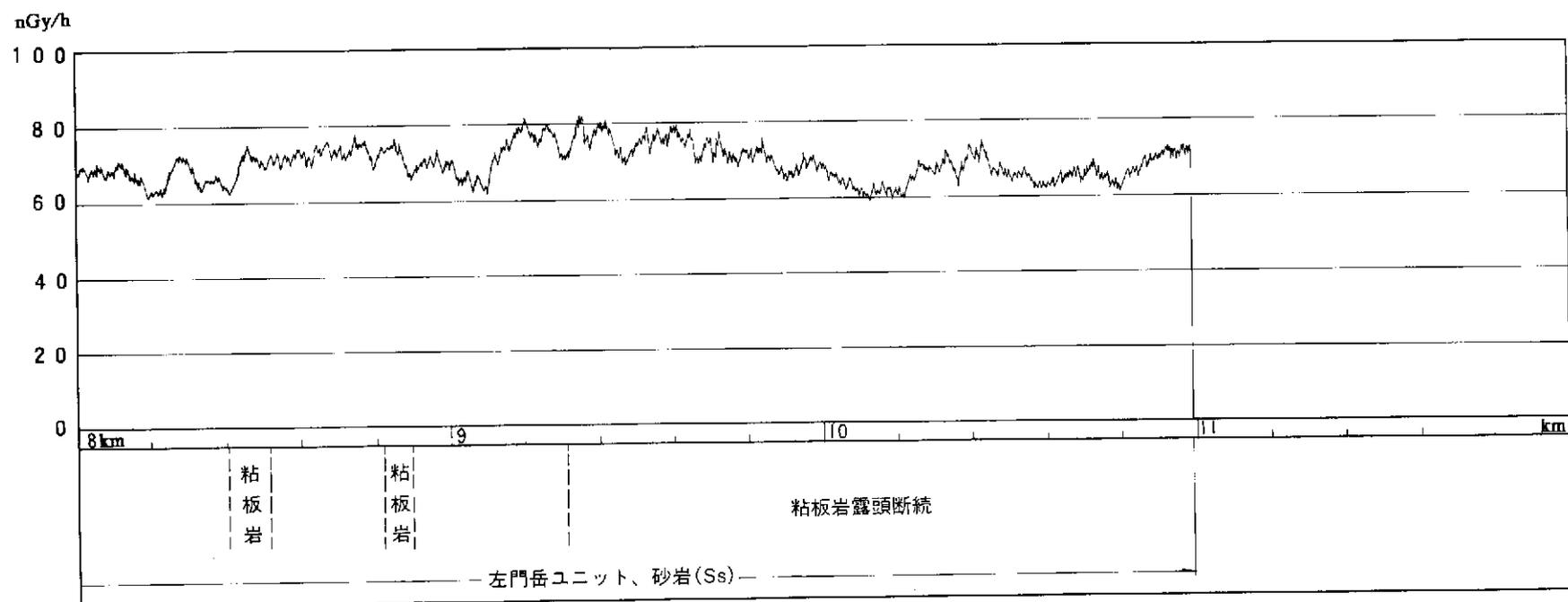
ルートNo.7 (その1)



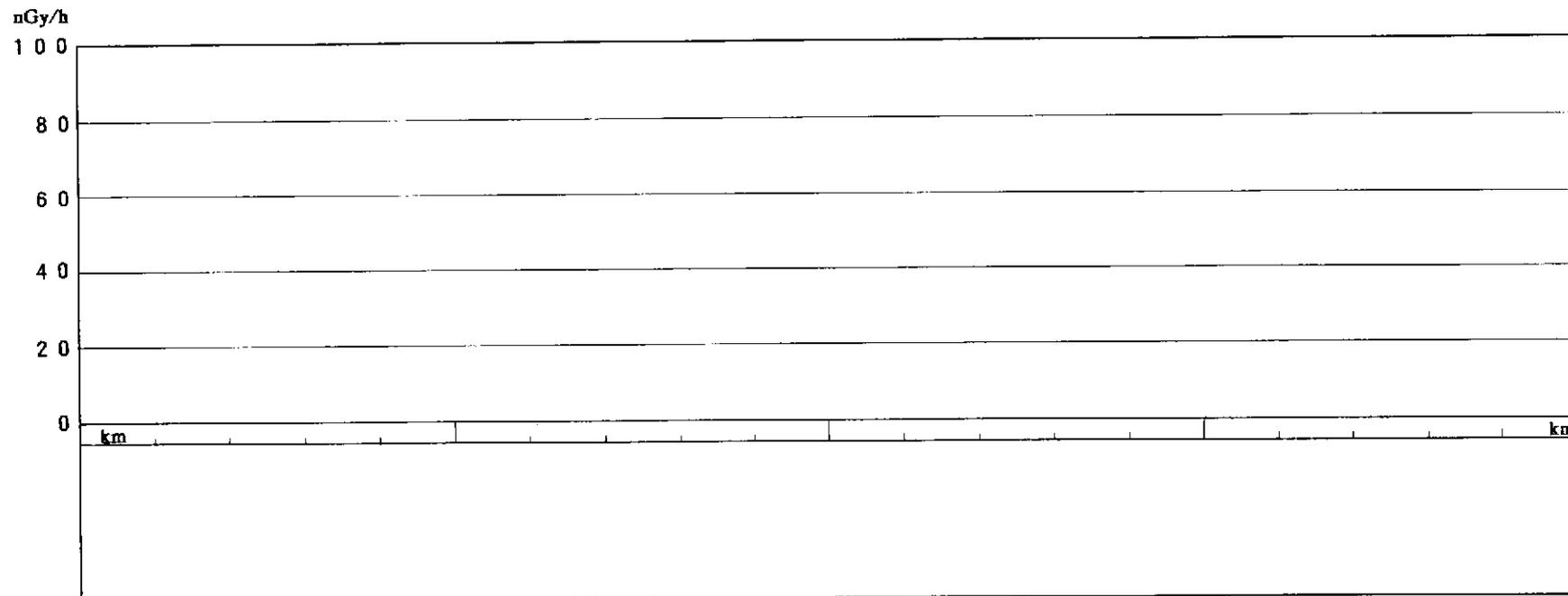
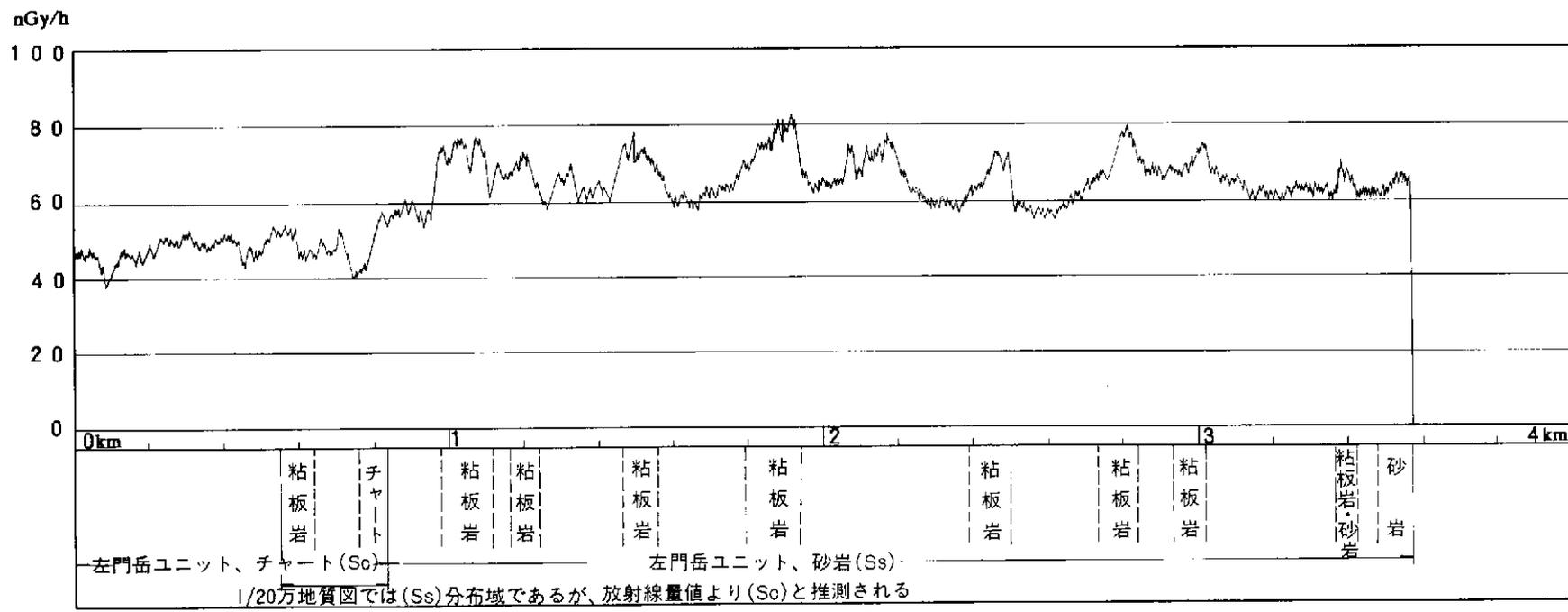
ルートNo.7 (その2)



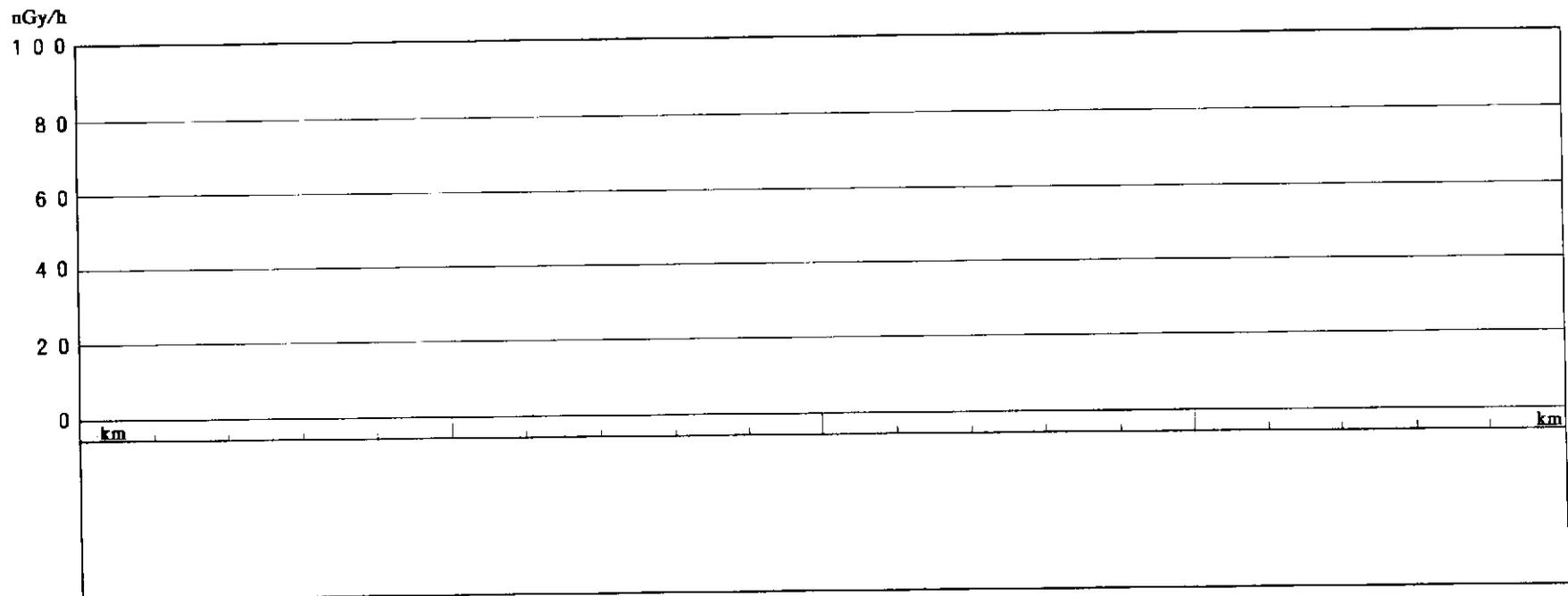
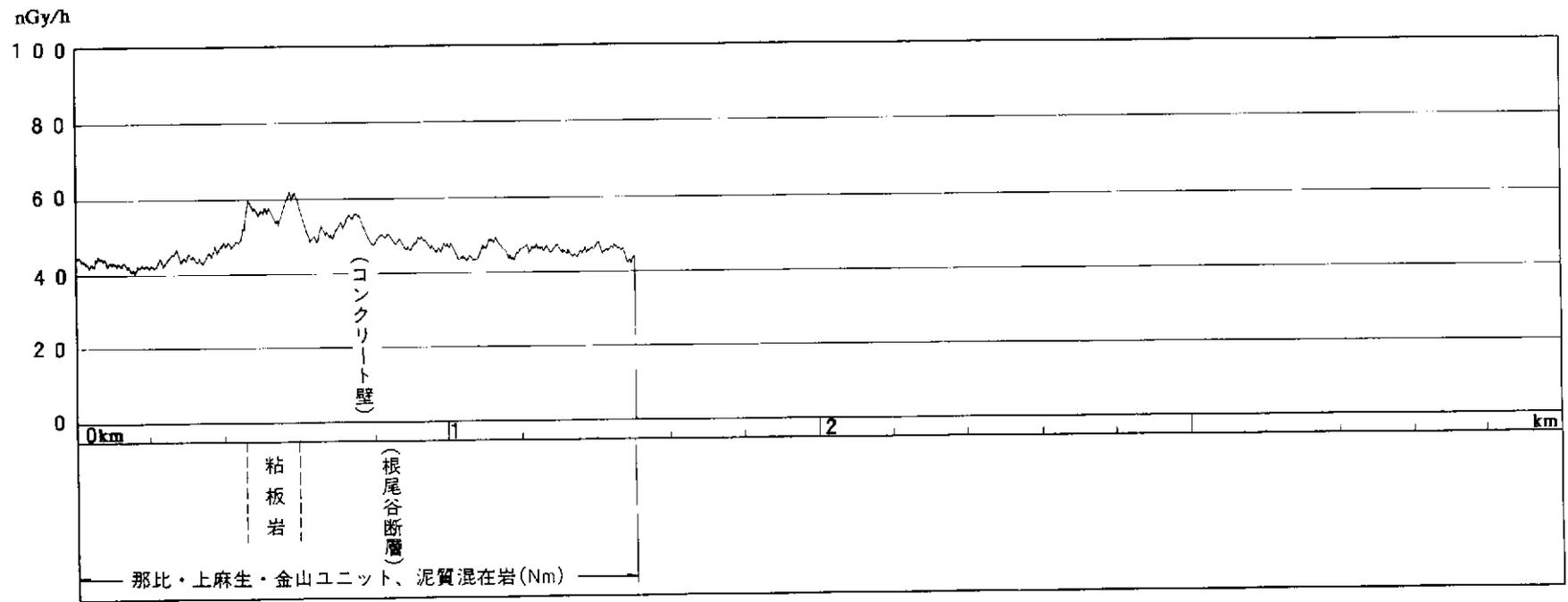
ルート No.8 (その1)



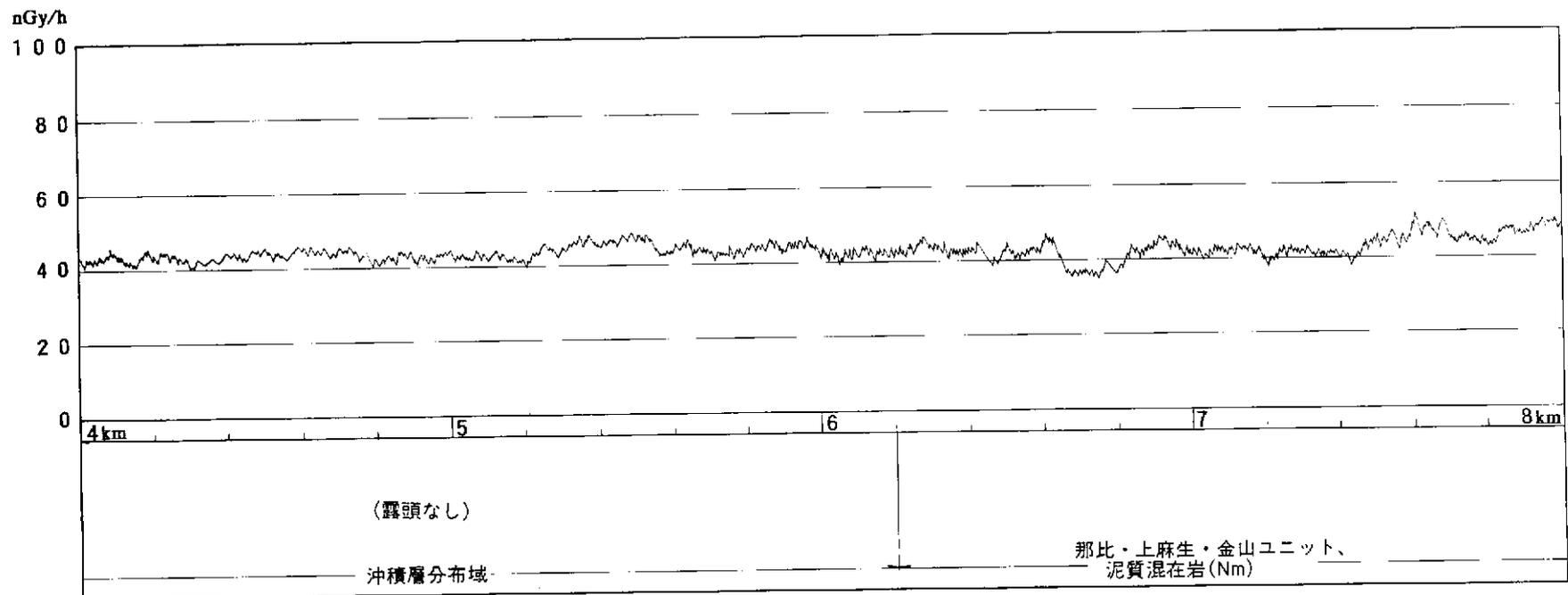
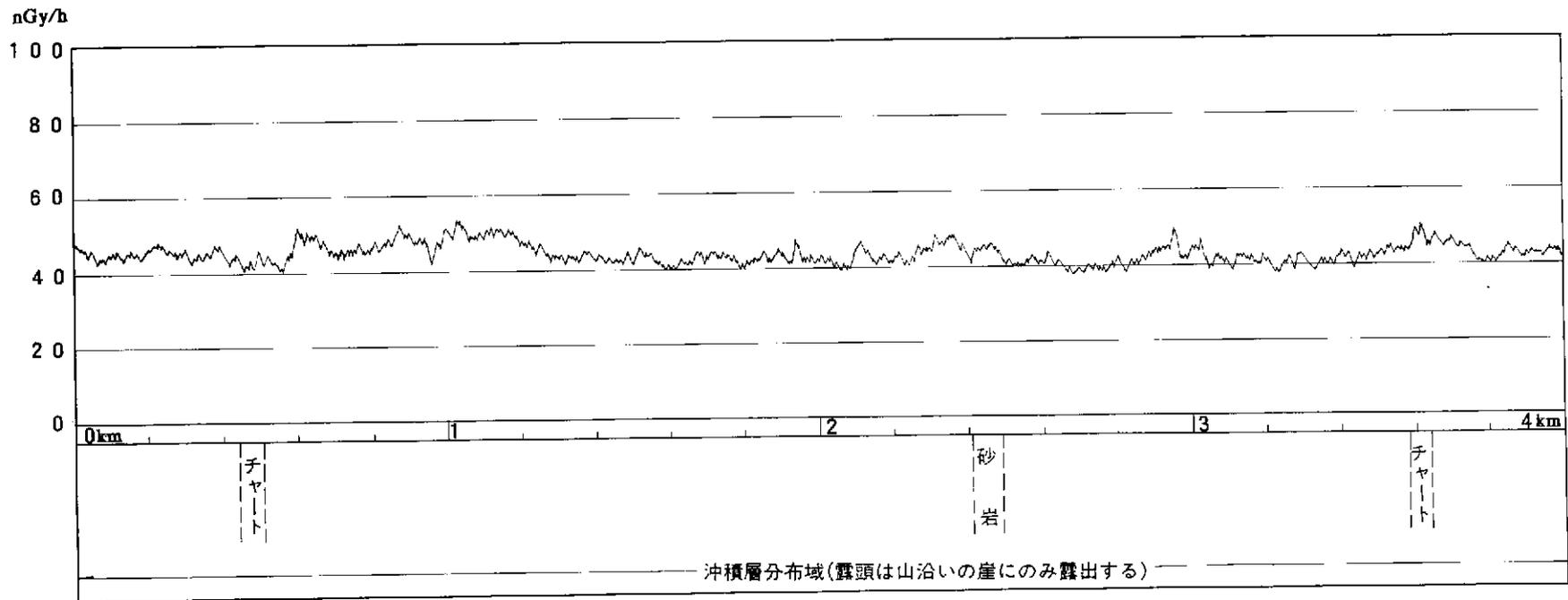
ルートNo.8 (その2)



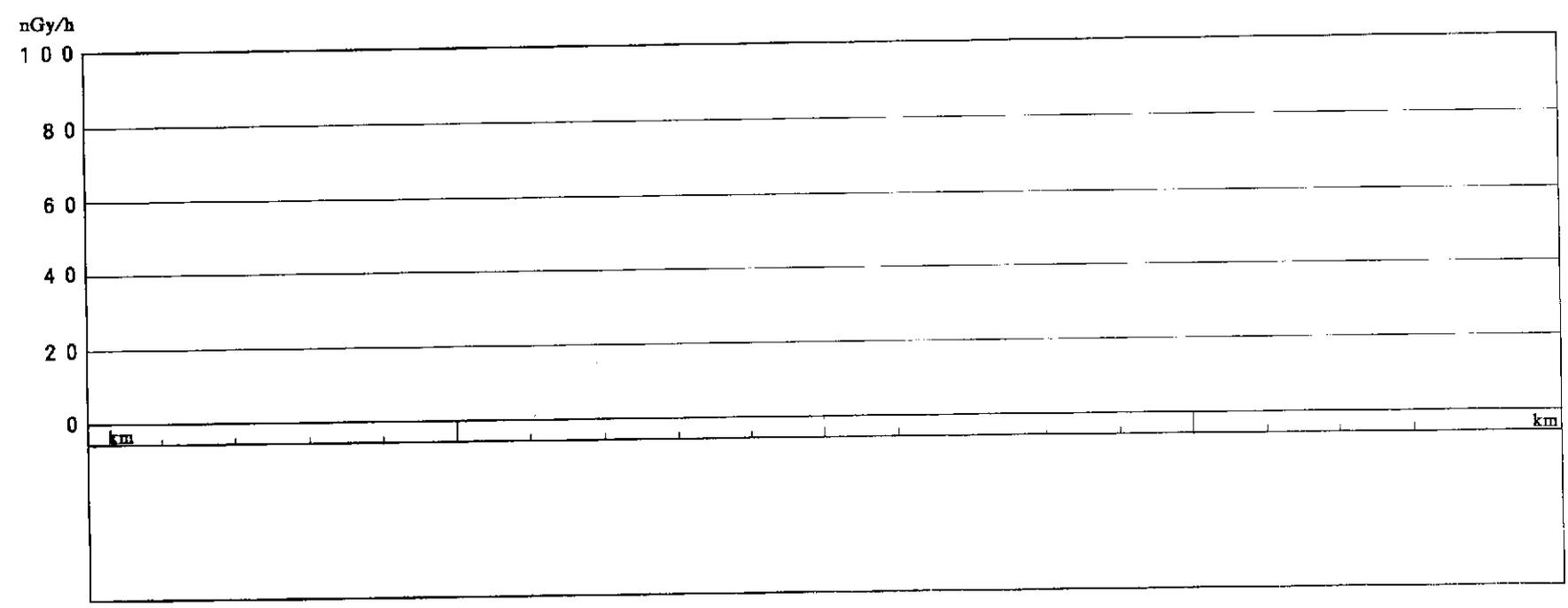
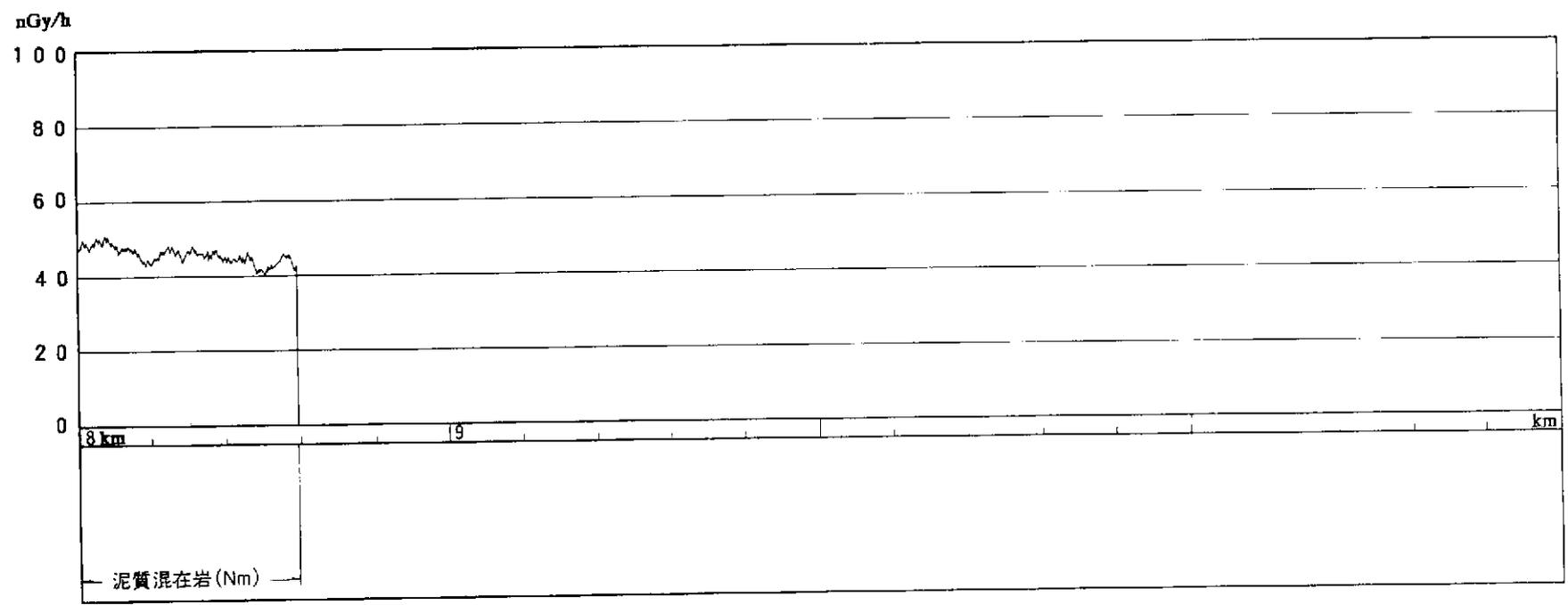
ルートNo.9



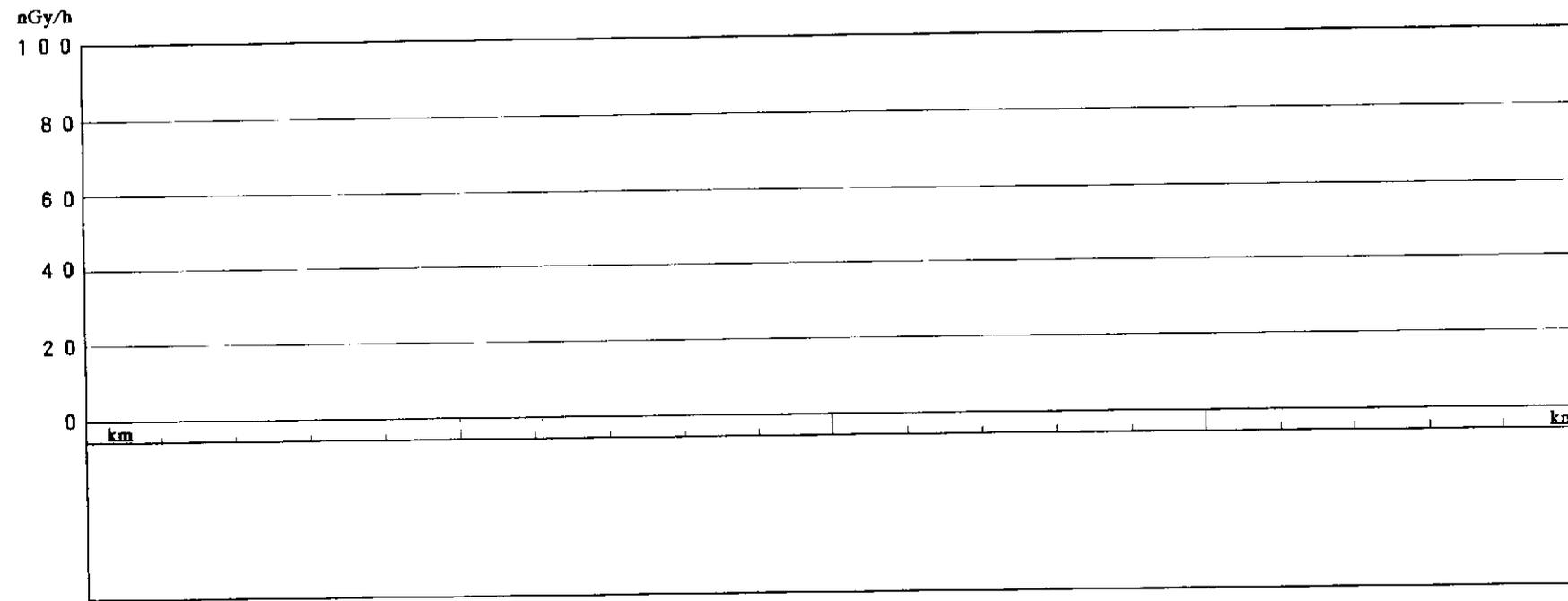
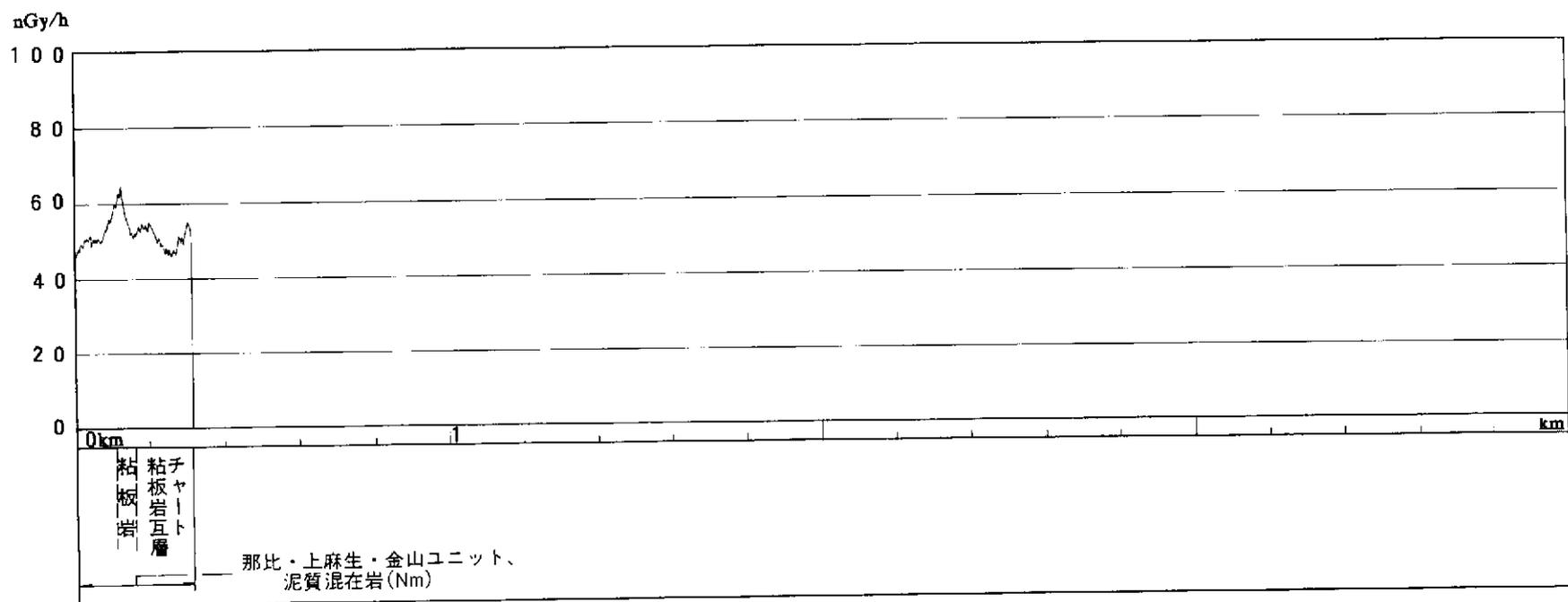
ルートNo.10



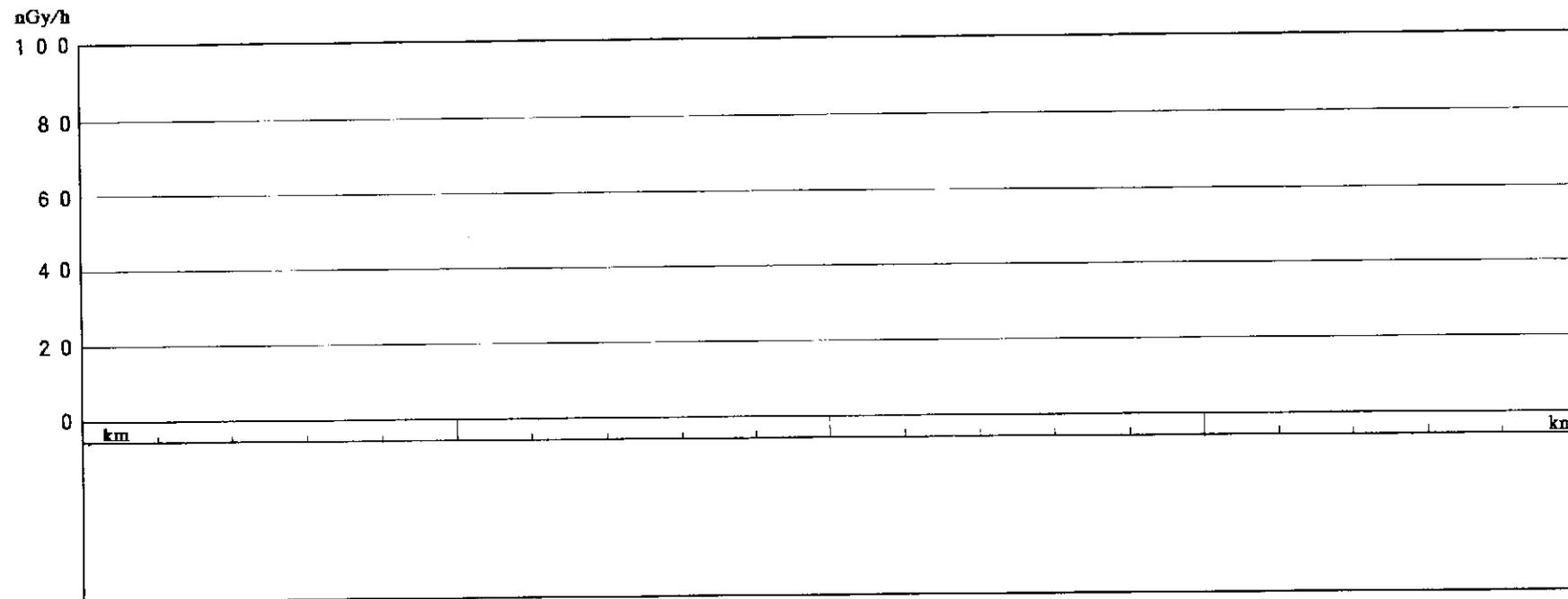
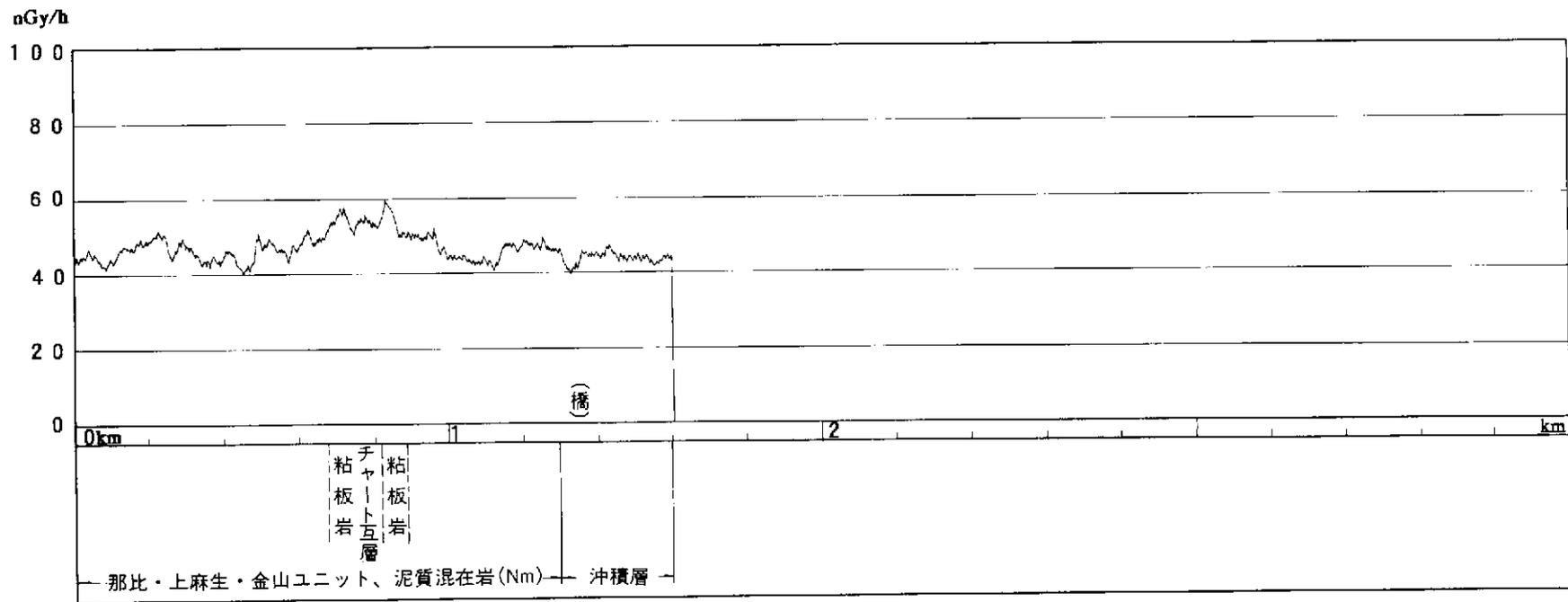
ルートNo.11 (その1)



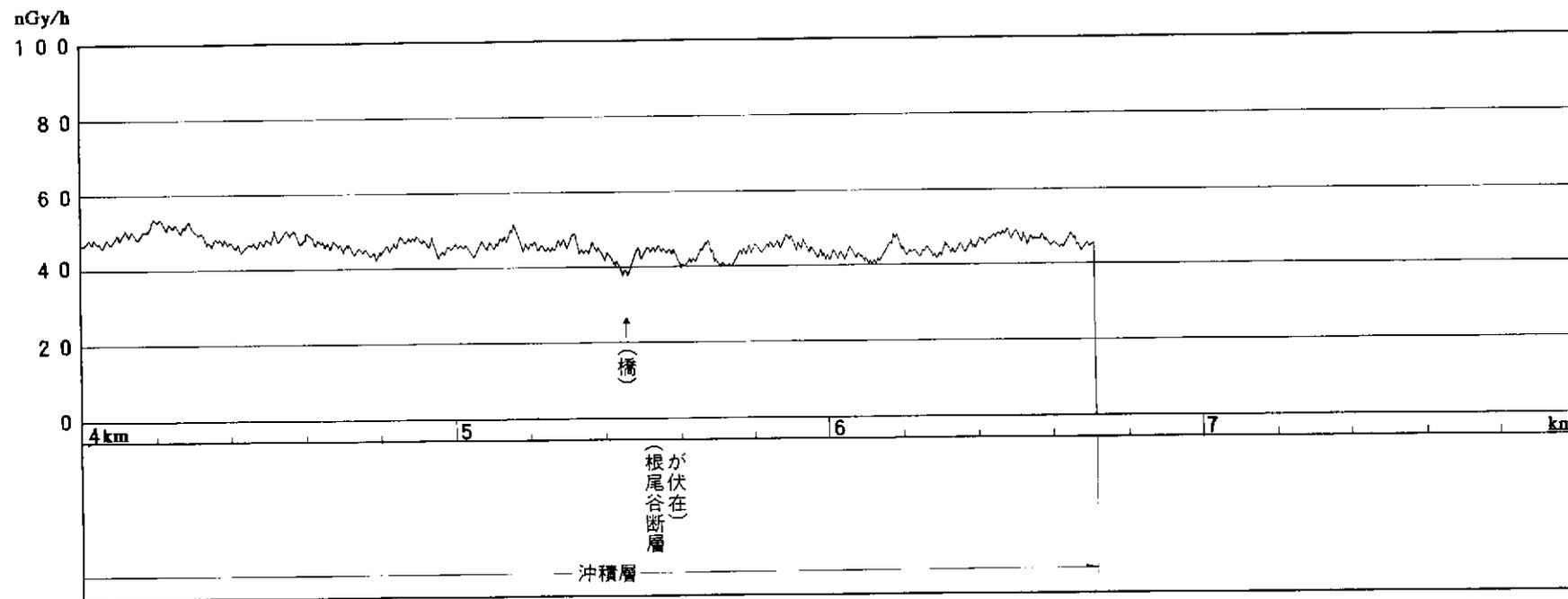
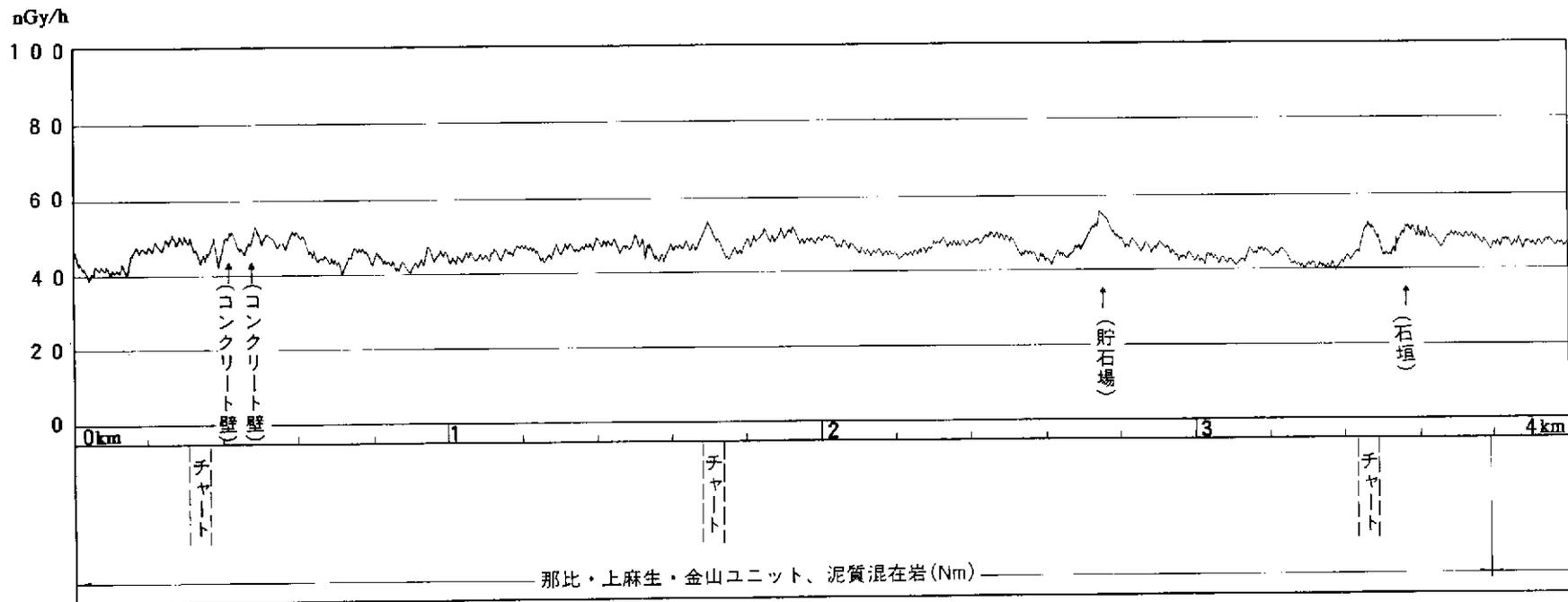
ルートNo.11 (その2)



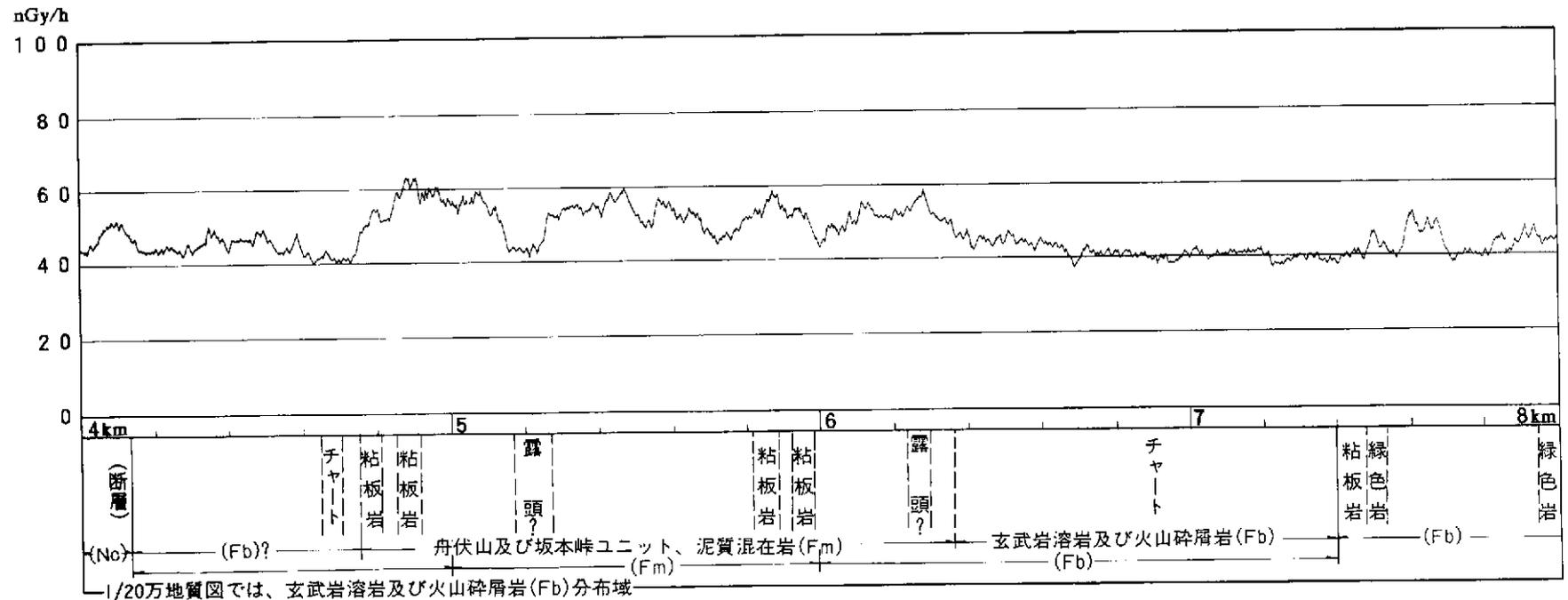
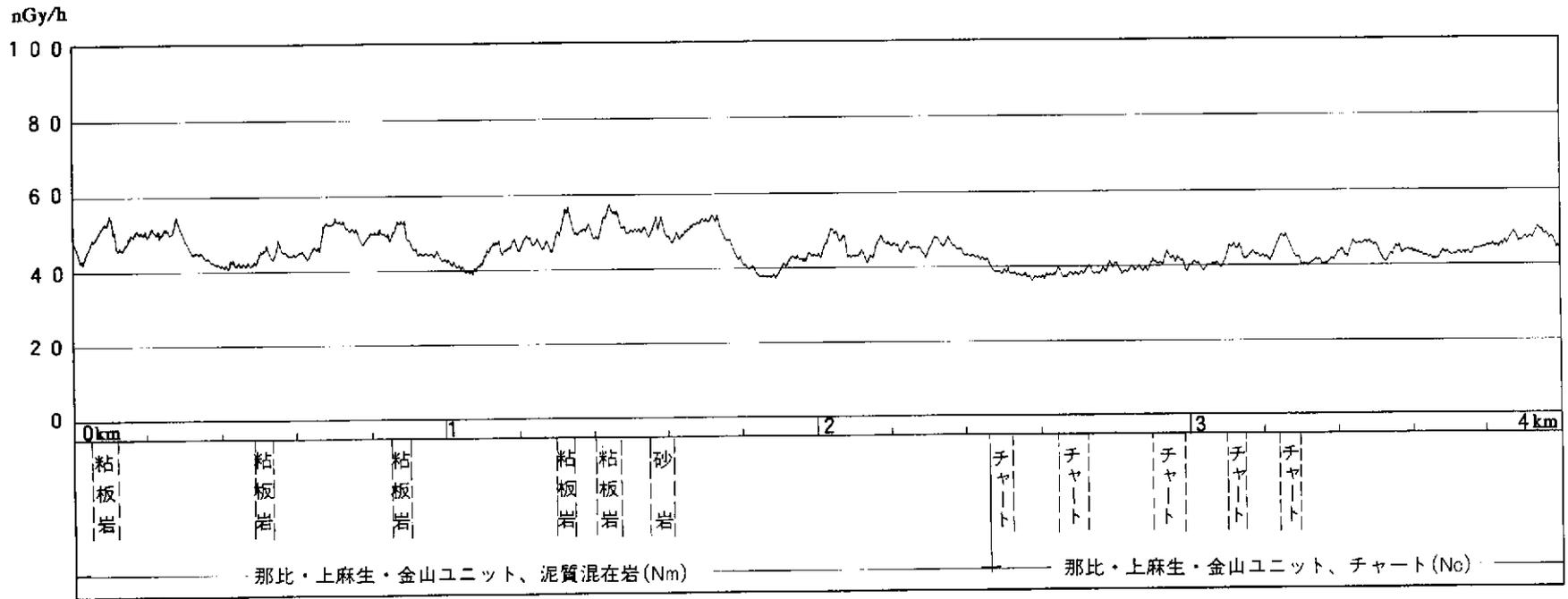
ルートNo.12



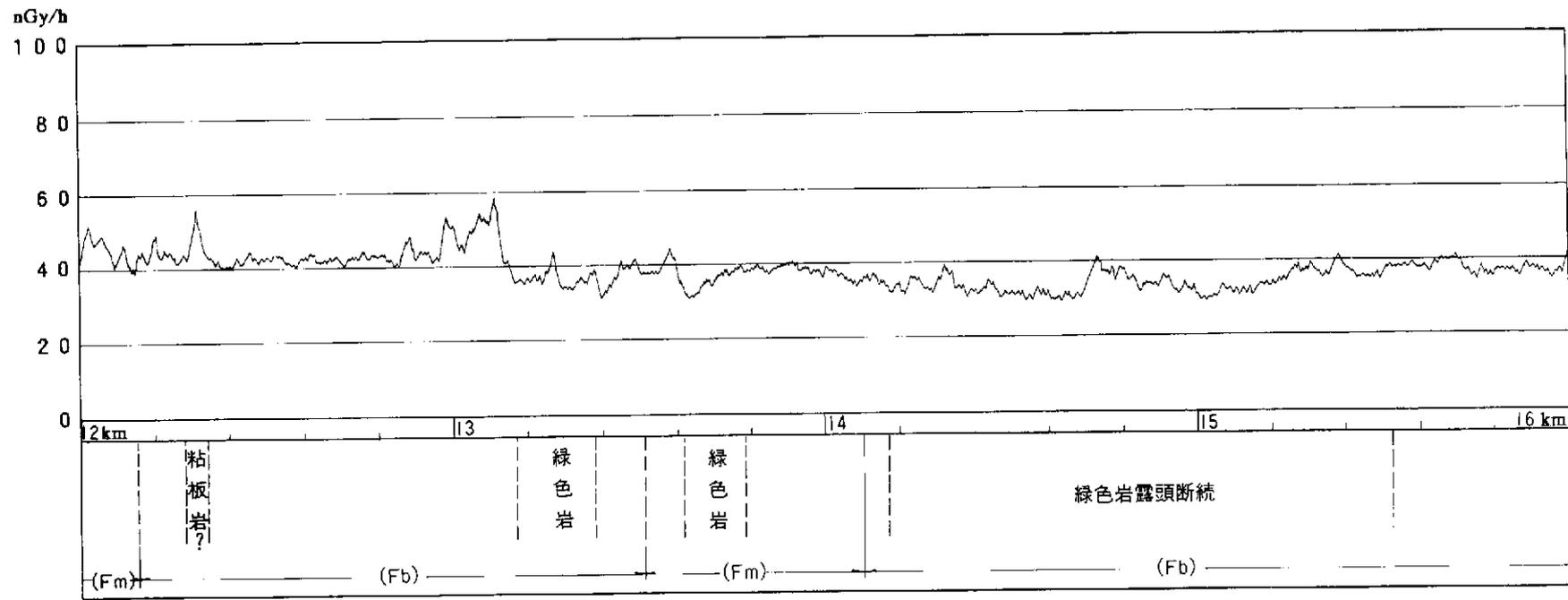
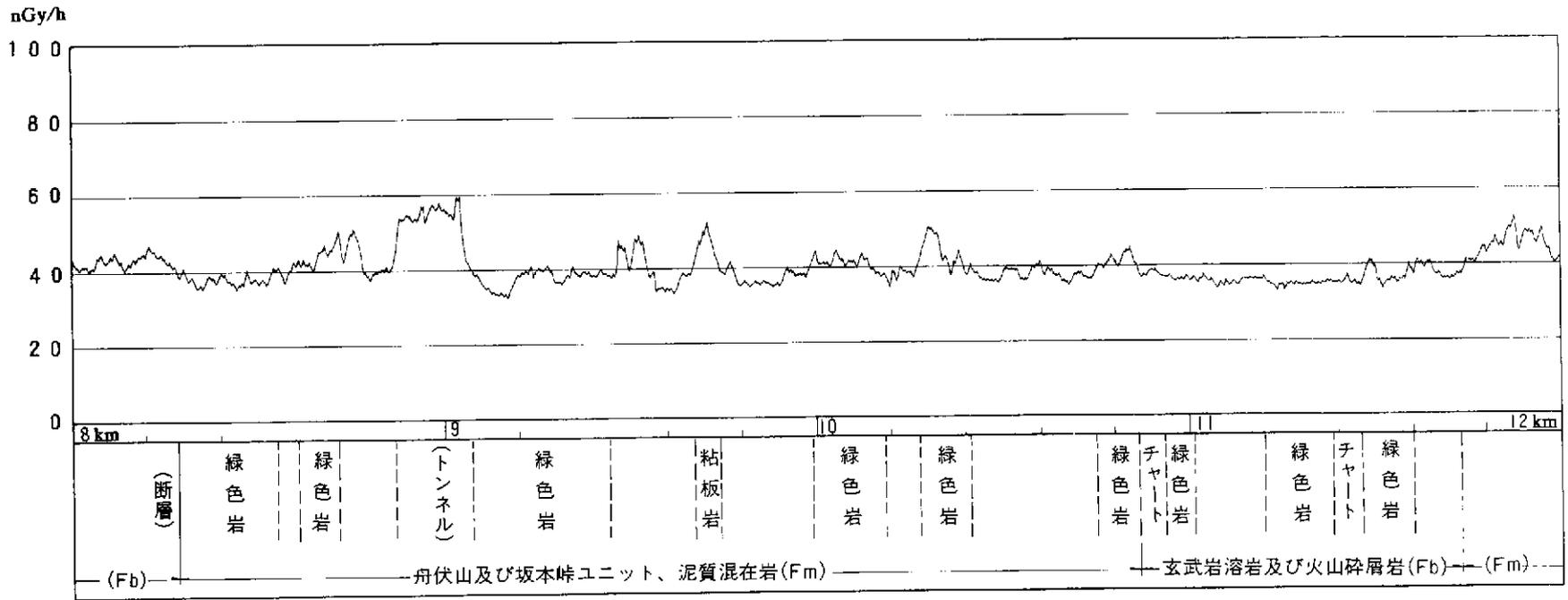
ルートNo.13



ルートNo.14



ルートNo.15 (その1)



ルートNo.15 (その2)

nGy/h

100

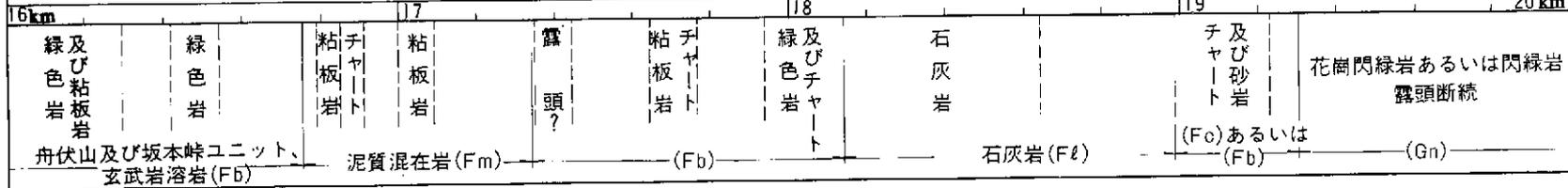
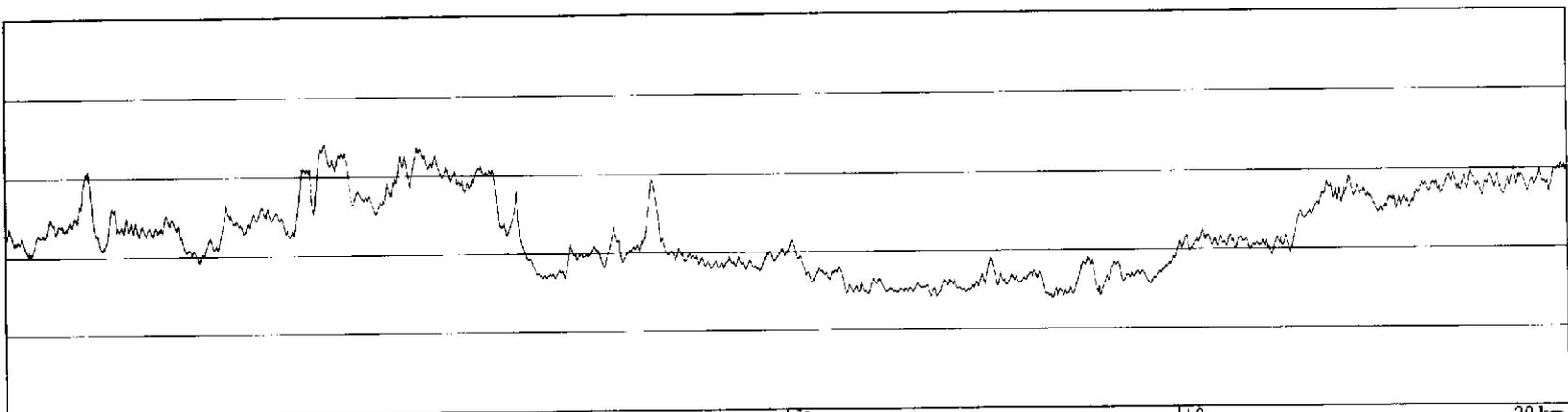
80

60

40

20

0



nGy/h

100

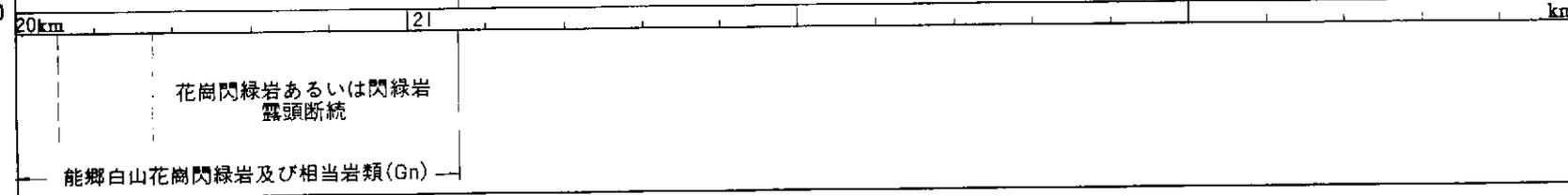
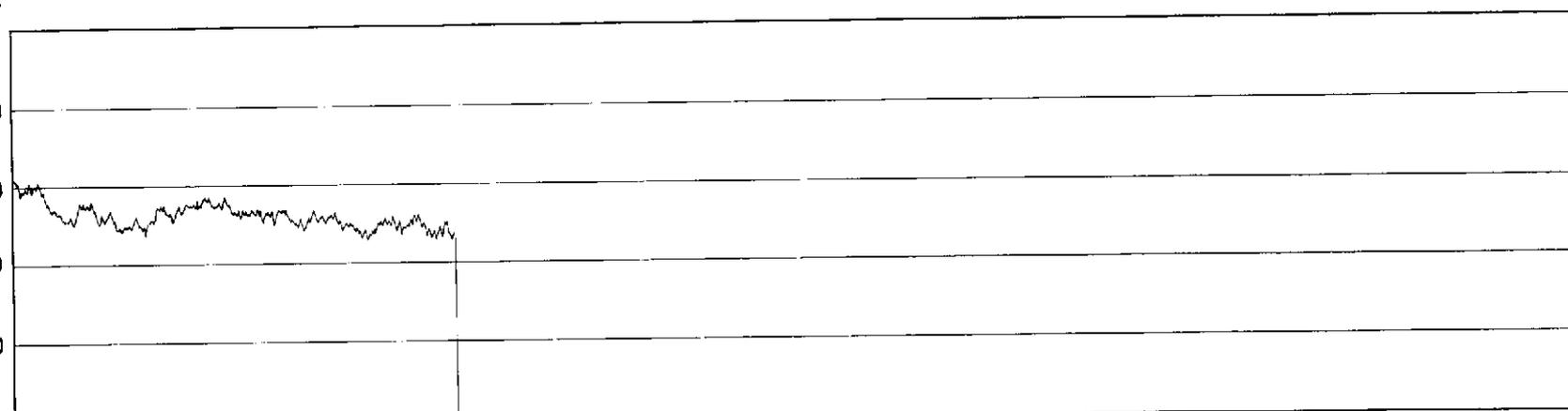
80

60

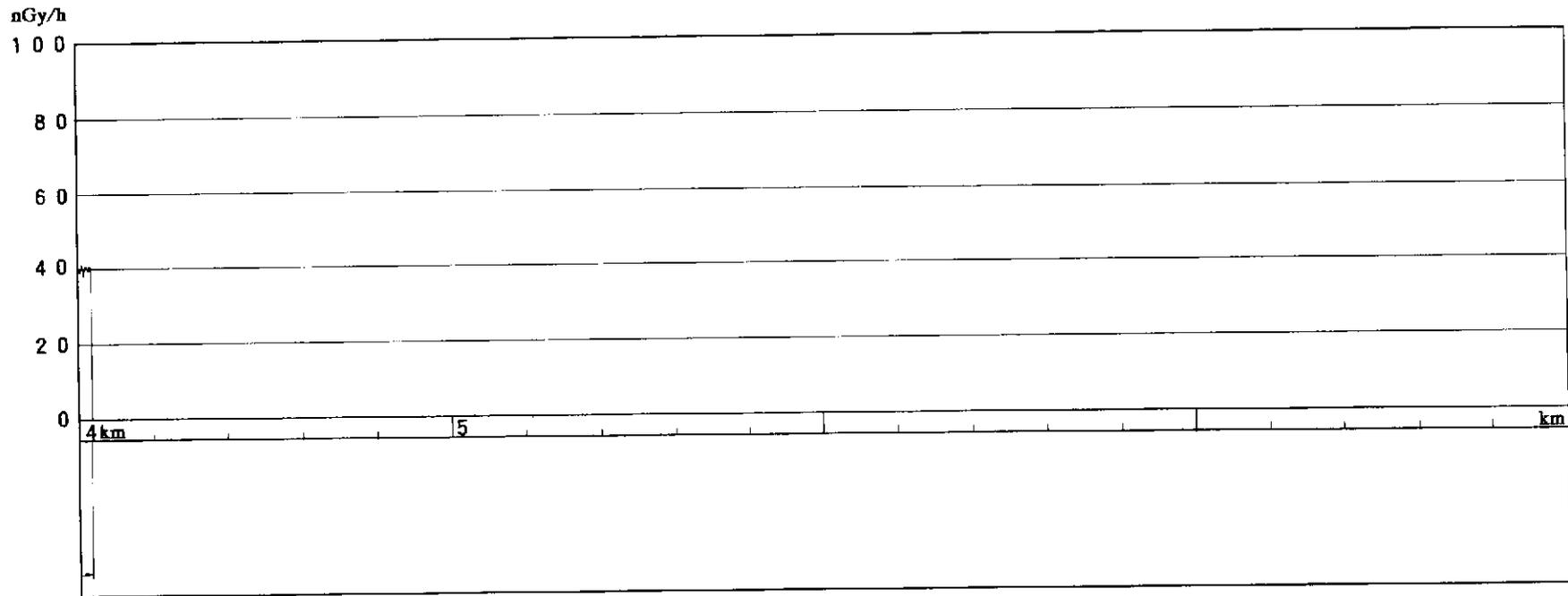
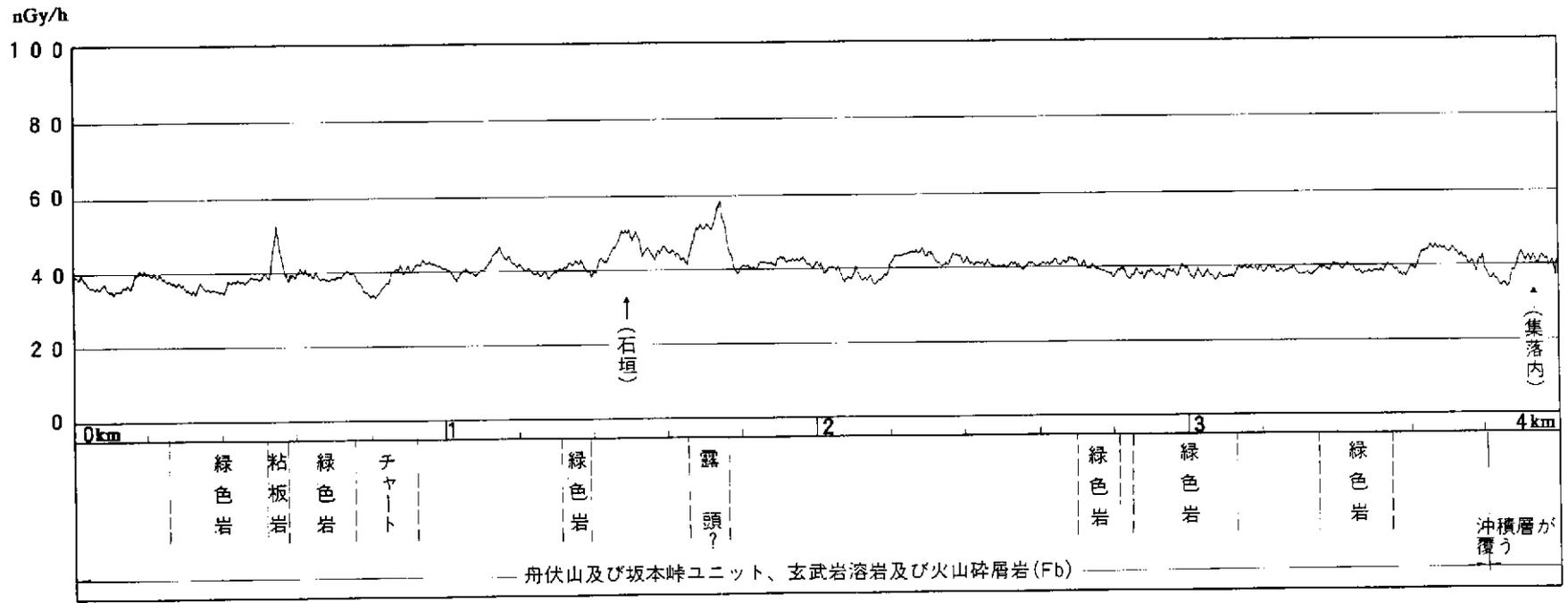
40

20

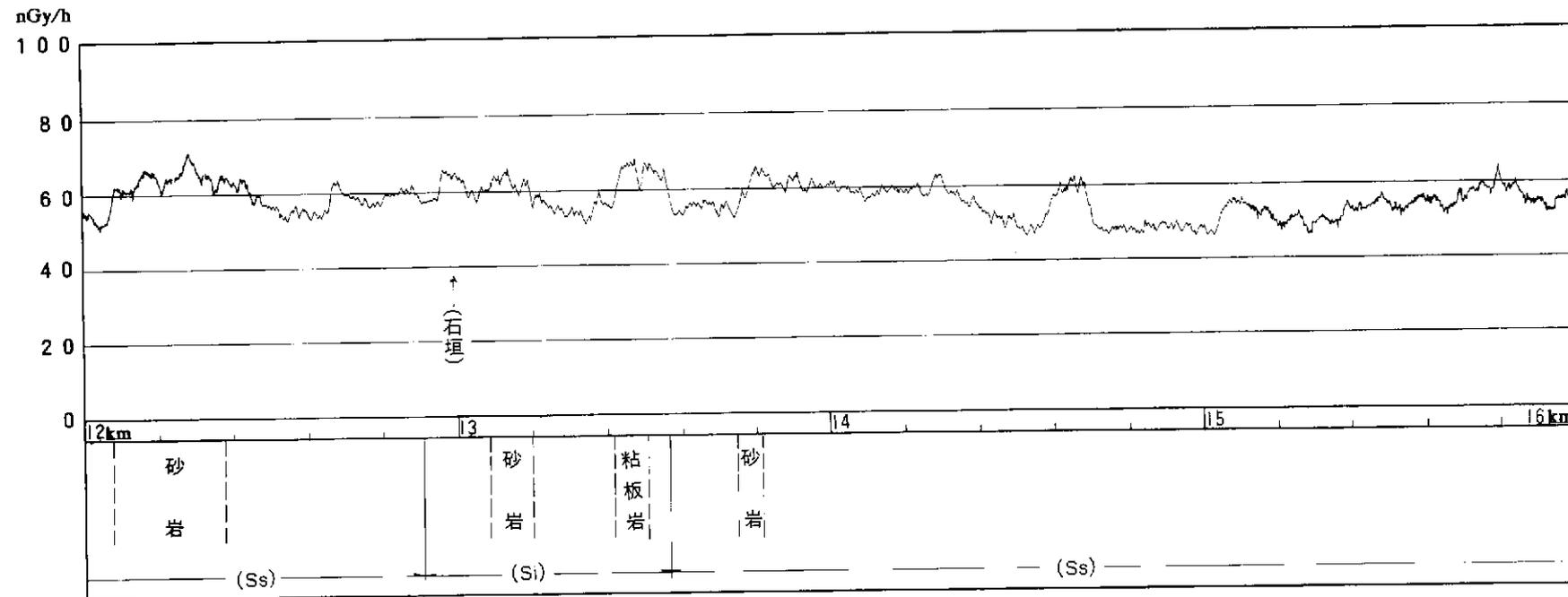
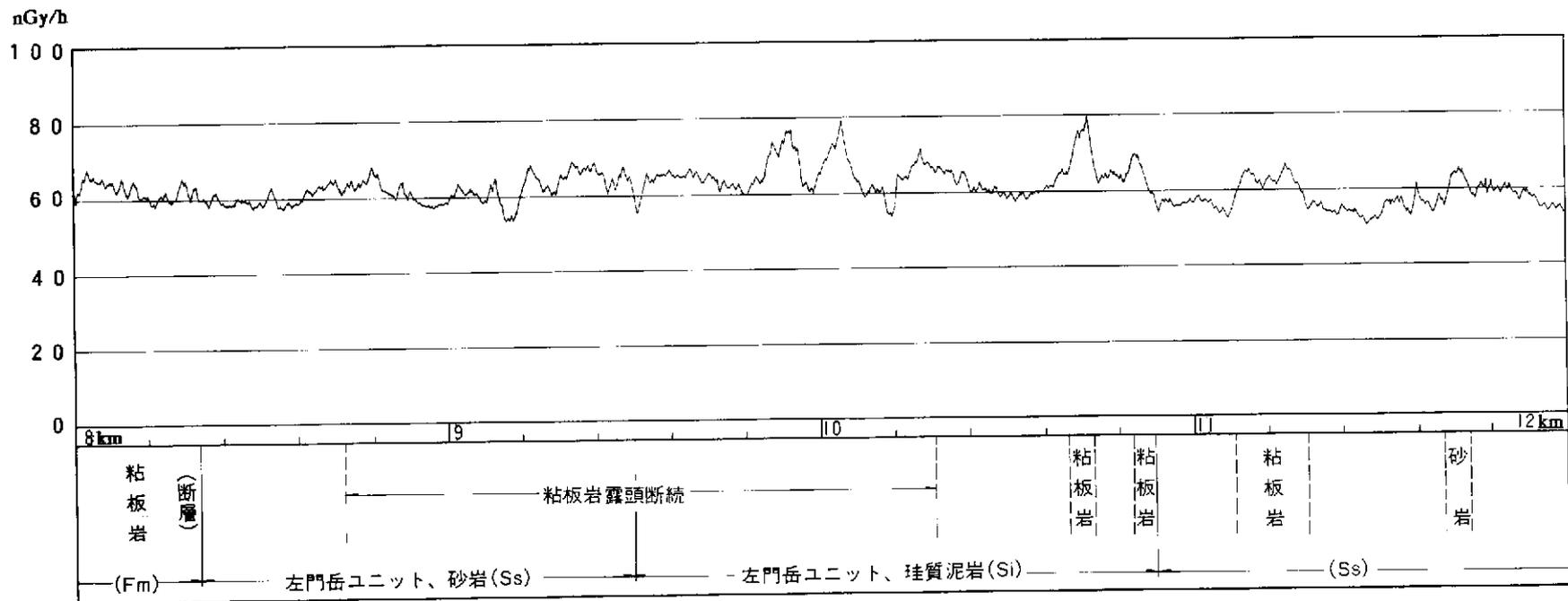
0



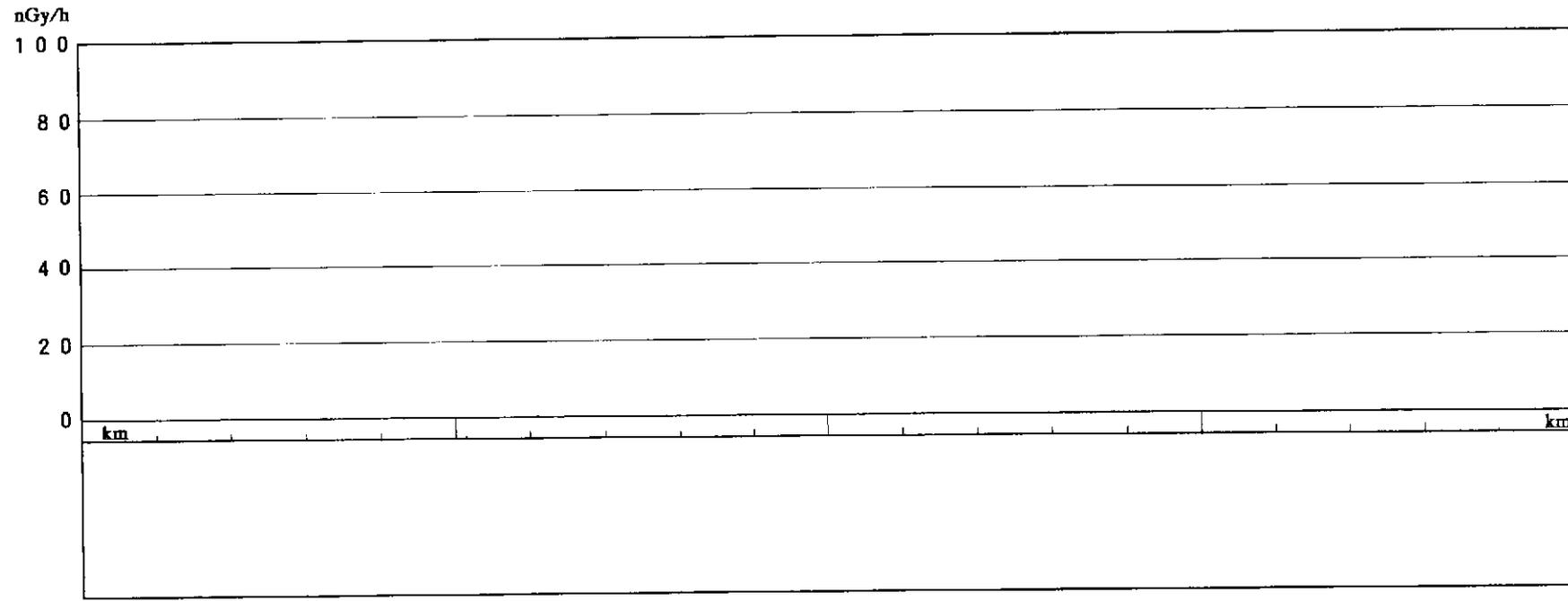
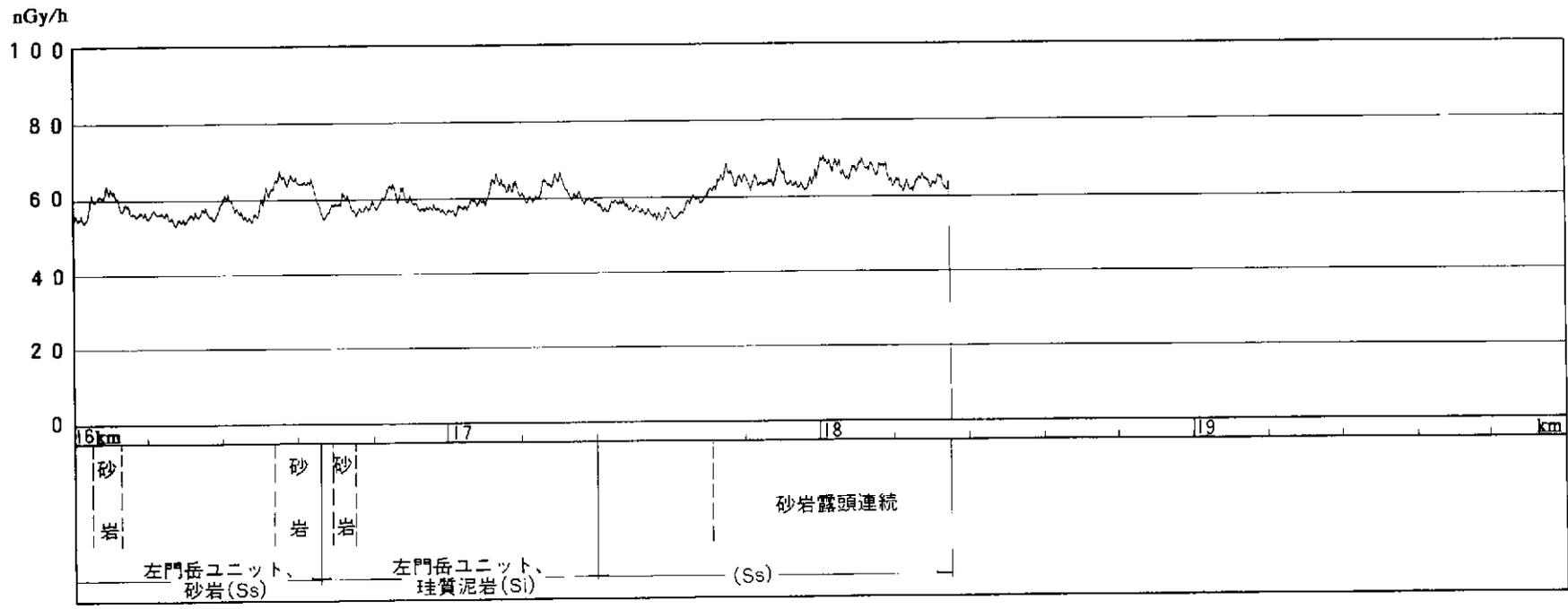
ルートNo.15 (その3)



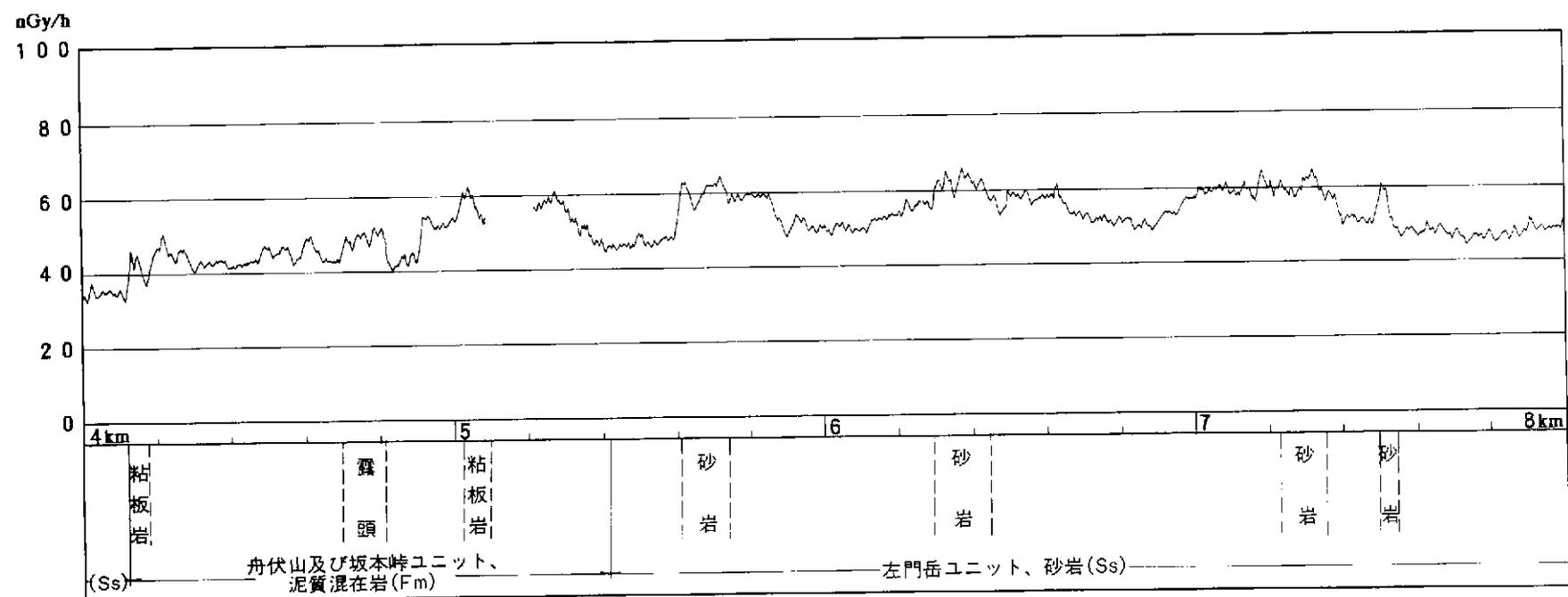
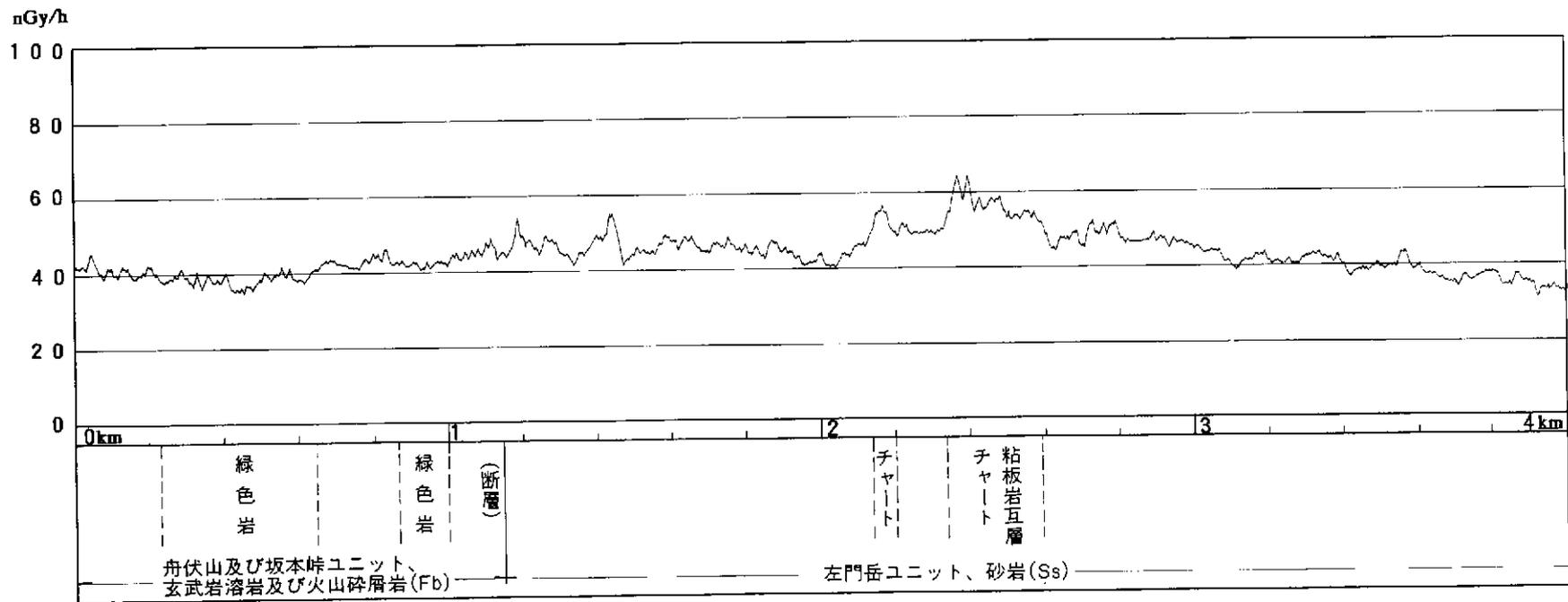
ルートNo.16



ルートNo.17 (その2)

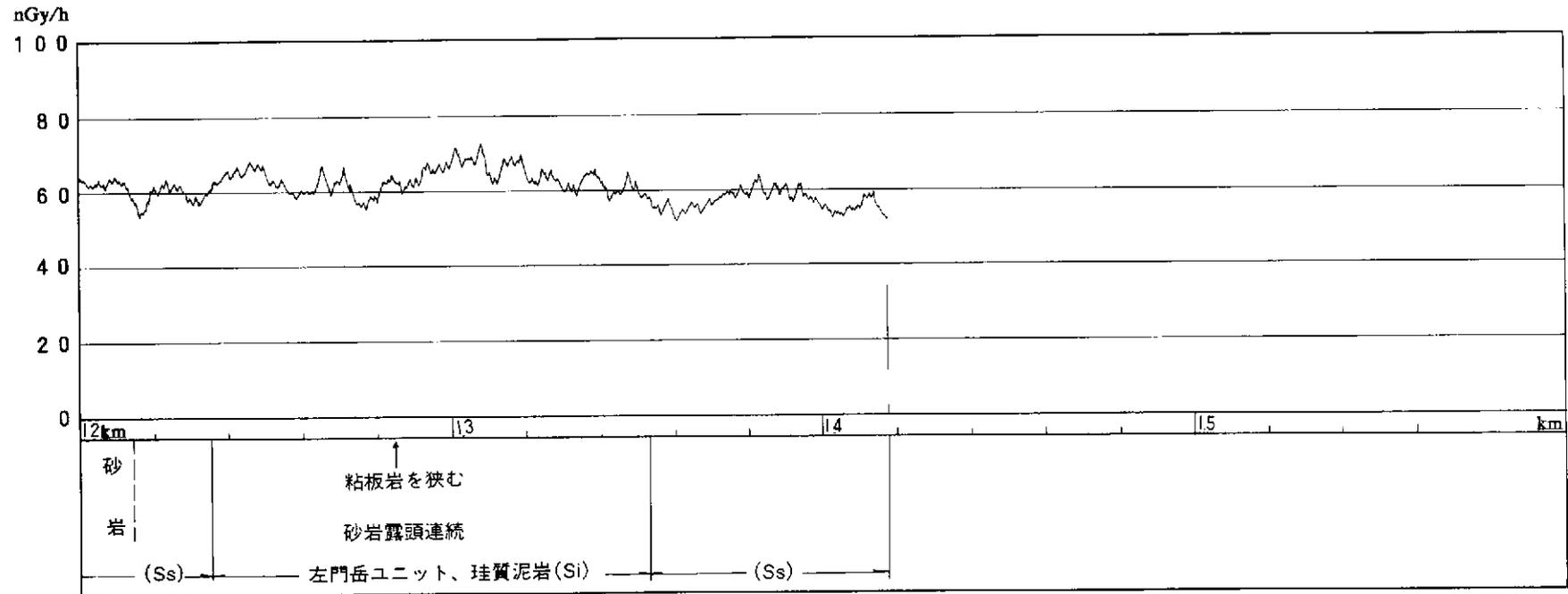
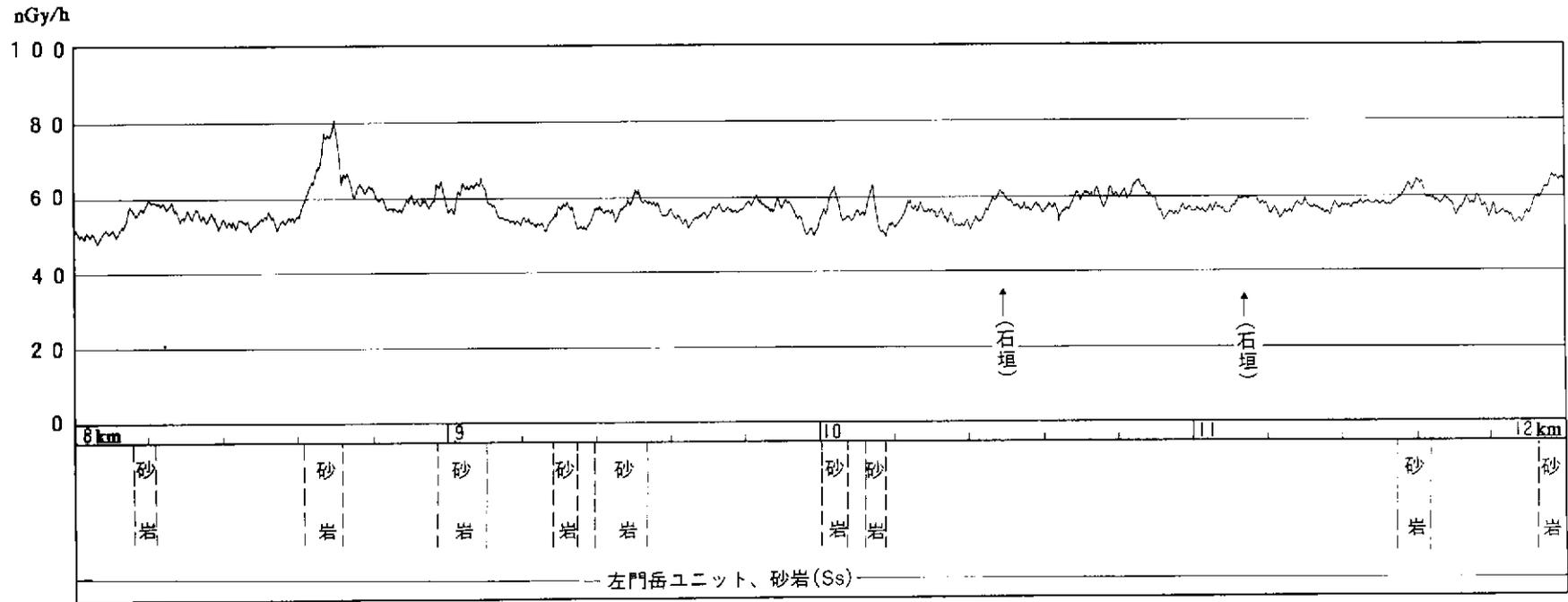


ルートNo.17 (その3)

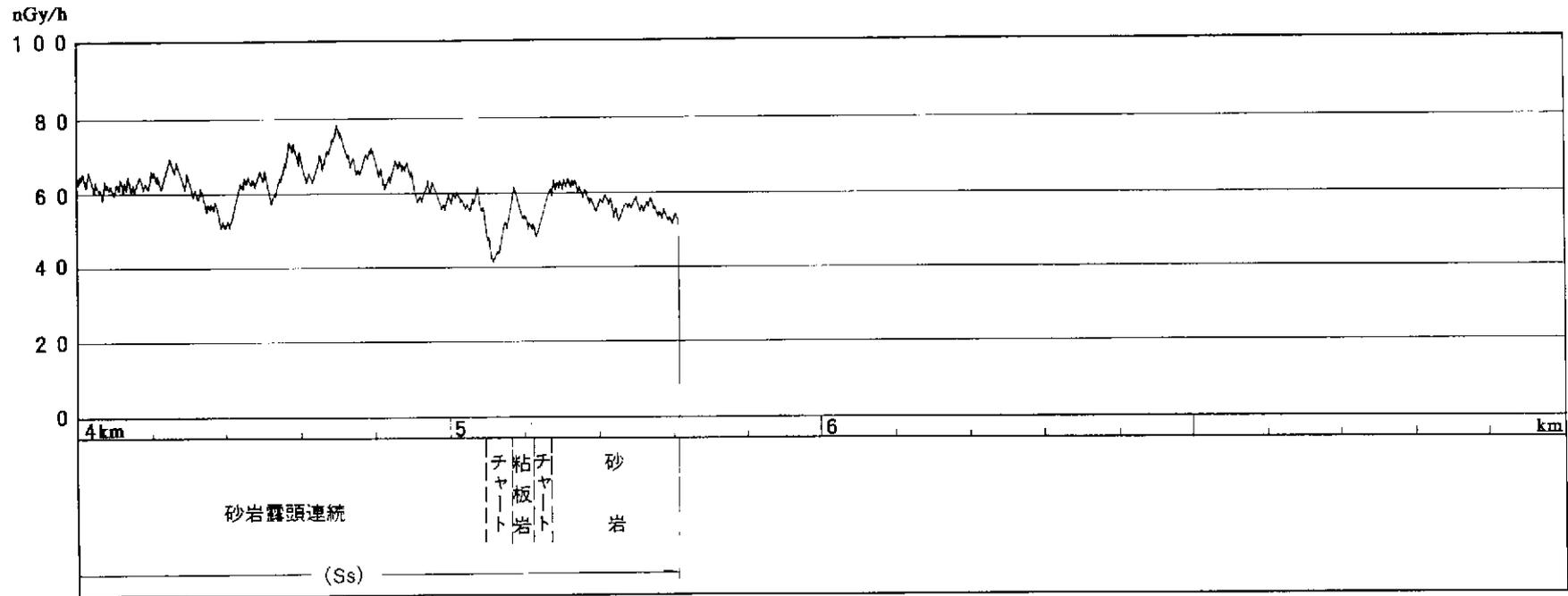
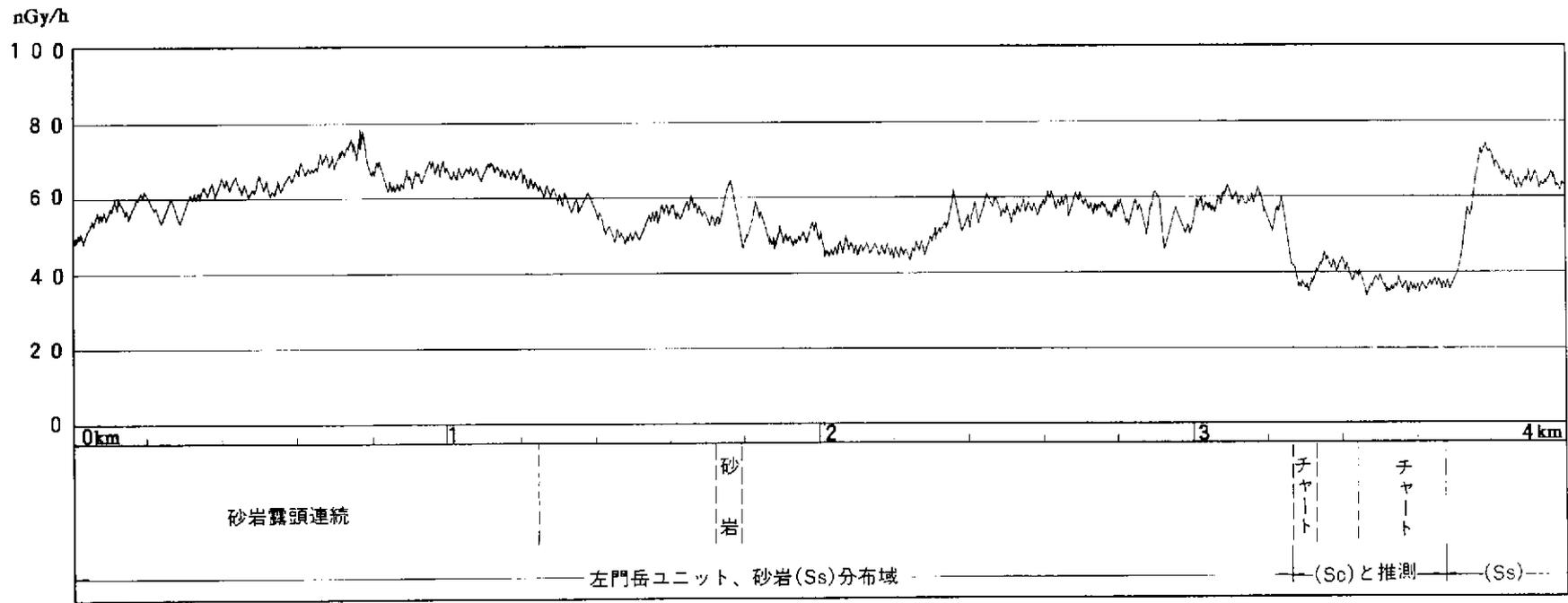


ルートNo.18 (その1)

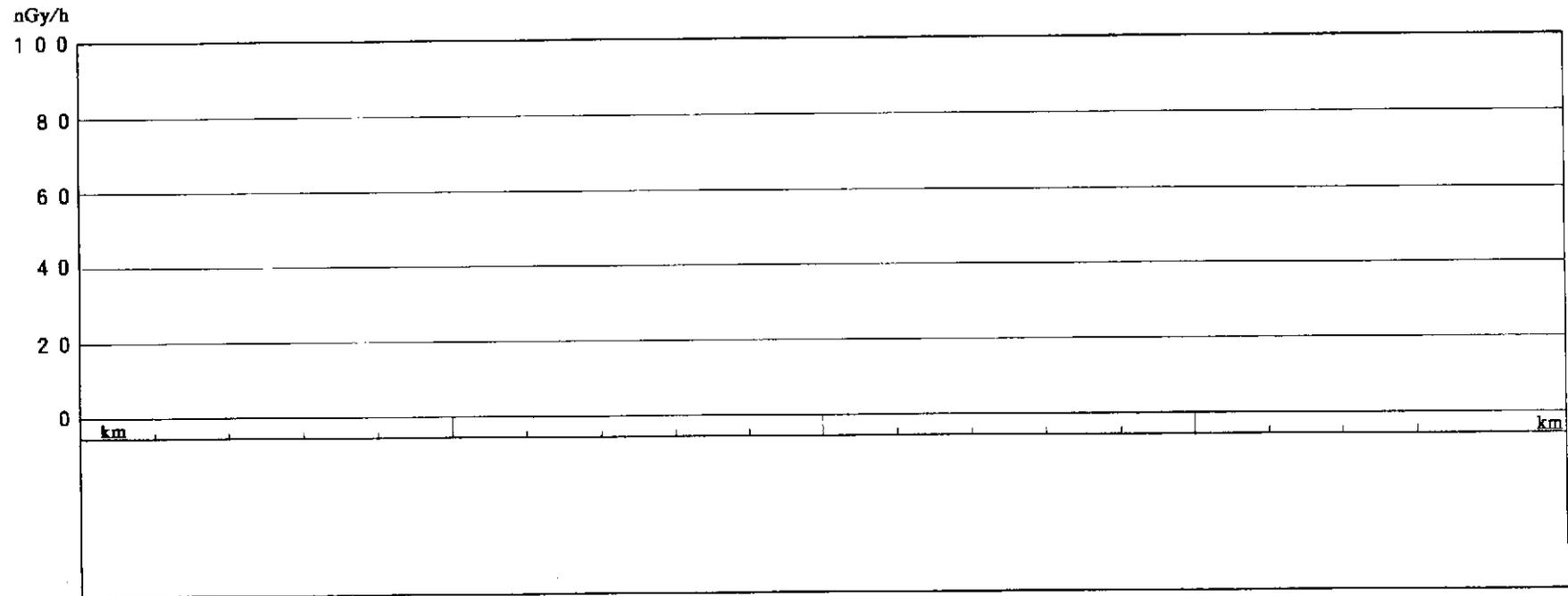
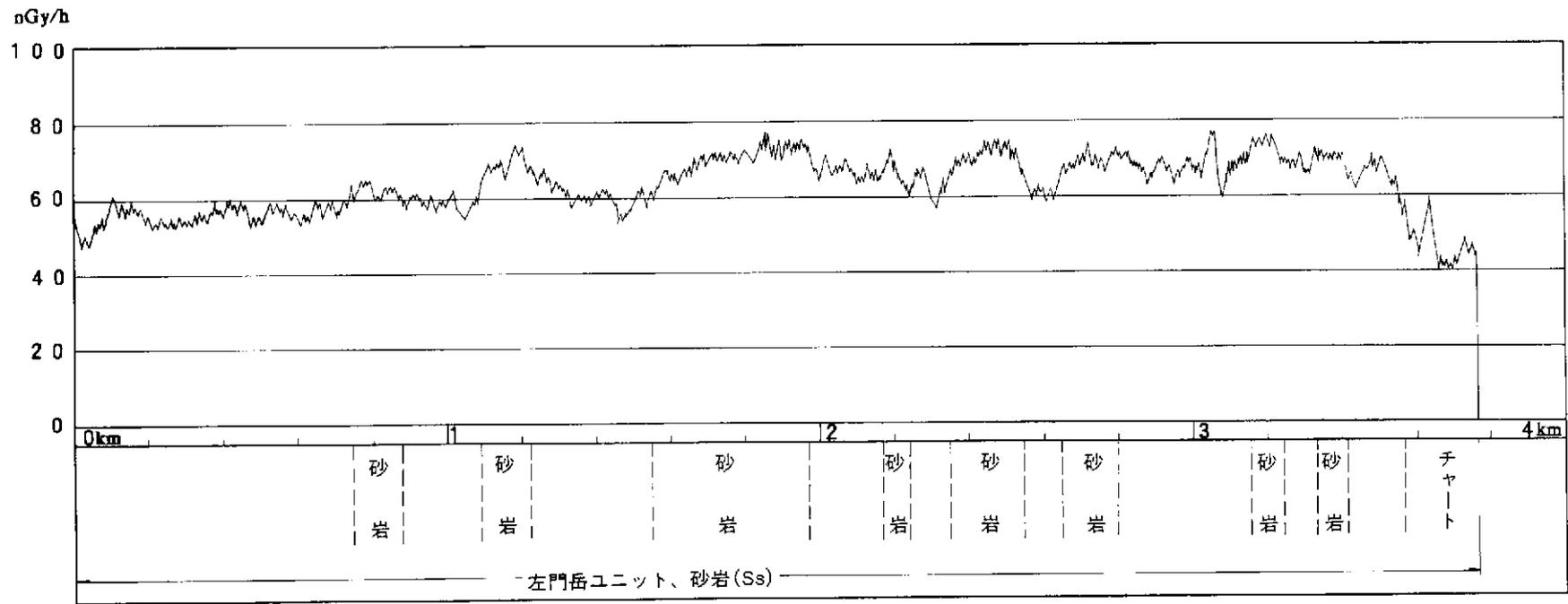
— 77 —



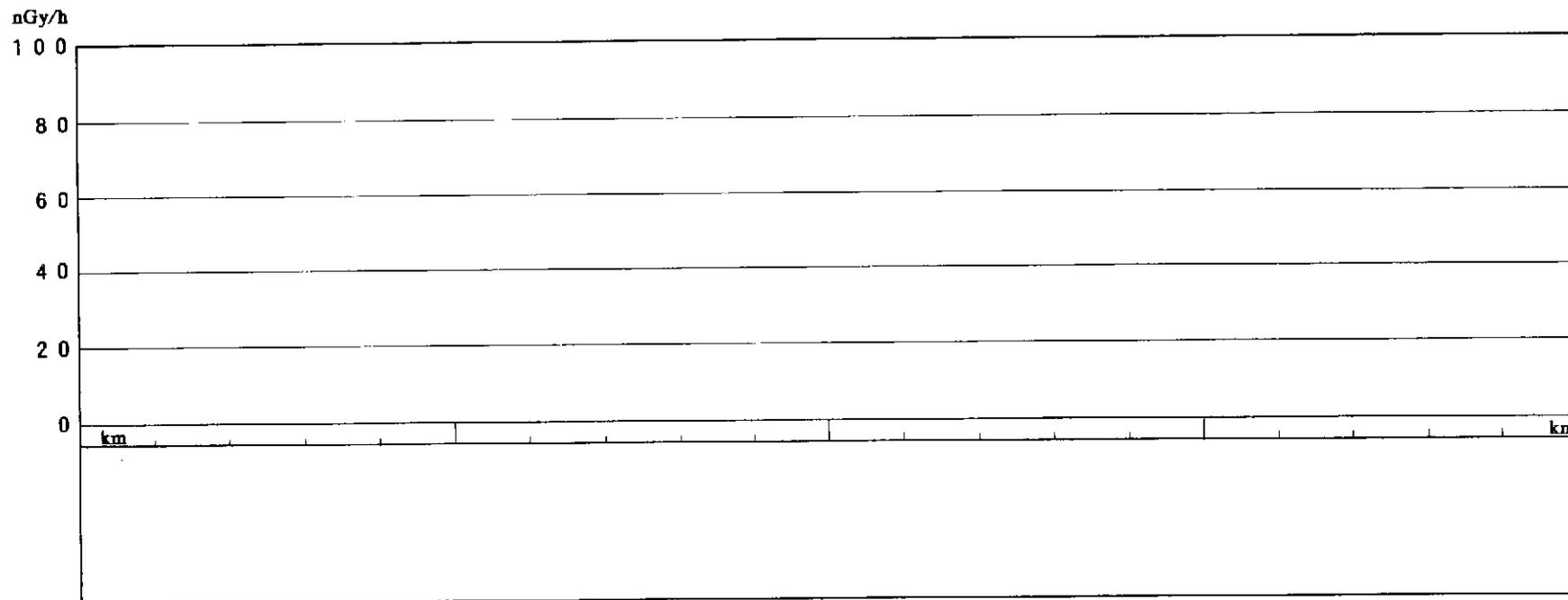
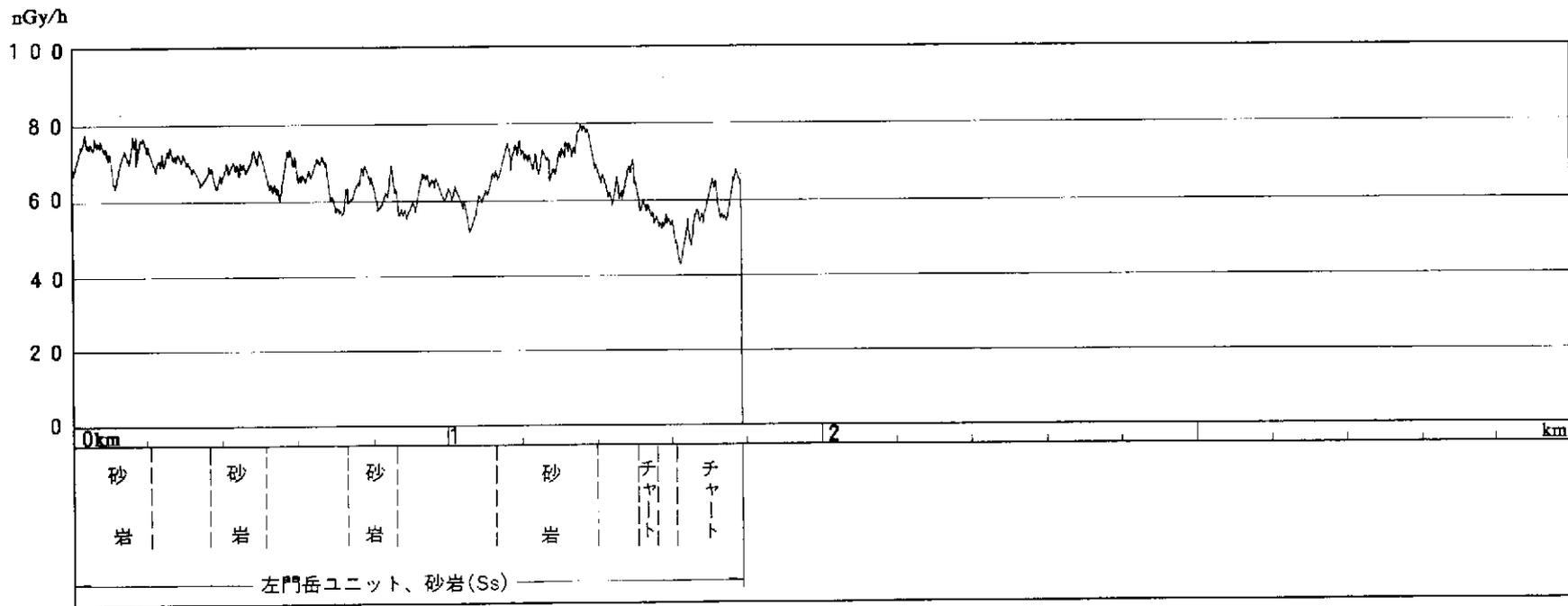
ルートNo.18 (その2)



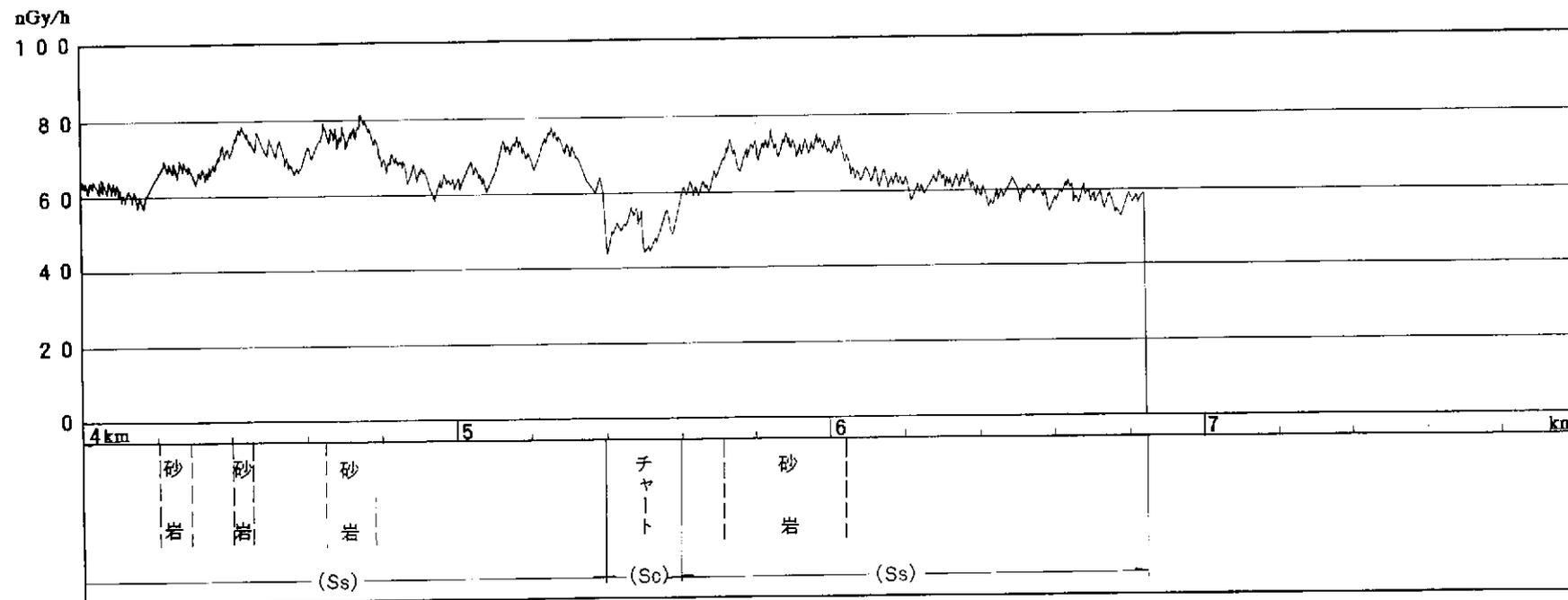
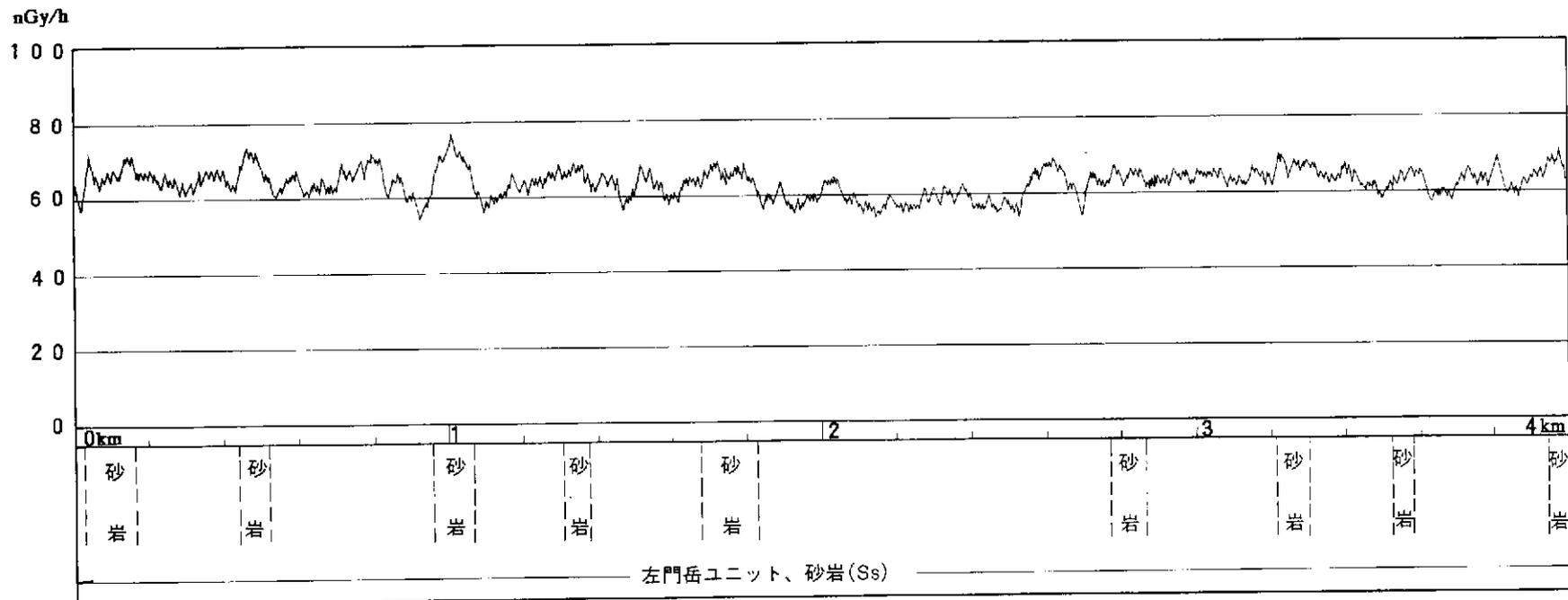
ルートNo.19



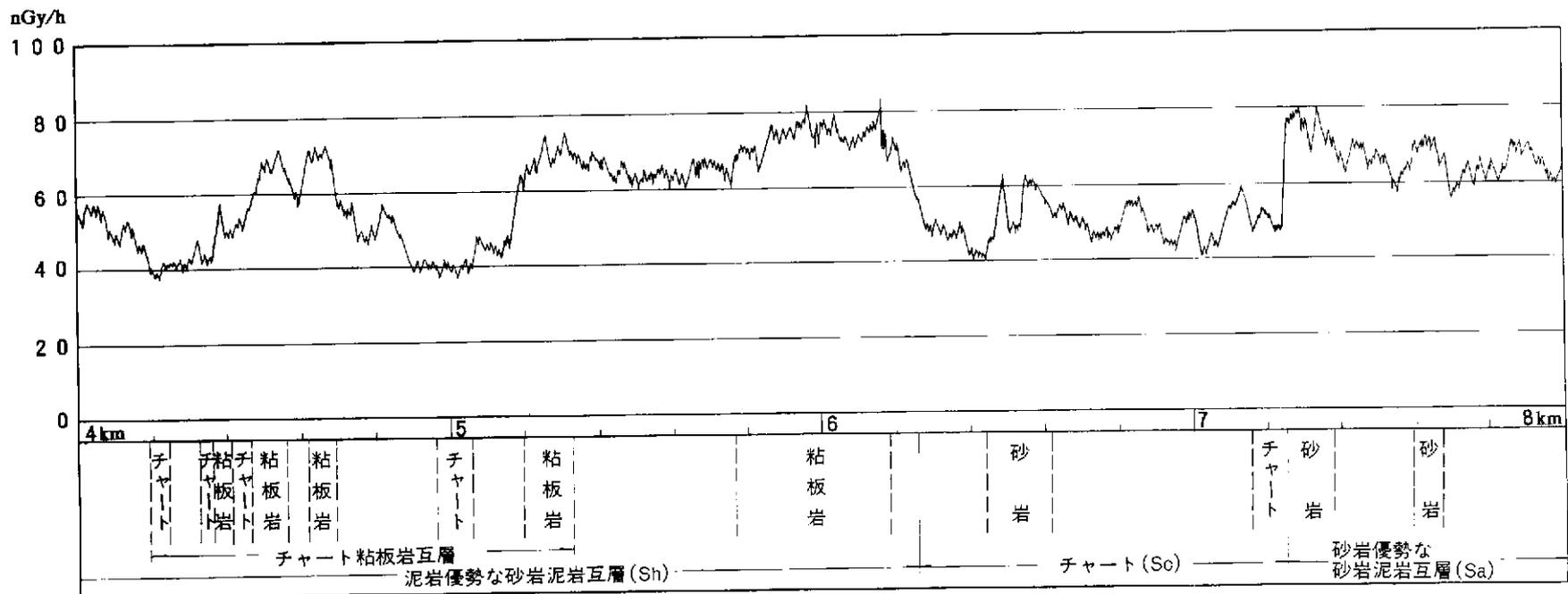
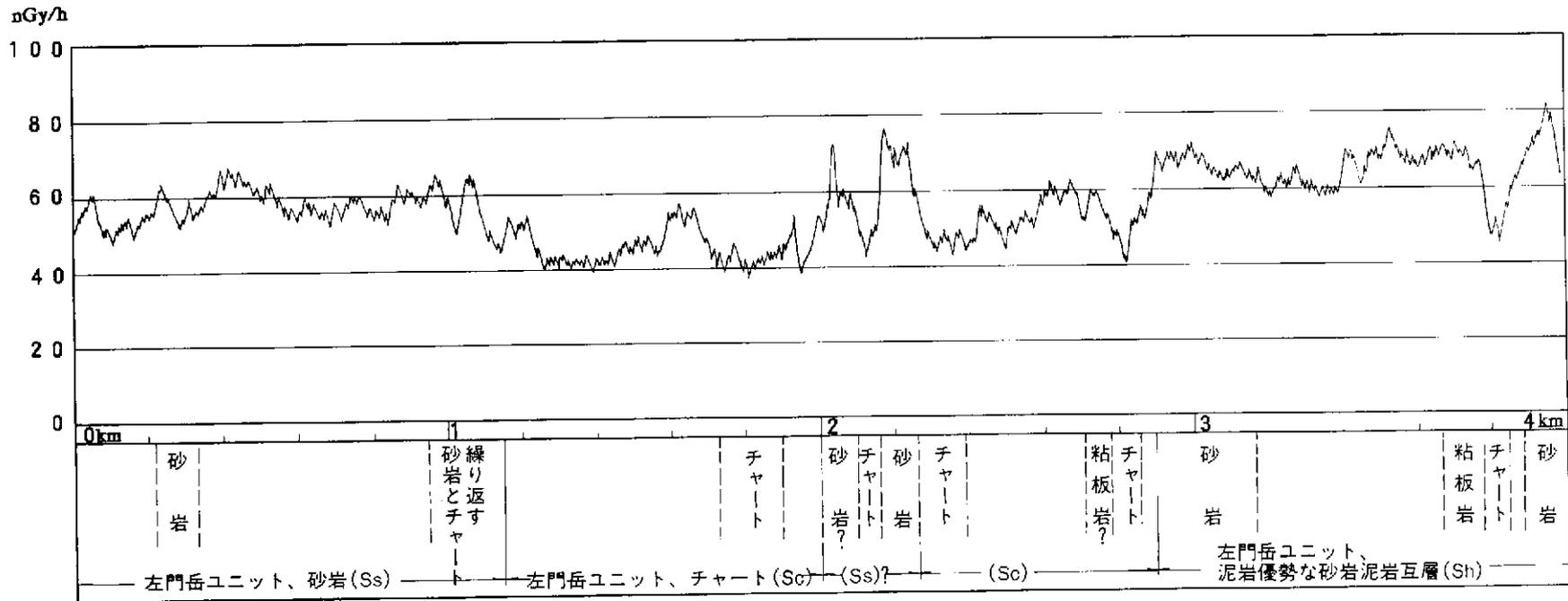
ルートNo.20



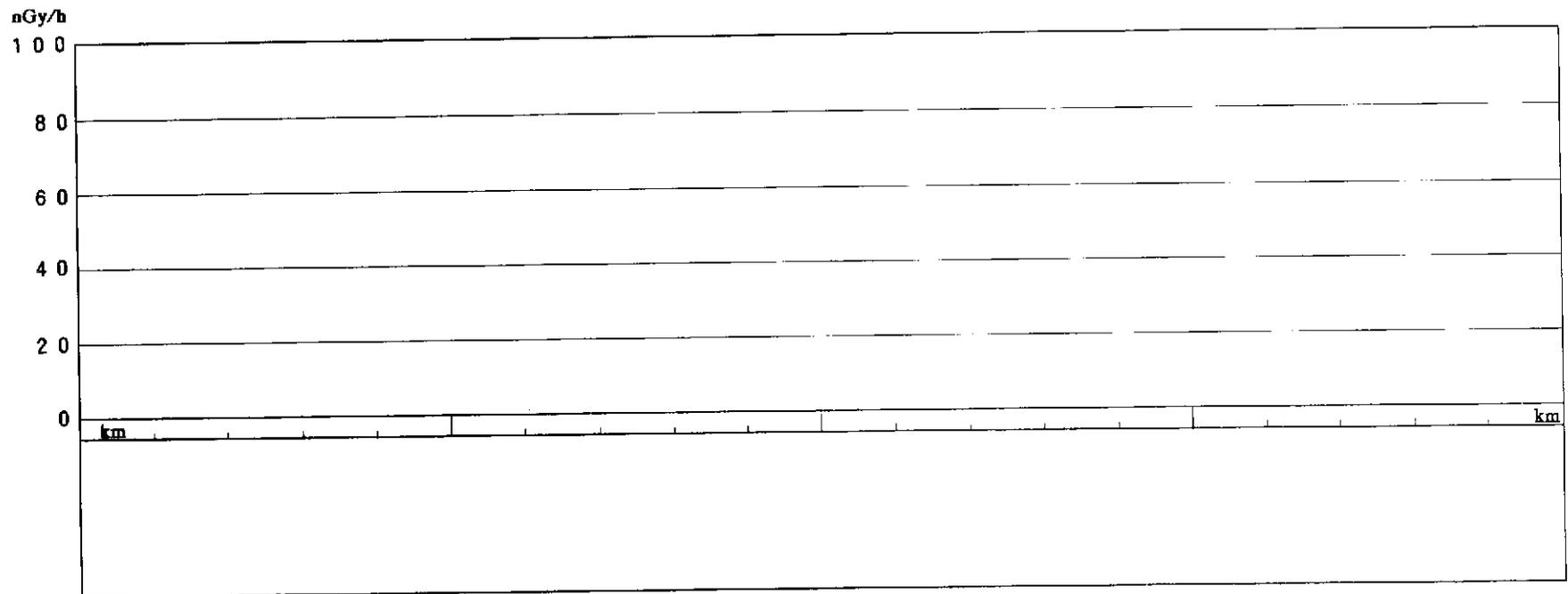
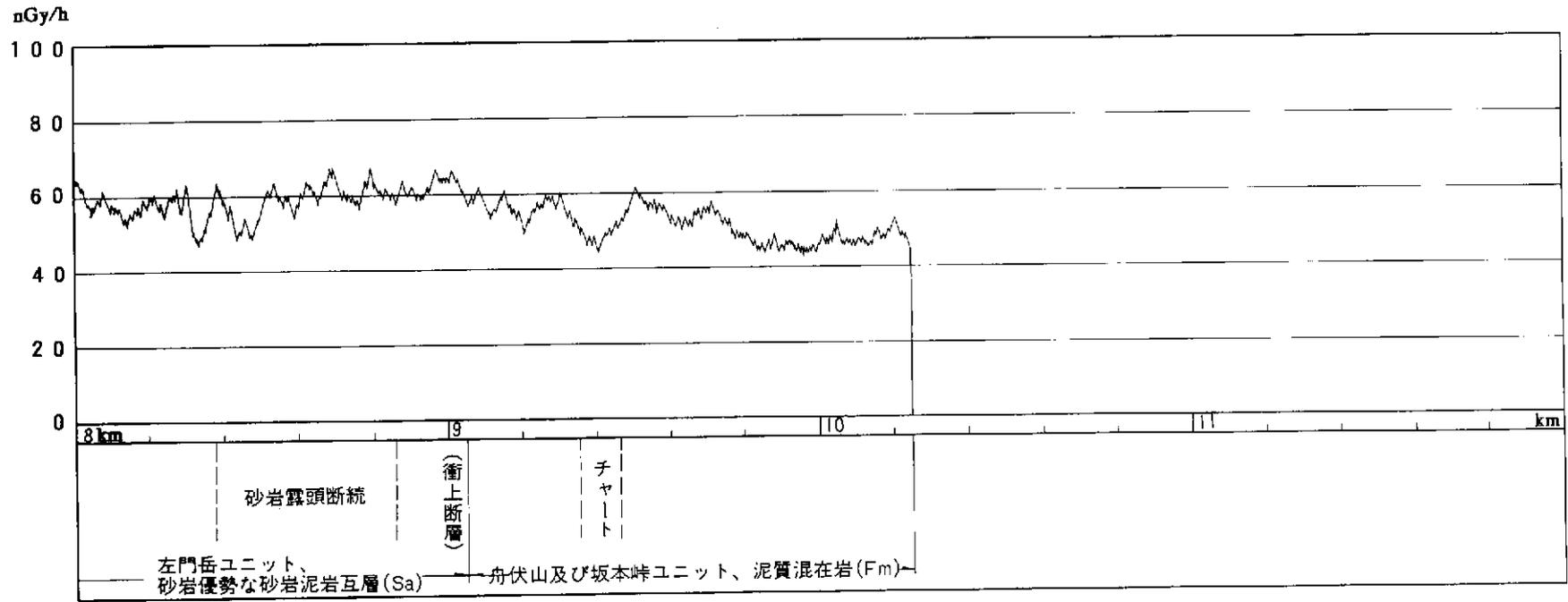
ルートNo.21



ルートNo.22



ルートNo.23 (その1)



ルートNo.23 (その2)

nGy/h

100

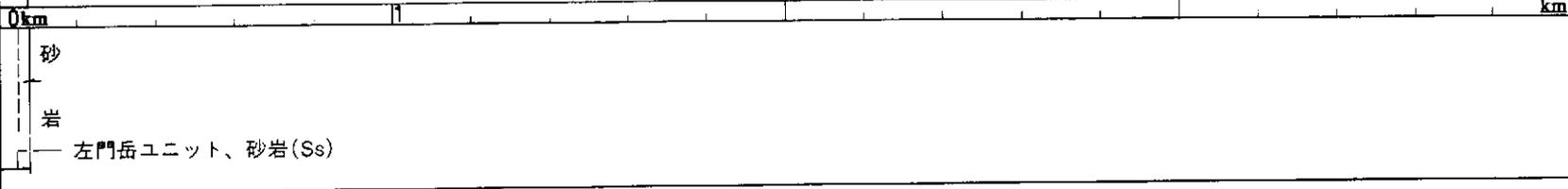
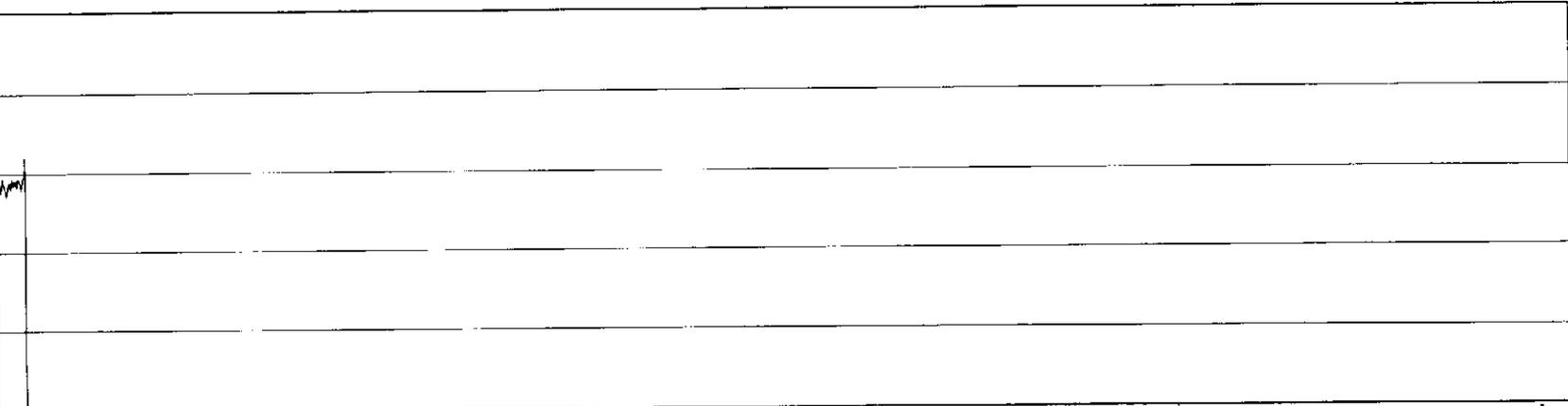
80

60

40

20

0



nGy/h

100

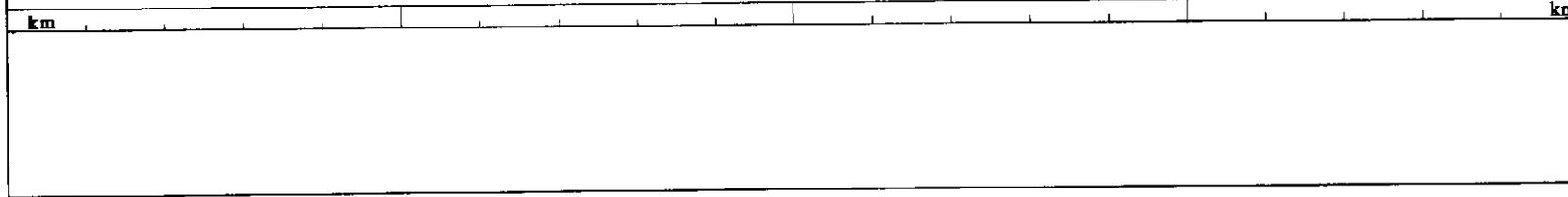
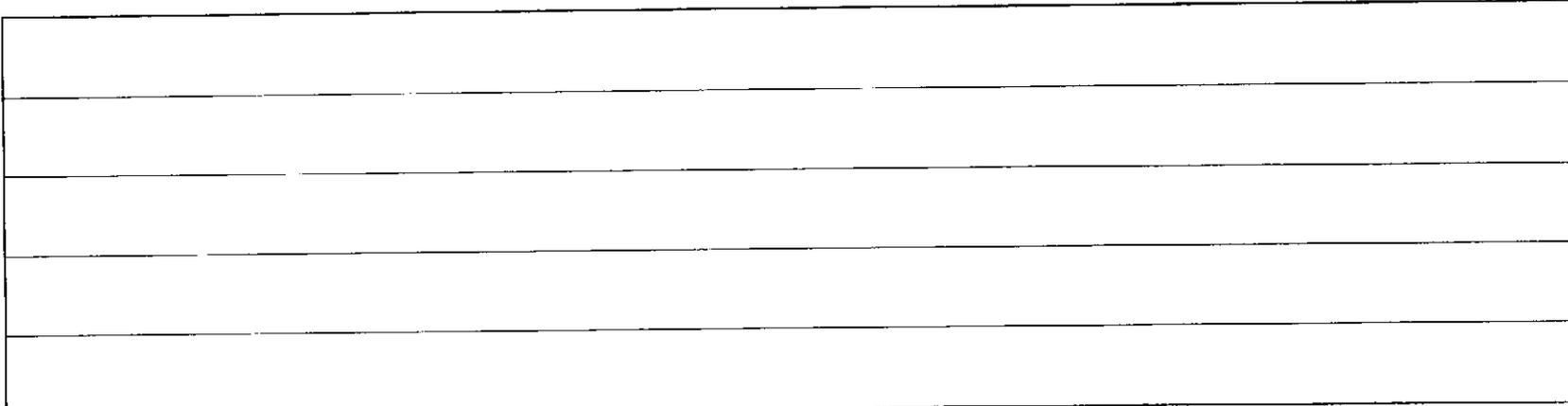
80

60

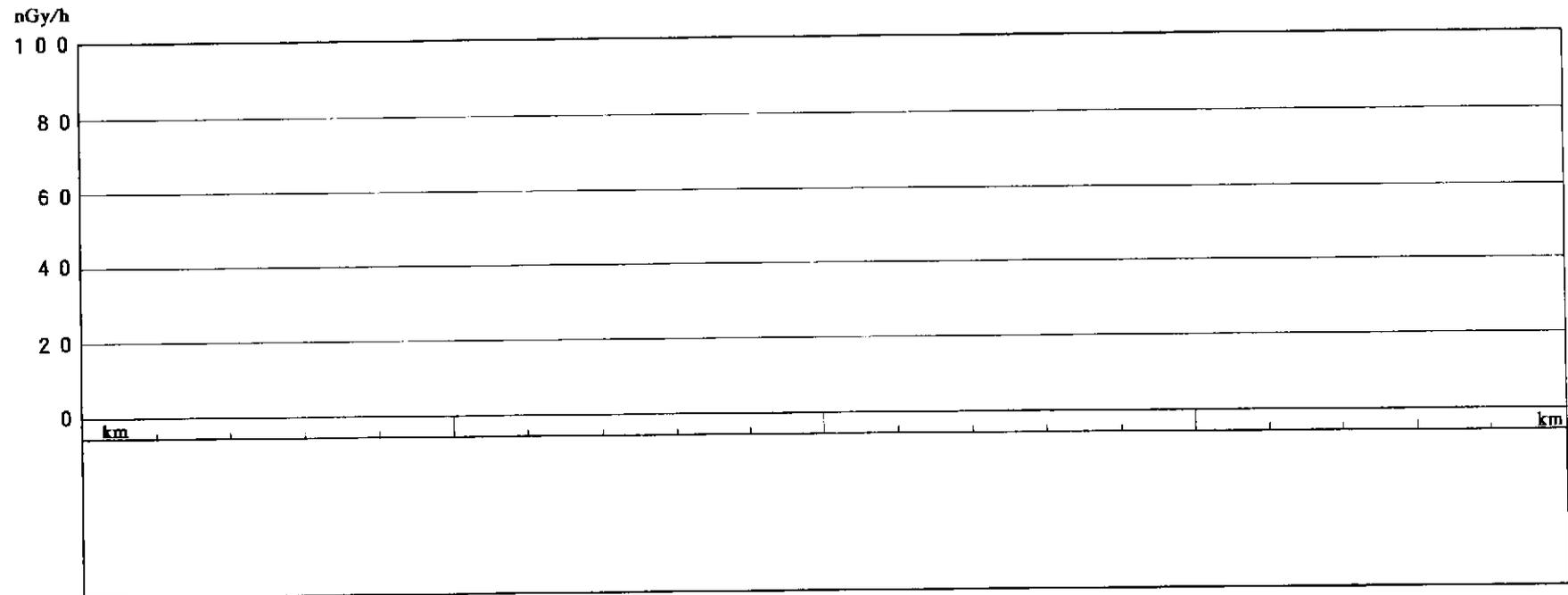
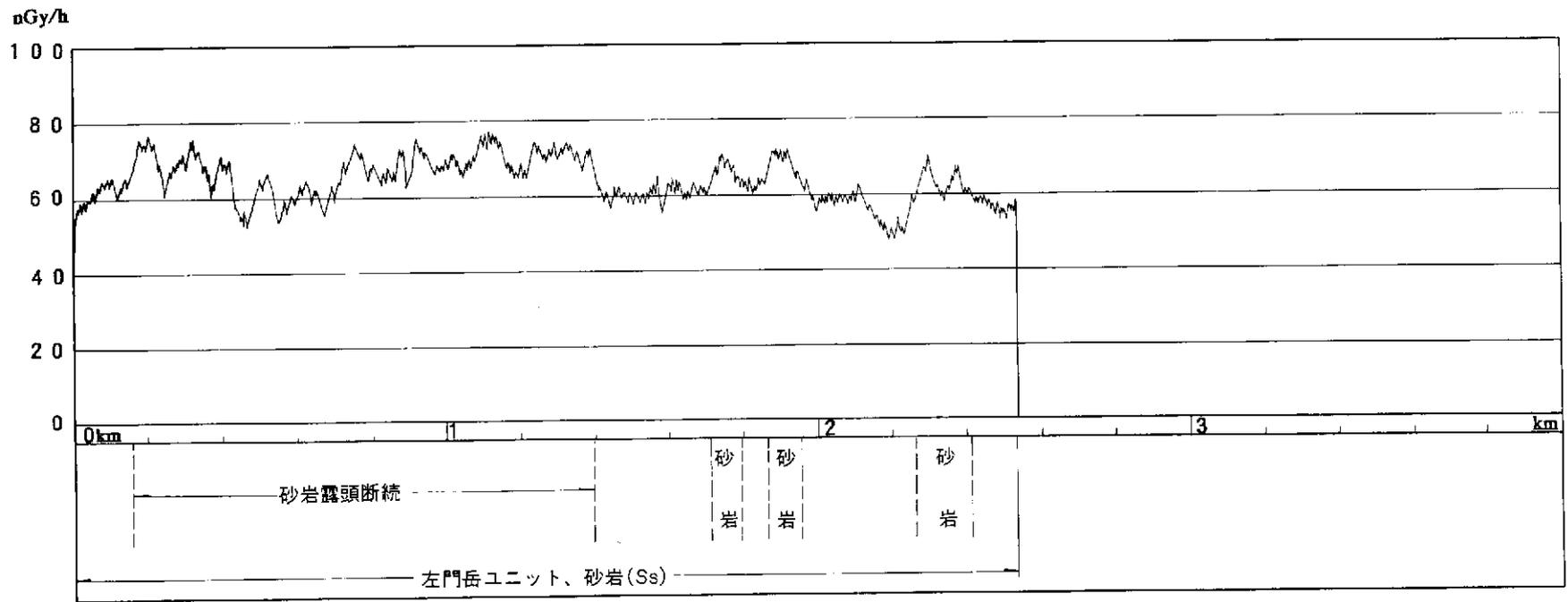
40

20

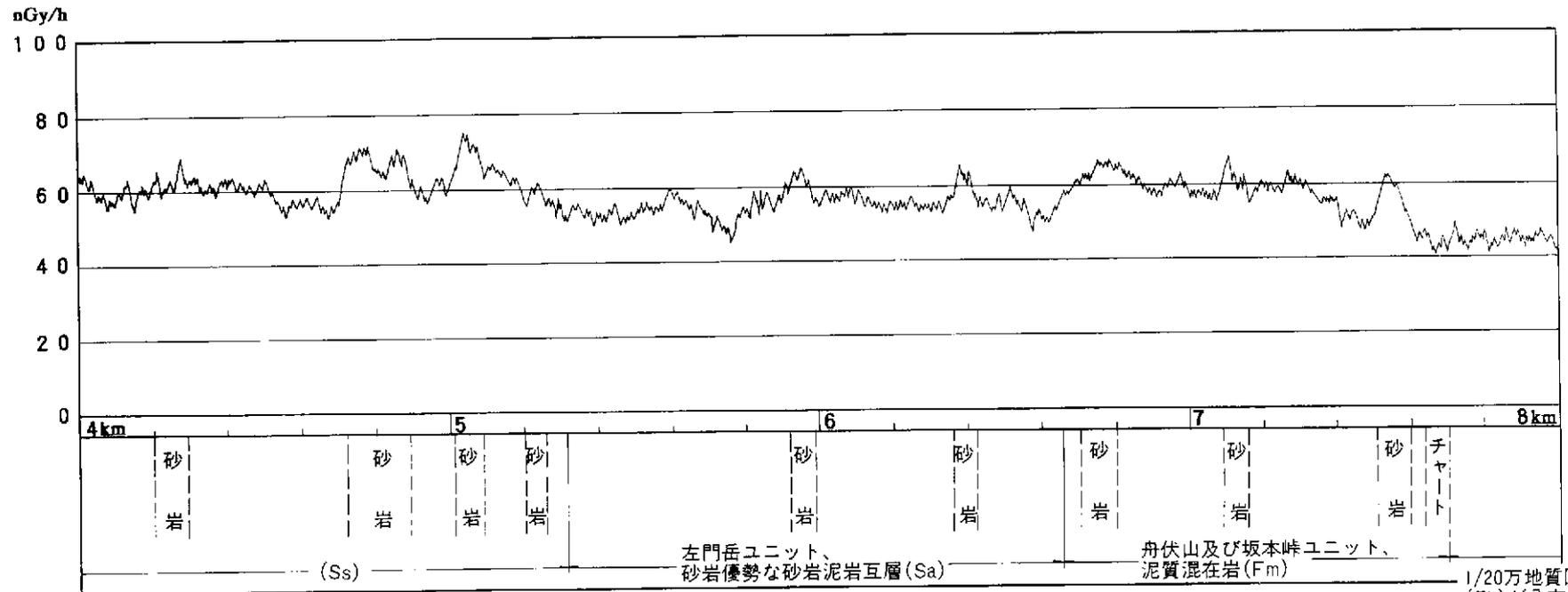
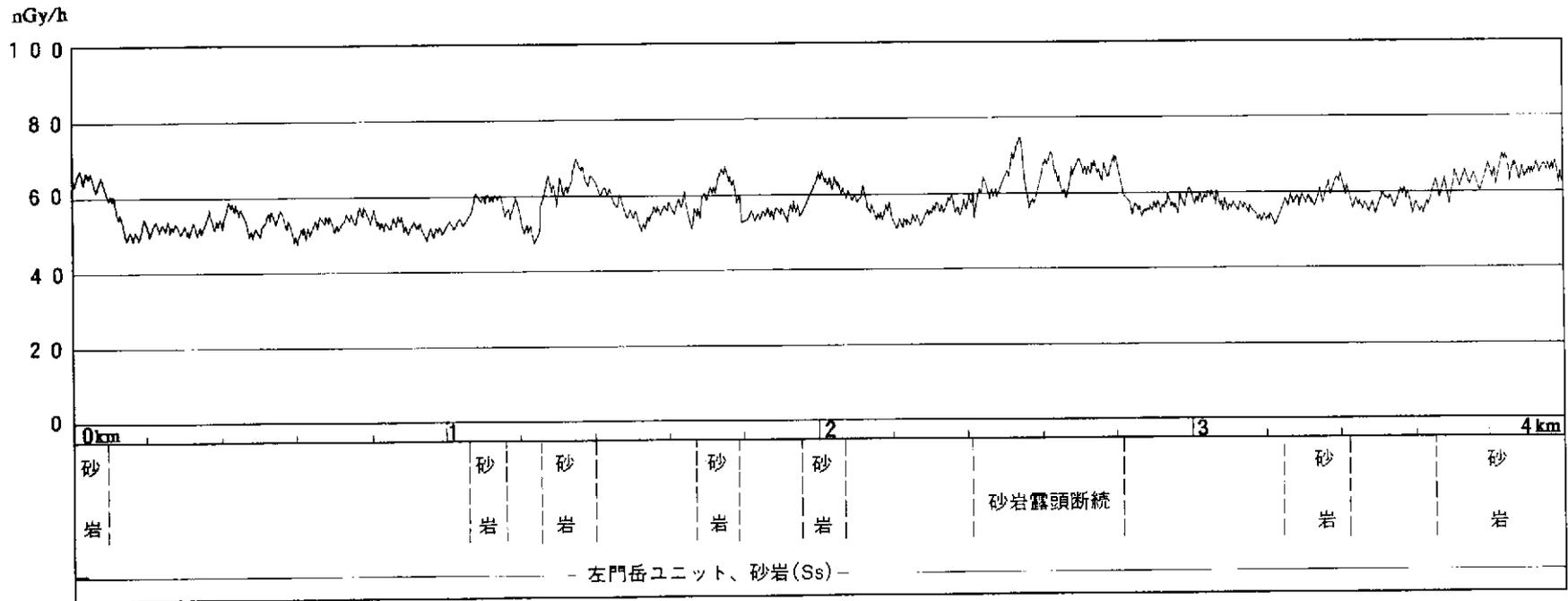
0



ルートNo.24



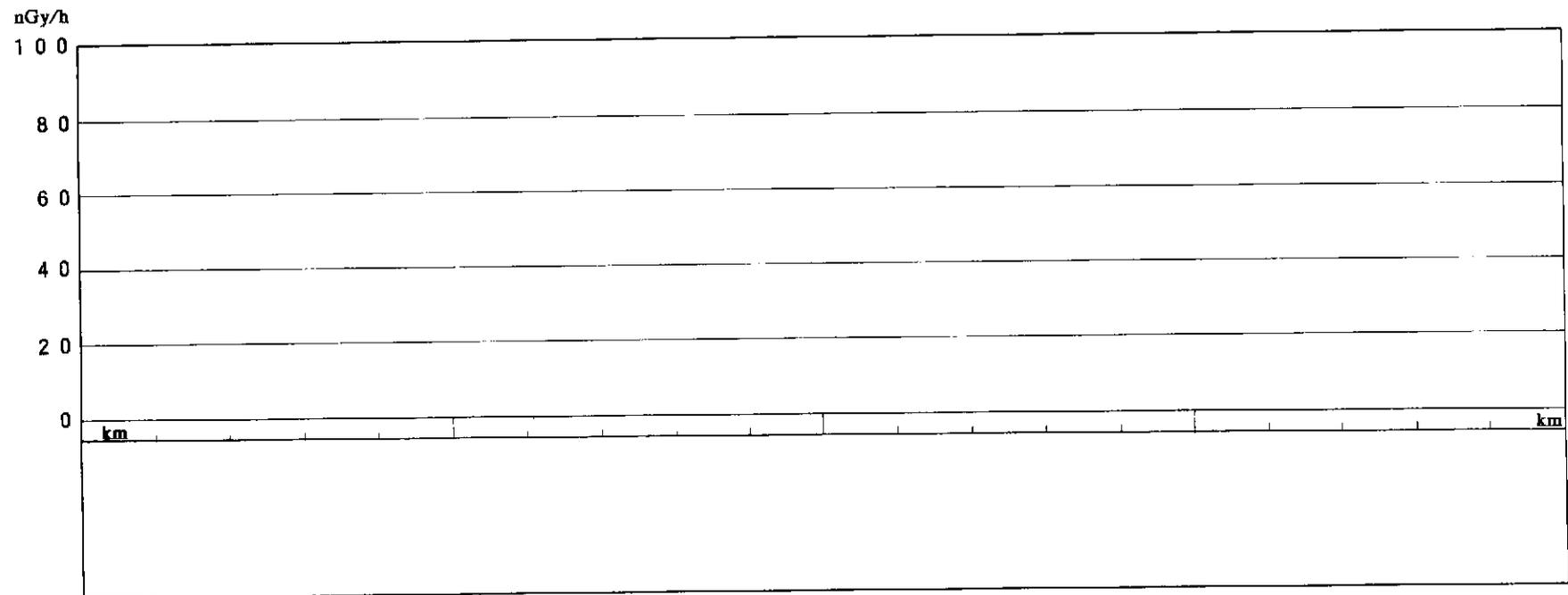
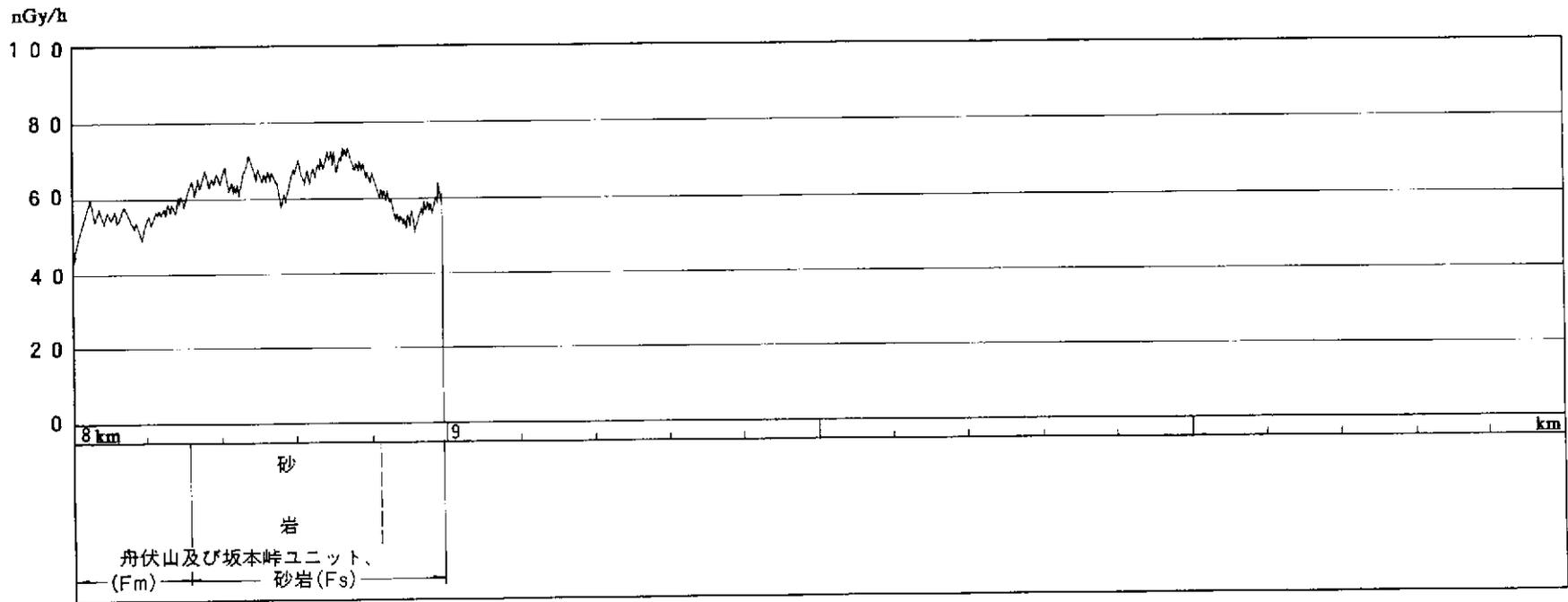
ルートNo.25



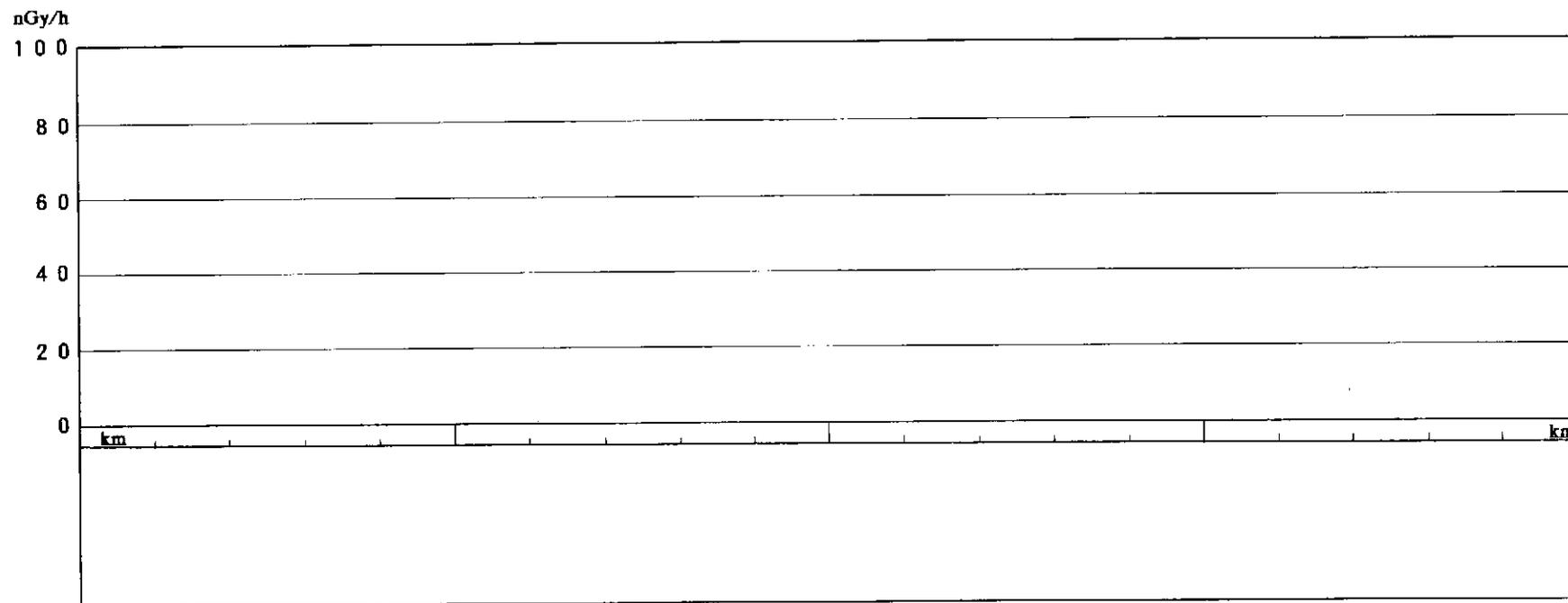
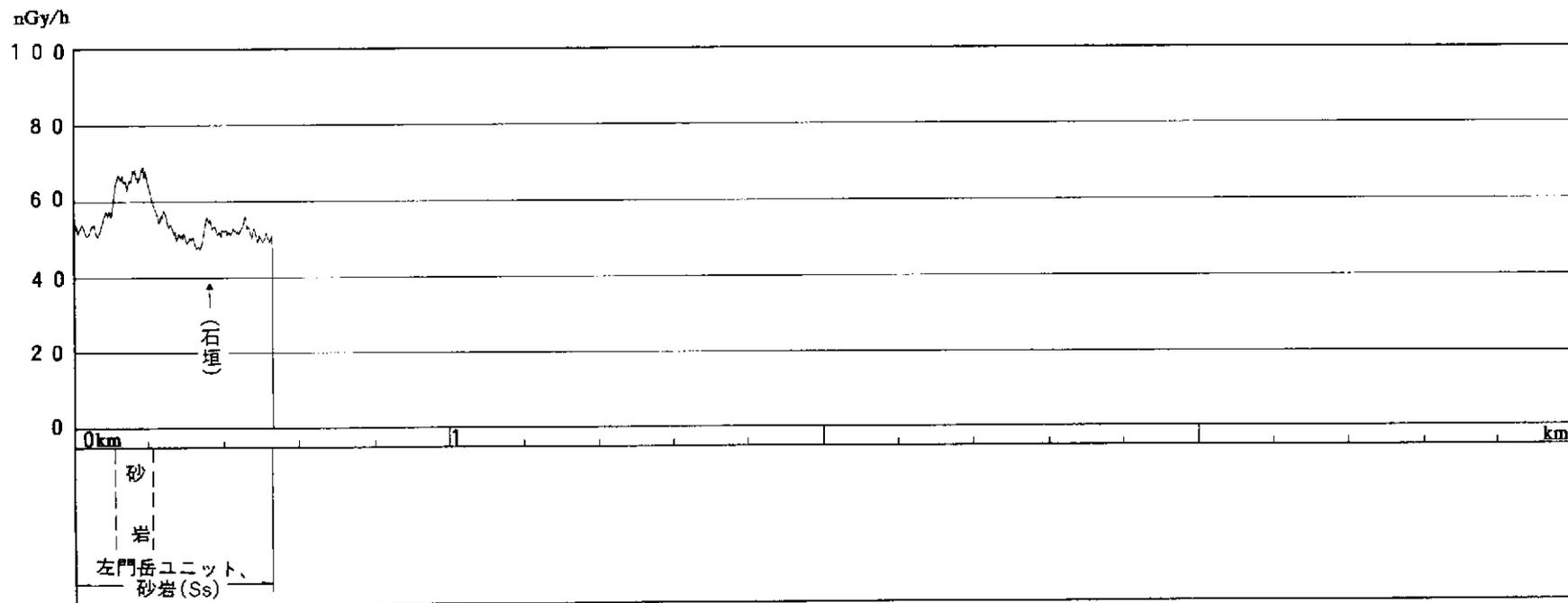
1/20万地質図では(Fb)が分布する

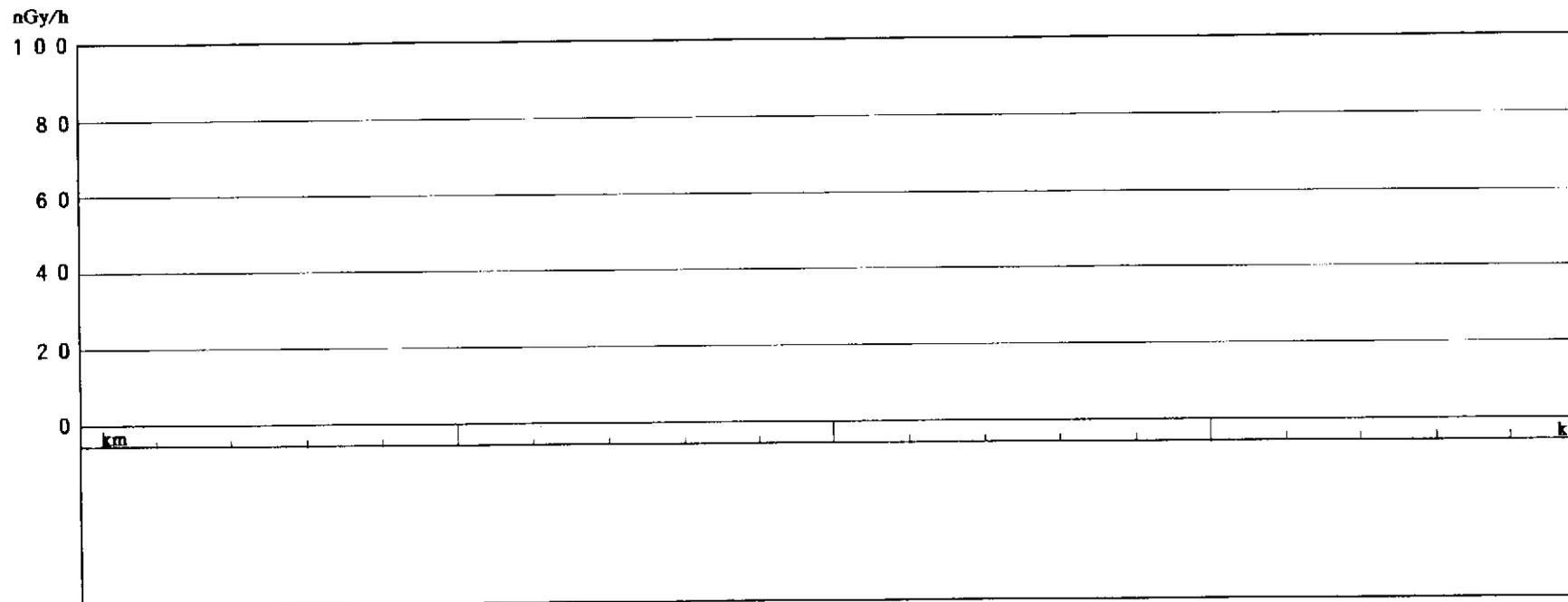
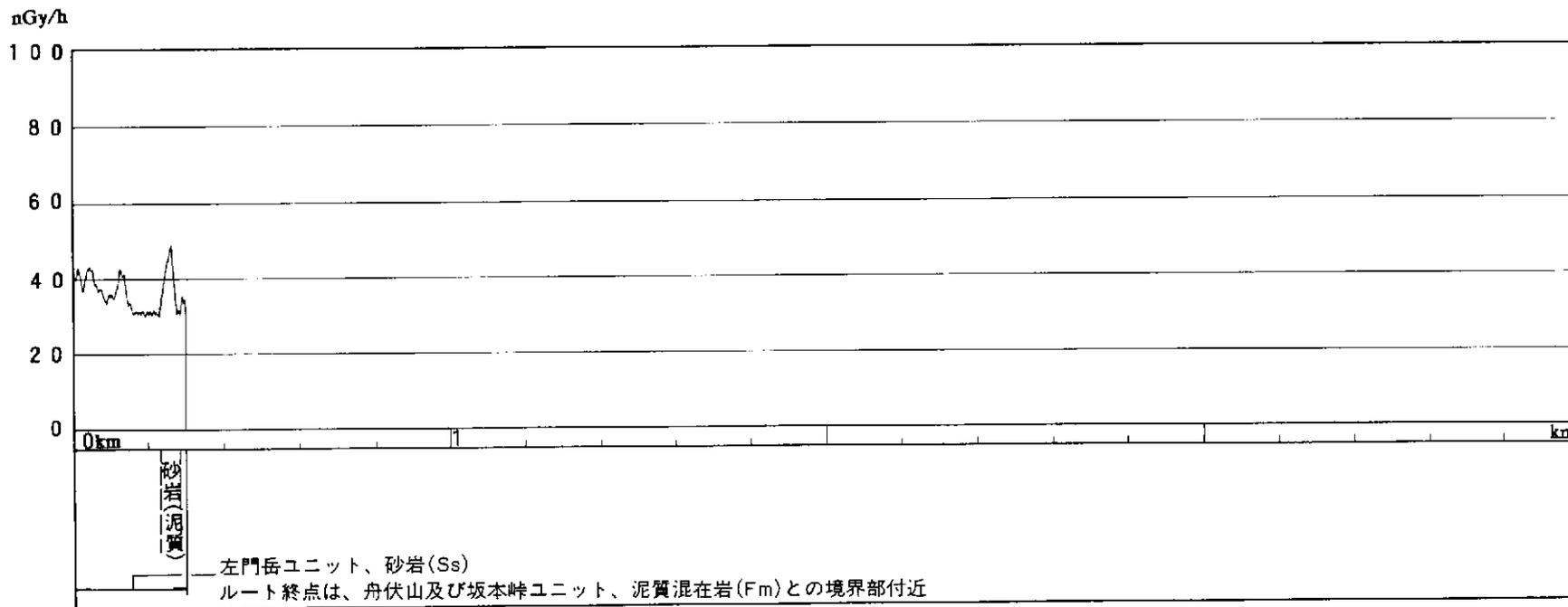
ルートNo.26 (その1)

—
∞
∞
—

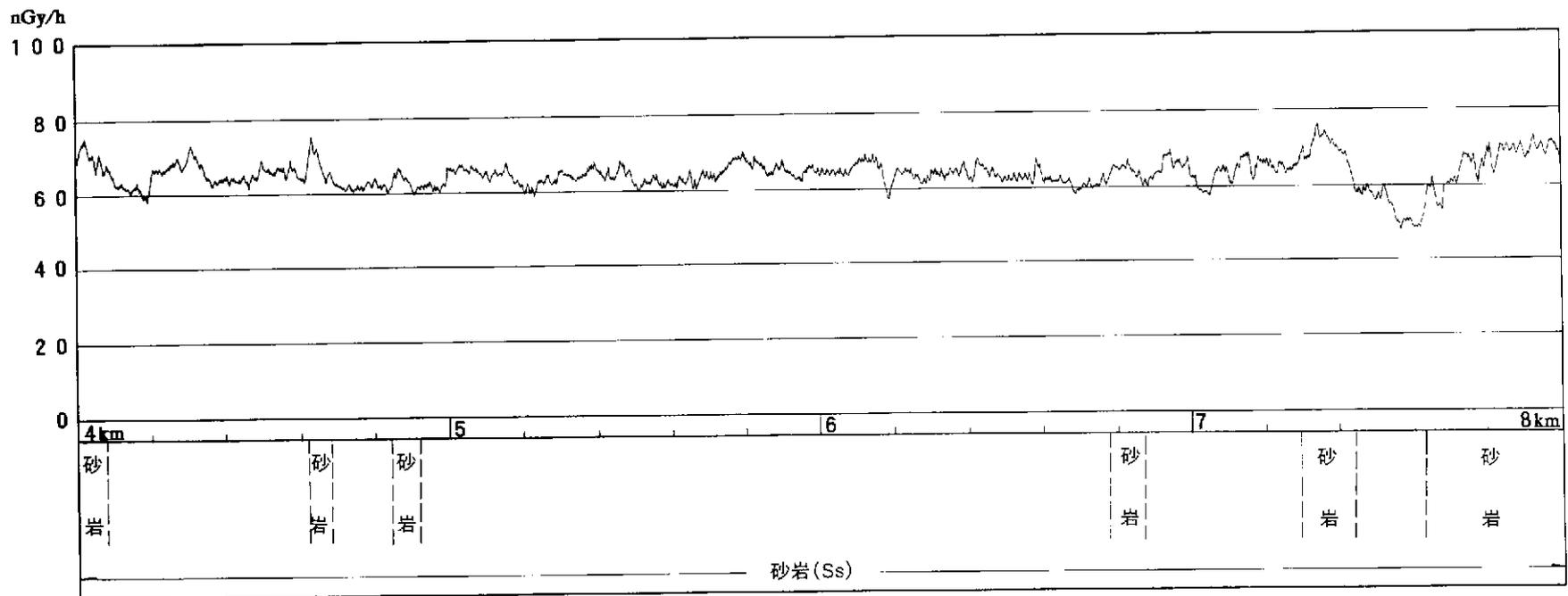
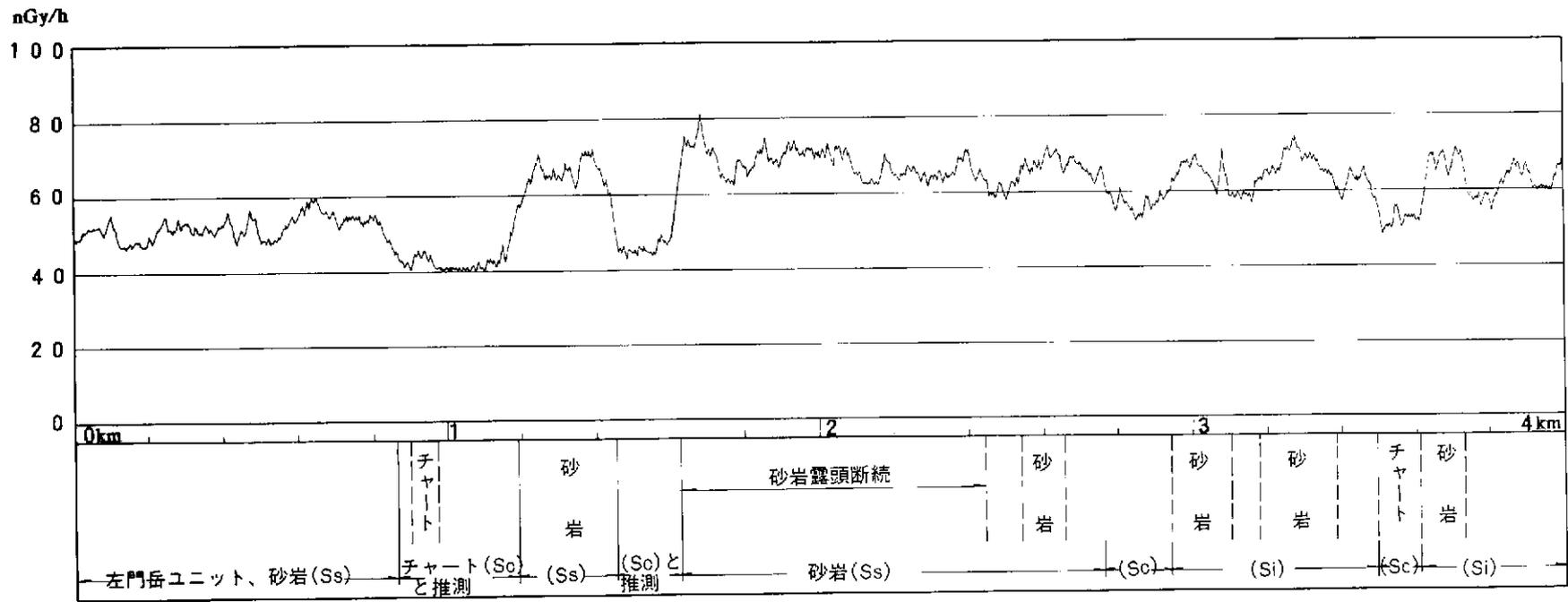


ルートNo.26(その2)

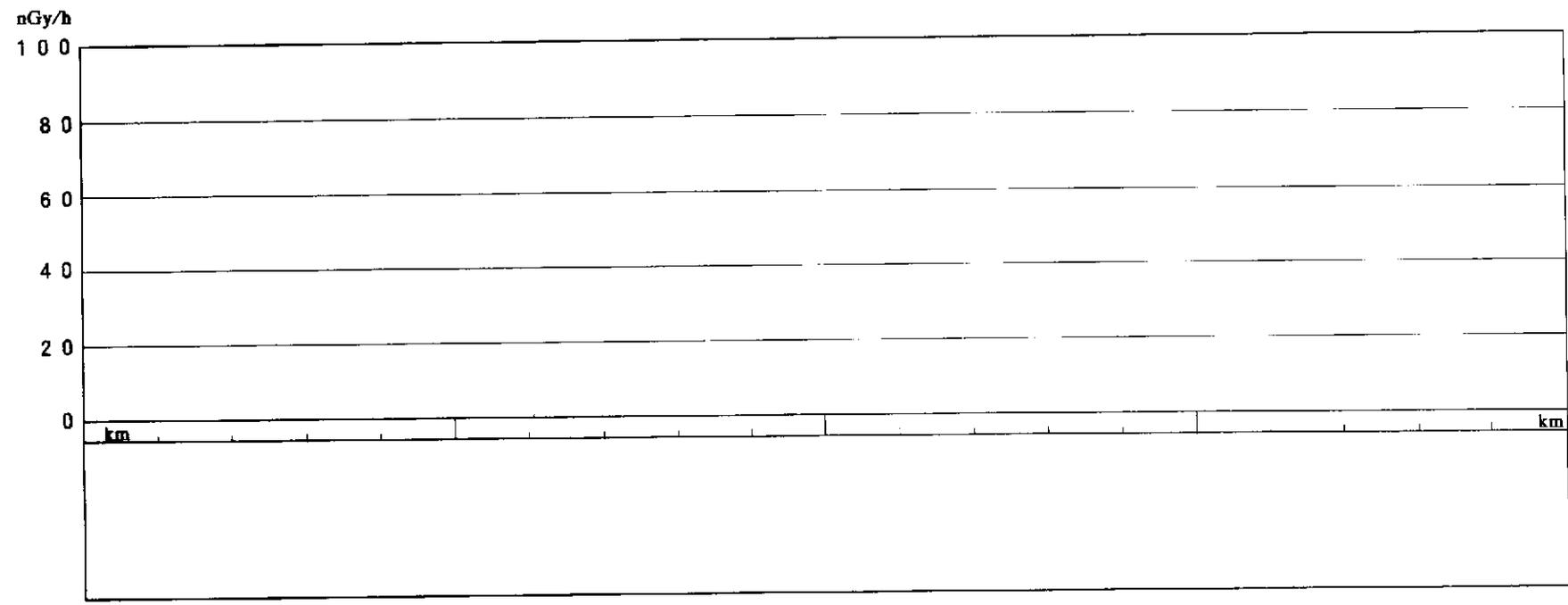
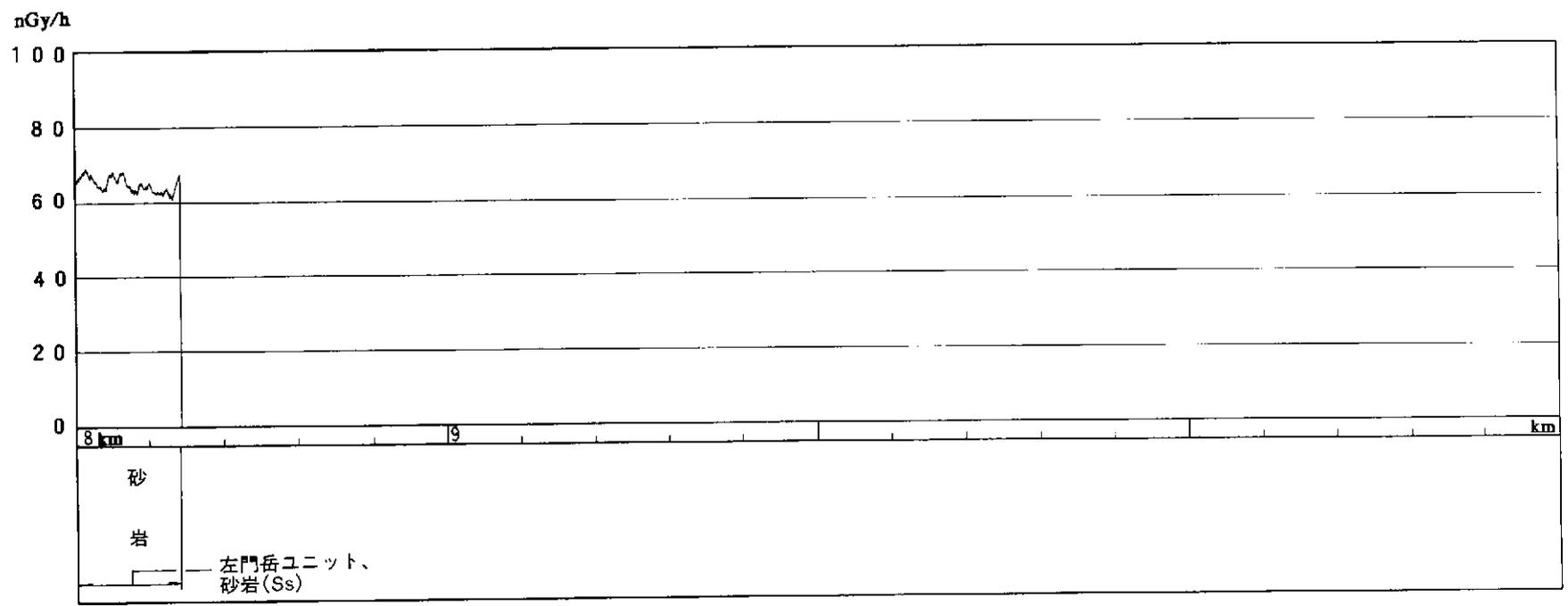




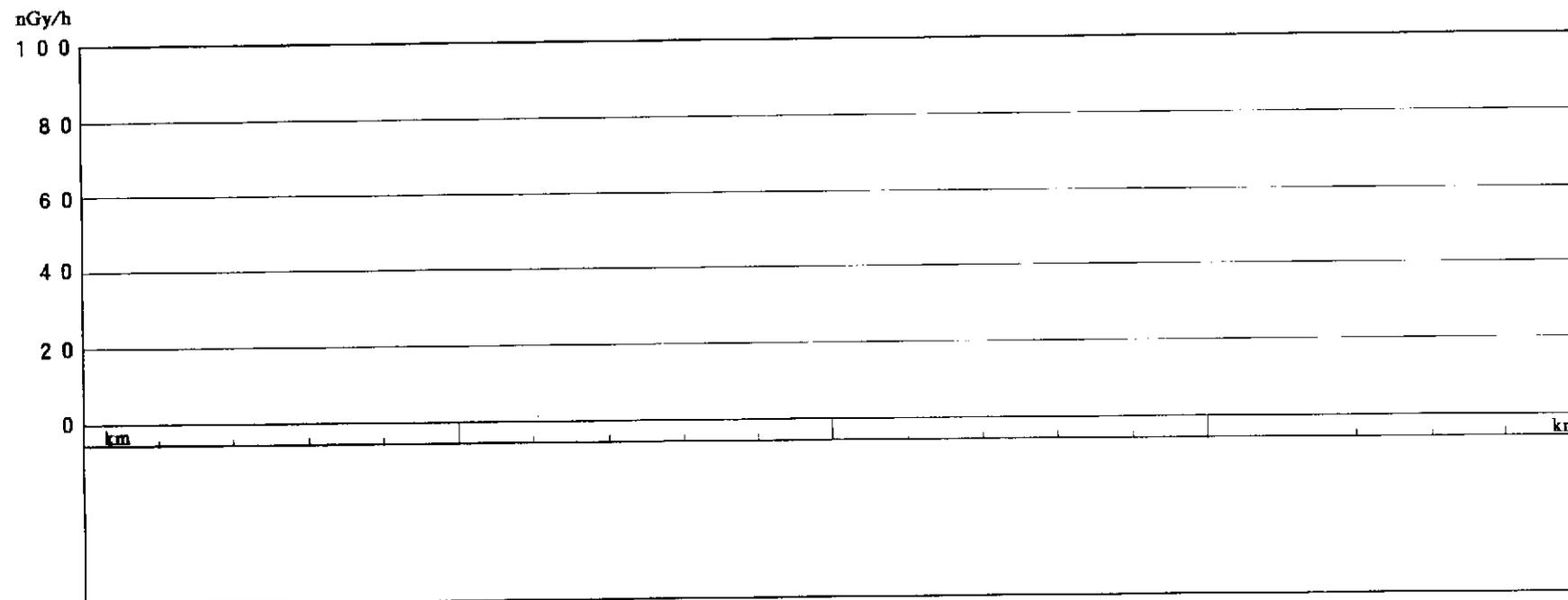
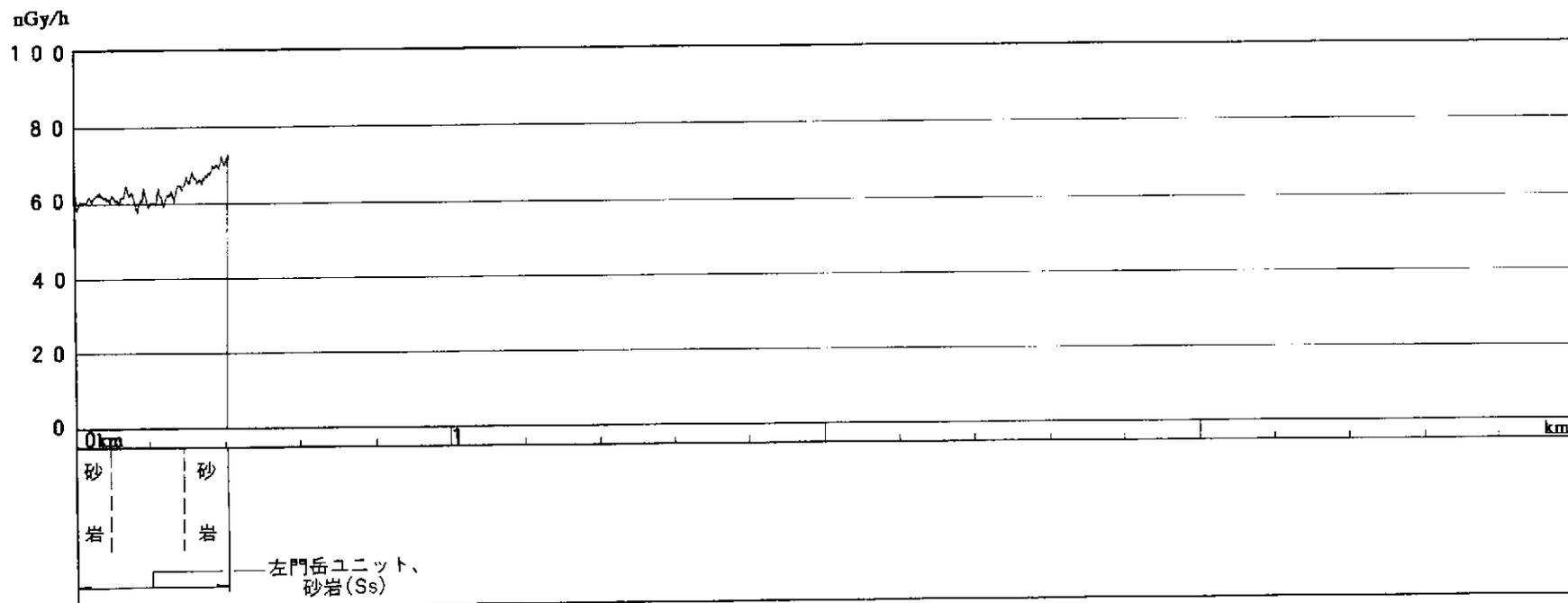
ルートNo.28



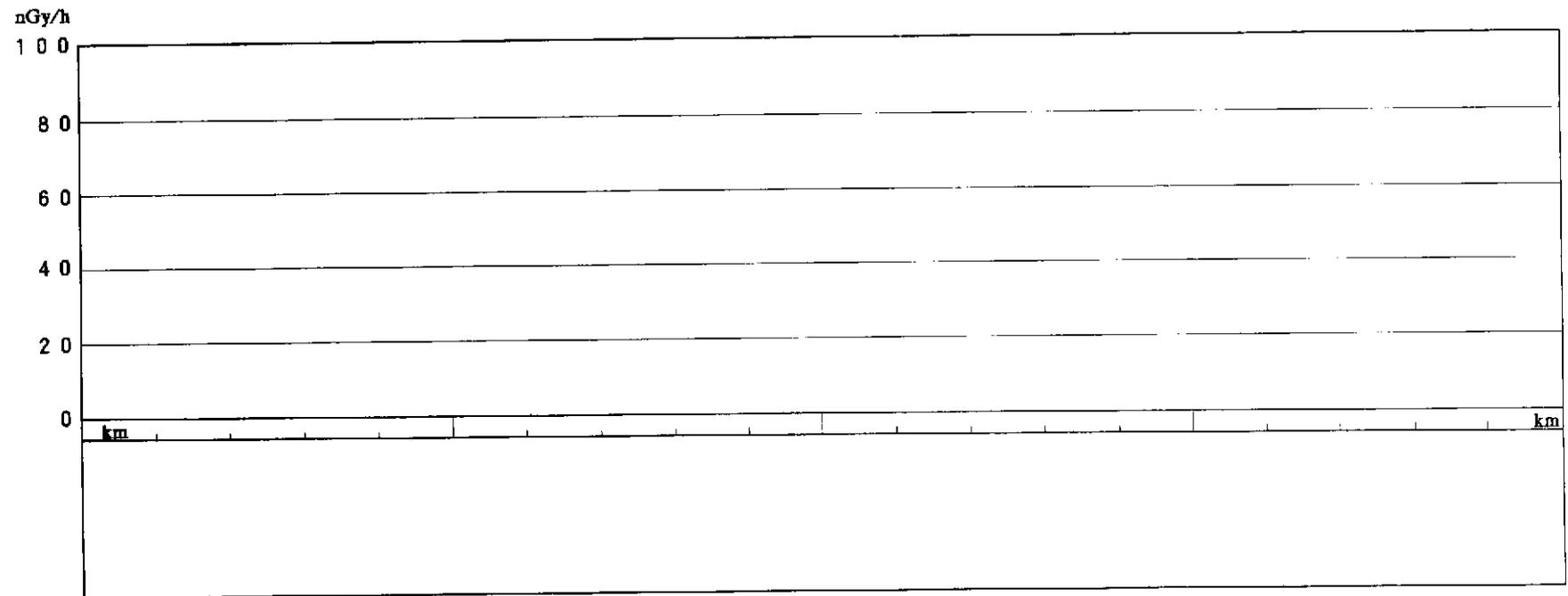
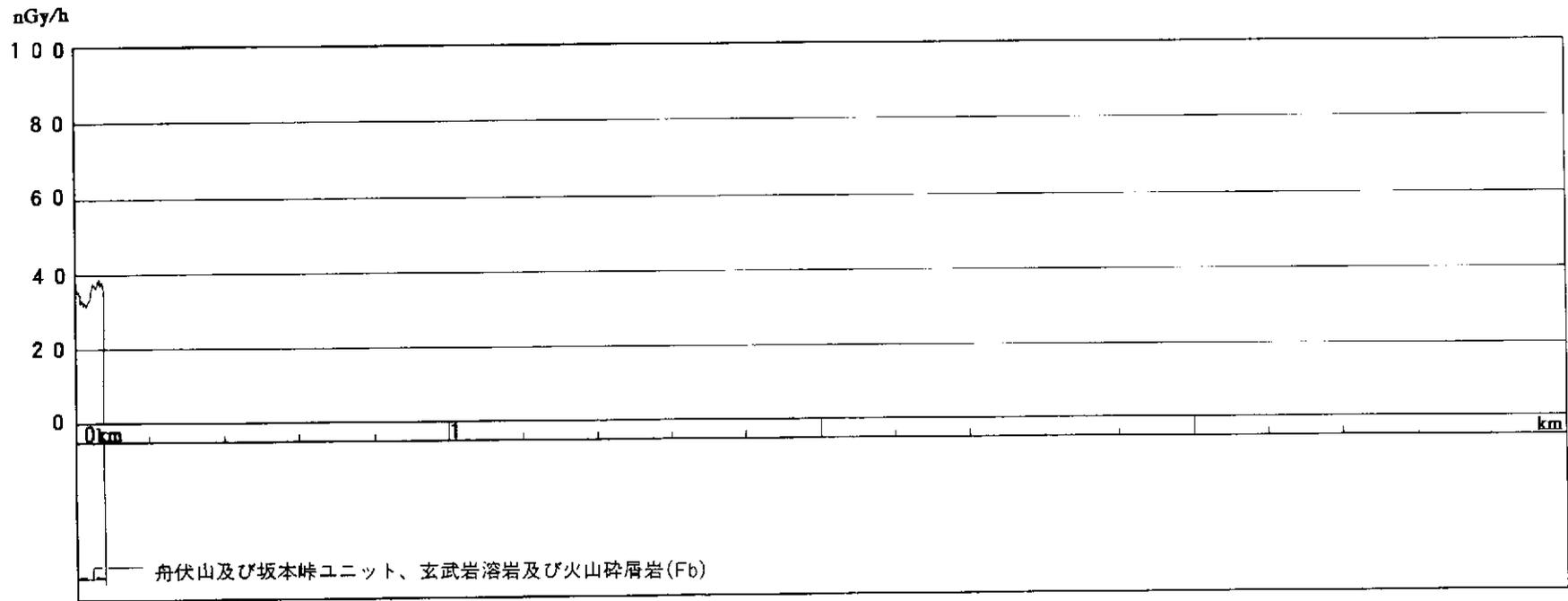
ルートNo.29(その1)



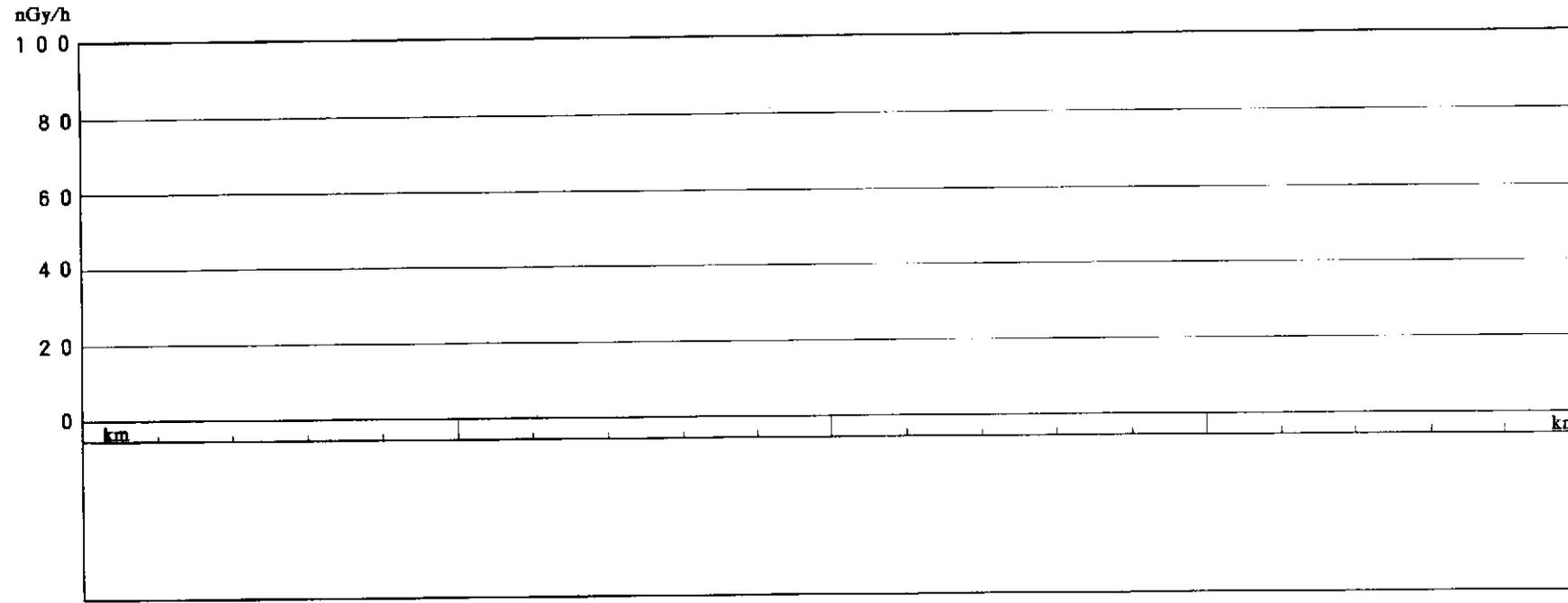
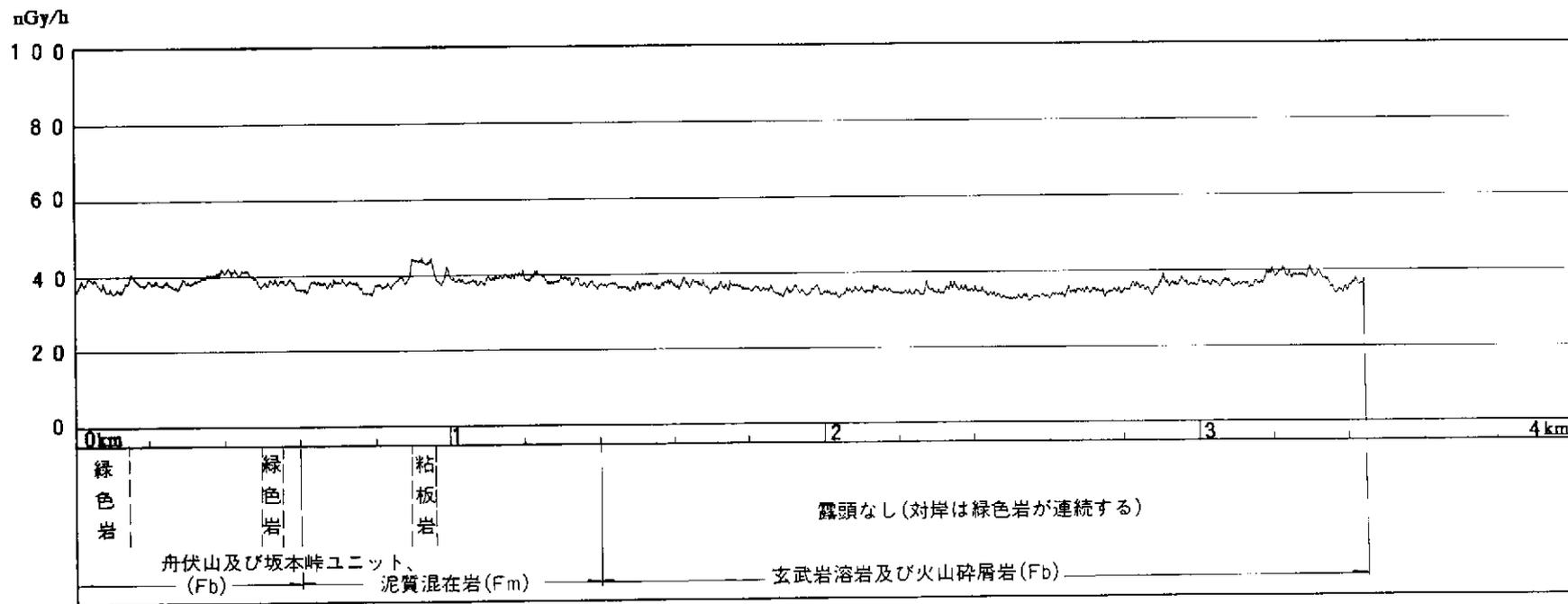
ルートNo.29 (その2)



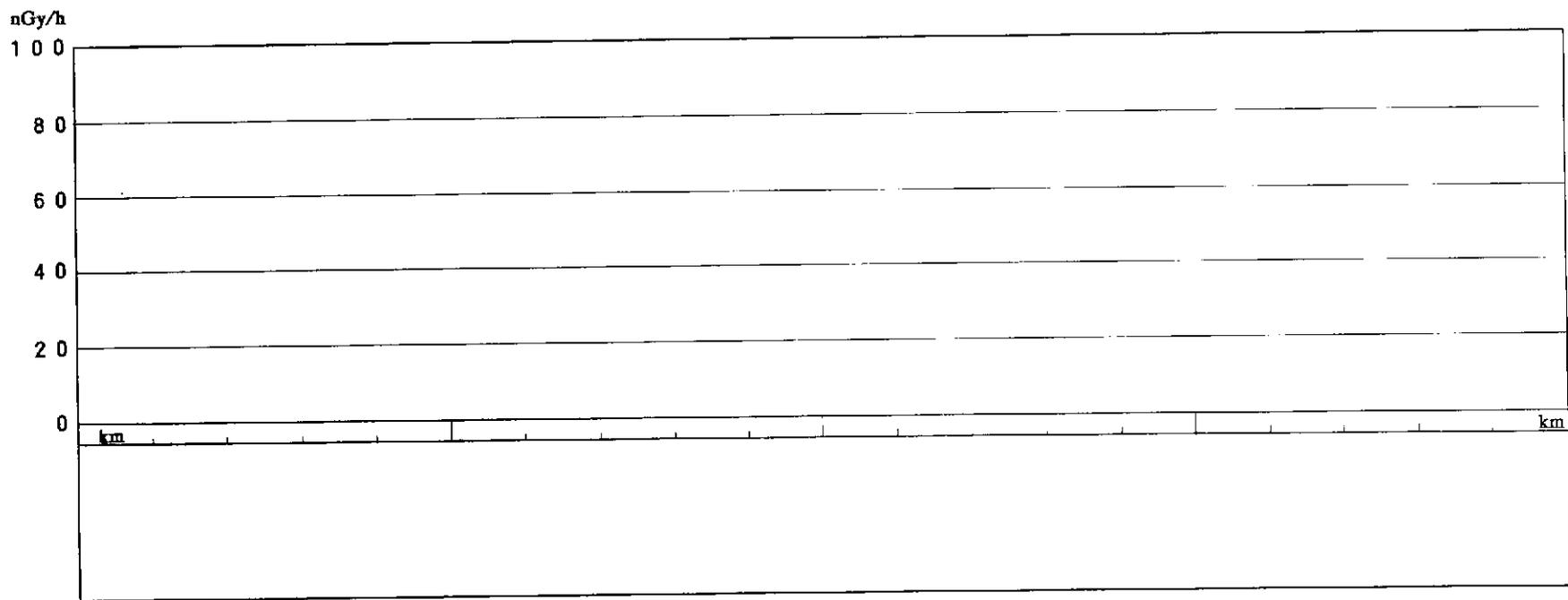
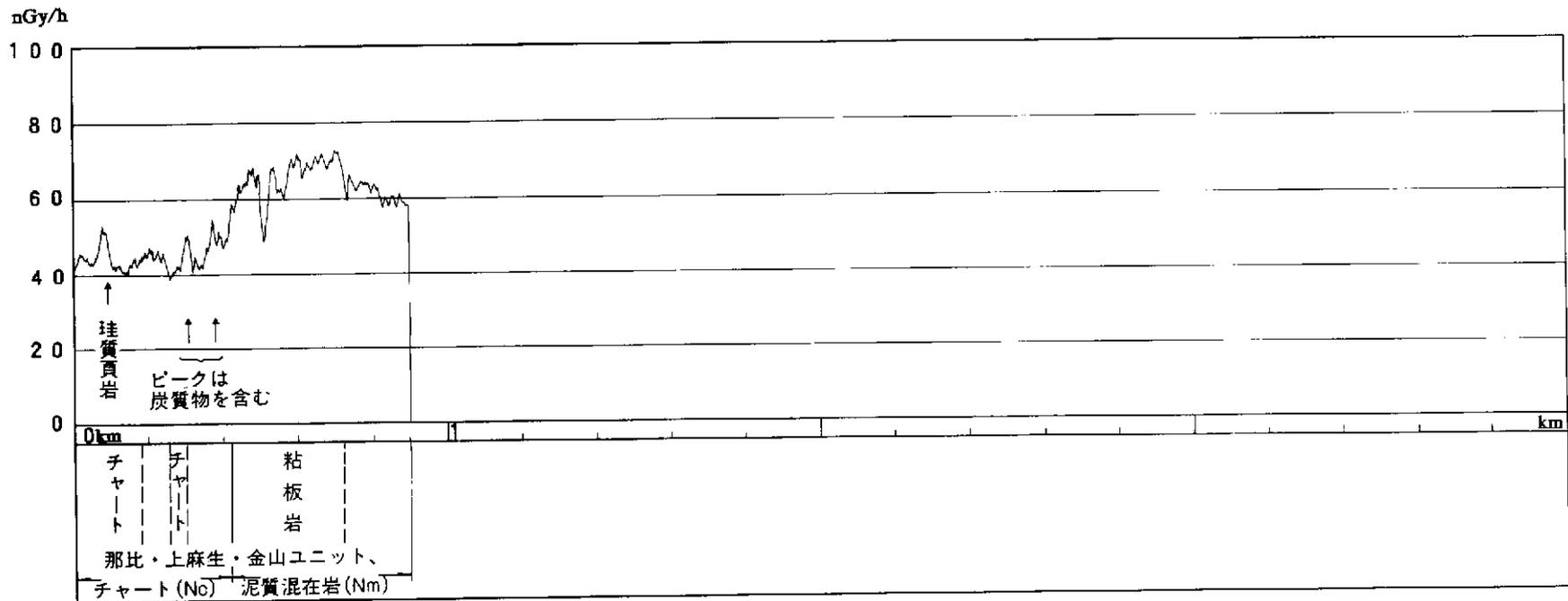
ルートNo.30



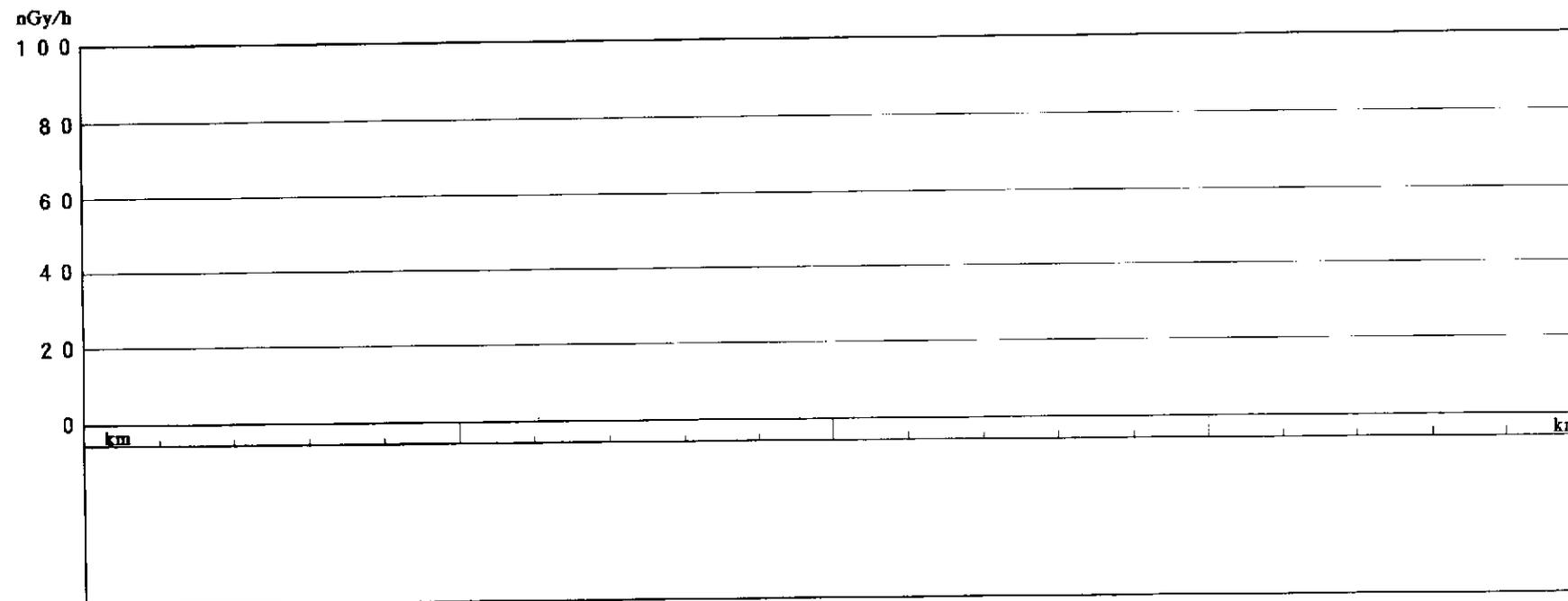
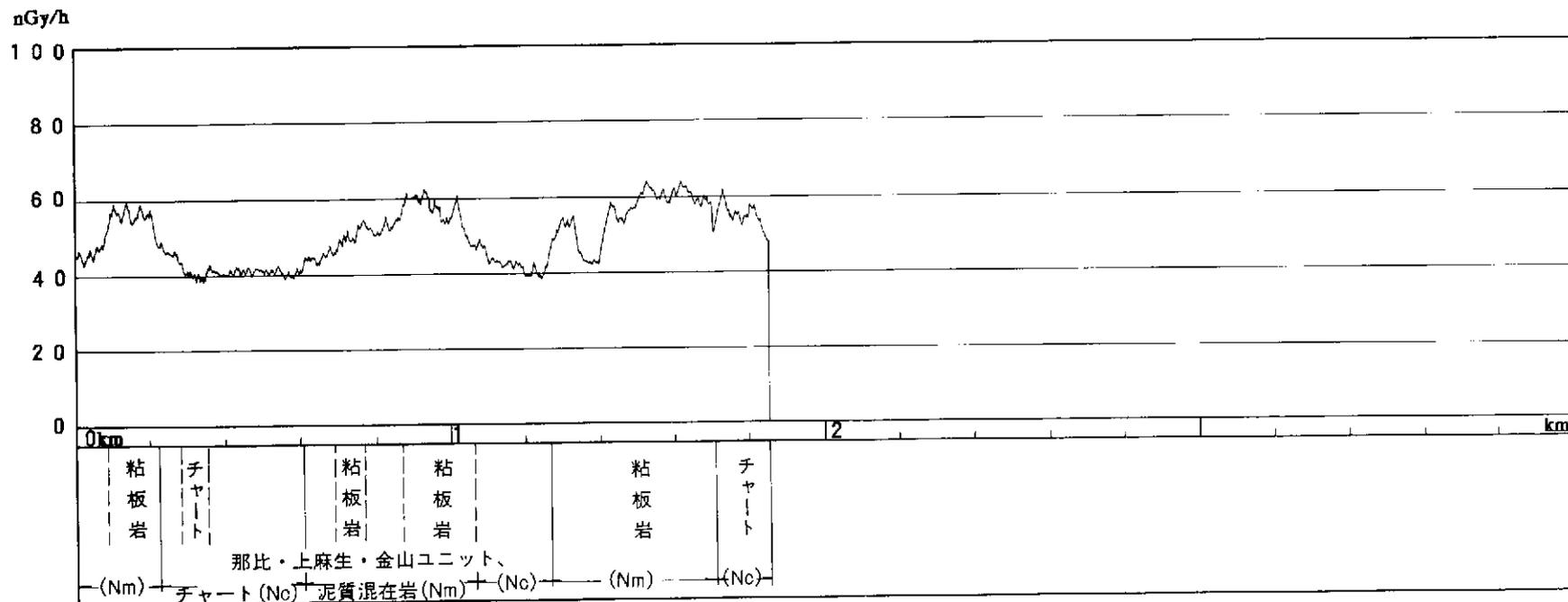
ルートNo.31



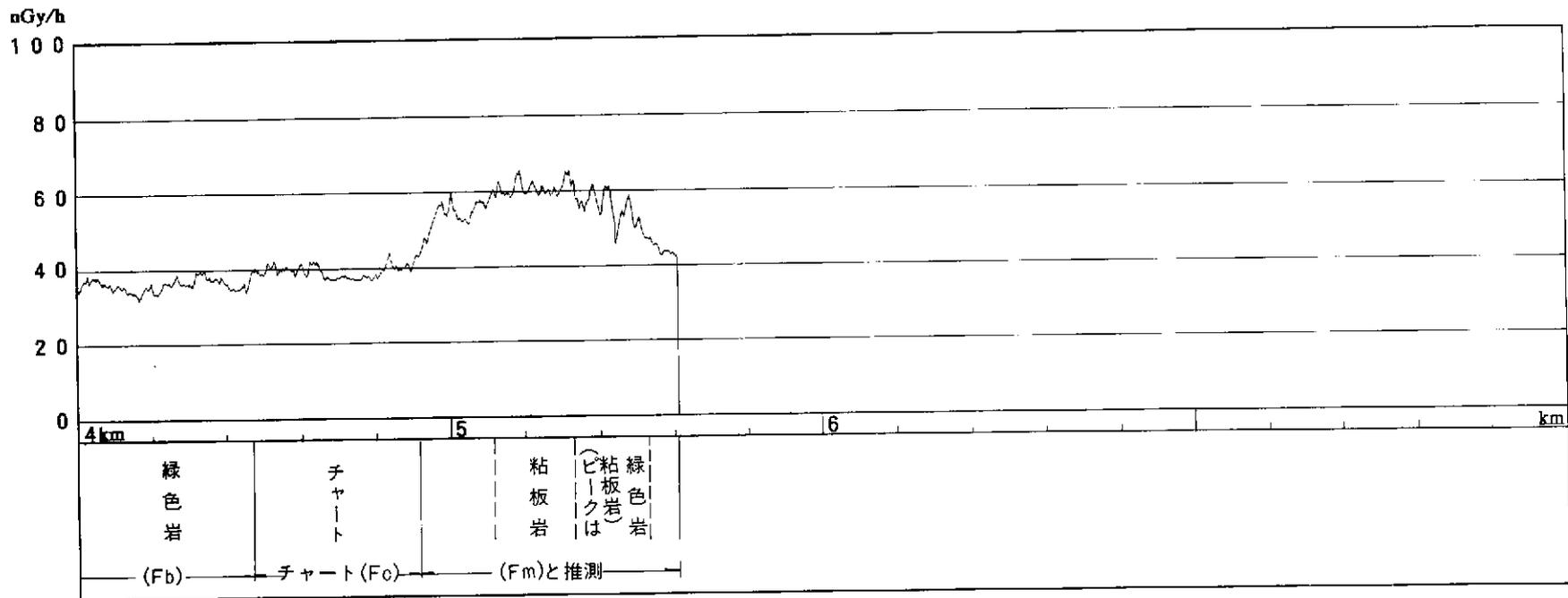
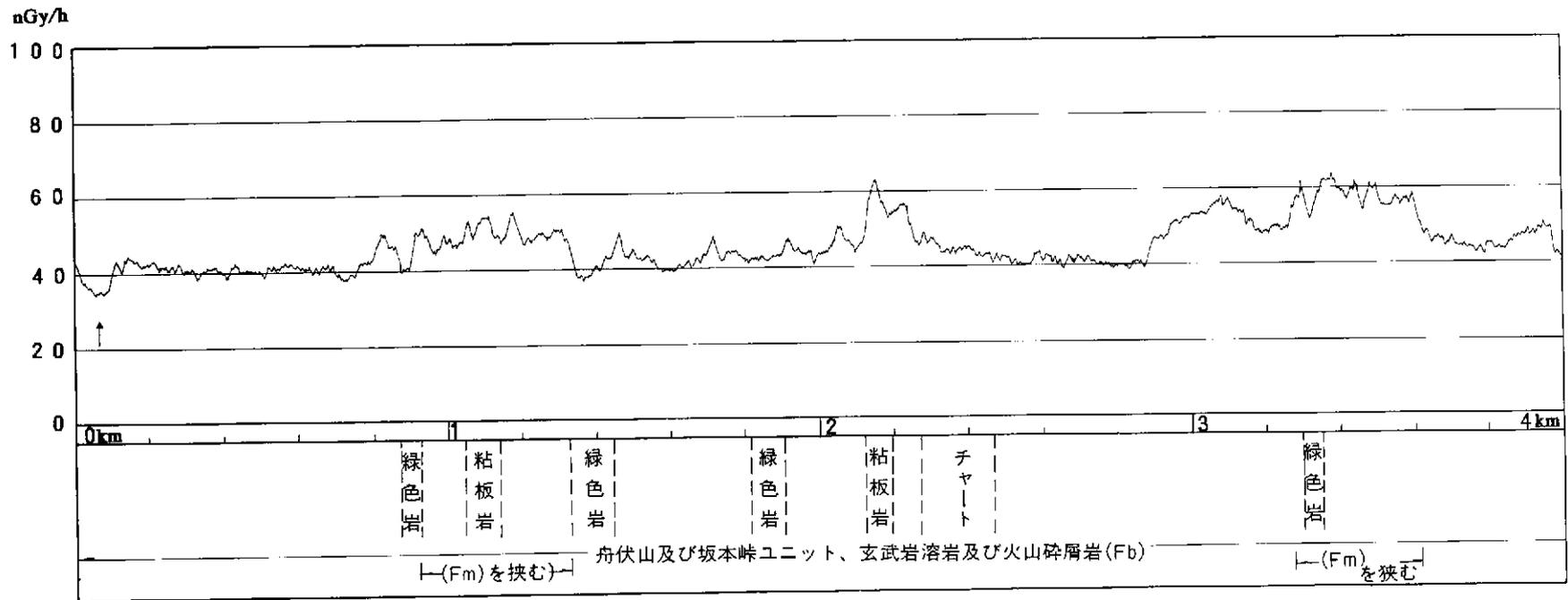
ルート No. 32



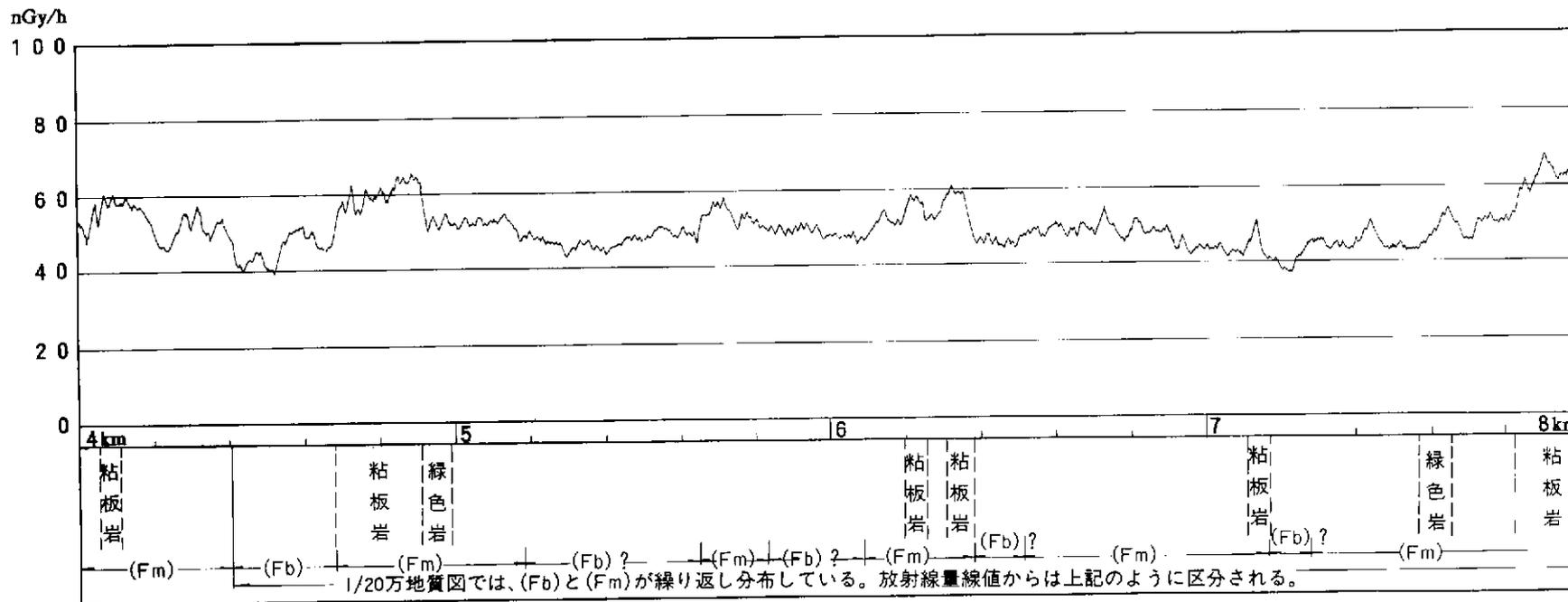
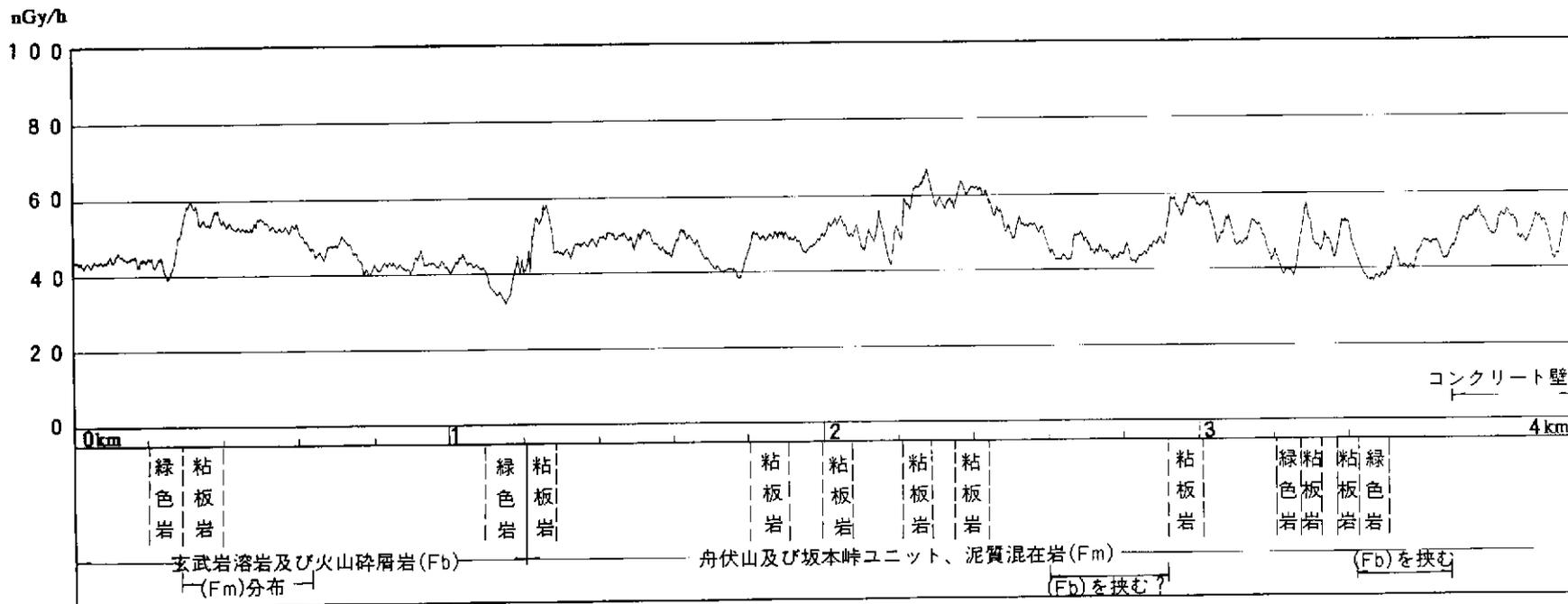
ルートNo.33



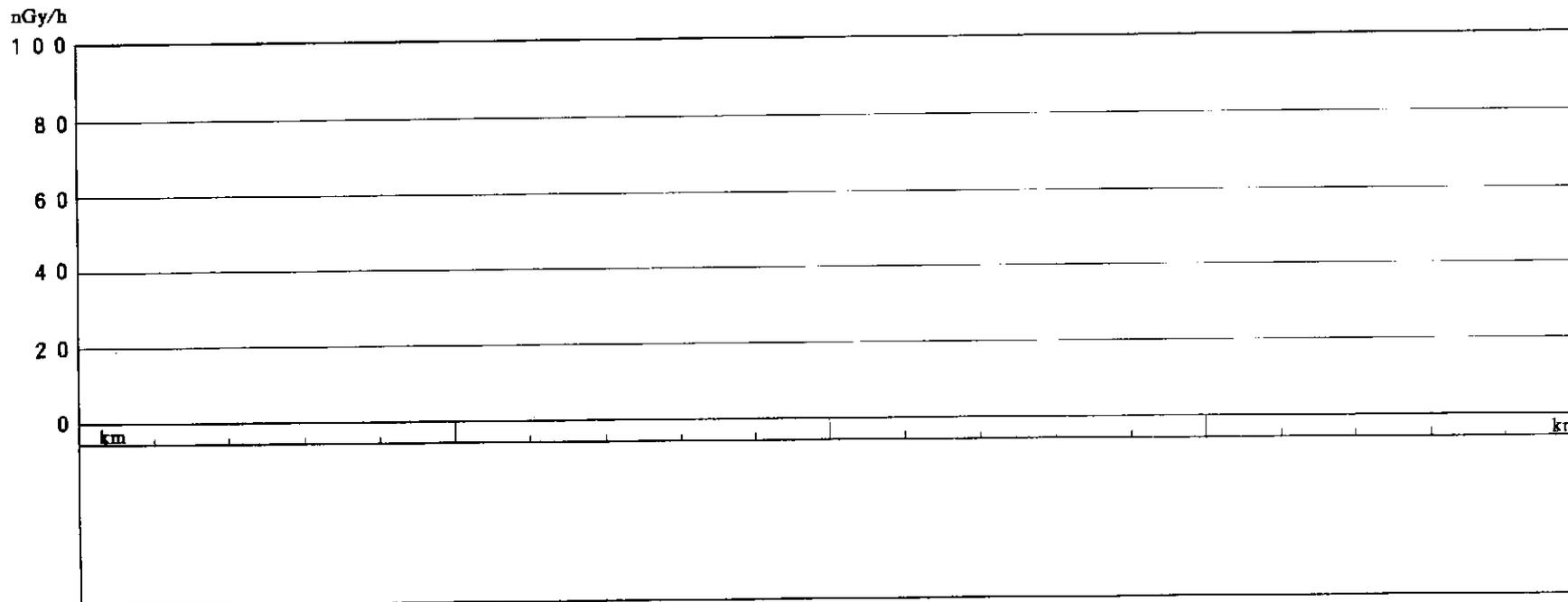
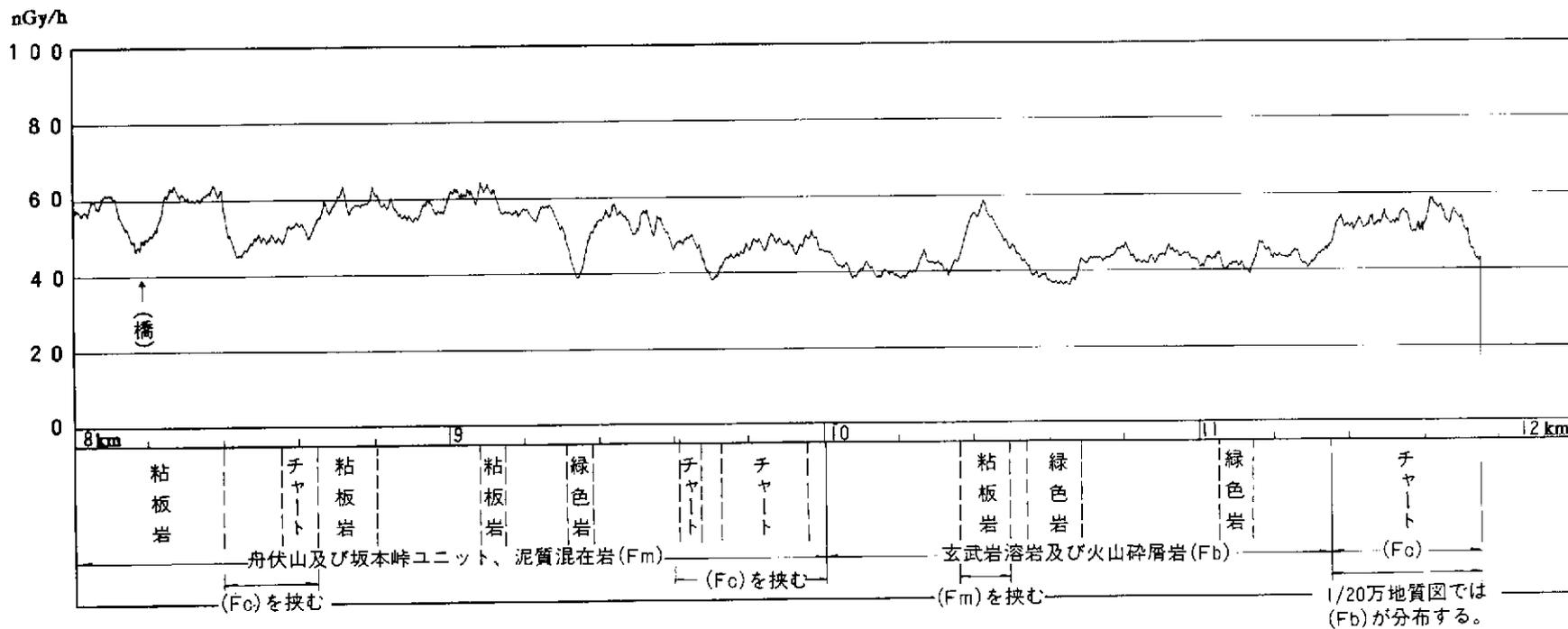
ルート No. 34



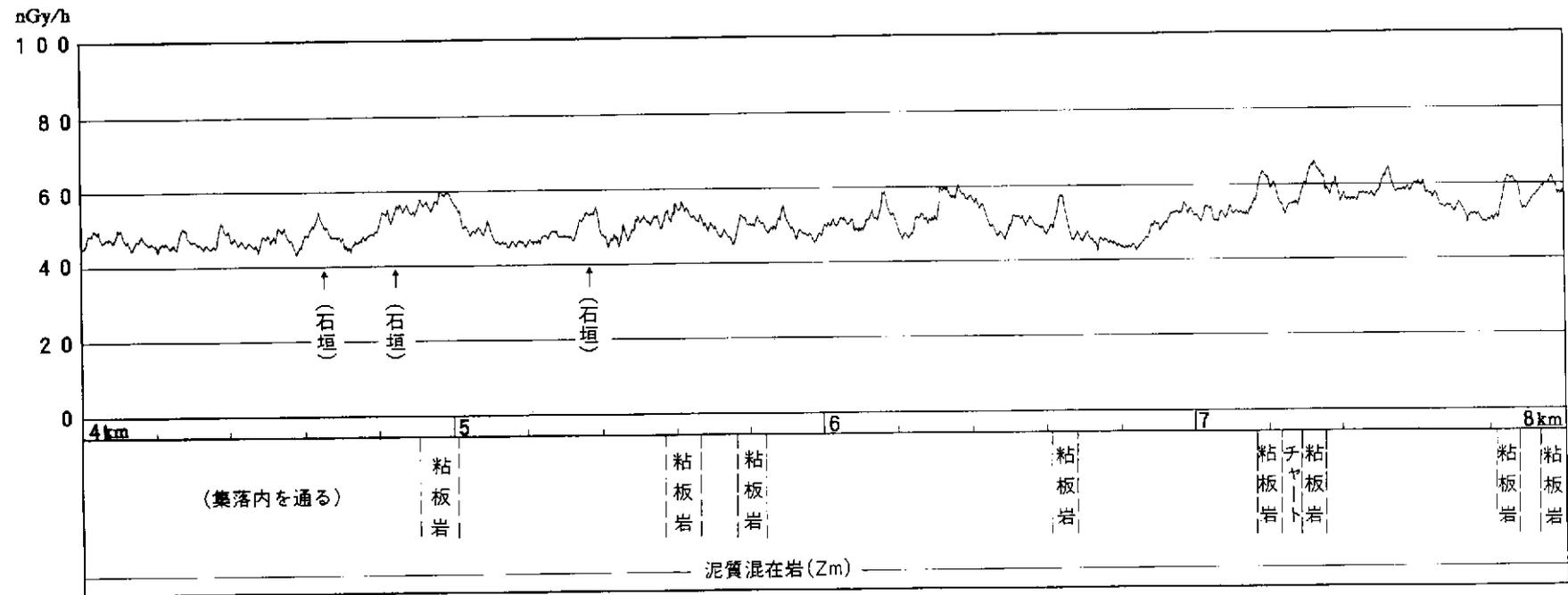
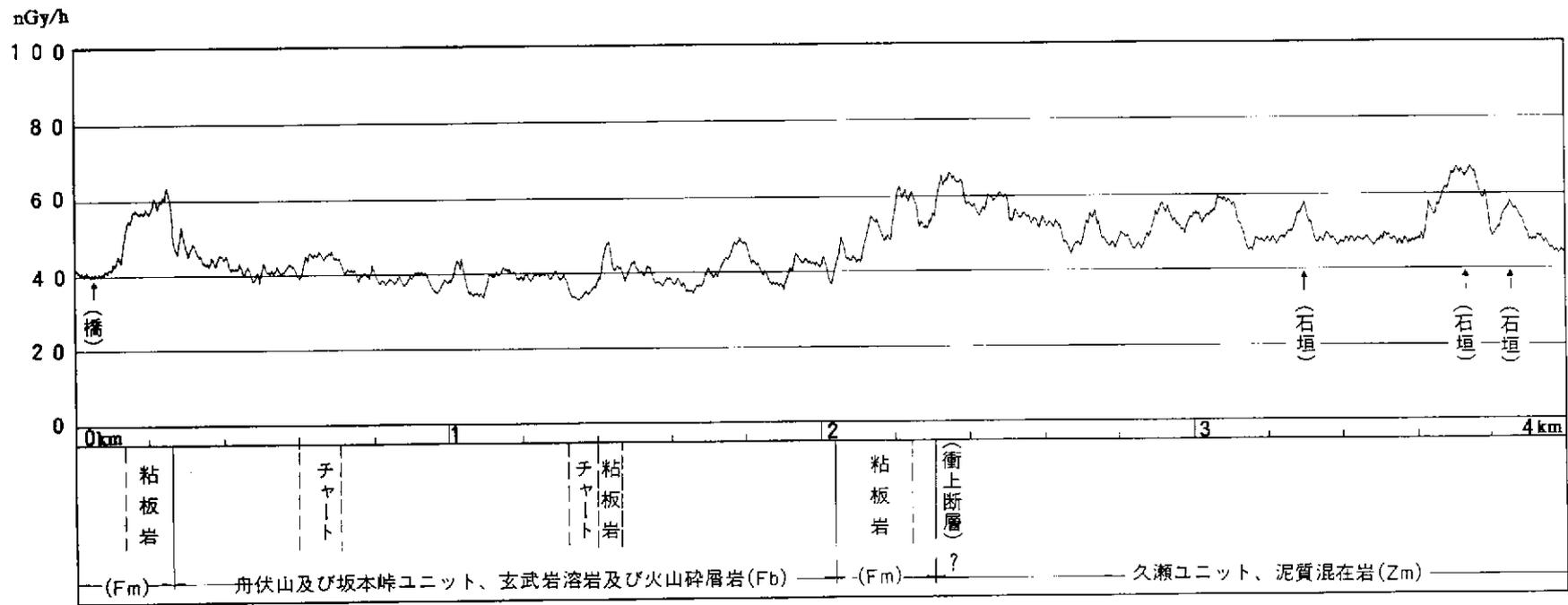
ルートNo.35



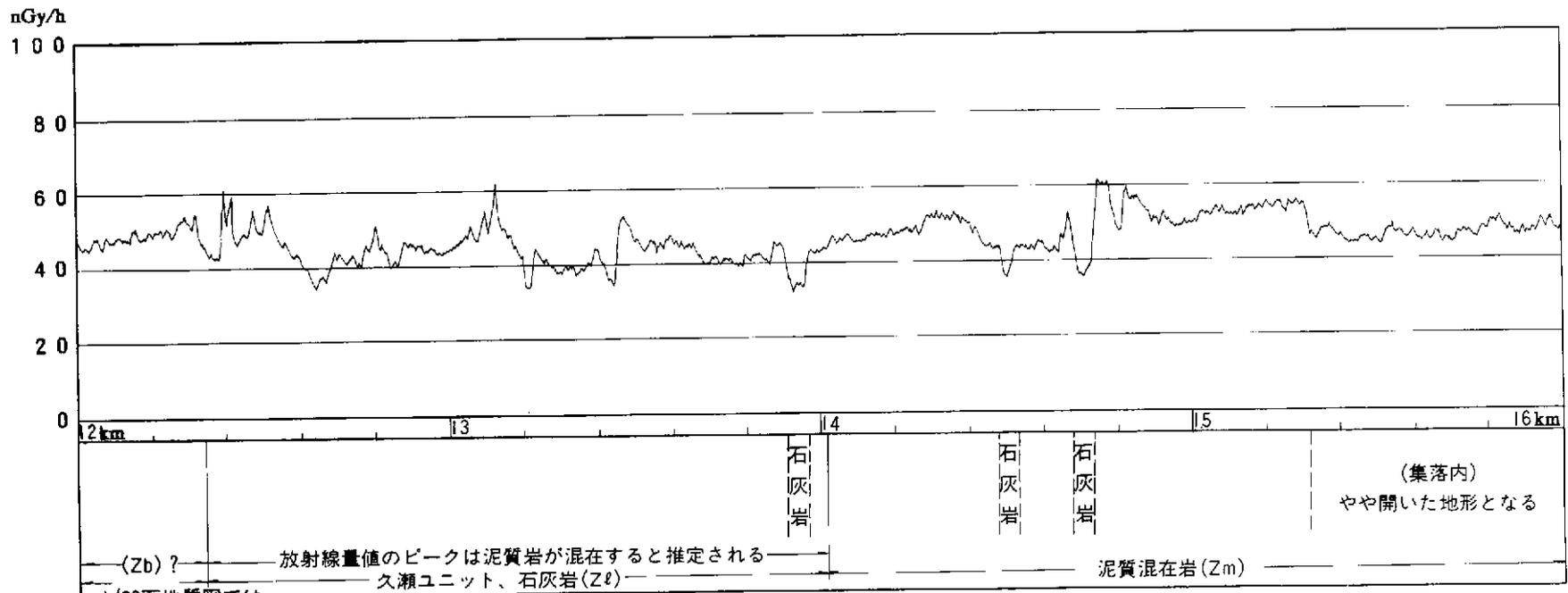
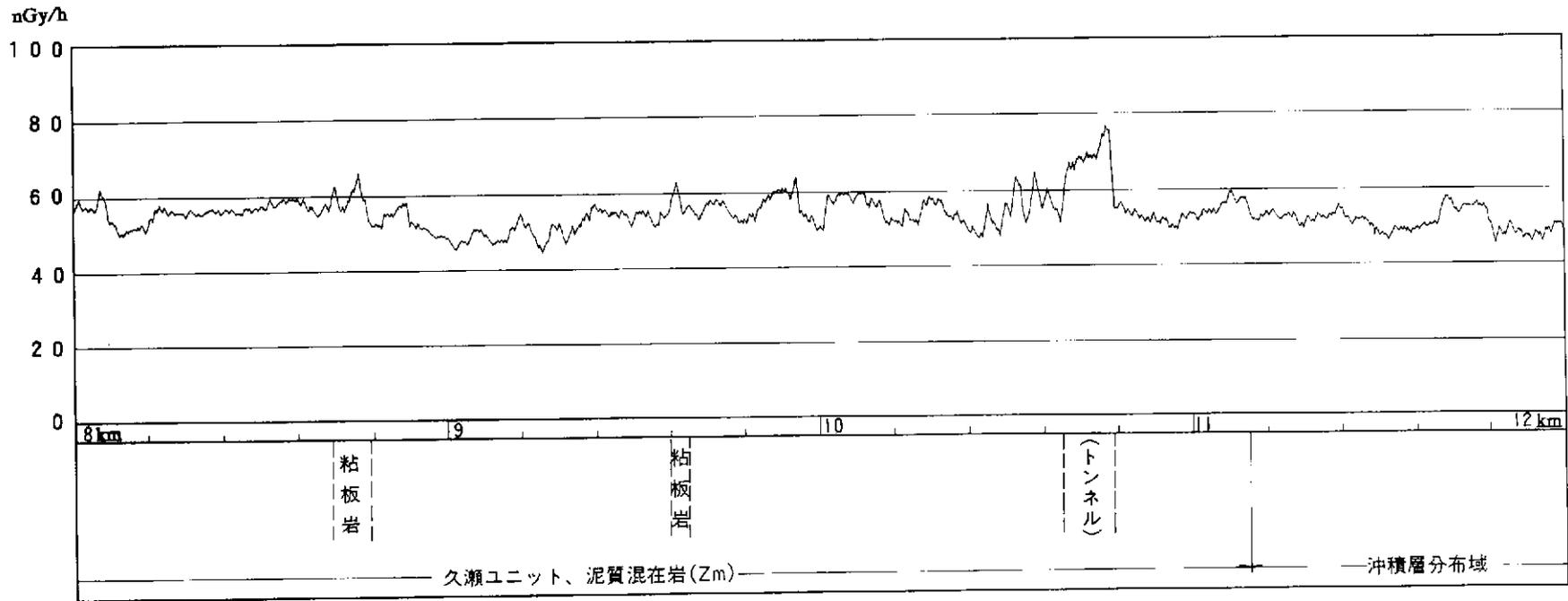
ルートNo.36 (その1)



ルートNo.36 (その2)

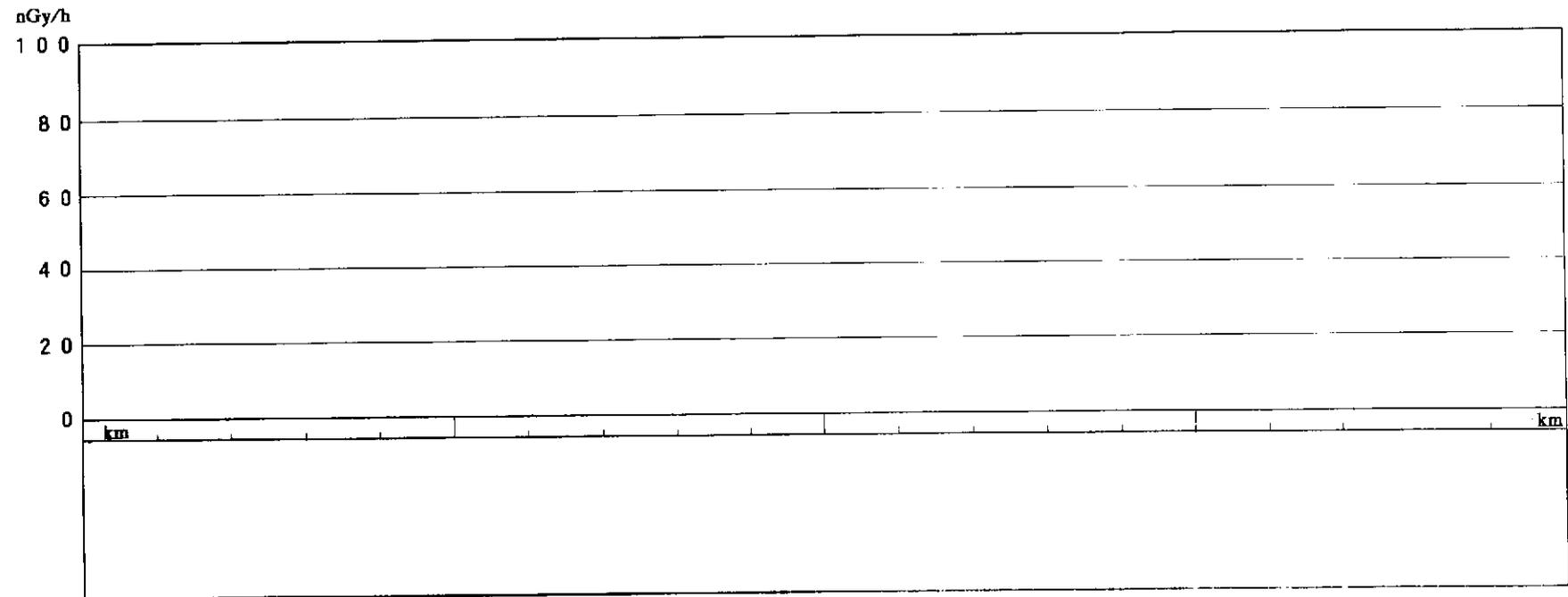
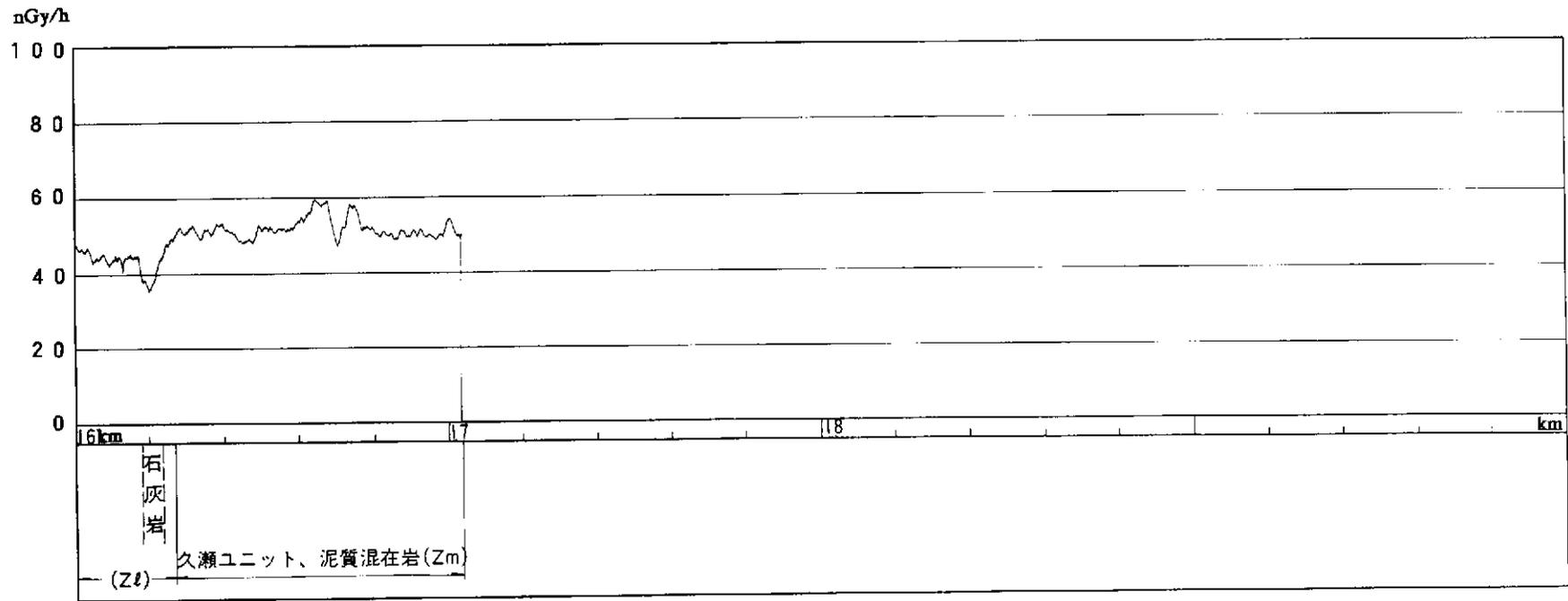


ルートNo.37 (その1)

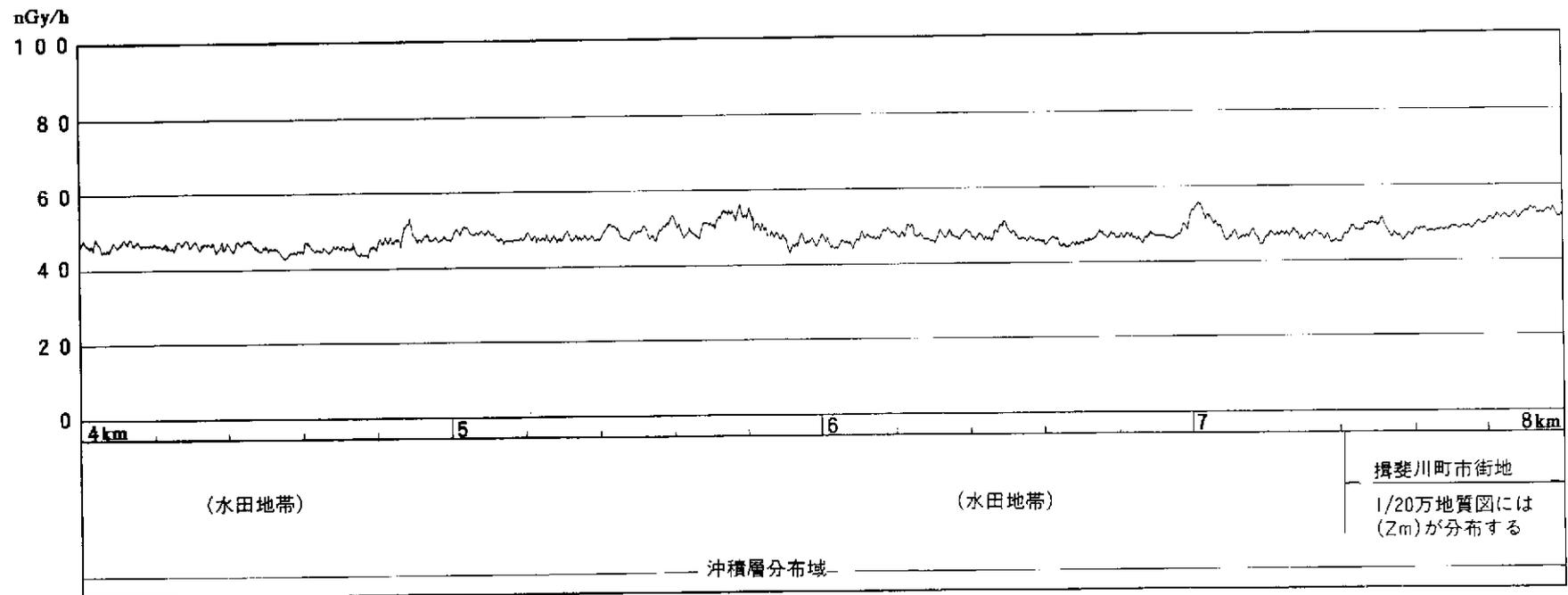
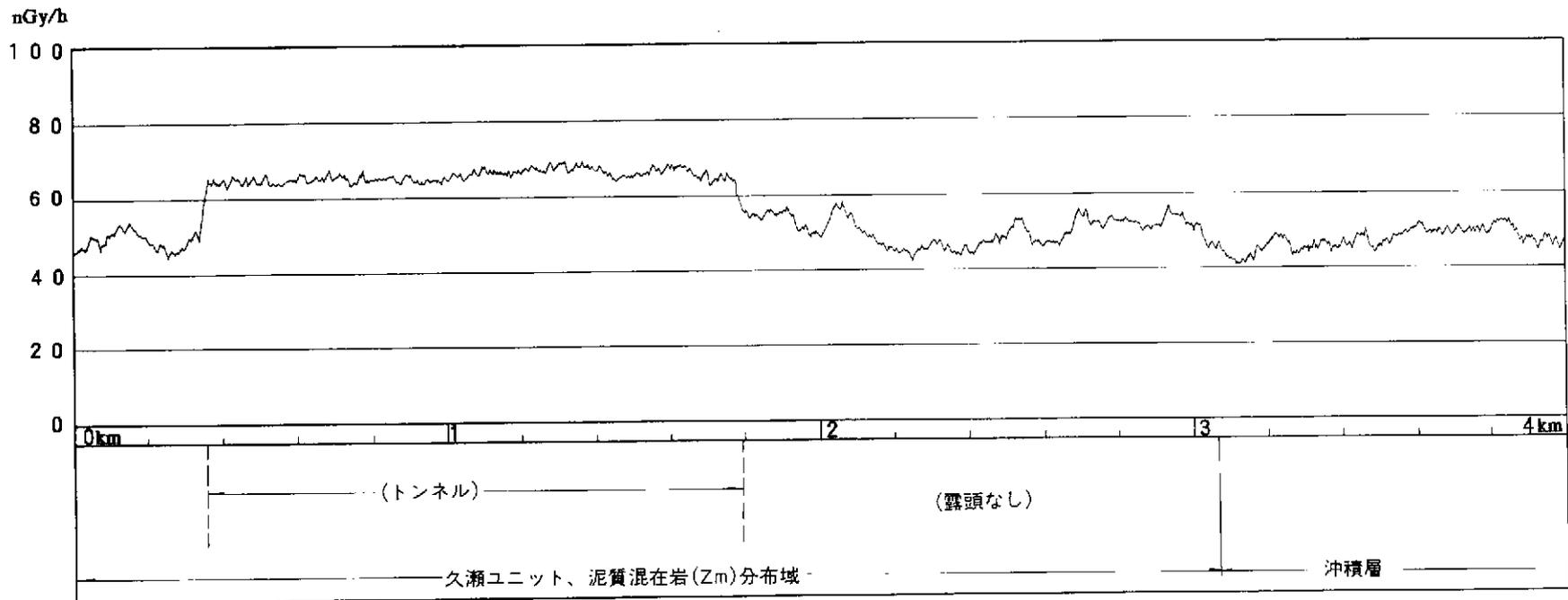


1/20万地質図では、玄武岩溶岩(Zb)がわずかに分布する。

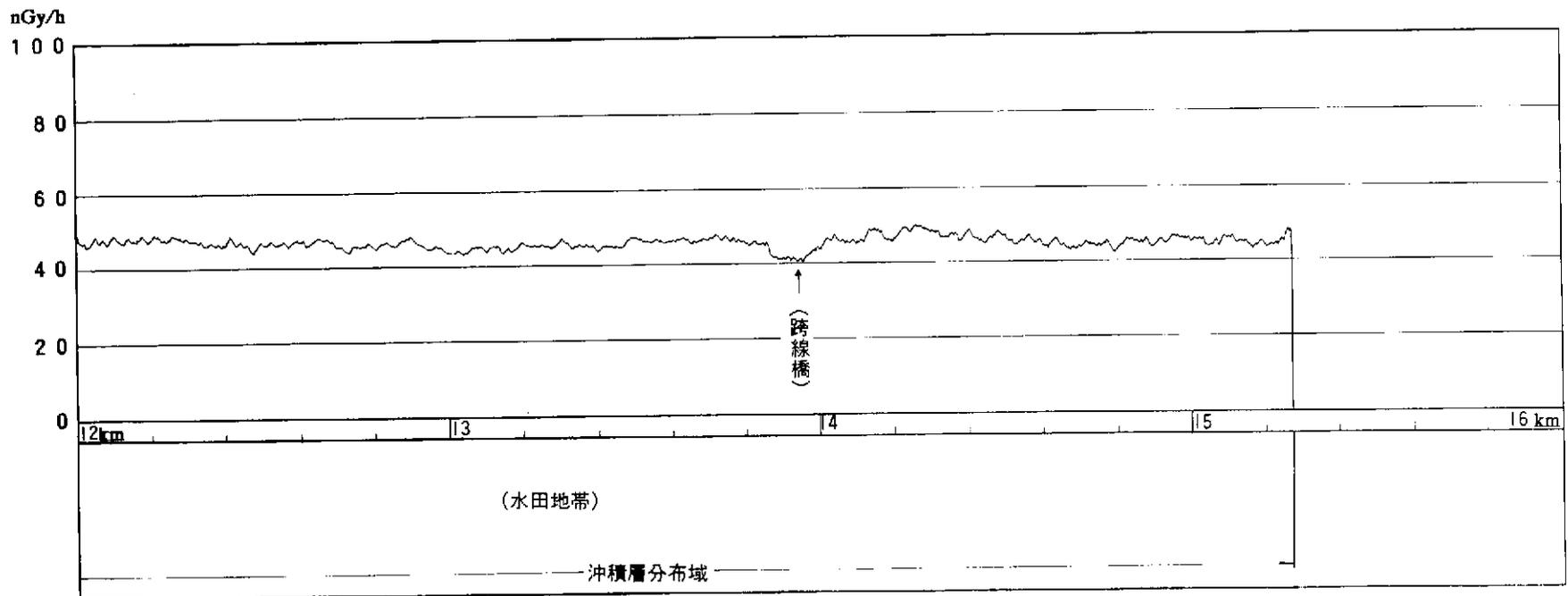
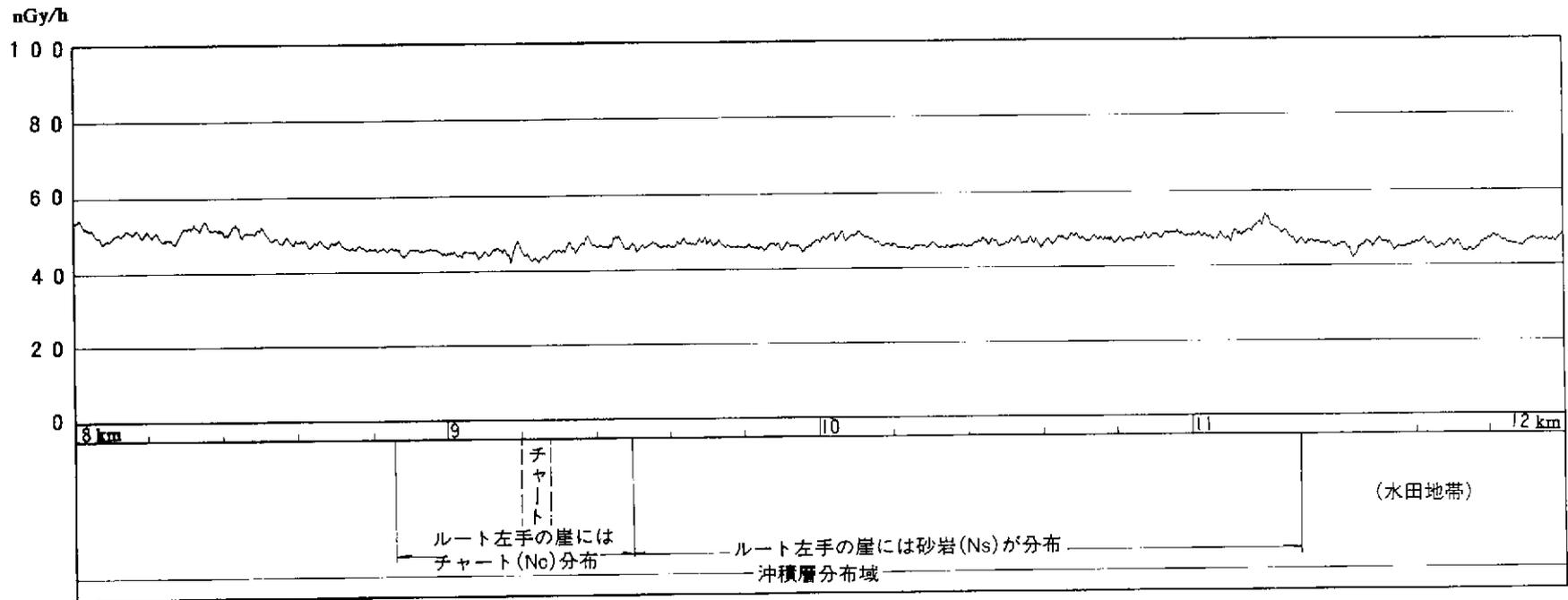
ルートNo.37 (その2)



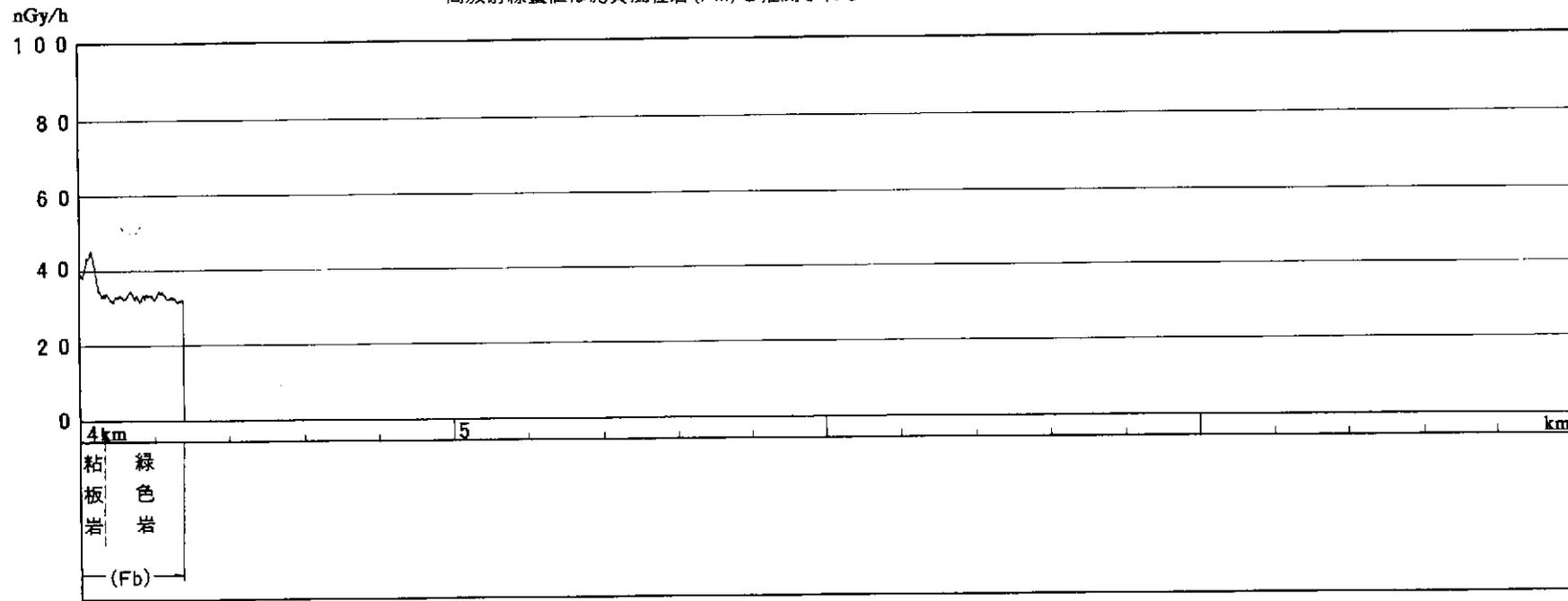
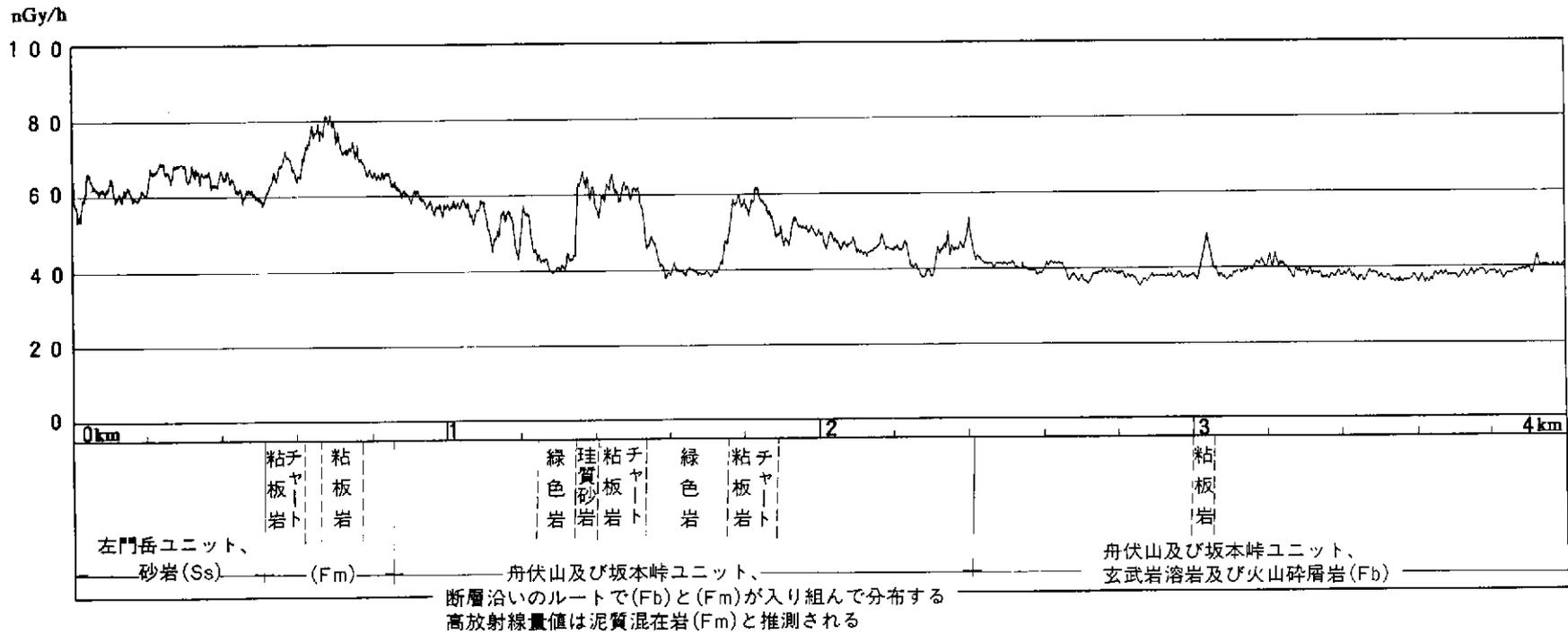
ルートNo.37 (その3)



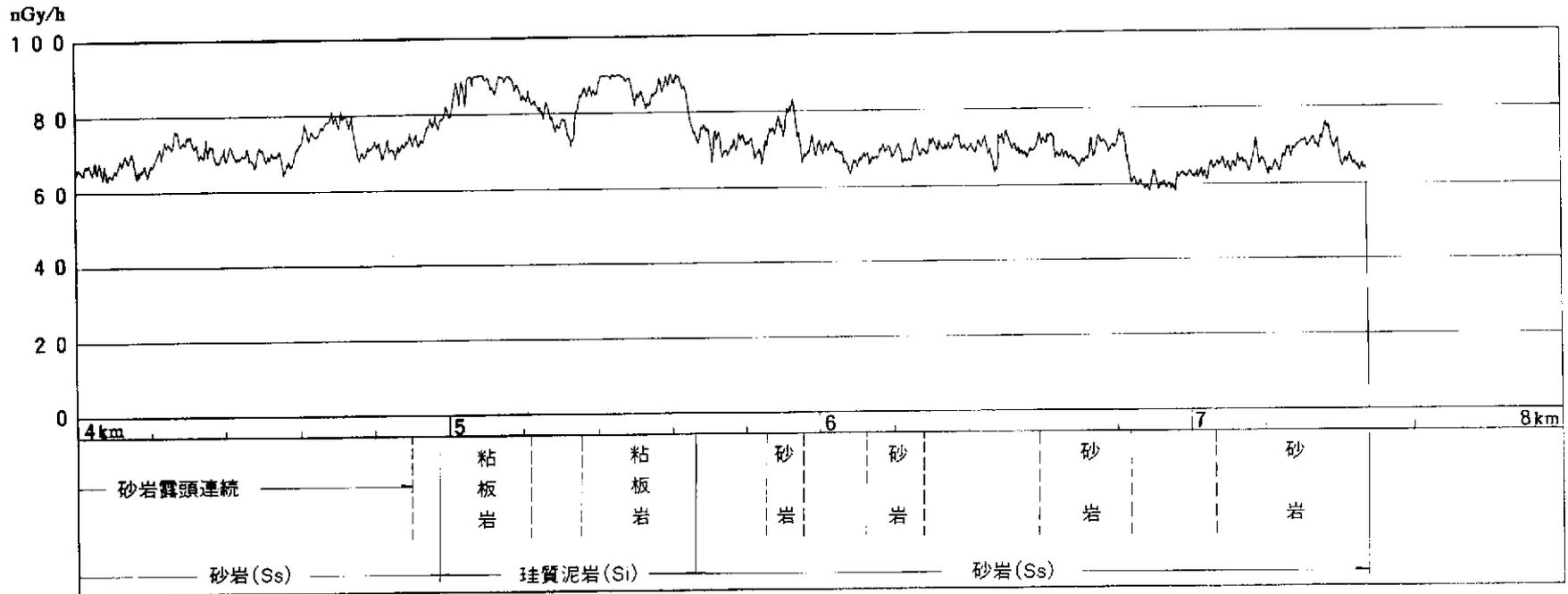
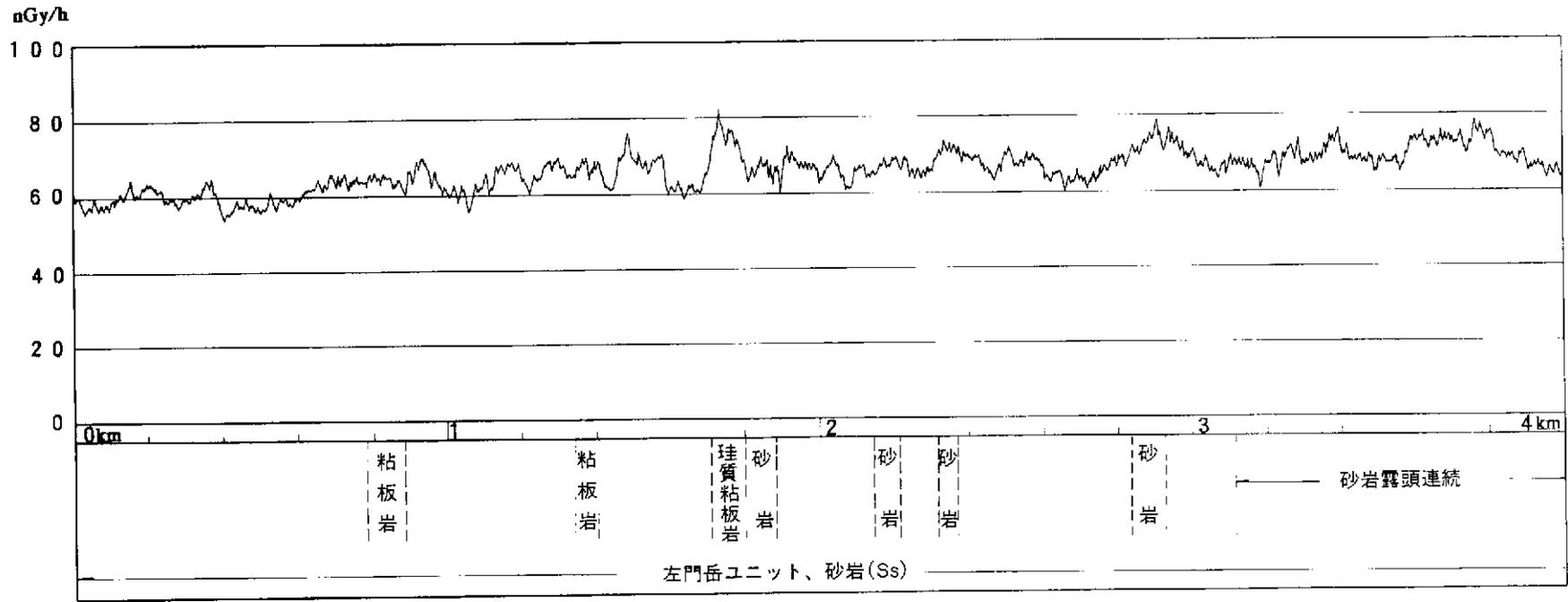
ルート No. 38 (その1)



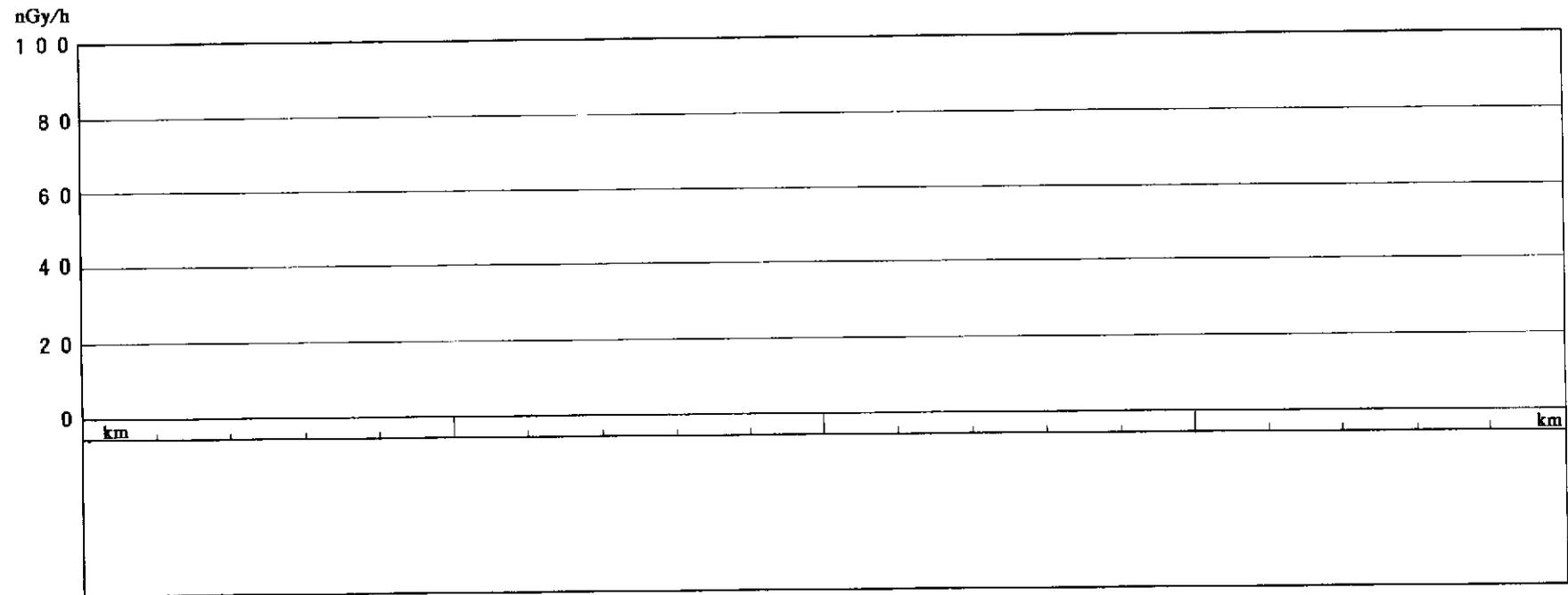
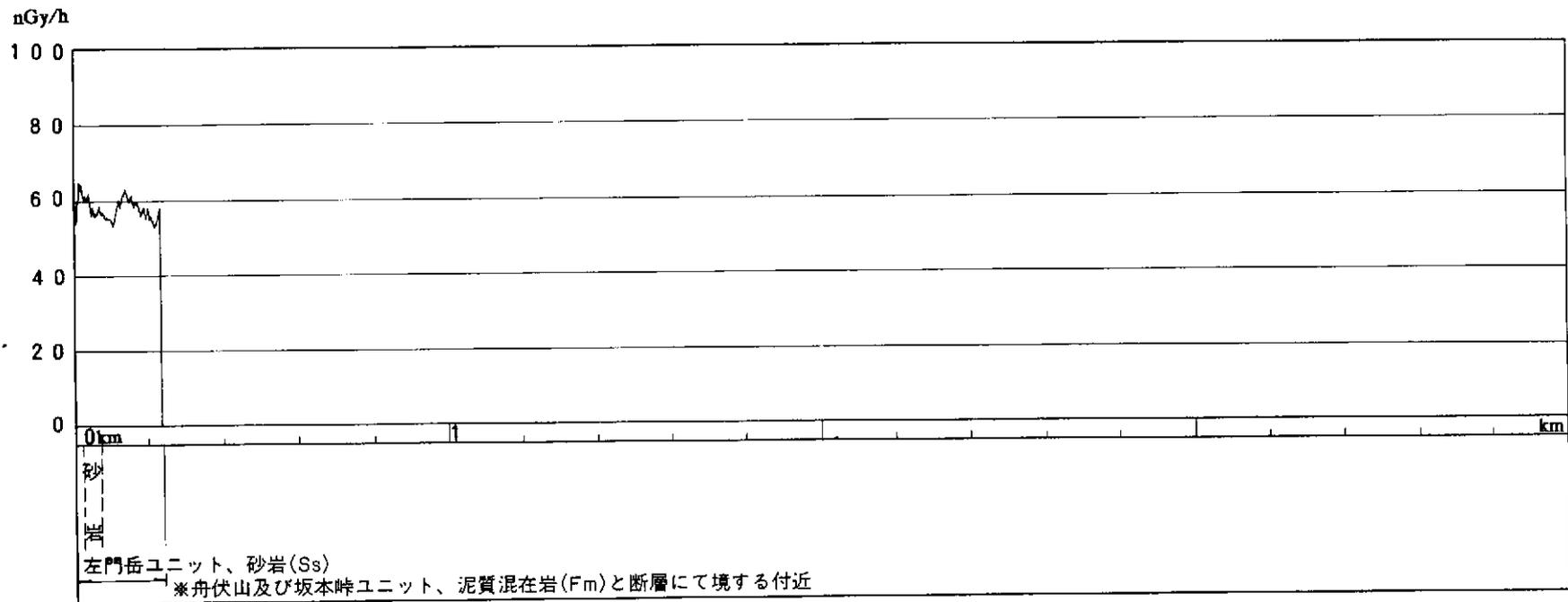
ルートNo.38 (その2)



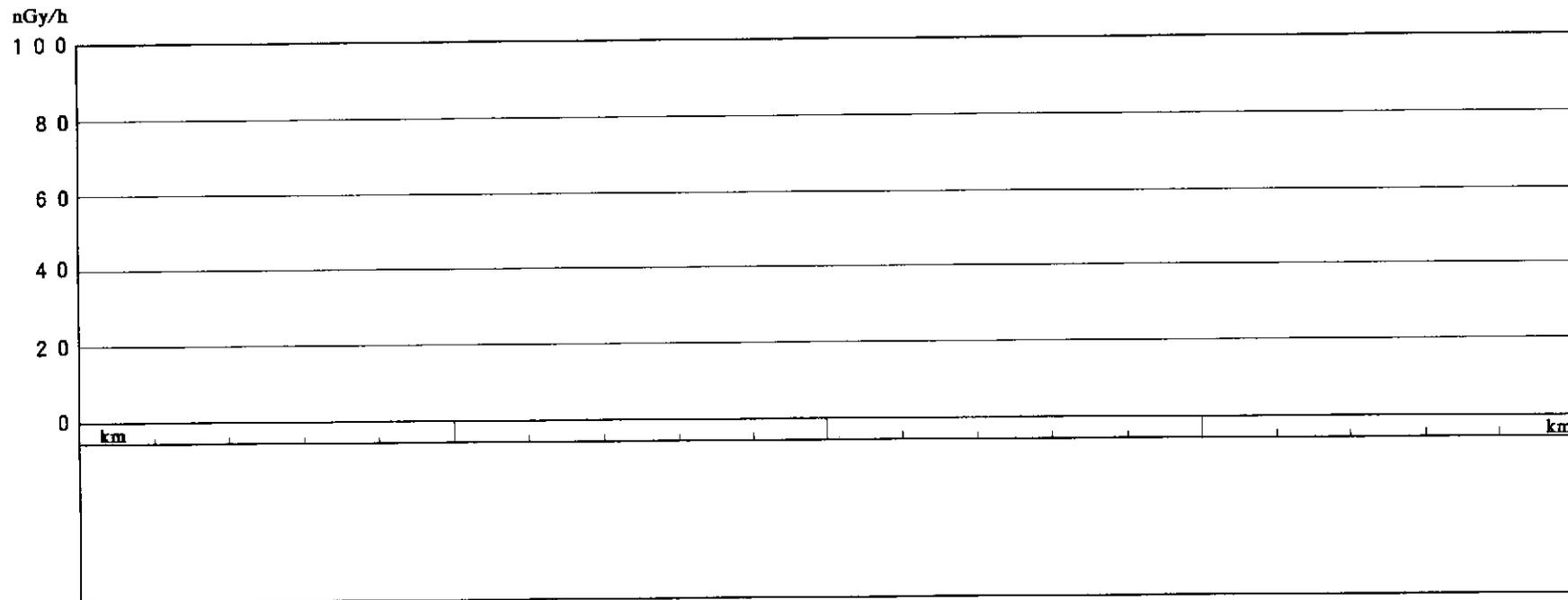
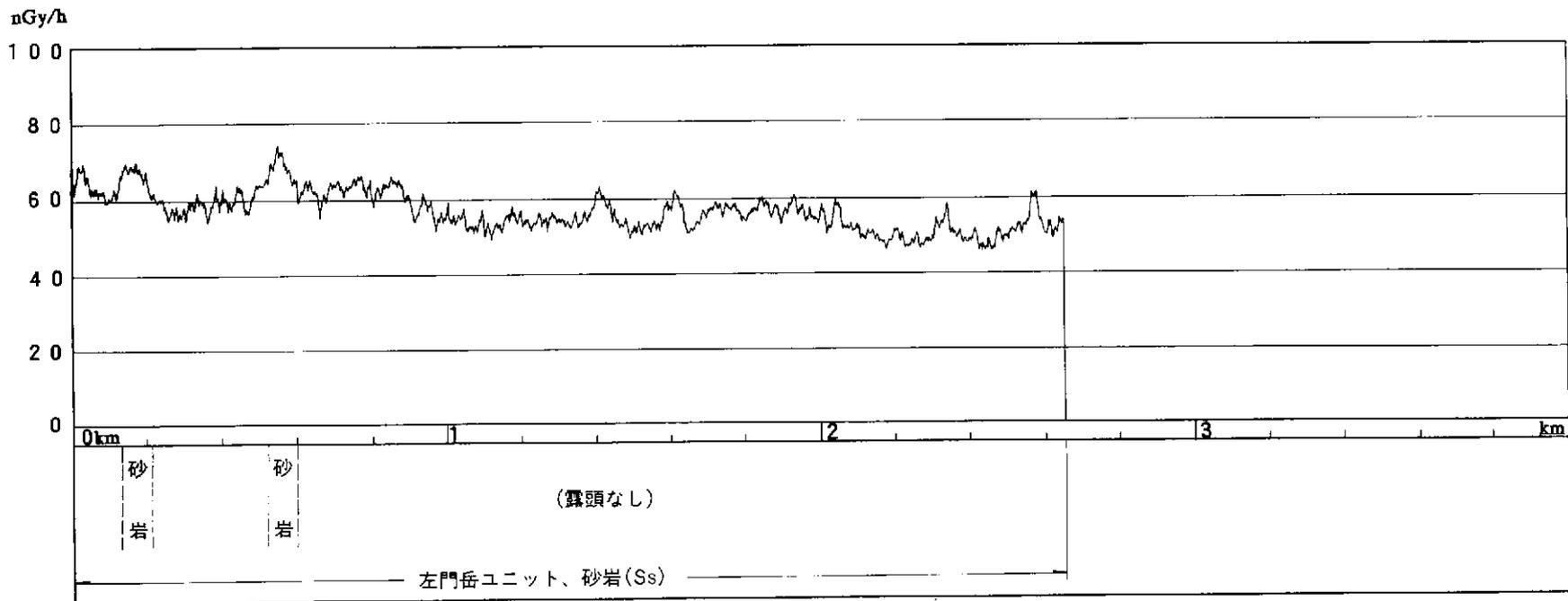
ルートNo.39



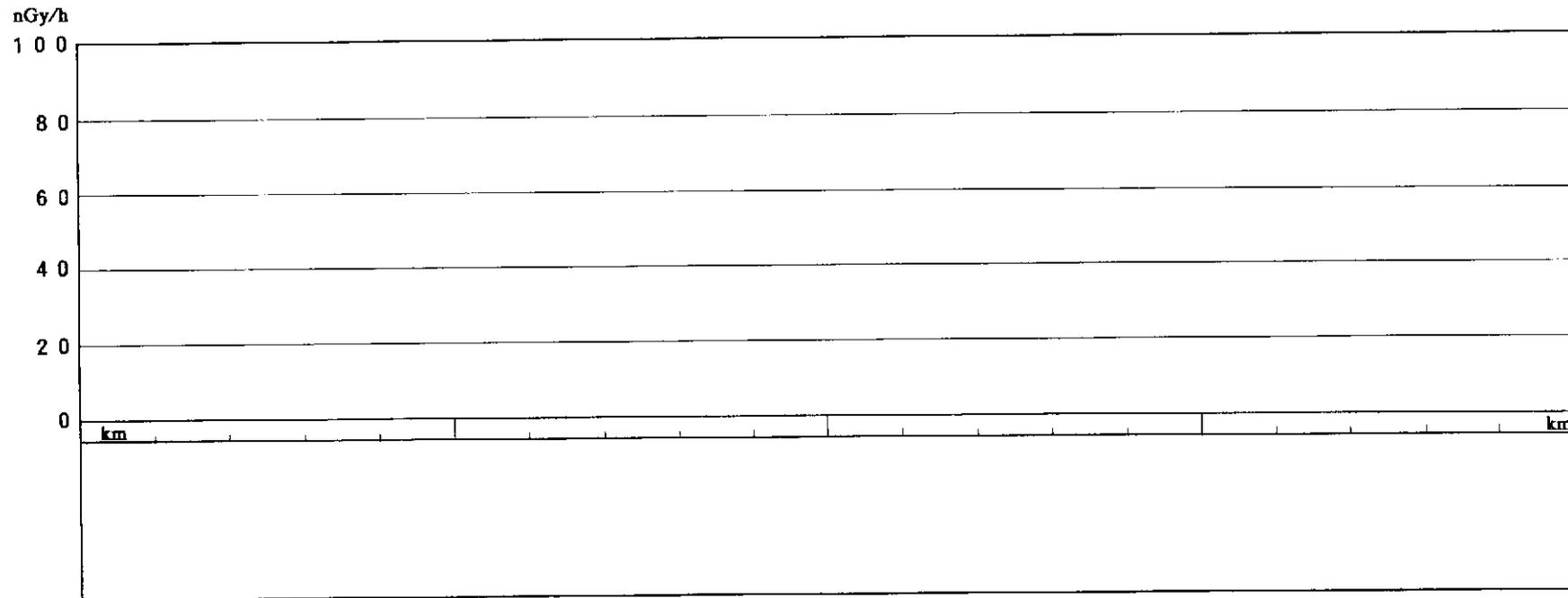
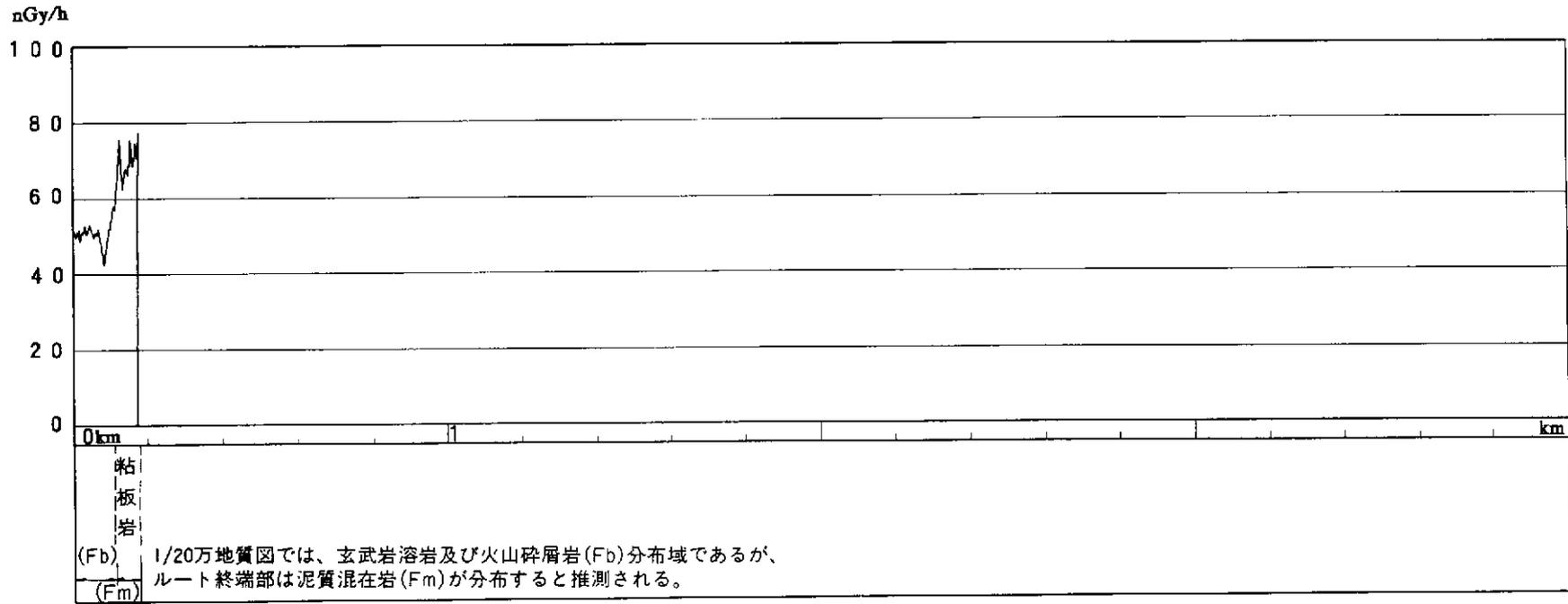
ルートNo.40



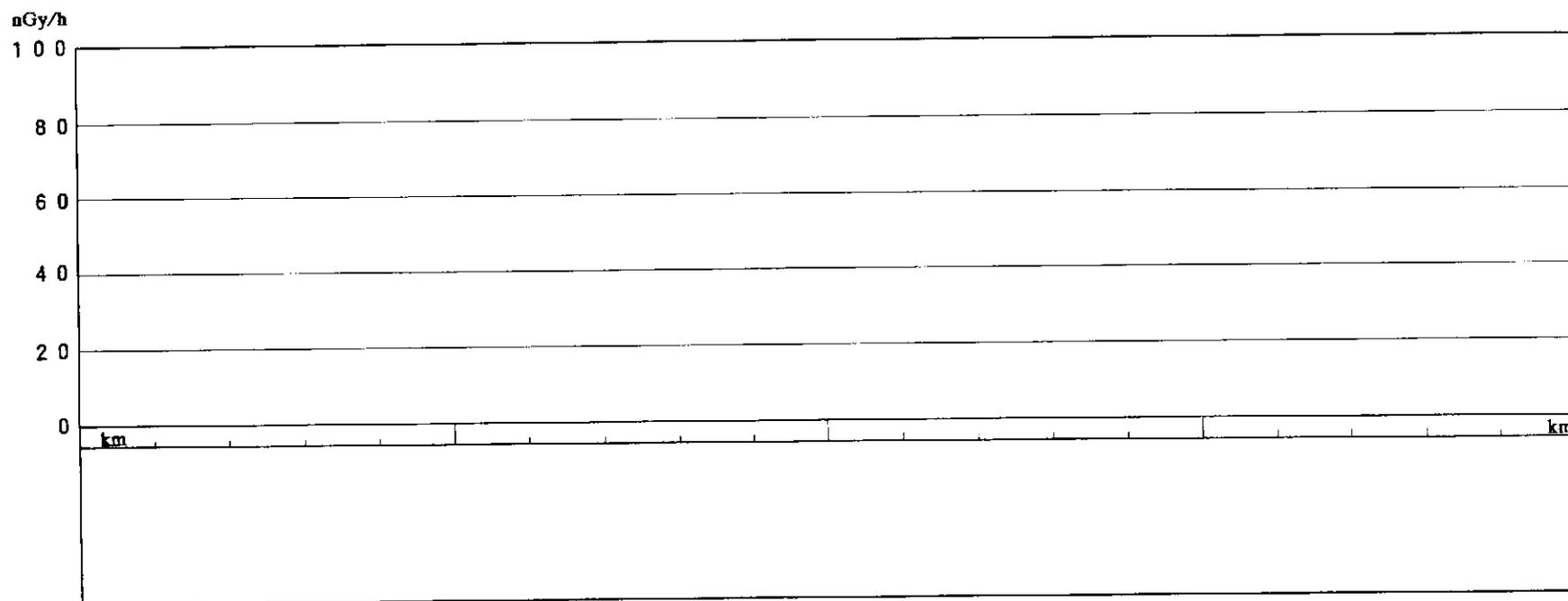
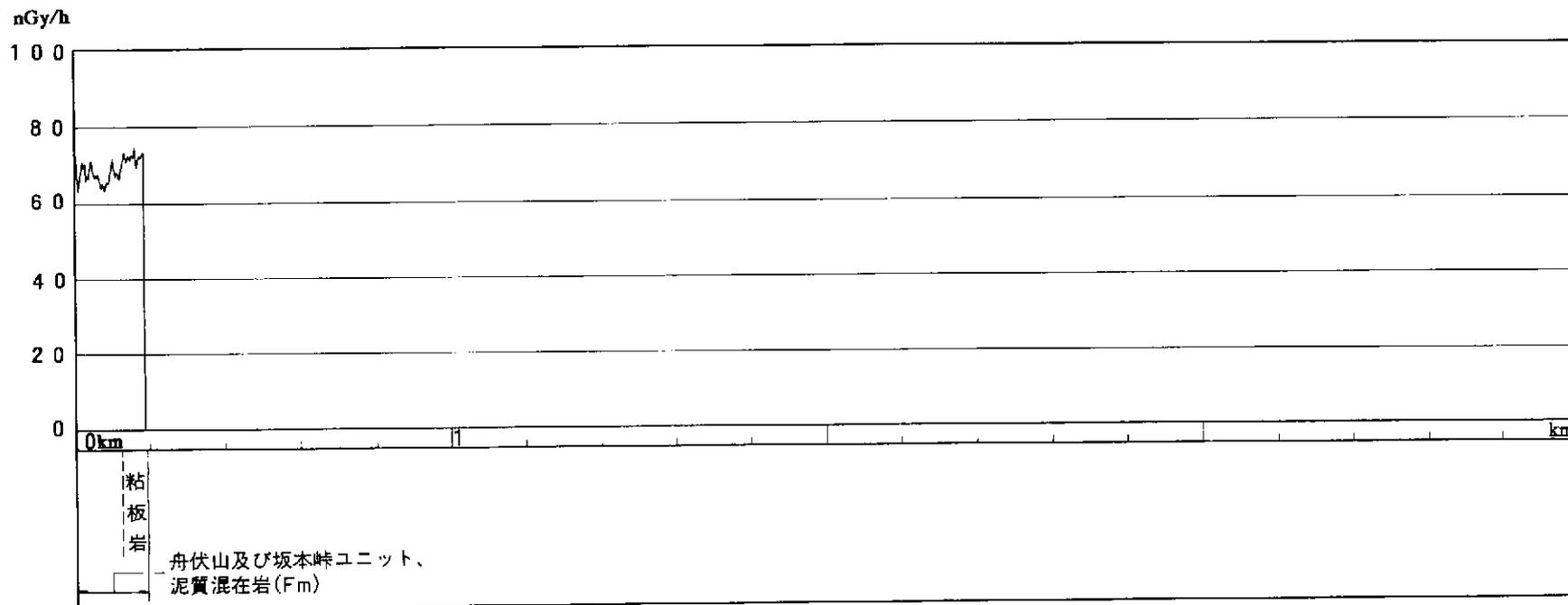
ルートNo.41

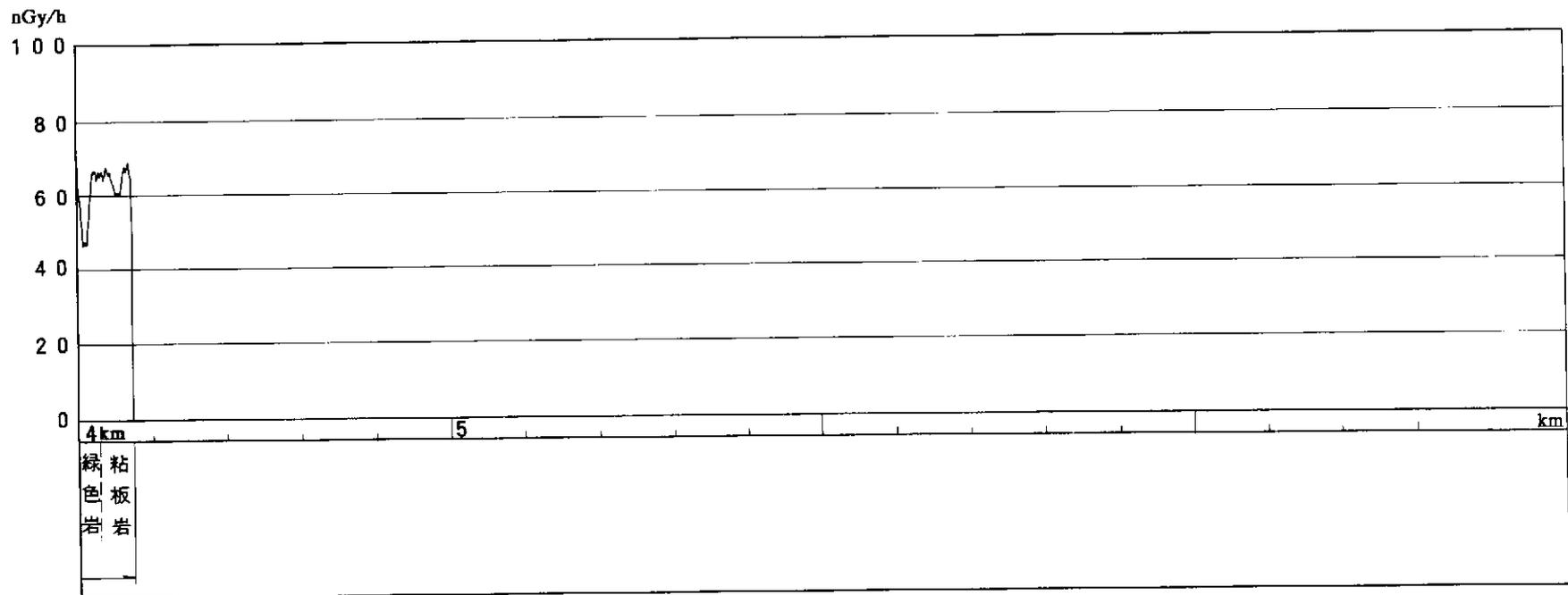
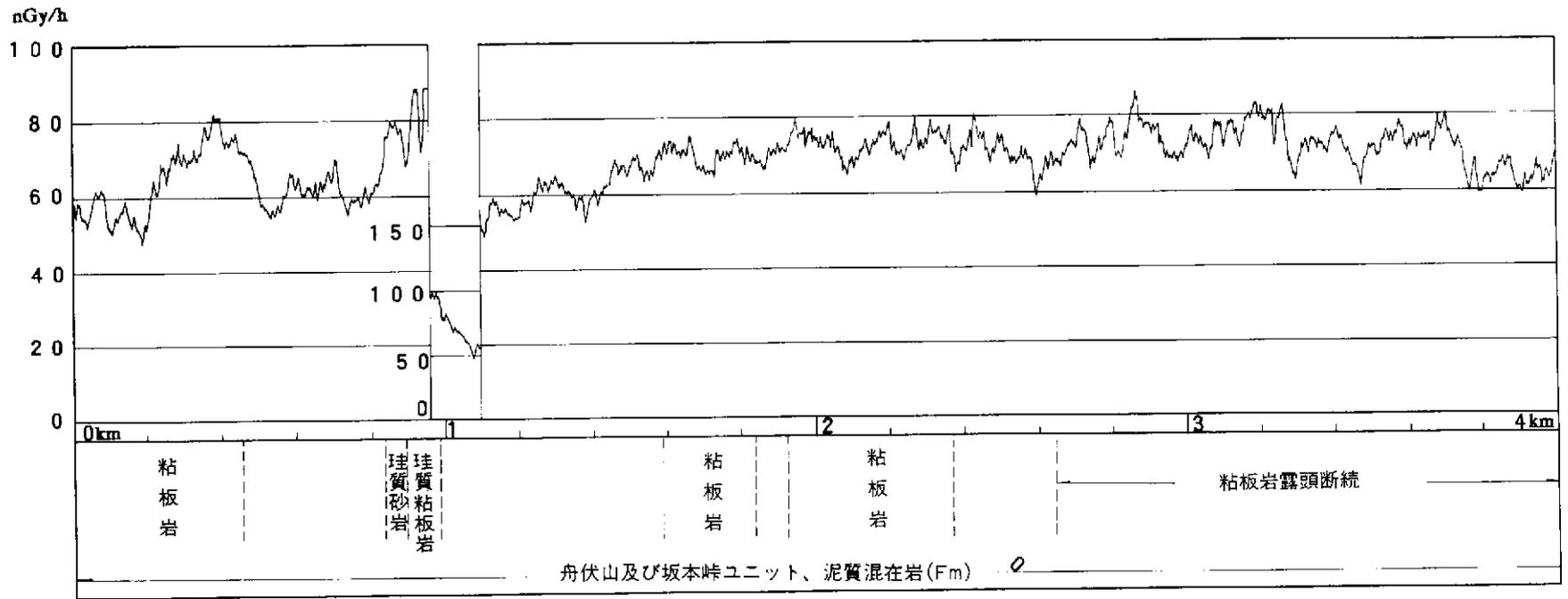


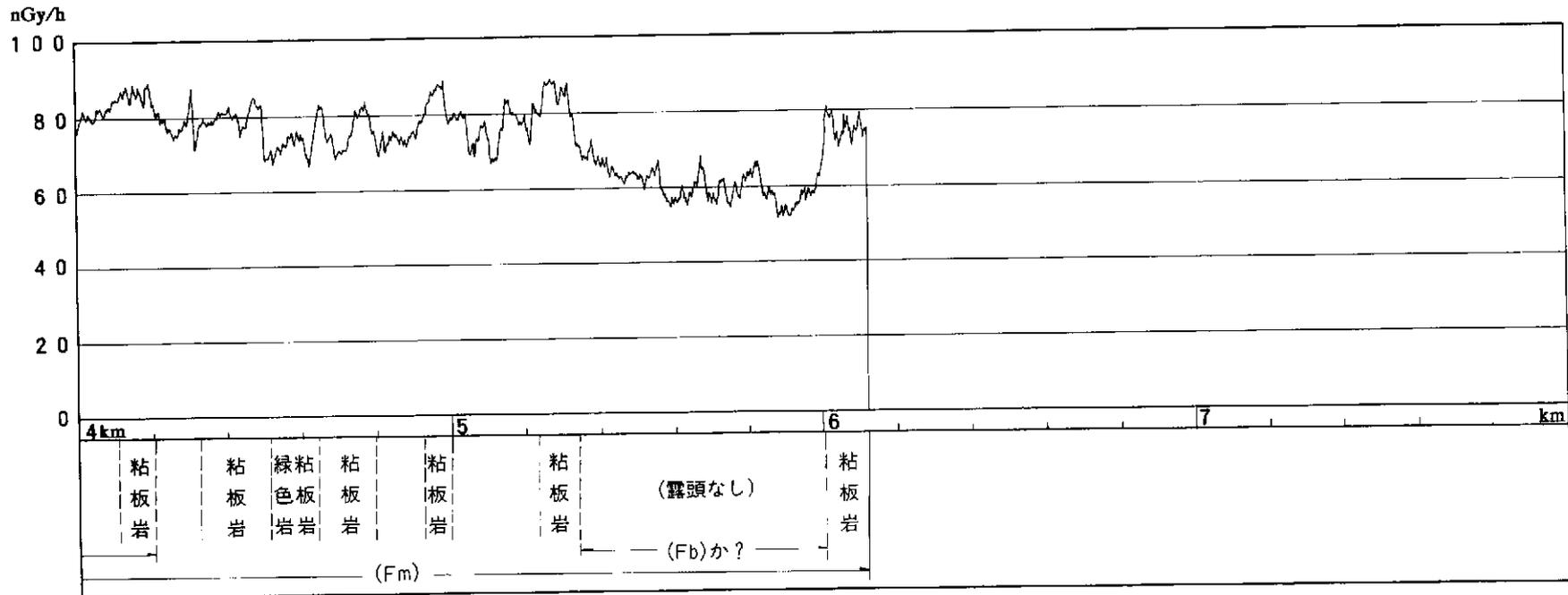
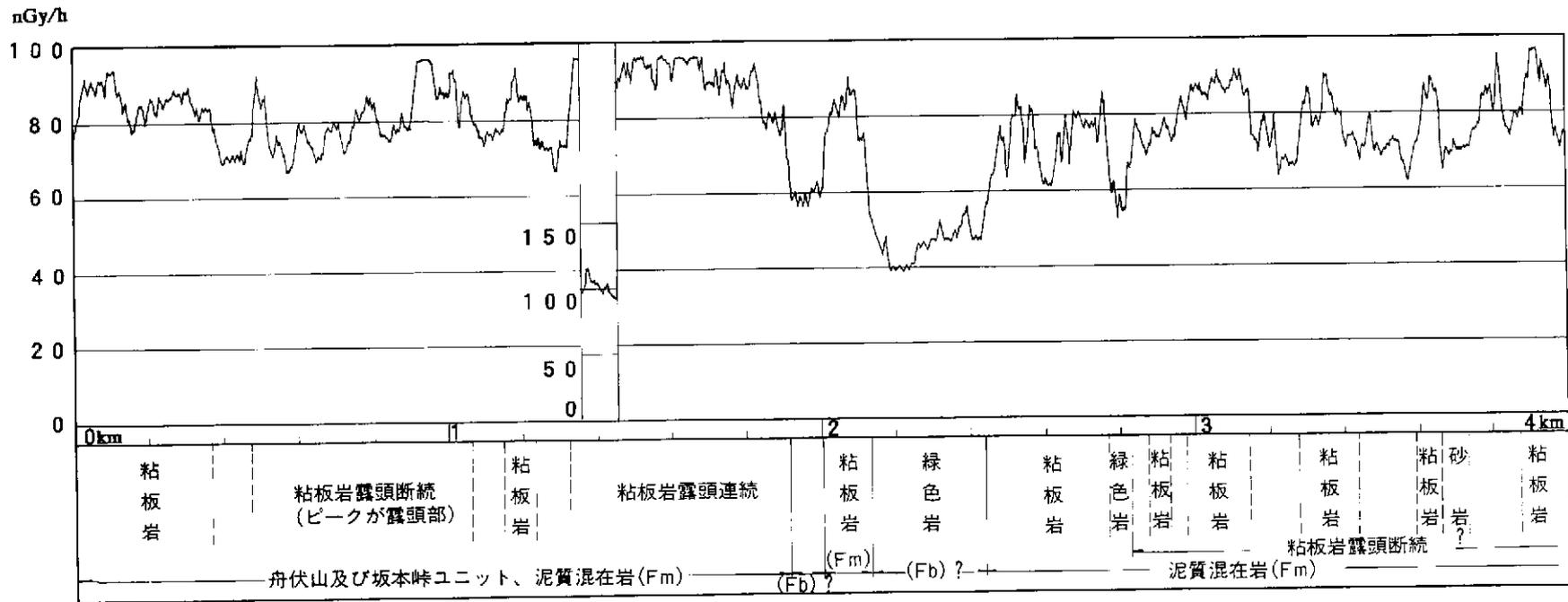
ルートNo.42



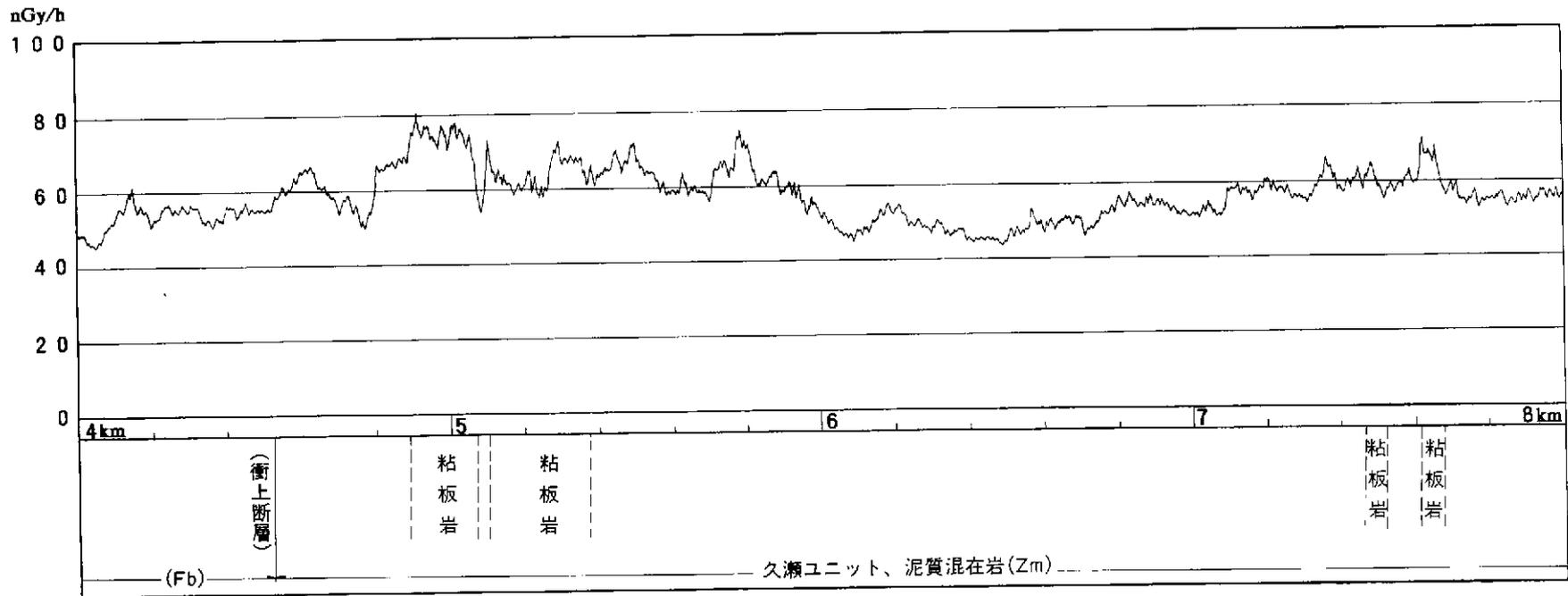
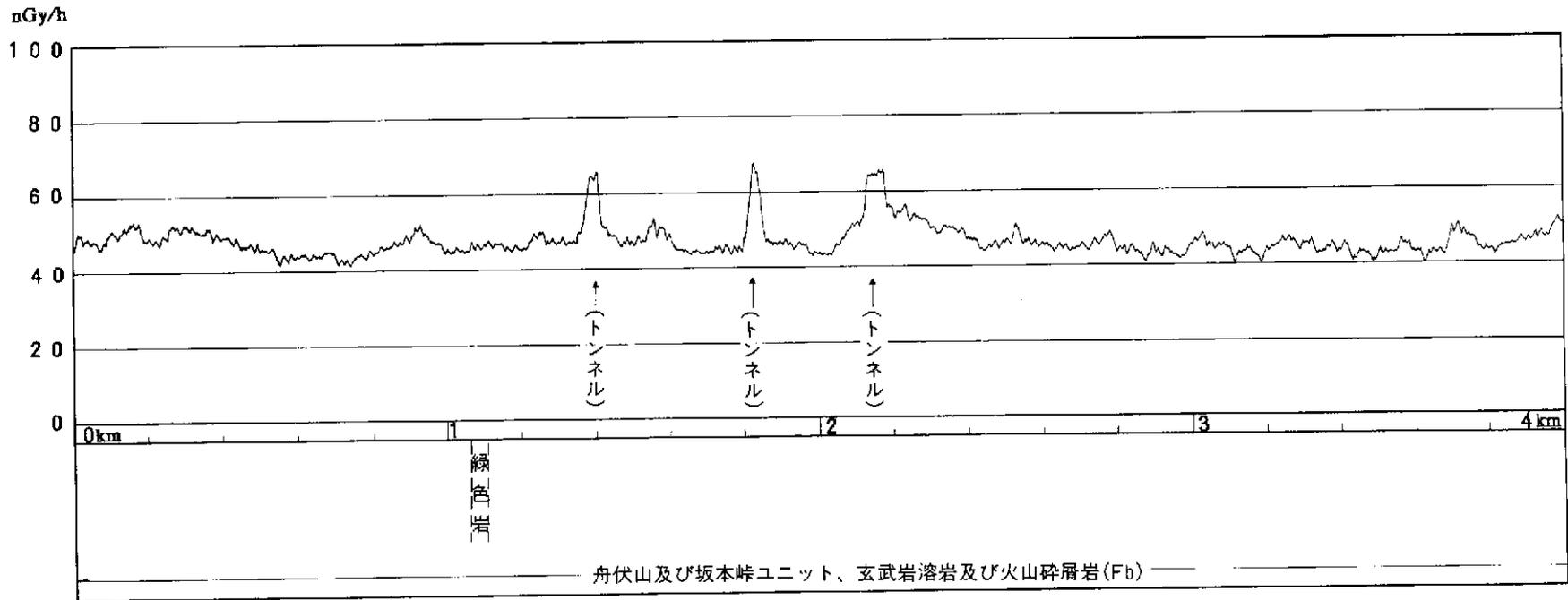
ルート No. 43



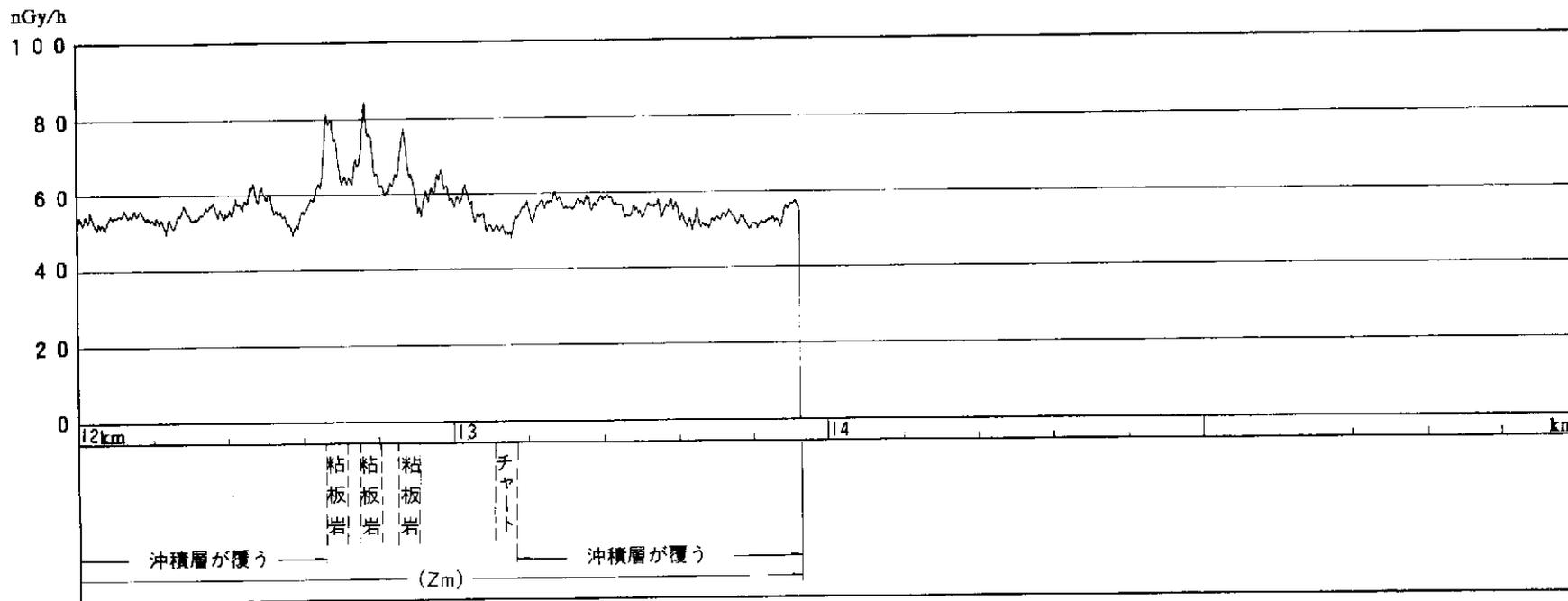
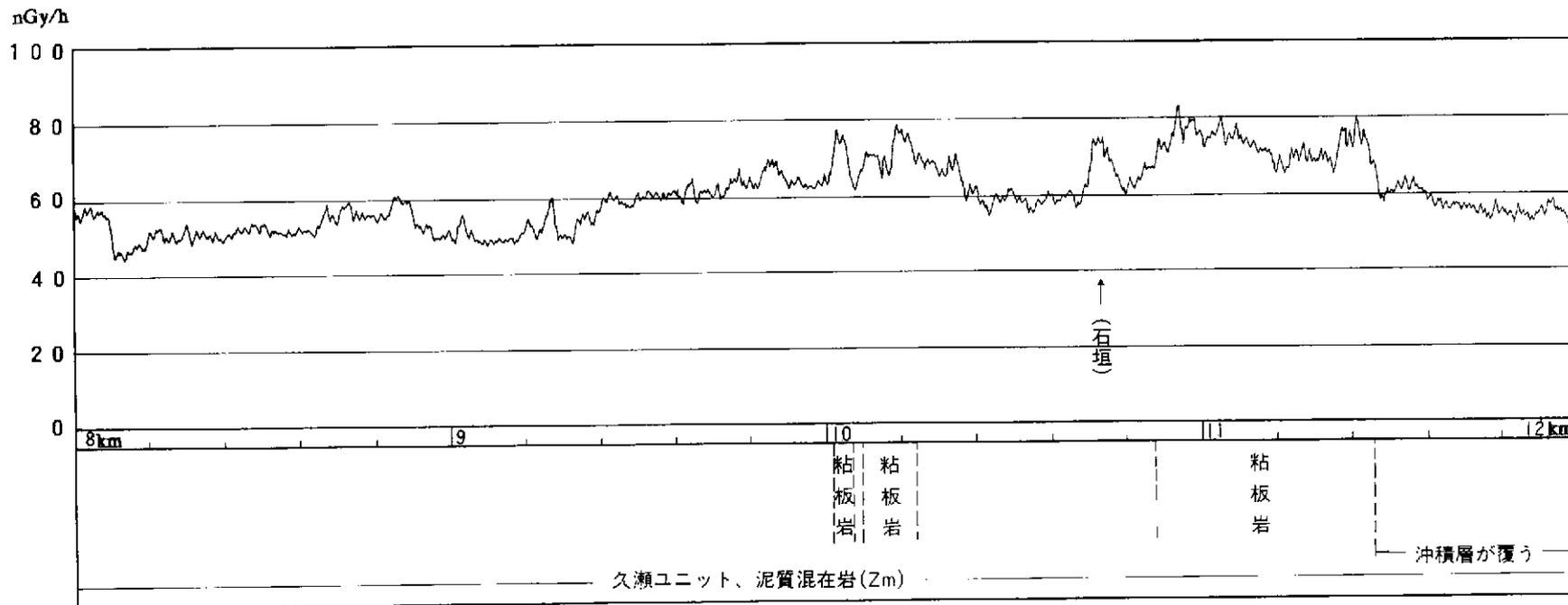




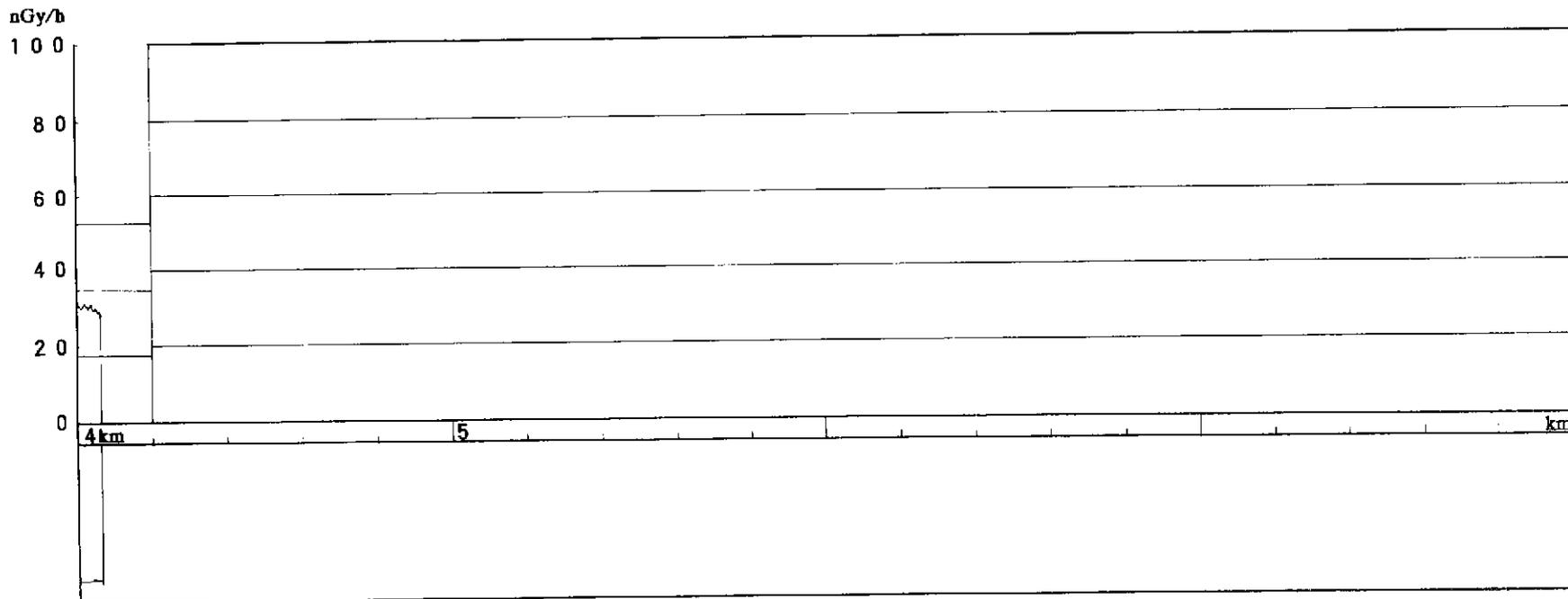
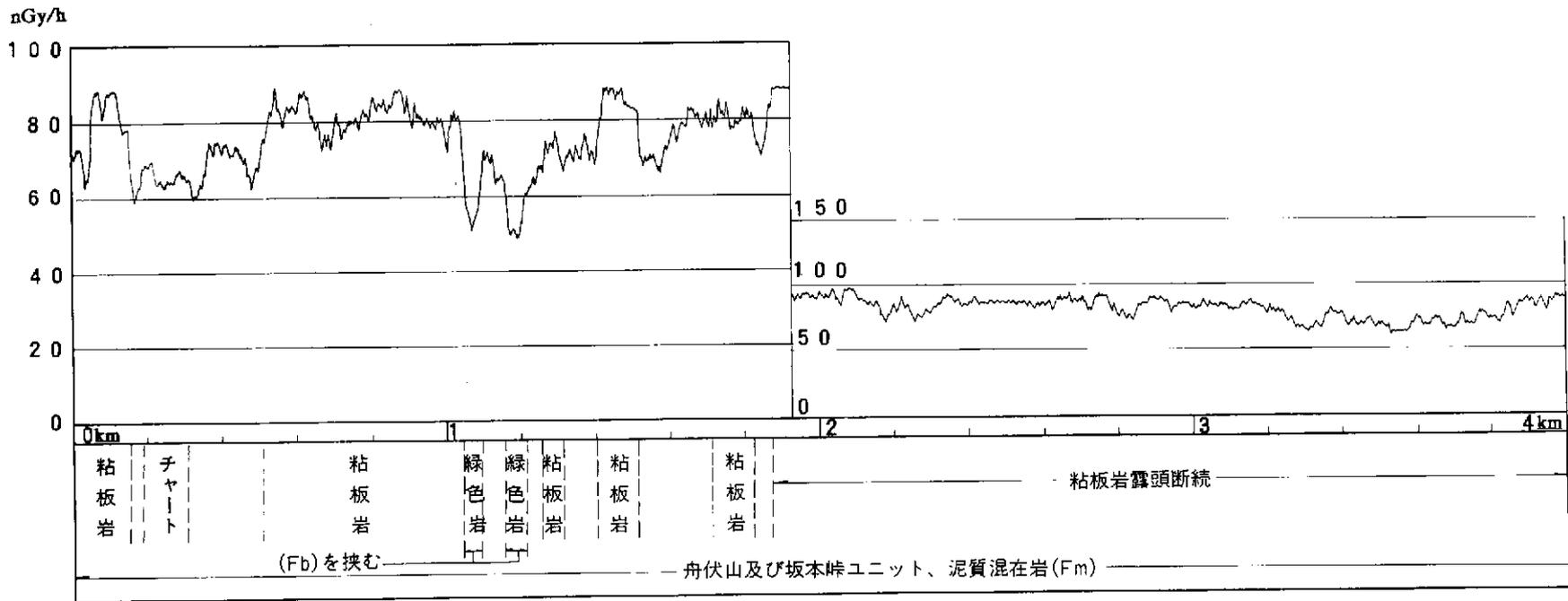
ルート No. 46

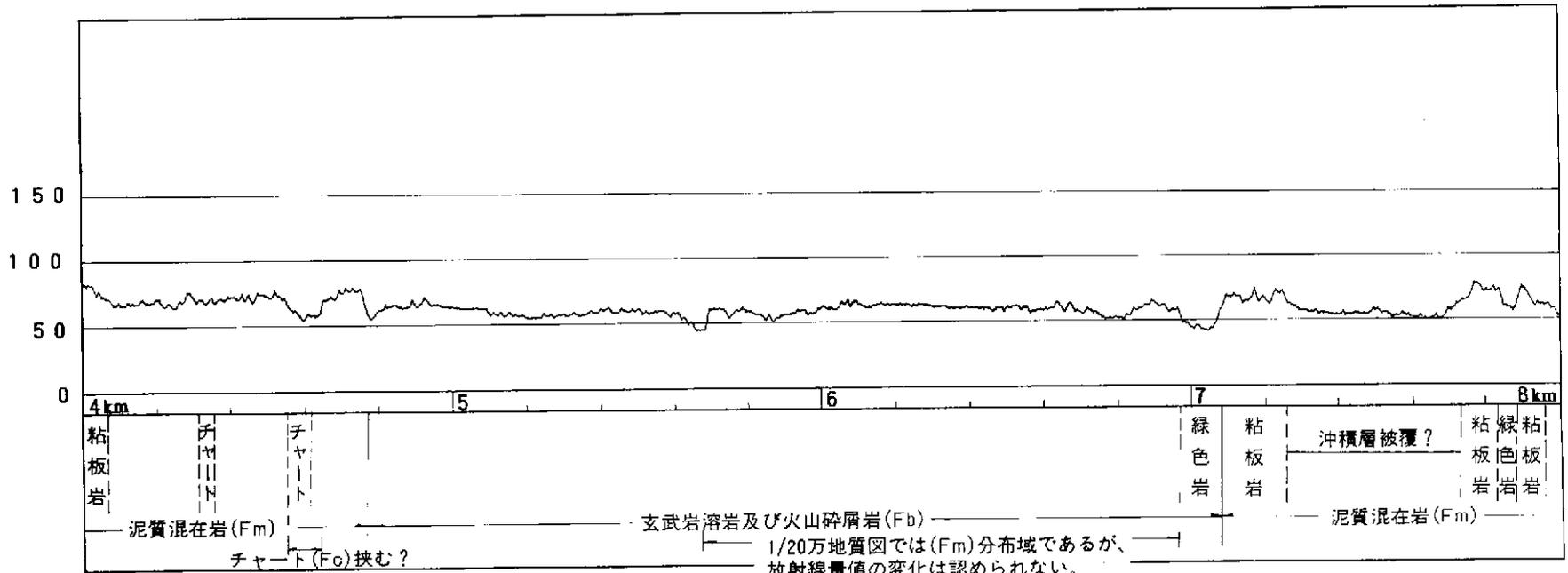
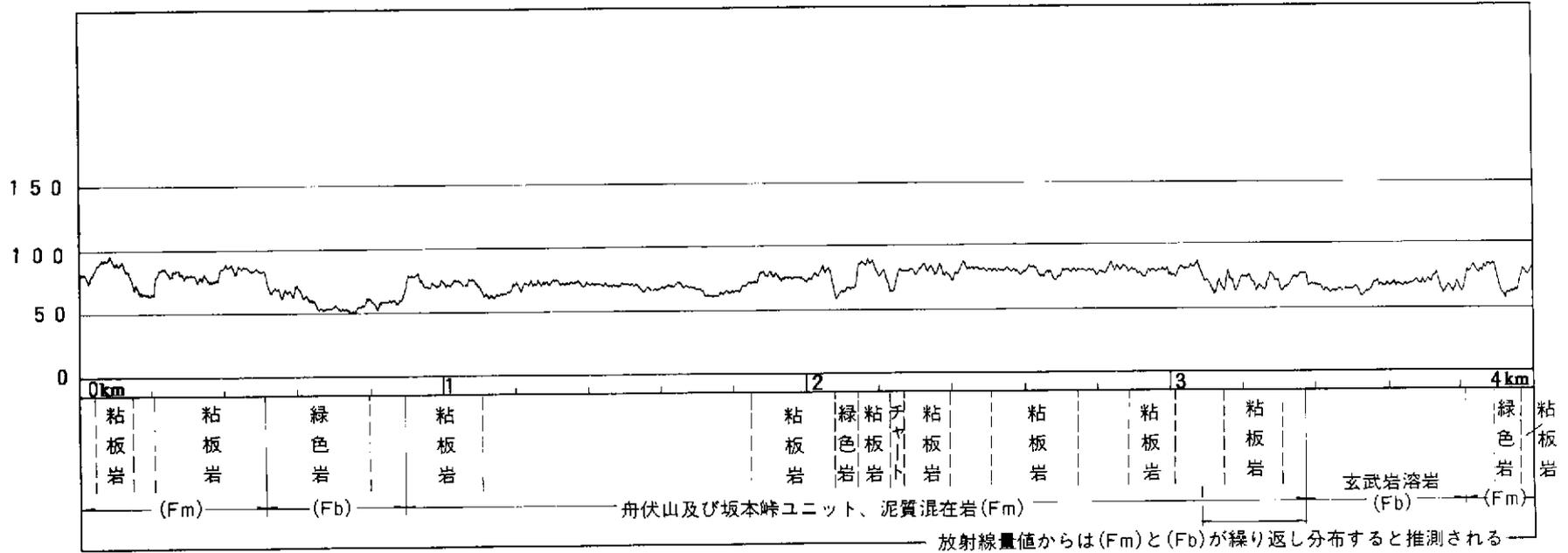


ルートNo.48 (その1)

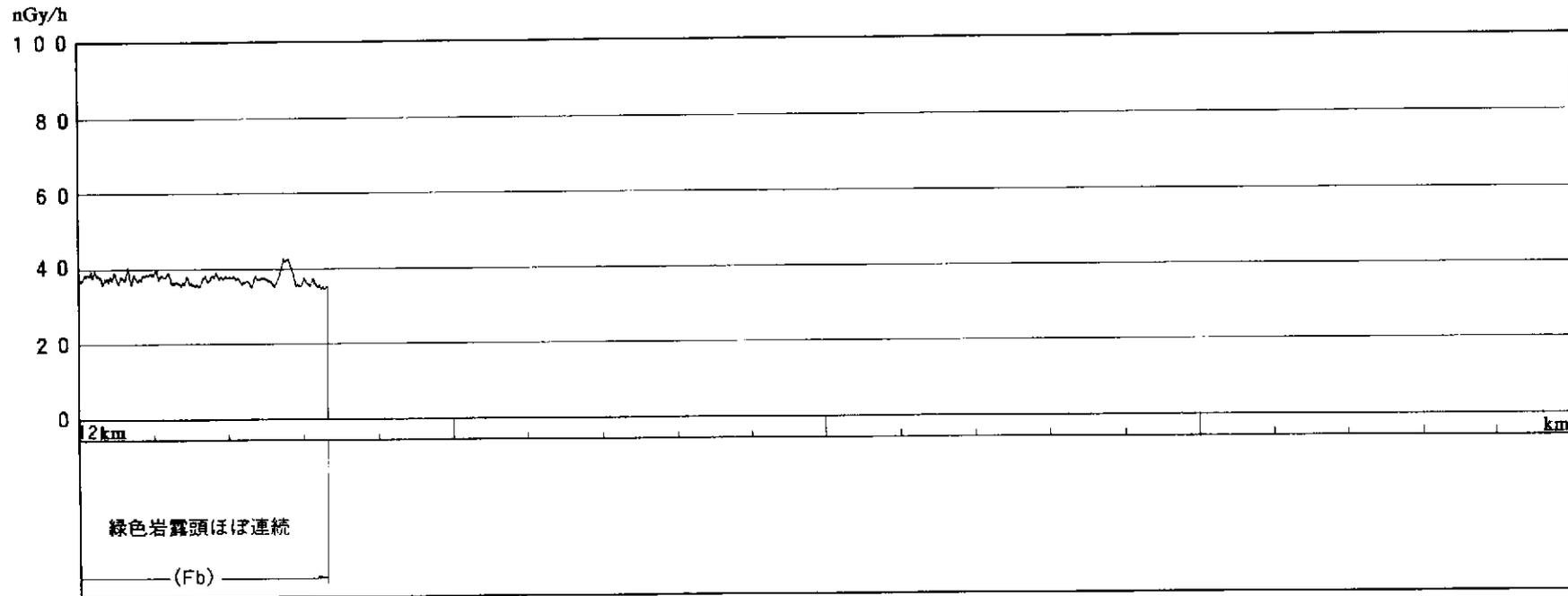
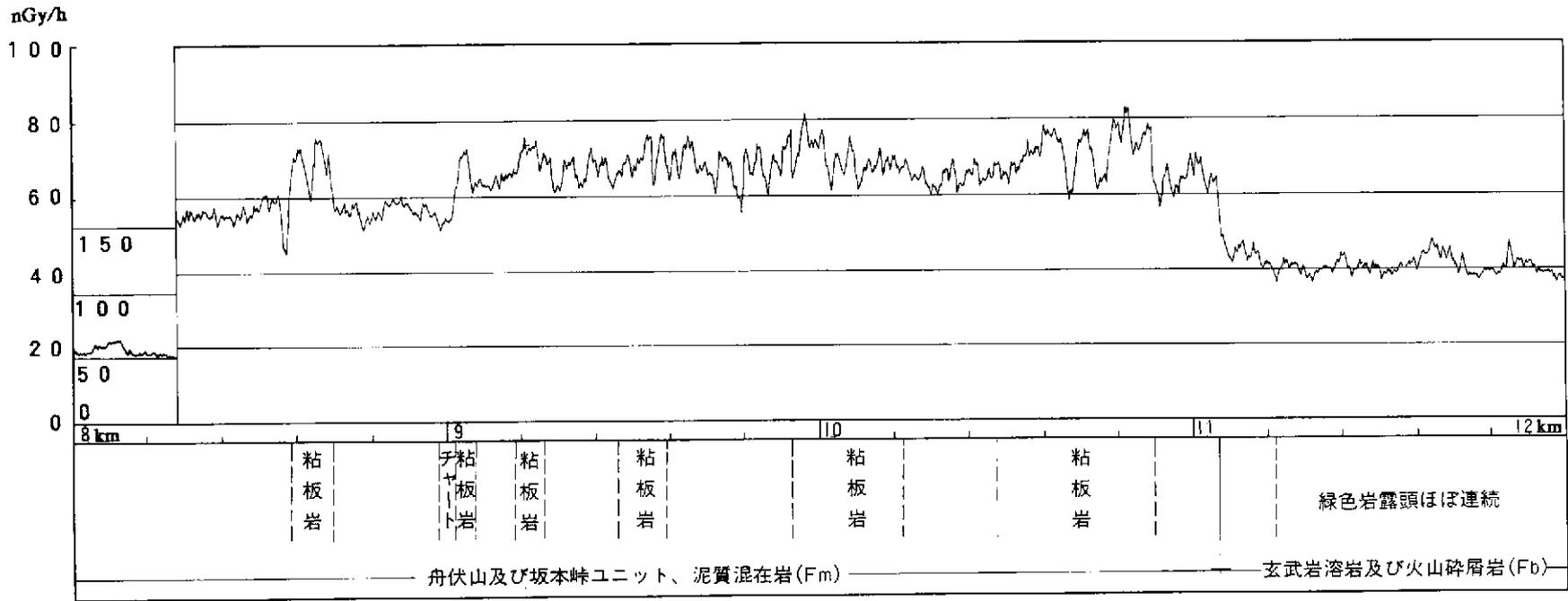


ルートNo.48 (その2)

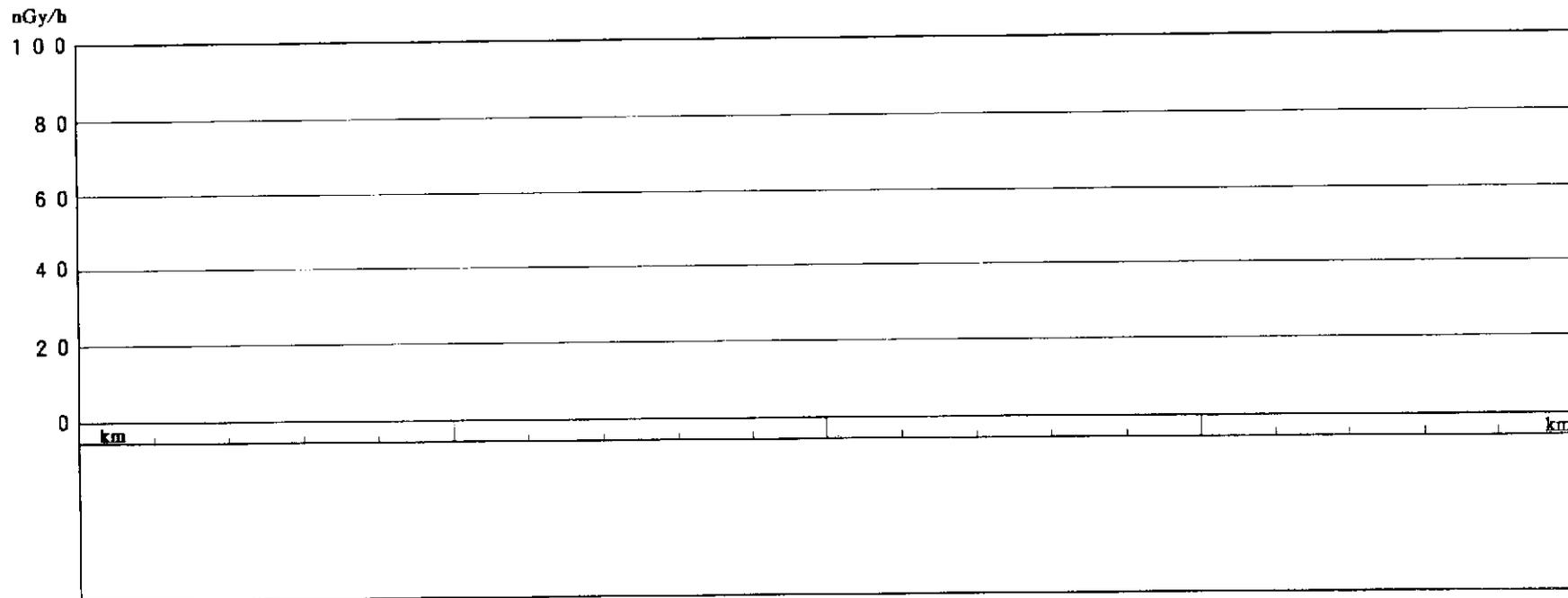
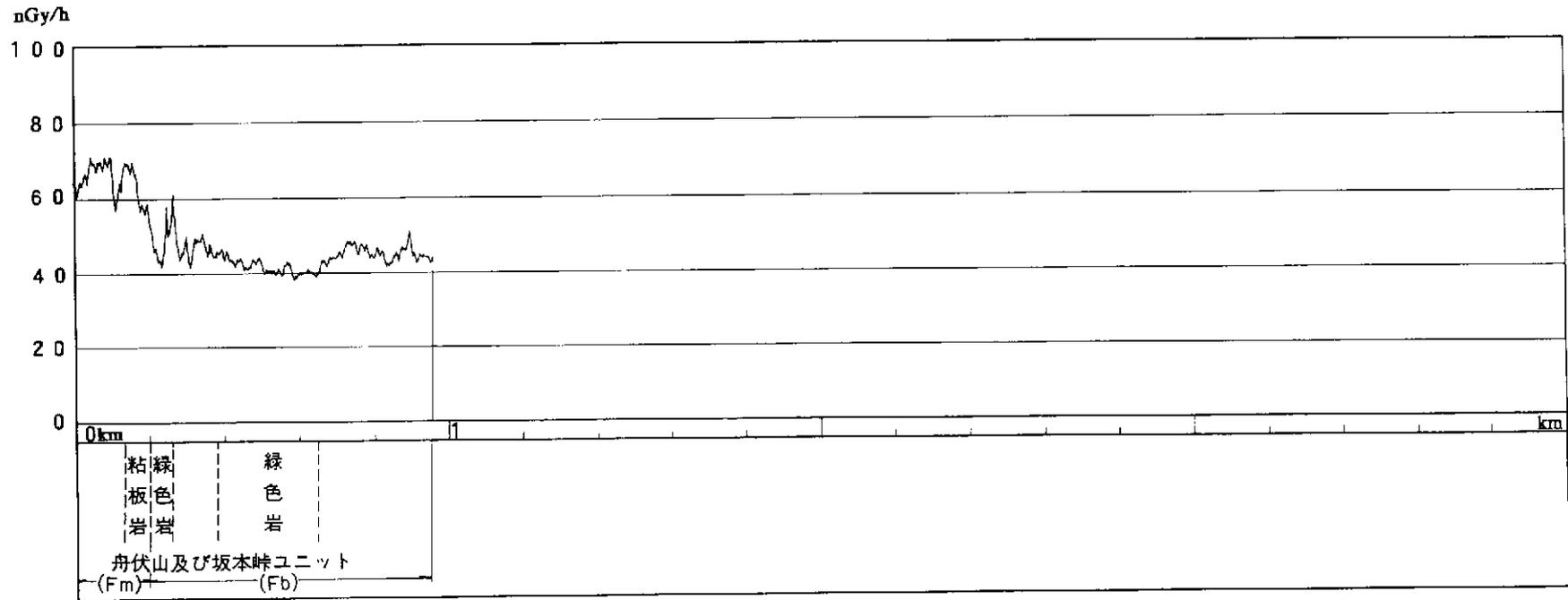




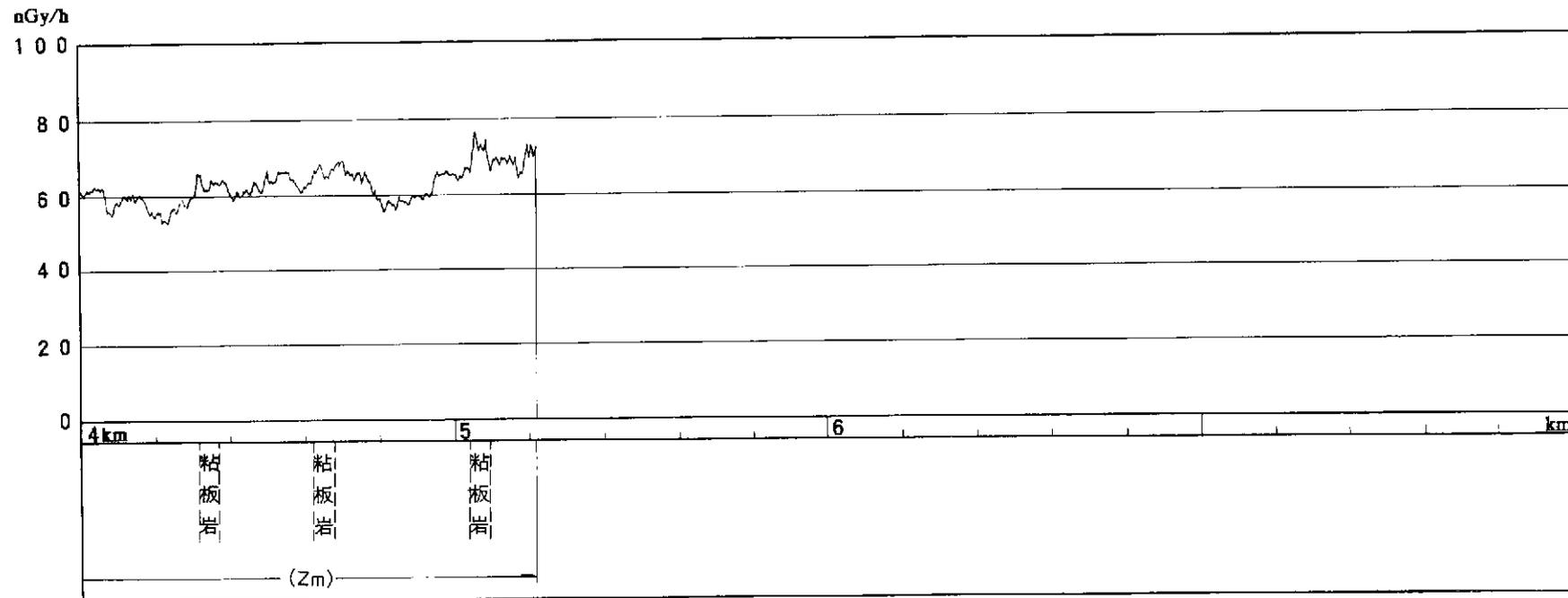
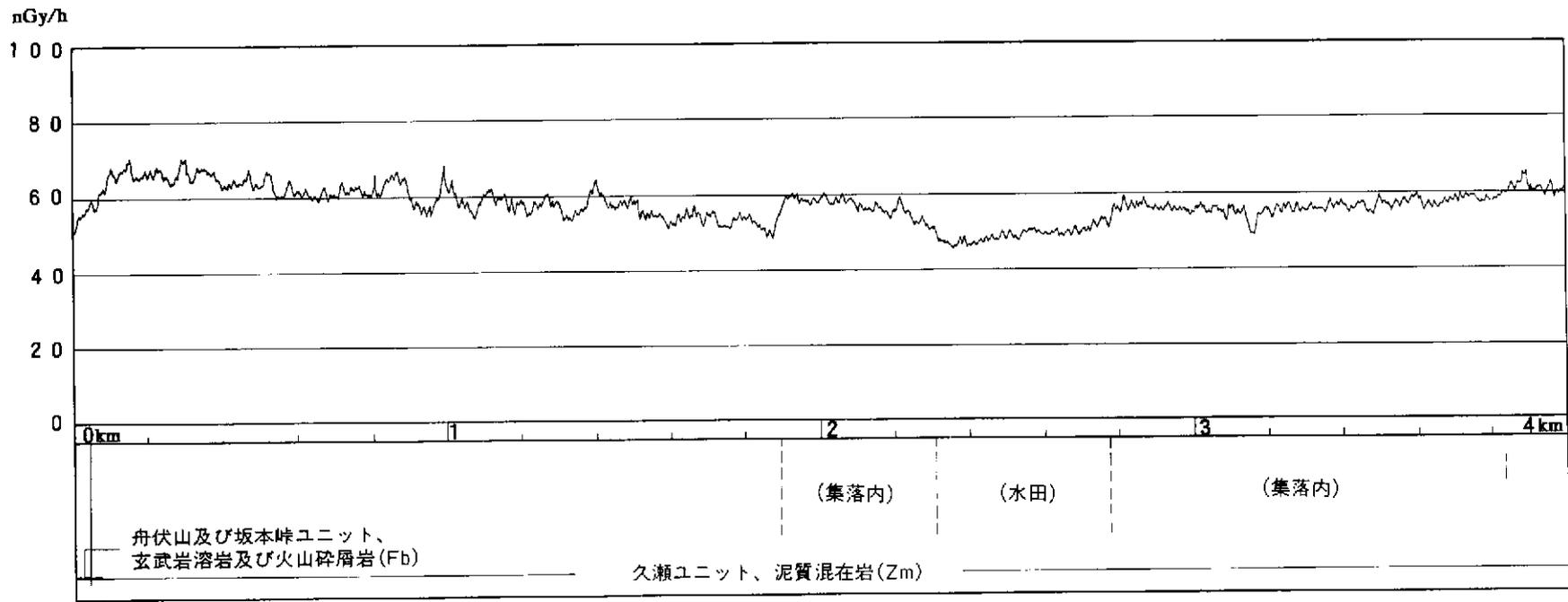
ルートNo.50 (その1)



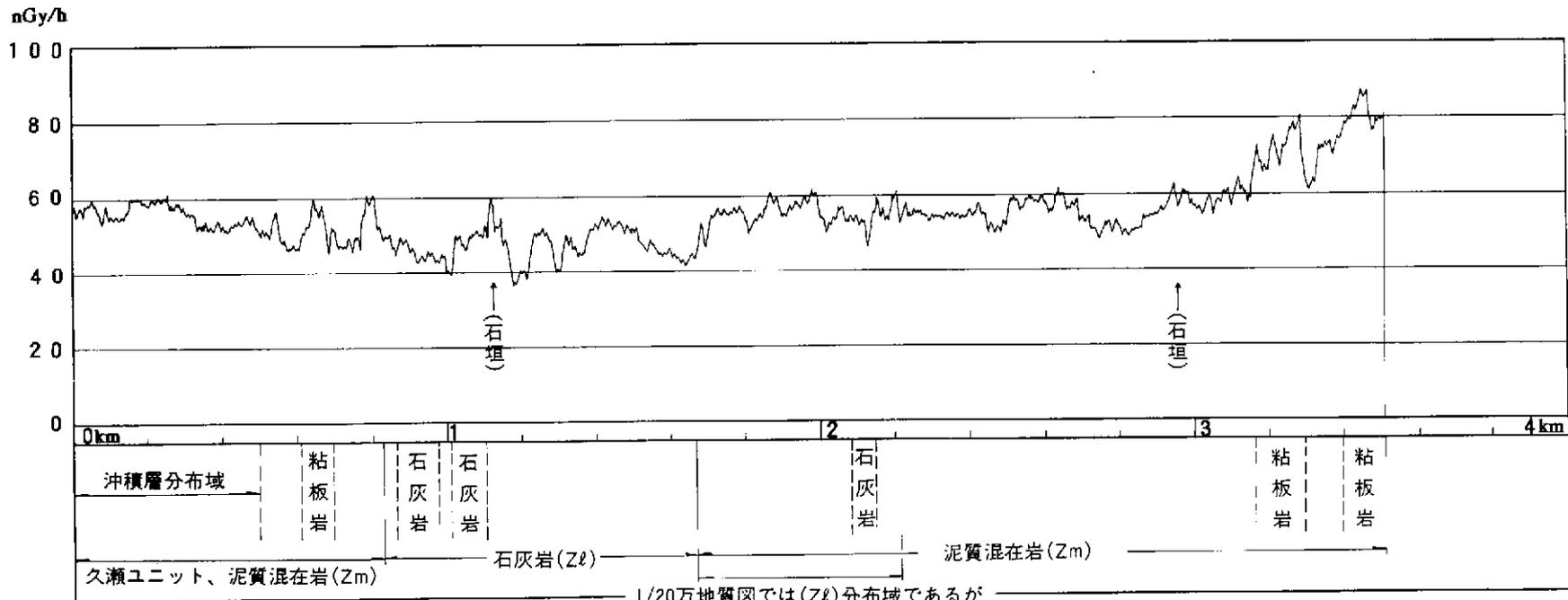
ルートNo.50 (その2)



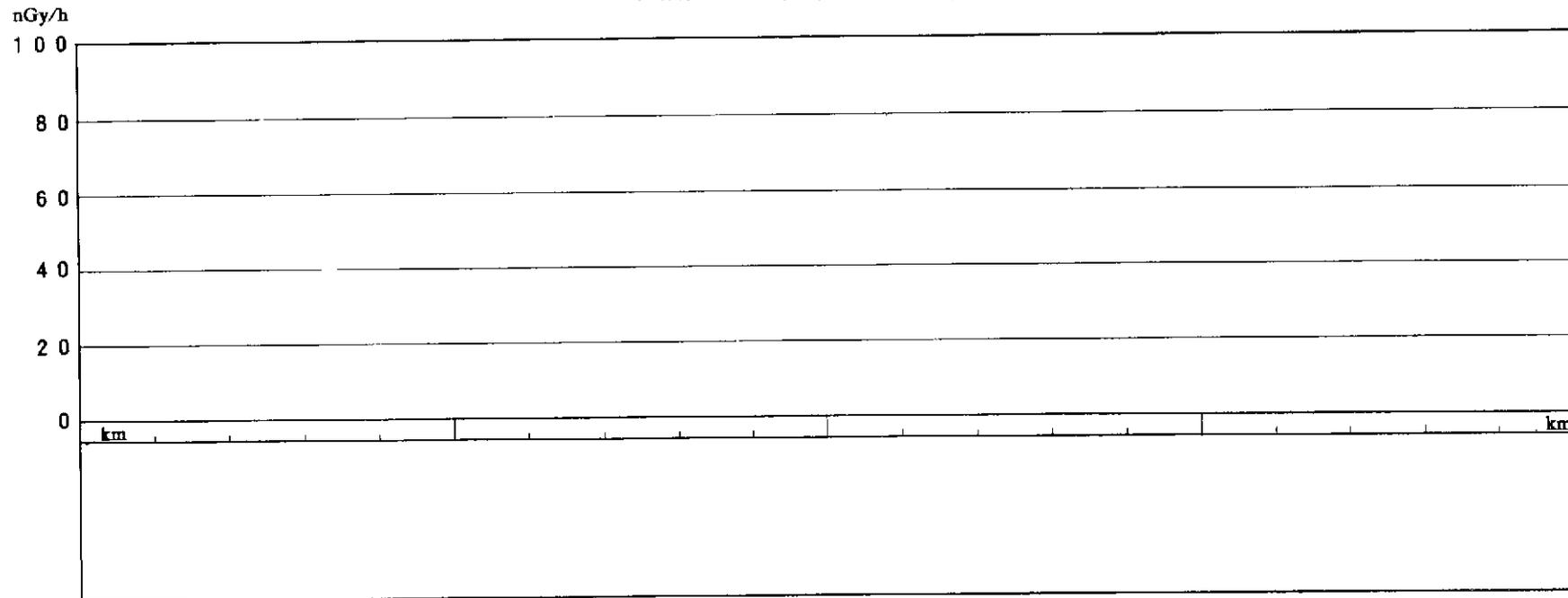
ルートNo.51

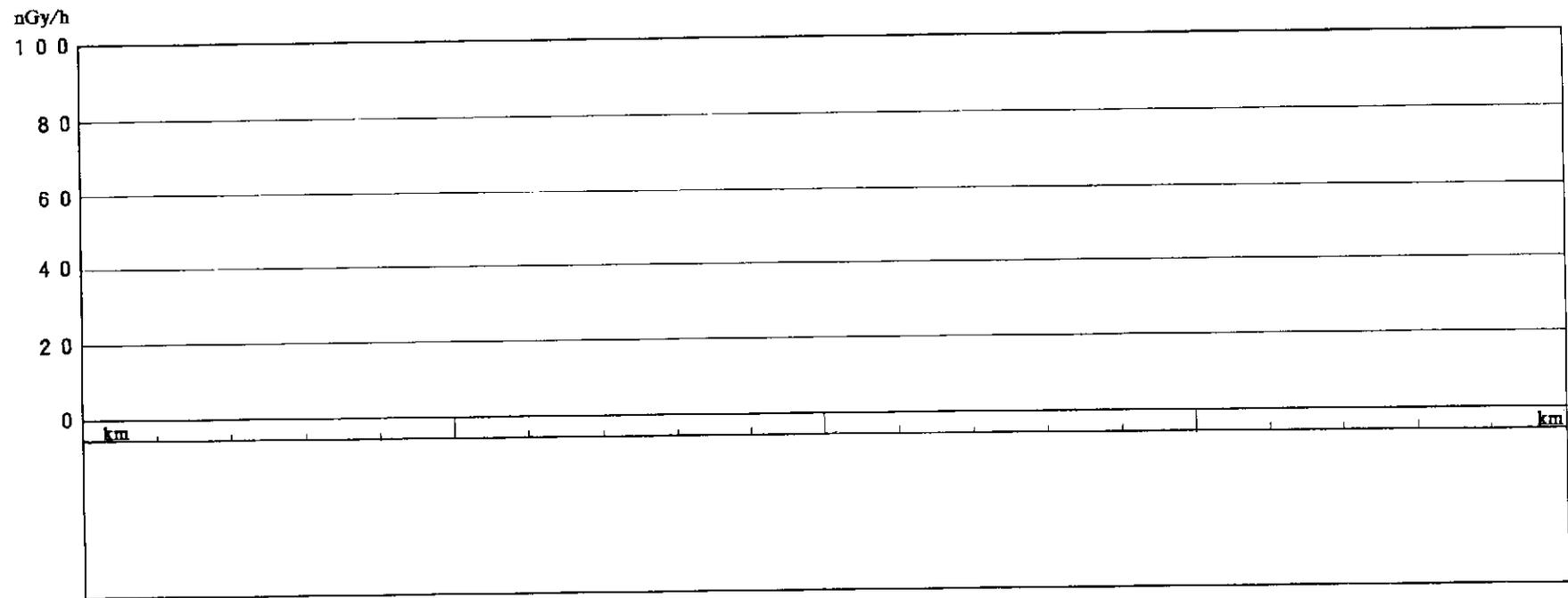
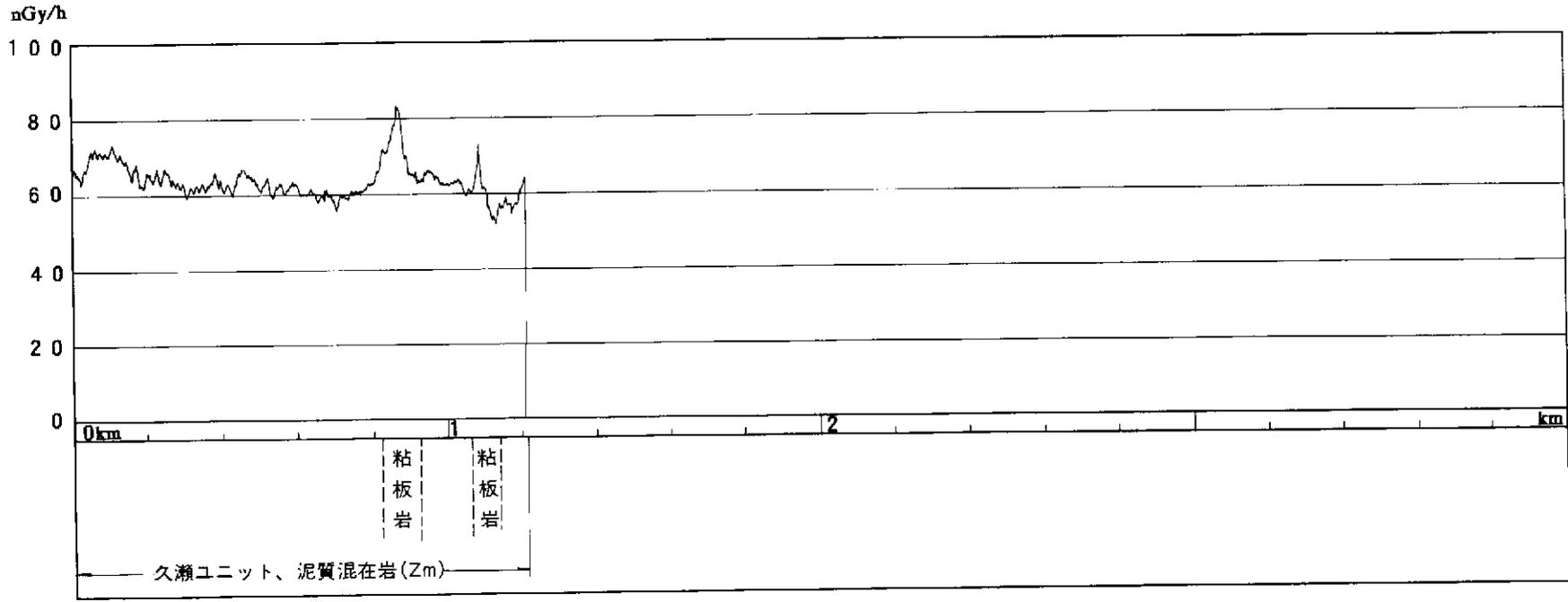


ルートNo.52

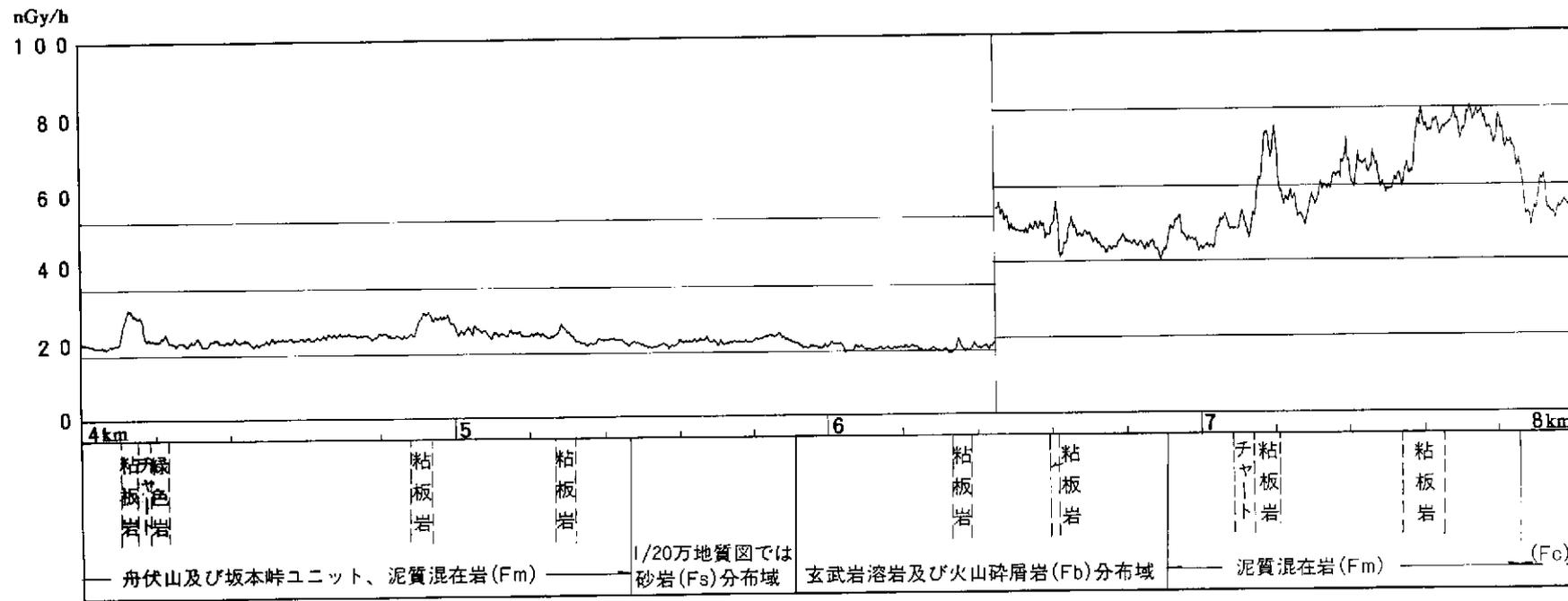
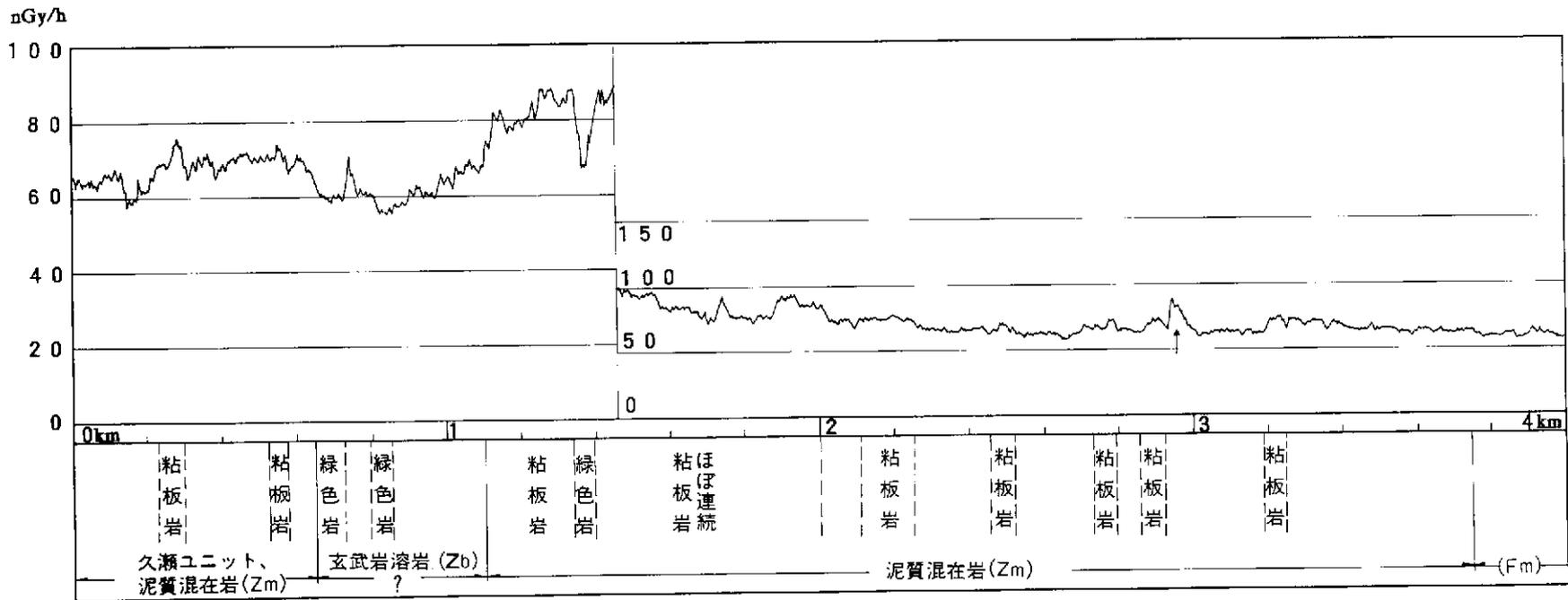


1/20万地質図では (Zl) 分布域であるが放射線量値より (Zm) と推測される。

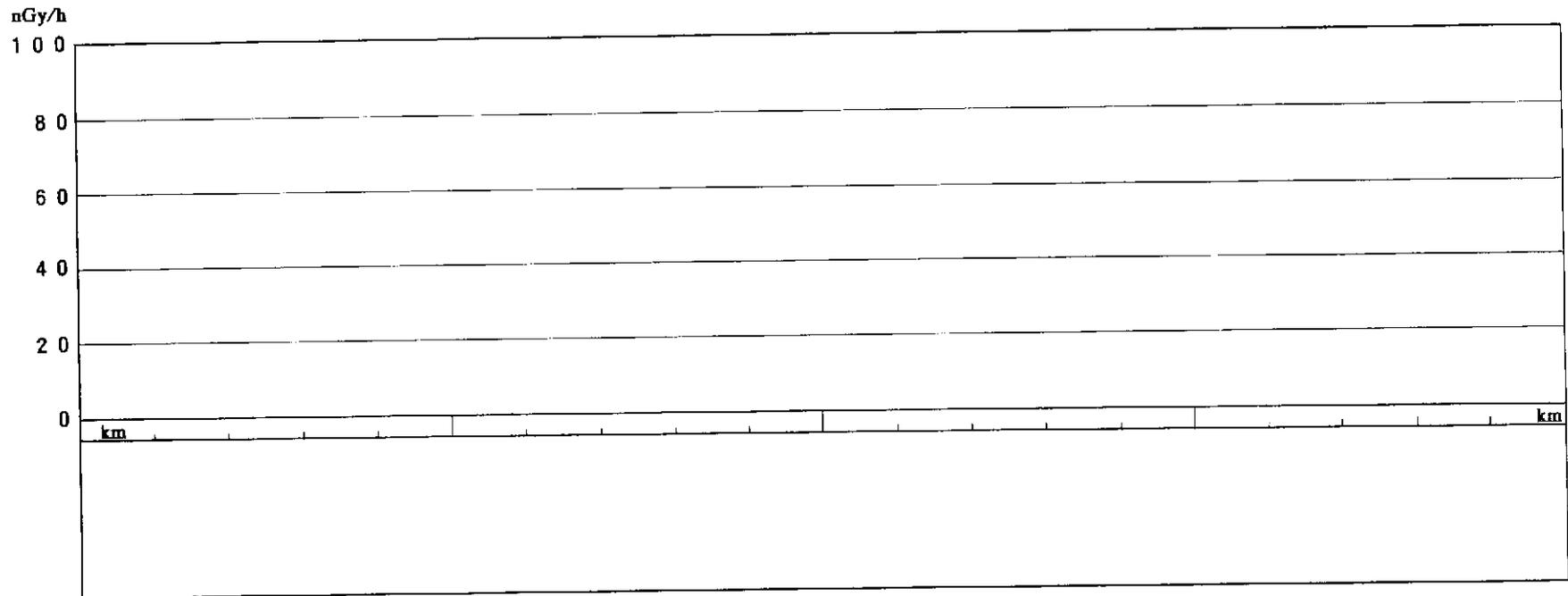
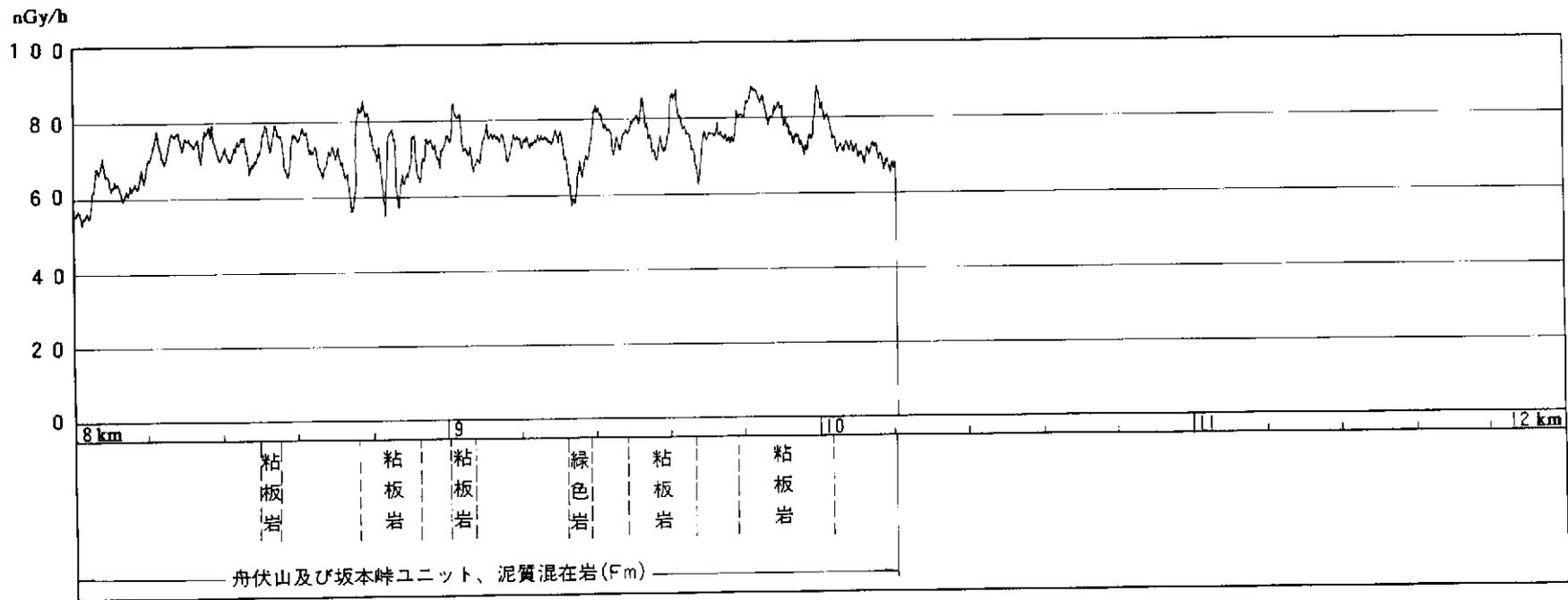




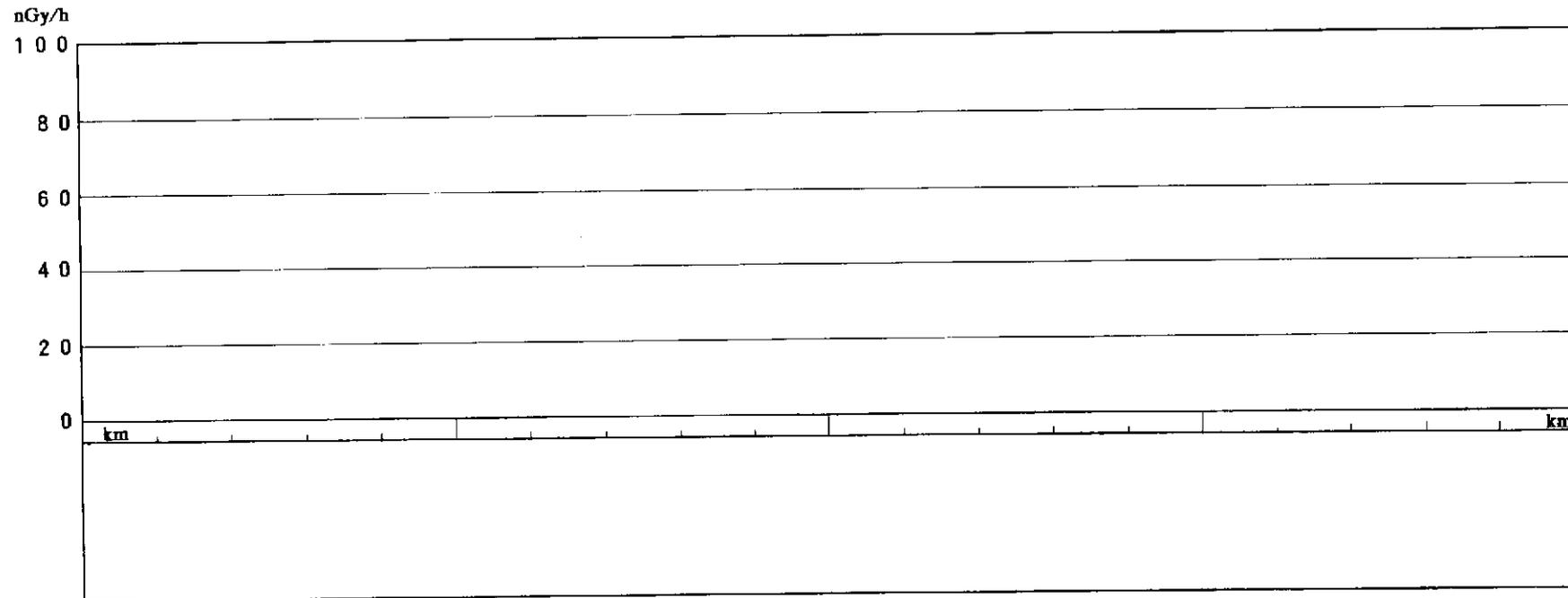
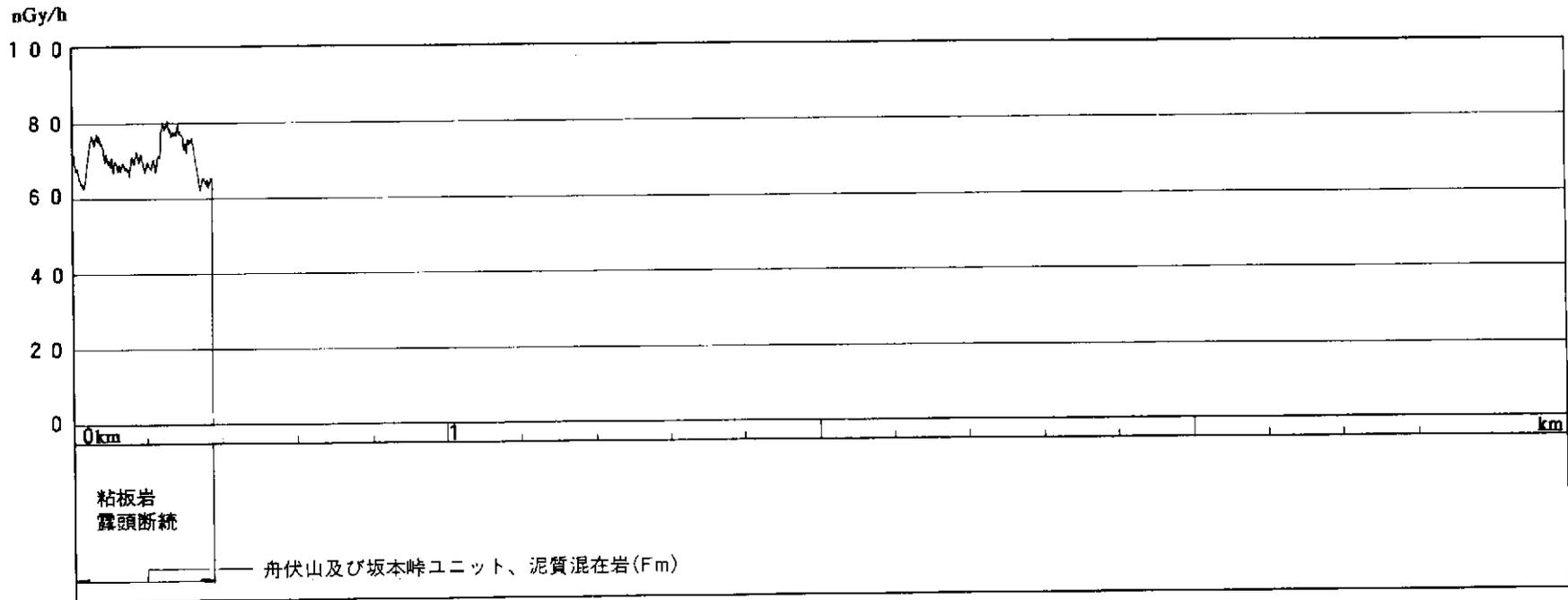
ルートNo.54

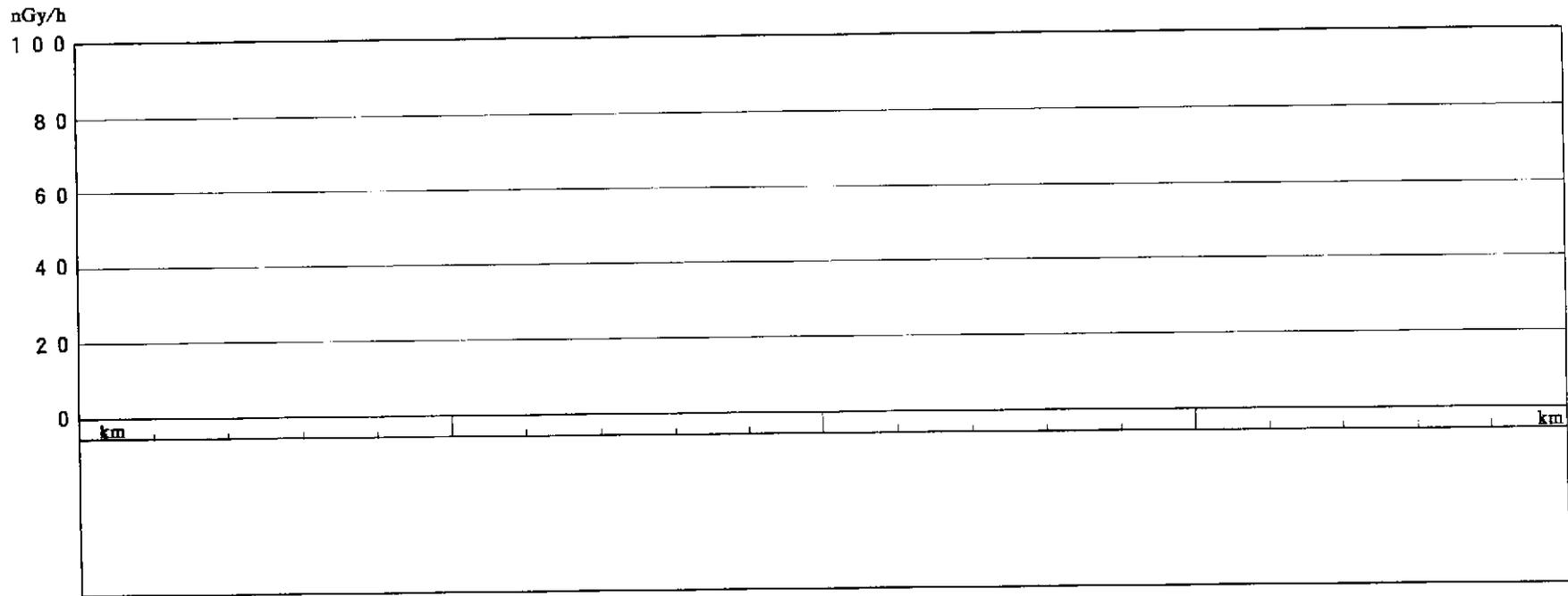
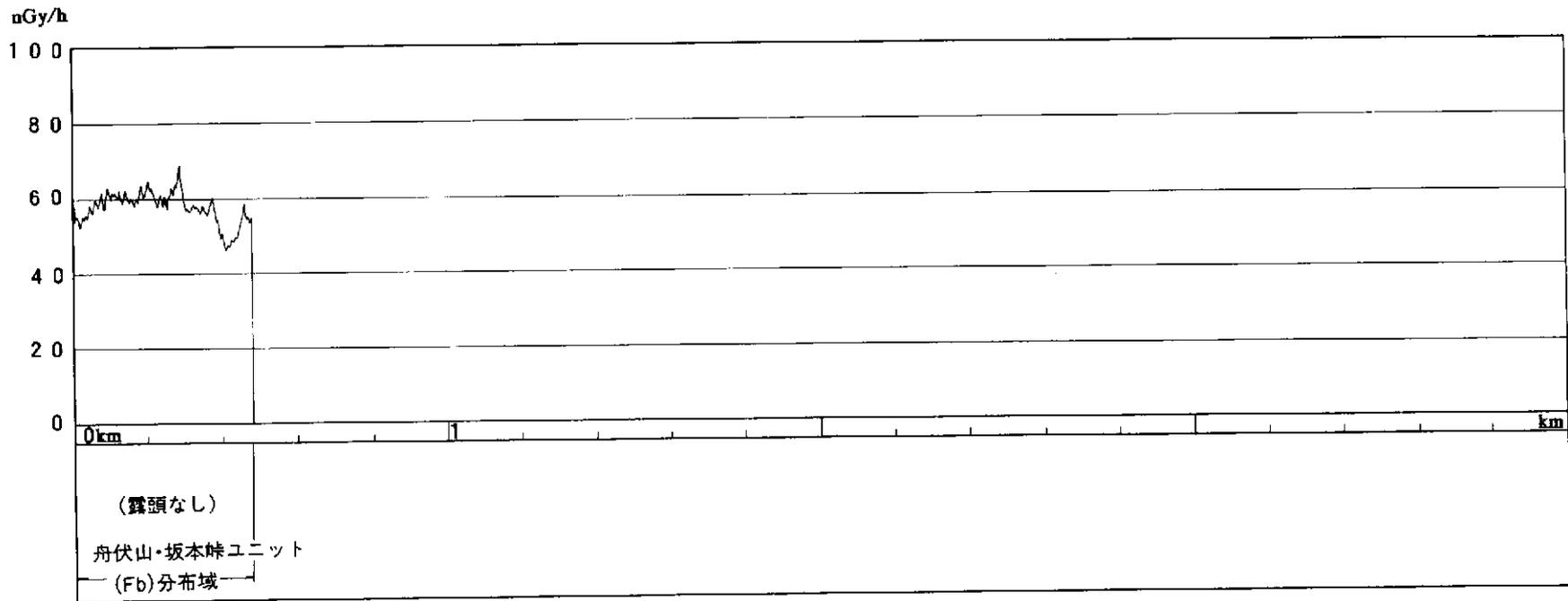


ルート No. 55 (その1)

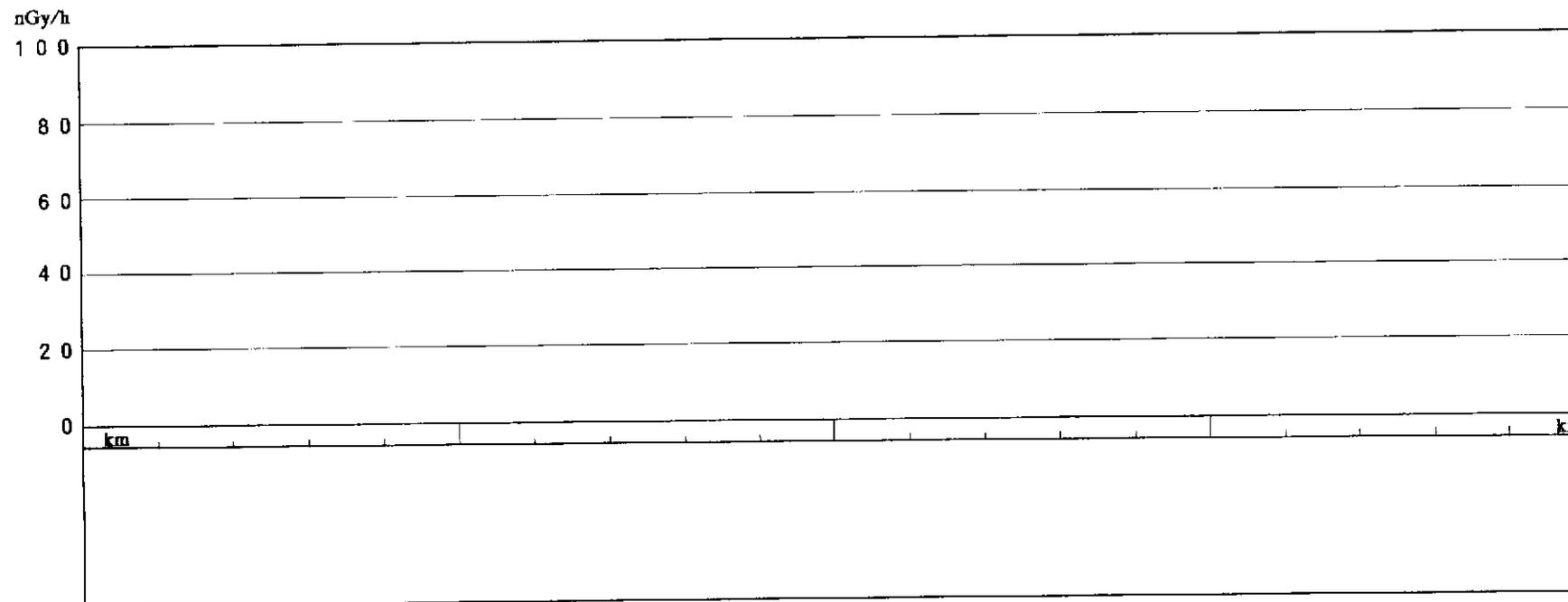
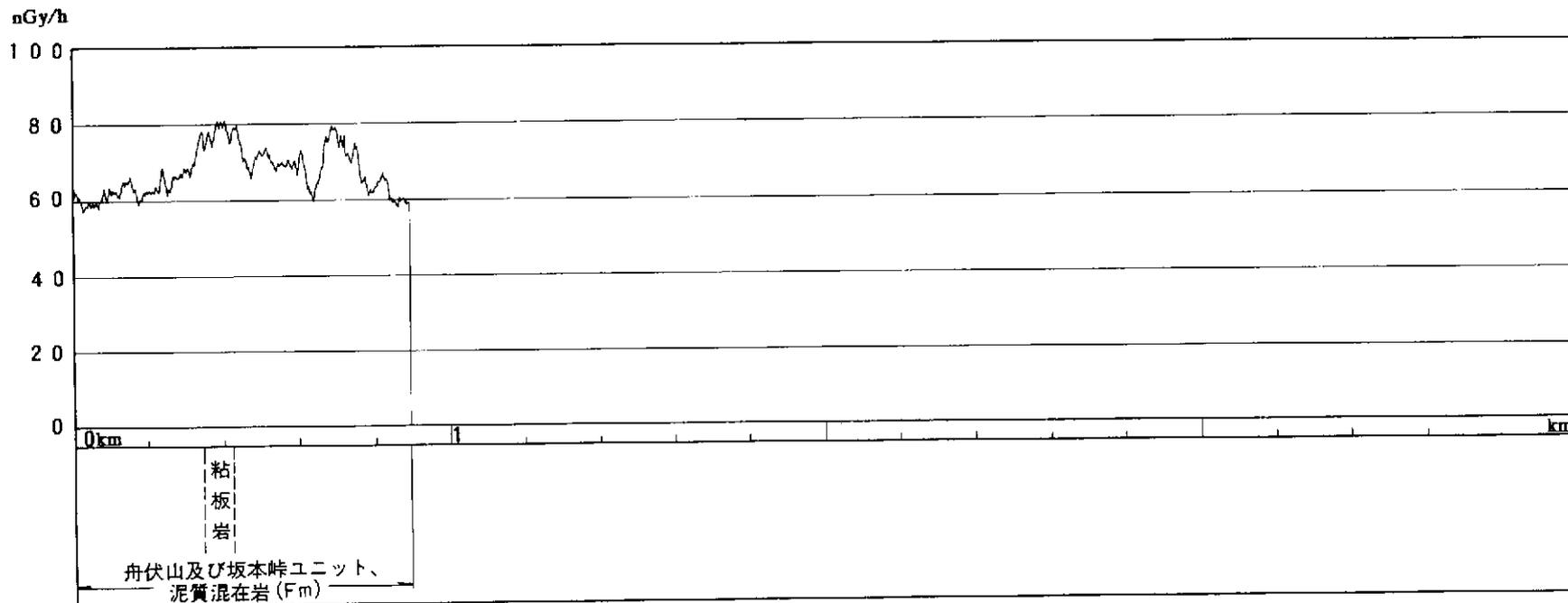


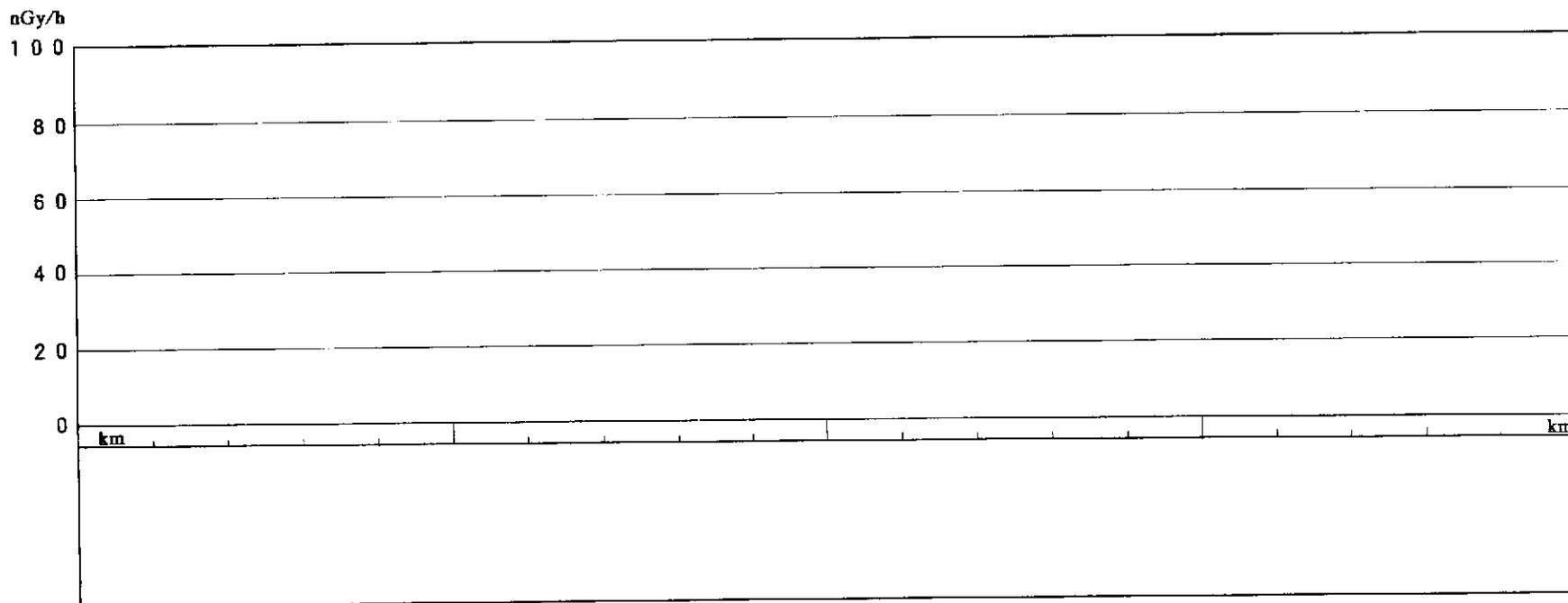
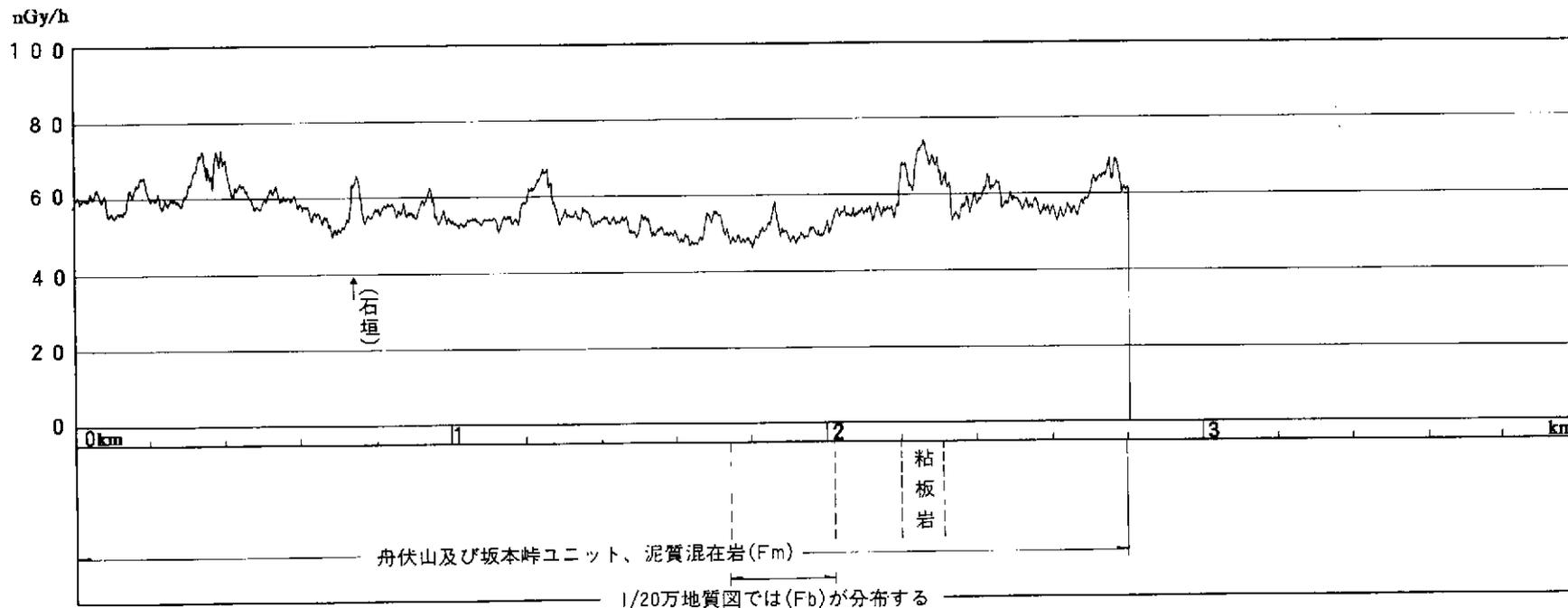
ルートNo.55 (その2)



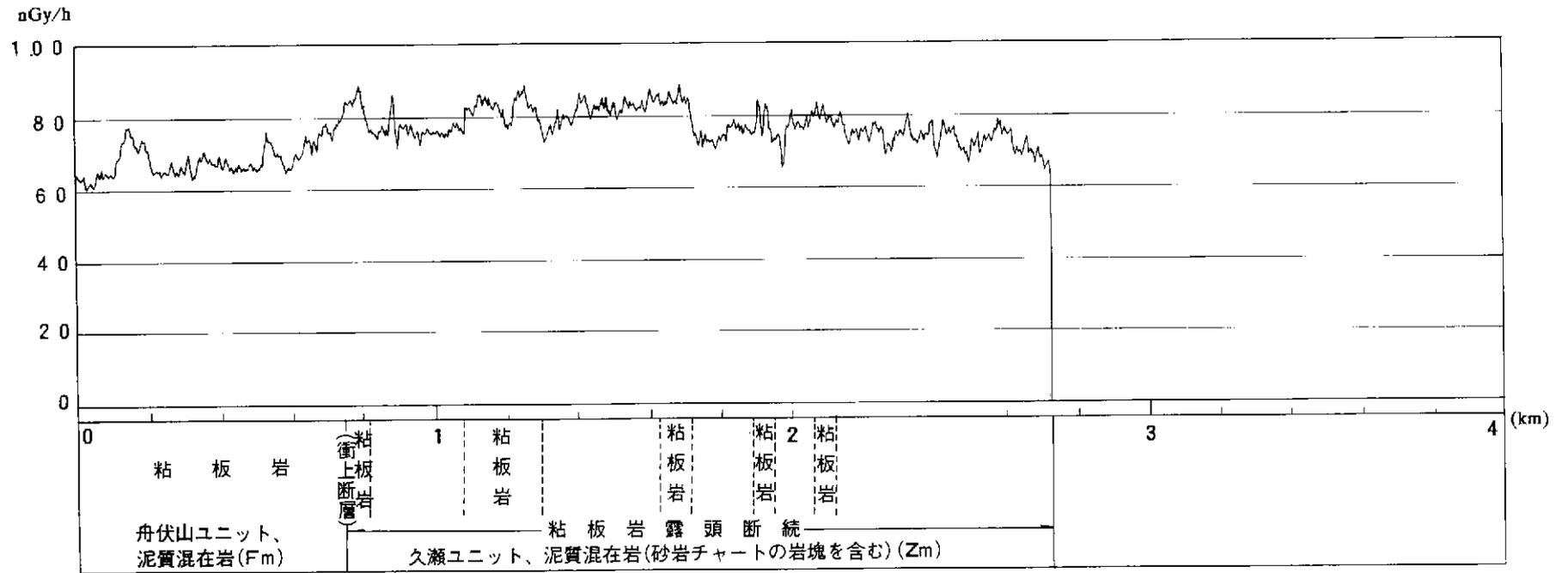


ルートNo.57

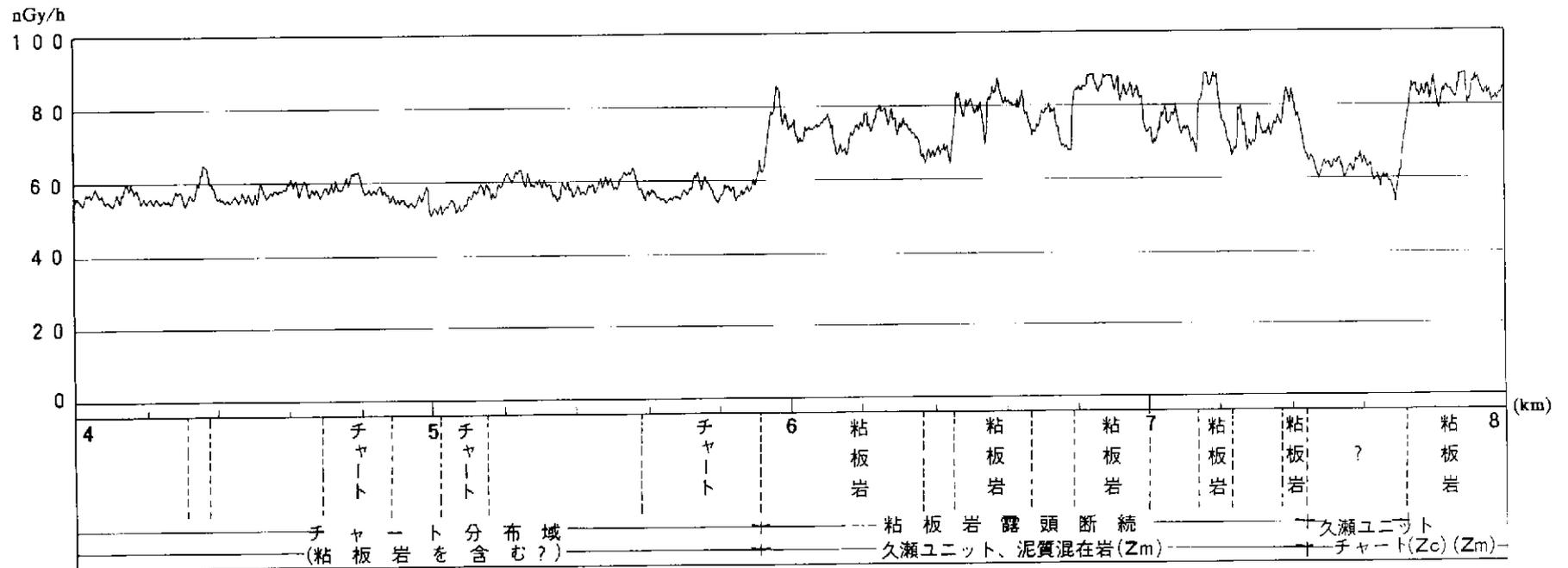
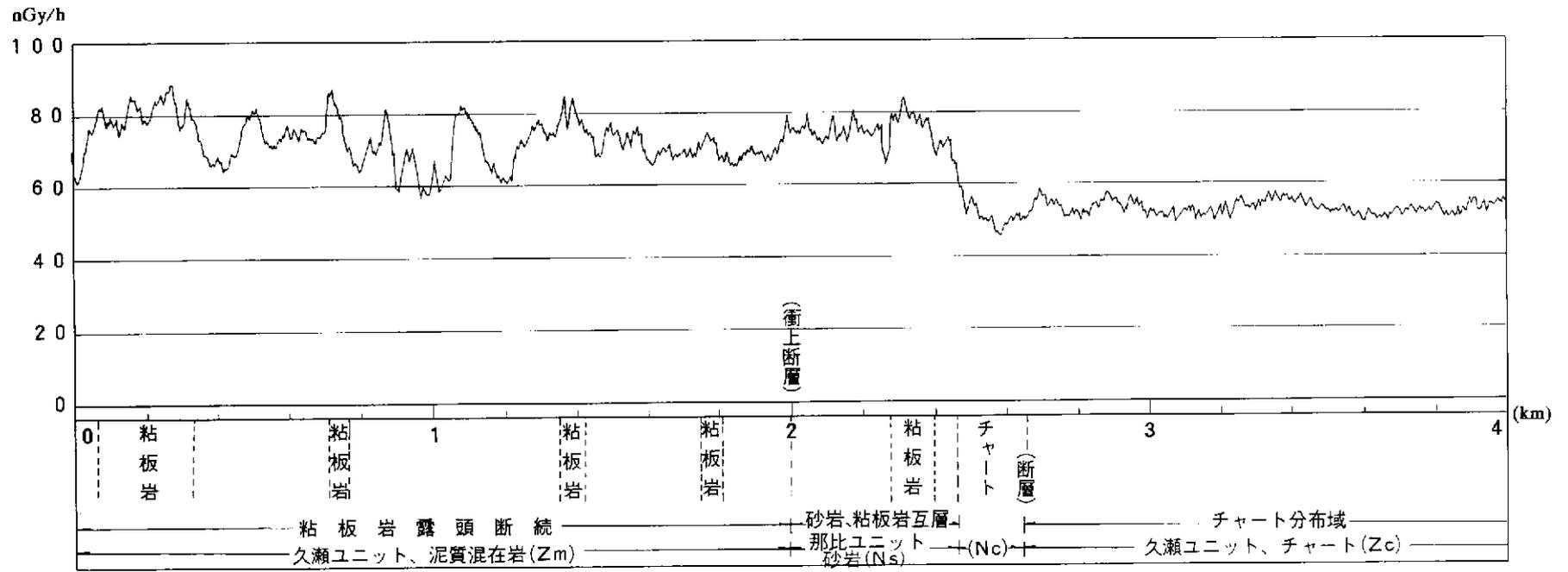




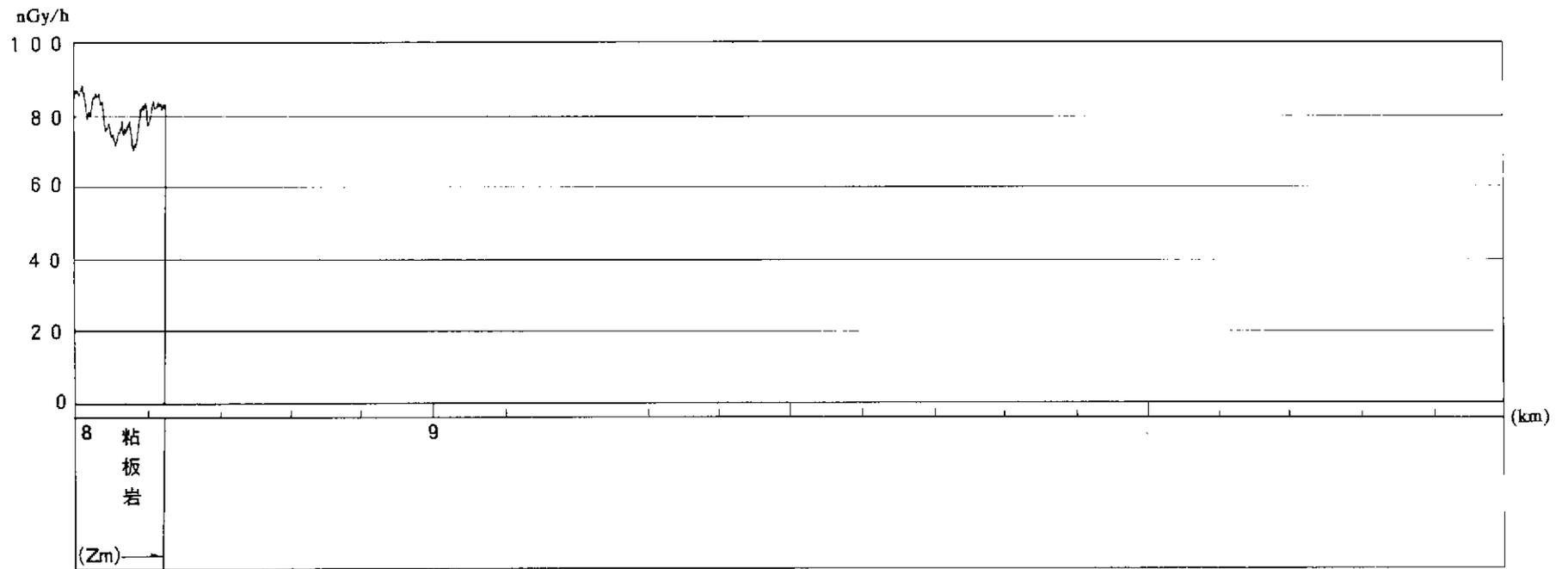
ルートNo.59



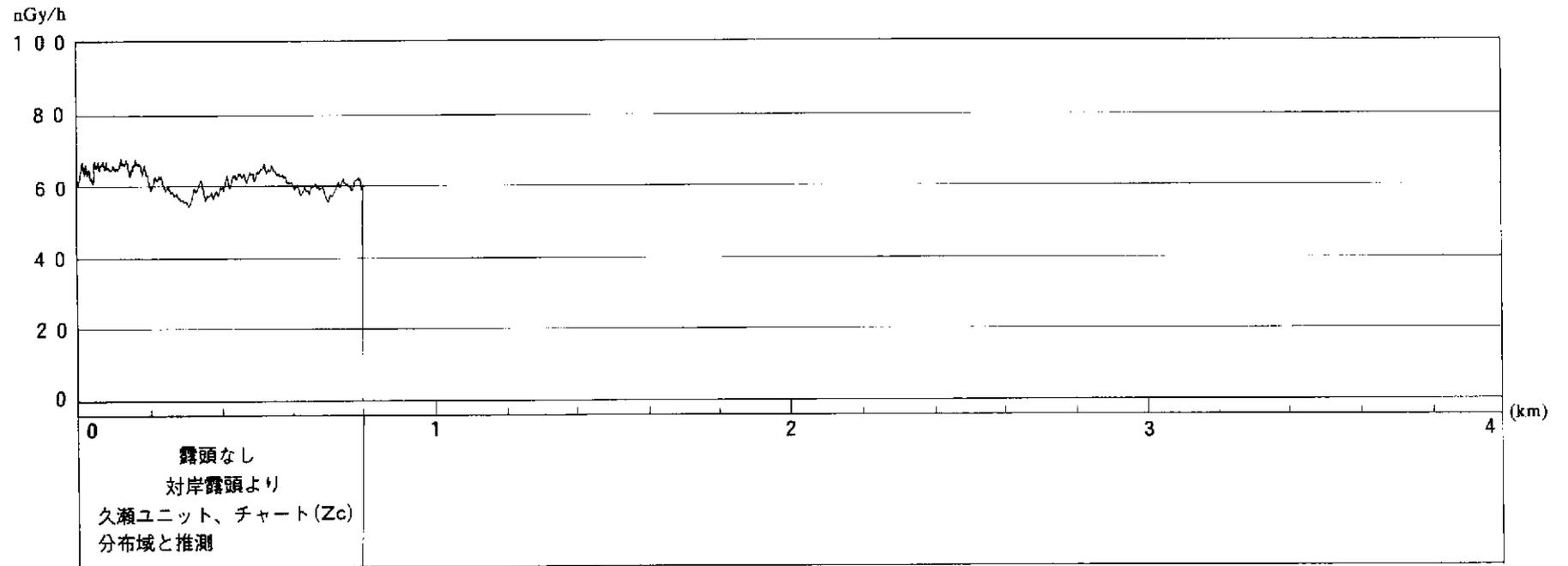
ルートNo. 60



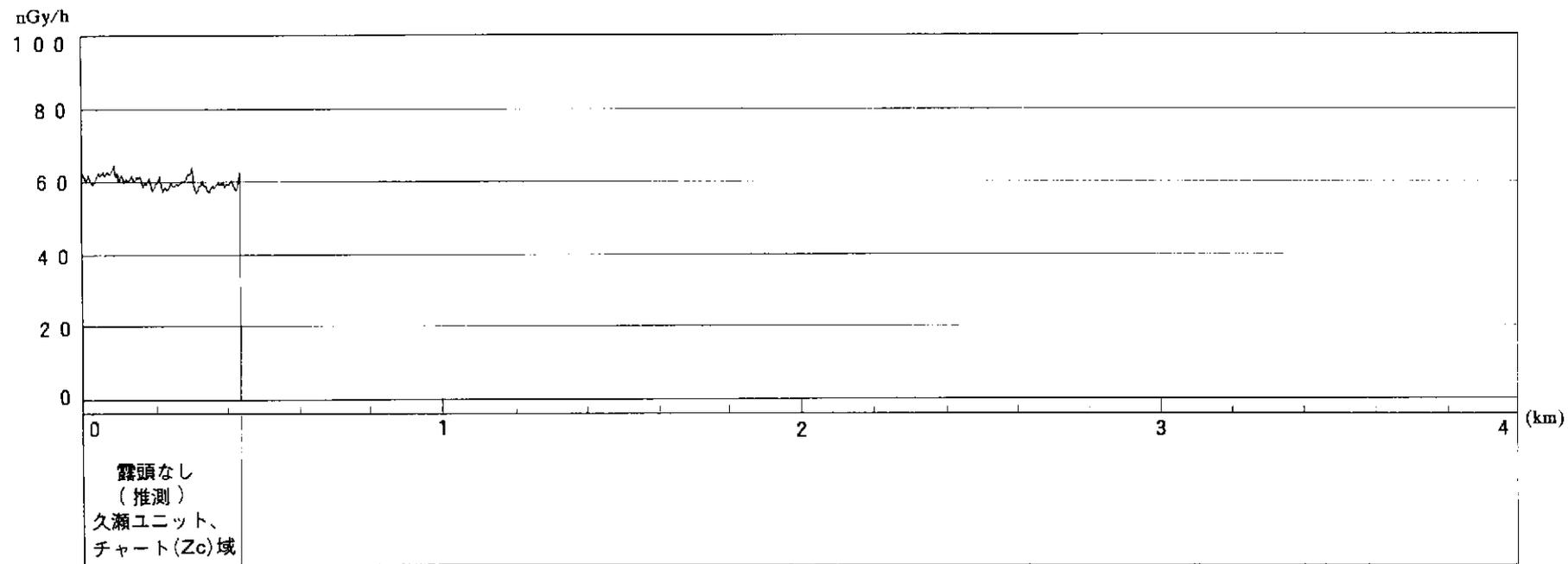
ルート No. 61 (その1)



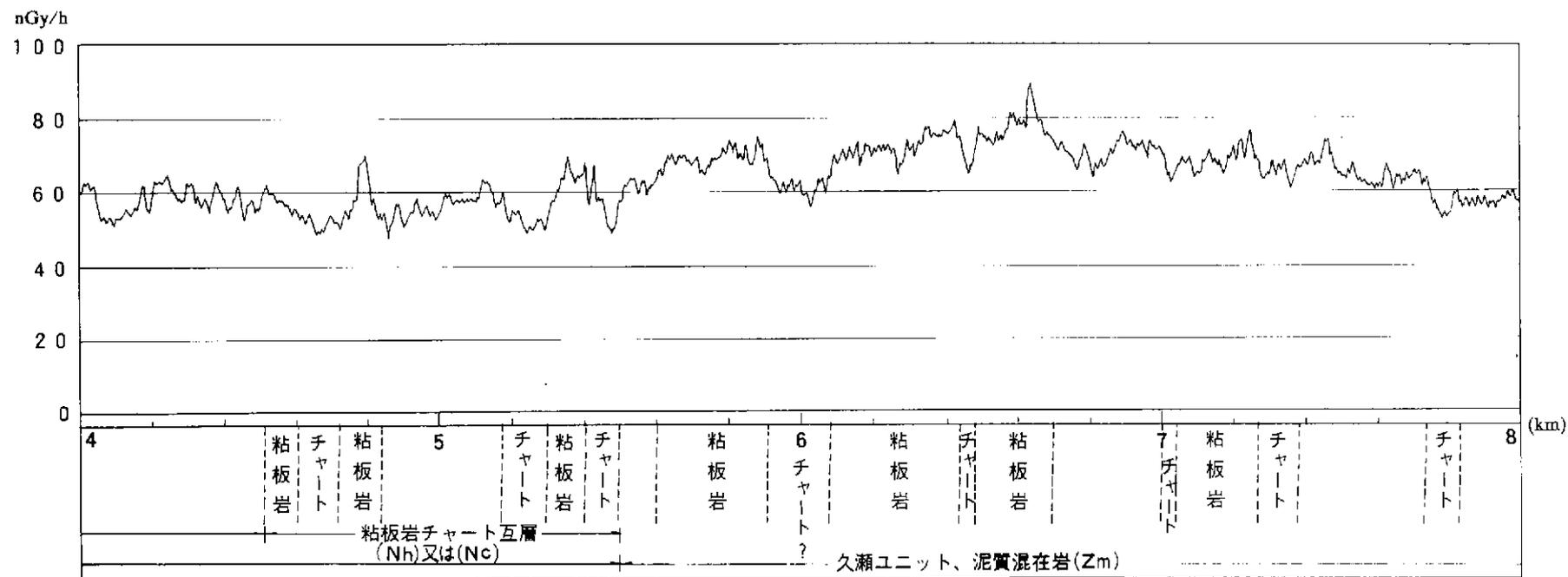
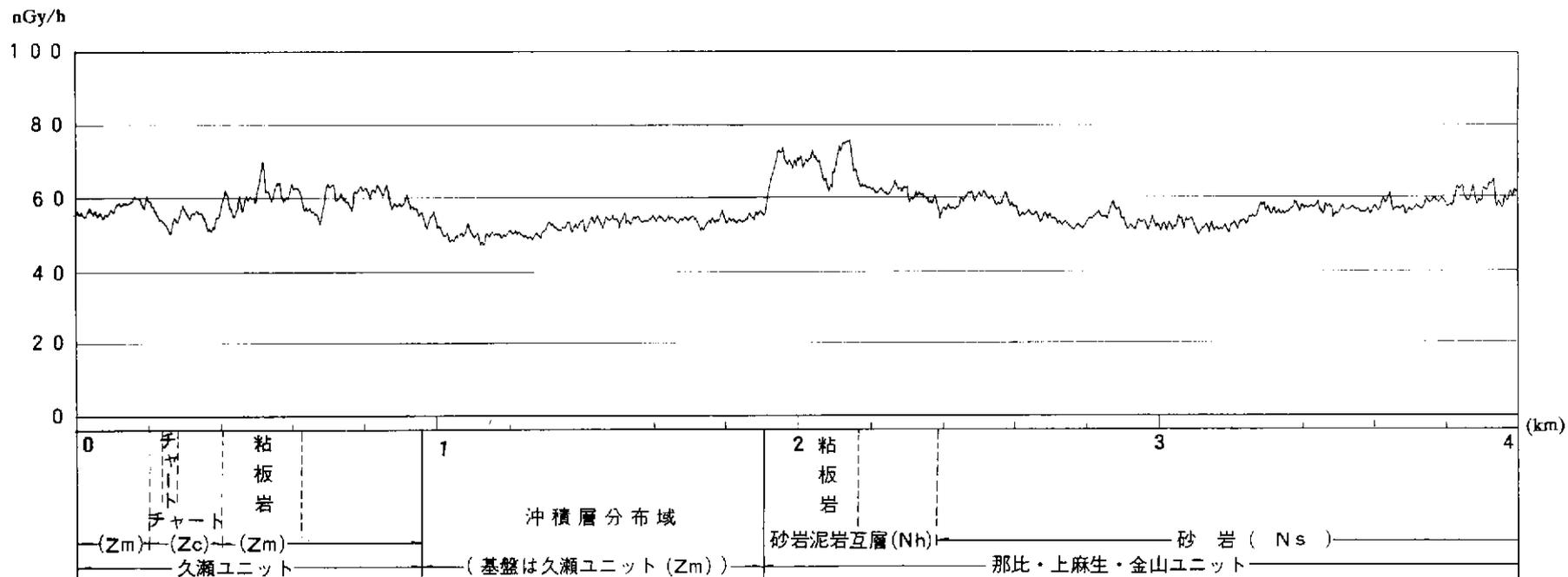
ルートNo. 61 (その2)



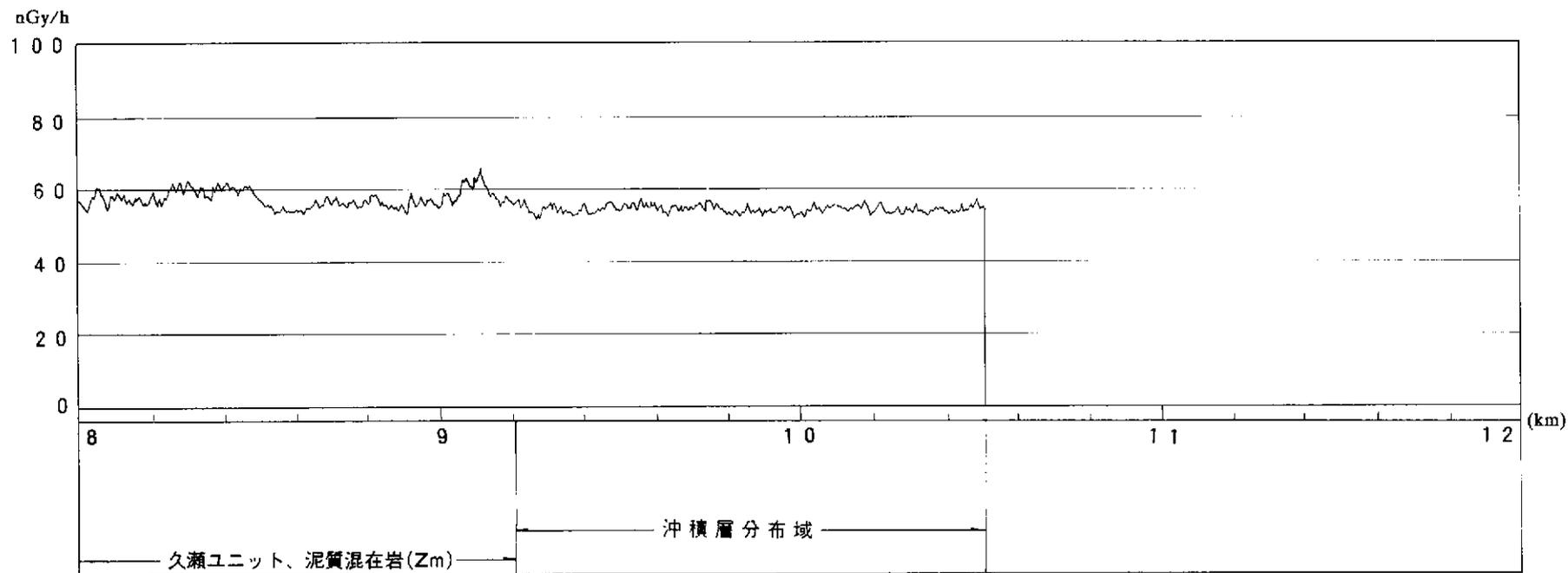
ルート No. 62



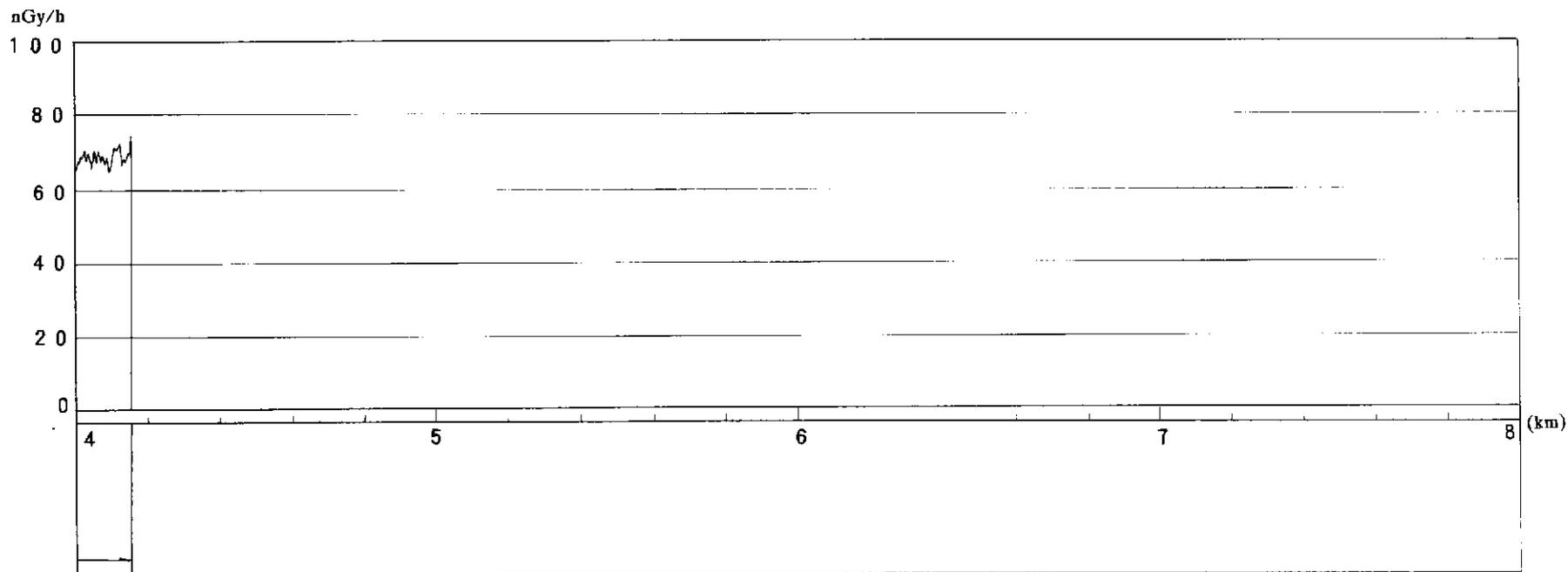
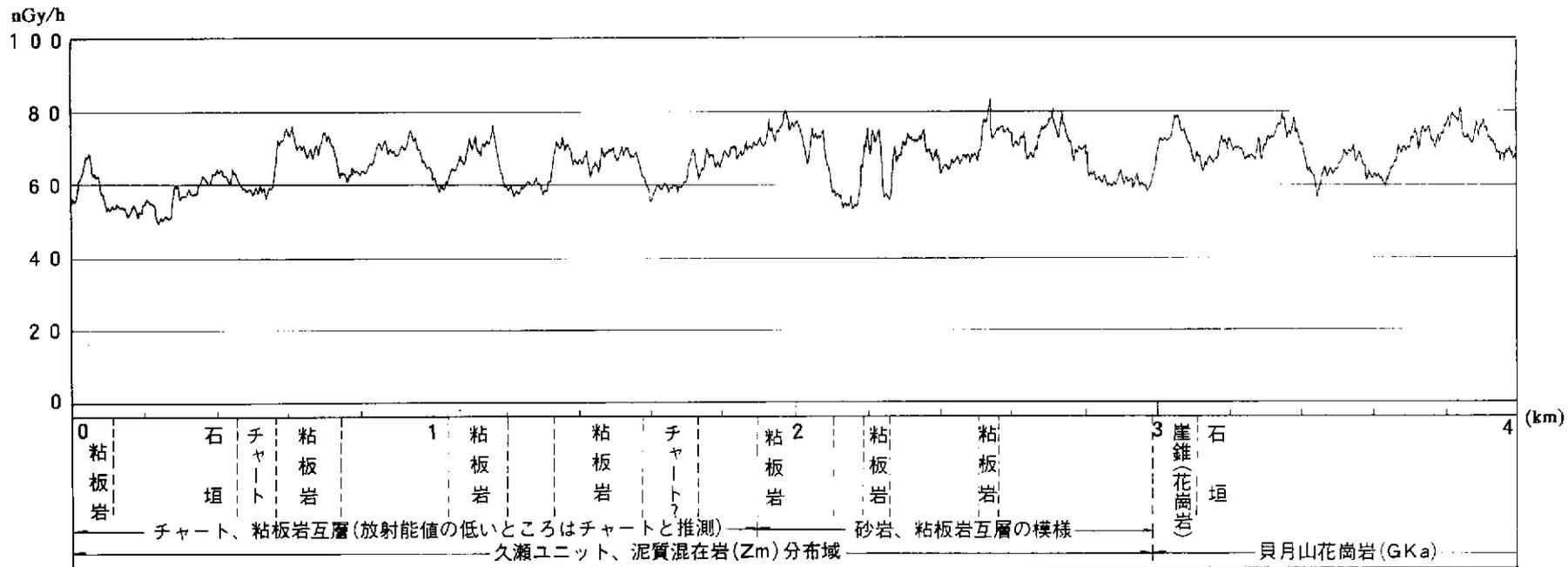
ルートNo. 63



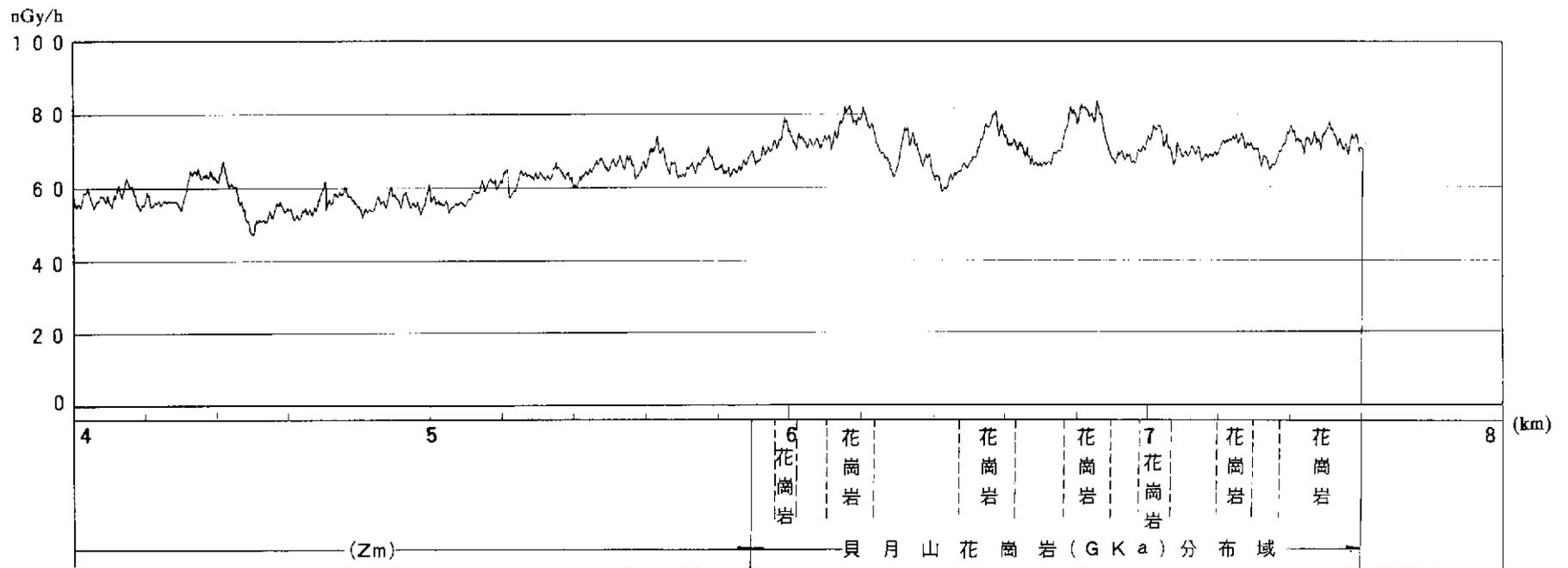
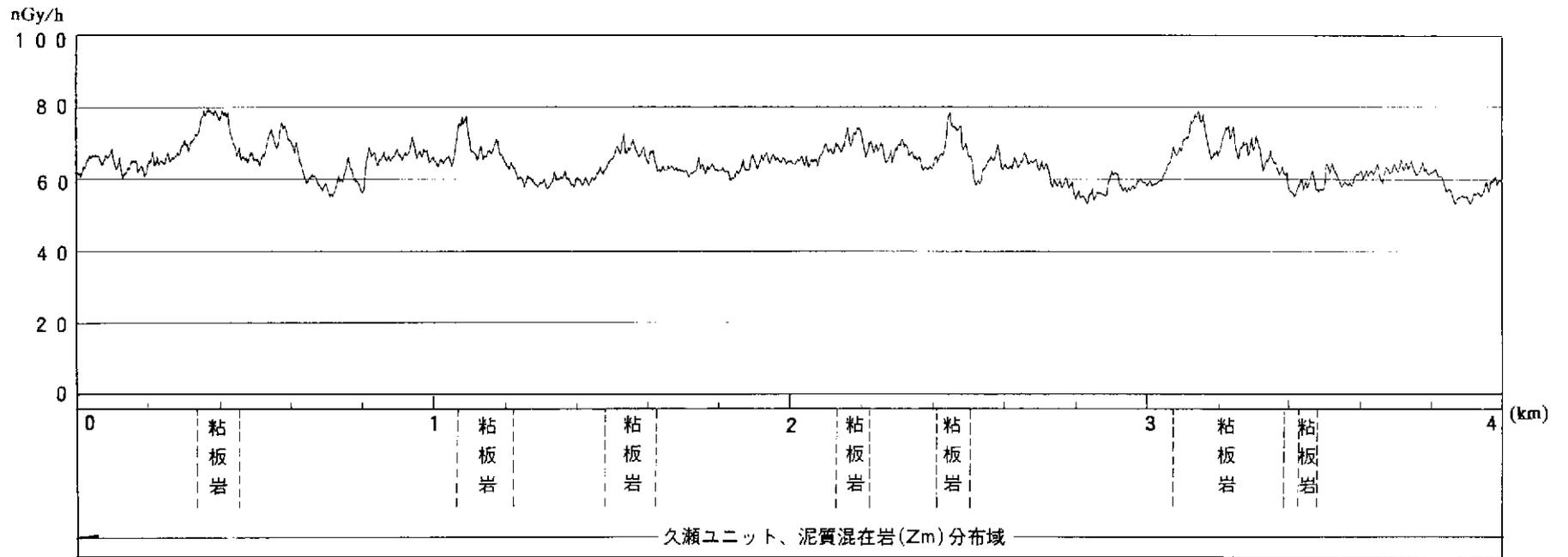
ルート No. 64 (その1)



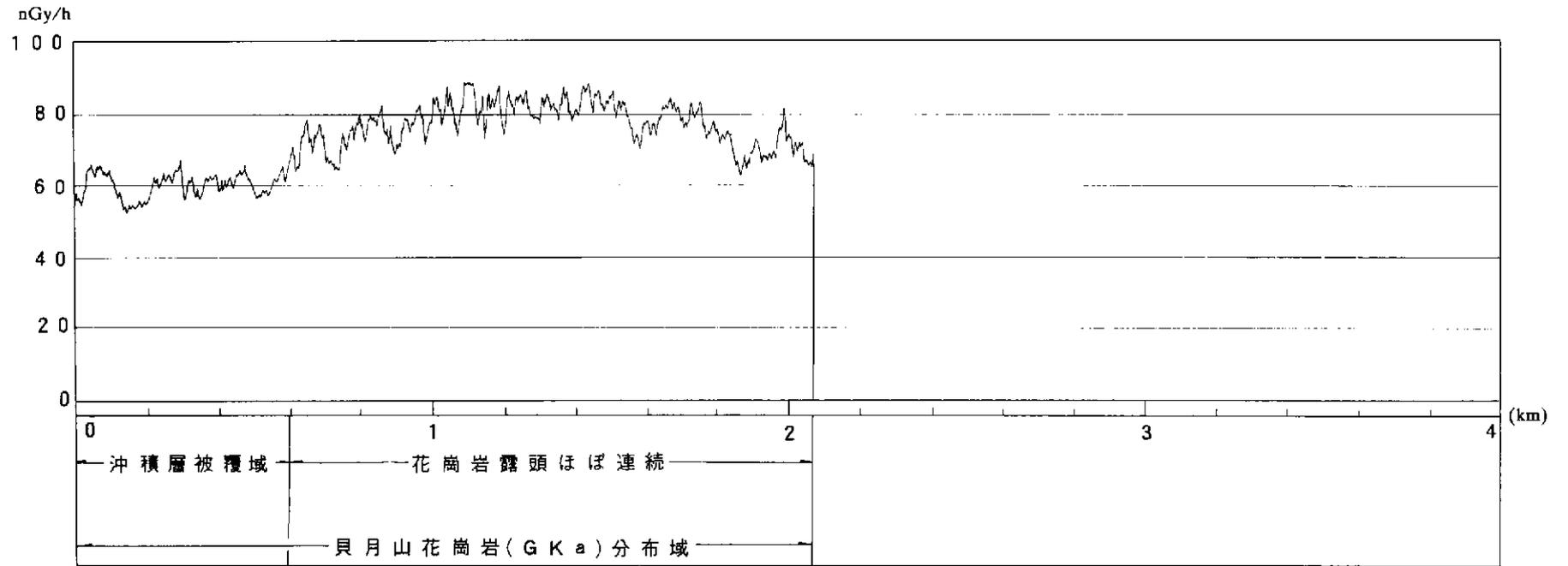
ルートNo. 64 (その2)



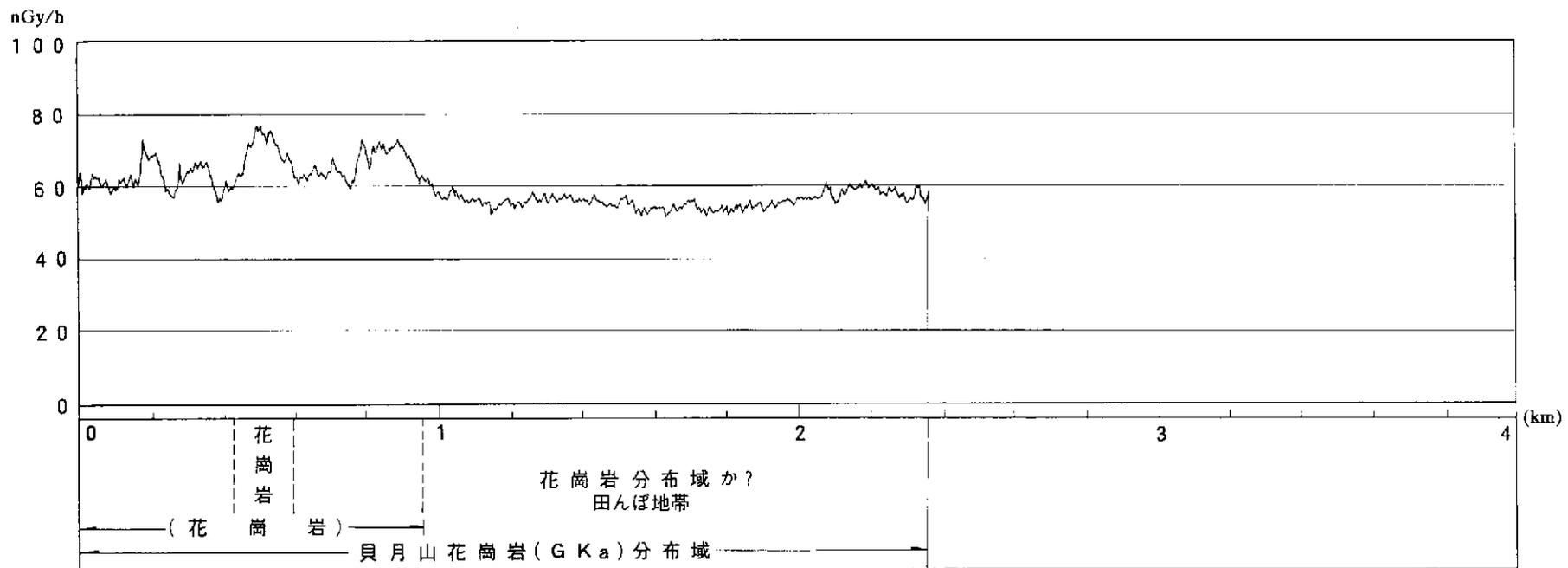
ルートNo. 65



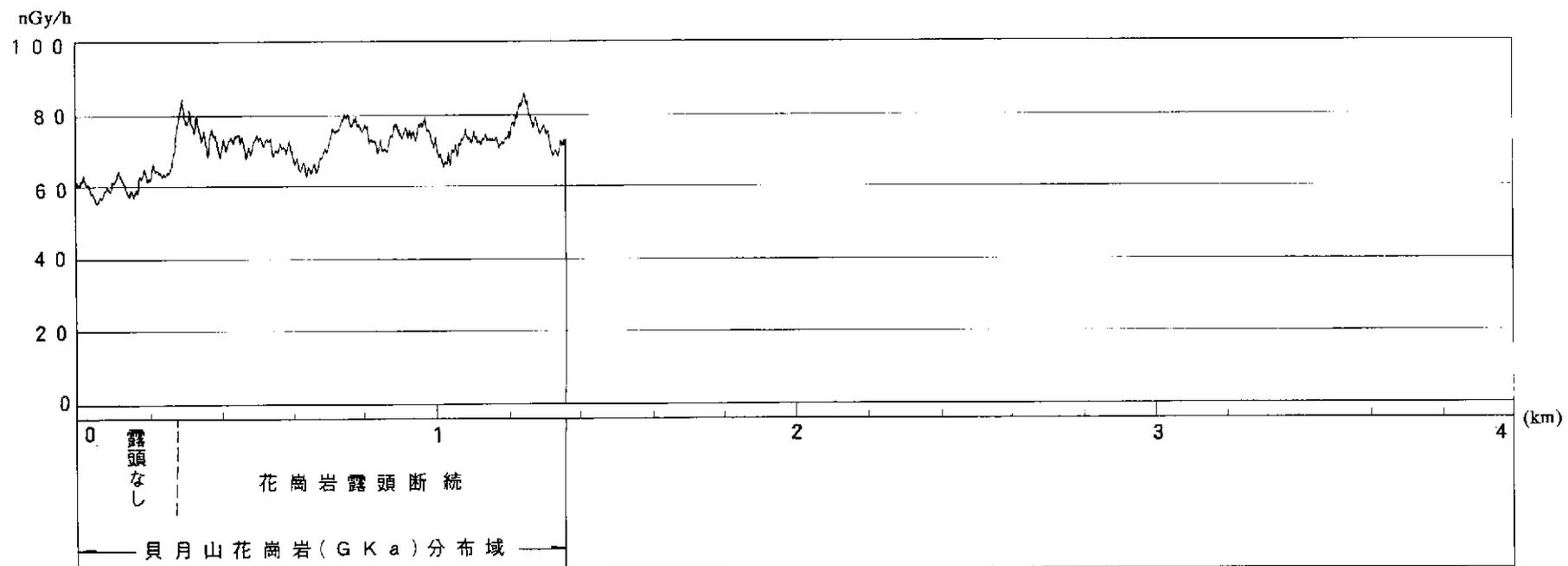
ルートNo. 66



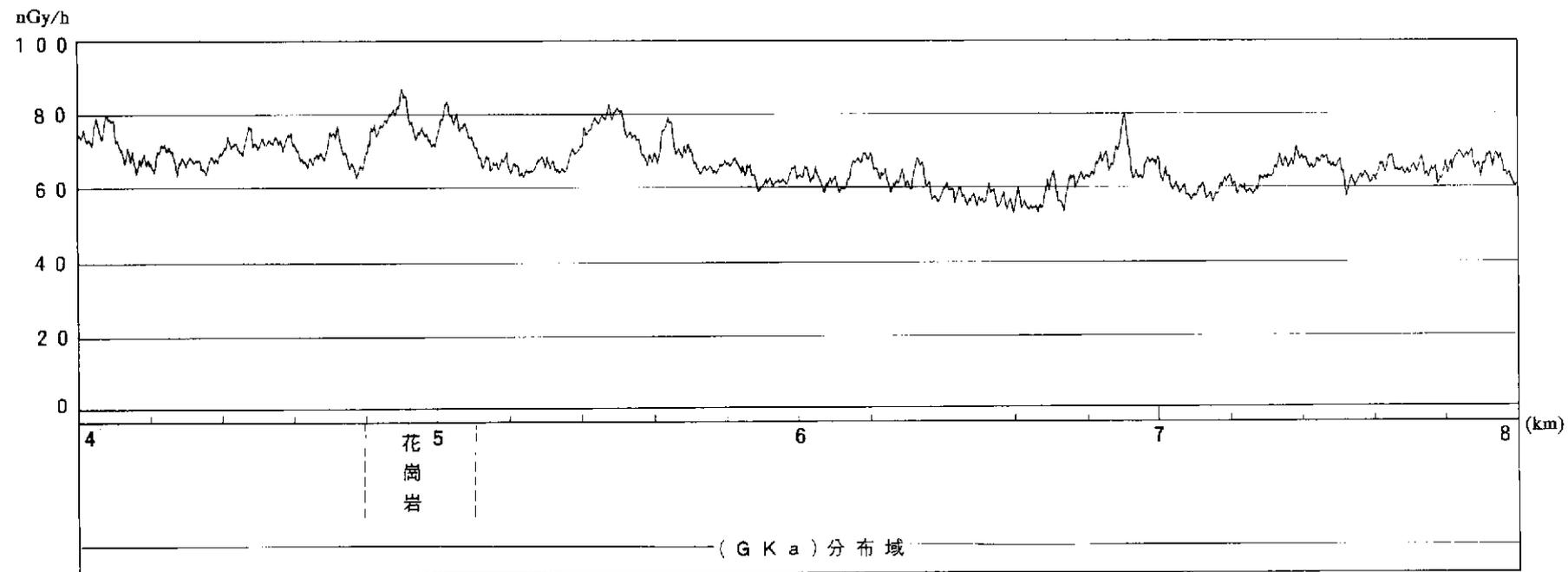
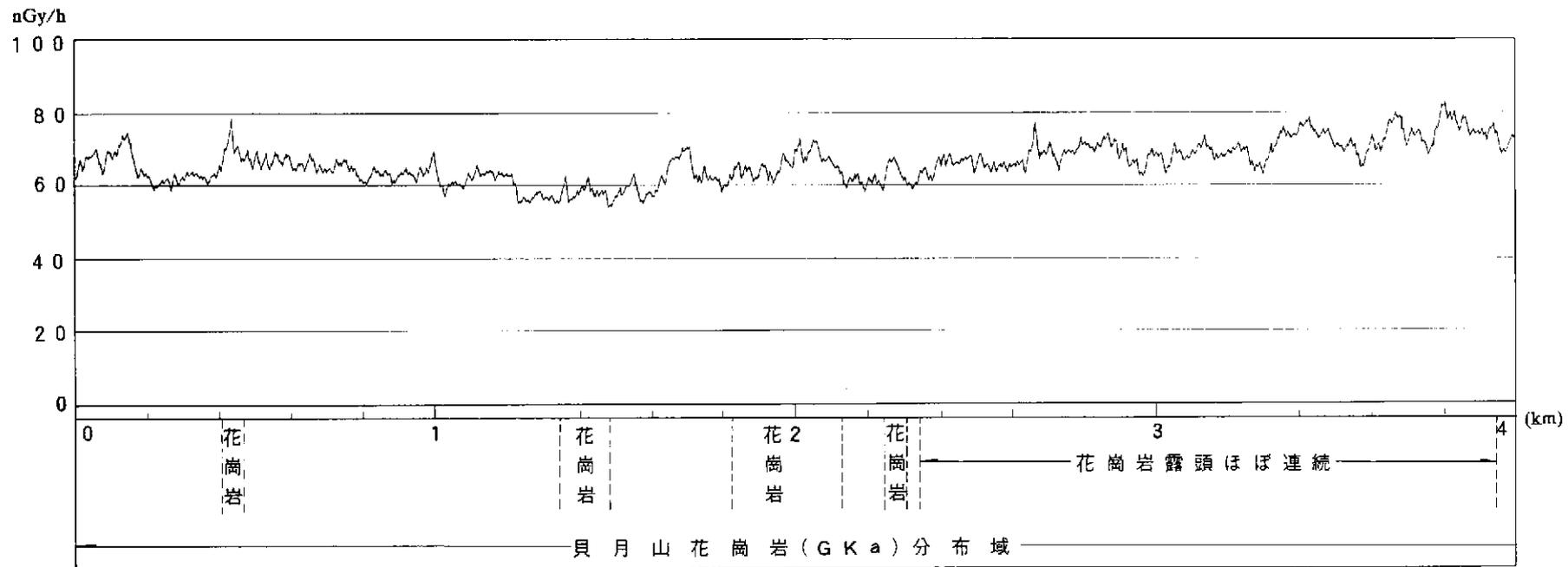
ルートNo. 67



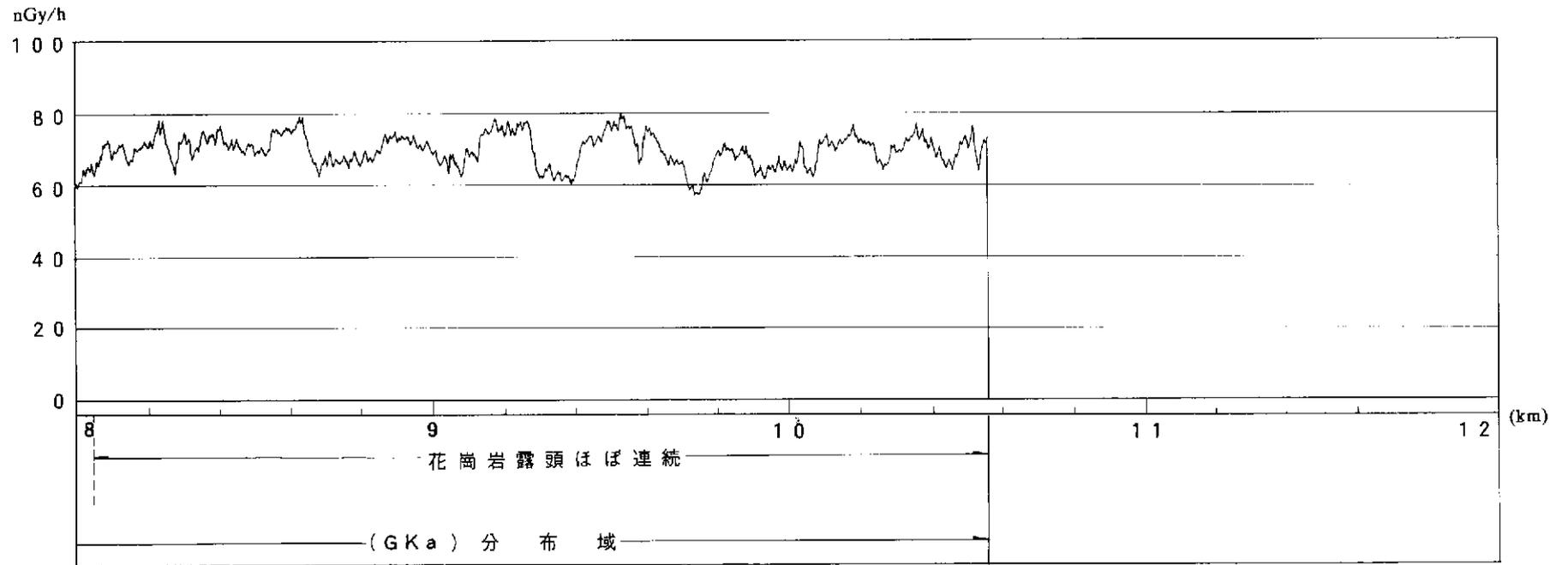
ルートNo. 68



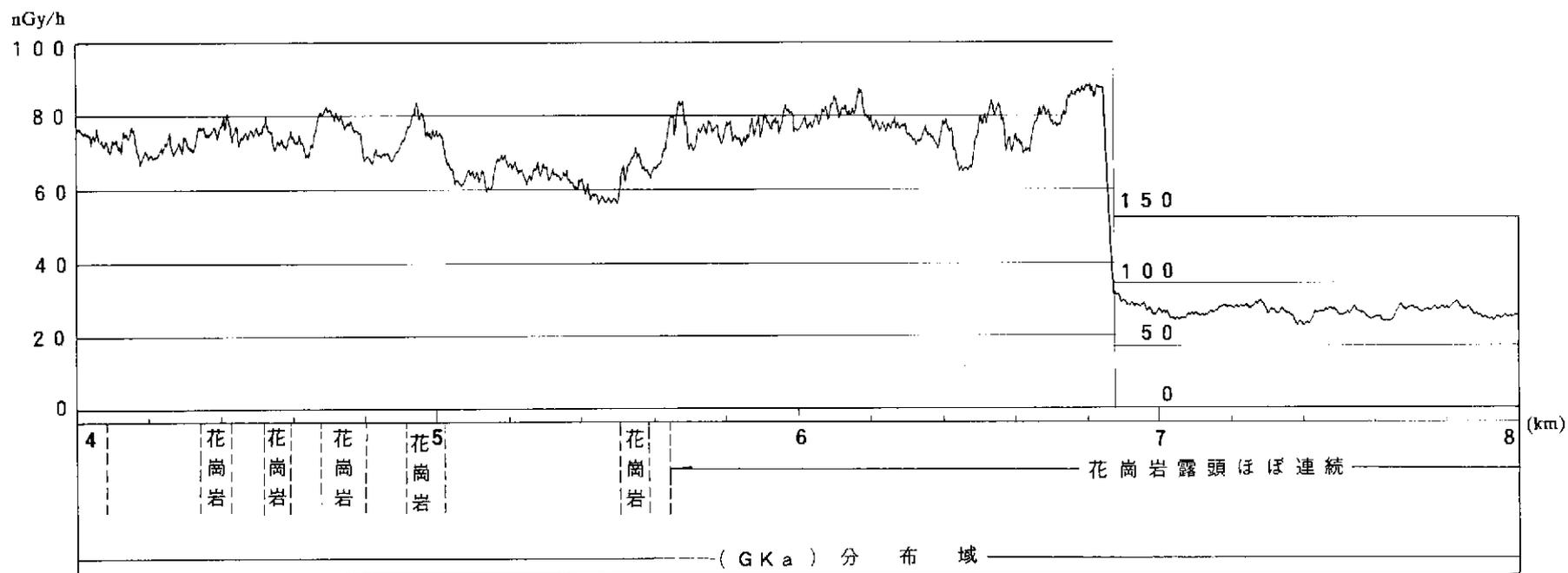
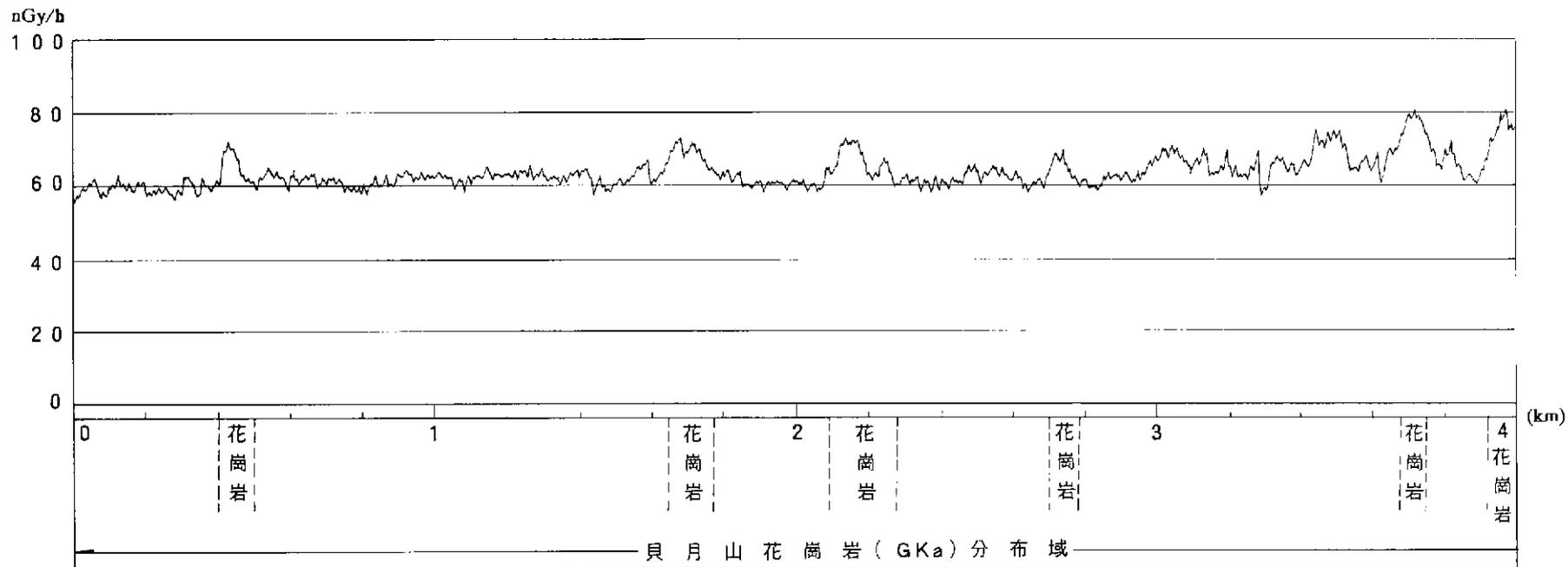
ルートNo. 69



ルートNo. 70 (その1)

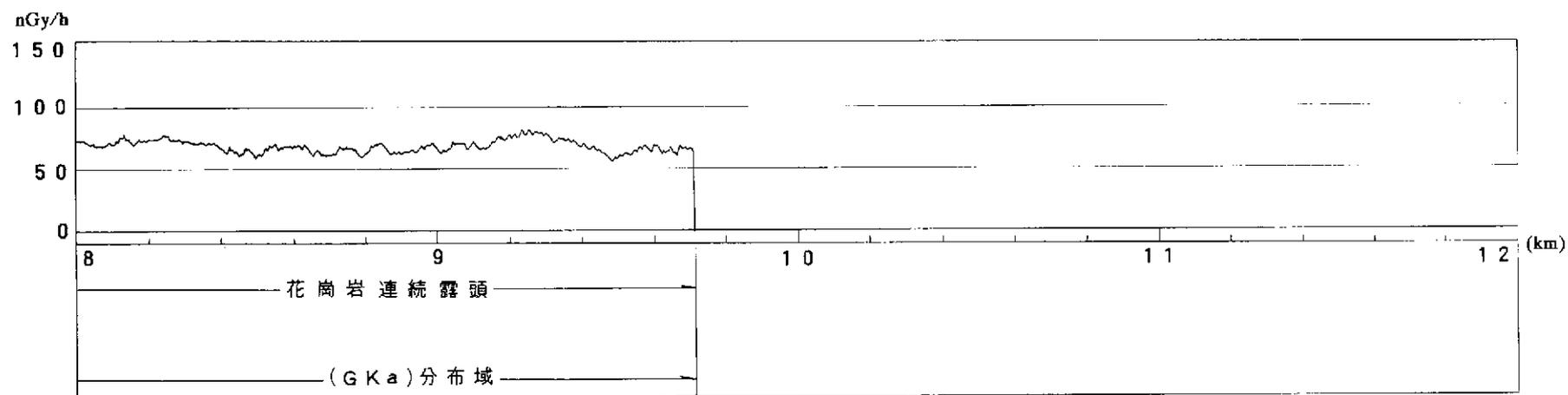


ルートNo. 70 (その2)

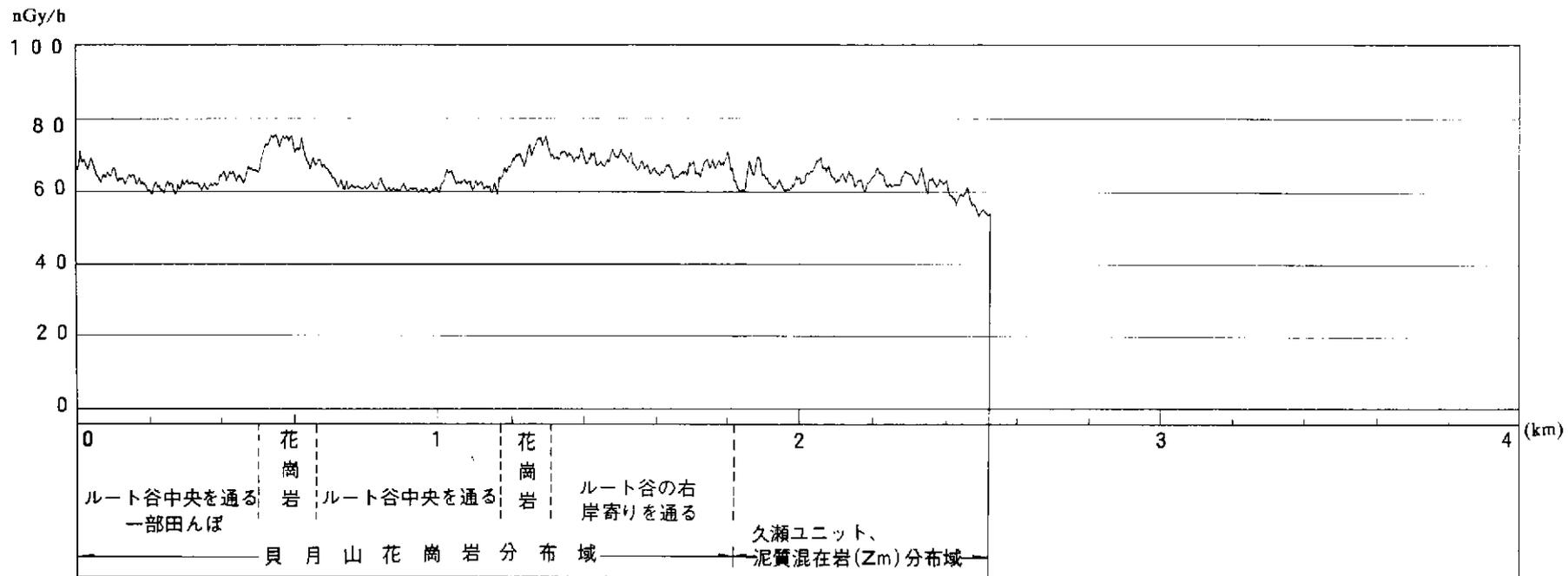


— 144 —

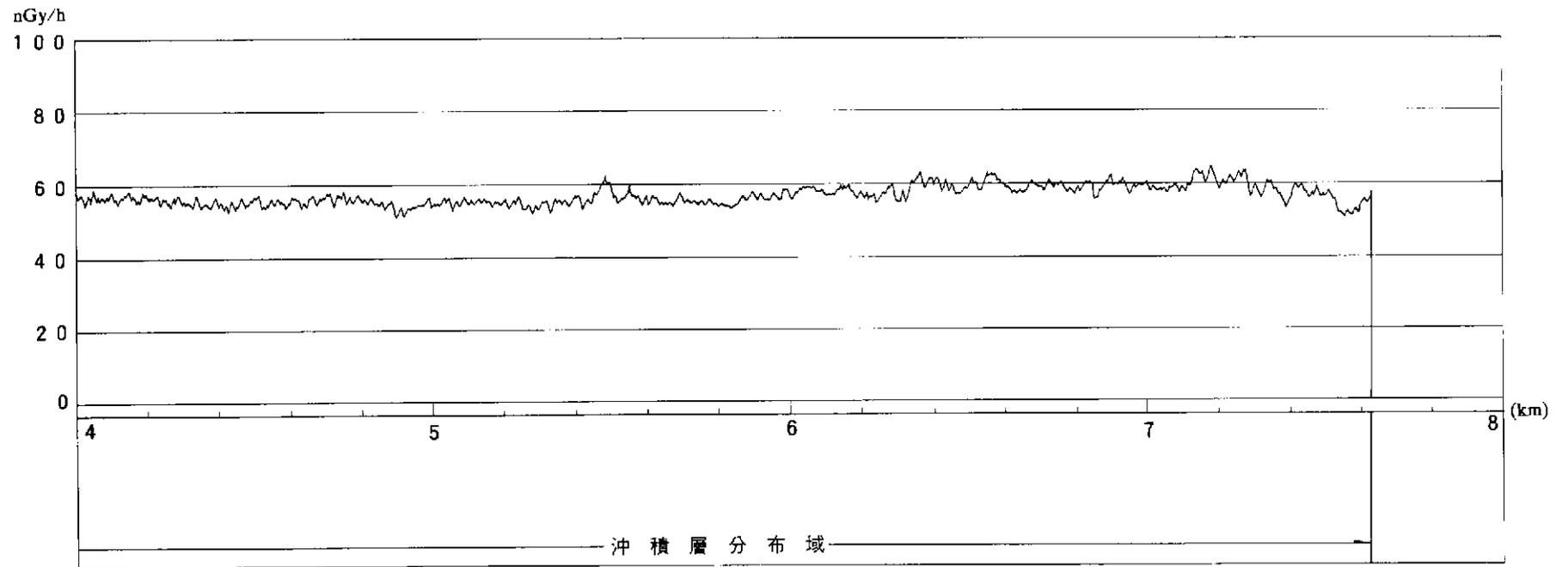
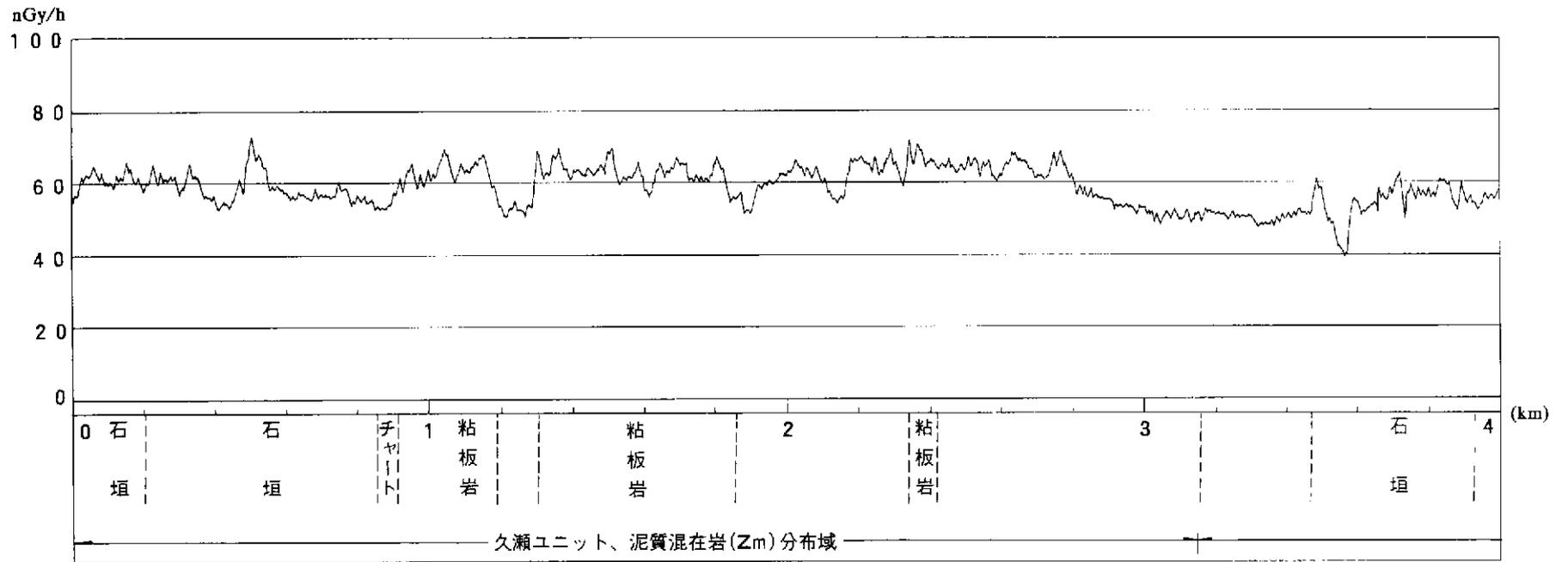
ルートNo. 71 (その1)



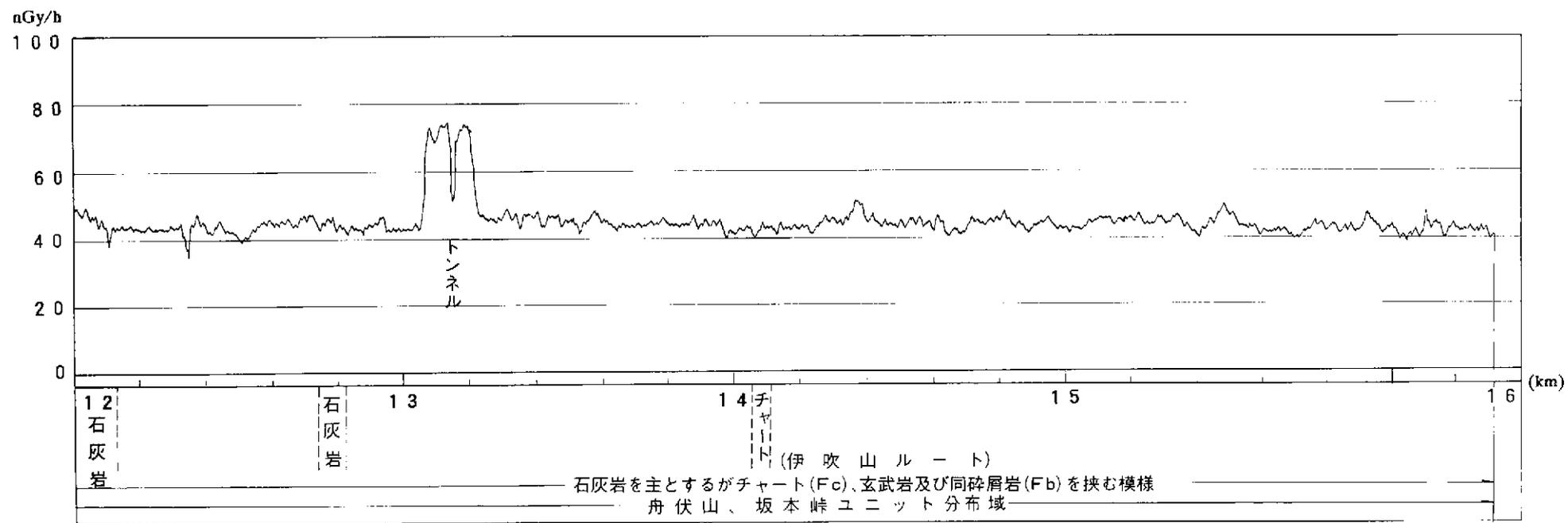
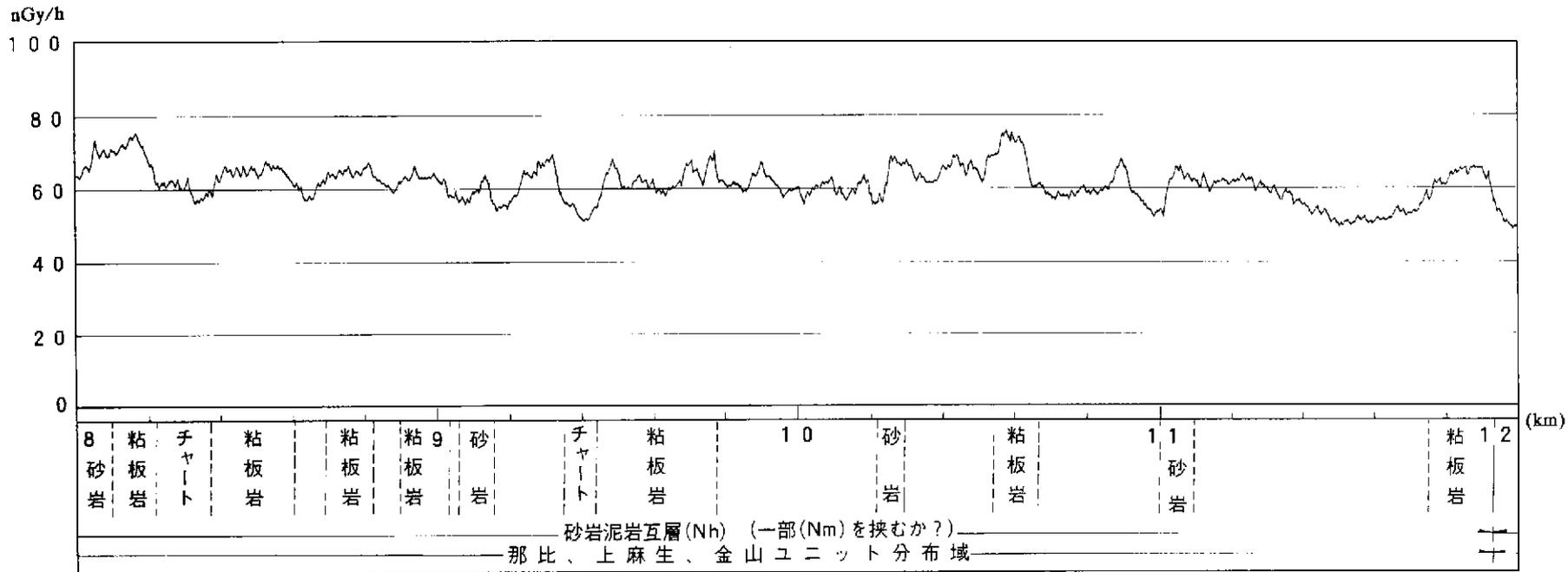
ルートNo. 71 (その2)



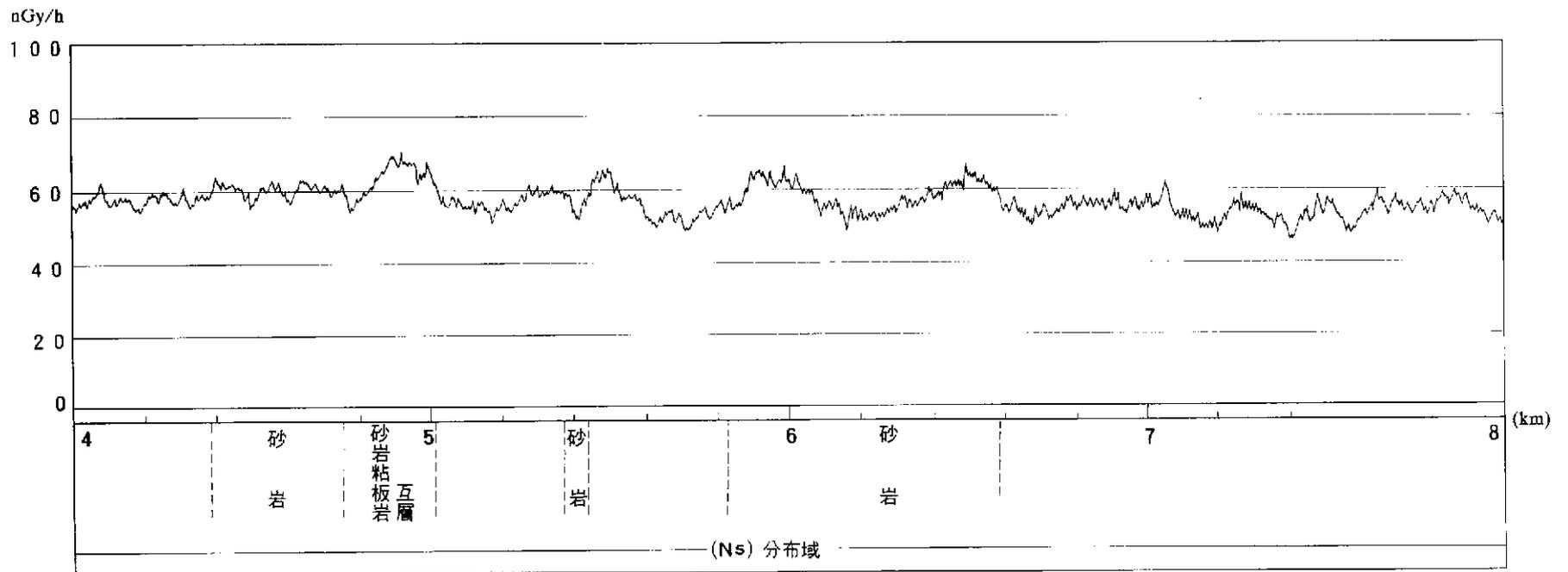
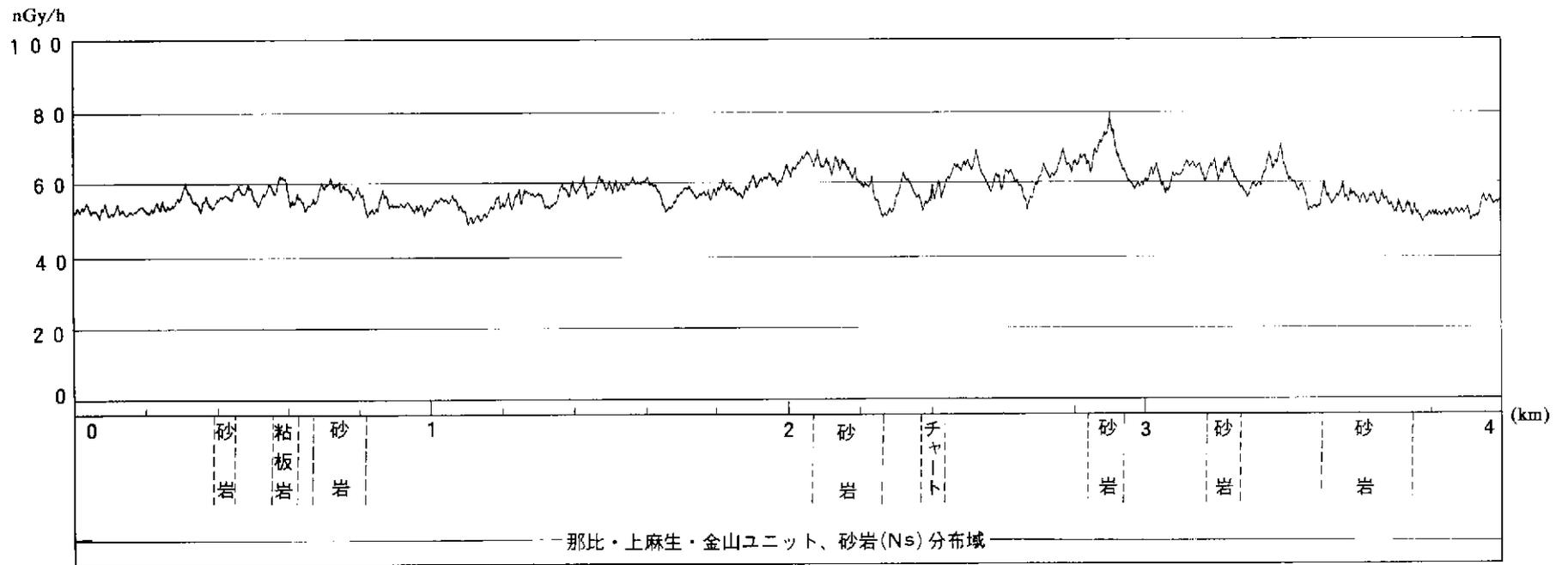
ルートNo. 72



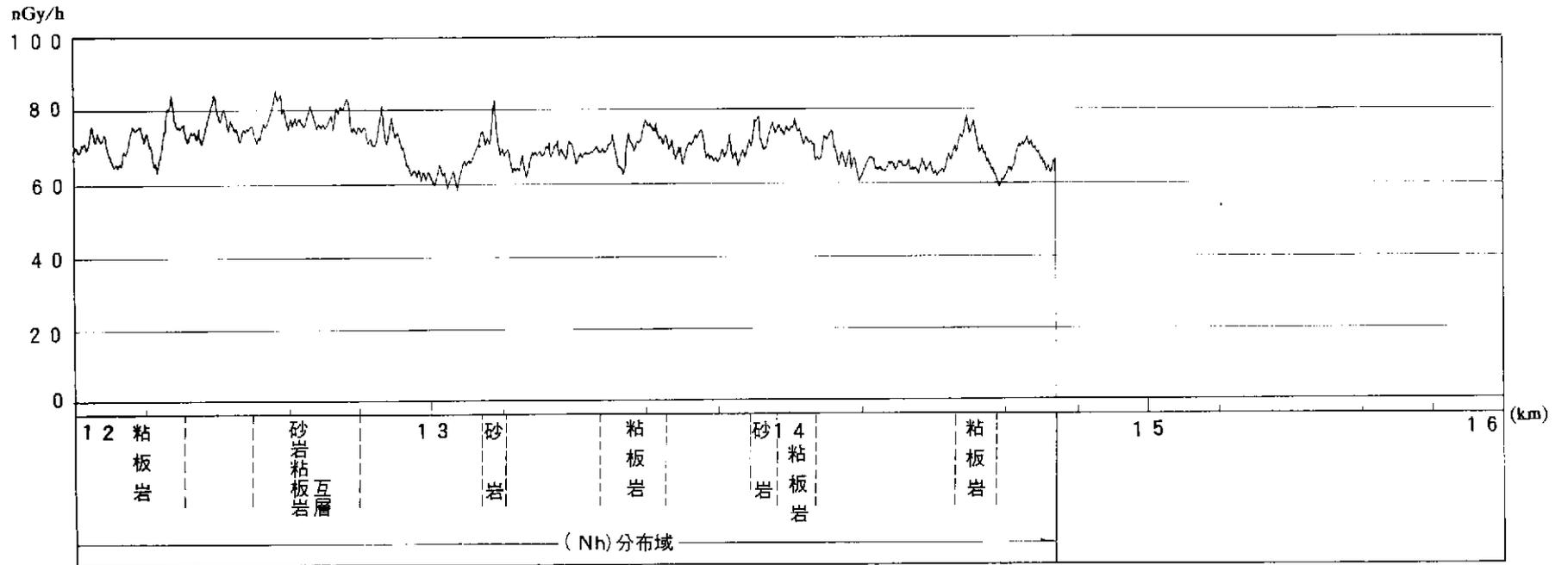
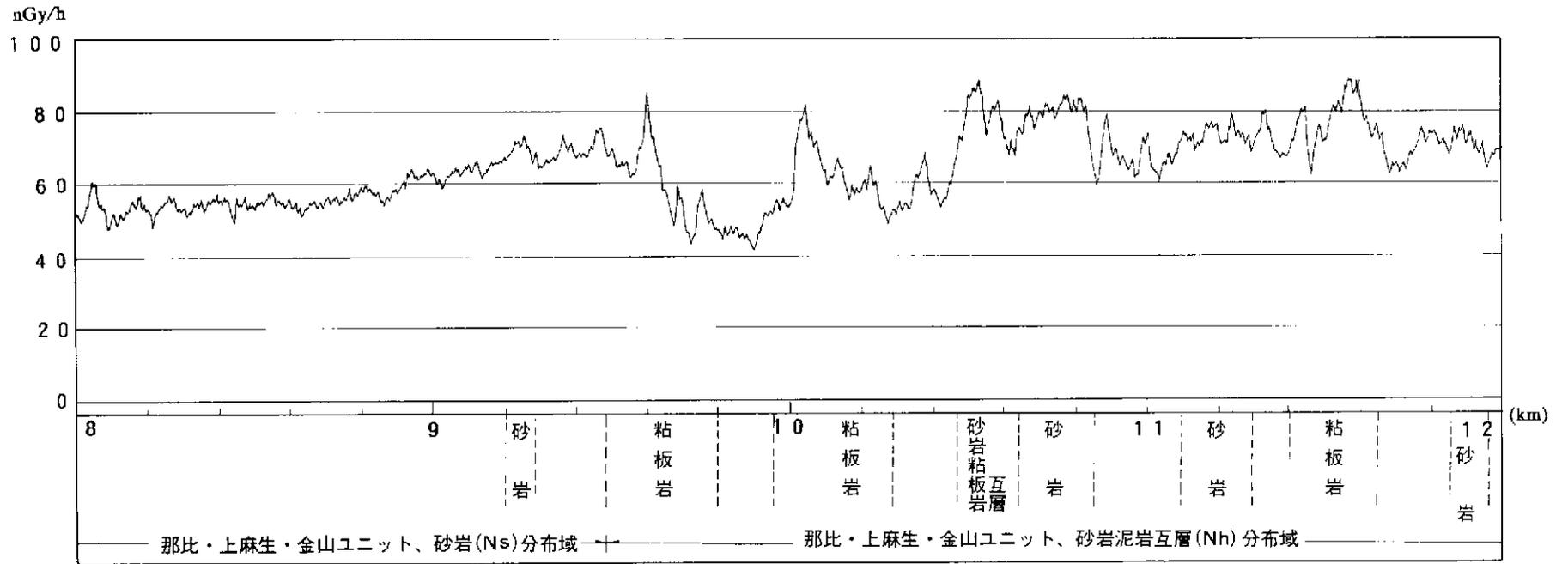
ルート No. 73



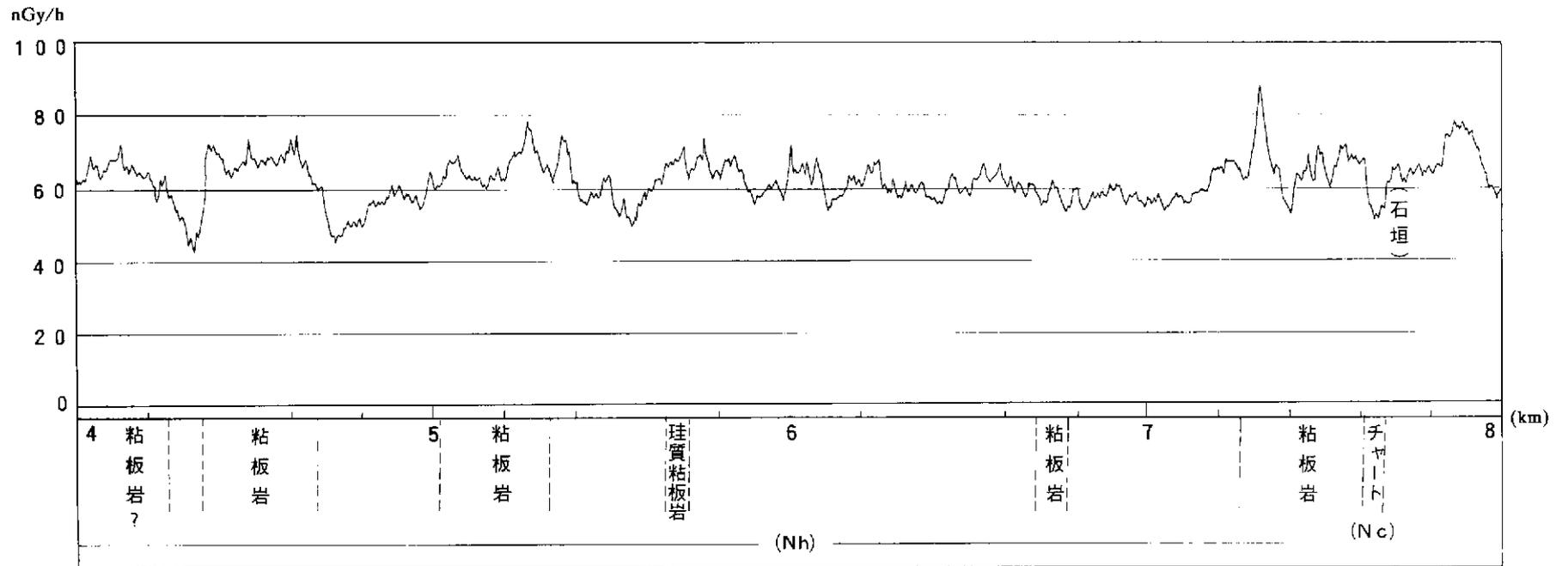
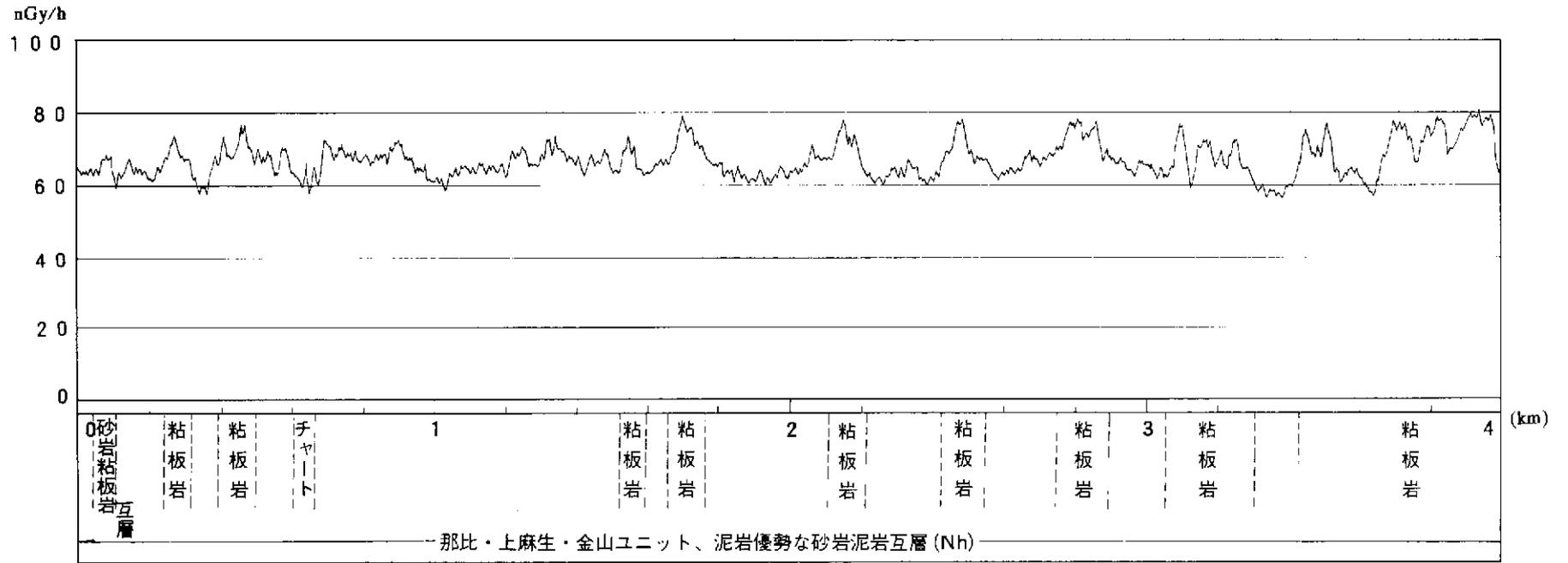
ルート No. 74 (その2)



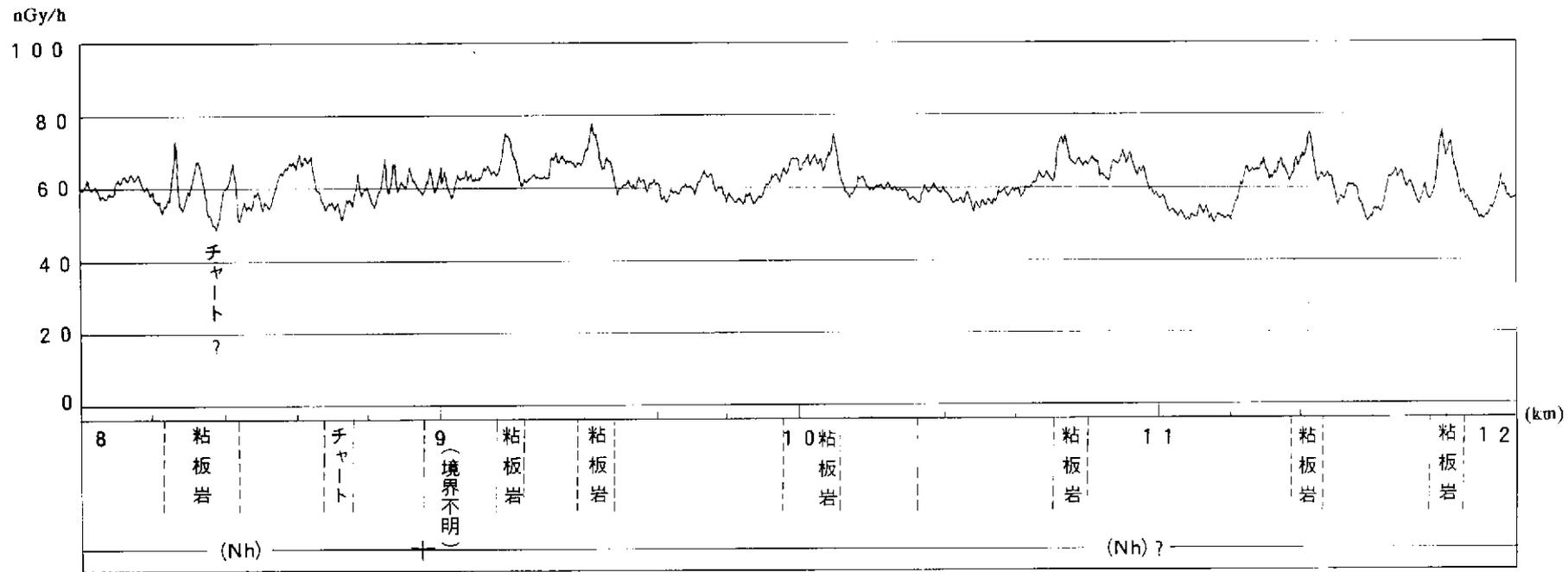
ルートNo. 75 (その1)



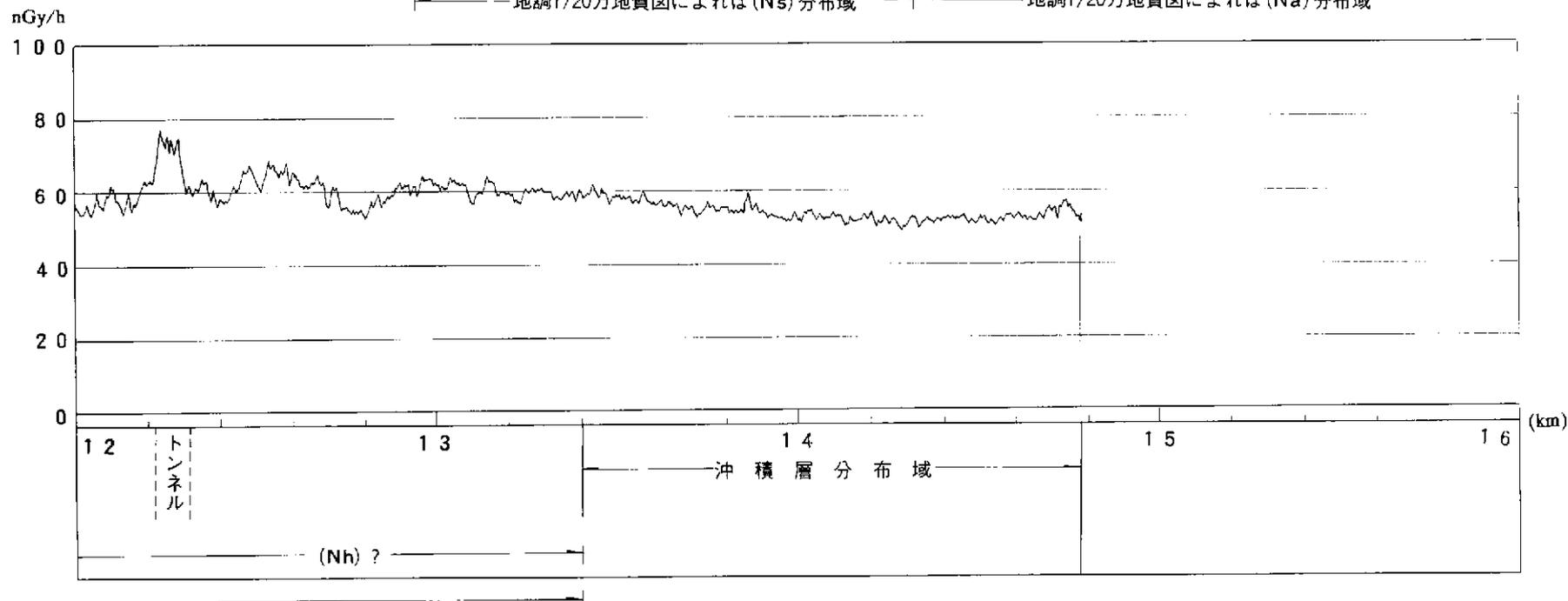
ルート No. 75 (その2)



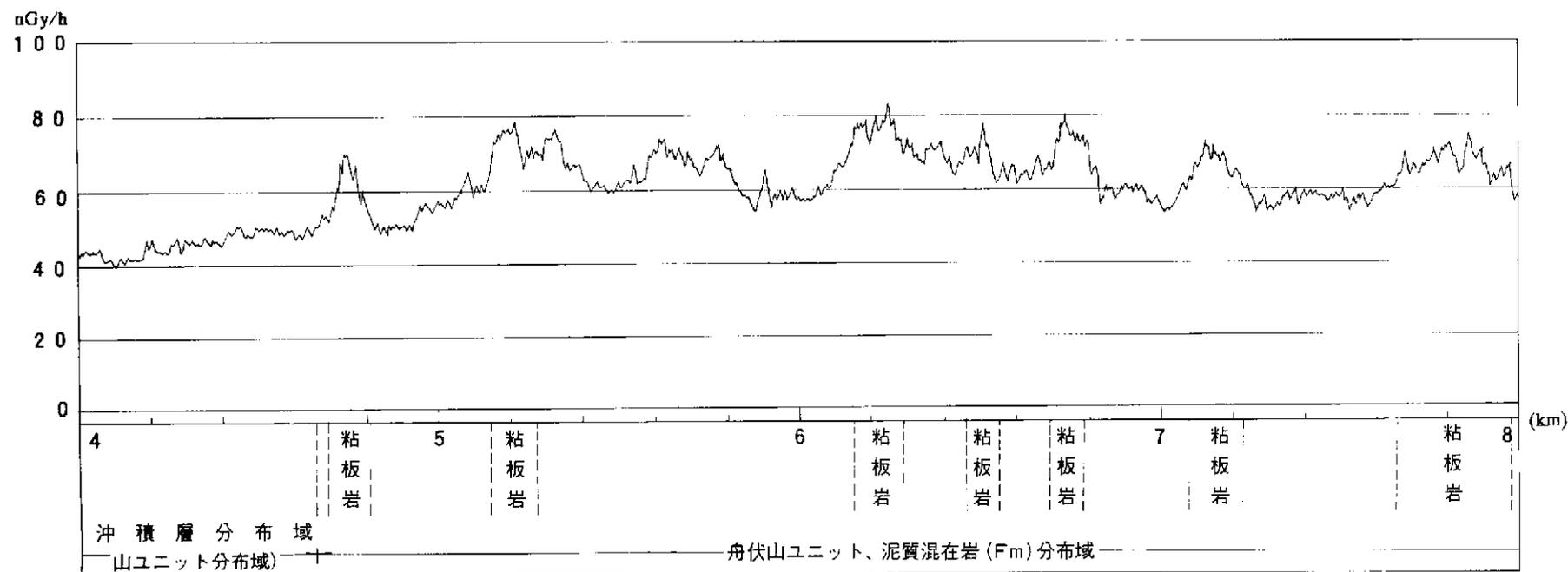
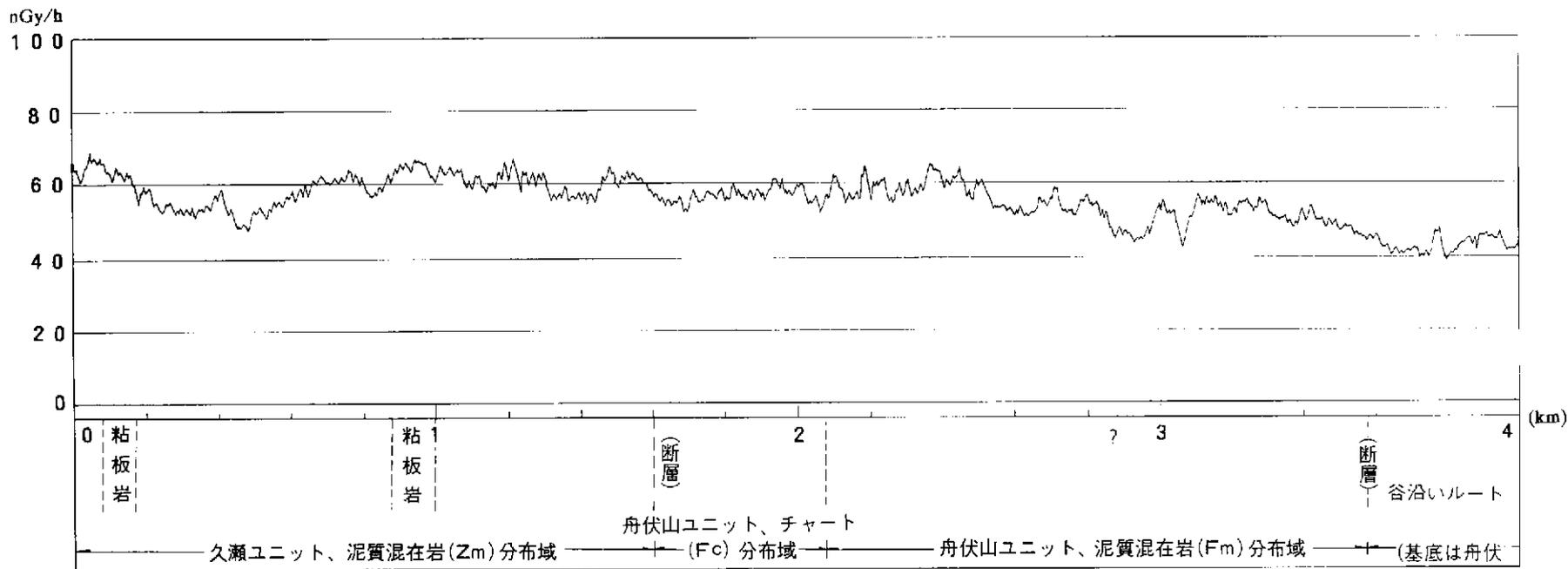
ルートNo. 76 (その1)



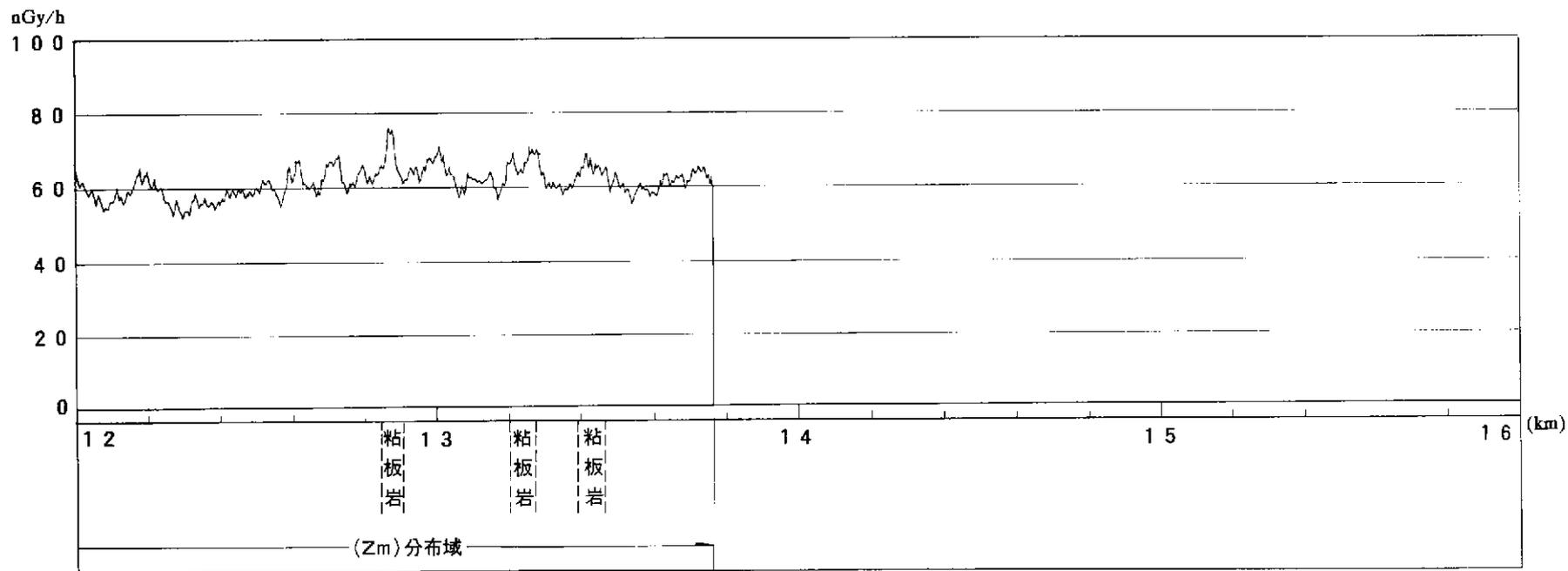
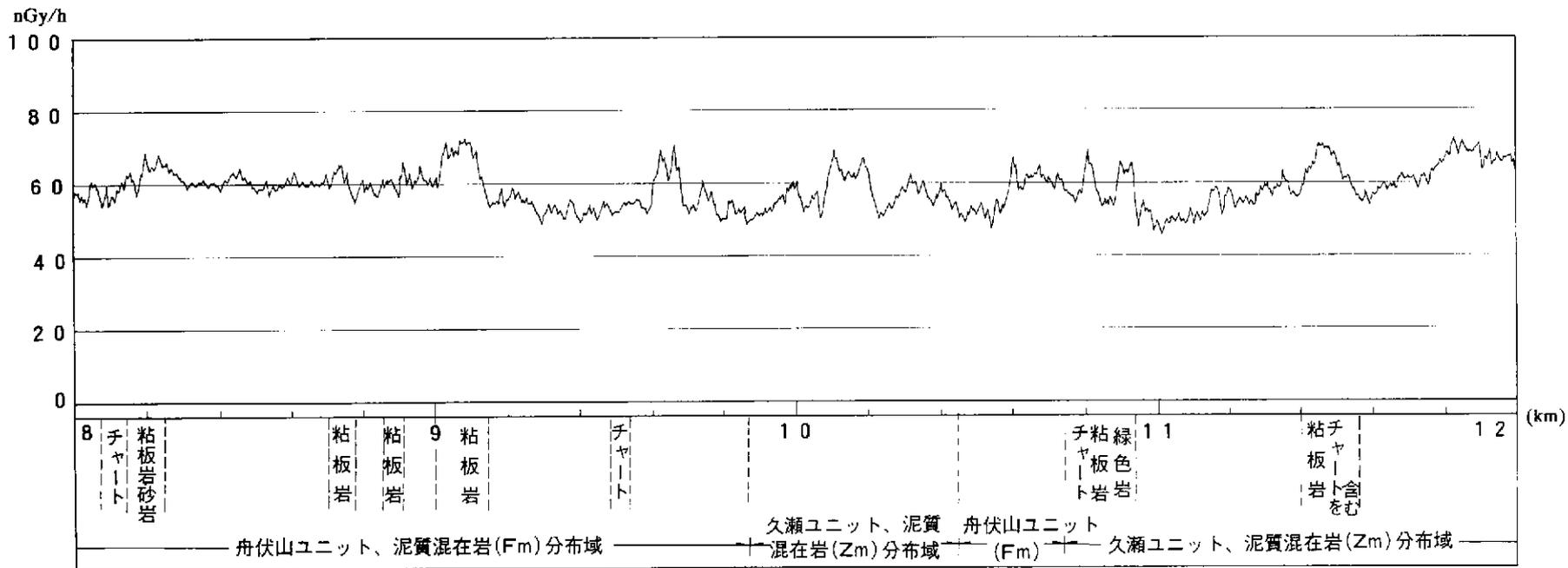
地調1/20万地質図によれば (Ns) 分布域 | 地調1/20万地質図によれば (Na) 分布域



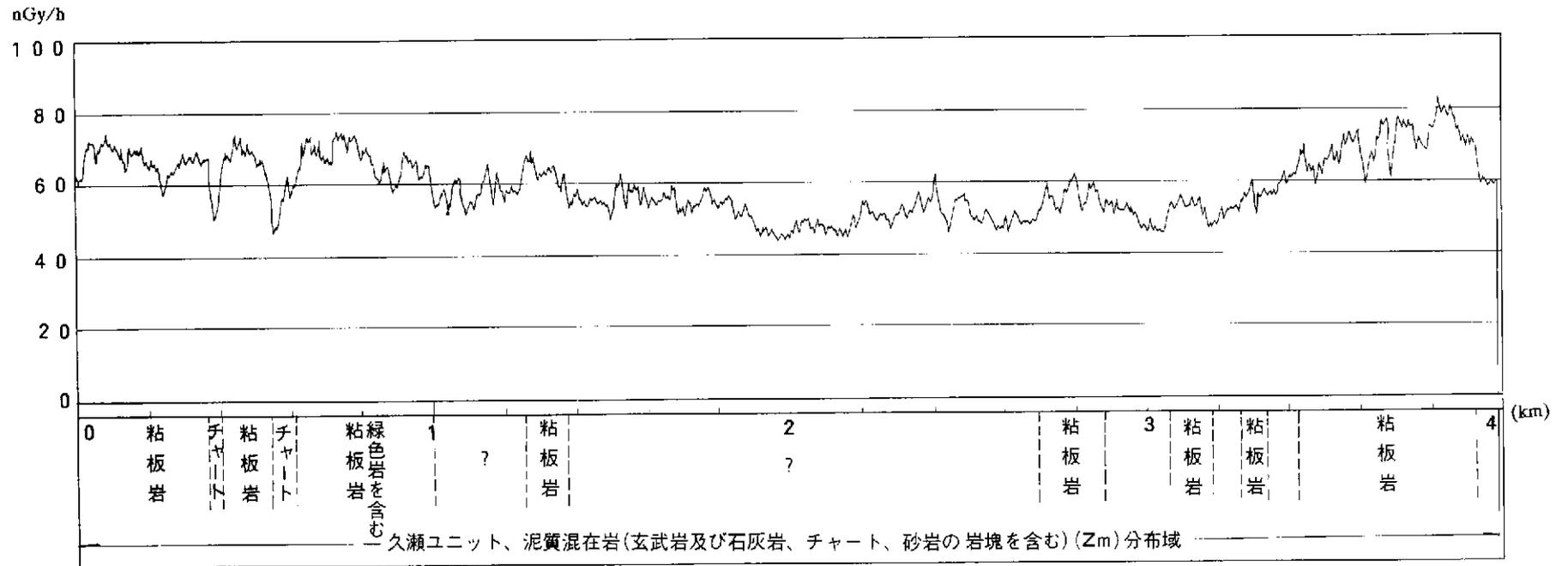
ルートNo. 76 (その2)



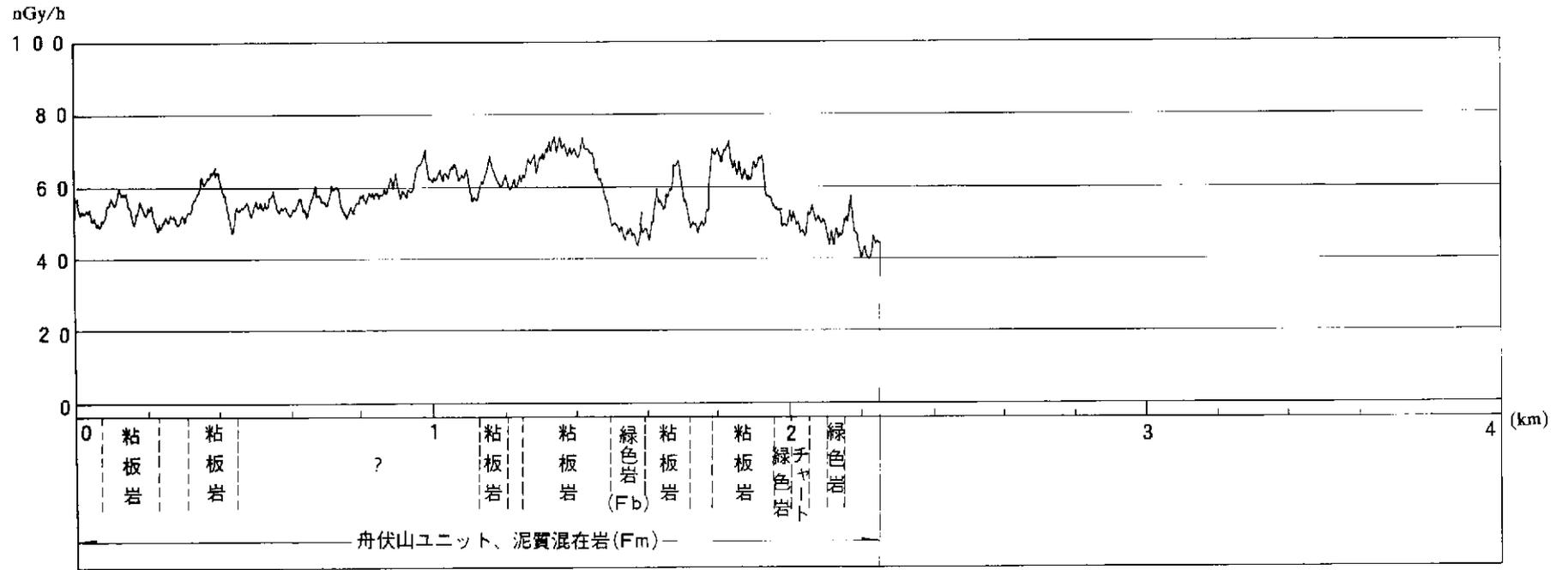
ルート No. 77 (その1)



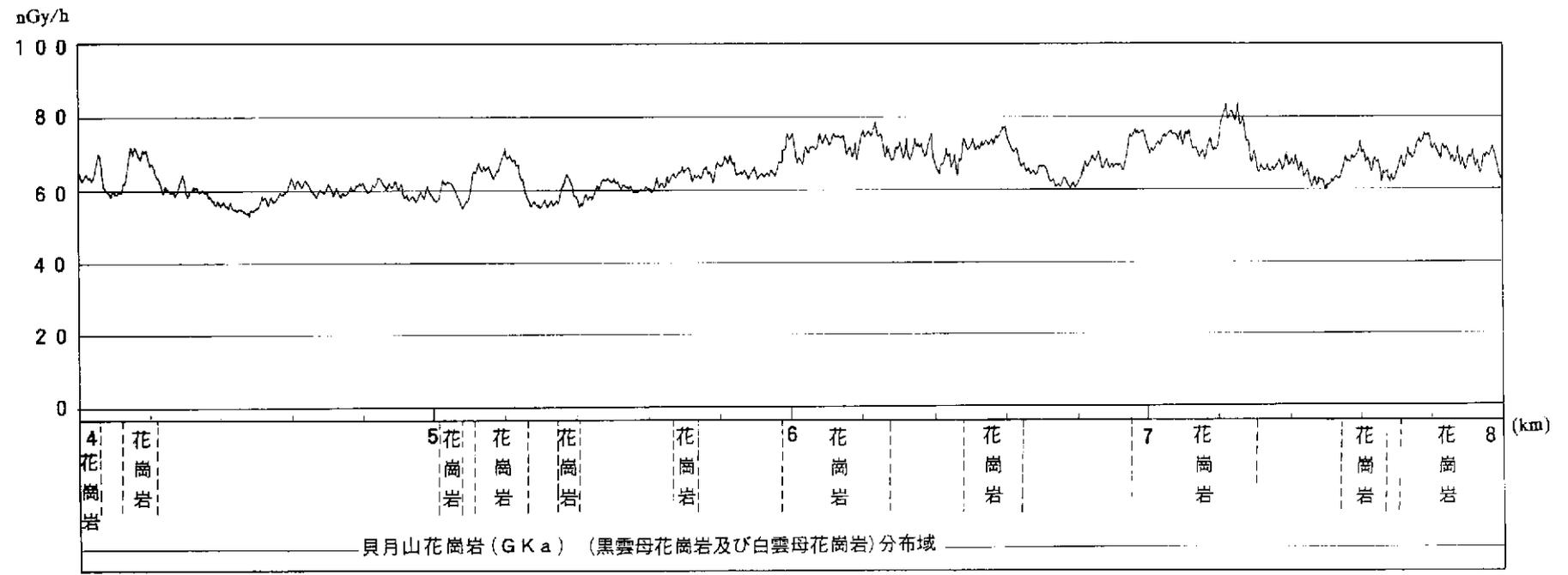
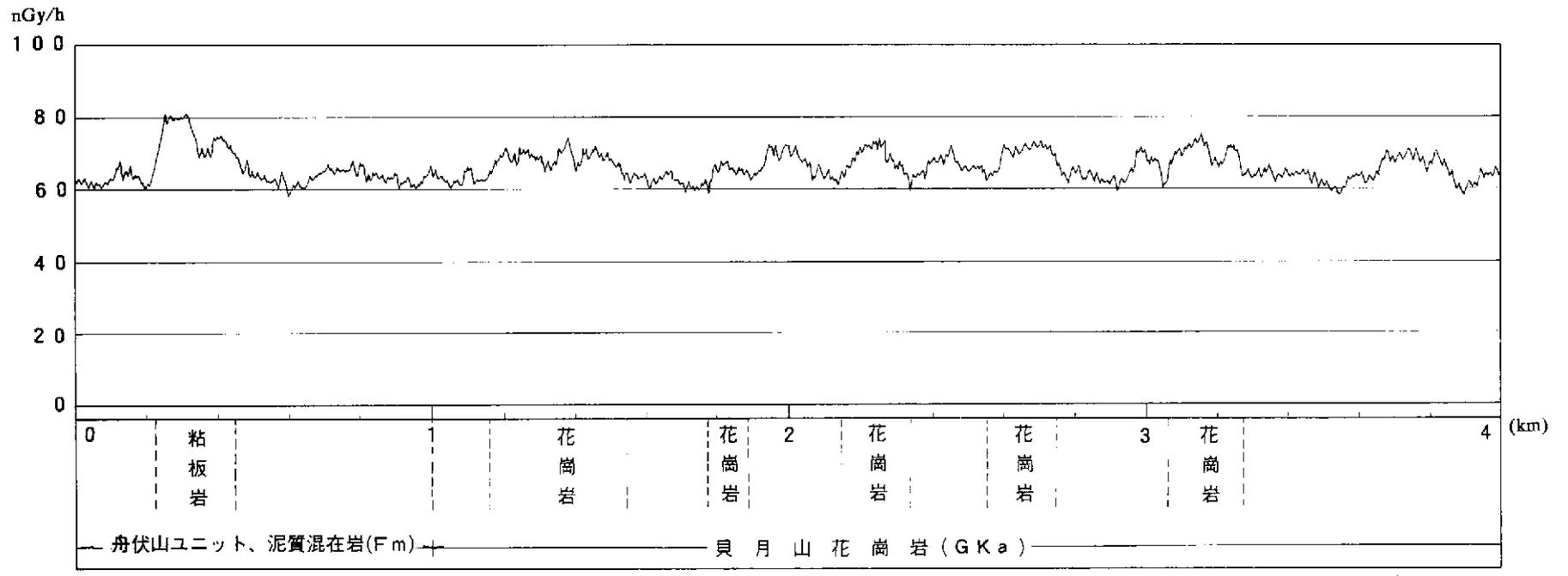
ルートNo. 77 (その2)



ルートNo. 78

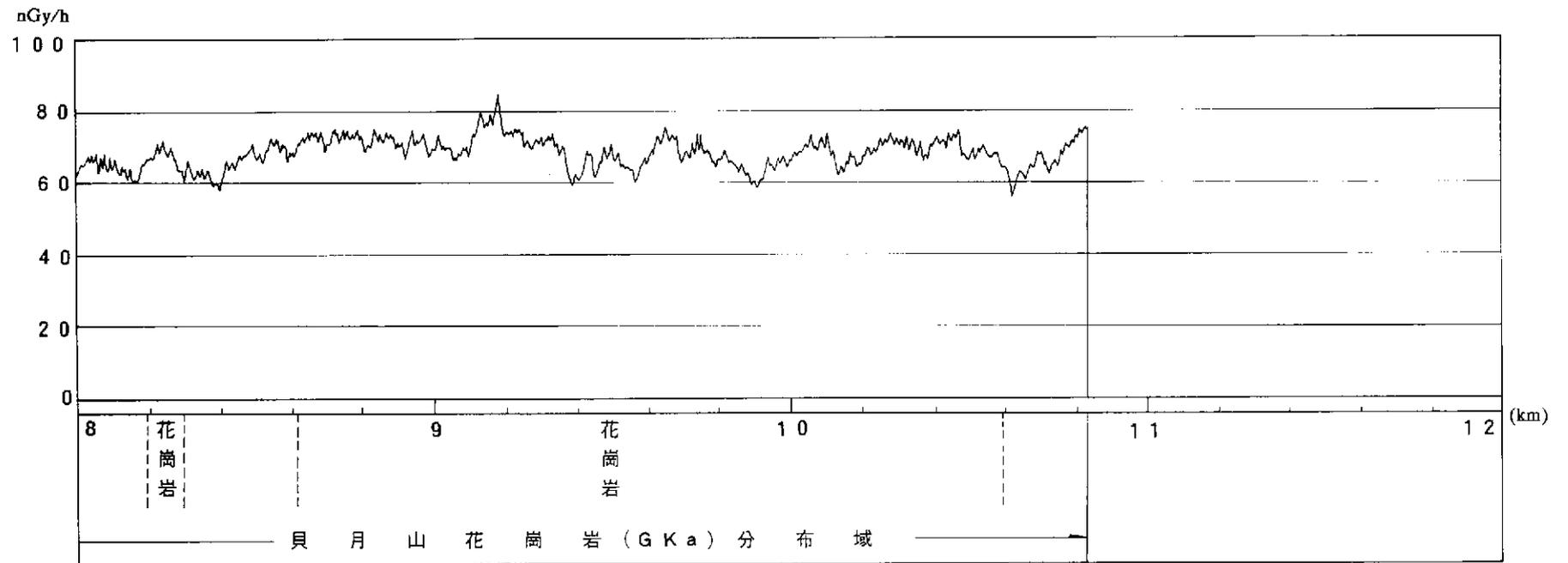


ルートNo. 79

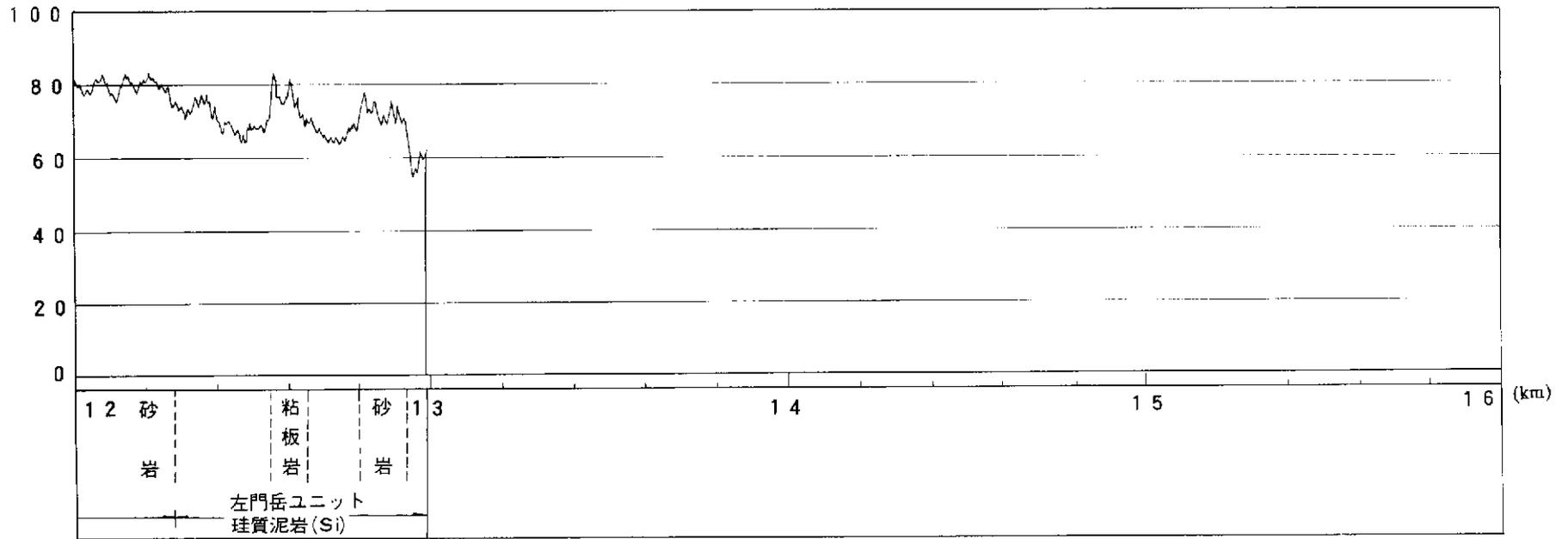
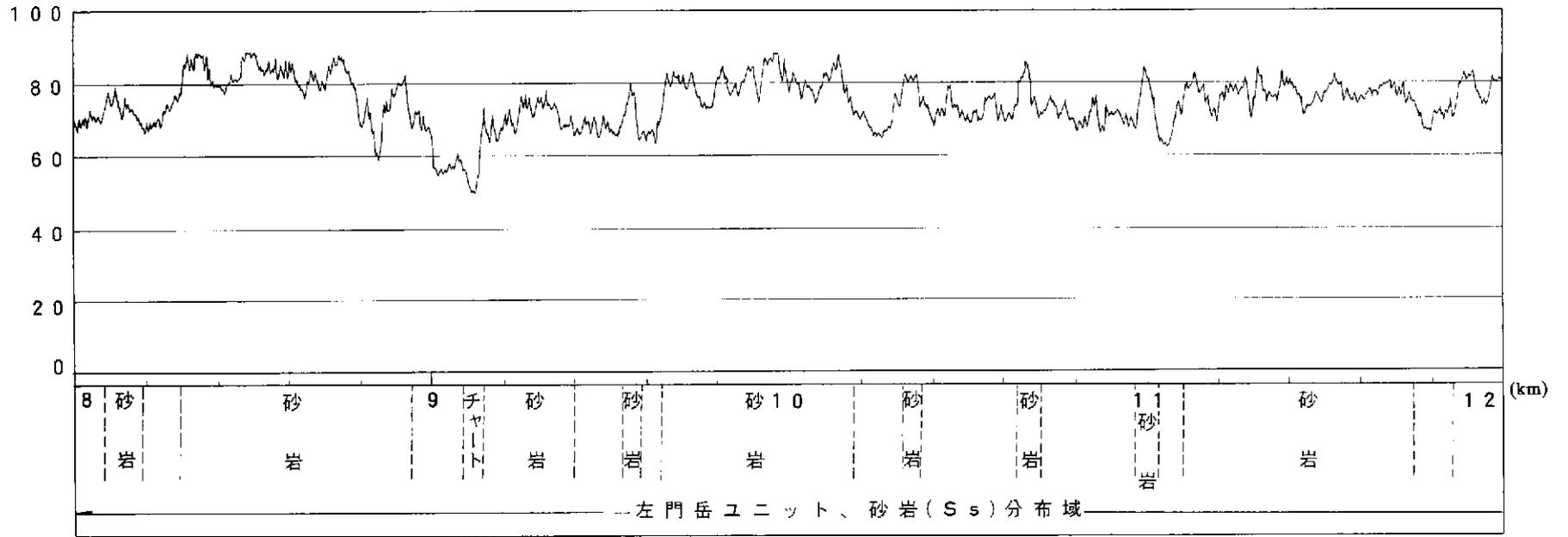


— 158 —

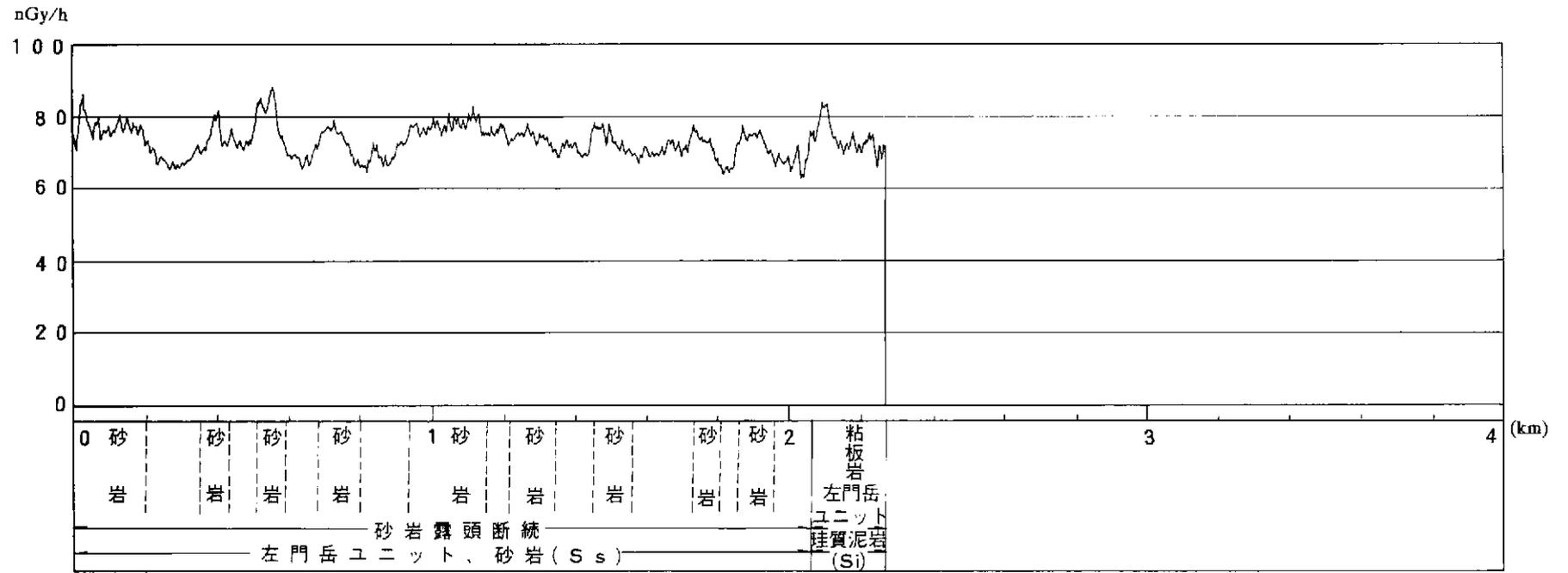
ルートNo. 80 (その1)



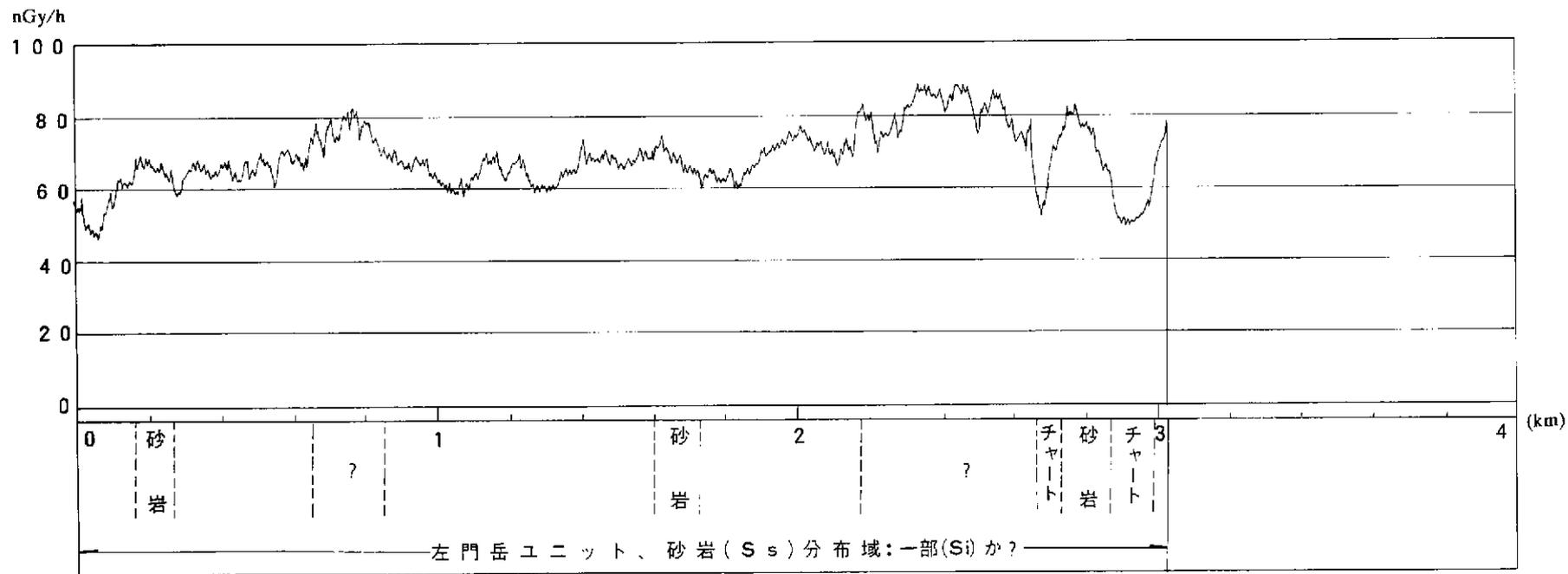
ルートNo. 80 (その2)



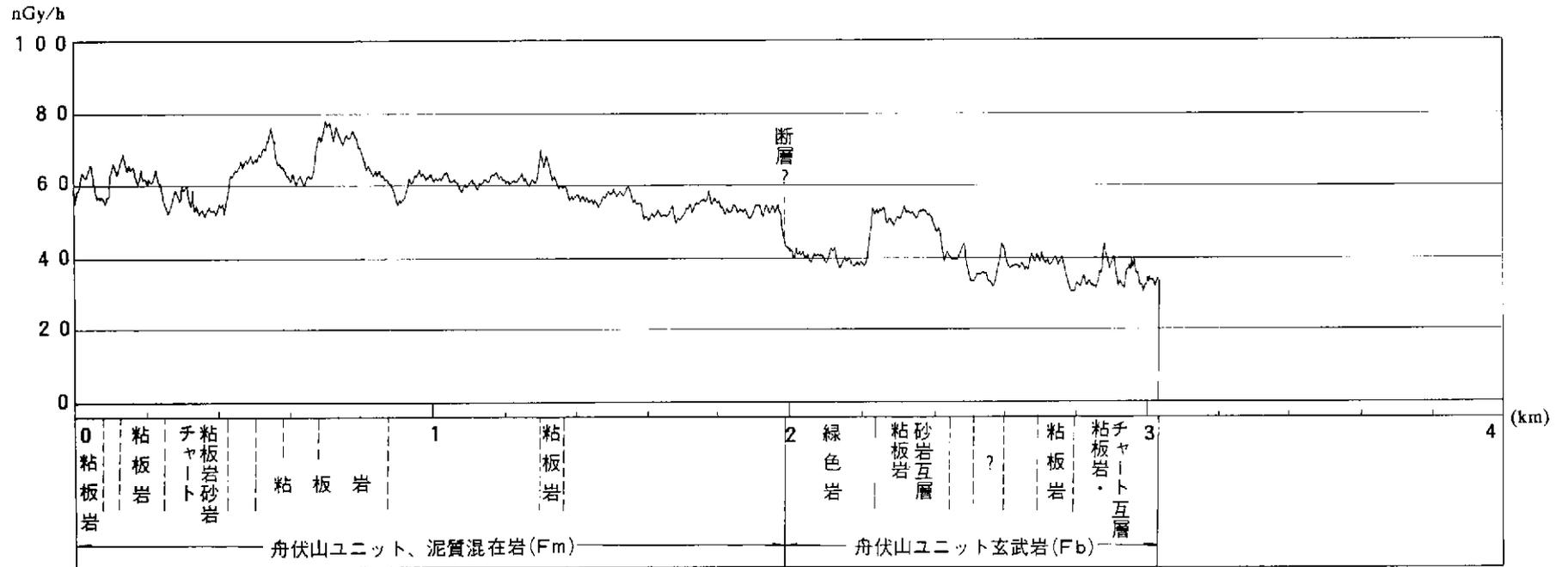
ルートNo. 81 (その2)



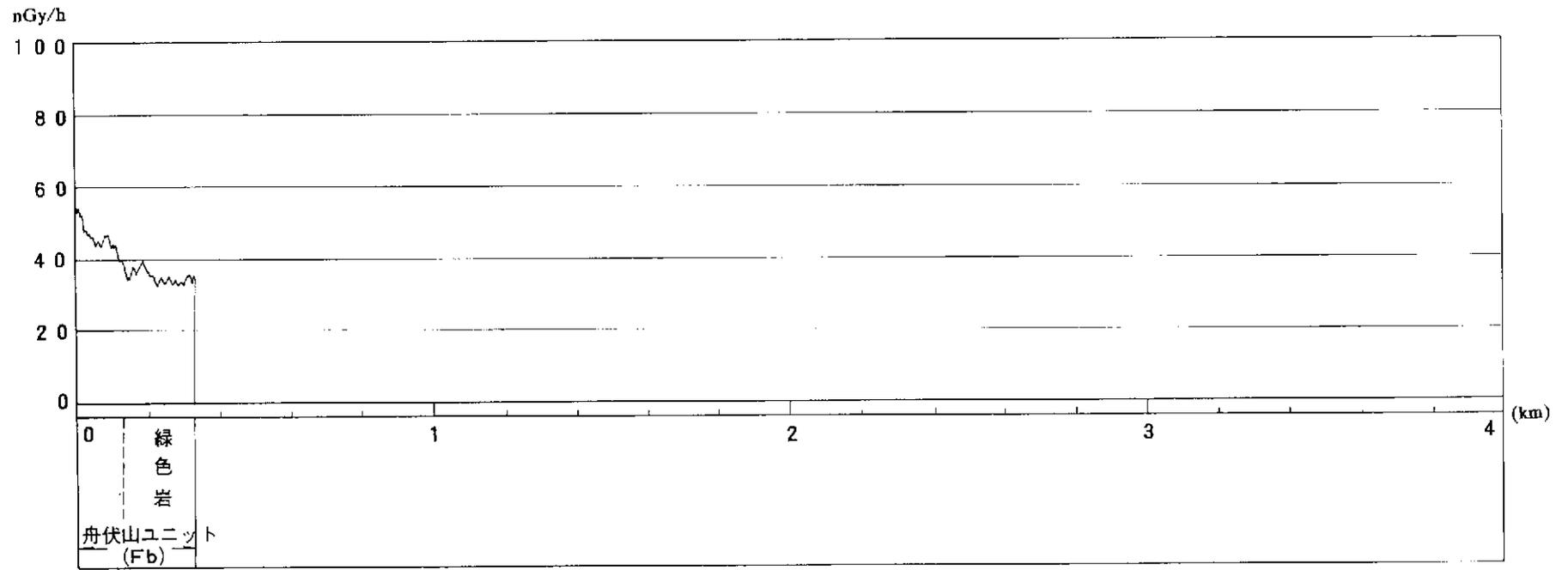
ルートNo. 82



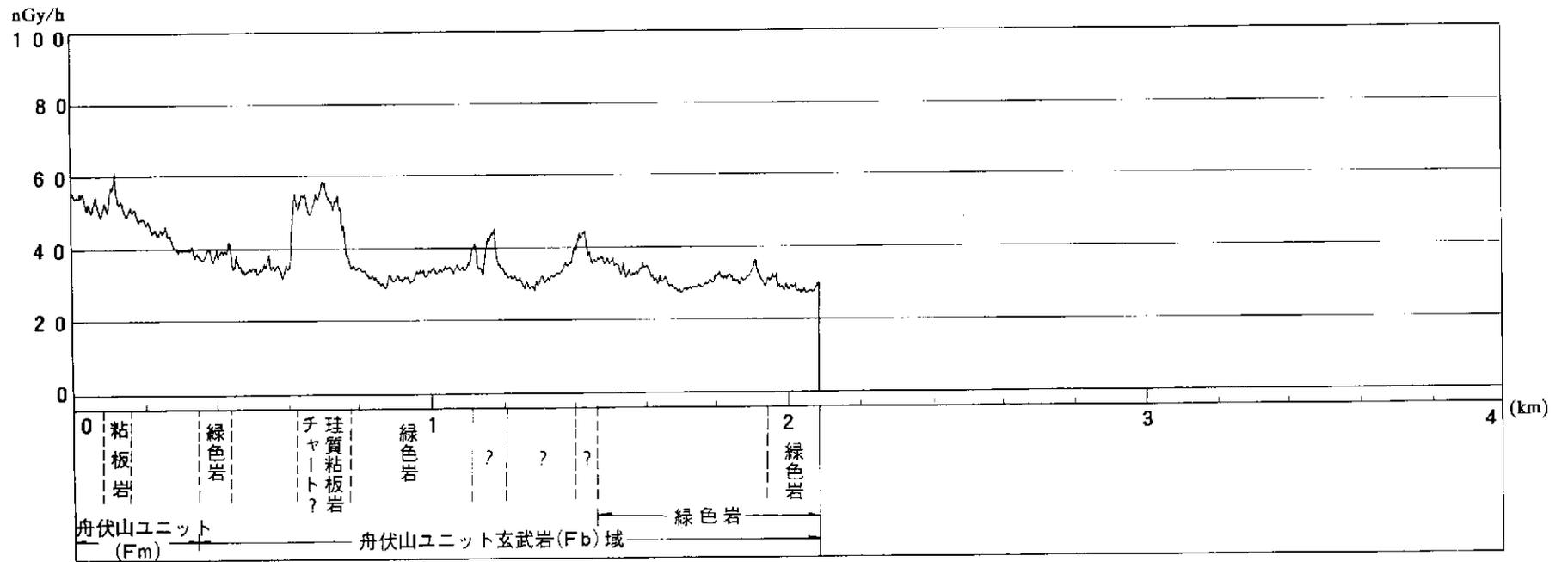
ルートNo. 83



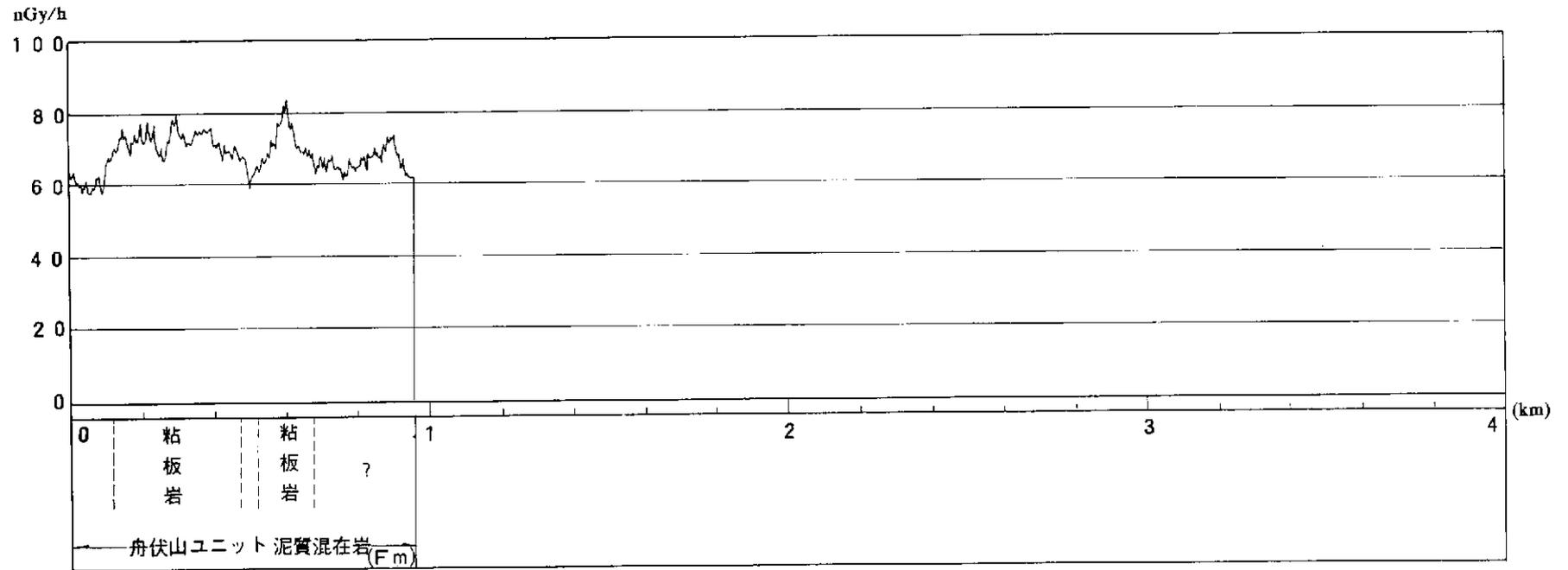
ルート No. 84



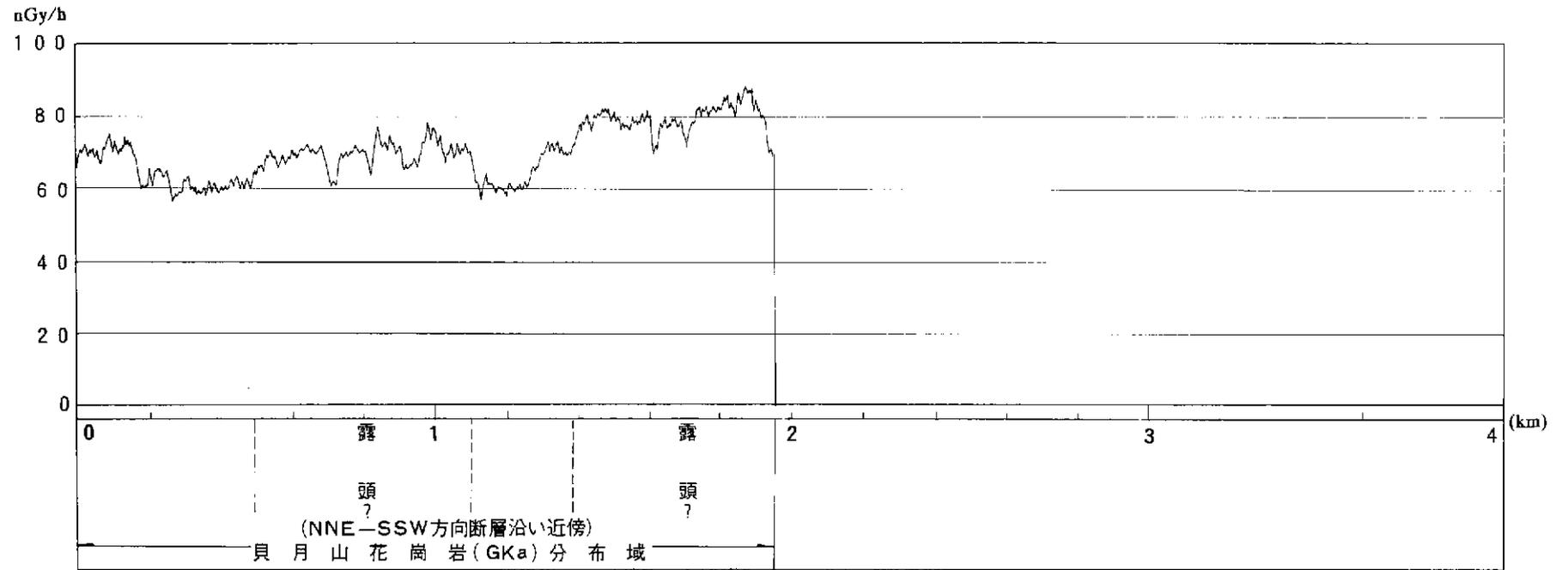
ルート No. 85



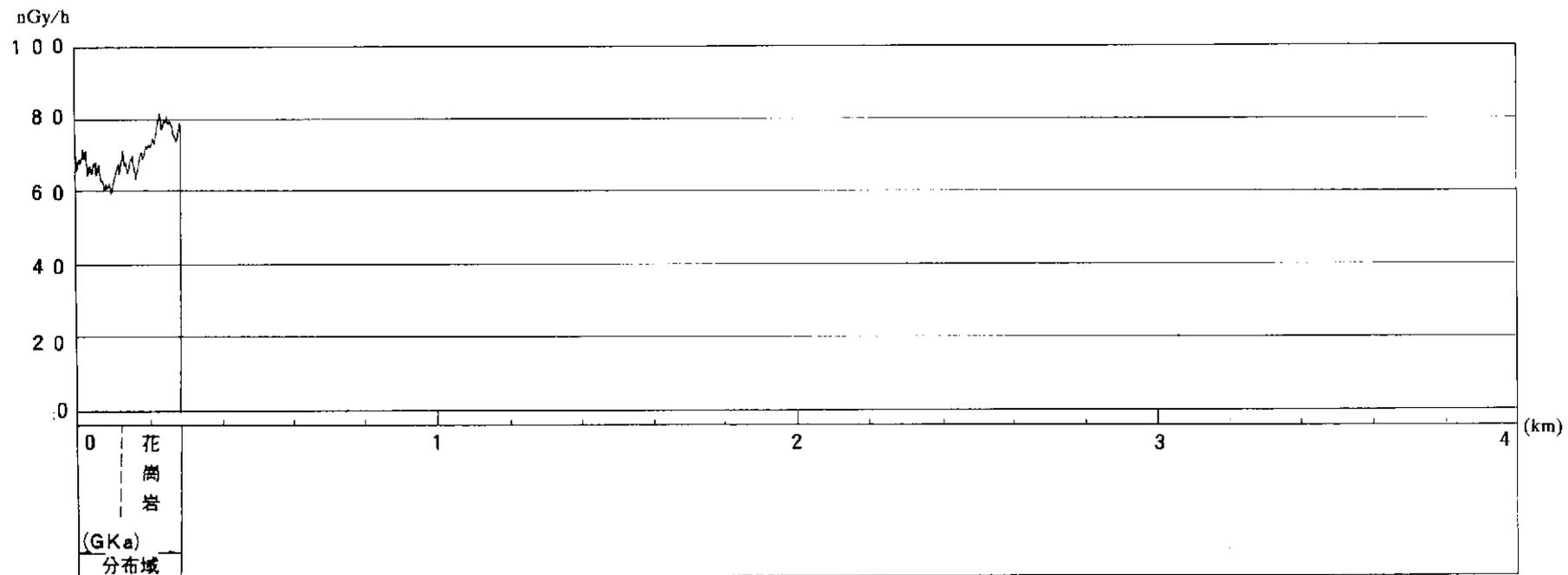
ルート No. 86



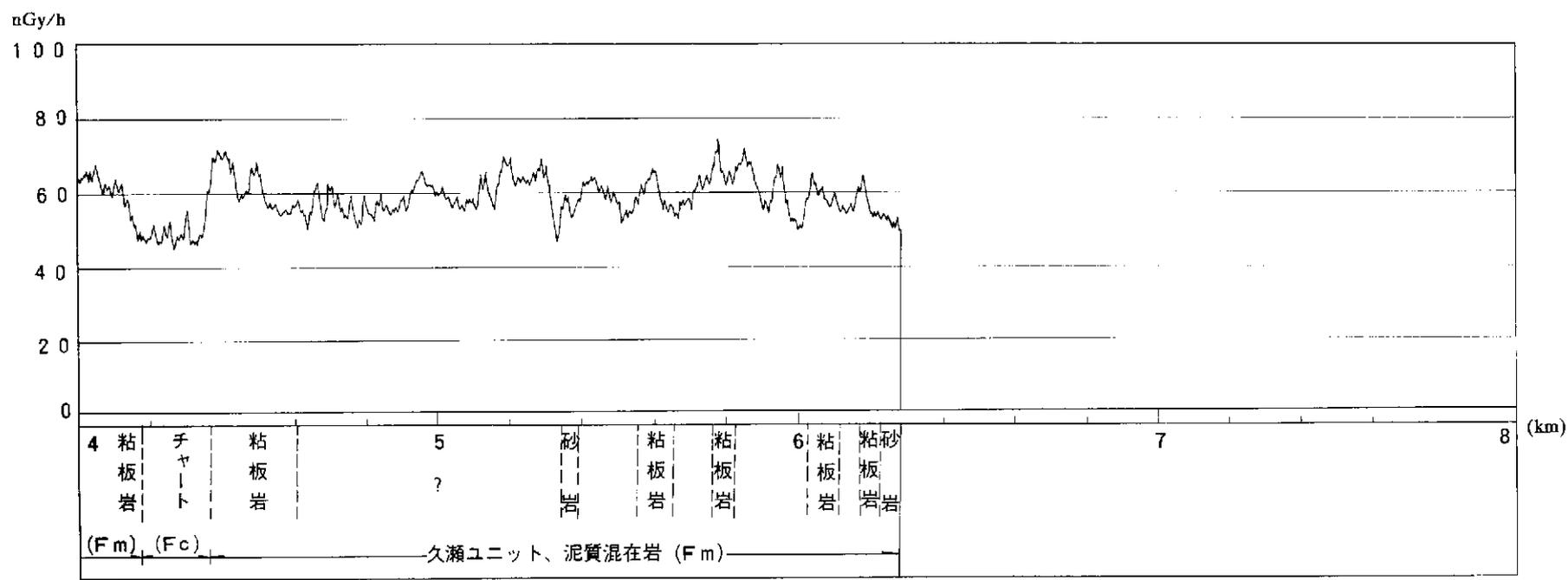
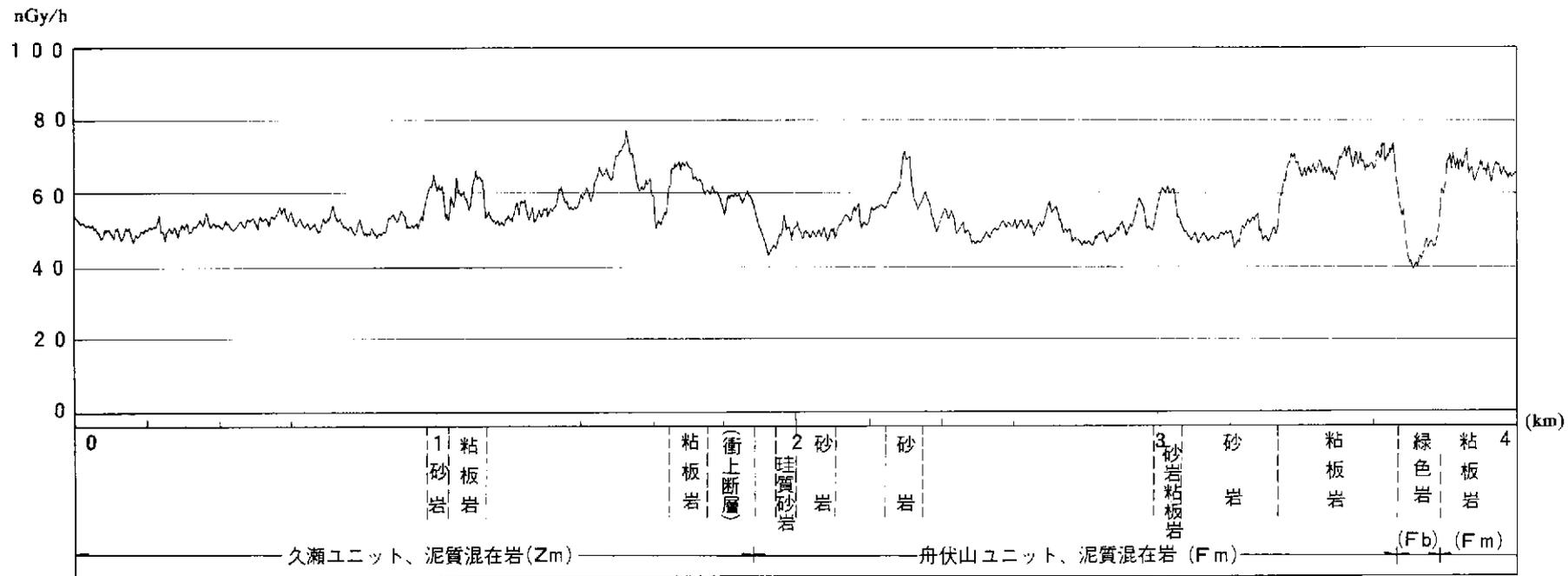
ルートNo. 87

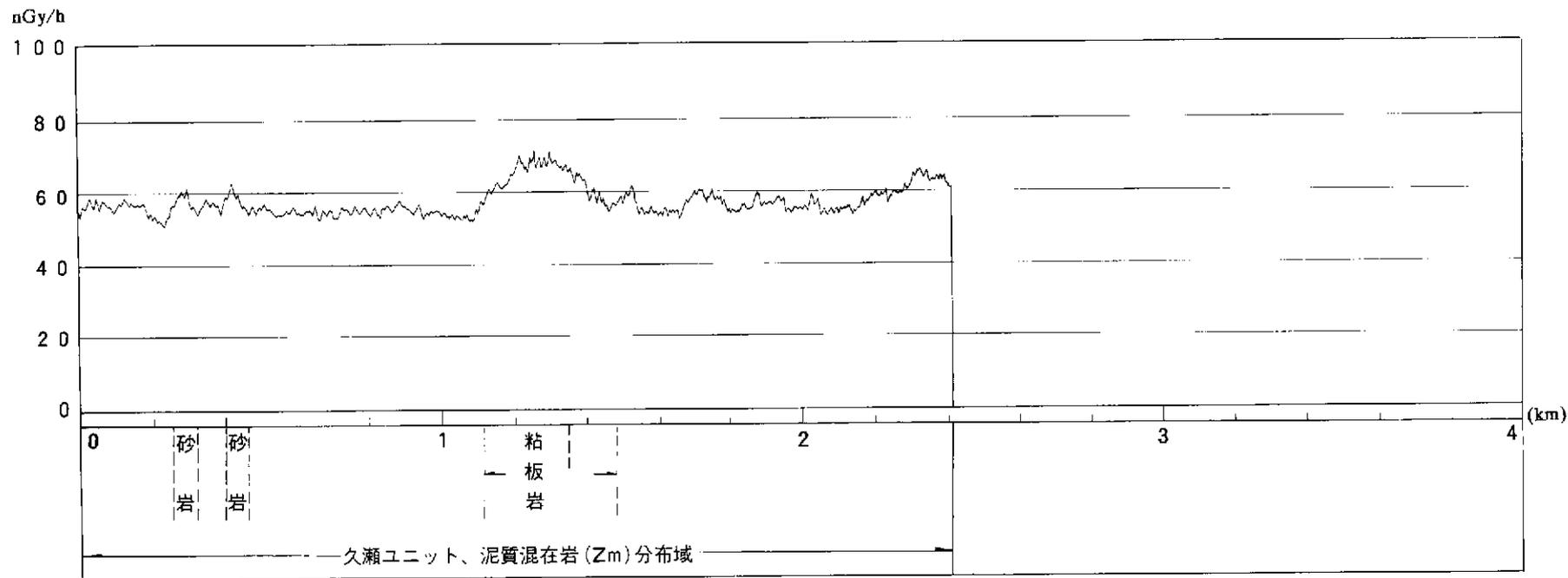


ルートNo. 88

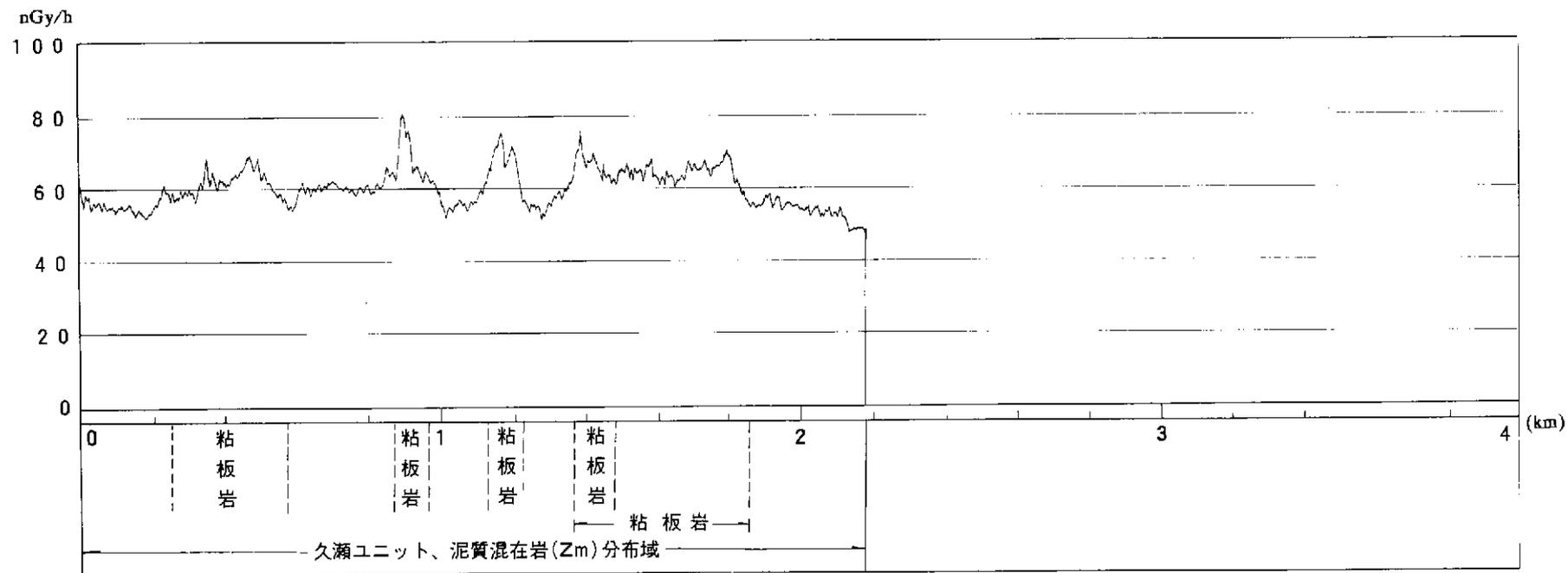


ルートNo. 89

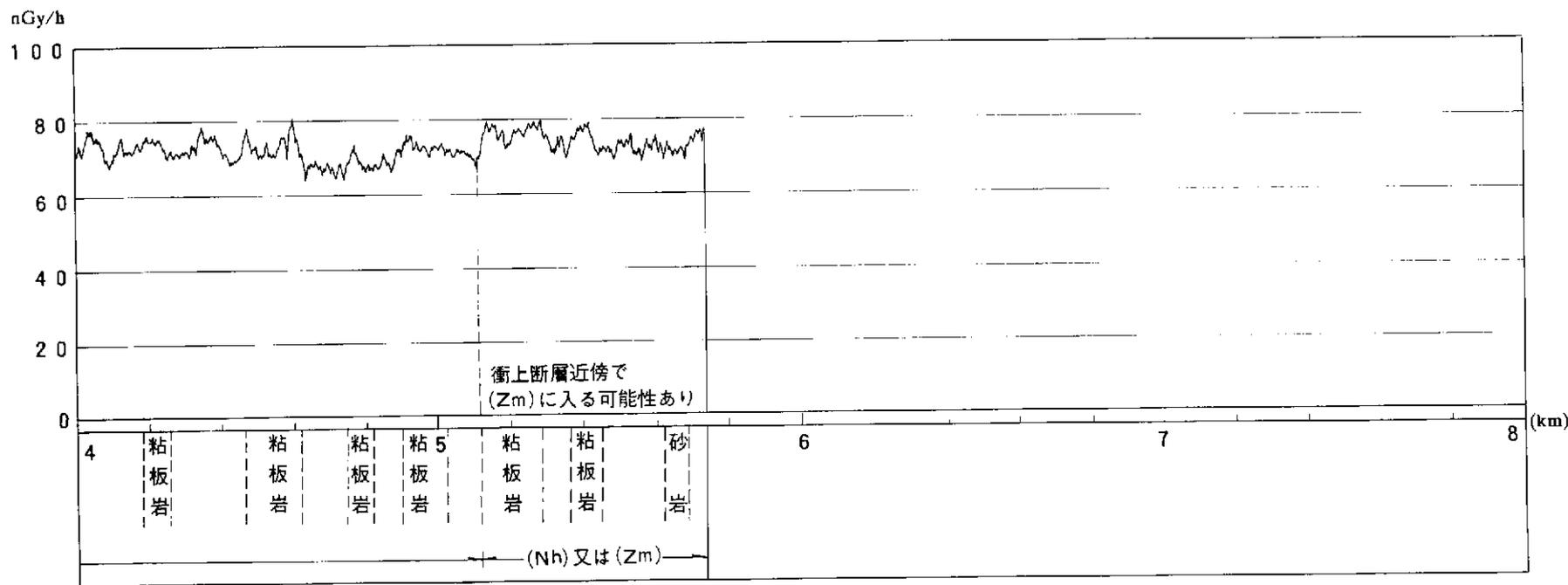
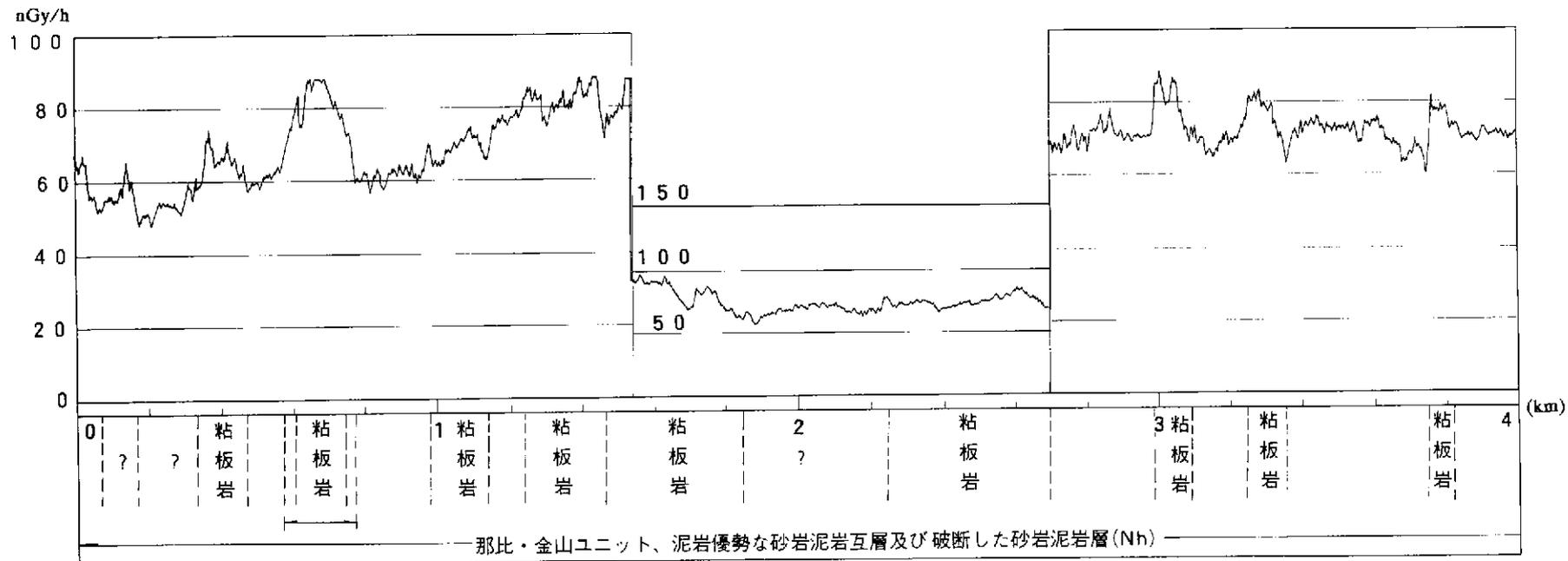




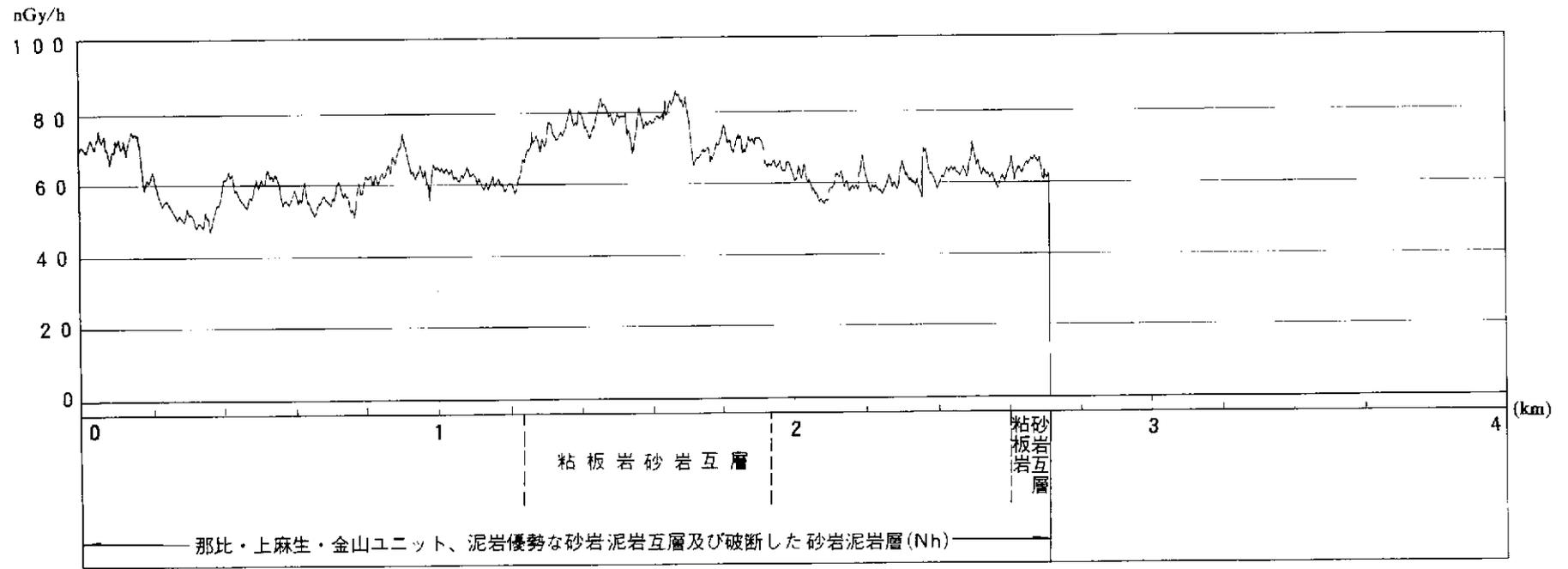
ルート No. 91



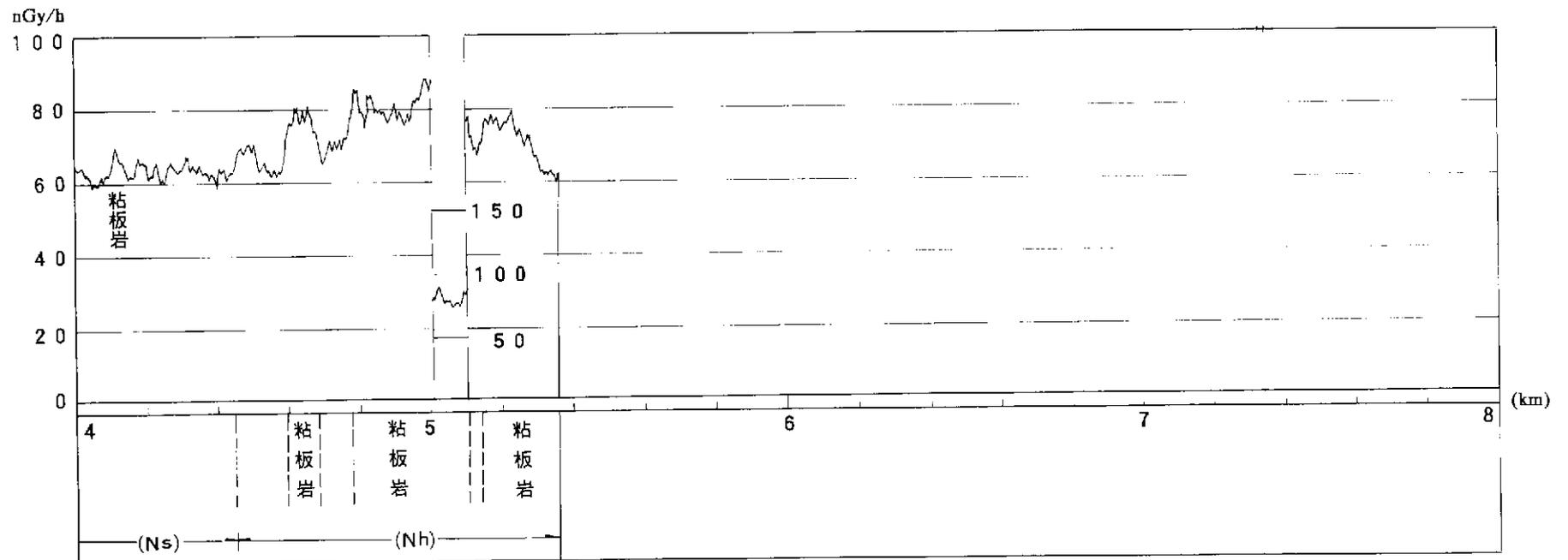
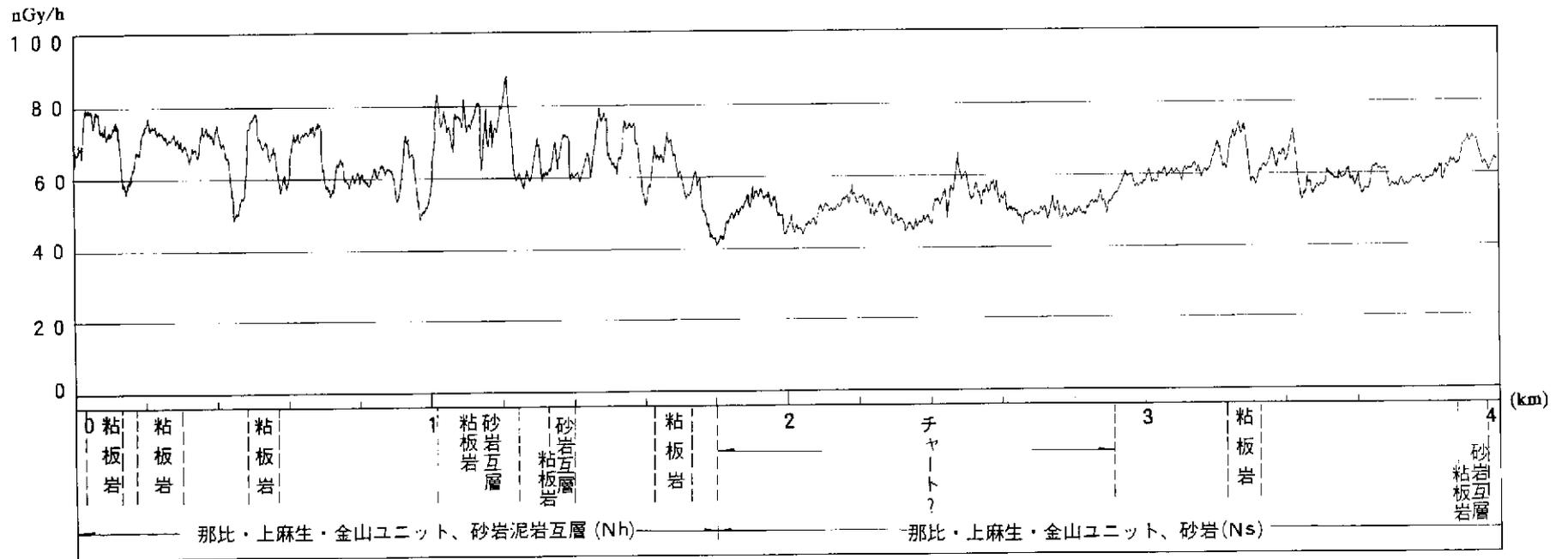
ルートNo. 92



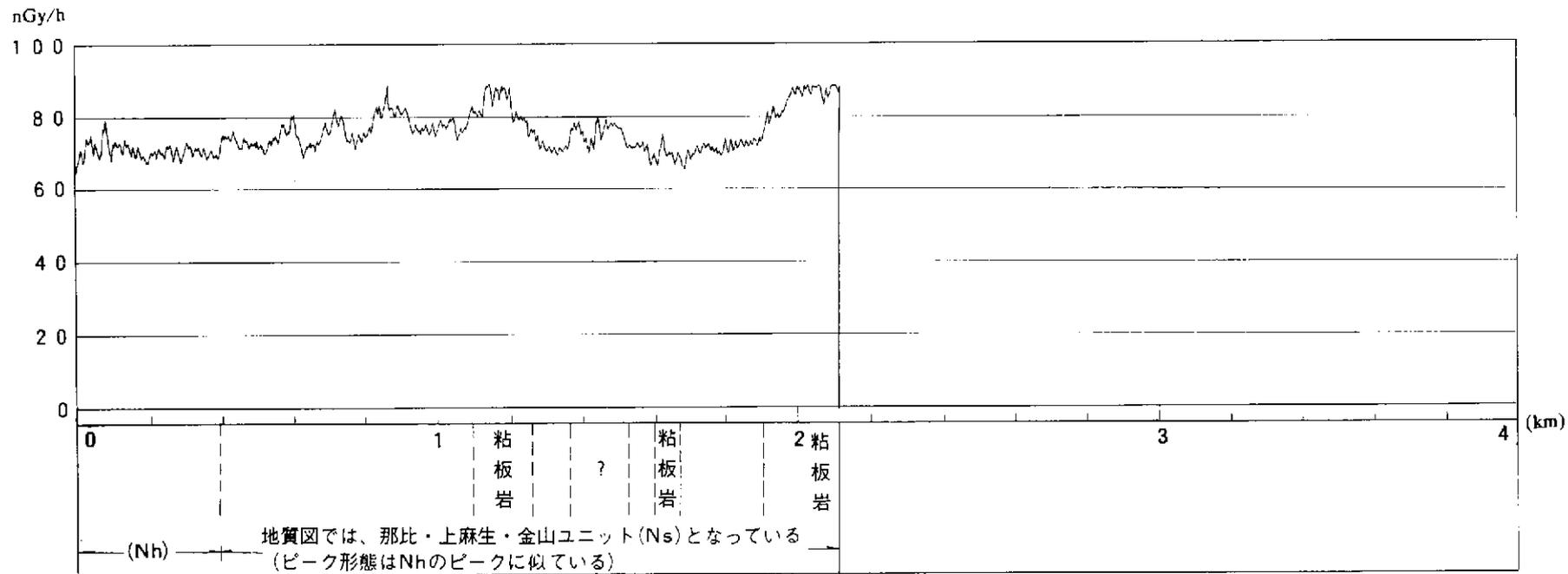
ルートNo. 93



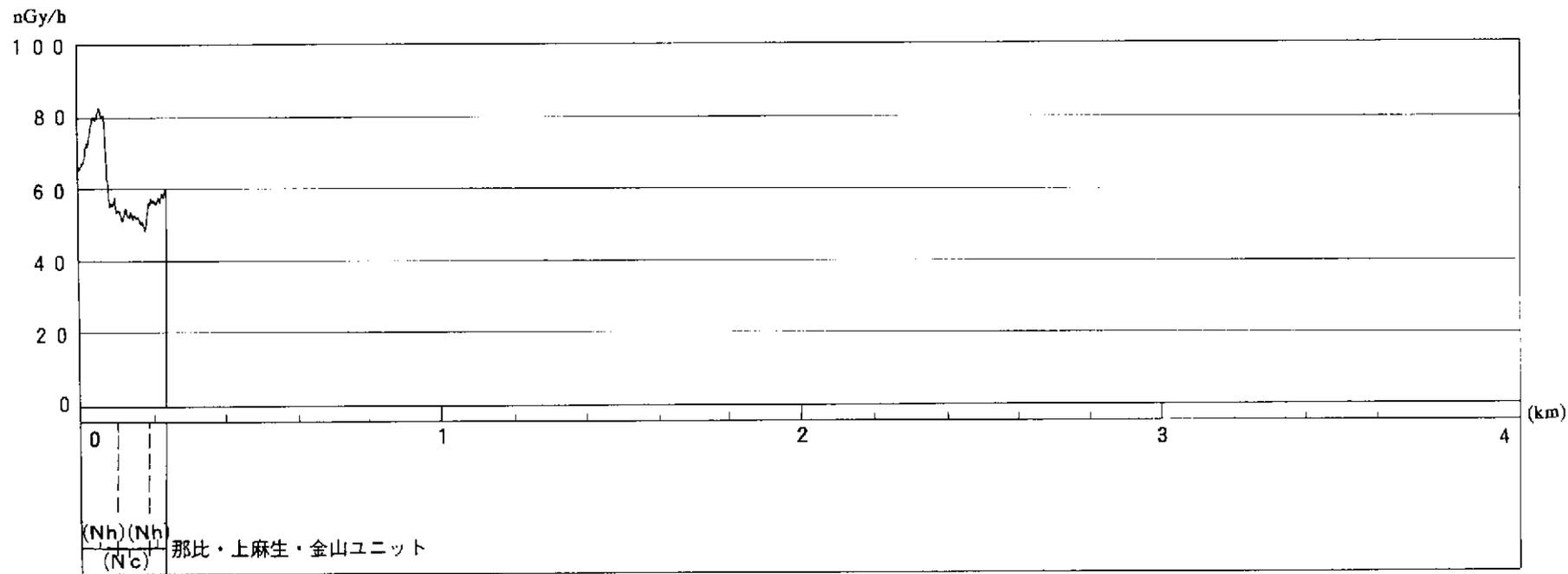
ルートNo. 94



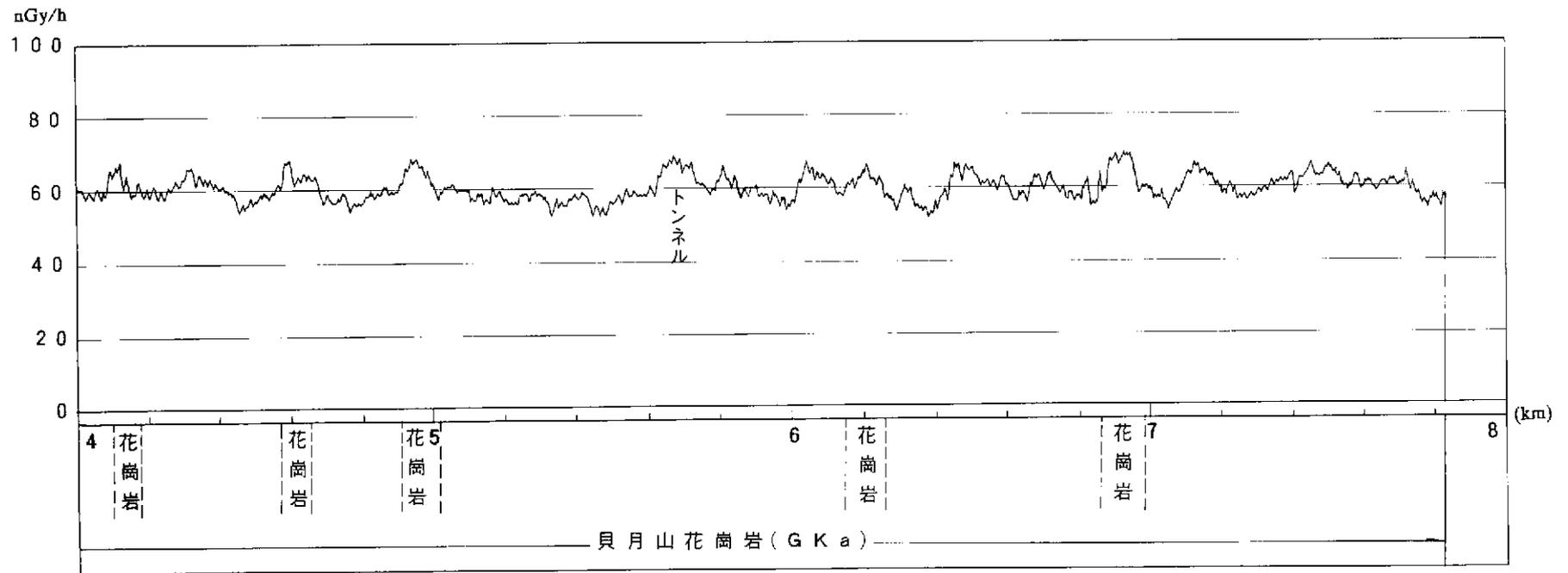
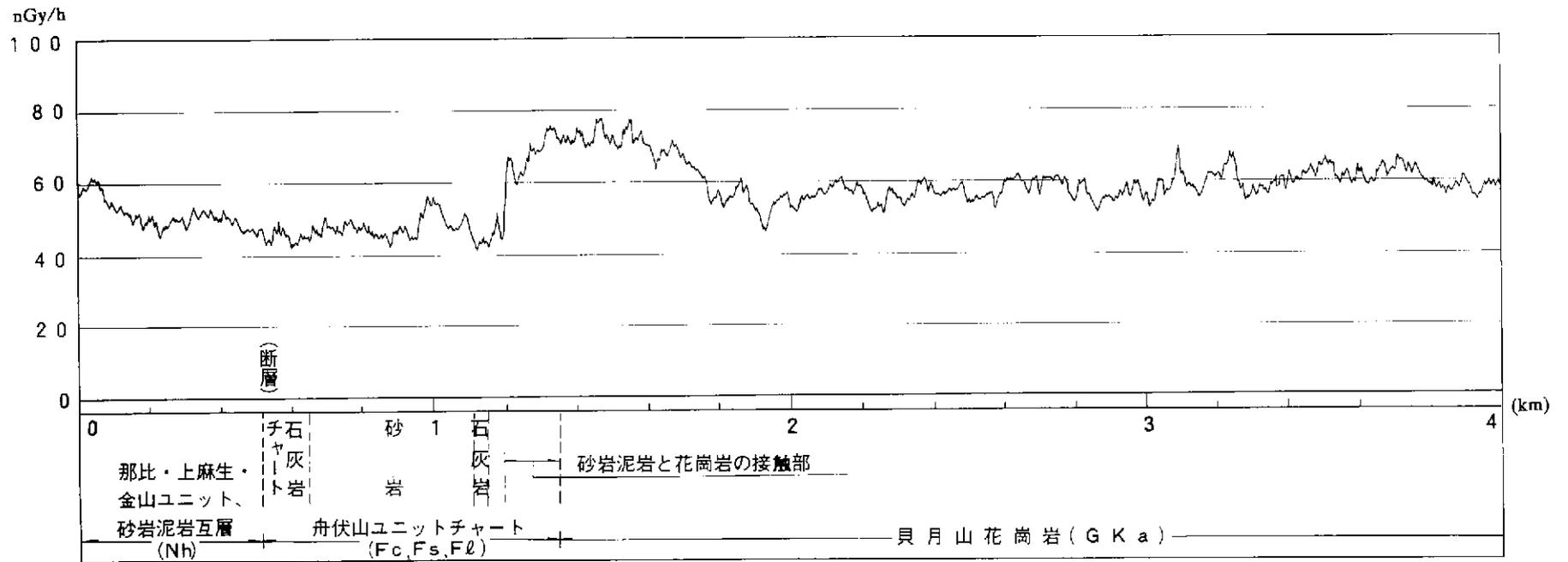
ルート No. 95

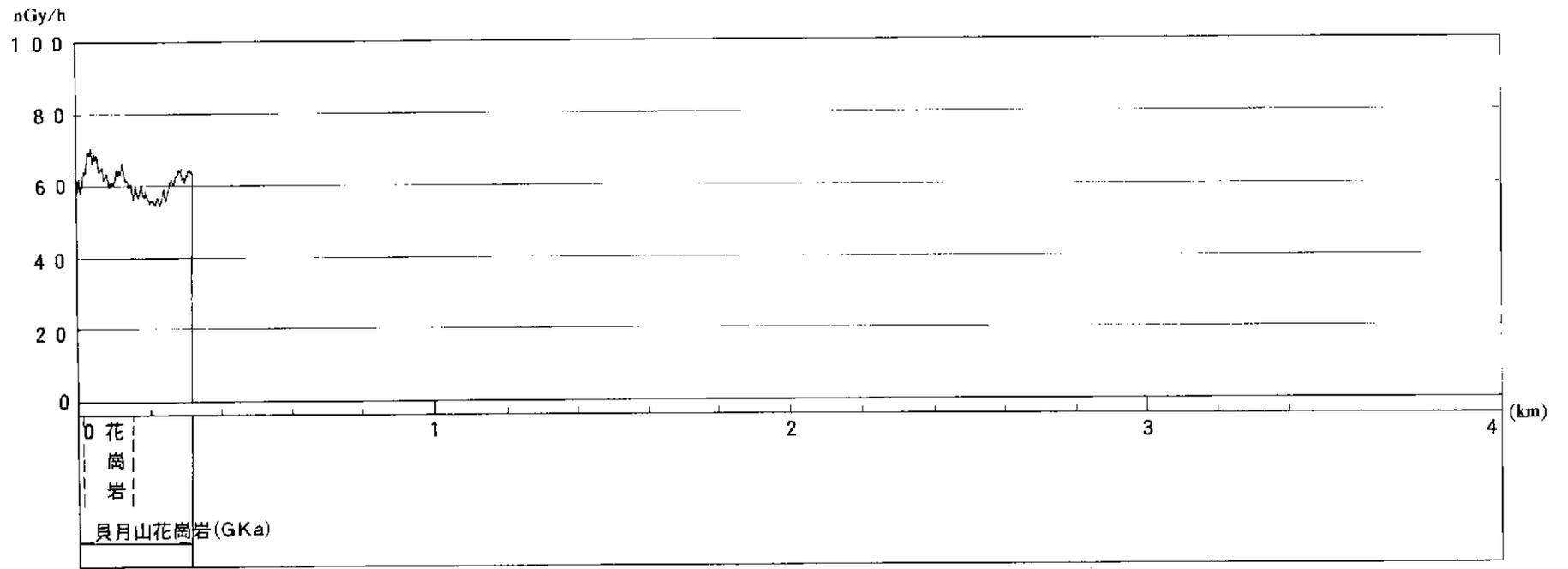


ルートNo. 96

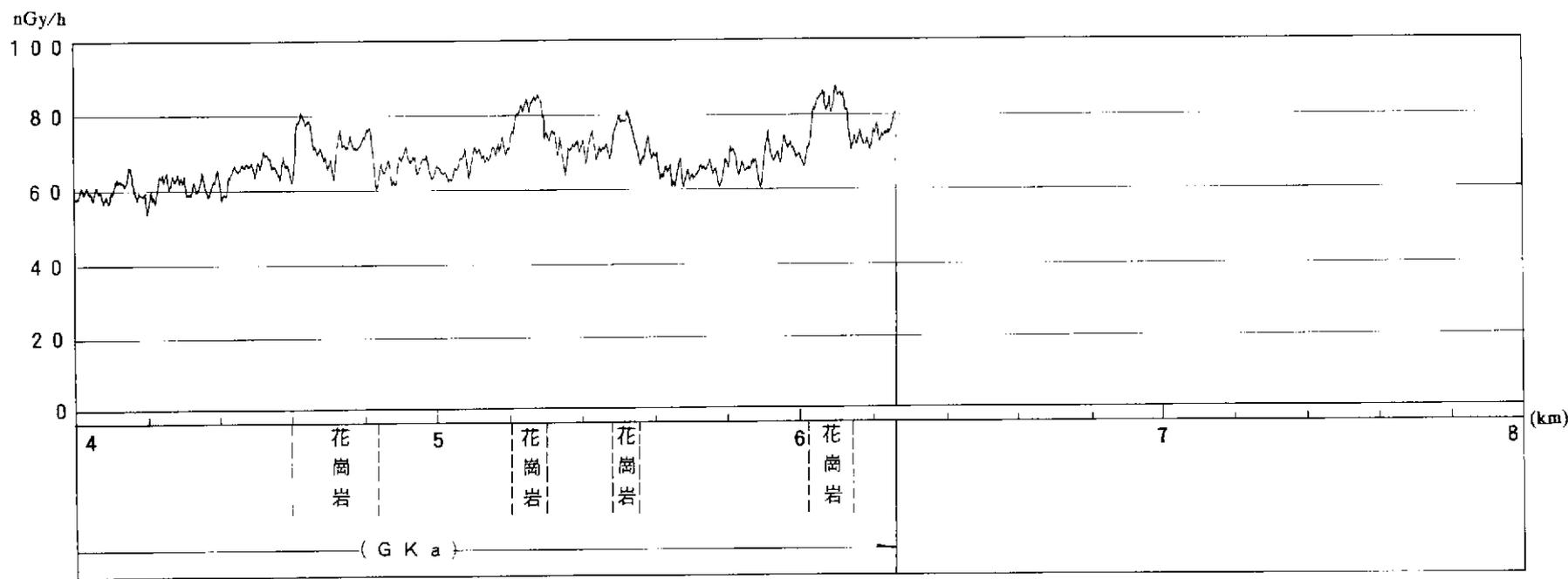
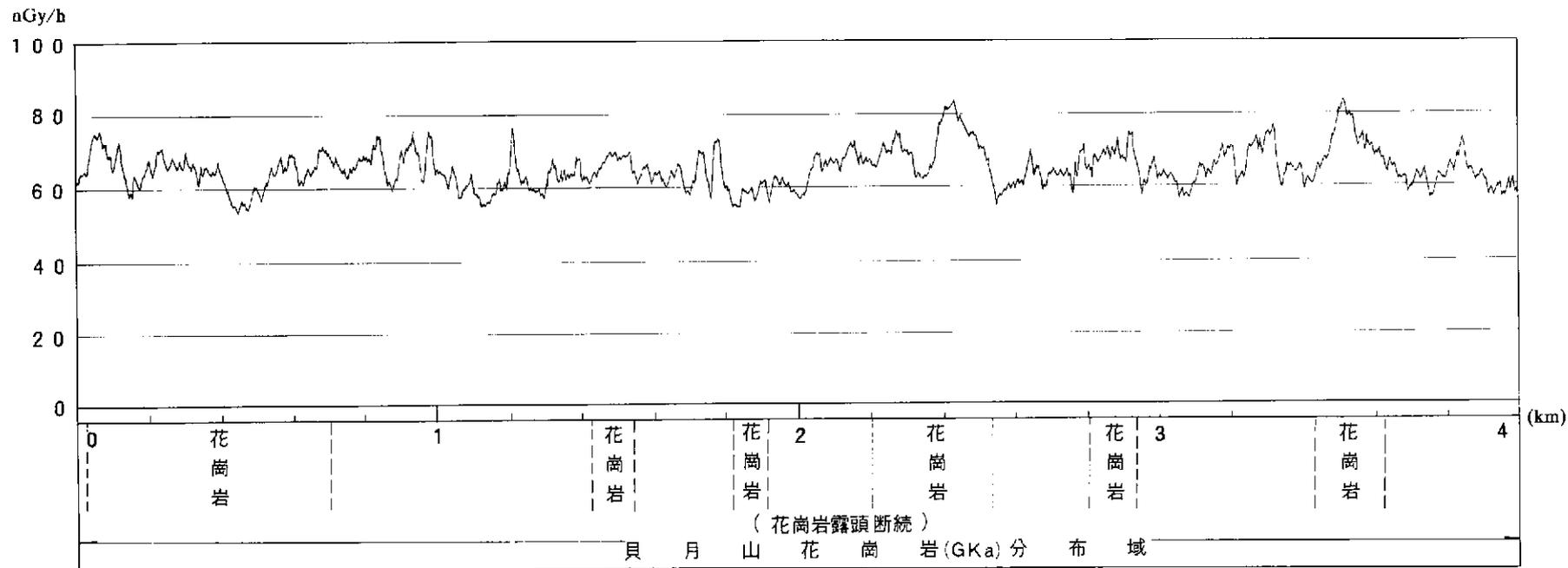


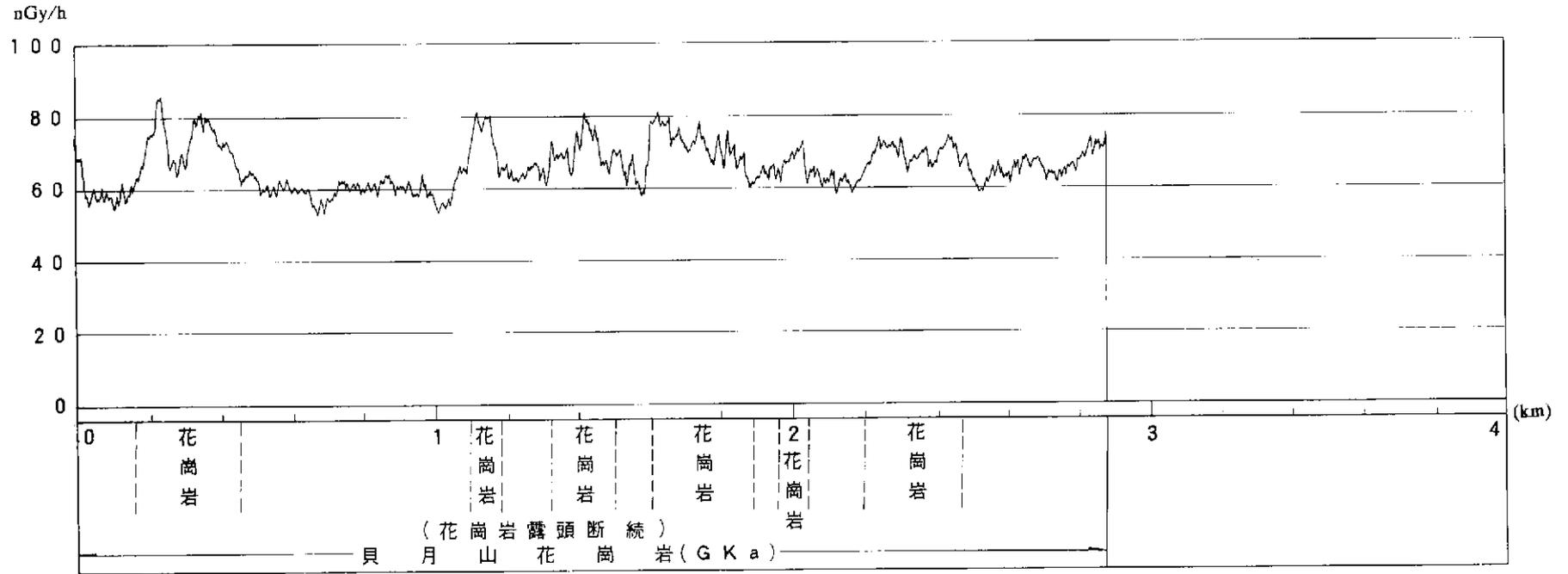
ルート No. 97



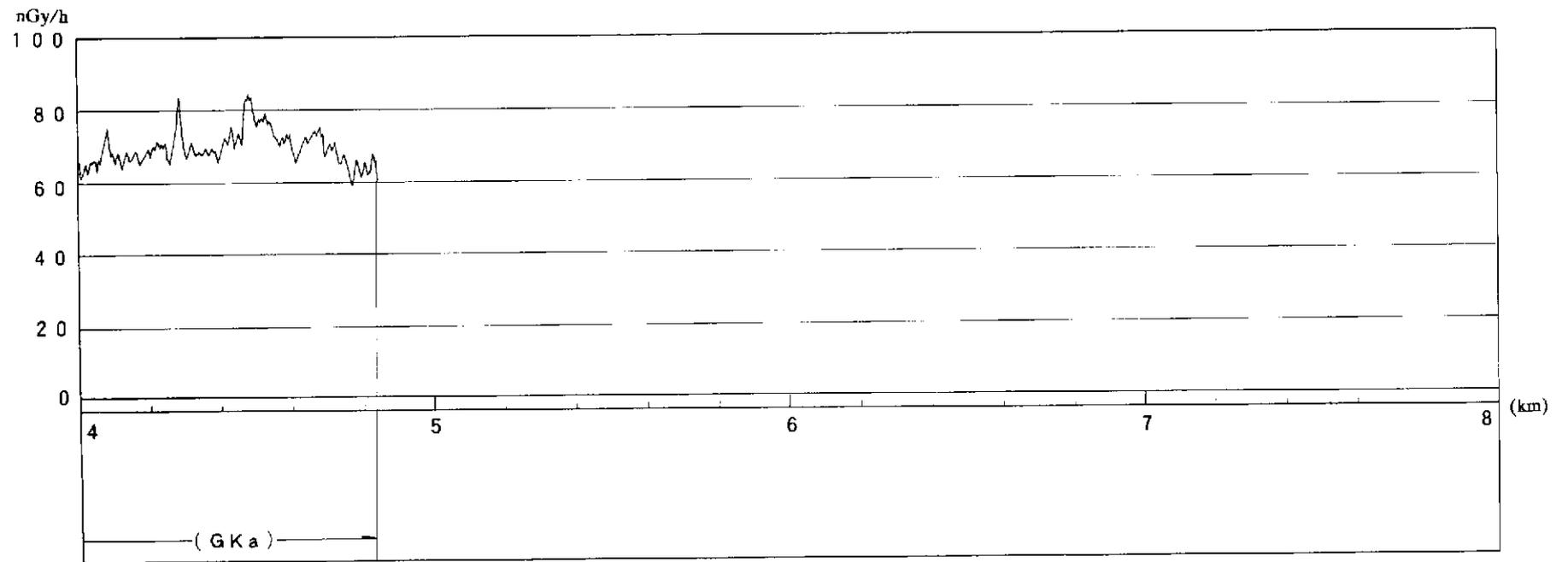
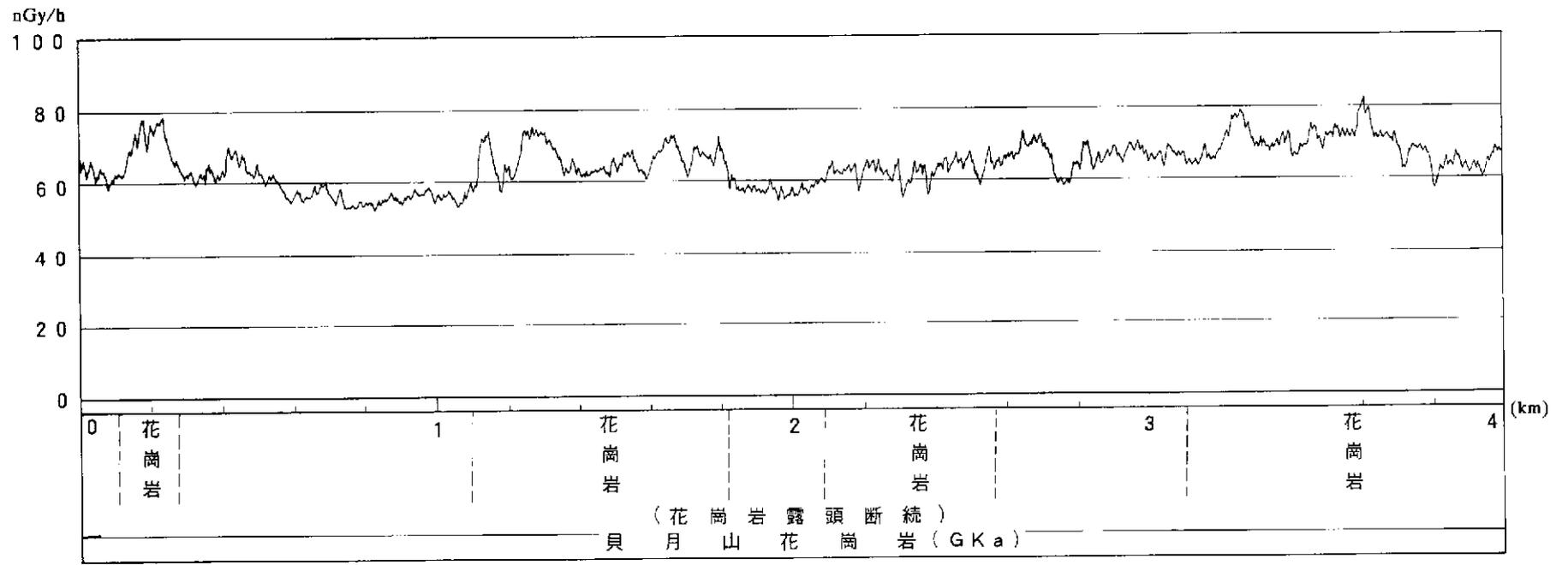


ルートNo. 99



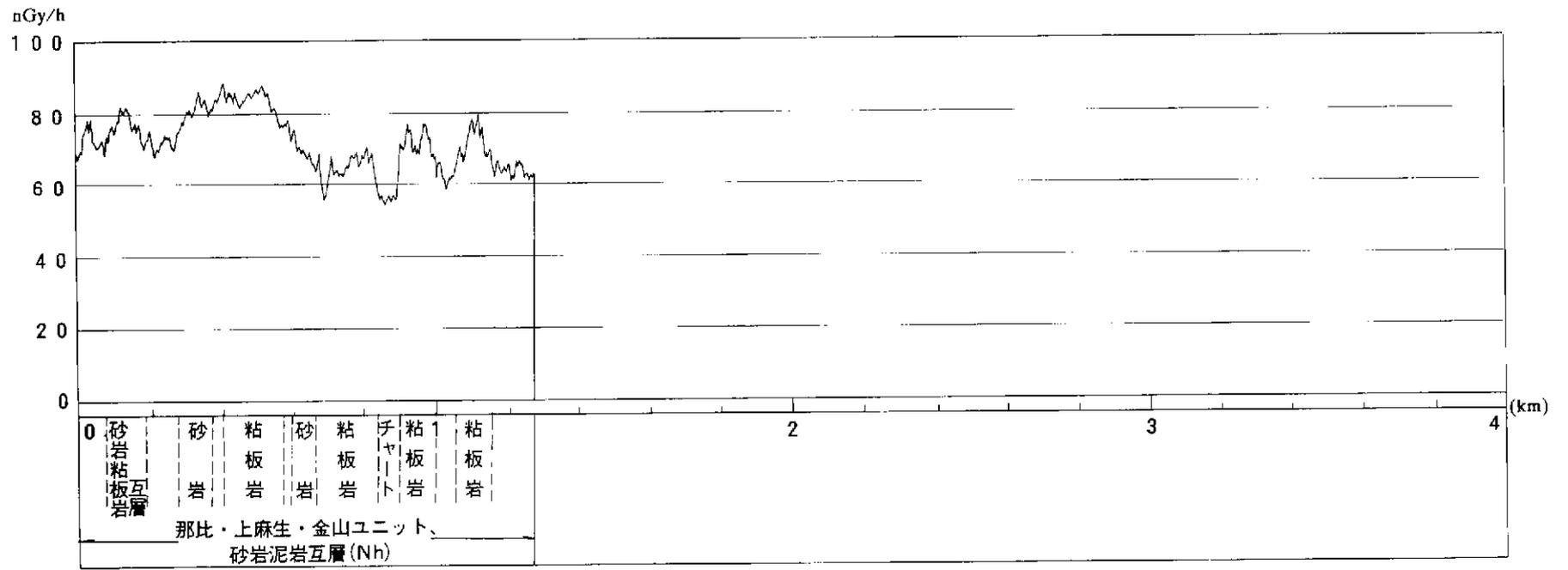


ルートNo. 101

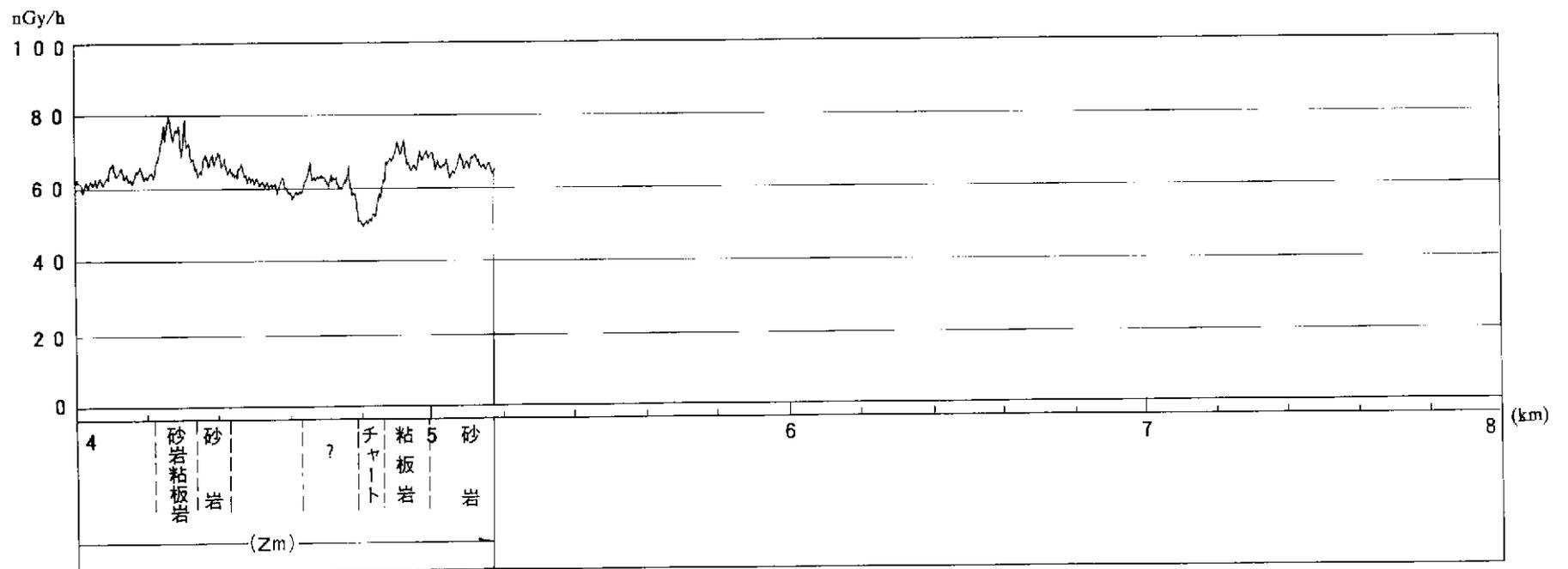
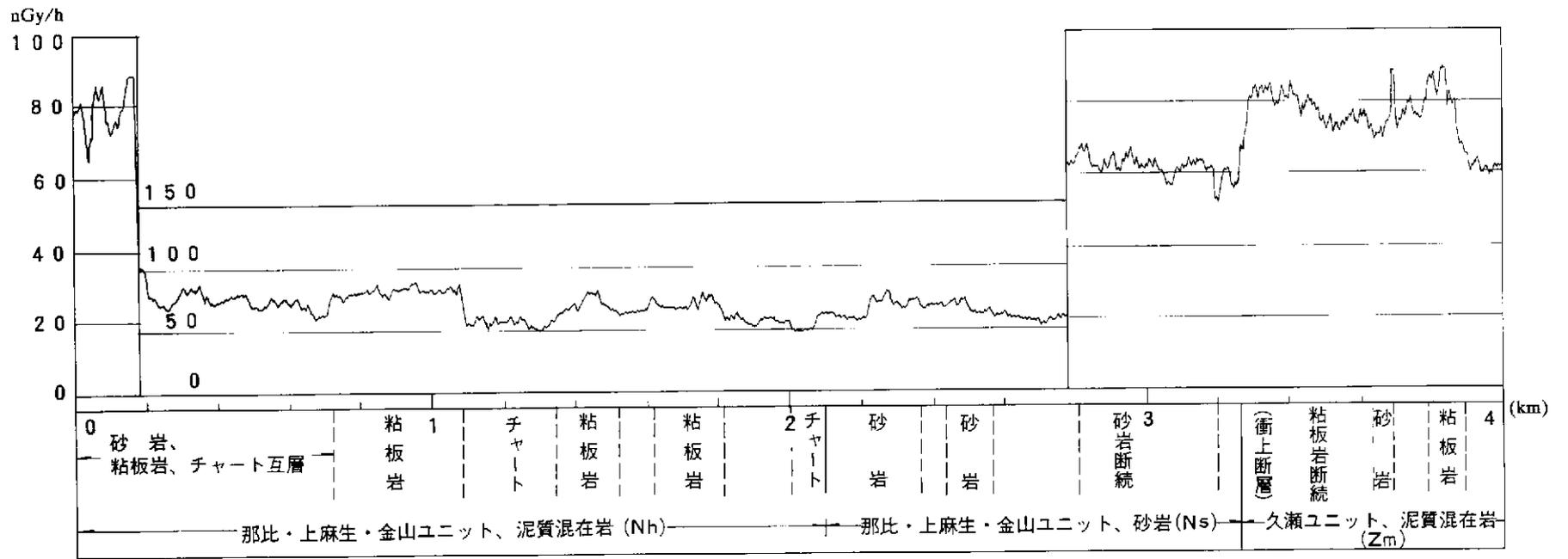


— 182 —

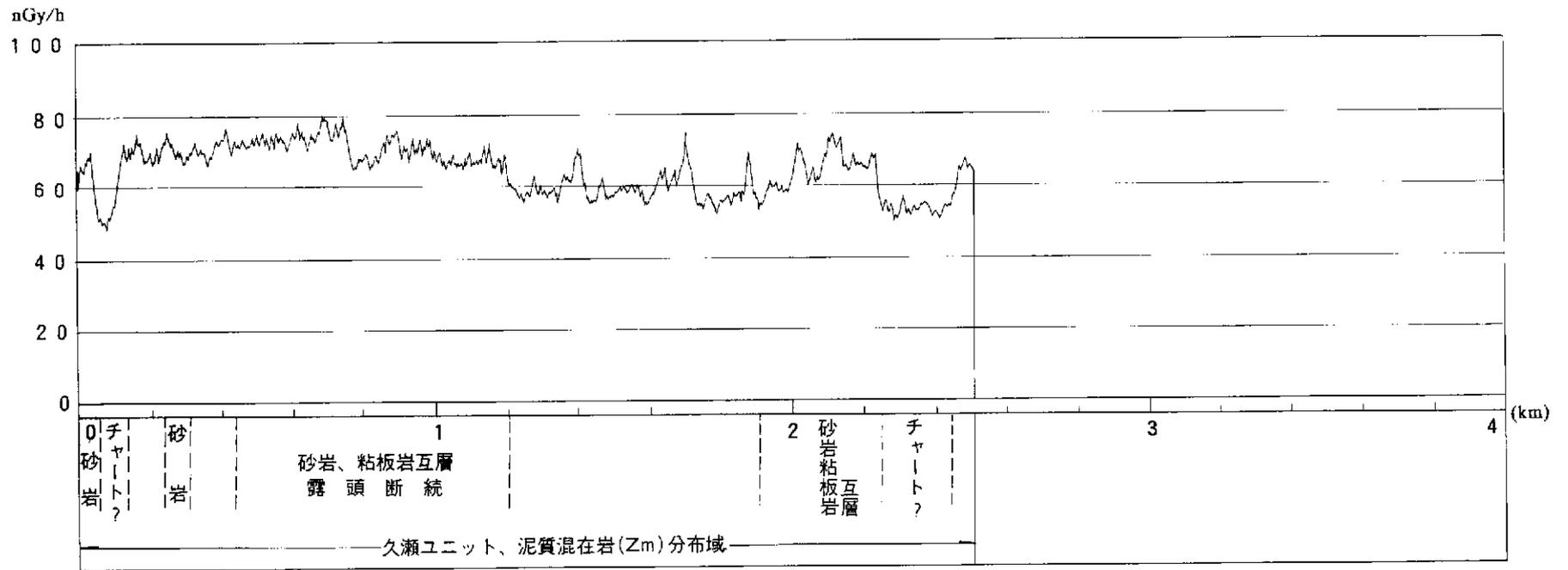
ルートNo. 102



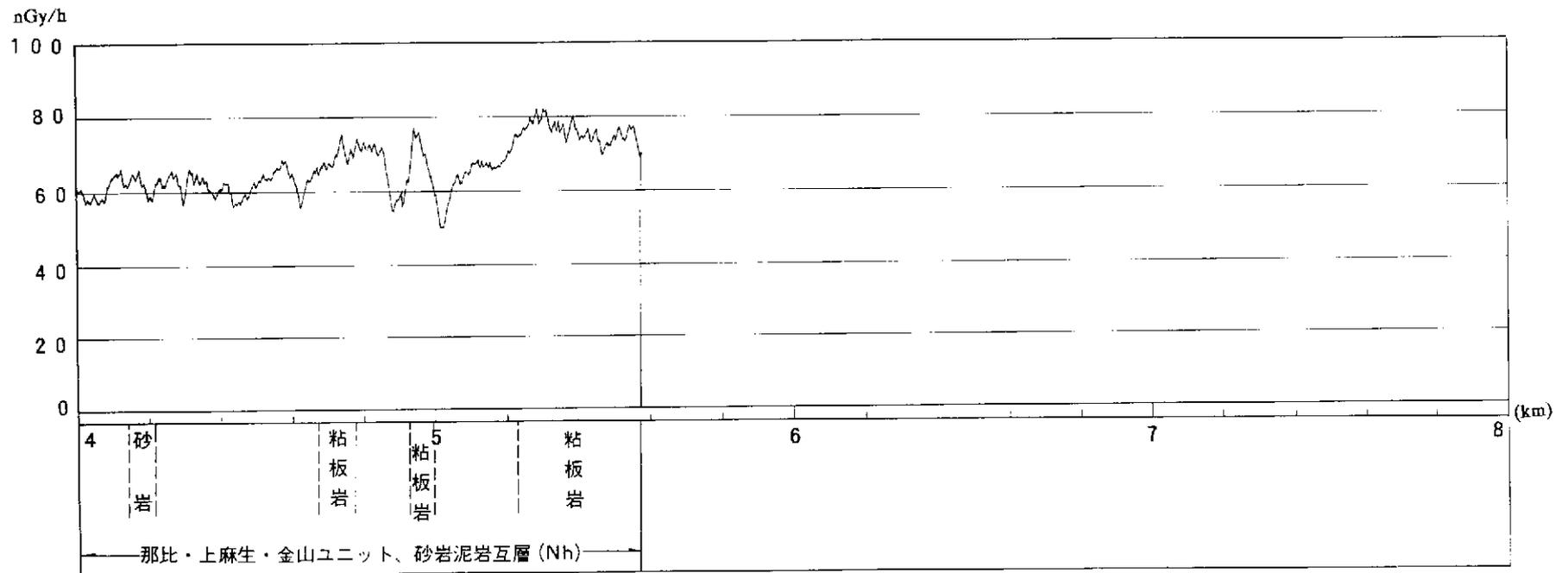
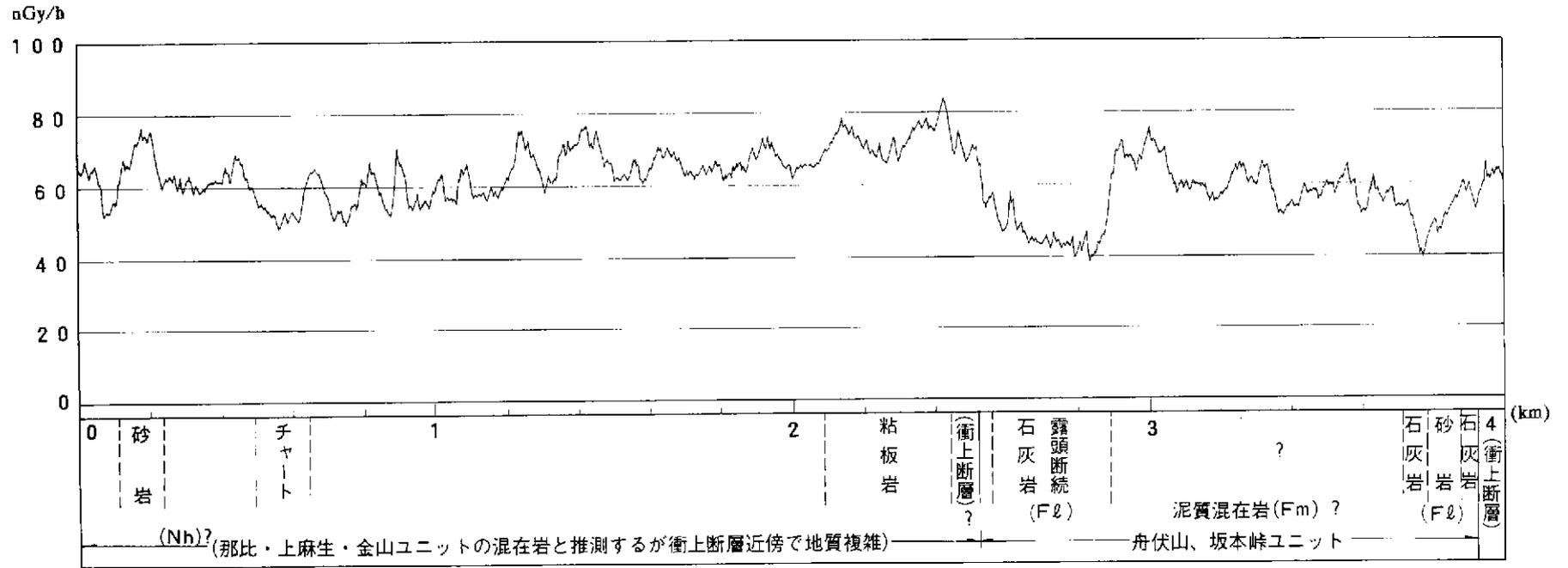
ルートNo. 103

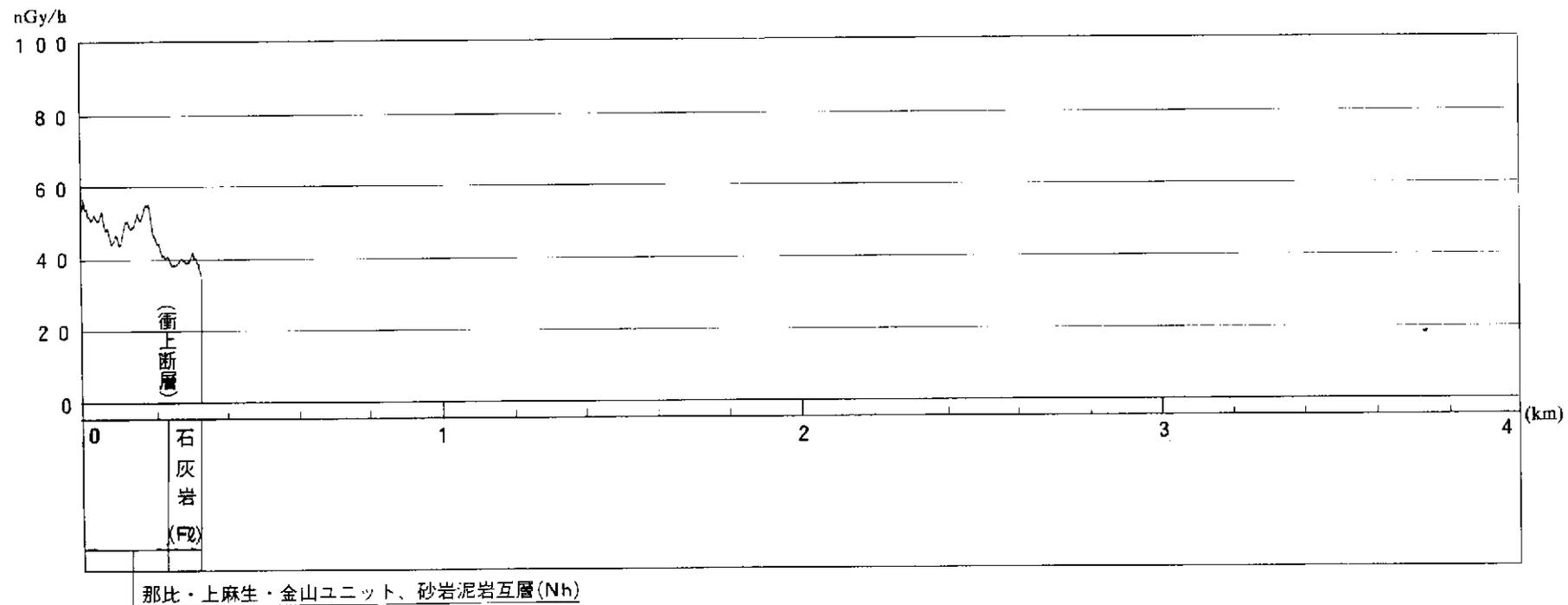


ルートNo. 104

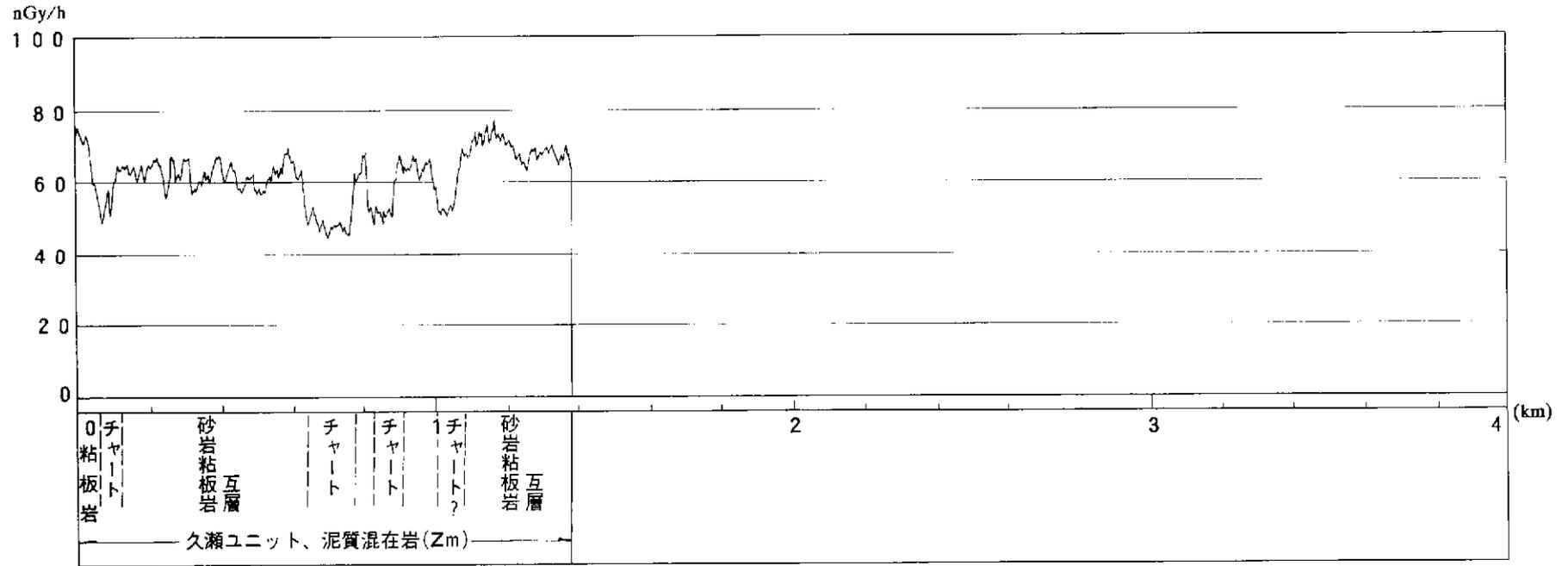


ルートNo. 105

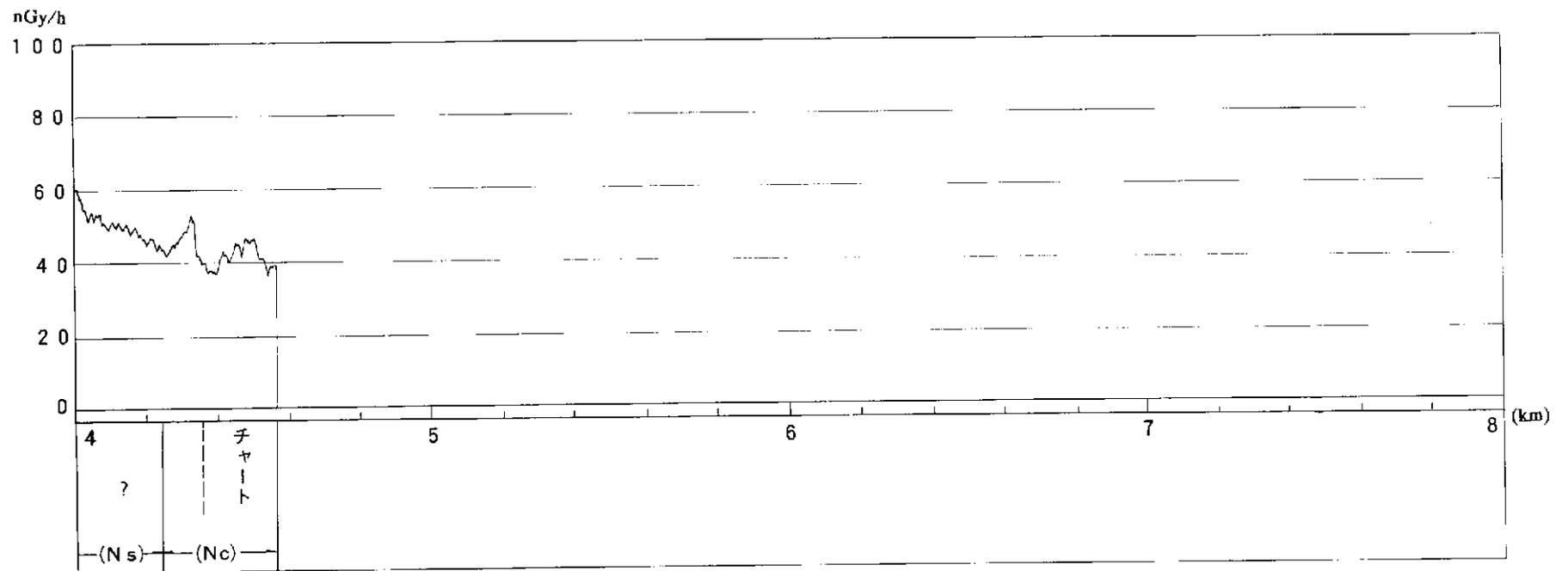
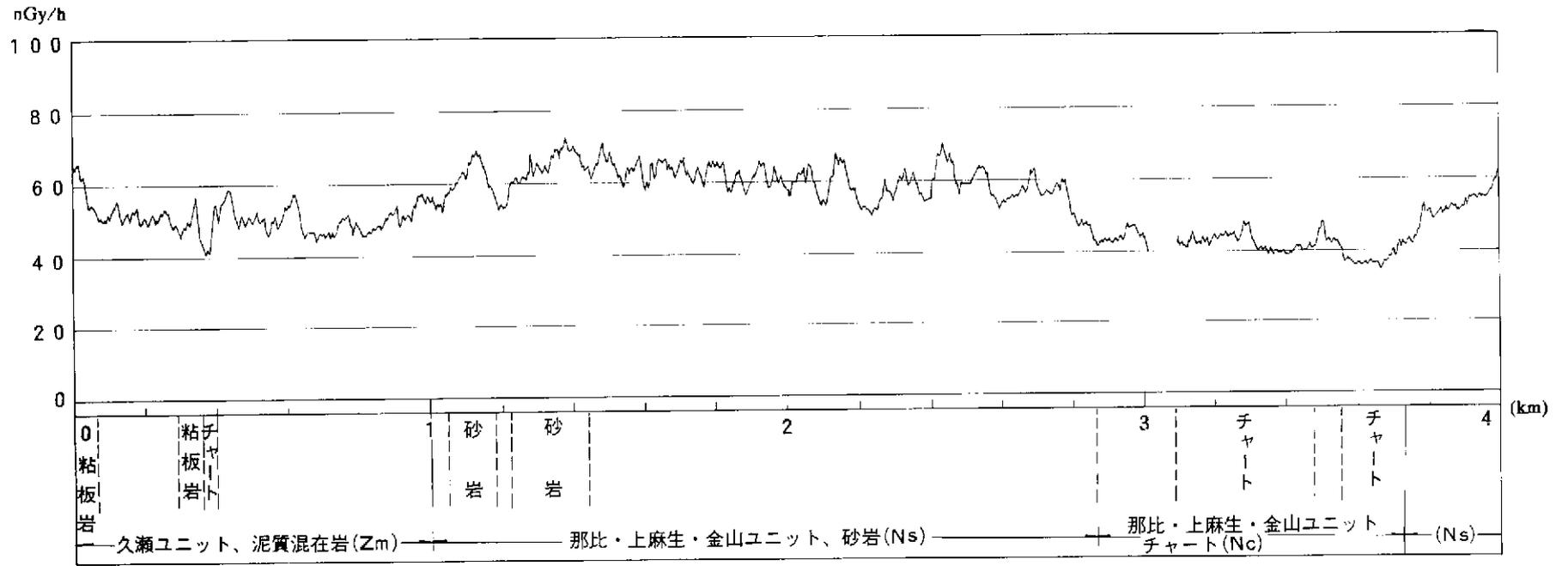




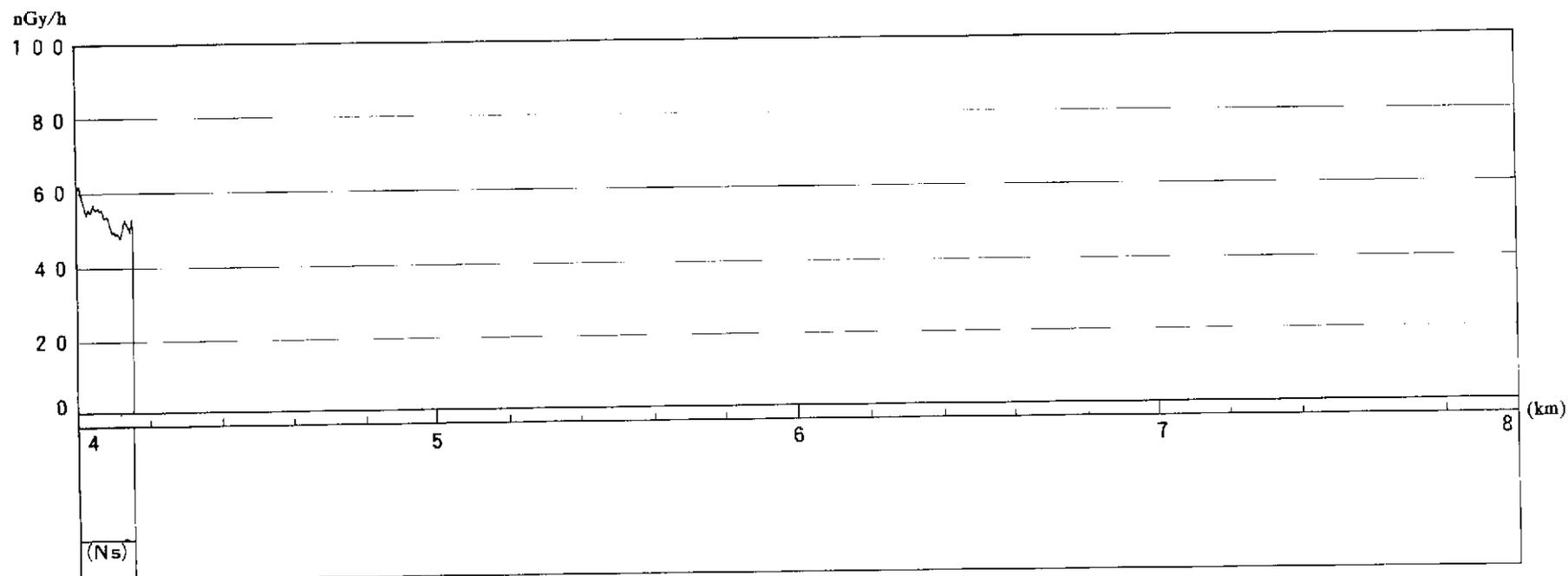
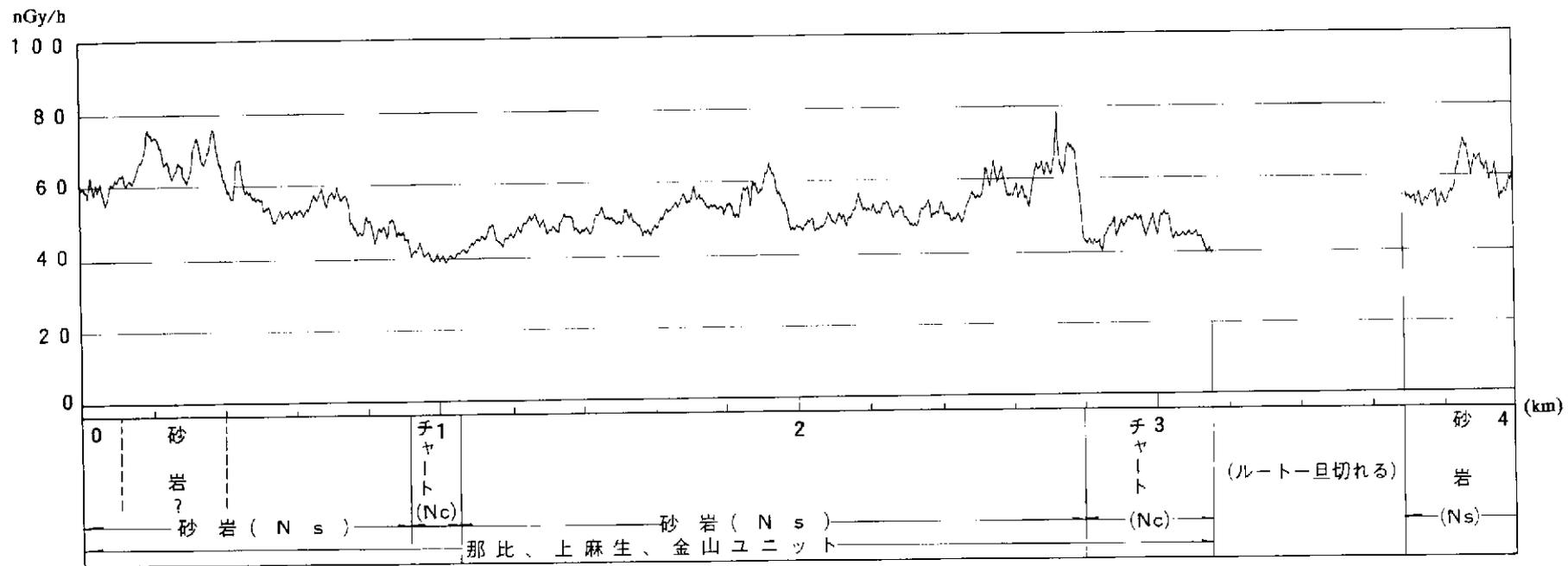
ルートNo. 107



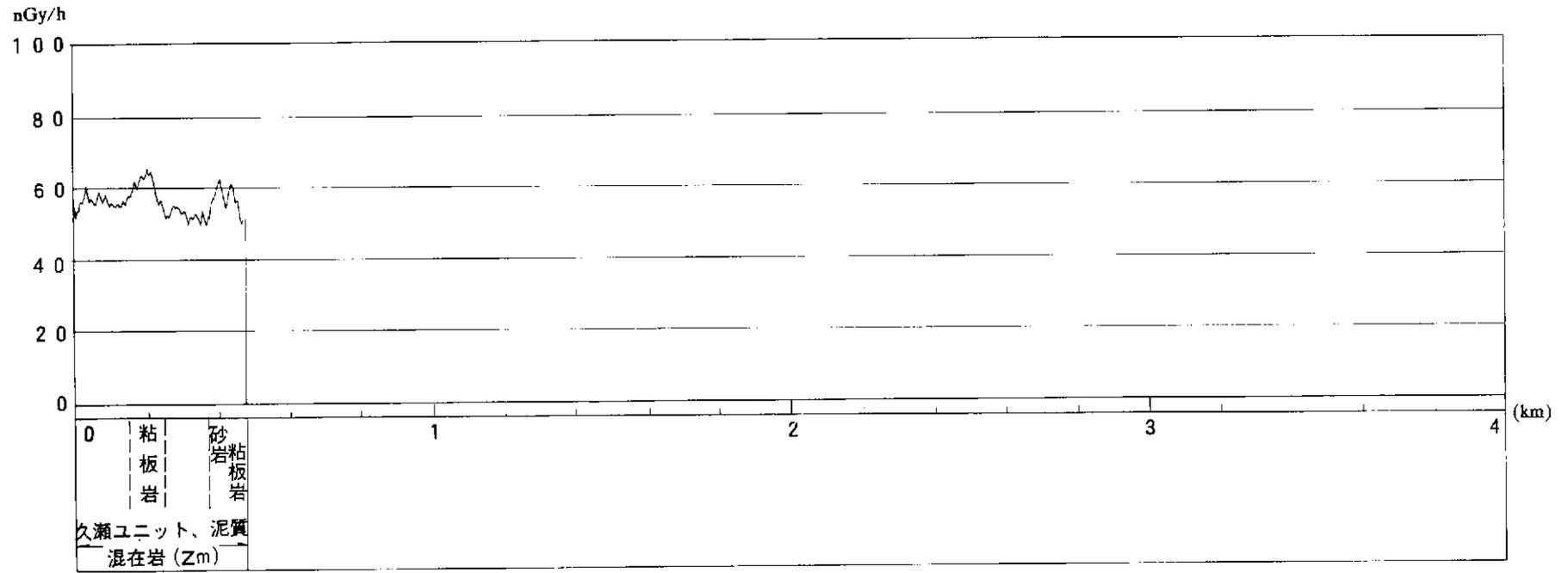
ルート No. 108



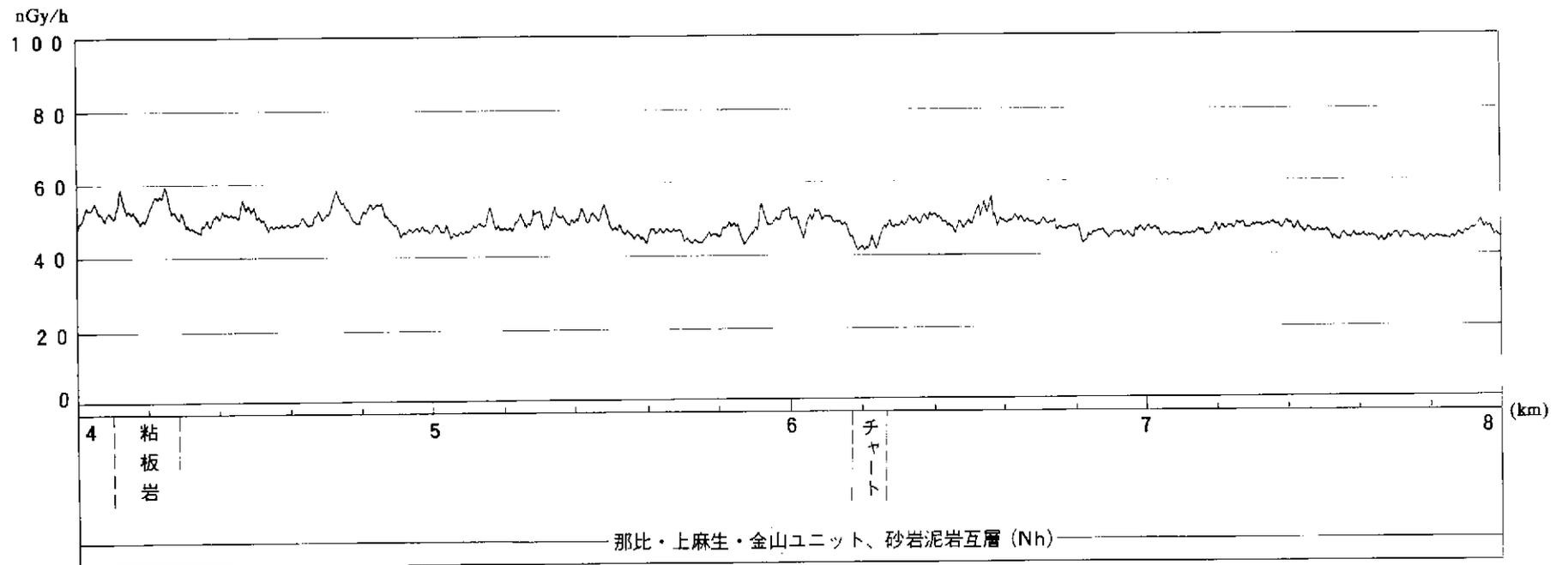
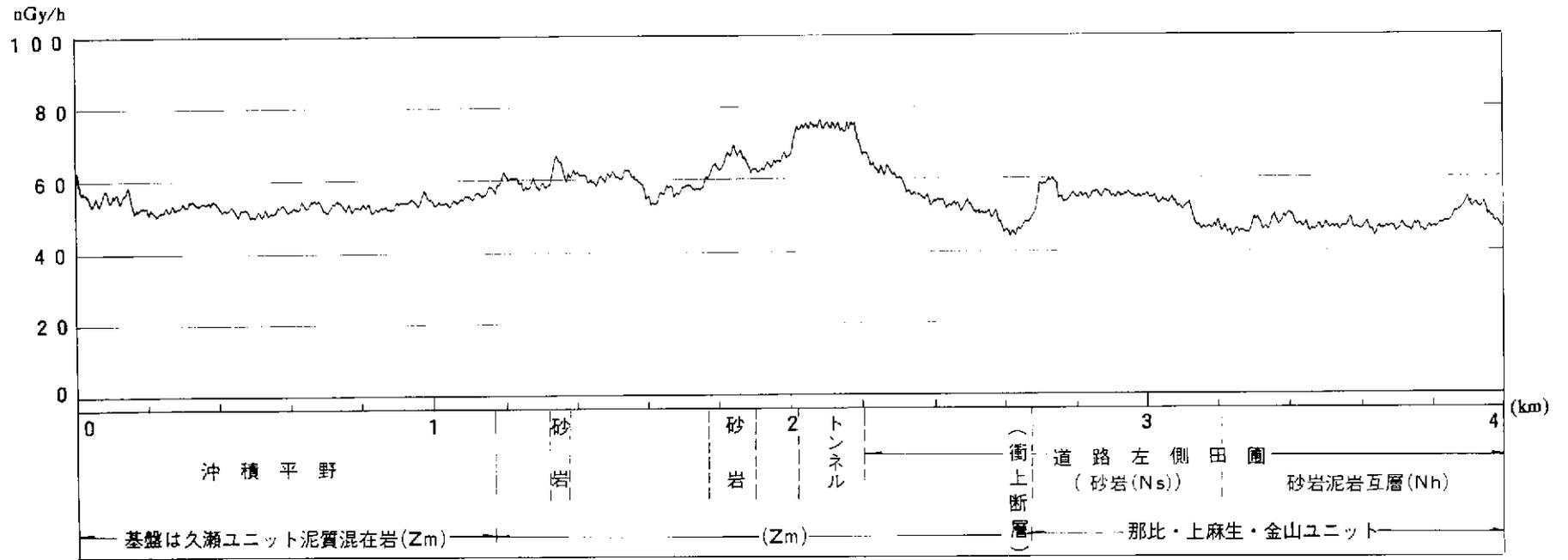
ルートNo. 109



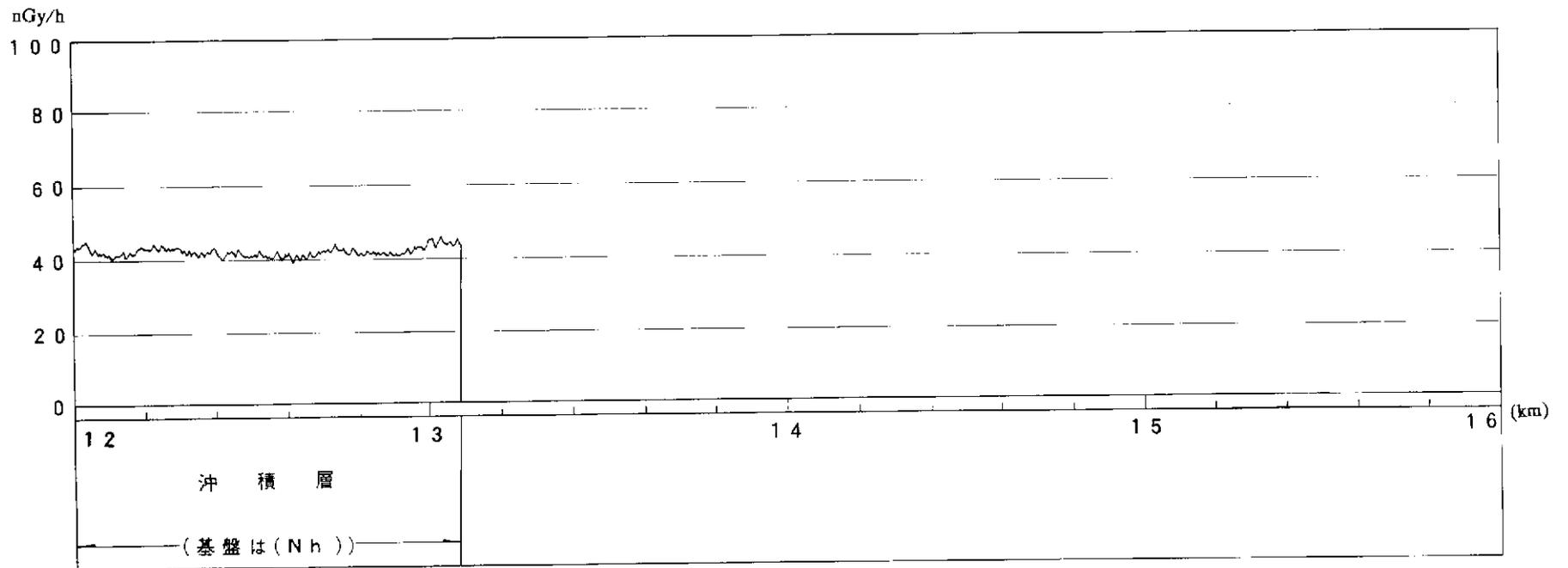
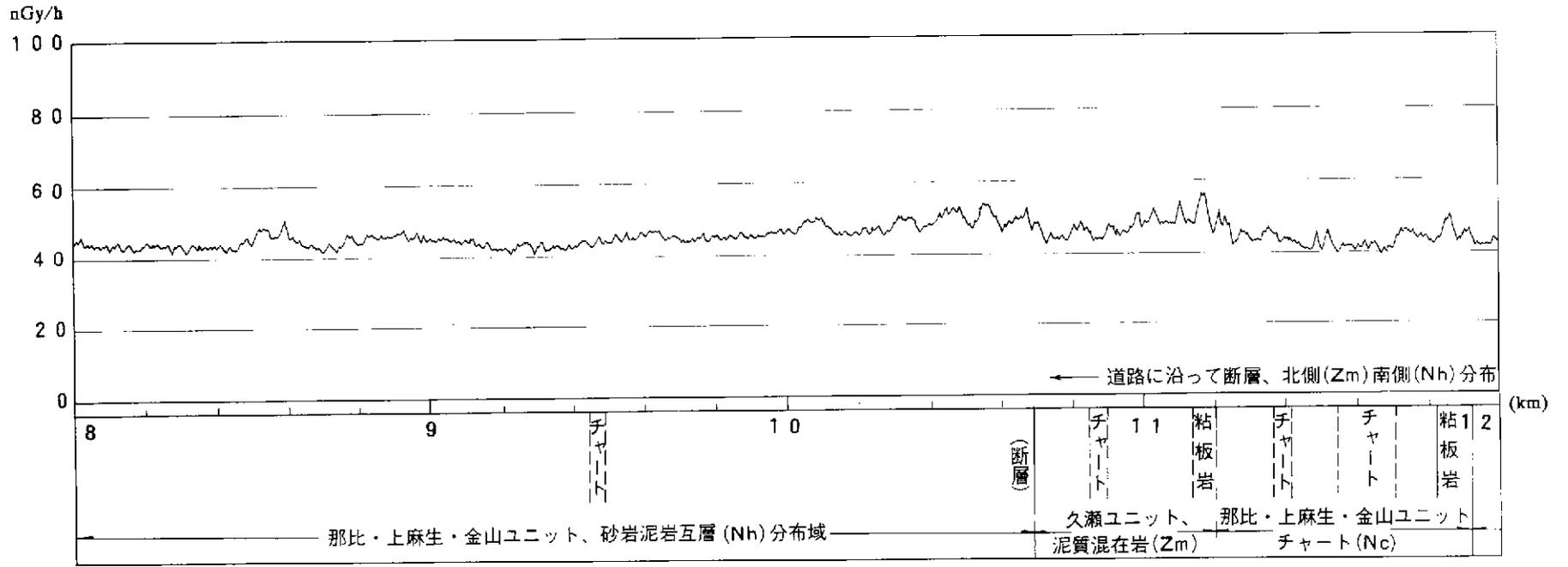
ルートNo. 110



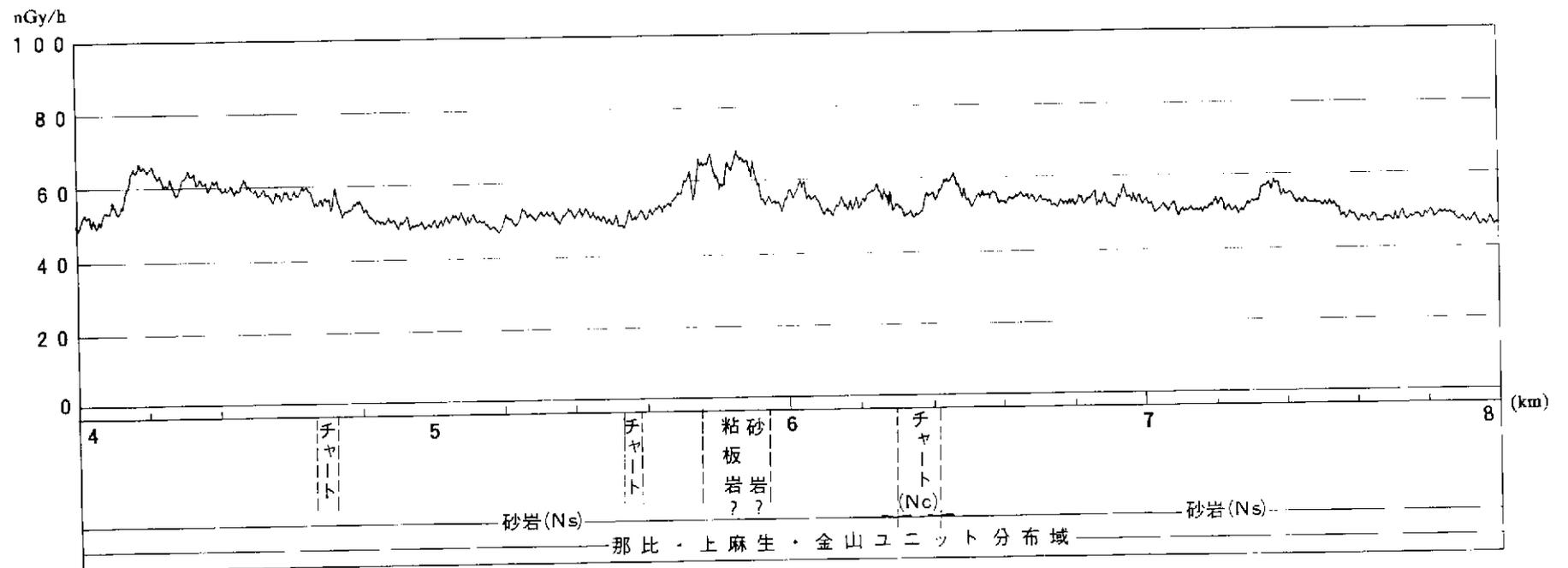
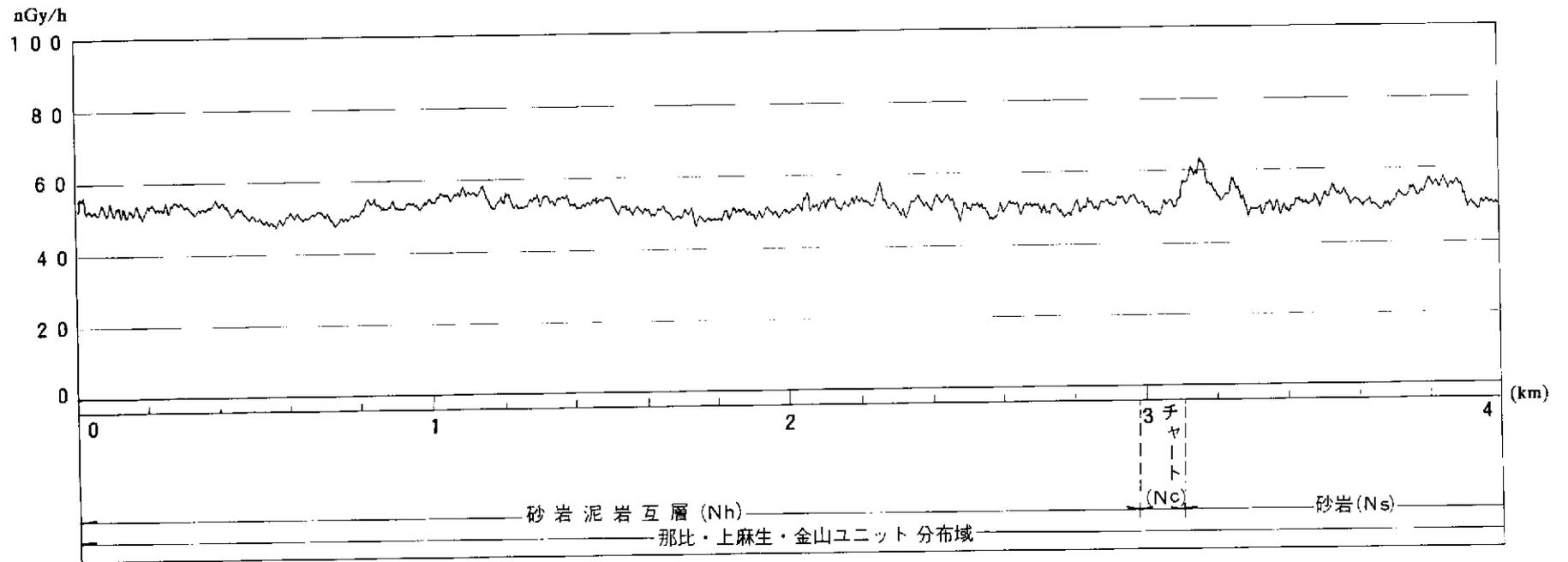
ルートNo. 111



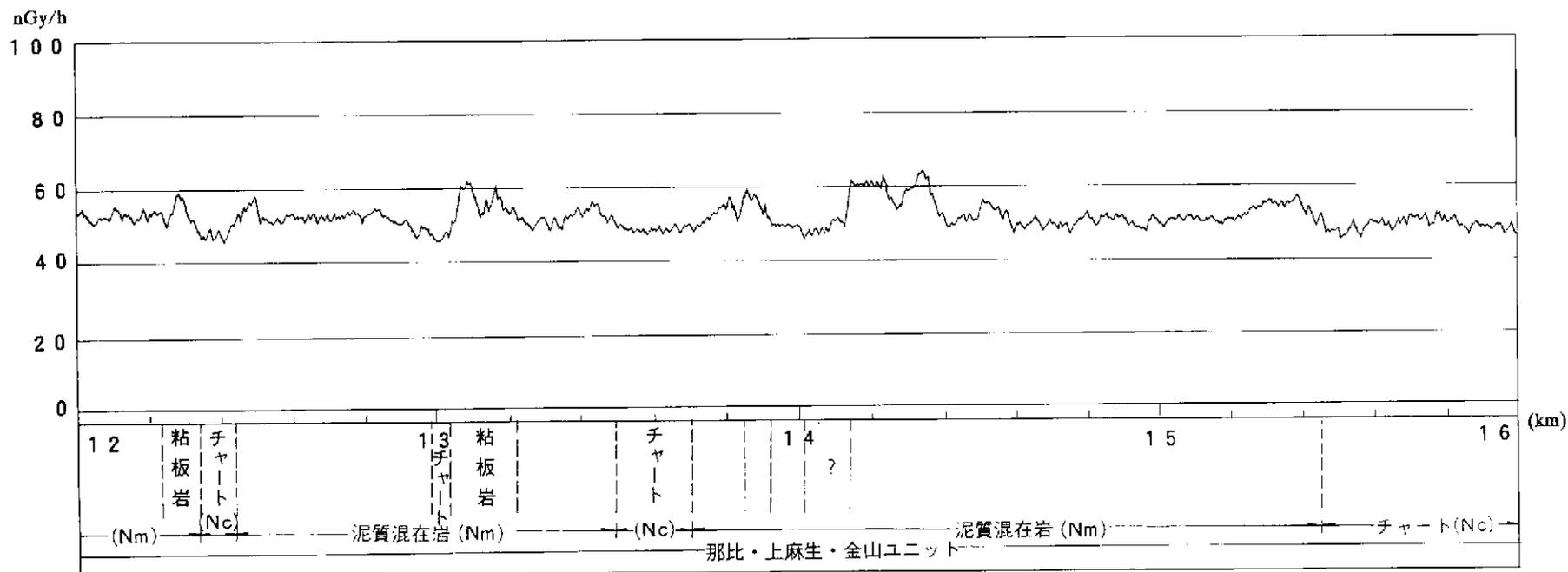
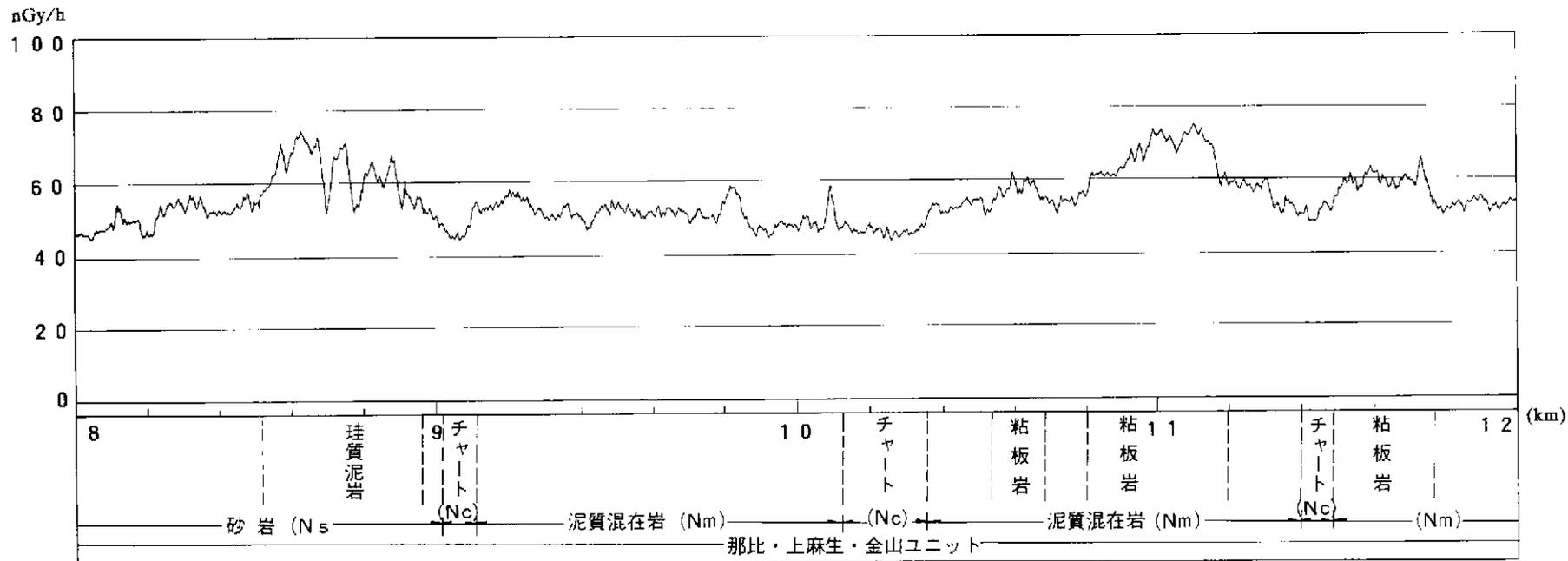
ルート No. 112 (その1)



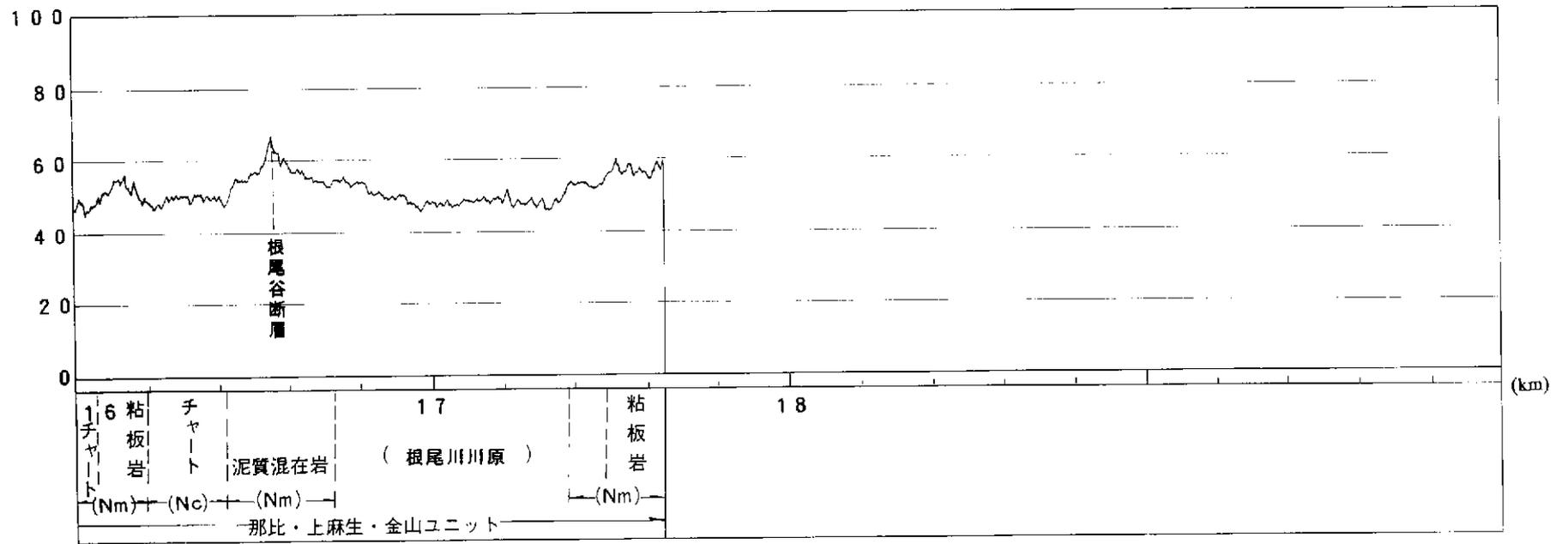
ルート No. 112 (その2)



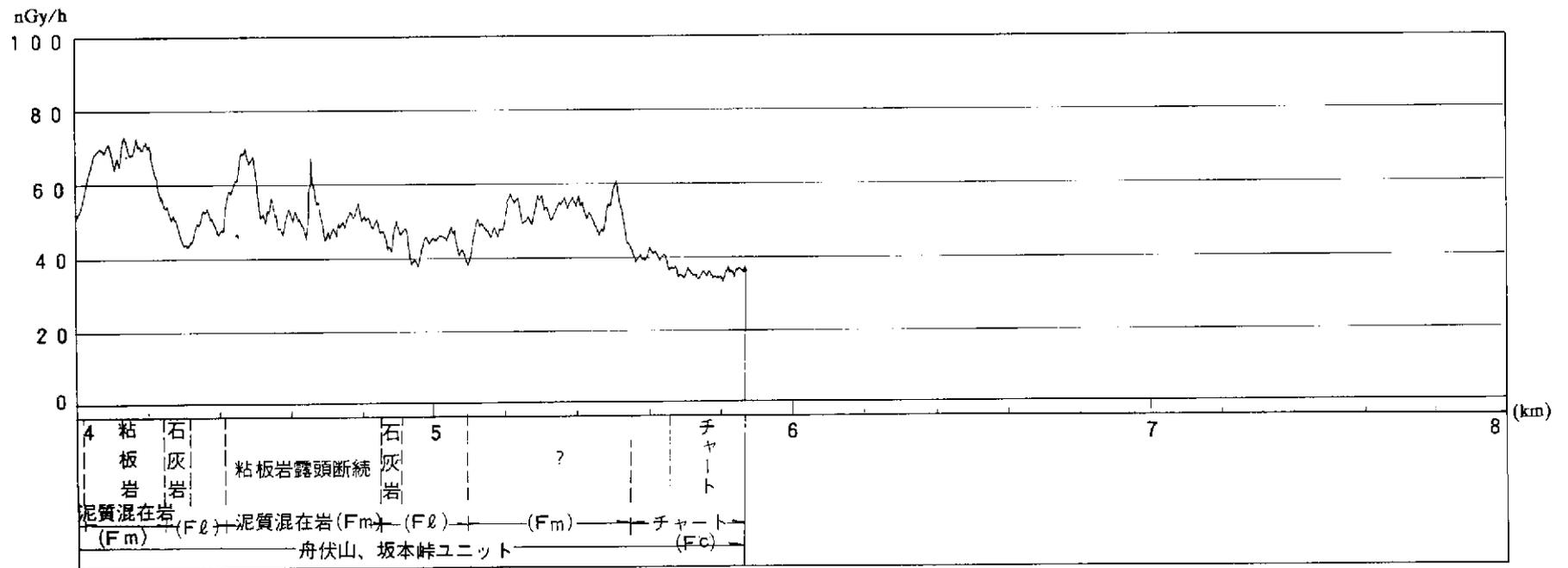
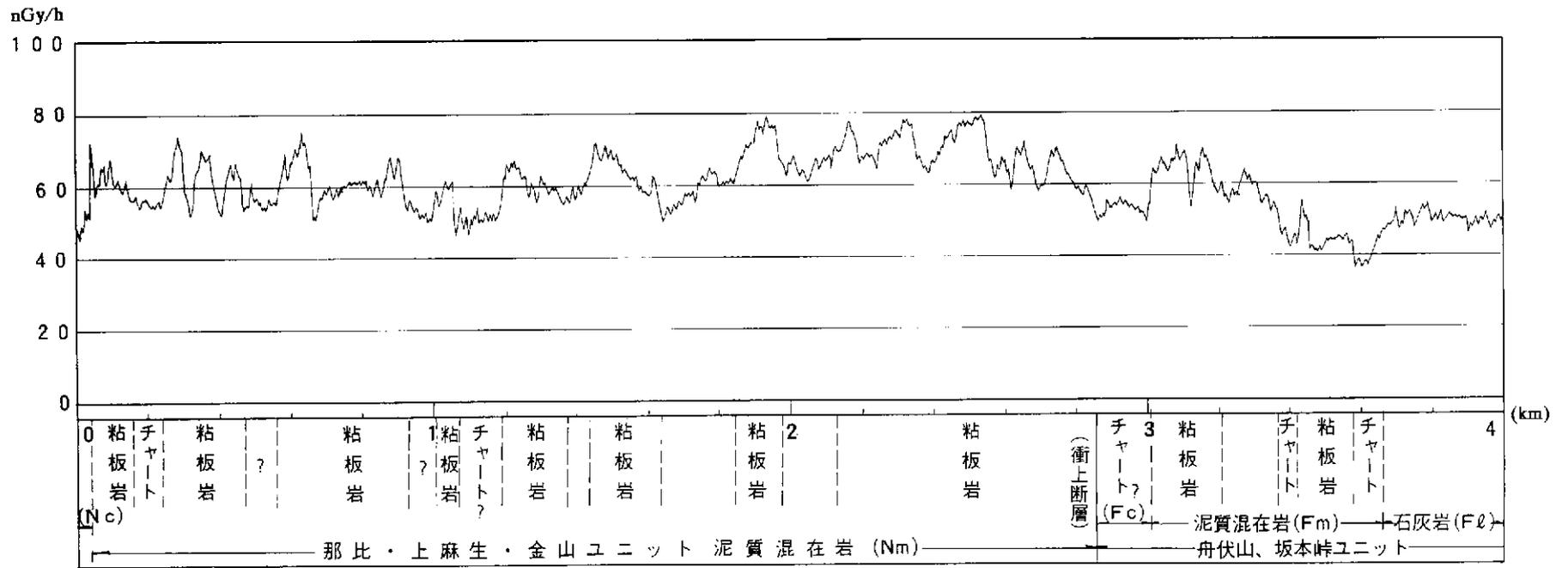
ルートNo. 113 (その1)



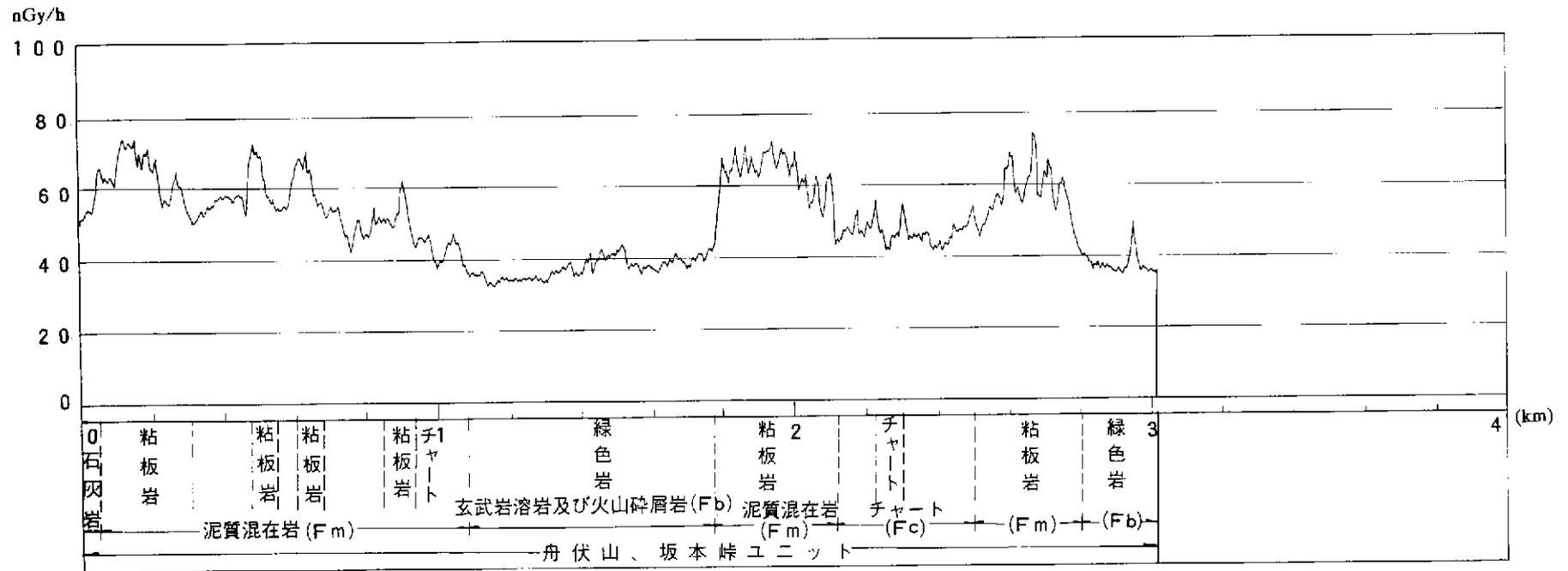
ルートNo. 113 (その2)



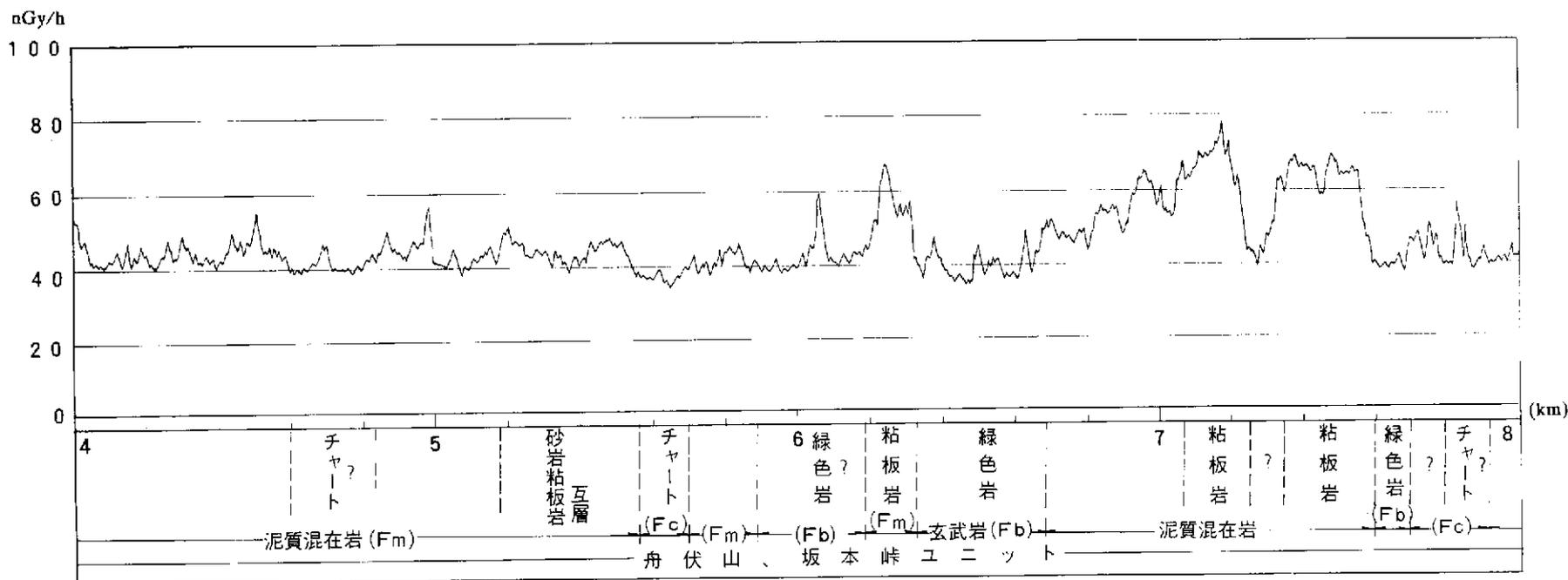
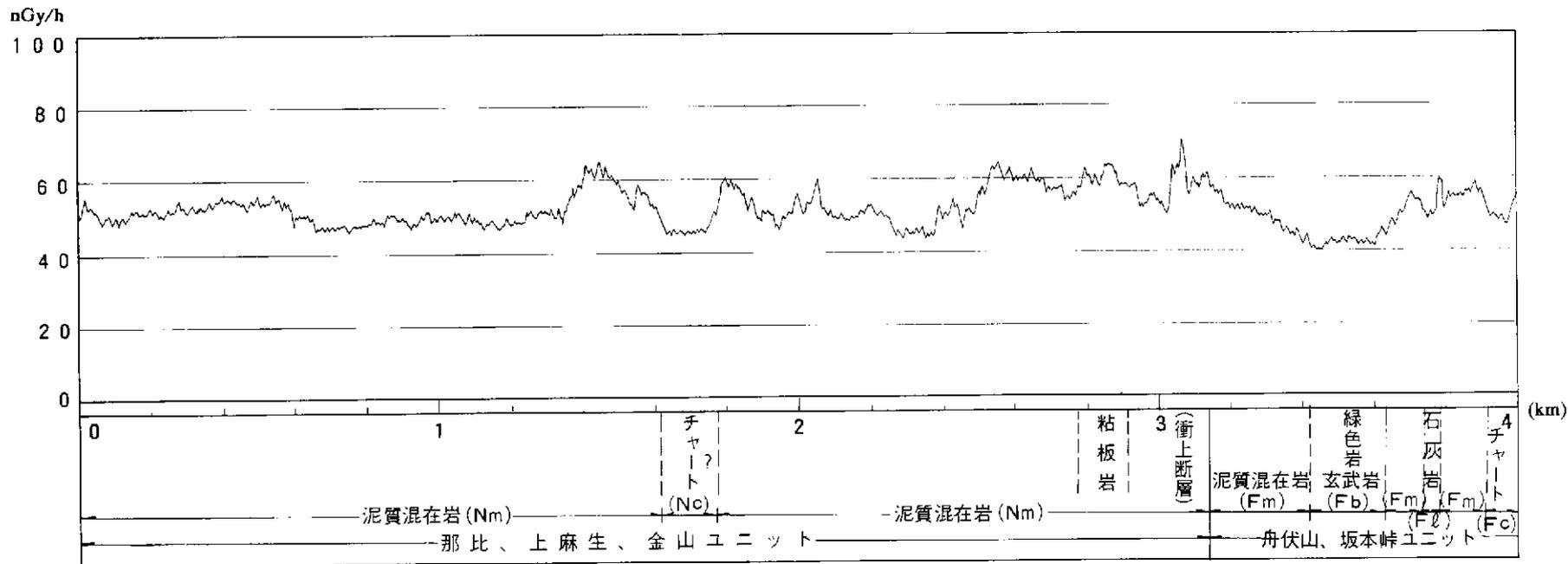
ルートNo. 113 (その3)



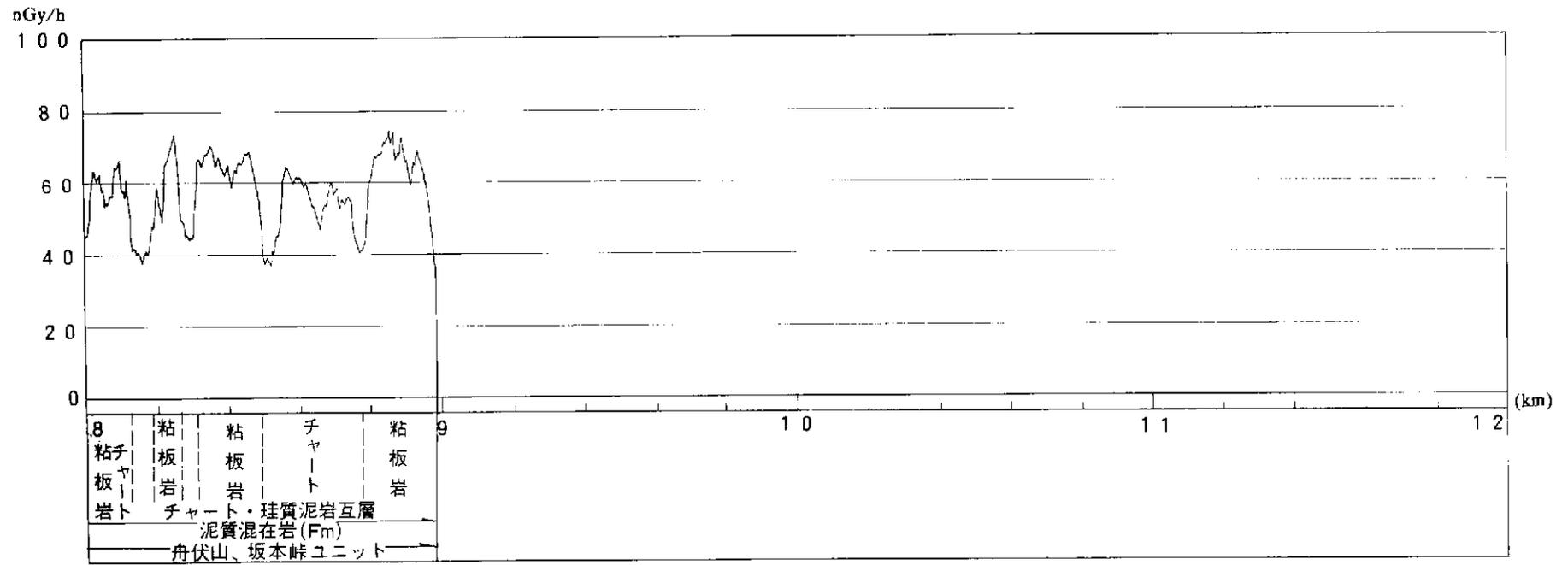
ルートNo. 114



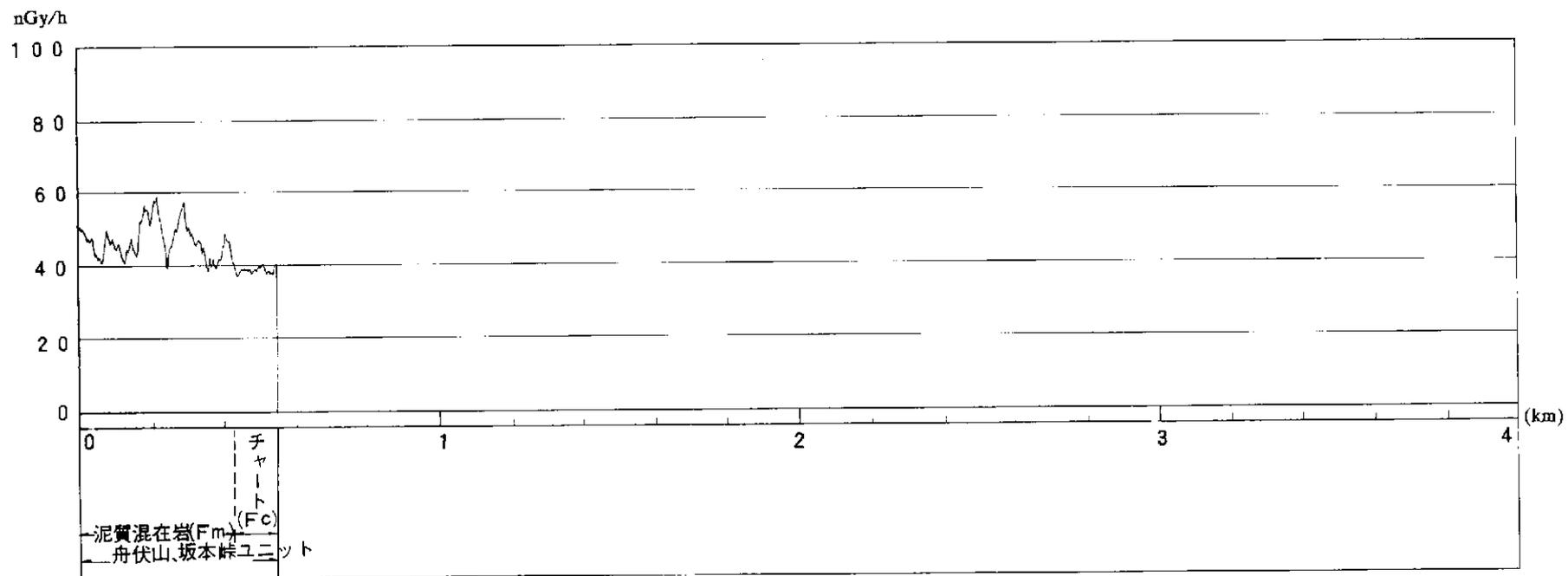
ルートNo. 115



ルートNo. 116 (その1)



ルートNo. 116 (その2)



ルートNo. 117

3. 地質と環境放射線の関連性の検討・評価

カーボン・チャート、カーボン・ルートマップ及び地質図等の地質資料の情報を重ね合わせ、環境放射線とこれに対応する地質（花崗岩類と美濃帯の中・古生界の各ユニットの各地層）の関連性について検討・評価した。

カーボンの測定値を左右するものとしては、

- (1) 地質（ウラン等放射線元素の鉱化作用を含む）
- (2) 露頭等の岩石、地質の露出状況（露頭の規模、表土の被覆状況）
- (3) 露頭等の測定対象と測定器の距離
- (4) 花崗岩等による組石壁など人工構造物

等が考えられる。検討・評価にあたってはこの点に充分配慮した。

以下に各岩層とこれに対応する放射線量値を示す。

岩体・地層	放射線量値の範囲		
(Gka) 貝月山花崗岩	48~90nGy/h	{ 露頭部分：64~90nGy/h, 一般に60~85nGy/h(±) }	
(Gn) 能郷白山花崗閃緑岩	40~60nGy/h		
<u>那比・上麻生・金山ユニット</u>			
{	(Nm) 泥質混在岩	35~72nGy/h	(露頭部分：50~72nGy/h)
	(Nh) 泥岩優勢な 砂岩泥岩互層	40~88nGy/h	
	(Ns) 砂岩	42~90nGy/h	
	(Nc) チャート	37~65nGy/h	
<u>左門岳ユニット</u>			
{	(Sh) 泥岩優勢な 砂岩泥岩互層	40~80nGy/h	
	(Si) 珪質泥岩	48~90nGy/h	
	(Ss) 砂岩	40~90nGy/h	(露頭部分：55~90nGy/h)
	(Sa) 砂岩優勢な 砂岩泥岩互層	45~80nGy/h	
	(Sc) チャート	35~63nGy/h	

久瀬ユニット

{	(Zm) 泥質混在岩	42~100nGy/h	(露頭部分：50~100nGy/h)
	(Zc) チャート	37~65nGy/h	
	(Zl) 石灰岩	32~55nGy/h	
	(Zb) 玄武岩溶岩及び 火山碎屑岩	38~70nGy/h	{ 55~70nGy/h の値は狭い 谷沿いで測定される }

舟伏山・坂本峠ユニット

{	(Fm) 泥質混在岩	35~125nGy/h
	(Fs) 砂岩	40~75nGy/h
	(Fc) チャート	36~60nGy/h
	(Fl) 石灰岩	30~57nGy/h
	(Fb) 玄武岩溶岩及び 火山碎屑岩	30~60nGy/h

上記の放射線量値の範囲を、美濃帯の各ユニット別にまとめたものを図2に、岩種別にまとめたものを図3に示す。これらの結果より、本地域における地質と環境放射線の関連性について、以下の内容が推測される。

- ① 美濃帯に含まれる同岩種の地層では、ユニットの違いによる放射線量値の差は認められない。舟伏山・坂本峠ユニットの一部に低放射線量値が認められるが、他のユニットと比べて低い放射線量値を有する岩体であると判断すべき材料はない。
- ② 一方、美濃帯の各ユニットに共通して、岩種、岩質の違いによる放射線量値の差が認められる。すなわち、粘板岩（泥岩）や砂岩から構成される岩層と、チャート、石灰岩、玄武岩溶岩及び火山碎屑岩から成る岩層の間に明瞭な放射線量値の差が認められる。前者の放射線量値は高く、その分布範囲が40~100nGy/h（一部では100nGy/h以上）であるのに対し、後者は35~65nGy/h程度の範囲の値を示す。厳密に露頭のみで測定値と比較すれば、両者の差は一層明瞭になると推測される。
- ③ 泥質混在岩（(Fm), (Zm), (Nm)）は、主体は粘板岩（泥岩）であるが、チャート、玄武岩類等をはじめ各種の岩塊を挟んでいる。粘板岩（泥岩）の放射線量値が70~100nGy/hの範囲の値を示すのに対し、チャート等を挟む場合は低い値を示す。このため、全体としての放射線量値の分布範囲が大きくなっている。

- ④ 砂岩と粘板岩（泥岩）の間には放射線量値に大きな差は認められないが、砂岩の方がやや低い値を示す傾向が見られる。
- ⑤ 花崗岩類では、貝月山花崗岩の放射線量値は露頭部分では64～90nGy/h，全般的には48～90nGy/h の範囲の値を示す。これに対し、能郷白山花崗閃緑岩の放射線量値は、露頭部分でも非露頭部でも40～60nGy/h と低い値を示し、その変動の幅も小さい。
- ⑥ 沖積層分布域では40～70nGy/h の範囲の値を示す。一般に、放射線量値の変動は極めて小さい。

また、これらを一昨年度（平成5年度）に検討・評価した東濃地域のデータ（「国内カーボンデータに基づく地質と環境放射線の関連性評価」（PNC TJ7409 94-001））と比較すると、西濃地域と東濃地域の放射線量値について、以下の内容が明らかとなる。

- ① 両地域に分布する美濃帯中・古生層の粘板岩を主とする泥質岩の放射線量値には明瞭な差は認められない。
- ② 西濃地域の貝月山花崗岩は、東濃地域の伊奈川花崗岩とほぼ同じレベルの放射線量値を示す。しかし、東濃地域の花崗岩には貝月山花崗岩より高い値を示す岩体（苗木・上松型花崗岩）も認められる。
- ③ 西濃地域の能郷白山花崗閃緑岩は東濃地域の花崗岩類より低い値を示す。

図 2 地質と放射線量分布 (西濃地域, ユニット別)

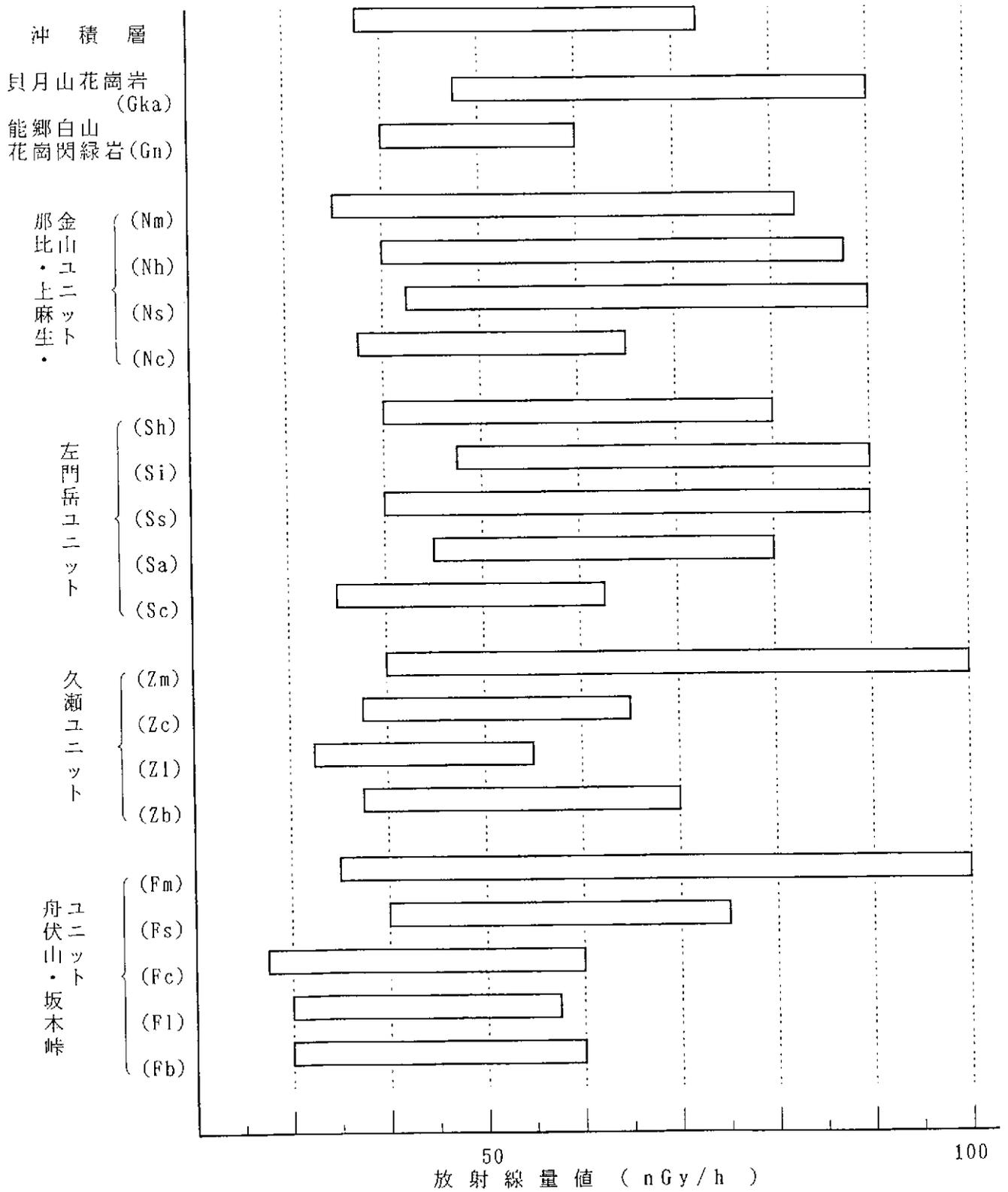
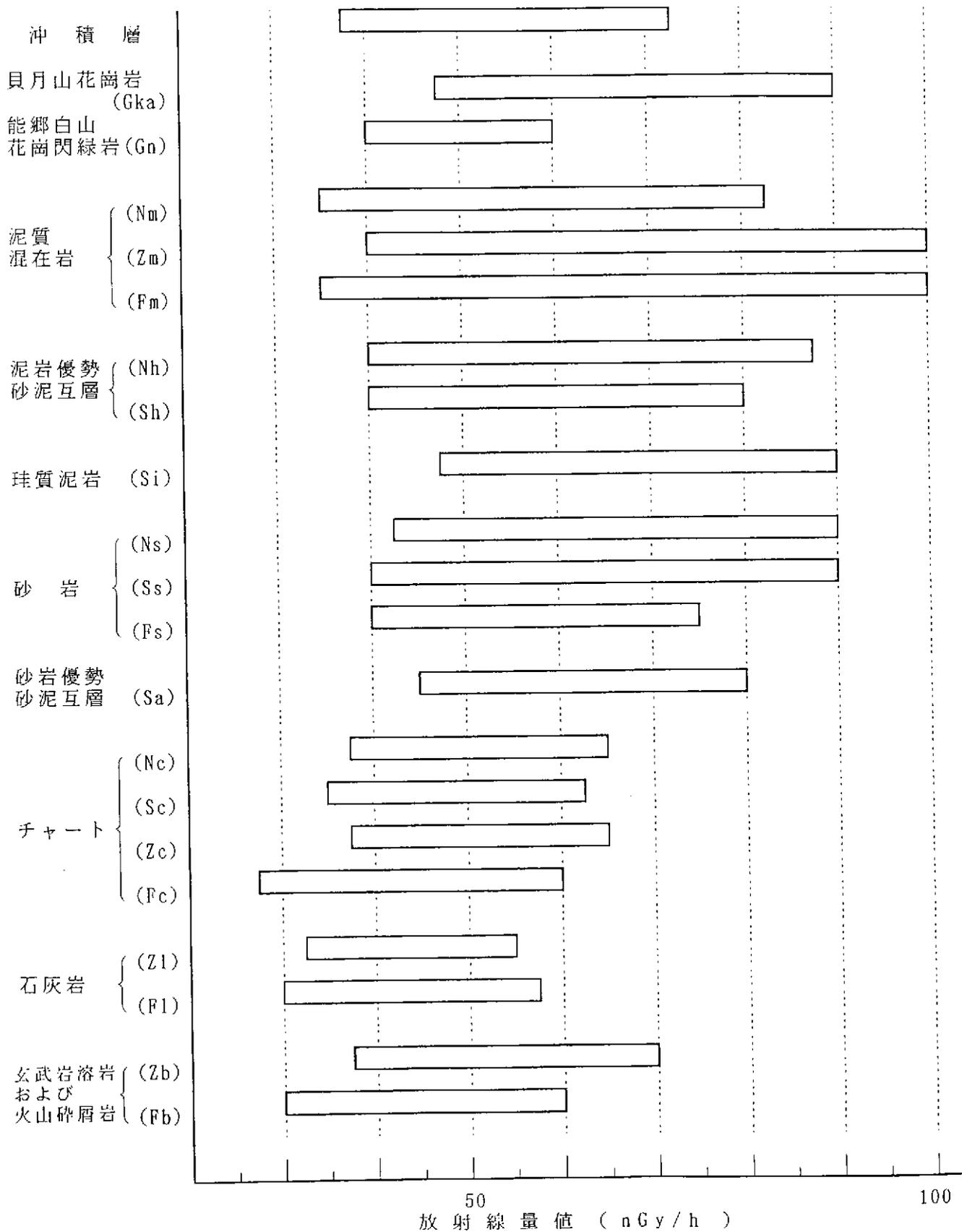


図 3 地質と放射線量分布別
(西濃地域, 岩種別)



IV. おわりに

今回、西濃地域のカーボン・データを活用して、地質と環境放射線の関連性について検討・評価を行った。

その結果、西濃地域では美濃帯の中・古生層の各ユニット間には明瞭な放射線量値の差はないが、地層（岩種）間で比較すると粘板岩（泥岩）や砂岩のグループと、チャート、石灰岩、玄武岩類（緑色岩）のグループとの間に放射線量値に明瞭な差があることが明らかとなった。すなわち、前者が高目の値を示し、後者は低めの値を示す。また、花崗岩類では、貝月山花崗岩は全般的に高い値を示すが、能郷白山花崗閃緑岩は低めの値を示すことが明らかとなった。

さらに、東濃地域の放射線量値（「国内カーボンデータに基づく地質と環境放射線の関連性評価」PNC TJ7409 94-001）と比較すると、両地域の美濃帯の中・古生層の粘板岩を主とする泥質岩の放射線量値に明瞭な差がないこと、西濃地域の貝月山花崗岩は東濃地域の伊奈川花崗岩とほぼ同じレベルの放射線量値を示すこと、東濃地域の花崗岩には貝月山花崗岩より高い値を示す岩体（苗木・上松型花崗岩）が認められること、西濃地域の能郷白山花崗閃緑岩は東濃地域の花崗岩類より低い値を示すことが明らかとなる。

今回使用した過去のカーボン・データおよびカーボン・ルートマップは、今回の調査・解析・評価の目的に照らすと、地質記載および位置記載の点で必ずしも充分満足できるものではない。しかし、その他の地質データ等と組み合わせることにより、最終目標であるわが国の環境放射線量図の作成に資する結果が得られたと判断される。このことからまだ多量のデータが保存されている他地域について更に速やかに同様の調査・解析・評価作業を進めることが期待される。

参 考 文 献

1. 日本の地質『中部地方Ⅱ』編集委員会編（1988）： 日本の地質 5 中部地方Ⅱ
共立出版
2. 地質調査所（平成4年）： 1／20万地質図『岐阜』
3. 地質調査所（平成3年）： 1／5万地質図『谷汲』

（参考資料）

- ・財団法人 原子力安全技術センター（平成5年）： 環境放射線の変動要因に関する研究（Ⅲ），（動力炉・核燃料開発事業団 委託研究成果報告書）
- ・株式会社 ペスコ（1994年）： 国内カーボンデータに基づく地質と環境放射線の関連性評価，（動力炉・核燃料開発事業団 契約業務報告書）
- ・株式会社 ペスコ（1994年）： 東濃地域における地質と環境放射線量の関連性評価，（動力炉・核燃料開発事業団 契約業務報告書）

写 真 集

(露頭写真)

地質露頭写真撮影

今回、一昨年度（平成5年度）に作成した『西濃南部におけるカーボン測定データの吸収線量率換算』データと合わせて、西濃全域（南部・北部）における地質と環境放射線の関連を検討するにあたり、また、本検討結果についての理解を容易にするために全域の地質・岩石露頭の写真撮影を行い、ここに収録した。

撮影箇所は31ヵ所で、地質調査所発行1/20万地質図によれば、美濃帯の舟伏山及び坂本峠ユニットに属する石灰岩(F1)、玄武岩質緑色岩(Pb)、泥質混在岩(Fm)、久瀬ユニットに属する石灰岩(Z1)、泥質混在岩(Zm)、左門岳ユニットに属する珪質泥岩(Si)、砂岩(Ss)、那比・上麻生及び金山ユニットに属するチャート(Nc)、砂岩泥岩互層(Nh)、砂岩(Ns)、泥質混在岩(Nm)及び白亜紀中葉－後期貫入の貝月山花崗岩(Gka)、前－中期中新世貫入の能郷白山花崗閃緑岩(Gn)と判断される露頭の写真である。

撮影に当たり、事前に地質図で撮影予定箇所を選定したが、最近では道路の切り割りはほとんどコンクリート等で被覆され、また道路工事のため通行が制限されていたり、期待されたような箇所を見出すのに苦労した。それでも一応所期の目的に沿った写真を撮ることが出来た。

次頁以降に地質露頭写真説明及び露頭写真を示す。

1. 地質露頭写真説明

No. 1

No.	撮影場所	地質・岩石説明	放射線量率 ($\mu\text{Sv/h}$)
0 1	カーボーンルートNo.1 1 2 岐阜県揖斐郡谷汲村深坂, 小野坂トンネル出口付近.	美濃帯那比・上麻生及び金山ユニットに属する砂岩(Ns)か? 久瀬ユニットの(Zm)中の砂岩岩塊? 地質図では久瀬ユニットの(Zm)の分布範囲となっている.	0.15
— 1	露頭全景.	採石場, 新鮮, 堅硬な砂岩.	
— 2	近接撮影.		
0 2	カーボーンルートNo.1 1 3 岐阜県本巣郡根尾村宇津志の手前2km.	美濃帯那比・上麻生及び金山ユニットに属するチャート(Nc).	0.10
— 1	露頭全景.		
0 3	カーボーンルートNo.1 1 4 岐阜県本巣郡根尾村水鳥谷の入口近傍.	美濃帯那比・上麻生及び金山ユニットに属する泥質混在岩(Nm)中の灰色チャート岩塊と判断される.	0.10
— 1	露頭全景.		
0 4	カーボーンルートNo.1 1 4 岐阜県本巣郡根尾村水鳥谷の奥, 谷の分岐点の崖.	美濃帯舟伏山及び坂本峠ユニットに属する石灰岩(F1).	0.05
— 1	近接撮影.		
0 5	カーボーンルートNo.1 1 4 岐阜県本巣郡根尾村水鳥谷の奥, 0 4地点より約1km 下流地点.	美濃帯舟伏山及び坂本峠ユニットに属する泥質混在岩(Fm). 黒色粘板岩 やや揉めた感じ.	
— 1	露頭遠景.		
0 6	カーボーンルートNo.1 5. 岐阜県本巣郡根尾村大井, 長	美濃帯那比・上麻生及び金山ユニットに属する泥質混在岩(Nm)	0.12

No.	撮影場所	地質・岩石説明	放射線量率 (μ Sv/h)
—1	嶺より馬坂トンネル経由で藤橋村に至るルート途中. 赤谷の先. 露頭全景.	中の板状節理(層理?)発達したチャート	
07	長嶺より6.7km. —1 近接撮影.	美濃帯舟伏山及び坂本峠ユニットに属する石灰岩(F1). 地質図では(Fm), (Fb).	0.06
08	岐阜県揖斐郡藤橋村白谷川, 入口より6.3km, —1 露頭全景. —2 近接撮影. —3 露頭接写.	中新世前期~中期貫入の能郷白山花崗閃緑岩及び相当岩類. 花崗閃緑岩~花崗閃緑斑岩.	0.12
09	白谷川, 08地点下流0.8km 地点, 道路脇の大露頭. —1 露頭遠景. —2 近接撮影.	美濃帯舟伏山及び坂本峠ユニットに属する石灰岩(F1) 白色~灰色, まだら状, 多少花崗岩の貫入の影響か.	0.05
10	白谷川, 08地点下流1.4km. —1 露頭全景. —2 近接撮影.	美濃帯舟伏山及び坂本峠ユニットに属する玄武岩溶岩及び火山砕屑岩(Fb).	0.04~0.05
11	カーボーンルートNo.29. 岐阜県揖斐郡藤橋村, 旧徳山村地内山手集落上手より揖斐川本流から分岐する鬼生谷入口 —1 露頭全景. —2 露頭近接撮影.	地質図上美濃帯左門岳ユニットに属する砂岩(Ss)と記載されているが珪質泥岩(Si)の可能性あり. 灰色粘板岩~微細粒砂岩	0.12

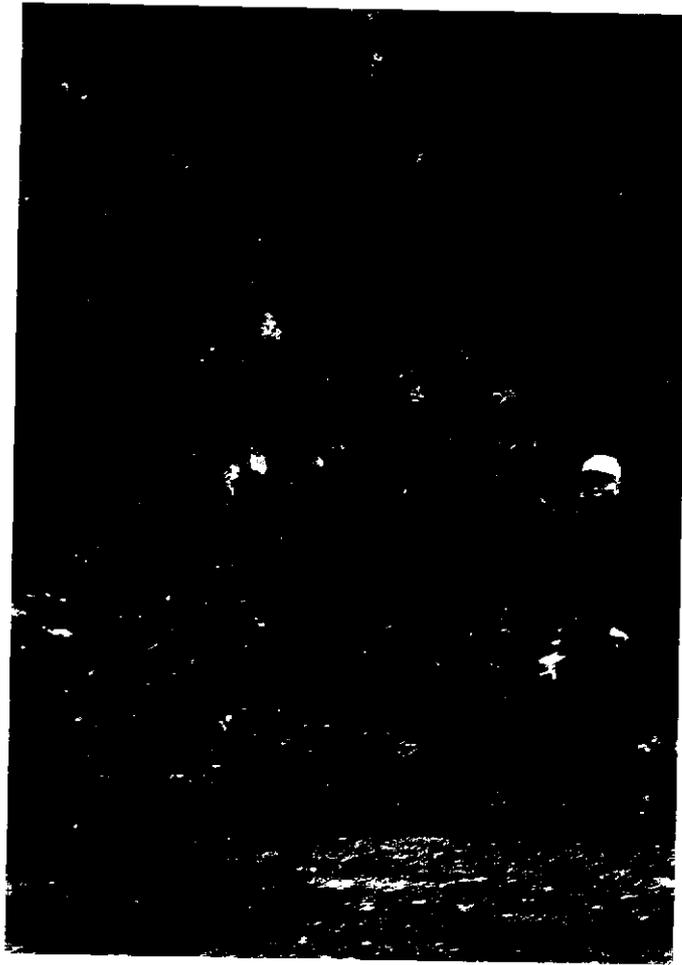
No.	撮影場所	地質・岩石説明	放射線量率 ($\mu\text{Sv/h}$)
1 2	カーボーンルートNo.29. 鬼生谷入口より0.7km.	地質図上美濃帯左門岳ユニット に属する砂岩(Ss).	
— 1	露頭全景.	堅硬な粗粒～中粒砂岩.	
— 2	露頭近接撮影.	ルート沿い岩相変化激しい. チャート～珪岩～砂岩.	
1 3	カーボーンルートNo.80. 岐阜県揖斐郡坂内村広瀬.	白亜紀中葉～後期, 貝月山花崗 岩(Gka).	
— 1	露頭全景.	風化, 粗粒～中粒黒雲母花崗岩	0.13
— 2	露頭接写.		
1 4	カーボーンルートNo.65. 岐阜県揖斐郡久瀬村, 揖斐川 支流の日坂川分岐点のトンネ ルより日坂川沿い300m地点.	美濃帯久瀬ユニットに属する黒 色粘板岩(Zm). 道路工事中の切割の大露頭	0.15
— 1	露頭全景.		
— 2	露頭近接撮影.		
— 3	露頭接写.		
1 5	カーボーンルートNo.69. 岐阜県揖斐郡久瀬村日坂, 和 佐谷入口より1.8km 地点.	白亜紀中葉～後期, 貝月山花崗 岩(Gka). 風化, 粗粒～中粒黒雲母花崗岩 マサ状態.	0.17
— 1	露頭全景.		
— 2	露頭接写.		
1 6	カーボーンルートNo.69. 久瀬村日坂, 上村集落上手の 旧道沿い.	貝月山花崗岩(Gka). 粗粒黒雲母花崗岩, 岩相不安定 場所によりピンク長石を含む. 微細粒花崗閃緑岩の捕獲岩を含 む部分あり.	0.15～0.17
— 1	露頭近接撮影.		
— 2	露頭接写.		

No.	撮 影 場 所	地質・岩石 説明	放射線量率 ($\mu\text{Sv/h}$)
17	久瀬村西津汲, 飯盛山東側. 揖斐川右岸, 旧道沿い. 上田石灰製造(株)久瀬鉱山, ドロマイト採掘.	美濃帯久瀬ユニットに属する石 灰岩(Z1).	0.04
—1	露頭近接撮影.		
—2	露頭全景.		
18	カーボンルートNo.6 1. 久瀬村三倉~下神原の中間.	美濃帯那比・上麻生及び金山ユ ニット(Ns)と美濃帯久瀬ユニッ ト(Zm)の断層破碎帯と推測され る.	0.18~0.20
—1	露頭全景.		
—2	露頭接写.		
—3	露頭近接撮影.		
19	カーボンルートNo.6 4. 久瀬村下神原三叉路を木曾屋 寄りへ.	美濃帯那比・上麻生及び金山ユ ニットに属するチャート(Nc). 灰色~白色まだら状チャート.	0.09~0.10
—1	露頭全景.		
—2	露頭近接撮影.		
20	カーボンルートNo.6 4. 久瀬村木曾屋~仁坂峠手前.	美濃帯那比・上麻生及び金山ユ ニットに属する砂岩(Ns). 黄褐色中粒砂岩, 風化.	0.12
—1	露頭全景.		
20'	20地点の少し先.	20地点に同じ.	
—1	露頭全景.	灰黄色中粒砂岩, (Ns)やや硬い	
21	カーボンルートNo.6 4. 仁坂峠のすぐ先, 大露頭.	美濃帯那比・上麻生及び金山ユ ニットに属するチャート(Nc). 灰色まだら状チャート.	0.10
—1	露頭全景.		
—2	露頭近接撮影.		

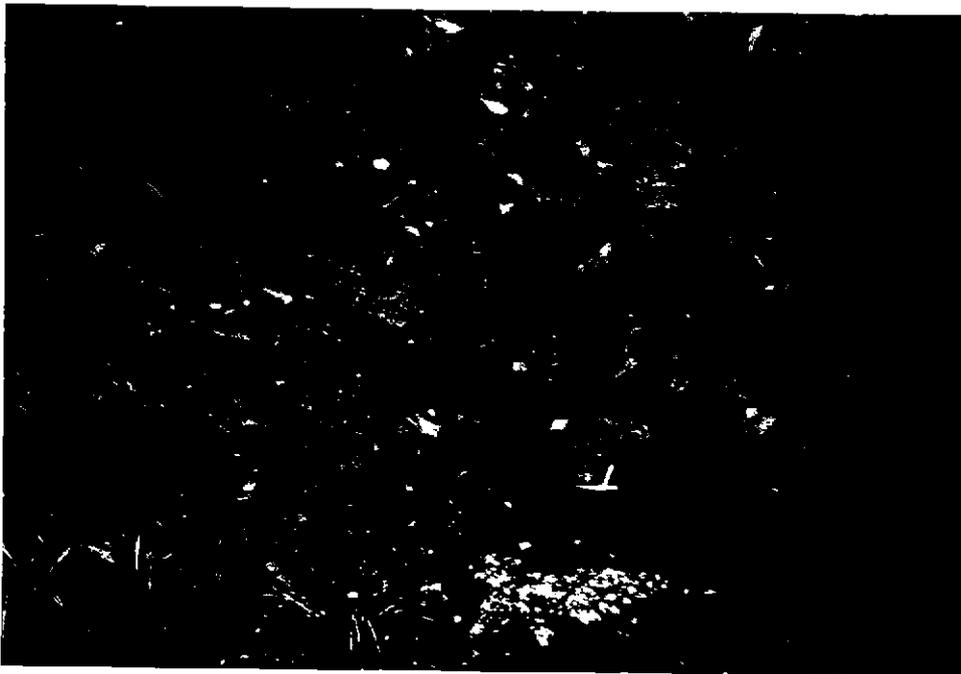
No.	撮影場所	地質・岩石 説明	放射線量率 ($\mu\text{Sv/h}$)
2 2	カーボーンルートNo.9 8. 揖斐郡春日村川合集落先.	美濃帯舟伏山及び坂本峠ユニットに属する玄武岩溶岩, 同火山 砕屑岩(Fb)及び石灰岩(F1).	
— 1	露頭全景.	(F1)露頭.	0.05
— 2	露頭近接撮影.	(Fb)露頭.	0.09
2 3	カーボーンルートNo.9 8. 春日村, 表川上流, 久瀬村日 坂, 和佐谷に通じるルート の峠. 道路工事切割.	貝月山花崗岩(Gka). 中粒花崗閃緑岩, 風化.	
— 1	道路工事切割部分写真.		0.15
2 4	カーボーンルートNo.1 0 6. 春日村中山集落の先, 清水工 業(株)春日鉱山の下.	美濃帯舟伏山及び坂本峠ユニットに属する石灰岩(F1)と美濃帯 那比・上麻生及び金山ユニット に属する砂岩・泥岩互層(Nh).	0.09~0.10
— 1	露頭近接撮影.		
— 2	露頭全景.	(F1)と(Nh)のほぼ垂直な境界.	
2 5	カーボーンルートNo.7 6. 春日村長谷川沿い, 小宮神橋 分岐点より1.9km 地点.	交指状か? 美濃帯那比・上麻生及び金山ユ ニットに属する砂岩・泥岩互層	
— 1	露頭遠景.	(Nh).	0.18
— 2	露頭接写.	珪質砂岩泥岩互層.	
2 6	カーボーンルートNo.7 6. 2 5 地点の約500m先の道路工 事現場.	美濃帯那比・上麻生及び金山ユ ニットに属する砂岩・泥岩互層 (Nh).	0.18
— 1	露頭近接撮影.	黒色泥岩.	

No.	撮影場所	地質・岩石説明	放射線量率 ($\mu\text{Sv/h}$)
27	カーボーンルートNo.75. 春日村長谷川沿い古屋集落の 先0.7km.	美濃帯那比・上麻生及び金山ユ ニットに属する砂岩・泥岩互層 (Nh).	
—1	露頭全景.	粘板岩～微細粒砂岩ややホルン フェルス化.	0.20
28	カーボーンルートNo.75. 岩手峠手前の最初のカーブ.	美濃帯那比・上麻生及び金山ユ ニットに属する砂岩(Ns).	
—1	露頭遠景.	淘汰度の悪い粗粒砂岩, 粘板岩	0.11
—2	露頭近接撮影.	の破片を含む.	
29	カーボーンルートNo.75. 岐阜県不破郡関ヶ原町, 岩手 峠を下る. 古屋集落より7.4 km地点.	美濃帯那比・上麻生及び金山ユ ニットに属する砂岩(Ns).	
—1	露頭近接撮影.	淘汰度の悪い粗粒砂岩, 粘板岩 の破片を含む.	0.12
—2	露頭接写	含細礫～小礫粗粒砂岩.	

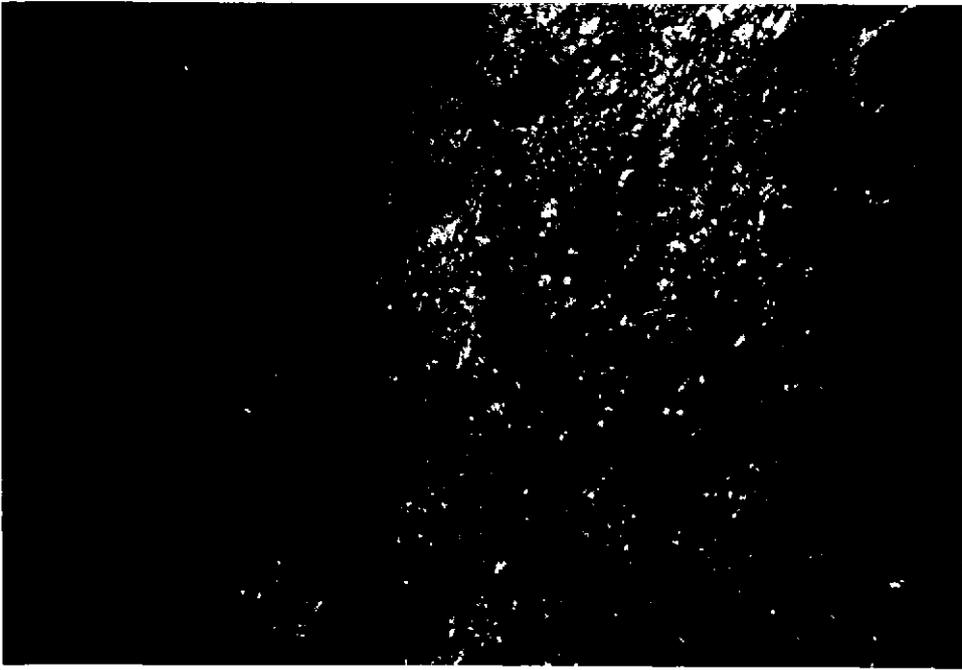
注) 放射線量率の測定はA l o k a製T C S - 1 5 1による。



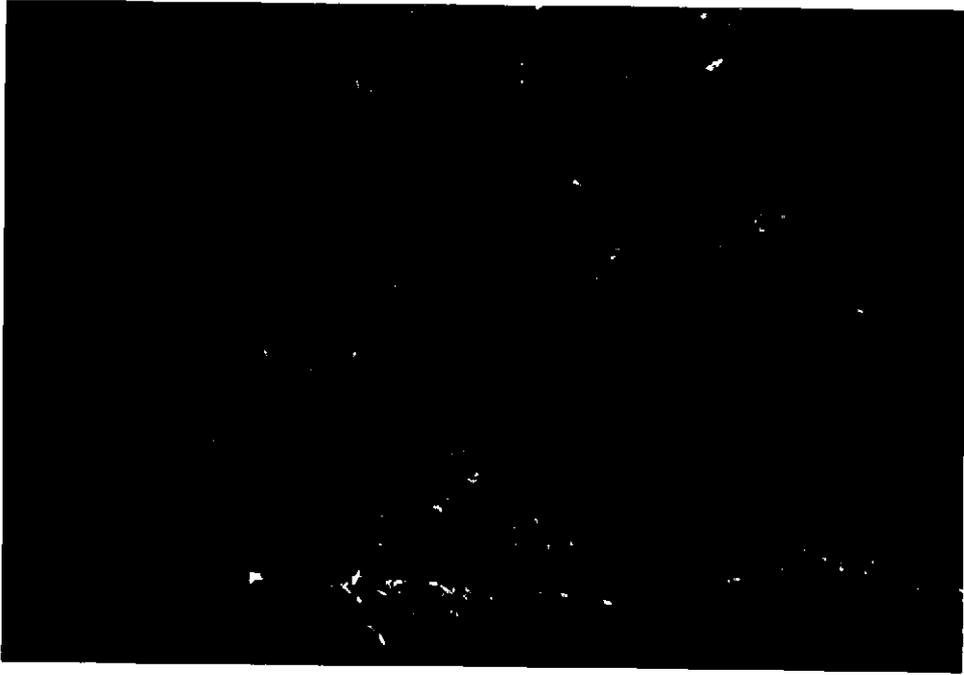
0 1 - 1



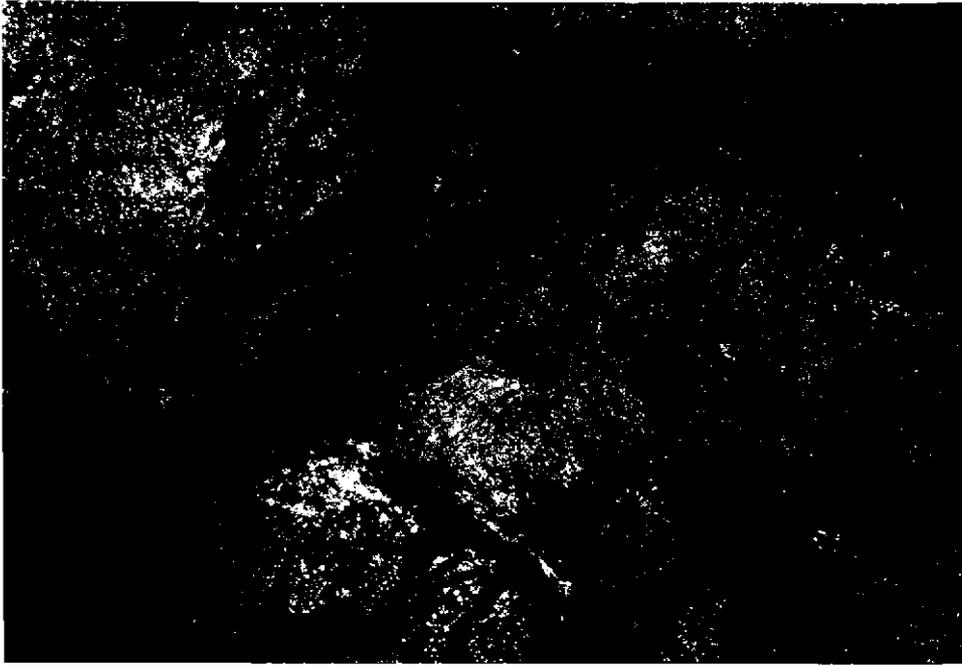
0 1 - 2



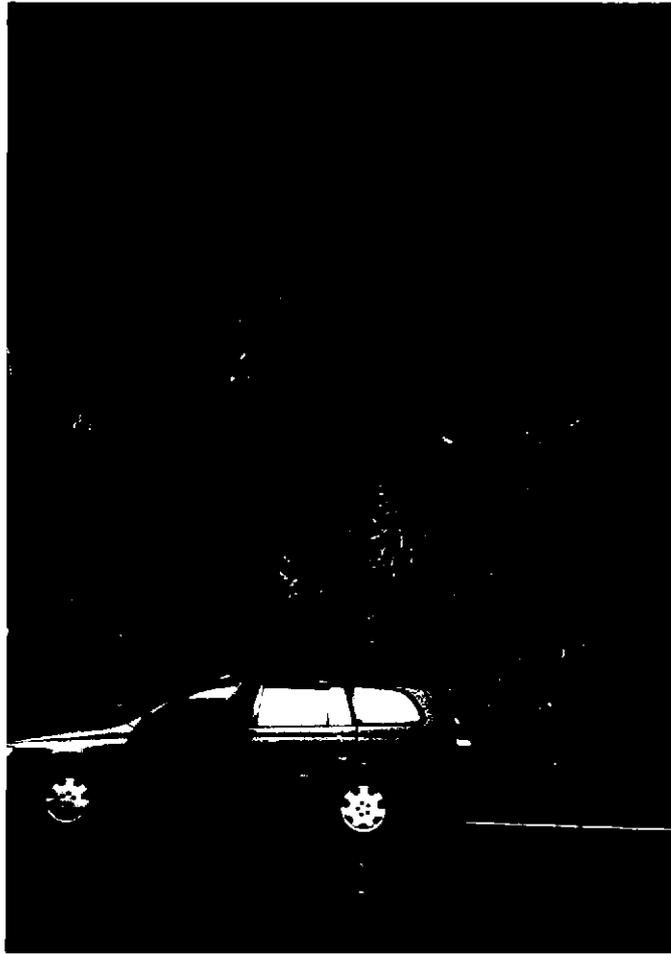
0 2 - 1



0 3 - 1



0 4 - 1



0 5 - 1



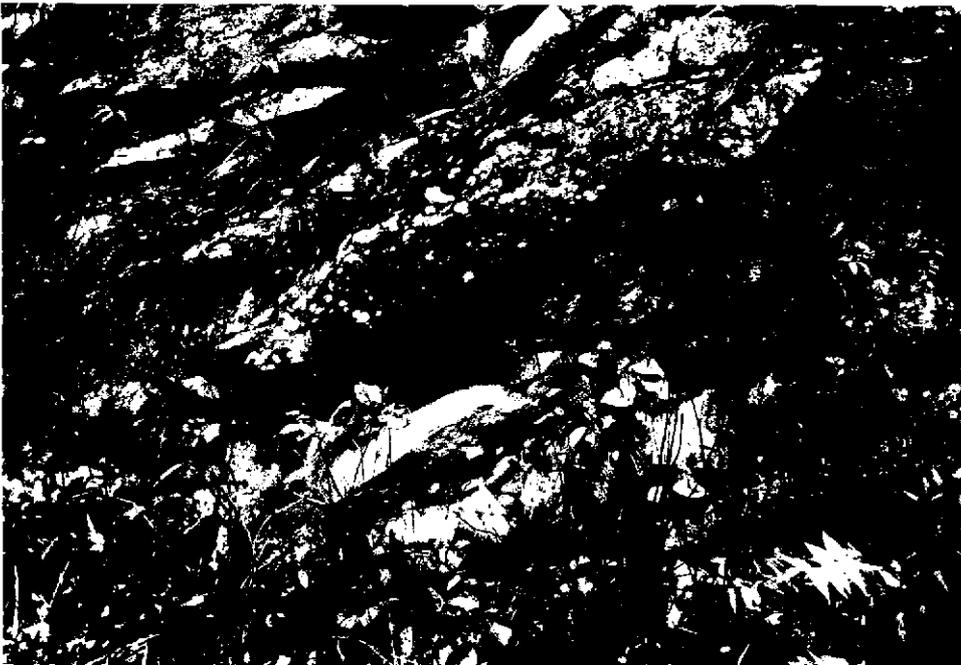
0 6 - 1



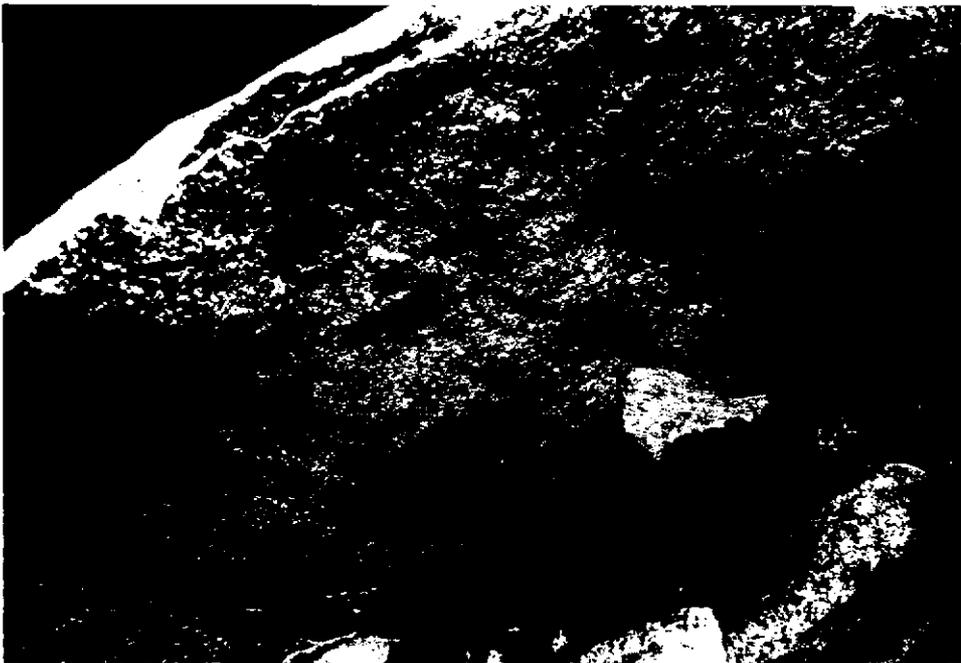
0 7 - 1



0 8 - 1



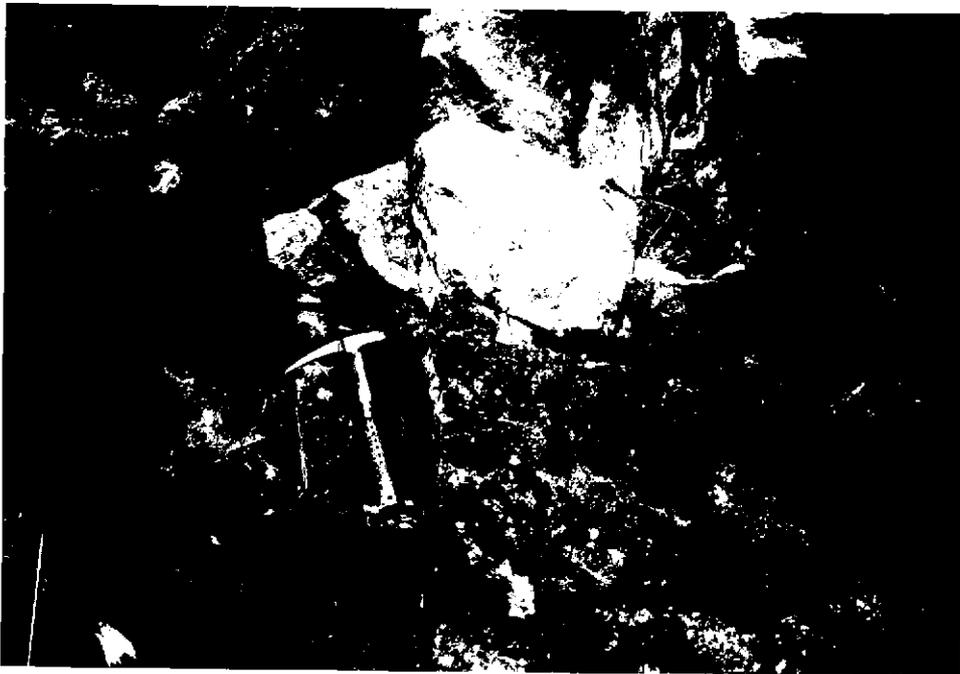
0 8 - 2



0 8 - 3



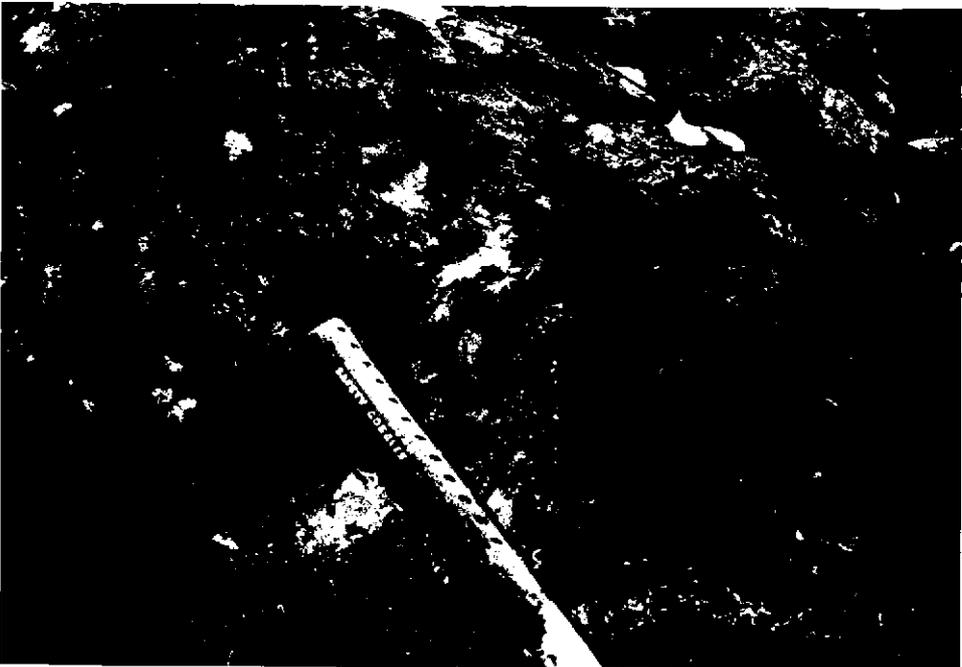
0 9 - 1



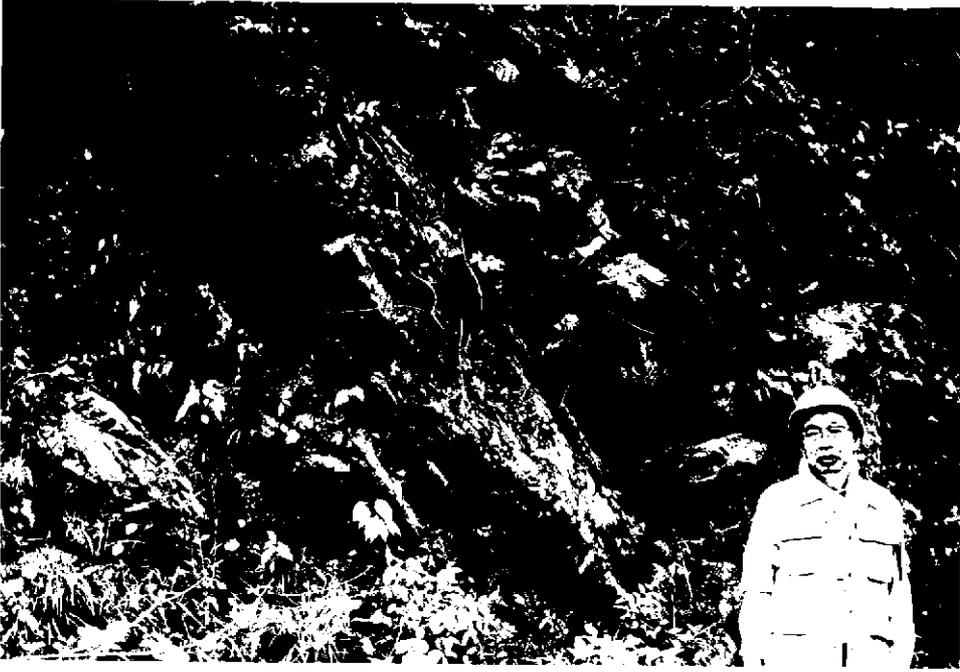
0 9 - 2



1 0 - 1



1 0 - 2



1 1 - 1



1 1 - 2



1 2 - 1



1 2 - 2



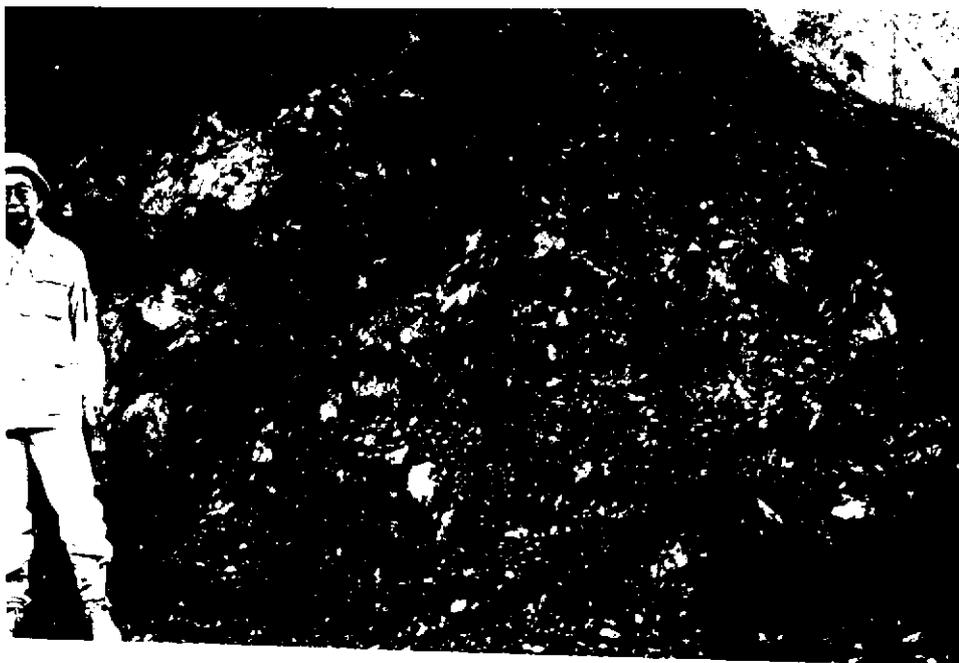
1 3 - 1



1 3 - 2



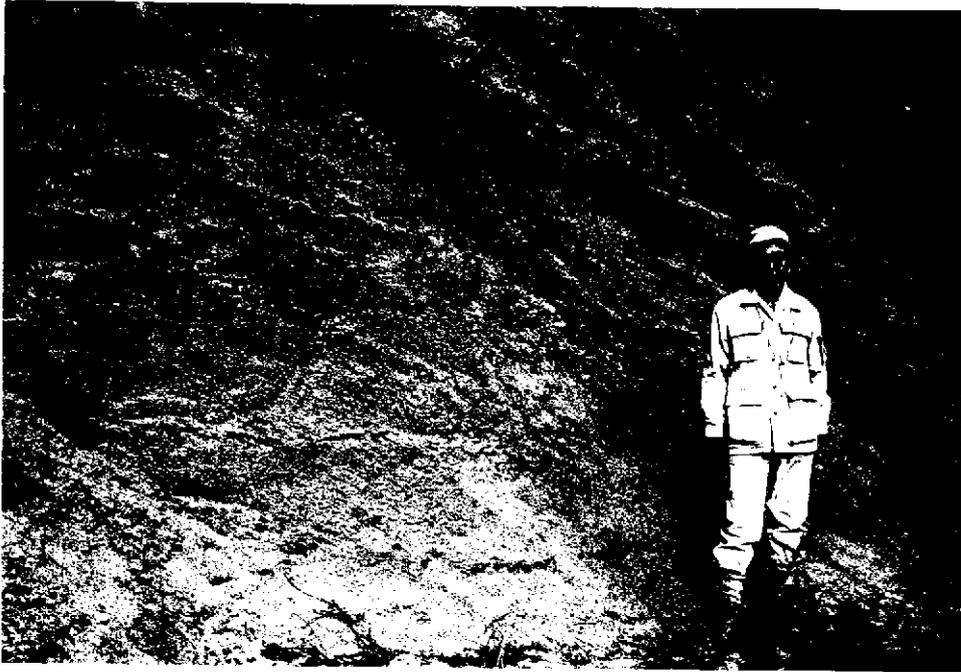
1 4 - 1



1 4 - 2



1 4 - 3



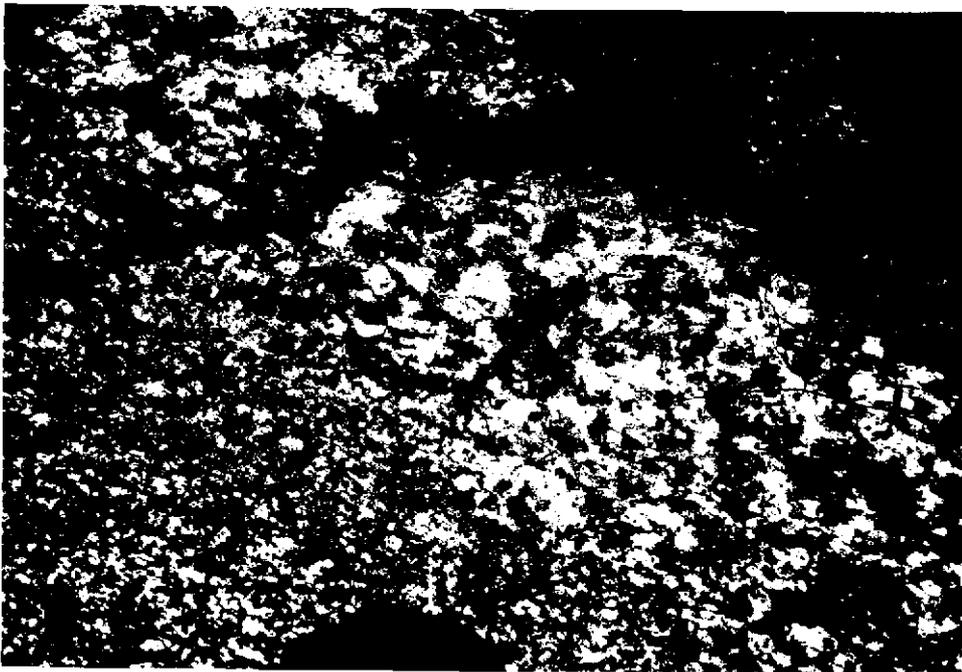
1 5 - 1



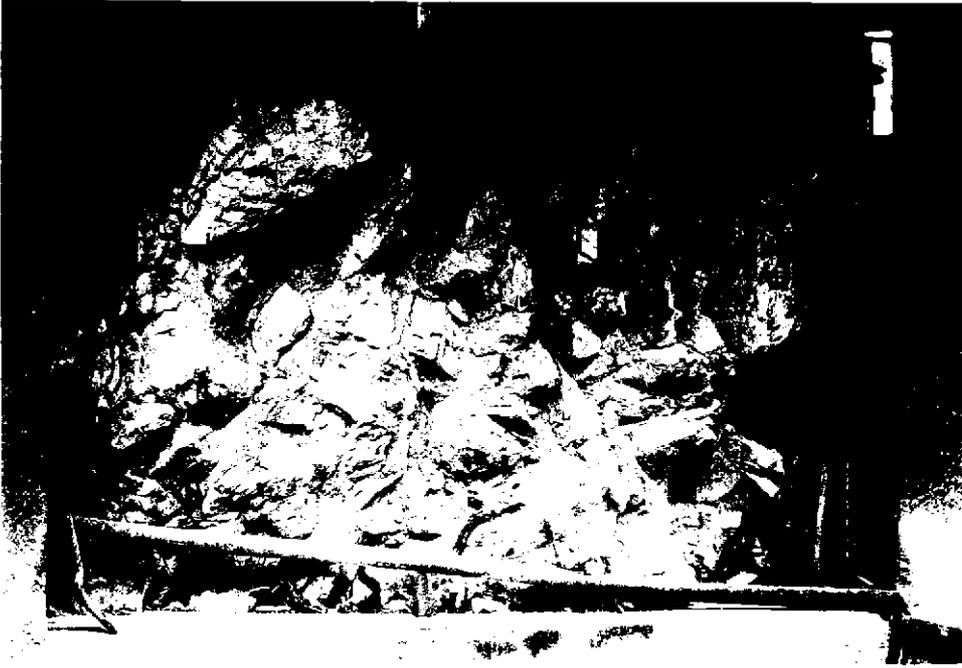
1 5 - 2



1 6 - 1



1 6 - 2



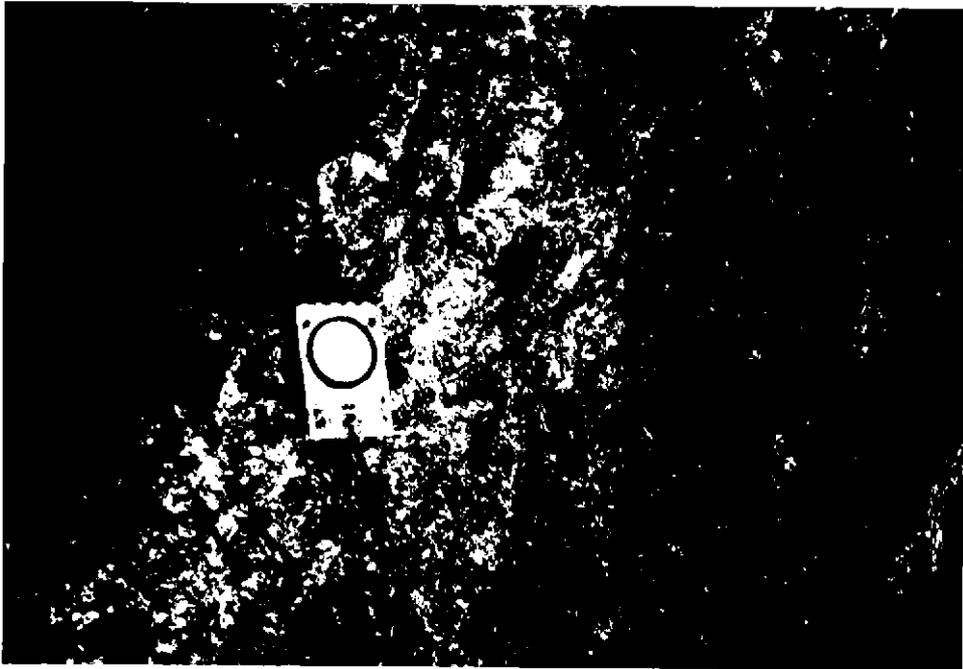
17-1



17-2



1 8 - 1



1 8 - 2



1 8 - 3



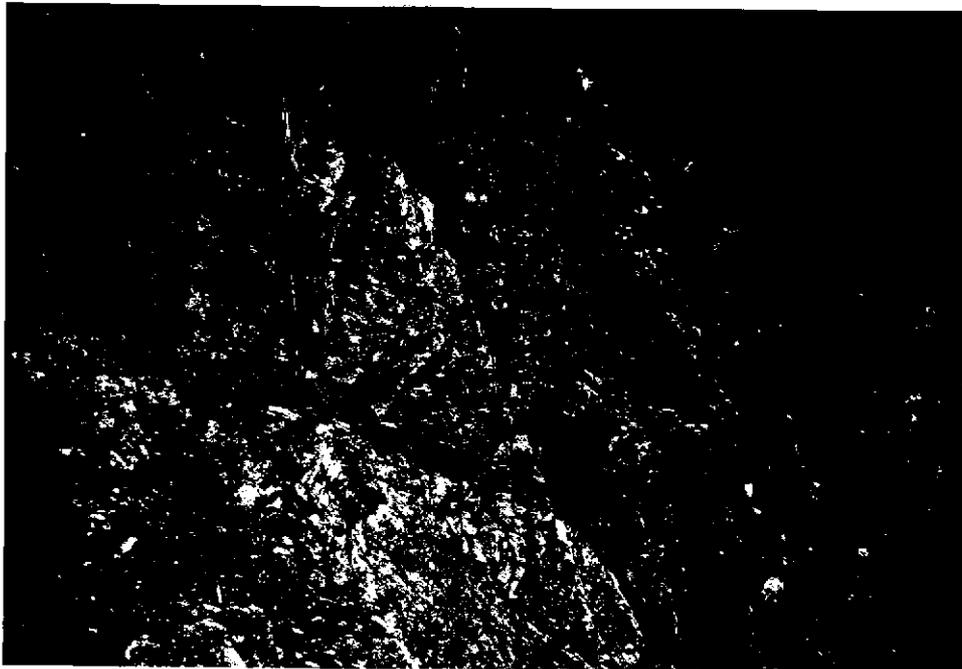
1 9 - 1



1 9 - 2



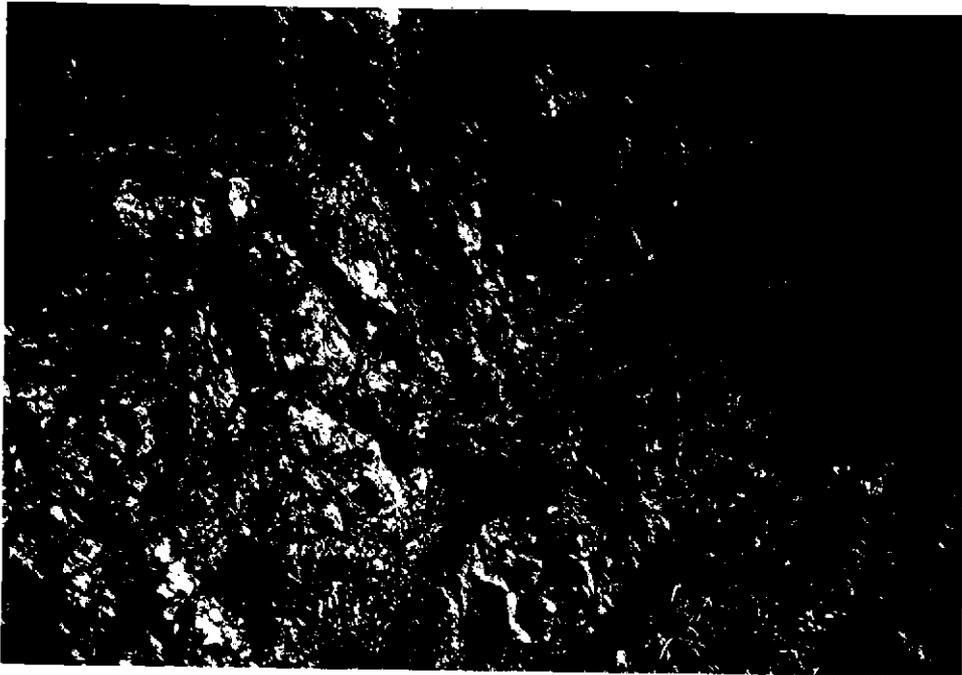
20 - 1



20' - 1



2 1 - 1



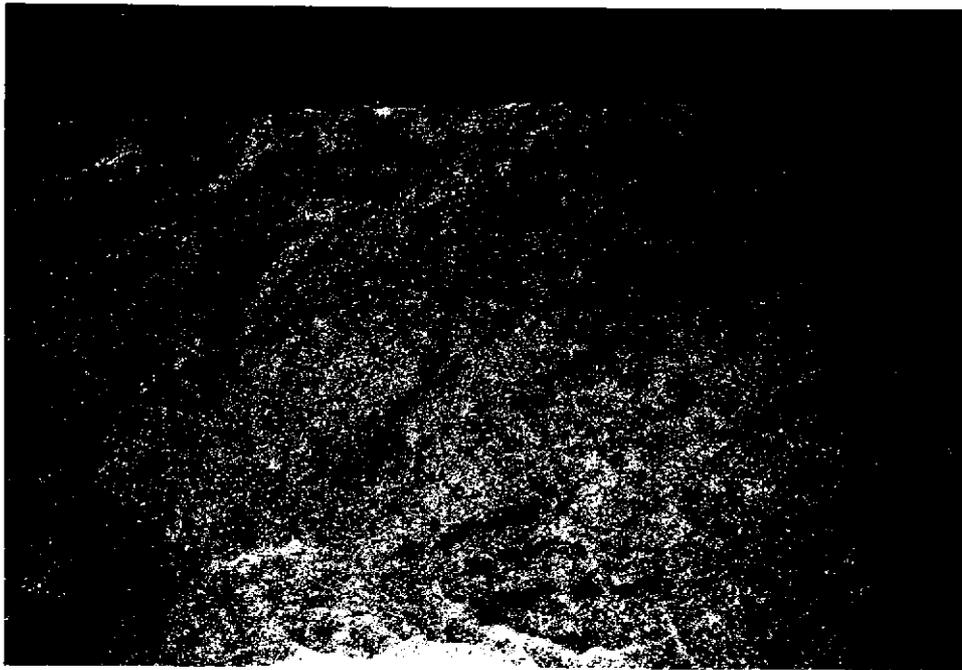
2 1 - 2



2 2 - 1



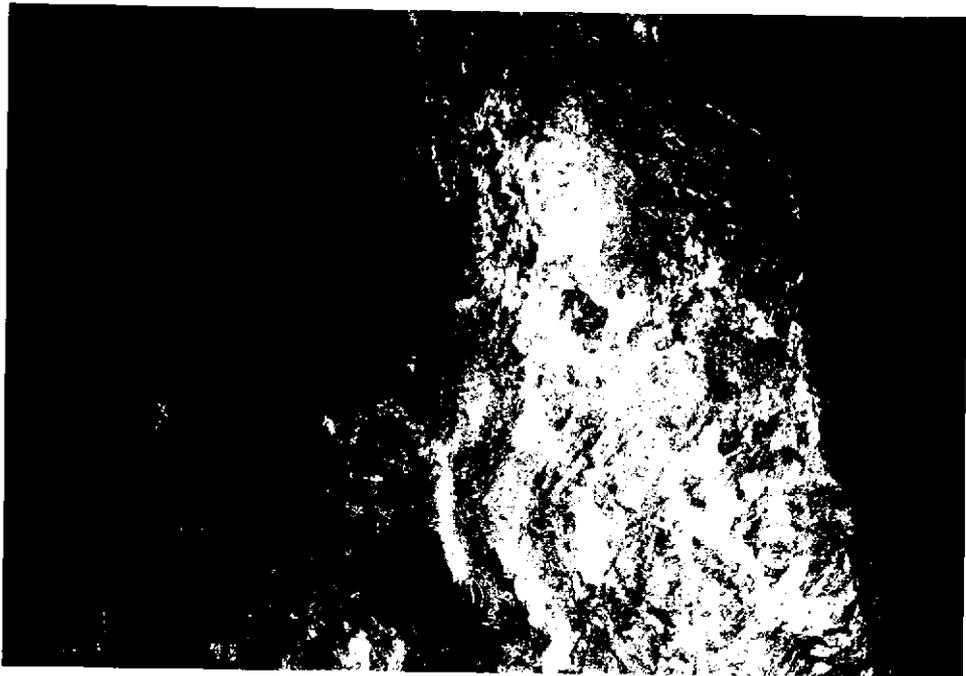
2 2 - 2



2 3 - 1



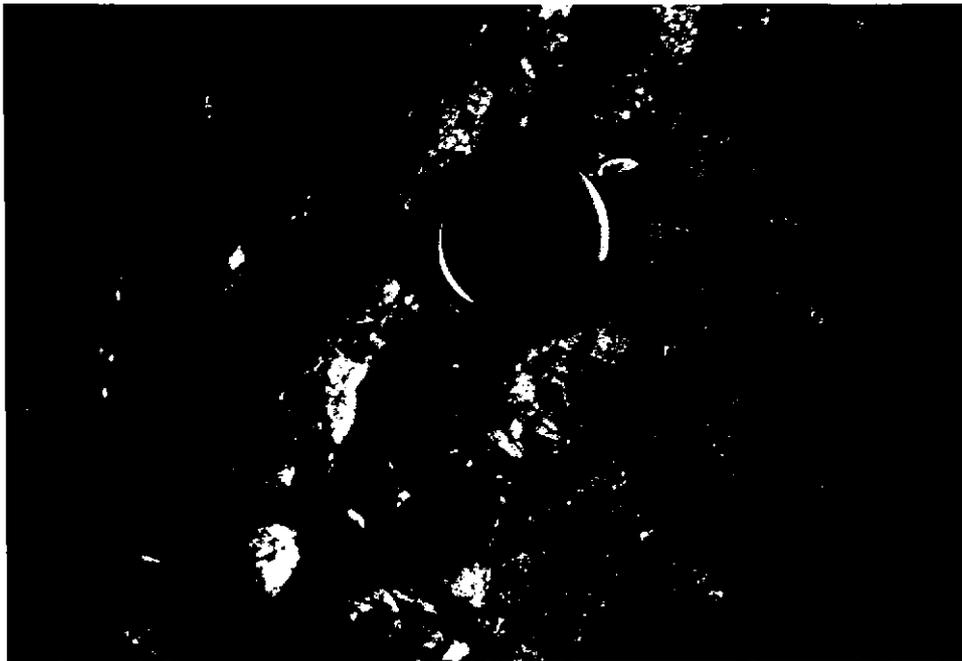
2 4 - 1



2 4 - 2



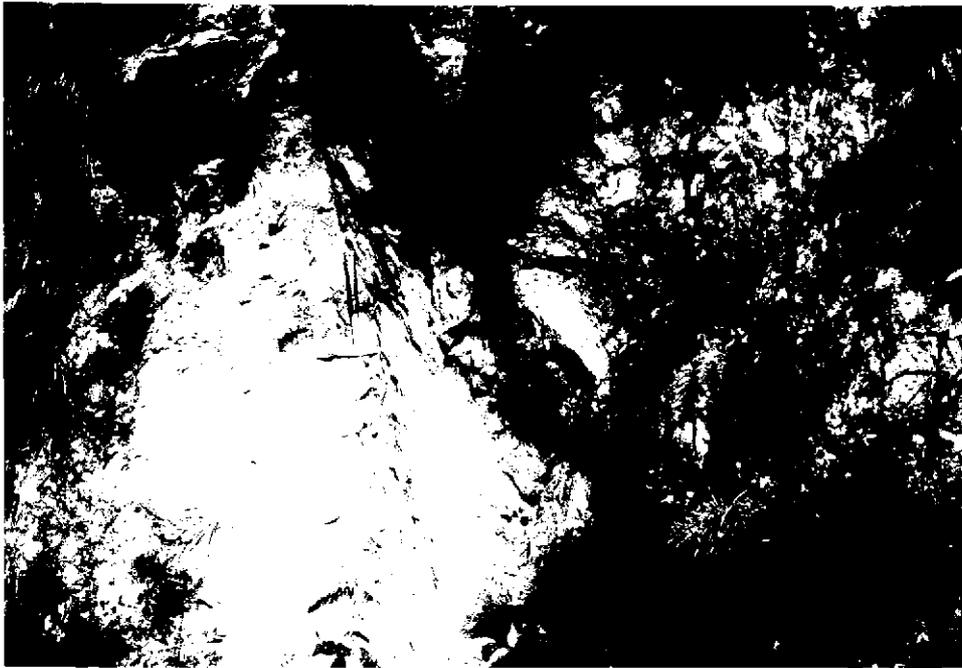
2 5 - 1



2 5 - 2



2 6 - 1



27-1



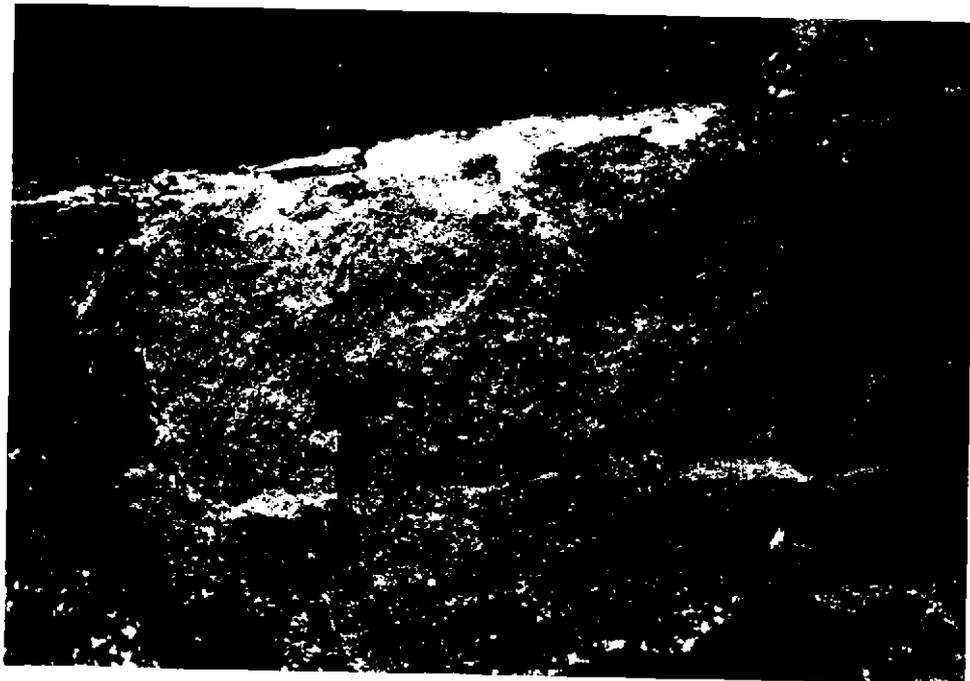
2 8 - 1



2 8 - 2

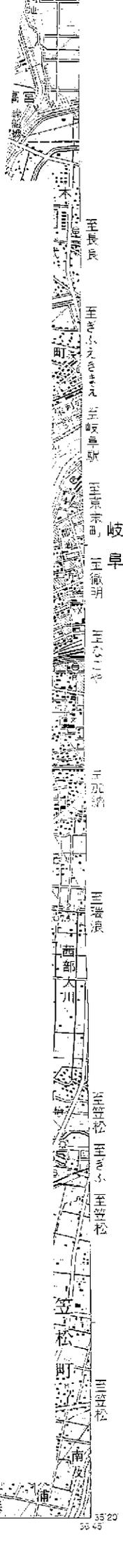
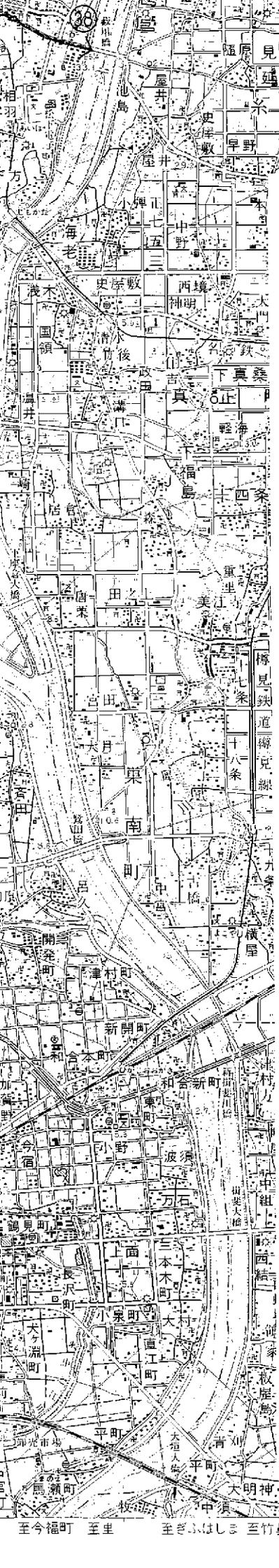


2 9 - 1



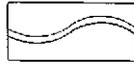
2 9 - 2

90x112

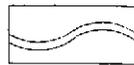


凡 例

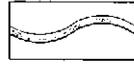
(吸収線量率)



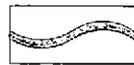
85.9 ~ 108.4 nGy/h
(90,000 ~ 120,000 cpm)



63.4 ~ 85.9 nGy/h
(60,000 ~ 90,000 cpm)



40.9 ~ 63.4 nGy/h
(30,000 ~ 60,000 cpm)



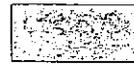
0 ~ 40.9 nGy/h
(0 ~ 30,000 cpm)

(地質露頭)

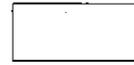
中生代
白亜紀



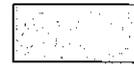
花崗岩及び花崗閃緑岩



粘板岩



砂岩



チャート



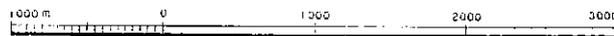
緑色岩 (玄武岩溶岩及び碎屑岩)

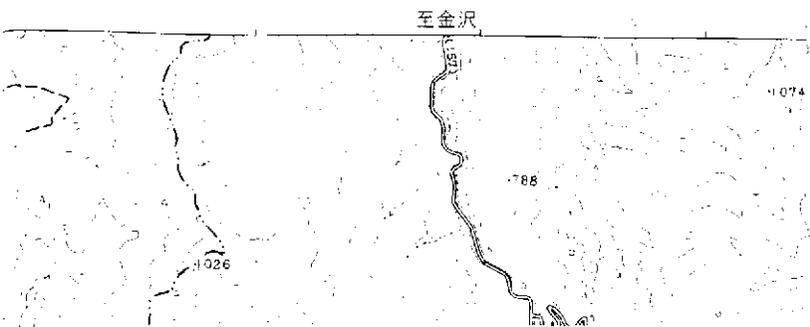


石灰岩

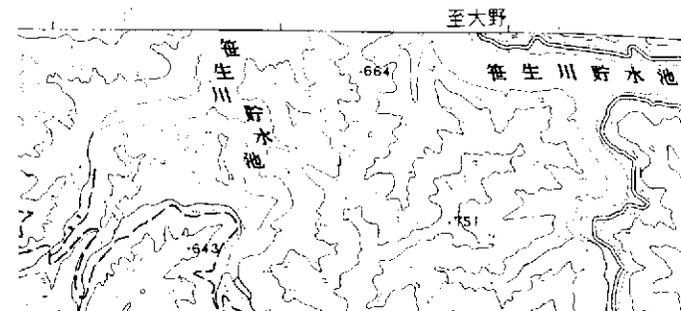
美濃帯の中・古生界

1:50,000





94x112



別添 3 露頭写真撮影位置図

